眞のいのちの書

神聖なる師の教え

第111巻

教え 310～338

全12巻からなる『真の生命の書』（Libro de la Vida Verdadera）は、全人類への遺産であり、
メキシコシティの「Secretaría de Educación
」に登録されています。

スペイン語版原著に関する詳細情報：
アソシアシオン・デ・エストゥディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ヴェルダデラ、A.C.
Apartado Postal 888, México, D.F., - C.P. 06000

ドイツ語訳、ドイツ語版への序文、解説、脚注、注釈および本書に関する注記の責任者：
ヴァルター・マイヤーおよびトラウゴット・ゲルテンボート。

2017年1月現在

編集（新正書法およびレイアウト）：
Buchdienst zum Leben
マンフレッド・ベーゼ
キルヒヴェーク5
D-88521 エルティンゲン

電話：+49 (0) 7371 929 66 42
Eメール： manfredbaese@gmx.de

『真の生命の書』は、この版を基にDeepL Translatorを用いて多くの言語に翻訳されています。

これらは、ゴットホルト・ゲルテンボートによって翻訳され、ライヒル出版社から出版された、著作権を有する真正かつオリジナルの著作物です。これらは本来の純粋な形で保存されなければならず、改変してはなりません。改変することは罪であり、神の裁きを招くことになります。

主がアンナ・マリア・ホスタに語られた言葉：
2017年3月25日
イエスは彼女にこう言われます。*「封印の時代」*……
……そしてこう言われます：
「これを活用しなさい。今日、わたしはあなたを選び、わたしの教えを受け取り、それを人々に伝えるようにしたのだ。」

この取り組みの責任者は、これらの書物の所有者である主イエス・キリスト、私たちの神の御名において、アンナ・マリア・ホスタが務めています。
（Eメール：hoanna64@yahoo.com　）
DeepL - ダウンロードリンク：www.DeepL.com/Translator（ビジネス版）
DeepLは現在100以上の言語に対応しており、デスクトップにダウンロード可能です。翻訳にはインターネット接続が必要です。

更新日：2026年9月

目次

『真のいのちの書 1
序文 7
序文 9
教え 310 14
教え 311 25
教え 312 36
教え 313 47
教え 314 58
教え 315 71
教え 316 84
教え 317 95
教え 318 106
教え 319 119
教え 320 133
教え 321 145
教え 322 157
教え 323 168
教え 324 179
教え 325 192
教え 326 206
教え 327 217
教え 328 230
教え 329 245

教え 330 254
教訓331 268
教え 332 276
教え 333 289
教え 334 301
教え 335 313
教え 336 324
教え 337 338
教え 338 349
目次 361
1866年から1950年にかけてのメキシコにおける神の教え 369

序文

「今こそ、私が人類に語りかけねばならなかったと予告されていた時であり、私は、私の預言が成就するよう、私があなたがたに与えたこの言葉を用いて、書物を編纂することを望む……」（6, 52）

「予告された時」とは、第一の時代（モーセと預言者たち）および第二の時代（イエスとその使徒たち）に続く時代として、今日「第三の時代」とも呼ばれる時代を指しています。

「第三の時代」は、1866年にメキシコでエリヤの霊とその弟子ロケ・ロハスによって準備され、その結果、1884年から1950年末までの66年間にわたり、神の霊は人類にその御言葉を伝えることができた。 毎週日曜日、庶民の人々が質素な集会所に集まり、約2時間にわたり神の御言葉に耳を傾けました。神は「代弁者（porta vozes）」として、高揚した精神状態で神の御言葉の輝きを声として響かせた数多くの「声の担い手」（現代の預言者たち）を用いられました。

これらの神の啓示、メッセージ、あるいは教えは、1950年以前の最後の10年間に速記され、議事録として記録されました。1950年以降、この膨大な数の議事録の中から366の教えが選ばれ、12巻からなる大著『Libro de la Vida Verdadera（真の生命の書）』として出版されました。

1975年以降、1943年から1950年まで日曜集会に参加していたヴァルター・マイヤーとトラウゴット・ゲルテンボートが、第1巻から第5巻をドイツ語に翻訳し、ライヒル出版社から刊行した。2001年にヴァルター・マイヤーが死去した後、第6巻はトラウゴット・ゲルテンボートによって完成され、2004年に出版された。

その後、第VII巻から第XI巻もトラウゴット・ゲルテンボートによって翻訳され、2014年から2015年にかけて「ブーフディーンスト・ツム・レーベン」社から刊行された。第XII巻は2016年に刊行される見込みである。

このように、科学技術が飛躍的に進歩し、同時に大規模な戦争やイデオロギーの迷走が激化した時代においても、神聖なる御霊は人類を見捨てなかったのです。

神は、その限りない愛と英知をもって、『メキシコの啓示』を通じて、イデオロギー的迷走からの脱出路を示し、飢えた私たちの魂に慰めと癒やしの香油を授け、 神の御心に従って人生を歩むための極めて実践的な教えを与えてくださいました。

以下の言葉が、まもなく実現することを願います。

天にまして神に栄光あれ
地には平和
人々に御心がありますように。

序文

以下の抜粋が、読者の皆様に本書『』の概要を伝える一助となれば幸いです。括弧内の番号は、教訓と詩の番号に対応しています。

善とは真理であり、愛である

私の言葉は新しい宗教ではなく、またそうなることもないことを認識せよ。この著作は、すべてのイデオロギー、信条、そして宗教が霊的に一つとなり、約束の地の門へと至るための、光に満ちた道である。（310,39）

誰もわたしを否定することがないよう、皆、わたしを知りなさい――わたしを認識しなさい。そうすれば、あなたがたの神に対する観念は真実に基づくようになり、善が現れるところには、わたしがいることを知るようになるだろう。

善は、いかなるものとも混ざり合うことはない。善とは真理であり、愛であり、慈悲であり、理解である。

善ははっきりと見分けがつき、紛れもないものです。誤らないよう、それを認識してください。 人はそれぞれ異なる道を歩むことができる。しかし、もしその道がすべて「善」という一点で交わるならば、人々は最終的に互いを認識し、一つになるだろう。しかし、現代の人々がそうしているように、善を悪のように見せかけ、悪を善として偽装することで、頑なに自らを欺き続けるならば、そうはならない。（329、45-47）

私たちの霊的な故郷への道

あらゆる世界、あらゆる存在の次元は、魂がその上で発展し、創造主へと一歩を踏み出し、そうして完全化への道を歩み続けながら、汚れなく、清らかで、整った姿で、 旅の終着点である魂の完全性の頂点、すなわちまさに神の御国に住むことそのものに到達する機会を得るために創造されたのである。 果たして、「神の懐」に住むことが、誰にとって不可能だと言えるだろうか？ ああ、哀れな理性主義者たちよ、あなたがたは真に考えることを知らないのだ！あなたがたは、私の懐からこの世に現れたこと、つまり、それ以前からすでに私の懐に存在していたことを、もう忘れてしまったのか？生命の源から生まれたすべてのものが、やがてその源へと戻っていくことに、何ら不思議なことなどないではないか。 すべての魂は、私からこの世に生まれ出たとき、処女のように清らかであった。しかしその後、多くの者がその道のりで汚れを背負ってしまった。それでも――すべてが私によって、賢明かつ慈愛に満ち、正義を重んじる方法で予見されていたため――私は直ちに、私の子供たちが歩まなければならない道において、彼らの救いと再生に必要なあらゆる

手段を用意し始めたのである。

たとえその魂の純潔が多くの存在によって冒涜されたとしても、彼らがすべての過ちから清められ、それによって本来の清らかさ を取り戻す日が来るだろう。 その浄化は、私の目には非常に称賛に値するものであろう。なぜなら、魂は、信仰、愛、忠誠、そして忍耐に対する偉大かつ絶え間ない試練を経て、それを勝ち取ることになるからである。（313, 21-23）

私は、戦いの終わりに、私のすべての子供たちが永遠に霊的な故郷で一つになったとき、あなたがた一人ひとりが神の業に建設的あるいは回復的な形で参与したことを称え、*創造主である私の*無限の幸福を*分かち合ってもらいたいと*願っている。

霊的存在となって初めて、あなたがたは、私が太古の昔から創造してきたすべてのものの中から、失われたものは何一つなく、すべてが私の中で復活し、すべてが命を得て、新たに生まれ変わることを発見するでしょう。

したがって、たとえ多くの存在が長い間迷い、多くの者が「命の業」ではなく破壊的な業を行っていたとしても、彼らは、その迷いの時間は一時的なものに過ぎず、彼らの業が、たとえ どれほど悪かったとしても、永遠の命において償われ、彼らが私の絶え間ない創造の業の協力者へと変容することを悟るでしょう。

人類が地球上で経験してきた数世紀にわたる罪と闇など、永遠——終わりなき発展と平和の時代——と比べれば、何ほどのものだろうか。あなたがたは自らの自由意志によって私から離れてしまったが、良心の導きによって、再び私のもとへ戻ってくるだろう。（317、17-20）

霊的な光の存在たちが私たちに寄り添っている

あなたがたは一人ではない。私の励ましと光が、一人ひとりと共にあり続けるからだ。しかし、もしそれが不十分だと感じるならば、私はすべての人間に、霊的な光の存在を傍らに置いた。それは、あなたがたの歩みを見守り、いかなる危険も予感させ、孤独な時の伴侶となり、人生の旅路における支えとなるためである。 それこそが、あなたがたが「守護天使」あるいは「守護者」と呼ぶ存在たちです。

決して彼らに対して恩知らずな態度をとってはなりませんし、彼らの示唆に耳を貸さないでください。なぜなら、あなた方の力だけでは、人生のあらゆる試練を乗り越えるには不十分だからです。あなた方には、あなた方よりも進んだ存在、そして私が彼らに啓示したゆえに、あなた方の未来をいくらか知っている存在が必要なのです。

あなたがたが霊化に達しない限り、それらの存在たちの闘いは非常に困難です。なぜなら、あなたがた自身は、彼らの困難な使命を

支援するためにほとんど貢献していないからです。

もし、あなたがたの霊化が進み、目に見えず、何の誇示もなく、あなたがたの幸福と 進歩のために働いている兄弟姉妹たちの存在を感じ、認識できるようになれば、あなたがたは、自分の罪のために彼らにこれほどまでに苦労させ、苦しめなければならなかったことを後悔するでしょう。 しかし、この気づきがあなた方の内に湧き上がるのは、あなた方の心の中にすでに光が差しているからに他なりません。そうすれば、彼らに対する同情、感謝、そして理解が芽生えるでしょう。 あなた方の守護者たちは、自分たちの努力があなた方によって支えられ、彼らのインスピレーションがあなた方の高揚と調和しているのを見たとき、どれほど大きな幸福感に満たされることでしょう！

あなた方には、「霊的な谷」に、まだ知らない多くの兄弟姉妹や友人がいます。

明日、霊的な生活に関する認識が地球全体に広まったとき、人類はあなたの傍らにいるそれらの存在の重要性を認識し、人々は私の摂理を祝福するでしょう。（334、70-76）

光と闇の戦い

あなた方の人間の生活の向こう側には、霊の世界が存在しています。そこには、あなた方の兄弟姉妹である、人間には見えない存在たちがおり、彼らはあなた方を手中に収めようと互いに争っています。その争いの原因は、双方の発達段階の違いにあります。

光の存在たちは、愛、調和、平和、そして完全性という理想に導かれ、人類の道に光をまき散らしながら、 常に善を啓発し、人類の幸福につながるあらゆるものを明らかにしている一方で、依然として地上の物質主義に固執し、利己主義や世俗への愛から脱却できず、あるいは際限なく人間の欲望や傾向を助長し続ける存在たちは、人々の道を混乱で覆い尽くしている。彼らは知性を曇らせ、 心を盲目にし、意志を奴隷化して、人間を利用し、自らの計画の道具にしたり、あたかも自分の体であるかのように扱ったりしている。

一方、光の霊界は、人間の魂を勝ち取り、永遠への道を開こうと努めている。その祝福された大軍は、愛を深め、病人の枕元で看病し、 大きな責任の重荷を背負う人々の傍らで助言者となり、若者の指導者となり、子供たちの守護者となり、忘れ去られ孤独に生きる人々の伴侶となるために、 霊的な知恵の光も、高揚させる愛の感情も持たない存在たちの軍団も、同様に絶え間なく人間たちの間で活動している。しかし、彼らの目的は、あなたがたが霊界への道を歩みやすくすることではない――いや、 これらの存在の意図は全く正反対であり、彼らの な目的は、世界を支配し、引き続きその支配者であり続け、地球上で不滅となり、人間を支配して彼らを自らの意志の奴隷や道具にすること――一言で言えば、彼らが常に自分たち

のものだと考えてきたもの、すなわち世界を奪われないようにすることである。

さて、弟子たちよ。これらの存在たちの間では、激しい戦いが繰り広げられている――それは、あなたがたの肉眼には見えない戦いだが、その影響は日々、あなたがたの世界で感じられるようになっている。

人間が自らを守り、悪しき影響から解放されるためには、自分を取り巻く真実を知る必要があり、霊をもって祈ることを学ばなければなりません。また、善対悪、光対闇、精神化対物質主義というこの大いなる戦いにおいて、武器として用いることができるよう、自らの存在がどのような能力を備えているかを知らなければなりません。

まさに、光の霊界こそが働き、戦い、そして世界がいつの日か霊性化への道を歩み始めるよう、あらゆる準備を整えているのです。

これらすべてについて深く考えてみてください。そうすれば、人類の救済に尽力するあなたの霊的な兄弟姉妹たちが繰り広げるこの戦いの激しさを想像できるでしょう―― ――それは彼らにとって、あなたがたが彼らから与えられるすべての善を受け取るだけで、彼らの戦いに加わって支援することなど決してしないため、あなたがたが絶えず彼らに「恩知らず」という苦い杯を飲ませ続けているような戦いなのです。

彼らに同調できる者はごくわずかであり、彼らのインスピレーションを受け入れ、その示唆に従う者もまた少ない。しかし、彼らはどれほど力強く人生を歩み、 どれほど守られていると感じ、どのような至福とインスピレーションが彼らの精神を鼓舞していることか！

大多数の人々は、この二つの影響の間で揺れ動いている。どちらかに決着をつけることもなく、物質主義に完全に身を委ねることもないが、そこから解放され、自らの生活を精神化――すなわち、善や知識、精神的な力によってそれを高める――ために努力することもない。彼らは依然として、自分自身との葛藤の真っ只中にいる。

良心の声などもはや気にも留めず、自らの魂に関わるあらゆるものを軽んじて、物質主義に完全に身を委ねてしまった者たちは、もはや戦ってはいない。彼らは戦いに敗北してしまったのだ。 彼らは勝利したと信じ、自由であると信じているが、自分たちが囚人であることに気づいておらず、彼らを解放するためには、光の軍勢が闇の世界へと降りてくる必要があることに気づいていない。

私はこの光のメッセージを、地球上のすべての民族に送る。それは、人々が目覚め、自分たちが打ち負かすまで戦わなければならない敵が誰であるか、そして自分たちが知らず知らずのうちに携えている武器が何*であるかを*自覚するためである。（321、53-63）

私たちの未来に対する神のビジョン

私は、世界が霊性化することを期待している。私にとって、各教会や宗派を区別する名称は、いかなる意味も持たない。また、その儀式や外的な礼拝形式の華やかさの程度も、私にとっては何の意味もない。それらは人間の感覚には届くかもしれないが、私の霊には届かないのだ。

私は人々に霊性を期待している。なぜなら、それは人生の向上、完全への理想、善への愛、真理への回帰、愛の実践、自己との調和を意味し、それは他者との調和であり、ひいては神との調和だからである。（326、21-22）

霊性と愛を欠いた今日の人々の中から、私は、私の言葉によってすでに何度も預言されてきた世代 を生み出そう。しかしその前に、私は、今日、互いを誤解し、戦い、破壊し合っているこれらの民族に働きかけるつもりである。

そして、すべての人々に対する私の裁きが下され、雑草が根こそぎ引き抜かれたとき、新たな人類が生まれ始めるだろう。その「血」には、もはや不和や憎しみ、嫉妬の種は宿っていない。なぜなら、彼らの両親の「血」は、痛みと悔恨というるつぼの中で浄化されたからである。

私は彼らを迎え入れ、こう告げるだろう。「求めよ、求めよ、そうすれば与えられる」と――私が『第二の時代』においてあなたがたに語ったように。しかし今日、私はこう付け加える。「求めることを理解せよ。」（333, 54）

精神性から生まれる道徳を持つ人類の進歩を想像してみてください。制限も国境もない人類が、地球がその子らに与えるあらゆる生活資源を兄弟のように分かち合う姿を想像してみてください。もし人間の科学が「互いへの愛」を理想とし、人間が求める知識を祈りを通じて受け取るようになったら、その科学はどのようなものになるか、想像してみてください。 人々が儀式や外形的礼拝形式に頼ることなく、その*生き方*を通じて、愛と信仰と従順と謙遜という神への奉仕を私に捧げてくれることが、私にとってどれほど喜ばしいことか、考えてみてください。

これこそが人間にとっての*「生」*となるでしょう。なぜなら、その中において、人々は平安を吸い込み、自由を享受し、真実を含むもののみを糧とするからです。（315, 57-58）

もし私の声が霊的な形で人類の中に 響き渡るならば、人々は、自由には表現できなかったものの、常に自分たちの内にあった何かが振動するのを感じるだろう。それは、主の声を励みとして、立ち上がり、私の呼びかけに応える霊である。

そうして、地上に新たな時代が幕を開けるだろう。なぜなら、あなたがたはもはや下から人生を見つめるのではなく、魂の高みからそれを眺め、認識し、享受するようになるからだ。（321、38-39）

教え 310

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. 迷い、彷徨う人類よ、わたしのもとに来なさい。まずわたしの王国を求めなさい。そして、いったんその中に足を踏み入れたら、わたしの知恵の尽きることのない泉から飲み干せ。しかし、わたしの王国はこの世の に属するものではなく、わたしの愛の律法に従うことによってのみ、そこに入ることができるということを忘れてはならない。

2. 弟子たちよ。今年、1950年は、すべての人々にとって決定的な出来事をもたらすだろう。それゆえ、あなたがたがわたしの教えに耳を傾ける際の責任は、極めて重大なのである。

3. 人類は病み、盲目であり、破滅へと向かっている。父は、あなた方を通じて人類を救われる。まことに、あなたがたに告げる。失われる者は一人もいない。

4. 私はすべての子供たちを等しく愛している――それなのに、なぜこの世には悲惨な状況があるのか？　これが、人々が抱く疑問である。しかし、あなた方はその出来事の理由を知っている。

5. あなたがたの魂がこの世で生きることは、今回が初めてではない。はるか昔、私はあなたがたの魂が様々な肉体へと転生することを許した。それは、あなたがたが過ちを償い、私の律法にふさわしい者となるためである。私は、魂が創造された当初から、あなたがたが自らの功績によって私の王国に入る能力を得られるよう、魂をこの地上に置いたのだ。

6. 人間の魂は、被造物の中で最も恵まれた存在であった。私は、私の愛の証として、魂に自由意志を与えた。

他のすべての存在は、私の意志に従属している。しかし、人間が自由意志を行使して私の愛の道から逸れてしまったとしても、彼らはまさにその自由意志によって自ら切り開いた道を通じて、救いを得なければならないのである。

7. すべての魂にとって、収穫の時が訪れた。それゆえ、人々の間に混乱が見られるのである。しかし、まことに、わたしがあなたがたに告げる。この混沌の中で、誰もが自らの蒔いた種を刈り取ることになる。

しかし、絶えずわたしの律法に背いてきたわたしの子供たちは、どうなるのだろうか。まことに、眠り続け、わたしの教えを学ぼうとせず、心に留めようともしない者たちは皆、試練という竜巻に巻き込まれ、倒れてしまうだろう。 しかし、わたしの教えに従ってき

た者たちにとっては、それは義務を果たすための励ましとなり、神が彼らに与える美しい報いとなるでしょう。

8. 父は尽きることのない活動そのものであり、すべての子供たちのために永遠に働き続けておられる。この模範に倣い、あなた方も自らの務めを果たすことに倦むことなく、そのようにして主と一つとなるべきである。あなた方の働きは、神にますます近づくことにあるのだから、それがあなた方にとって真の祝福であることを理解せよ。これこそが、あなた方の人生を完成させる秘訣である。

9. 人間は進化を遂げ、その発展の過程で、人類に奉仕するために多くの実りを得てきた。しかし今日、人間は傲慢のあまり、自分こそが創造主よりも優れていると信じ込んでしまっている。

10. あなたがたは、私が子供たちをその迷いから救い出すことができるかと私に問う。そして私はこう答える。「はい、民よ。」 私が魂に、人間としての転生において与えてきた機会は、私の愛の証である。なぜなら、私の王国は、私の子供たちが自由意志を十分に発揮し、良心の指針に従って行う、愛と慈悲に満ちた善行によってのみ、到達できるものだからである。

11. たとえ自分たちが取るに足らない、弱い存在だと感じても、私が戒めとともに託した無限の力によって、隣人を支えるべきである。私が教えた清らかで純粋な祈りこそが、全人類を私の愛の囲いの中に一つに結ぶものである。

12. 弟子たちよ、祈りなさい。今、その知性によってあなたがたの生活を変容させている人々に、平和のメッセージとしてあなたがたの思いを届けなさい。そうすれば、彼らが得る実りが、人類の苦しみを癒やす香油となるでしょう。

13. なぜ主はあなた方を「選ばれた民」と呼ぶのか。それは、私がすでに「最初の時代」に、あなた方に同胞たちの中で困難な使命を課したからである。 しかし、私はあなたがたに彼ら以上の賜物を与えたわけでも、他の民族より優位に置いたわけでもありません。むしろ、私はあなたがたを忠実な子とし、地上にまだ迷いにあるすべての民族への、私の光と愛のメッセージの使者としたのです。

14. わたしは、あなたがたに、声の媒体を通じてわたしの言葉を聞くという恵みを与えた——そのメッセージは、時が来れば、あなたがたが人々の心に届けるべきものである。

15. 弟子たちよ、この時を活かしなさい。物質主義に溺れ、この世の誤った声に耳を傾けている人々を見なさい。彼らの中には苦しみがあり、それによってのみ、彼らの良心は目覚めるのである。そ

の苦しみは――あなたがたがそれを経験している間は理解できなくとも――あなたがたの魂にとっては祝福である。

16. あらゆる苦しみ、あらゆる誘惑や弱さを乗り越え、霊においてわたしのもとへ立ち上がれ。そうすれば、あなたがたは、わたしの律法を全うすることによって、わたしがあなたがたに差し出す道がいかに美しいかを理解するだろう。 堕落の極みに達し、悪徳の頂点へと至った人類を見渡すとき、父はこう告げられる。「それでもなお、魂は成長してきた。戦争の残酷さが魂を目覚めさせ、今日、あらゆる道において平和を求め続ける魂は、今まさに岐路に立っているのだ。」

17. イスラエルよ、そこがあなたの使命である。あなた方一人ひとりは、祈りと模範をもって人類を導かなければならない。隣人の不完全さについて語る権利を、誰にもない。では、あなた方のうち、誰が完全な者なのか。誰をも裁かず、人々の間で良き模範となりなさい。 そうしてこそ、あなたがたは永遠の平和と永遠の至福の反映として生きるべきである。そうすれば、多くの苦しみにはたかれた人々は、あなたがたのところに来てこう言うだろう。「あなたがたのパンを私たちに与えてください。この尽きることのない水を私たちに与えてください。」

18. 諸国は、まだ達成できていない平和を求めてもがいている。世界の一部の地域では戦争は終わったが、他の地域では、人々は依然として殺し合いの戦いの渦中で混沌に包まれている。彼らには愛と慈悲が欠けているため、この世界に平和が支配することを願っても無駄なのである。

人々は、人間の知性によって生み出された新しい兵器を恐れて震えている。民よ、彼らを助けよ。私があなた方に託した私の愛のメッセージを、彼らに向けて差し伸べよ。特定の人種や言語、イデオロギーに偏りを持たず、彼らをただ、助言と愛を必要としている兄弟姉妹として見なさい。

19. 祈りなさい。まことに、あなたがたに告げる。わが平和は、利己主義と人間の弱さを克服することで、地上のすべての民に届くであろう。

20. そうして、わたしの王国があなたがたのもとに到来する。そのとき、今日、破壊と死をもたらしている発明は、この世界を真の楽園とするために必要な再建のためにのみ用いられるようになる。わたしは、人間がついに完全となり、父が宇宙を治めるのと同じように、すなわち愛をもって、この惑星を治めることを望む。

21. 私の律法への深い信仰を持ち、大きな愛をもって私の教えを説く者は、何も恐れる必要はない。その者は父の道具となり、同時に神の一部となるからである。

22. 弟子たちよ。光が闇を追い払うように、あなたがたは私の神聖なメッセージによって、人類の無知を払拭することができるだろう。

23. この第三の時代に啓示された私の言葉は、人々が正義の真の意味を見出し、私の業に触発された法律が制定されるよう導くであろう。

24. 人類にはまだ知られていないこの教えは、やがて全世界に広まり、多くの民族の心に根を下ろすことになる。霊化は、未来の人類においてその完全な開花を迎えるであろう。

25. あなたがたは、私の代弁者たちを通じて私のメッセージを聞くという恵みにあずかったが、もはや私の教えが花開くのを目の当たりにすることはないだろう。なぜなら、その時にはあなたがたはもはやこの地上に属していないからだ。私の言葉の成就を証しするのは、他の世代となるだろう。なぜなら、あなたがたには、霊性への道を切り拓くという使命が与えられていたからである。

26. しかし、だからといって、あなた方の使命が将来の世代のそれよりも重要でなくなるわけではない——むしろその逆である。彼らが正しい道を歩み、私の業を正しく解釈し、良き弟子となるかどうかは、あなた方に大きく依存していることを心に留めておきなさい。

27. あなたがたは、私がすでに述べたように、非常に重要な役割を果たさなければならない。しかし、それを誇りに思ってはならない。なぜなら、霊的な働きの中で虚栄心に駆られる者は、立派な弟子であるということを理解していないからである。私の弟子であるための最も重要な条件の一つは、謙虚さだからだ。

28. 良心の鏡に自分を映し、そこに何らかの不純さが映し出されていないか確かめなさい。他者の行いを非難し始める前に、この内なる鏡に自分自身を映し出してみなさい。そうすれば、あなたがたの行いには、より多くの清らかさと真実さが根ざすようになるだろう。

29. 私がこう言うのは、あなたがたの多くが、さまざまな宗教団体に属する同胞たちが犯す過ちや、彼らの儀式や礼拝を非難することに喜びを見出しているのを見ているからだ。言っておくが、あなたがたは今のところ、それらの精神的な深みを理解していないのだから、教会も信仰告白も裁かないほうがよい。

30. わたしは、あなた方を道しるべとして残すが、扇動者として残すのではない。あなた方の蒔く種は、平和と調和のものであって、決して混乱や暴力の種であってはならない。

31. わたしの言葉は、団結と平和を目的としている。そうすれば、あなたがたは、その言葉にインスピレーションを得て、隣人に手を差し伸べることを知り、彼らの信仰を常に神聖なものとして尊重することができるだろう。なぜなら、彼らの信仰は、わたしが宿る内なる祭壇だからである。 そうすれば、あなたがたは、隣人たちが、その闘い、努力、そして不運を経て成し遂げた成長を、見出すことができるようになるでしょう。

32. もし、あなたがたの隣人が宗教を実践する形と、あなたがたのそれとの違いに気づいたとしても、外見だけで判断することにこだわらず、真実が存在する事柄の本質に踏み込んでください。 あなたがたはスピリチュアリストである以上、常に心構えに則らなければならないことを忘れず、外見的な形式に囚われてはなりません。

33. このようにして少しずつ周囲の人々を理解していくと、やがて、人はそれぞれ異なる道を歩んでいるものの、そのすべての道が、光、真理、そして命へと至る一つの点に収束していることに気づくでしょう。

34. 今、あなたがたは、私の言葉を魂に刻むだけでは不十分であることを悟るでしょう。なぜなら、最も重要な部分、すなわち私の教えを実践に移すことが、まだ残されているからです。これこそが、あなたがたが私の言葉からどれほど学んだかを示さなければならない試練なのです。

35. 私が比喩的な言葉で、「あなたがたの唇を閉ざす」と告げたのは、その瞬間に私があなたがたの唇を祝福し、あなたがたの魂がその唇を通して霊感を発し、私の神聖な言葉を繰り返すことができるようにするためであり、一方で、その唇が裁きや批判、嘘、あるいは冒涜のために開かれることのないようにするためであった。 私の教えを愛情を込めて守り、何世紀にもわたってせき止められていた川のように、あなたがたの魂が、慰め、光、癒やし、知恵、そして平和の言葉として溢れ出るようにしなさい。

36. あなたがたが私の名を頻繁に口にする必要はない——むしろその逆である。その名を口にする回数が少なければ少ないほど、そして私の教えをより良く実践すればするほど、あなたがたは私からより大きな証しを与えられることになる。

37. 心の中で、次第に隣人を真の兄弟姉妹として感じ、人類をひとつの家族として見なさい。しかし、これを大々的に宣伝すること

には気をつけなさい。自分の功績を決して公にしてはならない。それを評価するのは、私のみの権限だからである。あなたがたが、自分の生き方や言葉を通じて知らせるべき唯一のものは、私の業である。なぜなら、この業こそが、すべての同胞に知られなければならないからである。

38. 霊性追求者の謙虚さは、地上の歩みが光に満ちたものとなるよう、見せかけのものではなく、真のものでなければならない。

39. わたしの言葉は、新しい宗教ではなく、またそうなることもできないことを悟りなさい。この業は、すべてのイデオロギー、信条、そして宗教が霊的に一つとなり、約束の地の門へと至るための、光に満ちた道である。

40. 私はこの言葉を通して、あなたがたの痛みを忘れさせてくれる平安と慈愛に満ちた配慮を授ける。私はあなたがたの信仰を強め、私へと続く道を歩むための光を与える。 この光はあなたがたを鼓舞し、苦しむ者たち――ここにいる者も、いない者も――のために祈るよう促す。 それは、あなたがたから遠く離れて暮らし、肉体的に触れ合ったり愛撫したりすることのできない、見知らぬ兄弟姉妹たちとの距離を縮めてくれます。

私の教えは、すべての人々のために祈り、隣人の心の中で何が起きているかを感じ取ることを教えています。私は、私が常に「今ここ」に存在し、私にとって不在の人も、私から遠く離れた人もいないと、あなた方に告げました。そして、助けや慰め、あるいは寄り添いを必要としている人々に心を向けることができるよう、あなた方に共感する力を与えます。

41. あなたがたが自らの賜物に気づき、それを隣人の幸福のために用いる術を身につけたその日から、どれほど多くの善行を成し遂げることができることか！ 準備の整った魂は、距離を乗り越え、危険に立ち向かい、障害を克服して、待ち望まれている場所へと向かうことができるのだ。

42. もし、過去の負債を清算できなかったために、魂に重い負担を抱えているなら、霊的な方法で行動しなさい。そうすれば、失われた平安と喜びが戻ってくるのを感じるだろう。

43. わたしの言葉は、先祖たちや預言者たちを通して現れたわたしの御姿、そして第二の時代におけるイエスを通してのわたしの言葉を思い起こさせることによって、あなたがたに昔の時代を体験させてくれる。わたしはあなたがたに父の愛を感じさせ、あなたがたの魂は、わたしの慈悲に見守られ、守られているという自覚の中で安らぎを得るのだ。

44. わたしは、かつて師として弟子たちに授けたのと同じ知恵をもって、あなたがたに語りかける。しかし今日、聖霊として、あなたがたにその書のもう一つの側面を示し、あなたがたがそれを学び、啓発されるようにする。

45. 三つの時代にわたって与えられた三つの聖書を一つに統合し、これらの啓示の理由を問う者たちに答える準備を整えること、それがわたしの御心である。

46. あなたがたの先祖たちの模範は、消えることのない文字で記されている。アブラハム、イサク、ヤコブは、民に信仰、愛、そして不屈の精神の種を残し、その使命を果たして、今やわたしの元にいる。わたしはあなたがたに犠牲を求めることはない。あの時代はすでに過ぎ去ったからだ。今日、あなたがたの人生はすでに苦難に満ちている。わたしが望むのは、あなたがたが霊性を高めることだけである。 しかし、もし私があなたがたの子供たちに、私の教えを他の国々に広めるという使命を授けることがあっても、それに逆らってはならない。もし私が、あなたがたを、言葉と模範をもって大衆を導くために用いることになっても、 拒んではならない。そうすることで、あなたがたはこの時代に足跡を残すことになり、私は、私の言葉が生み出した実りを、来るべき世代に示すであろう。

47. あなた方にとって、戦いの時が到来した。主要な宗教団体の聖職者たちは、力を結集して、私の選民たちと戦うために結束している。時が来れば、彼らは、私が、単に、そして純粋に私が準備したあなた方に託したこの啓示を、自分たちの才能によるものだと主張しようとするだろう。 私がこの恵みをあなたがたに授けたのは、私があなたがたを知っており、あなたがたの知性を用いるために、あなたがたを清め、育ててきたからである。しかし、私があなたがたに与えたものは、私のすべての子供たちのものなのであり、それが争いの原因となることを私は望まない。 もし1950年以降に、それでもなおこの争いが始まるならば——その頃には、あなたがたはもはやこの形での私の啓示を受け取らなくなるだろう——私の言葉が途絶えることを、どれほど痛感することになるだろうか！ その時、私はあなたがたに、大いなる信仰と強い意志を持つ私の使徒たちを模範とすることを許すだけである。

48. わが言葉はまもなく他の国々にも届き、人々の憎しみと復讐心を抑え込むだろう。見よ——病人はまだ病床から起き上がっておらず、新たな戦争の報せは依然として絶えない。家々は再建されず、民は回復しておらず、血に飢えた欲望は依然として存在する。彼らに、わが平和と調和のメッセージが届くように。

49. あなたがたは、あなたがたの大陸の向こう側で諸国が荒廃し、その痛みがすべての人の心に届いていることを知っている。苦しみの杯を飲み干さなかった子供も、若者も、大人もいない。そして、その中にも、自らの苦しみにもかかわらず、平和を保っている国々が戦争によって荒廃することのないよう祈る力を持つ人々を、私は見出している。 また、さまざまな宗派の中に、真摯な愛と憐れみをもって、あの大きな試練に直面している人々のために祈る敬虔な魂たちを見出しています。私は彼らの行いを受け入れ、彼らの慣習を尊重し、その功徳を彼らに与えます。良き弟子として、目を覚まし、祈り、願いなさい。そうすれば、私はあなた方に私の恵みを授けます。私はすべての被造物を守り、すべての国々を祝福します。

50. あなたがたは皆、自分たちがふさわしいと思う通りの平和を受け取るだろう。しかし、私はあなたがたにより良い時代を約束する。地上でなされなければならない浄化の後、私によって遣わされた人々が現れる。彼らは、従順な人類の家族を築くという偉大な使命を帯びた、徳高い魂たちである。 あなたがたの世代から四世代が過ぎ去って初めて、私の教えは全世界に広まり、美しい実を結ぶことになる。

51. 今の時代、私の子供たち全員が、霊における私の到来を理解するわけではなく、また、私が人類を私のもとへ帰らせるために準備を進めていることを知るわけでもない。私は、あなたがたが私から生まれた時と同じように——すなわち清らかな状態で——戻ってきて、天の御国に入ることができるようにしたいのだ。

52. すべての魂は、迫害や誘惑からその人を守る力を内に秘めており、また、その人を導く光、すなわち良心を持っている。私が人間に自由意志を与えたのは、その人が独自の意志を持ち、それによって自分の人生や行いの主人であり、私と似た存在であると感じられるようにするためである。 私は、たとえその子が私が与えた律法に従わなかったとしても、彼を崇高な使命の持ち主とし、恵みで包むことによって、私の愛を証明したのだ。

53. この時代における私の呼びかけはすべての人に向けられていたが、私に従う者はごくわずかである。 今日、この世に生きているからといって、私から遠く離れていると感じてはならない。私は、あなたがたがすでにこの現世において私を認識し、あなたがたの心があらゆる神の啓示を受け入れ、私を愛し、私と深く一つになることを望んでいる。あなたがたは——たとえ限られた形であっても——私の性質を備えているのだから、私を理解し、偉大な業を成し遂げることができるのだ。

54. 私が魂のために示した道は、その道中でしばしばアザミや茨に遭遇するとしても、魂を高みへと導くものである。

55. あなた方を導いてくれる聖なる人々や義人を探しても、見つけることはできないだろう。もしあなたがたが最高の完全性を追求したいのなら、無限の中にわたしを見出し、わたしと結びつきなさい。そうすれば、わたしはあなた方に助言を与え、霊感を与えるだろう。

56. あなたがたは、わたしから聞いたことを世に語ってこなかった。しかし、この物質主義的で冷淡な世界は、主のもとへ立ち返り、新たな人生を始めるために、わたしからのしるし、示唆、あるいは言葉を待ち望んでいる。

科学者たちは宇宙における数多くの現象を観察し、その理由を問い求めている。神学者たちは私の神秘を解き明かそうとし、私の存在に敏感な魂は皆、世界が新たな時代に入ったのかと自問している。そして、私は、知識を渇望し、渇きに苦しむ者たちへの答えを持っている。私は彼らに、その渇きを癒やす水を泉のほとりで飲ませてあげよう。

57. あなたがたは今や準備が整い、その賜物は永続するものである。もしあなたがたが、与えられた恵みを大切にしてきたのなら、それを失ってはならない。もし功績があるなら、それを増やしていきなさい。なぜなら、いかなる犠牲も実を結ばないことはなく、いかなる努力も無駄になることはないからだ。すべての行いは記録され続け、あなたがたの記録を消し去ったり改ざんしたりできる手など存在しないからである。

58. イスラエルの魂をその内に宿す者たちよ、わたしの言葉が注ぐ本質は、第一の時代と第二の時代にわたしがあなたがたに与えたものと同じであることを知れ。今日、わたしはあなたがたに『命の書』の第三部のページを示す。それは前の部分と同様、わたしの無限の知恵を含んでいる。

59. わたしこそ、命が記され、あらゆる知恵が宿る書物である。さあ、わたしの扉を叩きなさい。そうすれば、わたしは直ちに開いてあげよう。しかし、わたしはあなたがたの心の中に、光への真の渇望を見たいと願っている。

もし、あなたがたの理解力が理解の限界に達し、それ以上先へ進めないと感じたとしても、心配する必要はない。なぜなら、そのとき、さらなる地平線が存在するあなたがたの精神は、物質の限界を超えて、見たいと願っていたその光に到達するまで高まっていくからである。

60. 人間が知識を増やそうと願い、すべてを知性の力に委ねたときはいつでも、人間の知性にとって乗り越えられない障壁に阻まれてきた。あるいは、科学のためにさらなる光を見出したいという好奇心や願望を満たすこともできずに、謎に満ちた深淵へと身を投じてきたのである。

61. 今日に至るまで、科学者たちには精神性が欠けていた。それゆえ、彼らが研究するあらゆるものの真の起源、根源、そして原理を探求することを理解できなかったため、彼らの知識は常に限定されたものにとどまってきたのである。

62. まことに、わたしがあなたがたに告げる。この唯物論的、利己的、そして破滅的な科学の時代が過ぎ去った後、科学者たちが自然の神秘を解き明かすことを理解する時代が来るだろう――祈りによって精神的に準備され、謙虚さと敬意を身にまとい、高潔で崇高な人間的な思想と決意に導かれて。

63. 人類は、人間の科学によって作り出されたこの世界、この虚偽で表面的な世界の終焉へと、大きな歩みで向かっている。そして、その傲慢と貪欲によって築き上げられた業を、自らの 手で破壊するのは、他ならぬ人間自身である。

その後、静寂が訪れ、省察、そしてそれによる再生、高潔な決意と理想が生まれるだろう。人々の前には新たな時代が開かれ、痛みによって清められ、経験によって鍛え上げられた人類が、その時代へと踏み込むことになる。人々は新しい世界を築き上げるだろうが、それは霊魂に導かれ、霊によって照らされ、わが律法の道へと導かれた世界となる。

64. 私は、この世界が、唯物論的な科学が決してあなた方の存在の目的ではなく、今後もそうなることはないということを理解してほしい。なぜなら、あなた方はそれによって、この地上での幸福さえも得ることができなかったのだから。

65. あなたがたは、この惑星を離れてより高い生命の世界へ至ろうとする際、科学的で唯物論的な世界から離れるだけではそれを成し遂げられず、愛と徳によって霊化された世界である場合にのみ、それが可能になることを知らなければならない。

66. 物質化してしまった魂たちは、他の世界において盲目となっている。なぜなら、彼らは霊的なものを理解する能力を疎かにし、それによって、繊細なもの、純粋なもの、高尚なもの、輝かしいものを感知するのに十分な感受性を養うことを妨げてしまったからである。

67. 誰も、自らの本質の中に霊的な使命を帯びていることを否定しようなどとは、決して考えてはならない。 父とその子供たちの間に結ばれている契約を知っているのは、わたしとあなたがたの霊だけである。しかし、わたしがあなたがたに授けたすべてのものについて、あなたがたはわたしの前で責任を負わなければならないこと、また、霊的存在として永遠の王国に帰還する際、わたしがあなたがたに託したすべての賜物と使命について、あなたがたは説明責任を果たさなければならないことを、信じて、そして知っておきなさい。

68. あなたがたは、すでに霊的な生活を理解し、受け入れ、把握できる段階に達したため、私はあなたがたに私の言葉を送った。それは魂のための教えであり、確かな道であり、光に満ちた道である。それによって、あなたがたが確固たる歩みで私のもとへ来ることができ、忍耐と愛をもって過ちを償い、長い間身にまとってきた不純さの外套を脱ぎ捨て、 ますます多くの光を獲得し、試練と闘いのこの世を去るその祝福された時が来たとき、あなたがたを待ち受ける「谷」へとふさわしく入り、光の収穫と平和の実を授かることができるようにするためである。

69. あなたがたは皆、自分の中に私の光を持っています。すべての魂がこの恵みを授かっています。しかし、ある人々においては、この光がますます強まり、 へと外へと広がり、自らを現すようになった一方で、他の人々においては、それはただ秘密の、隠された、無意識の状態にとどまっているのです。 しかし、まことに、私はあなたがたに告げます。人がどれほど霊的に遅れていようとも、善と悪を区別することは常にできるのです。それゆえ、あなたがたは皆、自分の行いについて私に対して責任を負うのです。

70. あなたがたの認識が深まるにつれて、その責任もまた増していくことを、私は告げなければならない。なぜなら、そうすれば、あなたがたは良心の指針に対してますます敏感になっていくからである。

71. あなたがたは、地上において、許され、正しく、そして平易な方法で理解を助けてくれる教えがいかに必要であるかを自覚しているだろうか。

72. 民よ、ここに私の言葉がある。約束された言葉、すなわち「第二の時代」にすでに私が予告していたメッセージ――その本質は「真理の霊」、すなわち、人間の知性では解き明かすことのできなかったあらゆる謎を解き明かすために到来する神聖な光である。

わが平安があなたがたにあるよ

教え 311

1. 愛する弟子たちよ。あなたがたは、わたしを迎えるために聖所を整えた。そして今、わたしはここに、霊と真理において臨在している。

あなたがた一人ひとりが、私に対してそれぞれの聖所を示しています。しかし、師が喜ばれるのは、あなたがたが一致と霊的な調和によって築き上げる聖所です。そのために、私はあなたがたに愛を教えたのです。それによって、あなたがたが霊において、霊的な合一の時代へと至ることができるようにするためです。まことに、あなたがたに告げます。、そのとき初めて、あなたがたは、神聖な交響曲が響き渡る真の聖所を私に示すことができるようになるのです。

2. 今日、私は、私の言葉と、私の律法による霊感を通じて、私の子供たちの魂の中にこの神殿を築き上げようとしている。しかし、あなたがたは依然として私の弟子であり、絶えず子供のような弟子たちが私の御前にやって来る。ある者たちには長年にわたり教えを授けてきたが、他の者たちには、第三の時代において最初の教訓を教え始めている。

3. この啓示を通じたわたしの言葉は、まもなく終わりを迎える。しかし、わたしの後に続いて人々に教訓を伝えるのは、いったい誰になるのだろうか。生命の大いなる書に記された教えを伝えるのは、いったい誰になるのだろうか。それは、わたしの後を継ぐことができるよう、わたしが長い間準備してきたわたしの弟子たちである。 しかし、それは単に私の言葉を繰り返すよう努めるためではない。そうであれば、あなたがたはただ「声の媒体」の言葉をそのまま再現しているに過ぎないからだ。私があなたがたに遺すのは、人間の言葉ではなく、私のメッセージが持つ真意なのである。

4. *あなたがたは*、私の代弁者たちを通して私の言葉を聞いてきた。その言葉の中に不完全さを見出し、ある者はそれを代弁者の肉体に帰し、またある者は私に帰した。私は、私を現すために用いた子供たちを非難するつもりはないが、それでもこう言っておく。私はこの啓示において、あなたがたを欺いたことはなく、かつて一度もそうしたことはない。 私は、人間の知性を通じて、私の啓示と聖霊の霊感をもたらしましたが、私の完全な教えとともに、人間の不完全さも存在していたのです。 師はあなたがたにこう告げます。私の啓示のこの段階は過ぎ去り、そのとき、あなたがたは私の聖霊の光

に照らされて、私の本質がどこに表れているのか、そして何が人間の不完全さなのかを明確に区別できるようになるでしょう。

地上の農夫たちが小麦の収穫を終えた後、もみ殻を取り除くように、あなた方も私の教えの「小麦」ともみ殻とを分け、それをあなた方の心の穀倉に保管しなければならない。 しかし、伝達者たちの不完全さであるもみがらは、忘れ去られることになるだろう。一方、私の教えの真意は、永遠にあなたがたの魂の中に留まり続けるのだ。

5. この時代、この姿で自らを現すために、私は大勢の人々に呼びかけを行った。その中から、私は年齢、身分、人種が異なる男女を選んだ。 あなたがたもその一部であるこの選ばれた者たちは、私が知っている魂たちである。なぜなら、私にとって見知らぬ魂など一つとして存在しないからだ。あなたがたは皆、私の子供たちである。

6. 私は、あなたがた一人ひとりの成長の道を注視してきた。なぜなら、私はあなたがたの運命をあらかじめ定めていたからである。そして、あなたがたにこれらの啓示の場に立ち会うよう呼びかけたとき、私は選ばれた者たちを選んだのである。 私は彼らに賜物と能力を授け、彼らはその使命において、光の精霊たち、すなわち私の平和の使者たちによって支えられている――彼らは御言葉に満ちた魂たちであり、あなた方を一歩一歩スピリチュアリズムの道へと導き、その過程で、あなた方が自らの内に賜物と才能を見出し、来世、すなわち永遠に向けて魂を目覚めさせるのを助けてきたのである。

7. 私の神聖な教えと、私が賢明にもあなた方の生涯全体に配分した試練を通じて、私はあなた方の魂をますます開花させ、戦いに備えて鍛え上げ、かつてはあなた方にとって謎であり、解き明かせない秘密であったものを明らかにしてきた。 あなたがたは私の業を喜びとしてきました。そして、私の教えを通じて、神学者たちでさえ理解できなかった「第一の時代」と「第二の時代」の教えを、徐々に解釈できるようになってきています。

8. 人生の道で直面する試練は、あなた方を押しつぶそうとする。しかし、あなた方はすぐに、私の神聖な御霊があなた方の内にあることを思い出す――それは星のようであり、灯台のようなものであり、あなた方は救われるために、常にこの光へと向かうのである。

9. 私が恵みの賜物を惜しみなく注いだ選ばれた者たちの多くは、私の業における自らの使命に対して冷淡であった。世の理想や誘惑、そして準備不足が、彼らを私から引き離してしまったのだ。 しか

し、私の教えに忠実であり続けた者たちのうち、選ばれた者たちには属さず、また「声の伝達者」を通じて封印や賜物を受け取っていなかったにもかかわらず、私の恵みに包まれている者たちを、私は多く見ている。なぜなら、私は彼らに霊から霊へと賜物を与え、彼らの中には、太古の昔からあなた方全員の中に潜在していた恵みが宿っているからだ。

10. 忠実な者たちは幸いである。試練の終わりまで揺るぎなく立ち続ける者たちに祝福あれ。わたしの教えによって与えられた力を無駄にしなかった者たちは祝福される。なぜなら、彼らは来るべき苦難の時代において、力と光に満ちて人生の浮き沈みを乗り越えるからである。

11. 弟子たちよ、忠実でありなさい。私の業は決してあなた方を失望させることはない。師は約束を果たし、あなたがたが人類と戦う間、一瞬たりともあなた方のそばを離れることはない。

12. あなたがたの魂を養う私の教えは、あなたがたを師、すなわち聖霊の忠実な使徒へと変容させようとするものである。

13. 私はこれらの啓示によって、単に世に平和をもたらし、肉体的苦痛を和らげるだけではない。この啓示を通じて、私はあなたがたの魂の成長に語りかける偉大な教えを授けるのである。 もし私が単にこの世の恵みだけをもたらそうとしたのであれば——まことに、私はあなたがたに告げる。それならば、私が直感によって啓発し、自然の秘密を明かした科学者たちに、自然から癒しの薬を取り出し、あなたがたの肉体の苦しみから癒やすよう命じるだけで十分だったはずである。

14. わたしの業は、あなたがたの惑星の彼方、あなたがたを取り巻く無数の世界へと続く、さらなる地平線を示そうとするものである——その地平線には終わりがない。それは、あなたがたに属する永遠への道を指し示すものである。

15. 私が語りかけているのは、あなたがたの魂である。私の光、すなわち霊の中に宿る私の律法によって、その魂が完全性を追求するように。 この律法を、あなたがたが私のもとへ至るための階段、道として活用しなさい。なぜなら、私が切に待ち望んでいるのは、あなたがたが私のもとへたどり着くことだからである。そうしてこそ、おお、愛しき子らよ、あなたがたは私の王国を喜び、私の愛を理解し、そして私もまた、あなたがたの愛を受け取ることができるのだ。その愛は完全でなければならない。そうして初めて、あなたがたの霊魂は、私の業がもたらす宇宙的な栄光に喜びを見出すことができるのである。

16. 弟子たちよ、私があなた方を支える中で、この王国を勝ち取れ。なぜなら、どれほど多くの敵が、どれほど多くの誘惑があなた方の歩みを阻み、どれほど多くの深淵を回避しなければならないことか！

17. あなたがたは、約束の地を慕って荒野を旅するイスラエルの民である。もはやモーセを導き手としていない――この民の先頭に立ち、あなたがたを励まし、立ち直らせてくれるのは、あなたがたの父である。 わたしは選ばれた者たちを通してあなた方を導いているが、彼らの上に、神であり、あなた方の父である「普遍の導き手」がおられ、その方があなた方に語りかけ、こう言われていることを悟りなさい。「さらに前進し、敵を打ち負かし、試練の中で弱気になってはならない。そうしなければ、旅の途中で命を落とすことになるからだ。」 前進せよ！　あなたがたの使命に背いてはならない。なぜなら、まさにその瞬間、地平線の彼方に約束の地がすでに視界に入っているかもしれないのだから。

18. わたしは選民たちに偉大な賜物を託した。その一つが癒しの力――癒しの香油である。この賜物によって、人間社会において最も美しい使命の一つを果たすことができるのだ。なぜなら、あなたがたの惑星は、常に苦痛が存在する「涙の谷」だからである。この能力をもって、 、あなたがたの前には、わたしの御心に従って慰めを与えるための広大な道が開かれている。 私はこの癒しの力を、あなたがたの存在の中、心の最も繊細な琴線に宿らせた。そしてあなたがたはそれに癒やされ、その奇跡の前に頭を垂れ、人々の痛みによって心が柔らかくなり、常に慈悲の道を歩んできた。 これからも、この癒しの香油を注ぎ続けてください。それは、*あなた方の手*の中にあるものではありません。なぜなら、それは思いやり、慰め、理解に満ちた眼差しによって伝えられ、善き思いによって受け継がれ、癒しの助言や光の言葉へと変容するからです。

19. 癒しの賜物には限界がありません。 あなたがたがその賜物に満たされていることを決して忘れないでください。もし試練にさらされ、痛みに打ちのめされることがあっても、もしこの癒しの薬でそれを取り除くことができないとしても、私の教えを忘れず、自分の苦しみを忘れ、自分よりも大きな苦しみにある他の人々のことを考えてください。そうすれば、あなた自身と周囲の人々の間で、奇跡を体験することになるでしょう。

20. 私は、この時代の私の啓示が行われているのと同じ期間に、私の霊界が、賜物を持つ者たちを通じてあなたがたの間に現れることを許した。それは、あなたがたが、私の癒しの香油に満たされた

存在たちを受け入れ、彼らがあなたがたの間で愛と慈悲の師となるためである。 あなた方のうち、ある者は彼らの忍耐と謙虚さを称えることを理解したが、他の者は彼らを屈辱や嫌がらせ、物質的な扱いを受ける対象にしてしまった。

しかし、これらの光の存在たちは、その嘆きや非難を私の前に持ち出すことはなかった。 彼らは、あなた方を霊的な苦境から救い出すために、あなた方の困窮と貧しさを目の当たりにして降りてきた、理解に満ちた魂たちであり、その過程でしばしば自らの霊性を犠牲にしてきた——あなた方を闇から引き離し、光へと導くことを目的として。しかし、この期間はまもなく終わりを迎える。

21. 私の霊界、すなわち「労働者」や多くの人々の代弁者たちは、私にこう言うだろう。「主よ、彼らが私たちに与えた侮辱のゆえに、私たちの兄弟姉妹を裁かないでください。」しかし、彼らがこのようにあなた方のために取り成し、あなた方を赦すのであれば——父があなた方に赦しを授ける時、父は一体どれほど多くのことをなさるだろうか。

彼らは、あなたがたが辿った悲惨と苦痛の足跡をたどり、最も貧しい家々さえも訪れました。彼らは、私の働き手や病人の呼びかけに応えて、汚れを恐れることなくあらゆる場所へ駆けつけ、ただ傷を癒やすこと、 悲しみに慰めを残すこと、病を健康へと変えることだけに心を砕きました。

父はあなた方にこう言います。私の霊界が示してくれたこの模範を、あなた方は自分の魂に深く刻み込まなければなりません。決して忘れてはなりません。私は、あなた方が彼らのようにあることを望みます。そうすれば、これらの顕現が終わったとき、あなた方は、社会階級、人種、世界観の区別なく、すべての同胞にこの癒しの香油をもたらすことができるでしょう—— 王宮であれ、最も粗末な小屋であれ、あるいは最も不潔な場所であれ、感染や批判、嘲笑を恐れることなく足を踏み入れることができるように。

22. 常に苦しむ人々のもとへ行き、その足跡として、愛の最良の果実を残しなさい。そうすれば、あなたがたは、私の忠実な弟子であり、あなたがたの師である私の霊界を模範としたことになる。 そして、彼らが何の報酬も求めず、あなたがたに最大の恩恵を与えたときでさえ、常に私の名においてそれを行ったのと同様に、あなたがたもまた、私の意志に従ってこの世の道を歩み、その過程で慰めと健康と愛を蒔き散らすべきである。たとえ、私の霊界や、あの「第二の時代」におけるあなたがたの師のように、そのすべてに対して侮辱や迫害、そして恩知らずな扱いしか受けなかったとしても。

あなたがたはこの世でいかなる報酬も期待してはならない。しかし、もしどうしても報酬を望むのであれば、それは、泣いていた者を笑顔にし、「死んだ」者を私の真理へとよみがえらせ、悲しむ者を慰めたことによる満足感と喜びであるべきだ。

23. わたしは、わたしの律法において、あなたがたに永遠の平和を授けた。そして、あなたがた一人ひとりが平和の鳩のようになり、その翼を決して閉じることなく、祈りを通じて、肉体的であれ精神的であれ、あらゆる場所に身を置くことができるようになりたいと願っている。 そして、戦争や不和がはびこり、不正が横行する場所では、あなたがたは平和の天使、守護天使、そして聖霊の使者として振る舞わなければならない。

24. この人類が、私に平和の実を捧げたことは一度もないことを悟りなさい。人類は創世の初めから戦争の中で生きてきた。無意味な目標を達成し、放蕩な生活を送り、憎しみと復讐を育むために、絶え間なく戦ってきた。これが、人々が私に捧げる実であり、今日においても、こうした戦いはまだ終わっていない。 人類は、最大の戦いを始める準備を進めており、最も強力な武器、すなわち知性という武器を準備している。

25. 人々は自らの破滅へと向かっている。彼らの頭上では、あの世の存在たちが活動している。ある者たちは私の愛の使者であり、、人々に平和、正義、調和を鼓舞する。他方、ある者たちは人々に憎しみや戦争だけを煽り、科学者たちに、人間の脳だけでは発見することのできない破壊の手段を明かしている。

はるか昔、私は使徒ヨハネを通じて、人々にこれらの出来事を予告し、彼らが目を覚まし、祈り続けるようにと告げた。 しかし、人々はただ眠り続けていた。それゆえ、人類の心の中で、彼らを破滅へと導こうと戦っている「平和の敵」が存在するのだ。それゆえ、私はあなた方を私の愛の使者に任命する。そうして、あなた方が平和の軍勢と一つとなり、善が勝利するよう――すなわち、ヨハネの預言の成就に協力できるようになるためである。

26. 私があなたがたに予告したこの戦いの時が来て、あなたがたが州や国、海を渡らなければならないとき、戦争の轟音に怯えてはならない。また、死の目前で勇気を失ってはならない。むしろ、平和という理想という翼を広げ、この祈りが人々を守れるようにしなさい。 あなたがたは、私の愛の種を蒔くために、精神のあらゆる賜物を活用すべきである。

27. この時代の私の啓示は、あなたがたを待ち受ける闘争と試練の中に秘められた重要な意味を、あなたがたに悟らせてくれた。あ

なたがたの愛は、人々の冷酷さを打ち勝つだろうか？ あなたがたの平和は、戦争の残虐さを打ち勝つだろうか？ まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの平和は必ず勝利する。しかし、わたしはそれを暴力で強いることはしない。それは、わたしの教えが放つ説得力によってもたらされるのだ。たとえ悪に最も深く惑わされた子の心であっても、いったんそこに平和が浸透すれば、その心はついに平安を見出すだろう。

28. 師はあなたがたにこう告げる。人々のあらゆる苦しみや罪よりも大きな痛みが訪れるだろう。その痛みこそが、彼らの悔い改めの杯となる。彼らはその前に頭を垂れ、そして私の赦しと癒しの油を受け取ったとき、彼らは私の僕であることを公言するだろう。

29. わが子らよ、私はあなたがたに「言葉」という賜物を与えた。なぜなら、私は「永遠の言葉」そのものだからである。私は、決して尽きることのない神聖な言葉である。 私は神聖な交響曲であり、その一部をあなたがたに託した。私があなたがたの魂に宿したこの言葉は語り出すだろう。そして、今日、私が与える啓示やインスピレーションを表現するには不器用すぎるあなたがたの唇は、雄弁になり、神聖な交響曲を喜んで忠実に伝える者となるだろう。 それは、あなた方を驚嘆させ 、あなた方を恍惚とさせ、そして人々を私の臨在を喜び、それを感じさせるような賜物となるでしょう。あなた方はすでにこの賜物を開花させ始めています。なぜなら、私はもう一度言います。あなた方の唇は、あなた方の心と魂に満ち溢れている豊かさから語りかけるようになるからです。

30. あなたがたの心から生まれるものを大切にし、愛しなさい。そうしてそれを伝えるとき、それは本質と命を持つようになるでしょう。しかし、もしあなたがたが真実を語らずにそれを口にすれば、それは、人々の心の中で芽吹くことのない、不毛な種のようなものになってしまうでしょう。

31. 弟子たちよ。わたしがあなたがたに授けた教えは偉大である。しかし、この啓示の終わりはすでに非常に近づいている。そして、この期間を経て初めて、あなたがたの集いにおいて、霊と霊との対話を通じて、わたしの言葉が花開くことになるということを忘れてはならない。 そうして初めて、あなたがたの唇はわが王国の偉大な啓示を伝え、わが愛のメッセージをもってすべての人の心に深く入り込むことになる。その時、人々はこう言うだろう。「どうしてこの人は、私の心に秘められていたことを読み取ることができるのか？」しかし、覚えておきなさい。それを語るのはあなたがたでは

なく、あなたがたを媒介として語る者、すなわちわたし自身なのだ。

これらの賜物ゆえに、あなたがたは自分たちを支配者だと感じてはならず、人々の前で威張ってはならない。なぜなら、あなたがたの肉体は、その霊的な偉大さを何ら示してはならないからである。あなたがたは他の人々と同じようにあり、自分を他者と区別するような象徴を身につけてはならない。外見上は皆と同じに見えるだろうが、そのための適切な瞬間には、私の知恵の宝があなたがたの魂に注がれるだろう。

32. 聖霊の恵みにより、あなた方は「予見の賜物」を授かっている。それは、霊的な領域においてあの世からのメッセージを見ることに限定されたものではない。予見の賜物は、さらに広範な賜物であり、直感であり、予感であり、預言である。また、夢の中で受け取るメッセージもこれに含まれる。「予見の賜物」とは、私の御心がある限り、過去、現在、さらには未来までも見通すことのできる霊的な視力である。予見者がビジョンを目にしたとき、自分が何を見たのか分からないことは、どれほど頻繁にあることか。しかし、その証言を聞く者たちは、それでもなお、そのメッセージを理解するだろう。

33. 現在、予言者たちはまだ準備の段階にある。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたは皆、予言者である。 ある者はある方法で、またある者は別の方法で成長してきたが、あなたがた全員が潜在的な状態で霊的な視覚を持っている。祈りの際に、私の意志を象徴的なイメージとして見る者たちについては、私はさらに彼らを準備させている 。なぜなら、1950年以降、私が彼らに託す使命は非常に大きなものとなり、その責任もより重くなるからである。

それゆえ、私はあなたがたにこう告げる。準備をしておきなさい。なぜなら、この言葉がもはや声の担い手たちを通して響かなくなったとき、信者も非信者も、人々の群れは大きな喪失感を覚えることになるからだ。 そのとき、あなたがたの証し、目覚めと内省への呼びかけは、真夜中の松明のようになるべきである。あなたがたは、まだ眠っている諸国民を目覚めさせる使者のようにならなければならない。民よ、1950年以降、あなたがたの魂が、わたしの愛から降りてくるメッセージを受け取れるよう、備えなさい。

34. わたしはあなたがたに霊の賜物について語ってきた。もしあなたがたがもはやこの形でわたしの声を聞かなくなっても、それらの賜物の中に、あなたがた自身の存在の中に宿るすべての栄光を、

ますます発見していくことになるだろう。 あなたがたは再び私を聞き取り、私があなたがたに授けたこの計り知れない愛と恵みに驚き、涙を流すことになるでしょう。しかし、1950年が終わった後は、知性によって霊界と交信する能力を、もはや用いてはなりません。

霊的な光の存在たちは、今後も「賜物を持つ者」や、そうではなかった者たちを通じてその存在を明らかにしていくでしょうが、彼らの現れはインスピレーションという形で感じられるようになるでしょう。同様に、彼らは今後もあなた方に癒しの香油を授け、奇跡を起こし続け、彼らの言葉はあなた方の間で尽きることなく続くでしょう。

35. しかし、これらの啓示からしばらく時間が経った後、師や霊界が人間の知性を通じて自らを現すために戻ってきたという噂を耳にするようになったとしても、それを否定してよい。なぜなら、わたしの言葉はただ一つであり、わたしの律法は決して変わることはないからだ。

36. おお、民よ、あなたがたは警戒して生きなさい。そうしてこそ、真の預言者の声と、使徒たちの証言とを、欺瞞と見分けることができるのだ！ あなたがたは、偽りの罠に陥ることのないよう、また、この闘争の時代、そしてこれから訪れる時代の強者となるよう、警戒して生きなければならない。なぜなら、私の教えに忠実であり続ける私の弟子たちのグループは、自らを汚すこともなければ、霊的な清らかさの旗を見捨てる兵士となることもないからだ。 真理は彼らの中にあり、わたしは他の諸国民に自らを現し、彼らに語りかけ、こう告げるであろう。「これはわたしの業であり、これらはわたしの弟子たちである。」そして、わたしの使者が誰であるかを世界に示す最良の証しは、大いなる試練において、偽り者たちが に倒れ、忠実な者たちが揺るぎなく立ち続けることにある。 偽りの者たちは苦痛に直面してののしるが、忠実な者たちはわたしを祝福するだろう。偽りの者たちはわたしの律法に背を向けるが、忠実な者たちは常にそれに固く従うだろう。

37. わたしは、あなたがた全員がわたしの忠実な証人であり、愛する弟子となることを望んでおり、そのためにあなたがたを準備している。しかし、今日の教えを締めくくる前に、あなたがたにとって驚くべきことではないはずのことを一つ告げておこう。わたしは教えの中で、「召された者」や「選ばれた者」について語ってきた。 私のように完全な父が、子供たちの間で好みや偏りを持つことがあると、あなたがたは思うか？　成熟した魂が、父が子供たちの一

部には贈り物を与え、他の者たちには相続分を与えないという事実を受け入れることができようか？

38. あなたがたが使命を果たし始め、諸国や最も遠い民族のもとへ、さらには原生林の奥深くにまで足を踏み入れるとき、人間たちに出会うでしょう。そして、あなたがたは彼らに、皆が兄弟であることを理解させ、私の霊的な教えを証ししなければならないのです。そうすれば、あなたがたは、私が与える愛の証しに驚嘆することになるでしょう。

39. 文明から隔絶され、かつ人間の堕落からも極めて遠く離れたその地の人々のなかで、あなたがたは、イスラエルの民の数を増やすことになる偉大な魂たちを見出すでしょう。

40. 病める者たちは、あなたがたの道において癒しの香油を受け、癒やされるであろう。悲しむ者たちは、最後にもう一度泣くであろうが、その涙は喜びの涙となるであろう。 あなたがたが示すべきそれらのしるしを目の当たりにして、人々の群れは主とその弟子たちを祝福し、あなたがたは、かつてあなたがたの師がエルサレムに入城したあの日のように、歓呼に包まれるだろう。しかし、あなたがたを歓呼する人々の間にも、あなたがたが持つ霊の賜物に満ちた男女がいるだろう。 ある者たちの預言の賜物には、あなたがたは驚嘆するだろう。またある者たちには、わたしの癒しの香油が尽きることなく注がれるだろう。さらに別の者たちからは、わたしの言葉が水晶のように澄んだ水のように湧き出るだろう。こうして、あなたがたは兄弟姉妹たちの間で、尽きることのない種まきのように、聖霊の賜物が現れるのを見るだろう。

41. そうして、あなたがたは、自分たちが唯一の存在ではないこと、ただ神の代弁者であり、人類を目覚めさせ、人間の魂には尽きることのない能力の宝が秘められていること、そして私が彼らの主であり父として、その賜物を彼らに授けたことを伝える使命を帯びた者たちに過ぎないことを悟るでしょう。 あなたがたは、、神の愛の正義の前では皆等しく、霊と真理において皆が等しく恵みを与えられていることを発見するでしょう。そうして初めて、人々は自らの存在の神秘を自分自身の内面で解き明かそうとし、内面へと深く入り込み、自らの魂を認識するようになるでしょう。その後、彼らは無限なるものへと顔を向け、自分たちが理解し得ないすべてのことを問い求めるようになるでしょう。

42. あなたがたが彼らに教えることのできることはすべて、彼らに知らせるべきである。そして、その知識があなたがたの父に属するため、あなたがたが彼らに説明できないことについては、私があ

なたがたを通じてそれを彼らに啓示できるよう、準備を整えておくべきである。しかしその前に、あなたがたは自らの使命を認識しなければならない。

私があなた方を「イスラエルの民」と呼んでいるとはいえ、やがて、すべての者が――それぞれの賜物を開花させることによって――私の前、すなわち彼らの主の前で等しくなり、ついには一つの民、すなわち神の民を形成する日が来るであろう。

43. 私の教えの説教が終わるとき、私の御前で活力を得ているあの世から、あなたがたの魂は、平和の霊的な軍勢と共に、愛の感情、平和と思いやりの思いを、自らの魂のための光を完全には得ることができなかったこの人類へと降り注ぐだろう。 しかし、父は初めからすでにすべてを与えてくださっているのに、*あなたがた*は父に何を願うことができるだろうか。あなたがたの魂が、その権利を得た実を受け取れるようにするのは、あなたがたの精神である。

44. あなたがたが闘いの道を歩むときはいつでも、その道には、あなたがたが必要とするすべてのものがすでに用意されている。あなたがたは、わたしの愛にふさわしい者となるための功徳を積むだけでよい。

45. なぜ私はこのようにあなたたちに語るのか、わが子らよ？ それは、私があなたたちを愛しているからであり、あなたたちの苦しみを喜んでいるわけではないからだ。父は、あなたたちの顔に、常に平和の霊的な微笑みを見たいと願っている。

46. わたしはあなたがたを祝福し、もう一度言います。わたしの普遍的な平和のふさわしい使者となりなさい！

私の平和が、あなた方とともにありますように！

教え 312

1. 師は、その約束を果たすため、再びあなたがたの中にいます。師は、民への愛の贈り物として残すことになるその書物の、もう一ページをあなたがたに託そうとしています――愛する弟子たちよ、この一ページは、将来の世代によって読まれ、研究され、理解されることになるでしょう。

2. 私以外に、あなたがたが「第三の時代」に生きていることを明らかにできた者が誰がいようか。私以外に、あなたがたがイスラエルの民であると告げることができた者が誰がいようか。あなたがたはこれを知っており、信じている。それは私があなたがたに教えたからである。あなたがたは霊において、これであり、あれであり、また同じ者たちであり、私はあなたがたをひとつの家族として結び合わせたいと願っている。

3. あなたがたの家族を創り出したのは私であり、私はさまざまな部族の魂たちを、一つの家の中に配した。 一つの同じ家族の中には、レビ族、シメオン族、ルベン族、ユダ族の魂――さまざまな部族の成員たちがいます。そして、彼らの間に平和が満ち、互いに愛し合うとき、真実と霊において、父の切なる願い、すなわちすべての人々の統一が、結晶化し始めるのです。

4. イスラエルの家々、家族たちよ。あなたがたの真ん中で誘惑が感じられるときはいつでも、人里離れた場所へ行き、わたしを呼び求め、こう言いなさい。「師よ、来てください。私たちにあなたの力を与え、あなたの剣を与えてください。父として私が自分の子供たちを見誤ることのないように、夫として私が妻を見誤ることのないように、あるいは妻として私が夫を見誤ることのないようにしてください。」私はあなたがたの祈りを聞き、あなたがたを守り、助けを与えるでしょう。なぜなら、これが私の御心だからです。

5. 今日、私は私の民のもとへやって来て、この第三の時代にあなたがたを集うよう呼びかける大きな鐘を鳴らした。人類は再び、イスラエルの民を構成する団結した部族たちを霊的に目にするだろう。

6. すでに第一の時代において、私はあなたがたに多くの恵みを授けた。その時代の諸国や諸民族には、ソロモンほど偉大な賢者も、私の預言者たちほど啓発に満ちた使者も、イスラエルの女性たちほど美しく貞淑な女性も、また私の民ほど完全な男性もいなかった。私は彼らの間に、知恵と霊感と美という賜物を生じさせた。 私は聖霊の賜物が花開くように導き、当時、あなたがたは自分たちが神の

選民であることを知っていた――あなたがたの主があなたがたと共にいて、あなたがたを慈しんでおられることを知っていた――私があなたがたの力強い英雄であることを知っていた。それにもかかわらず、あなたがたは私の賜物、私の慈しみ、そして私の臨在に慣れてしまった。 それゆえ、父の正義があなたがたの上に下ったのである。

7.「御霊によるイスラエルの部族」は極めて数多い。そのそれぞれから、私は一万二千人を選び出し、彼らの額に印を付ける。しかし、「イスラエルの民」は14万4千人に限定されるものではない。選ばれた民は計り知れないほど大きい。

8. 師は第二の時代に、召された者は多くても選ばれた者は少ないと教えた。しかし、「イスラエルの民」全体が召され、私はその中から14万4千人に印を刻む。私はすべての人に、平安と霊性、そして霊と霊との対話の始まりを授ける。

9. 人々が魂をより重要視し、苦痛や失望、無気力に陥らせる物質主義的な科学に幻滅する時が近づいている。 しかしその時、イスラエルの民が現れ、眠っている者たちを揺り起こし、倒れた者たちを立ち上がらせ、「死者」たちを蘇らせるだろう。それは、ラザロに向かって「起き上がって、歩きなさい」と語ったイエスの御声が行ったのと同じことである。

人々が一度霊的な境地に至り、その知性と感情が高揚すれば、彼らは科学を通じて決して知ることのなかったことを知るようになるでしょう。そうして彼らは、調和と兄弟愛、そして高潔な思いをもって立ち上がり、私が人々に啓示した王国の中で生きるようになるのです。

10. あなたがたの父の家には多くの「住まい」があり、それらは完全性へと至る梯子の無限の段である。そこから「霊界」は降りてきて、あなたがたの間でその存在を明らかにするのだ。 あなたがたは、精神から精神へと、数えきれないほど多くの星や、あなたがたの世界の上に輝いている惑星が存在する理由について、何度も私に尋ねてきた。「師よ、それらの世界は空っぽなのでしょうか？」と。しかし、私はあなたがたに告げる。私がそれを完全に明らかにする時は、まだ来ていないのだ。 人間が霊性を獲得して初めて、大きな啓示が与えられ、私の神性を持つ愛すべき存在たちと霊から霊へと対話を交わすことができるようになり、その時、すべての兄弟たちの間で思想の交流が行われるようになるのです。

11. しかし、あなたがたは今日、すでに知っておくべきである。すべての世界は私の被造物によって住まわれており、空っぽなもの

は何一つなく、すべてが祝福された領域であり、神聖な優しさの体現であるマリアによって守られた楽園なのである。

12. 聖霊は、あなたがたの口を通して、あなたがたにも人類にも未知の高き教えを再び伝えるであろう。それはいつのことか、愛する民よ？ それは、あなたがたの中に霊性が支配し、使命への献身が満ちた時である。

13. 私は、人間が霊的に養われているパンが、私の食卓のパンではないことを見ている。 すべては時の経過とともに穢され、すべてが汚れてしまい、人の心と手を不浄なままにしてしまった。しかし、私はあなた方のところへやって来たのだ、民よ。そして、あなた方のような罪深い肉体を通して自らを現し、 の核心において、偽りのない純粋な言葉をあなた方に授けるためである。 しかし、私の言葉や啓示を表面的に判断してはならない。そこには人間の不完全さが多く含まれているからだ。私の啓示の真意を探し求めよ。そうすれば、あなたがたは主の愛に満ちた御顔を見出し、あなたがたの魂が今も覚えているその声の響きを聞くことになるだろう。

14. あなたがたが模範とすべき「第二の時代の使徒たち」は、聖霊が彼らの霊に降りてくるよう切に願い求め、その霊感のもとで語った。同様に、民よ、あなたも備えなさい。なぜなら、聖霊の霊感のもとでは、霊は肉体を通して語ることができるからである。

15. それゆえ、自らを戒めよ――知性が穢されないよう、警戒し続けよ。心を清く保ち、わたしがあなたがたに送る恵みの露――すなわち、世界の渇きを癒やすために、あなたがた自身の存在の泉に蓄えられなければならない、水晶のように澄んだ水――を受け取れるようにせよ。

16. 愛する民よ、人々の裁きを恐れるな。もしあなたがたが過ちによってそれに値することになったとしても、神の裁きを恐れよ。

17. あなたがたがわたしの御言葉を聞く、ここのような質素な場所に集まることを、決して恥じてはならない。

18. もし、この集いの場があなたがたの神殿であるかと尋ねられたなら、そうではないと、真実をありのままに答えなさい。あなたがたは今、魂の中に神殿を築き上げているのだ。

19. ある者たちは、あなたがたの啓示に驚嘆し、またある者たちは、あなたがたの言葉を嘲笑するだろう。

20. 周囲の人々の嘲笑に心を傷つけられてはならない。なぜなら、そうする者は無知ゆえに真理を見極めることができないのだと、あなたがたは知っているからだ。その埋め合わせは、あなたがたを

探求するために訪れ、そして私の真の弟子たち一人ひとりに満ち溢れている内なる平安に驚嘆する人々の中に見出すだろう。

21. それに対し、あなたがたは、宗教的狂信によって偶像崇拝者となっている者たちを決して嘲笑してはならない。なぜなら、たとえ彼らが物質的な形の中でわたしを探し求めているとしても、その形の中でわたしを崇拝しているのだから。あなたがたは、人々の誤りを正すために、その誤りを指摘する必要はない。むしろ、そうすることで彼らの怒りを買い、その狂信をさらに強めてしまうだけである。 あなたがたの隣人の誤りを真理の光の下にさらすためには、私の教えが求める霊性をもってそれを実践することに十分である。

22. 人類が、私の言葉の霊的な真髄を早急に認識し、それに対して真の崇敬の念を抱くことを学び、また、あらゆる人間を、神における霊的かつ地上の兄弟として認識できるようになることを望むならば、あなたがたは多くの忍耐と、大きな慈悲、そして真の愛を注がなければならない。

23. あなたがたは、霊的な兄弟姉妹にすぎない、と誰が言ったのか。確かに、あなたがたは今、すべてが私から生まれたものである以上、霊的な起源が肉体的な起源でもあるということを理解しようと頭を悩ませていることだろう。さらに、この地上において、全人類はただ一人の父とただ一人の母から生まれたものであることを、私はあなたがたに思い出させておく。

24. それなのに、なぜあなたがたは、霊的な絆が永遠であり、人間的な絆もこれほど深いにもかかわらず、互いを兄弟姉妹として愛し、認め合わないのか。まことに、あなたがたに告げる。これは、人々が宗教を持っているにもかかわらず、霊的な知識が欠けているがゆえである。

25. 人々が、霊から発せられる光に導かれ、その光が人間の脳と心を照らすことによって、内省を通じて自らの本質を発見するその日、人々の間に平和が芽生え始めるだろう。 また、私はあなたがたに告げる。ひとたび人が霊的な光に目覚めれば、真実をたゆまず探求するその道のりを妨げるもの、あるいは人は誰一人として存在しなくなるだろう。多くの苦しみと多くの涙の末に手に入れたその霊的な自由を、人は二度と失うことはないだろう。

26. 諸民族が目覚め、人々が闇から解放されるために、私が全世界で声の媒体を通じて自らを現す必要はない。私が全世界に聞こえるまで御言葉を強めなければならないと考える者たちは、誤っている。 なぜなら、それは、人々の魂に私のメッセージを届けるために、私が利用できる唯一の手段が人間の脳だけであるということを意

味するからである。しかし、今、私はあなたがたに、神の御霊がすべての「肉」とすべての霊に注がれる時が来る、と啓示されたあの古の預言の真実を証明しよう。

27. まことに、わたしがあなたがたに告げる。預言者によって予告されたその時代は、まさにあなたがたが生きているこの時代、すなわち、あなたがたが「第三の時代」として知っている、今まさに始まろうとしているこの時代そのものである。

28. この民の功績は、この神聖なメッセージを心から心へ、地方から地方へと伝え、この新しい夜明けの光によって目覚めた者たちが、 私の恵みの露によって大地が肥沃になったとき、その心の中に私の言葉の種を受け入れるようにすることにある。

29. あの「第二の時代」において、私はただ一つの民にのみ御声を聞かせ、世界に私の御言葉を伝えるために費やしたのは、わずか三年に過ぎなかった。

30. わたしはあなたがたに種をもたらし、弟子たちにそれをどのように蒔くべきかを教えた。彼らがわたしから学んだ後、わたしは広大な畑を彼らに託し、それを耕すようにした。

あの種蒔き人たちの功績は、書かれているよりも長く師が彼らのそばに留まるよう迫ったり、この種を知るべき民や国がまだ多くあると言って異議を唱えたりしなかったことにある。 彼らは、師から真理を受け継いでおり、その真理さえあれば、闇を打ち破り、世界を改心させ、その神聖な種がすべての人類の世代にわたって永続するようにすることができると知っていたのである。

31. あなたがたが時折抱く誤った考えをすべて心から取り除き、私が啓示を始めた当初からあなたがたに明らかにしてきたことだけに留まりなさい。なぜなら、私の言葉の一つひとつが律法であり、あらゆる律法は守られなければならないことを、あなたがたは知っているからだ。

32. 愛する民よ。あなたがたは、この第三の時代にわたしの弟子であるという考えに、心を満たされている。しかし、私はあなたがたに告げる。決して虚栄心に惑わされてはならない。もしあなたがたがこの弱さに屈すれば、良心が過ちを指摘しても、もはやその声に耳を傾けることはできなくなるだろう。 人間としての生活を清め、高潔なものにしようと始めない者は、霊的に向上することを期待することはできません。なぜなら、その歩みは誤った方向へと導かれ、その行いには真理の種が宿らないからです。

33. ですから、私が教えの中で、あなたがたが人間としての生活において正しく振る舞えるよう、時には霊的な教えから助言へと踏

み込むことがあることを心に留めておきなさい。その際、私は人の心に語りかけ、心を新たにするよう促し、悪癖が体に及ぼす害や、魂に与える悪影響を悟らせるのである。 私は、悪癖に支配されてしまった人間は、精神を決して打ち負かしてはならないということを忘れてしまった――真の強さとは、美徳によって悪を克服することにあるということを忘れてしまったのだ、とあなたがたに語った。

34. 肉欲に打ち負かされたその人は、自らを貶め、自尊心を踏みにじり、人間としての高貴な地位 から、戦う勇気さえ持たない哀れな存在へと堕ちてしまった。

35. その男は、家庭に光やパン、ワインをもたらす代わりに、闇と苦しみ、そして死をもたらし、自分自身と妻、そして子供たちの十字架を重くし、周囲のすべての人々の魂の成長の道を阻んでいる。

36. 私は、心の中に清らかさを保つ術を知らず、また人生の伴侶や子供たちに優しさと理解の温もりを与えることさえできなかった、女性、母、そして妻の心に語りかけた。

37. 男女が、まず人間生活の中に存在する重大な過ちを正さなければ、どうして魂の生活を高めることができるだろうか。

38. 私の業は、弟子たちが、生活における行動の誠実さと真実さを通じて、それを証しすることを求めている。

39. どちらの人々にも、私は問う。あなた方には子供がいるか？ならば、彼らに憐れみを持て。たとえ一瞬でも彼らの魂を垣間見ることができたなら、あなたは彼らの親を名乗るに値しないと感じるだろう。彼らに悪い手本を見せてはならない。子供たちの面前で怒鳴り散らすことには、細心の注意を払え。

40. 私は、この時代、かつてないほど夫婦間の問題が生じていることを知っている――当事者たちがその解決策として見出すのは、別居や離婚という 一つの道だけである。

41. もし人間が霊的な知識を十分に持っていれば、これほど重大な過ちを犯すことはないだろう。なぜなら、祈りと霊性の高まりの中で、最も困難な状況の解決や、最も厳しい試練を乗り越えるためのインスピレーションを見出すことができるからだ。

42. 私の光は、悲しみに打ちひしがれ、落ち込んでいる人々の心にも届き、彼らに新たな生きる勇気を与える。

43. 私の力は弱き者たちに与えられ、彼らがすぐに立ち直れるようにする――知識と徳と霊性によって、暗く空虚な存在を輝かしい人生へと変えるという、鉄の意志をもって。

44. 弟子たちよ、私はあなたがた全員が、自らの行いをもって説教することを望む。偽りを装わず、真実を声高に唱えながらその反対の行いをすることのないように。そうすれば、あなたがたが収穫する実が、苦いものではなく、味わい深いものとなるだろう。

45. 民よ、それゆえ、まずこの地上の生活にふさわしい生き方をしなければ、その後、わたしの業において充実を見出すことはできないということを、決して忘れてはならない。

46. この世での苦しみを嘆き続ける前に、ひとまず立ち止まって、ほんの少しの間、自分の悩みの原因が何なのかを突き止めるために考えてみてください。

47. あなたがたが、その痛みの原因を見つけ出し、治療法を施せるようになるまで探し求めることには、私は賛成である。なぜなら、その痛みがあなたがたの家庭に侵入するのを防ぐのは、あなたがた自身の責任だからである。 私は、あなたがたを苦しめるすべてのものの原因を見つけ出すだけでなく、同時にその苦しみを癒やす方法も明らかにされることを保証します。祈りと瞑想の真髄を理解した者たちの上に、私の慈悲が降り注ぎ、その慈悲はあなたがたの魂と肉体にとって、まるで癒しの香油のようになるでしょう。

48. 私は、約束された慰め主が、あなたがたの涙をぬぐい、その痛みを平安へと変えるために、あなたがたのところに来られたことを、あなたがたに証明して差し上げます。

49. 心に隠された苦しみを抱えている者たちよ、皆、私のところに来なさい。あなたがたは、裏切りによって与えられた痛みを密かに抱えており、深く傷つけたのが非常に愛していた存在であったため、その苦々しさは極めて大きいのです。

50. 心の中で静まりなさい。そうすれば、祈りがあなた方を照らし、かつてあなたがた自身が裏切られた原因となっていたのではないか、と気づくことができるでしょう。そうすれば、祈りは、あなたがたの愛や信仰、信頼を裏切った者たちを赦さなければならない、という思いを強めてくれるでしょう。

51. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたを傷つけた者を赦すその瞬間、あなたがたは私の平安を完全に感じるだろう。なぜなら、その瞬間、あなたがたの霊は私の霊と一つとなり、私はあなたがたを赦し、二人を私の愛で包み込むために、私のマントを広げることになるからだ。

52. わたしは、あなたがたを戦いの時へと備えさせる。それゆえ、今日のあなたがたの苦しみが実を結ばないなどとは決して思って

はならない。民よ、どうしたいのか。あなたがたには、今なお、痛みこそが教訓を与えるものである必要があるのだ。

53. あなたがたの魂のためのこの試練と教訓の時は過ぎ去るだろうが、それは私の弟子一人ひとりの心に、信仰、経験、知恵、そして強さの種を残していく。その後、あなたがたが迫害され、中傷され、嘲笑される闘争の時代が訪れるだろう――それは、 友人と呼ぶ者たちからでさえもだ。 しかし、驚くべきことに、裏切りを前にしてもあなたがたは臆することはなく、もはや誰もあなたがたを失望させることはできなくなるだろう。なぜなら、あなたがたは許すことを学び、隣人に対して理解と寛容を持つことを学んだからである。

54. 私は、弟子たちが許すたびに彼らを祝福し、また、あなた方から許された者たちを祝福で満たすであろう。

55. あなたがたは、この世で一人きりではない。あなたがたの周囲には、数え切れないほど多くの存在が漂っており、人生のあらゆる歩みにおいて、あなたがたを支え、インスピレーションを与えてくれる。

56. この霊的な影響と光を受け入れるためには、祈ることが必要です。そうしてこそ、高次の存在たちの助けを常に受ける資格を得ることができるのです。

57. 霊的な影響に敏感でありなさい。そうすれば、その道を歩む上でつまずく理由はもうなくなるでしょう。

58. あなたがたの目の前に広がる道は狭いものであり、その境界を越えないよう、目を覚まし、祈り続けることが必要である。私はその道の上で常にあなたがたに出会いたいと願っている。なぜなら、この道をたどって私のもとに来る者たちは、真に悪徳や偽りから解放されているからである。

59. あなたがたは、目に見えない訪問や、霊的な光の存在たちの影響を喜びたいと願うか。また、物質主義と誤りの影の中に安住する者たちからも解放されたいと願うか。それならば、私はあなたがたに告げる。その秘訣は、穏やかで質素な生活を送り、愛をもって生き、あなたがたの家庭で徳の種を育むことにあるのだ。

60. わたしの祝福はすべての人々に降り注いでいる。しかし、それを受け入れ、その恩恵を享受できる者たちがいる一方で、それを拒み、それに含まれるすべての恵みを自ら奪ってしまう者たちもいる。

61. 私が語ったあの霊的な大軍もまた、私があなたがたに送る祝福の一部である。私の使者と僕たちは、神聖な啓示を受けたその瞬

間、この地球――人間によって涙の谷へと変えられてしまったこの惑星――に住む兄弟姉妹たちを助けようと急いでいる。

62. 私の教えのみが、あなた方を霊界と結びつけ、互いに近づけることができる。それは、主のすべての子供たちにふさわしいことである。彼らは霊を宿しているゆえに、互いに分離されることはなく、また、物質が、この地上に住む者たちと霊界にいる者たちの間に障壁となることを許してはならないのである。

63. 私の言葉が、他者の苦しみに真に心を動かされるようになるまで、引き続きあなたがたの心を磨き続けることを許しなさい。

64. あなたがたの心の琴線が高感性になるまでは、霊的な使命を完全に果たすことは決してできないだろう。

65. 準備の過程で立ち止まることなく、過ぎゆく一秒ごとに、この人類、すなわちあなたがたの姉妹が放つ苦痛の叫びが響いていることを心に留めておきなさい。

66. あなたがたが初めてわたしの御言葉の集いに来たとき、あなたがたは苦しみや嘆きの重荷をわたしに打ち明け、多くの涙を流した。それは、この地上には自分たちほど苦しんでいる者はいないと信じていたからである。その理由は、あなたがたの心が自分自身のことにしか目を向けておらず、他者のいかなる苦難や苦しみに対しても目を閉ざしていたからである。 真実と光の永遠の源であるわたしの御言葉を聞くことが、あなた方の目に覆いかぶさっていた暗闇の覆いを払い落とし、現実を見通せるようにするために必要だったのだ。 しかし、真実を言えば、あなたがたの苦しみは、たとえ大きなものであったとしても、敵意や権力争い、そして人々の復讐心によって引き起こされた戦争の荒廃に見舞われた、この地の他の民族たちを見始めたとき、小さなものに思えたのです。そして、あなたがたは恥じ入って頭を垂れ、私にこう言いました。「主よ、私をお赦しください。」 今日、私は悟りました。心の痛みが激しくなった時、私はあなたを冒涜し始めてしまったのです。私の苦しみは他の人々のそれに比べれば比べものにならないほど小さかったのですから、感謝すべきだったのに。しかし、あなたに対して不義を行わせてしまったのは、私の無知によるものでした。 今日、私は自分の過ちに気づきました。私のすべての冒涜を赦してくださるようお願いするとともに、私が自分自身のために求めたすべてのものを、私が背負っていたものよりも計り知れないほど重い重荷を背負っている人々に、どうか今、授けてくださるよう切に願います。」

67. あなたがたが、この言葉を聞く前に用いていた祈りの仕方と比べれば、今日のあなたがたの祈りの仕方はどれほど異なることか

！なぜだろうか。それは、あなたがたの感じ方や、神の教えを解釈する仕方が変わったからである。

68. さて、弟子たちよ、私はあなたがたに告げる。真の慈悲を実践するためには、今日まであなたがたが行ってきたように、単に同情を感じるだけで十分だと、立ち止まったり、自分に言い聞かせたりしてはならない。いいえ、民よ、清め、感性を研ぎ澄まさなければならないことがまだ多くあるのだ。 雑草のように駆除しなければならない利己心が、まだ多く残っている。魂の温もりに変えなければならない冷たさが、まだ多く残っている。そうして初めて、あなたの魂の中に、愛という感情が湧き上がってくるのだ。その愛こそが、 、同情、慈悲、そしてあらゆる高貴で崇高な感情が湧き出る源なのである。

69. そうして初めて、あなた方は、今日ではまだ自分には荷が重いと感じているような仕事や課題に取り組むことができるようになるでしょう。なぜなら、真の愛から生まれるその力が、まだあなた方に欠けているからです。

70. さあ、民よ。あなたがたは、魂がこの霊感によって照らされ、心がこの理想で満たされる時が来るのを、ただ手をこまねいて待つべきだと考えているのか。私の言葉を聞くだけで、心の琴線に十分な感性を呼び起こせると信じているのか。いいえ、民よ。 私の教えに耳を傾けるのと同時に、苦しむ人々に寄り添い、その痛みに触れ、同胞の苦難の杯を味わい、自らの五感で、悲惨さ、孤児となった者たちの悲しみ、忌まわしい悪徳、 恐怖に満ちた病、混乱した精神を覆う闇、飢え、渇き、そして魂の再生を、自らの五感で直接体験しなければならないのだ。

71. そうして初めて、人生で多くの苦しみを味わっている人々の導き手となることができるのだ。 なぜなら、もしあなたがたがただ私の言葉を学び、祈りによって準備をするだけであるならば、現実に立ち向かい、慰め、改心させ、癒やすという意図を持って臨んだとき、あなたがたは、想像も及ばないような苦しみを味わった人々に対して、自分たちがいかに無力であるかを悲しみに満ちて悟ることになるだろう。 むしろ、彼らが経験し、体験してきた苦難ゆえに、彼らこそがあなた方の師となり得るのだと気づくことになるでしょう。そうなれば、あなた方の口は閉ざされ、私の教えは、人々の苦しみを和らげ、彼らの中に私の正義、私の赦し、そして私の愛への信仰と希望を呼び覚ますには、十分に慰めとなり、力強いものではないのではないかと考えてしまうかもしれません。

72. あなたがたは、ますます備えを進めるために受けた教訓を、どこで実践することができるだろうか。 その機会は実に豊富に存在しており、もしあなたがたが観察する術を知っていれば、人生の一日として、慈悲を実践できる機会が少なくとも一つは訪れない日などないことに気づくでしょう。慈悲は、実に多様な形で実践されるものです。

73. 私がすべての人々に授けた直感という賜物によって、あなたは心の奥底に秘められた多くの事柄――あなたの隣人の地上の生活だけでなく、その魂にも関わる多くの悲劇――を発見することができるでしょう。

74. それらの心の奥深くに、傷つけたり、その秘密を冒涜したりすることなく、どのようにして入り込むことができるだろうか。 に隠された、同胞たちの人生を覆い隠すような苦しみを見出すにはどうすればよいのか？　私はすでにあなた方に語った通りである。直感――それは霊的な予知能力の一部であり、祈りを通じてあなた方の中で完全に開花すべきものである――が、同胞一人ひとりの痛みを和らげるための道筋を示してくれるのだ。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 313

1. 私は、あなたがたの知性に力を与え、私が今この瞬間にあなたがたに注ぎ出すすべてのものを受け止められるようにします。

2. 今こそ、偉大な証しと偉大な教えの時である。あなたがたの魂はこれを知っており、それゆえ、私の啓示に直面して、私の啓示と私の言葉を渇望して近づいてくるのである。 魂は、十分な準備があってこそ、これらの証しを真に活用できることを理解している。

3. これまで、人間の魂がこれほど広大な発展の場を見たことは一度もありませんでした。そして今、失ってしまい、再び見出すことのできない真理を渇望して、魂はその場へと急いで踏み込もうとしています。

4. もし私が、人々が探求するのを独りにしておけば、彼らは道に迷ってしまうだろう。 しかし、まことに、あなたがたに告げよう。彼らが破滅への道を歩んでいたときでさえ、私が彼らを見捨てなかったのだから——彼らが真理を求めている今、どうして私が彼らを見捨てるなどと思うことができるだろうか。それゆえ、私はこの時代にあなたがたの元へやって来て、まもなく人間の魂にとっての灯台であり道となるであろう、啓示に満ちたメッセージをもたらしたのだ。

5. まず、私は、私の神聖な啓示のもとに次第に集まってくるこの民のもとへやって来た。そして明日、この民が強くなり、教えることができるようになったとき、私はこの民を通じて他の諸国へと至るであろう。

6. この言葉があなた方にとって意味する責任を深く理解し、その十字架の甘き重荷を全身で感じなさい。

7. 民よ、あなたこそが、この第三の時代において、同胞たちの魂のために道を切り拓く宣教師である——魂を光と平和へと導く真理の道を。諸民族が互いに調和し、団結できるよう、人々の間に霊的な絆を築かなければならないのは、他ならぬあなたである。

8. 今日、あなたがたはわたしの言葉の影響下にあるにもかかわらず、穏やかな眠りについている。それは、この時代の重大さにも、また今まさに受け取っている使命の崇高さにも、まだ気づいていないからである。 しかし、あなたがたはいつまでも眠り続けるわけではない。まもなく嵐がやって来て、あなたがたが神のナイチンゲールのさえずりを何度もその木陰で聞いてきた、この「木々」の葉を揺さぶるだろう。しかし、ひとたび枝が揺さぶられ、幹がきしむのを見れば—— 葉や果実、巣が落ちていくのを見れば、そのとき初め

て、あなたがたは眠り続けていたことに気づくでしょう。それは、無限の彼方から、あなたがたが目を覚まして生き、決して痛みに襲われることのないよう、たゆまず語りかけていた警告の声を、聞きたくなかったからなのです。

9. 明日の嵐の轟音で目覚めるよりも、今、私の声に耳を傾けて目覚めたほうが、よほど良いのではないだろうか？

10. まもなく、あなたがたは私の言葉を聞くことができなくなるだろう。そして、私の教えの真の弟子としてあるべきようにその言葉を心に留めておかなければ、明日、涙を流さざるを得なくなるだろう。 しかし、その時には、あなたがたは「 」と、私が危険や迫害について語らなかったなどとは言えなくなるだろう。なぜなら、その時には、私が啓示の期間中、すべての伝道者の知性を用いて、絶えずあなたがたにこう語りかけていたことを、極めて鮮明に思い出すことになるからだ。「目を覚まし、祈りなさい。戦いは激しくなるから、その時には強くなければならない。」

11. わたしは、魂のための光に満ちた道、あらかじめ用意された道を残す。師として、わたしはあなたがたに対して自分の務めを果たす。しかしその後、この時期に霊的にわたしの食卓に着き、わたしの御言葉というパンを食べた者たちは、一人ひとりが、日々の霊的な務めとして託された課題の一つひとつについて、わたしに説明責任を果たさなければならない。

12. 私があなたがたに戦いの実を求めるその瞬間、あなたがたは私にどのような答えを喜んで与えたいと思うだろうか。後になって、あなたがたはそのような瞬間に、その時の答えが立派なものだったと願うことになるだろう。それゆえ、私はあなたがたに告げる。今この時から、あなたがたの魂がその道のりで貴重な実を結び、その瞬間を確信を持って待ち望めるように、そのための準備をしておきなさい。

13. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたの魂は、この決定的な瞬間を、取り返しのつかない形で経験することになる。それなのに、なぜ「魂が父にその収穫を捧げなければならないのは、結局のところこの人生*が終わってからである*」という考えで、その瞬間を先送りしようとするのか。

14. 私は、あなたがたが熟考し、この地上での期間に魂が果たすべき使命にふさわしい生き方ができるよう、時間を与えている。

15. 私が師として、あなたがたを公正かつ慈愛をもって扱い、あなたがたが達成すべき平安を得るためにあらゆる手段を用意していることを悟りなさい。

16. この地上から決して去りたくないと思う者たちがいるのと同様に、永遠にこの地を去ることを夢見る者たちもいる。どちらの者に対しても、私はこう告げる。その願いが叶うかどうかは、大部分が彼ら自身にかかっているのだ。

17. 霊界への帰還を切望する者が、地上の使命を全うして去るならば、その者はあの安息の地へと昇り、もはやこの世に戻る理由はなくなるだろう。 一方、物質的なものに強い愛着を感じる者であっても、他者のために善行を積むことで、自らの魂の益となるよう人生を活用することができれば、魂に喜びを感じながら、必要なだけ何度でもこの世に戻ることが許されるだろう。

しかし、人間としての生を離れ、霊的な生を切望する者がその使命を果たしていなかったり、永遠に地上に留まりたいと願う者が、人生が与える機会を活かす術を知らなかったりする場合、両者ともその願いは叶うことはないだろう。 前者は、この世に戻らざるを得ず、霊界を離れ、再び地上へと戻らなければならない——その繰り返しを、自らの使命を果たし、何度も拒んできた実りを収穫するまで、絶え間なく続けなければならない。 後者は、自らの精神に即して、これまで実現することなく置き去りにしてきた地上の使命を果たすという固い決意を心に抱くまで、霊界に留め置かれることになる。

18. あなたがたが、この世での生活に対する愛をわたしに示しても、わたしがそれを咎めるなどとは決して思わないでほしい。もしあなたがたの願いが高潔であり、わたしの名を称えるためにこの世での存在を望むのであれば、わたしはあなたがたを非難することはない。 しかし、もしあなたがたがこの世に根を下ろし、無意味な目標や卑しい情欲に従うのであれば、私は真っ先に、あなたがたにこう告げるだろう。私があなたがたの魂の進歩のために祝福を注ぎ続けたこの世に住むに値しない、と。

19. わたしを愛し、わたしの律法に従って生き、万物とすべての人々と調和していれば、あなたがたが住む場所は問題ではなくなります。なぜなら、唯一重要なのは、あなたがたの魂の向上であるからです。

20. あなたがたは、人間としての生活環境の中にありながら、この世のあらゆる誘惑を克服して魂を向上させていくことが、どれほど価値あることかを知らない。この功徳を得るために、私はあなたがたの魂が人間となることを許し、私が賢明に用意した物質界に住まわせたのである。

21. あらゆる世界、あらゆる存在の次元は、魂がその上で発展し、創造主へと一歩を踏み出し、そうして完全化への道を絶えず前進し続けることで、汚れなく、清らかで、整った姿で旅の終着点、すなわち魂の完全性の頂点――それはまさに神の御国に住むことそのものである――に到達する機会を得られるようにと、創造されたのである。

22. 結局のところ、「神の懐」に住むことが不可能だと感じる者は誰だろうか？ ああ、哀れな理性主義者たちよ、真に考えることを知らない者たちよ！あなたがたは、私の懐からこの世に現れたこと、つまり、それ以前からすでに私の懐の中に存在していたことを、もう忘れてしまったのか？生命の源から生まれたすべてのものが、やがてその源へと戻っていくことに、何ら不思議なことなどないではないか。 が私からこの世へと踏み出したとき、どの魂も処女のように清らかであった。しかしその後、多くの者がその道のりで汚れを背負ってしまった。それでも――すべてが私によって、賢明かつ慈愛に満ち、正義を重んじる方法で予見されていたため――私は直ちに、私の子供たちが歩まなければならない道において、彼らの救いと再生に必要なあらゆる手段を用意し始めたのである。

23. たとえその魂の純潔が多くの存在によって冒涜されたとしても、彼らがすべての過ちから清められ、それによって本来の清らかさを取り戻す日が来るだろう。その清めは、私の目には非常に称賛に値するものである。なぜなら、魂は信仰、愛、忠誠、そして忍耐に対する偉大かつ絶え間ない試練を経て、それを勝ち取ることになるからだ。

24. あなたがたは皆、労働と闘争と苦痛の道を歩んで、光の王国へと帰還するだろう。そこでは、もはや人間の体に転生する必要も、物質の世界で生きる必要もない。なぜなら、その時には、あなたがたの霊的な働きによって、ある存在の次元から別の次元へと、その影響力と光を送り、それを実感させることができるようになっているからだ。

25. なぜ、あなたがたは自らの魂の進歩を妨げ、それによって、魂が望むあらゆる素晴らしいものが存在する「光の王国」への入りを遅らせることで、魂を縛りつけているのか。

26. たとえ毎日ほんの少しでも、絶えず努力しなさい。常に、魂に真にふさわしい住まい――私が時折「約束の地」と呼ぶ、涙も流さず、苦しみもなく、死もないその故郷――にたどり着くことを念頭に置いて。

27. この教えは、霊魂を、この高揚と光に満ちた状態へと導く——その教えこそが、道であり、灯台であり、糧であり、杖なのである。

28. この言葉を聞き、思考の翼に乗って高みへと舞い上がる者すべてに、祝福あれ。なぜなら、その者が恍惚の状態から日々の生活の闘いへと戻ったとき、その内なる心に燃えるような光を宿すことになるからだ。その光は、一歩一歩その者を前進させ、あなたがた全員がそこから生まれ、そして皆が必ず戻らなければならないあの永遠の故郷へと近づけてくれるだろう。

29. 私は今、私の戒めに背くよりはむしろ命を捧げたいと願うすべての弟子たちに語りかけている。私の言葉を、あなたがたの心の最も繊細な琴線に響かせなさい。なぜなら、来るべき時代において、あなたがたはしばしばこの言葉に支えを求めることになるからだ。

30. もしあなたがたが、わたしの言葉の真意を真に守り続けるならば、わたしの霊的な啓示が終わることを嘆く者たちの一員となることはないだろう。なぜなら、あなたがたはわたしの啓示と教えを守り抜くことを知っていたからである。 あなたがたには、憂鬱も、悲しみも、反抗も、動揺も生じない。なぜなら、あなたがたは、私の約束のすべてが成就するのを見届けるからであり、一瞬たりとも、反抗したり、私の御心の成就に逆らいたいという欲求を抱くことはないからだ。

31. 今日この時点で、霊性へのこの一歩を揺るぎない決意をもって踏み出す者は皆、まもなく報いを受け、自分の周囲や内面に私の臨在を感じ、私の霊感に喜びを見出し、あらゆる霊的賜物の進歩が明らかになることを、十分に認識しておきなさい。それは単に「私があなたがたのそばにいる」という信仰にとどまらず、あなたがたの霊の中に私の臨在が現実として存在するということである。

32. 1950年以降、停滞に陥ったり、霊性を失ったりすると考えている者たちは、誤っている。なぜなら、まさに私の言葉が途絶えた後にこそ、あなたがたのうちの何人かは、私の教えにおける進歩と理解へと向けて、真の一歩を踏み出すことになるからだ。

33. もしあなたがたが、私の啓示の期間中に霊性の高みへと達したと信じ、それが私の言葉が知性の器官や、声を伝える者たちの唇の上で花開いた理由であったと考えるならば、あなたがたは大きな誤りに陥っている。 なぜなら、私は真実を尽くしてこう告げる。あなたがたはこれまで、私の愛に満ちた言葉によってすべての私の子

供たちに示されてきた目標である霊性へと、確固たる一歩も踏み出していないのだ。

34. あなたがたが霊性主義の本質を見出すためには、伝達者が姿を消し、あなたがたがもはやこれらの存在の唇から私の考えが人間的な形で語られるのを聞かなくなり、あらゆる儀式や象徴主義を捨て去ることが必要である。

35. 私はこれを、ある者たちにも、また別の者たちにも告げる——この時代に自らの魂の進歩と、私の教えの開花を切望する者たちにも、また、目に見える儀式を行うことで律法を履行していると考えている、伝統や習慣、風習を守る者たちにも。

36. そう、民よ、あなたがたはよく知っているはずだ。私が啓示したような、純粋で簡素、そして本質的に霊的な教えの中に、あなたがたは再び外的な儀式を作り出し、時が経つにつれて、それを私の業であると信じるようになってしまったのだ。 しかし、今こそ、私が絶対的な明瞭さをもってあなた方に語りかける時が 到来した。なぜなら、今やあなた方はこの真理を知るのに十分な強さを備えているからだ。

37. 私の言葉という小麦とともに、あなたがたの誤りというイラクサや雑草もまた育ってしまった。 しかし、ここで、第二の時代に私が語ったたとえの一つが成就することになる——それは、小麦が熟す前に雑草を抜き取ろうとせず、雑草を小麦と共に成長させるよう教えたものである。なぜなら、そうすることで、良い種まで引き抜いてしまう危険があるからだ。

38. 祝福された民よ、この時代に、このように起こるであろう。私の正義の鎌が降りてきて、私の種が蒔かれた畑を刈り取る時が定められている。それは、私の業の真理と本質があらゆる人間的な影響から切り離された後、あなたがたがついに私の光を仰ぎ見て喜び、この神聖な啓示の知識を自らのものとするためである。

39. また、その同じ鎌が、あらゆる宗教共同体の上に降りてきて、その畑を刈り取る時刻も定められている。その目的は、真理を、それらの共同体が抱えるあらゆる虚偽や不純なものから切り離すことにある。

40. 人間存在全体——その科学、思考や生き方、知識、成果、そして目標——は発展してきた。 しかし、人間は自らの霊的な側面、すなわち霊魂を疎かにしてきた。魂が絶え間ない侵害にさらされていることを理解しようとせず、人生において魂が持つあらゆる権利を顧みることもしなかった。それゆえ、人類は何世紀にもわたり、霊的な停滞の中に生きてきたのである。

41. 人々は、その宗教的儀式を通じて、自分の魂にどれほどわずかなものしか与えていないことか！　人間の魂は、どれほど渇き、どれほど飢え、そしてどれほど光への渇望を抱いていることか！

42. 彼らが育てた小麦はごくわずかであり、雑草はたくさん生い茂っている。しかし、私は、やがてあなたがたがこの世で輝きを放つのを目にするであろう、容赦なく正義をもたらす「真理の鎌」で畑を刈り取ることで、すべての人を救うのだ。

43. わが啓示の最後の年の教えを耳にする民よ。その教えが、あなたがたの知性という器官と心の最も繊細で、最も感受性豊かな部分に深く刻み込まれるようにしなさい。そうして、あなたがたの存在の至高の領域で輝いている霊の光が、一人ひとりの内に働きかけることができるように。

44. 私があなたがたに残す足跡は、平和で満ちたものとなる。そうすれば、あなたがたがこの言葉をもう聞くことができなくなり、その証しをなさなければならないとき、「師は去り、その神聖な光によって整えられた道を私たちに残してくださった」と言えるようになるだろう。

45. 私の足跡は、あなたがたの心の最も奥深く――内なる聖所がある場所に――刻み込まれるであろう。

46. あなたがたが私の言葉を徹底的に研究できるよう、私の言葉があなたがたの心に深く刻まれることが必要です。そうして初めて、あなたがたの信仰と魂の強さは真のものとなるのです。

47. 間もなく、多くの者が私の言葉の終焉を信じないことを、あなたがたは目の当たりにするだろう。しかし、まことに、あなたがたに告げる。それによって、私がこの姿で現れていた間、彼らが私の存在をも信じていなかったことが分かるだろう。 疑いと信仰の間を行き来していた者たち――たとえ私の啓示に対して絶対的な信仰を持っているように見せかけていたとしても――こそが、まさに私の言葉が終わったことを否定する者たちとなるだろう。なぜなら、私があなたがたに啓示し、命じたすべてのことを真に信じていた者たちは、私の言葉の一つでも無視することなどできないからだ。

48. 疑いを抱き、師に対する弟子の信仰がそうあるべき姿であるような完全な信仰を持っていなかった者たちは、自ら作り出した単調で定型的な儀式に依存することで、その道の途中で立ち止まってしまうだろう。

それに対して、現在わたしを信じている者たちは、わたしの言葉の啓示が終わった後も、必然的にわたしを信じ続けるだろう。彼らはわたしの指示に従順であり、わたしの教えを正しく解釈するため

に可能な限りのことを行うだろう。彼らには「霊化」という理想があり、常に彼らに寄り添う光、すなわち「信仰」を持つことになる。

49. 私の啓示の期間が過ぎ去った後、私はこの民の働きに目を留め、従順な弟子一人ひとりに報いるために、彼らに私の慈悲を授け、日々の務めを続けるよう励まし、霊的進歩に向けた新たな一歩を踏み出すよう促すであろう。 私は、この民の中に、単に私の言葉を信じるだけでなく、父がこの形で啓示に終止符を打ち、霊性への探求が始まるようにすることを、正しくかつ完全であると受け止めている者たちがいることを知っている。 こうした心を持つ者たちは、その時には見捨てられ感も空虚感も生じず、私の臨在がさらに強く感じられるようになるという確信を持っています。なぜなら、そのようにして、私の 神性との新たな形の交わりが近づき、より純粋で完全な段階へと至るからです。それは、霊から霊への対話となるからです。

50. あなたがたの同胞たちが、私の啓示について尋ねたり、私があなたがたに与えた私の真理の証拠についての証しを求めたりするために、あなたがたに近づいてくる時は、もはや遠くない。 しかし、人々が私の業を証しする方法は、どれほど異なることか。ある者たちは聞いた真理に厳格に従う一方で、他の者たちは自らの誤りを正当化するための論拠を探さざるを得なくなるだろう。

51. 愛する民よ、私がこのようにあなたに語りかけるのは、あなたがたが時宜を得て熟考し、自分の行い、思い、感情、言葉、そして計画について最も綿密な検証を行い、その際、この内省と検証を導くのがあなたたちの良心であるようにするためである。

52. この瞬間は、あなたがたが真理に満ちた目を開くために必要なものである。そうすれば、もし誤っていたとしても、まだ是正することができ、失われた時間を取り戻すことができるからだ。

53. わたしの教えを勝利へと導き、その純粋さと真実性を余すところなく広める者たちの満足感は、計り知れないものとなるだろう。しかし、あなたがたを深く愛する師として、わたしはすべての弟子がこの喜びを体験することを願っている。

54. 民よ、私の言葉に耳を傾けなさい。私は、あなたがたの霊性への歩みを報いるために、私の宝庫に多くの奇跡を蓄えている。 しかし、私は、あなたがた全員が兄弟姉妹として一つになるまで——あなたがた全員が私の指示に従順を示すようになるまで——待ち続け、それから、あなたがたの霊化の日のために私がとっておいた光

、慈悲、慰め、そして啓示の奔流を、あなたがたの魂と体に注ぎ出すつもりである。

55. 私のすべての代弁者を通じて伝えられるこの言葉は、これ以上明確になることはない。ひとたびすべての人々に理解されれば、私の正義は、より高い霊性を目指す者たちを見守る準備が整うと同時に、依然としてこの世に自分の王国を求める者たちの行いを裁く準備も整うであろう。

56. 人間が最初から自らの行動の指針を求めるようになったのは、誰の仕業か。人間が自らの存在の核心において、不滅の本質を求めるようになったのは、誰の仕業か。それは霊である。人間を活気づけ、啓発しているのは、より高次の性質であるということを、徐々に明らかにしたのは、他ならぬ霊であった。

57. 人間は――たとえ徐々にであっても――直感と啓示という賜物、そして自らの知性によって、その存在の最も初期の時代から、自らの起源、本質の中核、存在の理由、この世に留まる理由、そして創造された目的を探求するという課題に専心してきた。

58. 人間は、自分の中に他の被造物とは異なる能力があることに気づいて以来、創造されたすべての存在の中で、自分にはより高次の使命が与えられているという考えを抱くようになった。そして、次第に、その存在の奥底において、神の存在や魂の存在に関する直感的な知識が生まれ、それゆえ、 自分を生み出したと感ずる「あの方」に、崇拝や精神的な捧げ物を捧げたいという欲求が生まれたのである。

59. これが人類の精神的発展の起源であった――その発展は、すべての人間で同じではなかった。なぜなら、人種に分かれ、国籍や習慣、言語によって隔てられた人々の中で、ある者は他の者よりも速い進歩を遂げ、ある者は神に崇敬を捧げる特定の方法を持ち、またある者は異なる形式をとったからである。

60. わたしはすべての人類をわたしの光で照らし、それによって唯一存在する真理を彼らに明らかにした。しかし、あなたがたもご存じのように、一人ひとりの人間や民族ごとに、感じ方、考え方、信じ方、解釈の仕方が異なっている。

61. 人々のこうした多様な考え方が分裂を招いた。なぜなら、あらゆる民族や人種が異なる道を歩み、異なる理想を掲げているからである。

62. 大多数の人々は、神の律法を履行するには超人的な犠牲、放棄、そして努力が必要であると考え、光に満ちた真の道から遠ざかってしまった。そして、自分たちにとって律法の履行や礼拝の儀式

がより容易に守れるような、独自の宗教共同体や宗派を設立することを選んだのである。 このようにして、人々は自らの魂の中に感じる光と高みへの渇望を、鎮めることができると信じているのである。

63. 何世紀もの歳月、幾つもの時代が過ぎ去ったが、人々は、わたしの律法を全うすることが人間の犠牲ではないこと、それどころか、わたしの戒めを無視するとき、*彼らは*まさに世界の肉体と魂を犠牲にしていることに気づかなかった。 彼らは、私の の言葉に従って生きる者が、物質主義に囚われた人々がこれほど異なる形で想像している真の幸福、平和、知恵、そして栄光を見出すことになるという事実を、明確に認識しようともせず、理解しようともしなかった。

64. あなた方を囲む道徳的・科学的な世界は、唯物論的な理想を持つ人々――人類の物質的な向上のみを追求してきた人々――の業である。そして私は、彼らがその業を行い、それを限界まで推し進め、その結果を知り、その実を収穫することを許した。それは、彼らがそこから経験の光を引き出せるようにするためである。 その光の中で、わたしの正義が明らかにされ、その正義の中に、愛であるわたしの律法が現れるのである。

65. 人々が自らの過ちに気づき、真の道を求め始める時、それは彼らが目覚め、悔い改め、啓発されたがゆえに起こるものであり、その時には、彼らの行いは単なる人間的な目的だけでなく、霊的な目的も持つようになる。

66. あらゆる民族、あらゆる宗教共同体、宗派、学問、そして一人ひとりの人間は、真実の一部と同様に、誤りや過ちの一部もその内に抱えている。しかし、団結する必要性が、強大で抗いがたい力として彼らに迫る時が来るだろう。その時、誰もがすべての人と調和したいという願いを持って、自らの種を捧げるようになる。 その過程では、闘争や論争、混乱が生じざるを得ないだろう。しかし、それらは、すべての人々が、私の存在と私の律法という不変の真理という唯一の結論に到達するために必要なものである。

67. 闘争の終わりに、人々は――今や自分自身や隣人との間に平和を築いた状態で――、知識という目標に到達し、真の平和を体験するためには、創造主の愛からまさに生まれ出た神の法に従って生きることが不可欠であることを理解するだろう。 同時に、人々は、善と道徳を保つために、これほど多く、これほど多様な宗教を信奉する必要はないことを理解するだろう。むしろ、すべての人々の間で真の調和を成し遂げ、単なる人間的なものを超えた道徳を持つた

めには、 あなたがたが「キリストの教え」と呼ぶその言葉を心に抱き、それを完全に理解するために、謙虚かつ素朴に生き、愛することだけで十分である。

68. 私がこの時代にあなたがたに送った啓示の光は、全人類がそれを知り 、そしてあなたがたが人類の目覚めを助けることができるよう、私の伝達者や代弁者たちを通じて、平易で簡潔な言葉へと変えられた——今日、世界がますます混沌へと陥っていく中、誰もがその混沌から逃れるために地上の手段や解決策を模索しているこの時代において—— 今日、誰も、自らの問いへの答えや問題の解決策を私のもとに見出すために、霊的なインスピレーションを得ようとはしていないのです。

69. わたしの言葉は、宮殿にも質素な小屋にも届き、心の扉を叩き、魂を震わせ、肉体や魂に病める者を癒やし慰め、暗く曇った心を照らすであろう。

70. それを喜んで受け入れ、耳を傾け、その意味を深く考える者たちは幸いである。それは彼らの心の中で実り多い種となるからである。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 314

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. わたしは再びあなたがたの声を聞いた。あなたがたの祈りが一つになったことは、あなたがたがわたしに捧げてくれた最高の賛美の歌であった。

2. あなたがた一人ひとりから、愛の実が生まれ、それはあなたがたの父との調和の響きのようなものであり、あなたがたの思いが一つになることは、霊的な清らかさに満ちた協奏曲となる。

3. ある人々においては、この音が祈りであり、私から受けた恵みに対する感謝であることが私に見えます。

4. 他の人々においては、その思いは、道中で遭遇した不運に対する悲しみと苦悩に満ちている。しかし、これらの思いが一つに結ばれることによって、あなたがたは、わたしの神性に対する崇敬と敬意を表す信仰の行為を形作っているのだ。

5. これこそが、父が子らの霊に期待していた絆であり——これこそが、あなたがたが父に決して捧げようとしなかった愛の贈り物である。

6. しかし、私が常にあなたがたに教えてきた祈り——あなたがたは霊的な成長の欠如ゆえに、常にそれを捧げることができなかったが——こそが、あなたがたを導くものであり、その光の下で、あなたがたは今や、あなたがたの神との真の霊的な対話を成し遂げるであろう。

7. あなたがたが私の言葉の影響下にある限り、茨に満ちた道を歩むこの世は、あなたがたにとって消え去る。

8. 第七の日、あなたがたの肉体はこの世の苦難から休息し、あなたがたの魂は——ヒバリのように自由に——私の知恵の尽きることのない泉を渇望して、私の御前にやって来る。魂は私の啓示のもとへやって来て、私が御言葉を教える際に魂に差し伸べる愛の輝きによって力を得るのだ。

9. 私は、ある者には信仰を、別の者には不信仰を求めるわけではない。ある者には大きな功績を、別の者には小さな功績を求めるわけでもない。いいえ、民よ。私の神聖な愛は完全であり、私はすべての者の父である。そして、私があなた方に教えを授ける時、私はあなた方すべてに同じ本質、同じ愛を与えるのである。

10. もし人類全体が私の御言葉を聞くことになれば、ある者には祝福が、別の者には叱責が与えられるようなことはあり得ない。私の叱責は普遍的なものとなるか、あるいは私の祝福はすべての人に

及ぶことになるだろう。しかし今は、私が人間の知性を通じて御自身を現す時であり、すべての人がこの啓示を目撃するわけではない。

声の媒体を通じて私の教えを聞くよう定められた私の証人の数は、ごくわずかである。しかし、まことに、あなたがたに告げる。もしこれらの証人が備えをなすことを知れば、人類は彼らの口を通して私の言葉を聞くことになるだろう。なぜなら、聖霊が人間の知性を通じてあなたがたを教え導いたことを、すべての人が知るようになるからである。

11. それゆえ、私は父としてあなたがたを準備している。1950年以降、あなたがたが大衆のもとへ出向き、私の名において語らなければならないとき、真理である私の言葉が、不誠実や嘘と混ざることなく――まるで水晶のように澄んだ水の川のように、流れ出していくようにするためである。 なぜなら、この水の源である私の御霊は澄み切っているからであり、あなたがたの唇から出る言葉もまた、清くなければならないからだ。

12. わたしは、あなたがたが常に清くあり、人々の間でオアシスのようにあり、真理を渇望するすべての者がその渇きを癒やし、その水の中に泥の汚れを見出さないようにすることを望んでいる。

13. この教えの時期が終わったとき、あなたがたはわたしにこう言うだろう。「父よ、なぜあなたは私たちと一緒にいた時間がこんなに短かったのですか？なぜそんなに早く去ってしまったのですか？」しかし、わたしはこう答えるだろう。「第三の時代の弟子たちへのわたしの教えの期間は、永遠の時計によって定められていたのだ。そして、その教えの中で、あなたがたは過去の時代の教訓を理解し、それを引き継ぐことができるようになるのだ。」 私は、これとは異なる教えをあなた方に与えたわけではない。

14. 試練の瞬間にあなたがたが揺らぐことのないよう、私は最後の言葉に至るまで、私の指示をあなたがたに示さなければならない。あらゆる問いに対して答えを持ち、あらゆる疑いに対して一筋の光を持ち、あらゆる弱さに対して私の律法の力を持つこと、それが私の意志である。 そうすれば、あなたがたは使命を果たす上で勝利を収めることができ、その過程で、私が太古の昔からあなたがたに託してきた、最も美しく崇高な使命によって魂を活気づけることができるだろう。その使命とは、愛をもって救い、赦し、善を行うことである――それはあなたがた自身の利益のためではなく、あなたがたの父を喜ばせ、あなたがたの魂を完成させるためである。

15. その使命を実践することは、あなた方に平安をもたらすであろう。そして、愛の力によって強くなったとき、あなた方は、今日、裸で、飢え、病に苦しむこの人類に、善を行うことこそが、彼らの魂に神の平安という癒やしをもたらすのだと教えることになるだろう。

16. これが、人々がもはや科学にも、富にも、この世の感情の揺れ動きにも、魂にとっての至高の善である幸福と平安を見出せなくなったとき、あなたがたがわたしの名において人々に伝える教えとなるであろう。 その時、人々は自らの道の途中で、謙虚な兄弟、すなわち私の弟子であり使徒である者に遭遇するでしょう。その者は、自慢することなく、自らの使命を大々的に宣伝することなく、愛と真実の行いによって教えを説くのです。 そうして人々は、 という平和の秘義を発見し、私の王国から完全な平和を受け取るために、自らの心を清めることになるでしょう。なぜなら、人々の平和は、互いへの恐れによってしばしば失われてしまうからです。それは単なる見せかけの平和に過ぎず、不安そのものです。それゆえ、魂に安らぎは訪れないのです。

17. 弟子たちよ、戦いなさい。わが子らの心の中に、彼らがより良い世界、力強い世界で生きることができるような平和の王国を築き上げなさい——今日、彼らがわたしに示しているような、脆弱な世界ではなく。なぜなら、ほんのわずかな息吹や自然の力の揺らぎさえあれば、わたしは人間の虚栄と傲慢に満ちた業を破壊することができるからだ。 しかし、それはわが子らの業であり、私はそれを尊重する——その業が実を結ぶことを許そう。なぜなら、彼らはやがて自らの業に疲れ果て、私の愛の教えを受け入れるようになることを、私は知っているからだ。

18. わたしのすべての業は、愛と正義にその源を持つ。あなたがたが見るもの、知性によって認識しうるもの、たとえ最も小さな原子でさえも、愛と正義の道において生き、動いている。なぜなら、すべてのものはわたしによって創造されたものであり、わたしの霊には不誠実も、不完全さも存在しないからである。

19. 人間が私に示し、その人生と力と傲慢を捧げてきた多くの偉大な業の多くは、愛と正義をその源としていない。そして、この源を持たないあらゆる業は滅び去り、人間に残される果実としては、経験の光のみとなるだろう。

20. 人間は、研究を重ね、その傲慢の塔、すなわちバベルの塔を築き上げることによって、その新しい人生を科学の上に築き上げた。その塔からは、私に崇敬を捧げることもなければ、私を認めるこ

ともしない。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。人間は混乱に陥り、その混乱の中で自らの新たなバベルの塔を破壊することになる。その時、人類は、人間が「第一の時代」以来、虚栄とわたしに対する不信の塔を築き上げてきたことを悟るだろう。そして、過去においてこれがもたらした結果は、「第三の時代」において再び繰り返されることになる。

21. 唯物主義、傲慢、そして高慢は打ち砕かれ、人々の間に混乱が生じるだろう。

22. 学者たちは自らの学識に疑いを抱き、科学者たちは――目標を見つけたと思ったその時――測り知れない謎に直面することになる。自然の力は、愛をもって利用されてこなかったため、科学者たちに牙をむき、人々の間には混沌が支配することになる。

23. わたしこそが初めであり終わりであり、科学であり知識であることを思い起こせ。私は人々にこの光を与え、彼らがそれを善のために用いたとき、私が授けた賜物や能力を魂と知性の発展のために用いたとき、彼らの行いに喜びを見出した。その時、彼らは私に敬意を表し、私が彼らに託した使命を忠実に果たしたのだ。しかし、もし彼らがその賜物を、悪や虚栄、あるいは独裁への欲望のために用いたならば、彼らは私に背き、道を歪め、私を傷つけたことになる。だが、私の英知により、私は彼らを私の神聖な計画を実行するために用い、人類への教訓として、また私の正義の道具として用いたのである。

24. 果たして私は科学の敵なのだろうか？私は子供たちの進歩と発展の妨げなのだろうか？もし誰かがそう考えるとしたら、それは私の言葉を正しく解釈できず、父の真実を理解していないからに他ならない。なぜなら、人間に与えられたあらゆる賜物や能力は、発展しなければならないからだ。発展とは普遍的な法則だからである。

私の創造物すべては完全にならなければならない。あなたがたは皆、清く、完全で、何倍にも増して、私のもとへ戻らなければならない。しかし、私が一時的に人間の意志に介入したことがあるとすれば、それは、罪と人間の悪意には、私の正義という限界があるからだ。

25. 人類がこの試練の炉をくぐり抜け、真理の光が闇に打ち勝って輝き渡る時、その時――おお、愛する民よ――人々は堅固な土台の上に新たな塔を築き上げるだろう。それは神への感謝の神殿であり、平和の聖域となる。そこでは、私の存在をめぐる争いは決してなく、ただ一つの認識がすべての人々の認識となるのだ。そこには

、偶像崇拝も、秘密主義も、私の律法に対する欺瞞も存在しない。そうして人々は、この涙の谷において、私の助けを借りて、あらゆる美徳が花開き、あらゆる学問が完成される平和の世界を築き上げるだろう。 あらゆる制度の懐において、人々は「互いに愛し合いなさい」と告げる私の声を響き渡るのを感じるだろう。そして、調和のとれた生活の中で、人々は永遠の故郷の姿を認めることになる。

26. 人間は、その不完全さにもかかわらずこれほど多くのことを発見してきたのだ――もし彼らが目を覚まし、祈り、わたしに寄り添うようになったら、一体何が起こるだろうか。もし彼らが畏敬の念と謙虚さ、そして愛をもって、わたしの光と真理の源に近づいたら、何が起こるだろうか。聖霊は、その秘められた宝庫に留めておいたすべての啓示を、人々に注ぎ出すだろう。

そうなれば、科学者が頭を悩ませたり、書物を調べたりする必要はなくなる。なぜなら、その人の霊が、私という尽きることのない知恵の泉へと彼を導くからである。そこで彼は、彼を待ちわび、常に彼を待ち受け、新しく偉大な教訓を啓示するために、そこにいる私に出会うだろう。 こうして、私は人々を、啓示から啓示へ、住まいから住まいへ、完全さから完全さへと、永遠に至るまで導いていくのだ。

27. 私は、この来るべき時代に向けて、あなた方を備えさせている。あなた方全員が、これらの約束の成就の証人となり、あなた方全員が、主の交響曲において調和のとれた一音となるという幸いにあずかることになる。

あなたがたが私の律法に背いたとき、私が私の正義を明らかにするためにあなたがたを用いるのと同様に、あなたがたが私の戒めに従って生きる時にも、私はあなたがた自身を用いて、私の啓示と愛のメッセージをもってあなたがたに報いるであろう。

28. 今日、私は子供たちの心の中に聖所を築き上げている。しかし、この築き上げにおいて、私はあなたがた全員の助けに頼らなければならない。

29. 父よ、その聖所とは一体何のことですか、おお、民よ？――それは、あなたがたの魂の聖所である。なぜなら、この時代、私はそれが廃墟と化しているのを見ているからだ。しかし、私はその再建において、あなたがたを助けるつもりである。

30. 主の聖域は常に存在しており、始まりも終わりもなく、それは主ご自身の御業である。その神聖で無限なる御霊こそが、あなたがたがすべてが調和と完全さであるその聖域の中に身を置くことができるよう、あなたがたの準備を待っておられるのである。

31. 宇宙の計り知れない広大さの中で、ただの一粒の原子に過ぎないあなたがたの惑星には、その調和のとれた神殿の姿を映し出すという使命がある。

32. したがって、あなたがたがこの認識に到達したとき――それは単なる言葉や理論であってはならない。いや、弟子たちよ、それはあなたがたが感じ、生きることとなるものでなければならない――そうすれば、あなたがたはもはや石でできた教会を必要としなくなるだろう。 あなたの魂は、主をより深く知ることを妨げるような場所を、もはや渇望することはないでしょう。魂は自由を求め、私が託した祝福された恵みの中で、完全性へと至る階段を見出すことになるでしょう。

33. これは、人が私によって導かれ、見守られていると感じるようになったとき、自分の足元に汚れた塵などないことに気づいたときに起こるだろう。そうして初めて、人は自分の家が私にとっての小さな聖域であり、自分の世界は、創造の計り知れない広大さの中ではただの一原子に過ぎないものの、その全体として神の普遍的な聖域を体現していることを理解するだろう。

34. わが子らが完成へと至るすべての世界は、無限に広がる庭園のようだ。 今日、あなたがたはまだ繊細な若芽に過ぎませんが、私は約束します。私の教えという水晶のように澄んだ水が決して欠けることはなく、その水で潤されることで、あなたがたはますます知恵と愛を深めていくでしょう。そして、いつの日か永遠の彼方で、木々が完熟した実を豊かに実らせたとき、神聖な園丁は、自らの愛の実を味わうことで、その業に喜びを見出すことができるのです。

35. そうして、私はあなた方を準備し、弟子たちよ、あなた方の前に『命の書』を開くのです。それは、私を崇拝するために特定の場所を求める必要がなくなるため――つまり、野原であれ、谷間の草原であれ、山であれ、海辺であれ、あらゆる場所、あらゆる瞬間に私を感じられるようになるためです。 どこにあろうと、あなたがたがそこにいるだけで、その場所は聖なるものとなる。なぜなら、私はあなたがたの中にいるからだ。

36. 私がこのようにあなたがたに語り、教えを授けるのは、あなたがたが伝統的に抱いてきた偏狭な熱狂から解放するためであり、あなたがたの中に新たな偏狭な熱狂を生み出すためではない。

37. 私の教えは深遠であるにもかかわらず、単純かつ明快であることを悟りなさい。

38. あなたがたが教師となる前に、私はあなたがたを、私から学ぶ良き弟子として見たいと願っている。そうすれば、人々に惑わさ

れることなく、あらゆる質問に対して、確固たる態度と誠実さ、そして親切さと愛をもって答えることができるだろう。なぜなら、そのような言葉こそが、人々の心に最も深く響くからである。

39. 私はあなたがたに、多くの場合、知恵と愛に満ちた一言だけで魂を救うことができたと語った。その言葉は、永遠の炎の印のようにその魂の中に刻まれ、忘れられることはなかった。そして、その魂は、自らの救いとなったその言葉を、この世での人生だけでなく、来世においても持ち続けたのである。

それゆえ、わたしはあなたがたに、魂たちにとって平和への道を切り開く鍵のような、わたしの言葉を遺産として遺す。十字路を恐れてはならない。不運に打ちひしがれてはならない。疑いを払拭し、わたしの教えに深く没頭しなさい。そうすれば、この力はあなた方に大きな喜びをもたらすだろう。弱き者たちよ、わたしの教えによって強められていない者たちよ、哀れな者たちよ。彼らはこれからも道でつまずき続けるだろう！

40. わたしは、わたしの民、わたしの証人、わたしの弟子が、その道において強き者となることを望む。そうして、わたしがその道の途中に置く人々の群れを救うことができるように。

41. 今日、あなたがたは信仰においてまだ弱いため、魂の強さをまだ理解することができない。しかし、私は大きな試練を通して、この信仰を強固なものにする。だが、あなたがたが私に対して抱いている信頼を、自分自身に対しても持たなければならない。なぜなら、あなたがたが内に秘めている賜物は、私が与えたものだからである。

42. まもなく、私の啓示は人間の知性によるものとして終わりを告げ、1950年を過ぎれば、あなたがたはもはやこの啓示を通じて私を聞くことはなくなるだろう。しかし、私を呼び求めたり、私の霊界に呼びかけたりするために、かつて「声の伝達者」や「賜物の担い手」であった者たちに頼ってはならない。たとえ最大の試練にあっても、私の意志に背こうとしてはならない。

43. 私の教えの力によって、多くの出来事の発生を防ぎ、私の御心に従う限りそれらを回避できるよう、備えなさい。しかし、あなたがたが眠っている間には、これらの試練は避けられず訪れ、あなたがたの働きを困難にするだろう。

44. あなたがたの霊魂の中に、あなたがたが持っているのと同じ賜物を持っているにもかかわらず、私があなたがたのために示した道とは異なる道を歩む男女が、どれほど多くいることか。もし、こうした男女があなたがたの中に優れた師を見出せば、彼らはその賜

物の理由を知り、私の教えの知識によって、大いに開花することになるだろう。 しかし、もし彼らがその道の途中で良き師に出会えなければ、ある者は混乱に陥り、ある者は自らの想像や意志に従ってその賜物を発揮し、またある者は目に見えない力の道具となってしまうだろう。その力は光の力であるかもしれないが、闇の力である可能性もあるのだ。

45. それゆえ、弟子たちよ、あなたがたの使命の遂行に関して、決して怠ってはならない。1950年以降、私はあなたがたに、自らの使命について熟考し、その熟考を通じて私の教えにおける知識を統合できるよう、ある期間を与える。この統合に基づいて、あなたがたは諸事象や闘いに立ち向かうことになるだろう。

46. それゆえ、私はあらゆる試練についてあなたがたに警告する。そして、私があなたがたの間におり、この啓示を行う最後の年において、私はあらゆる危険について語り、それらを乗り越えるための行動指針を伝えるであろう。

47. 私が今、あなたがたに語ることをよく聞きなさい。ある大教会の懐において、聖職者たちは人類に聖霊について語るだろう。彼らは「第三の時代」について語るだろう。彼らは「七つの封印」について語るだろう。 彼らは各教会に呼びかけを行い、百四十四千人を選び出し、わが意志によって選ばれた者たちに私が刻印した印をもって彼らに封印すると主張するだろう。しかし、私はすべての人々に裁きを下し、人類の聖職者たちに対しては良心を通じて自らを現し、彼らを大きな試練にさらす。 その時、私は、その証拠を示すために、あなたがたのうち誰を用いるべきかを知るであろう。私は、あなたがたを通じて、私があなたがたに授けた説得力をもって語りかけるであろう。

48. 聖霊の啓示を人類に知らせるのは、人間ではない。主の崇高な御決定において、それを行うのは主ご自身だけだからである。

49. 三位一体・マリア的霊の教えを、人間があなた方に啓示したのではない。父である私が、すでに第一の時代に預言者たちを通して、それをあなた方に告げていたのだ。父の「御言葉」であるイエスを通して、私はそれをあなた方に告げ、そう遠くない将来に啓示されるものとして約束したのだ。

50. この第三の時代において、私は――人間の知性を通じて自らを現すことによって――その約束を果たし、隠されていた教訓を啓示した。あなたがたの霊に賜物を授けたのは人間ではない――あなたがたが私から生まれたとき、私がそれをあなたがたに託したのである。

51. あなたがたの額に三位一体の印を刻んだのは、人間ではない。あなたがたを霊において印をつけたのは、主である。あなたがたの使命を定めたのは、人間ではなく、わたしの全能の御声であった。

52. 父なる神が、どうして人間にそのような冒涜や誤った導きを許すことができようか。わたし、すなわち犠牲となった小羊こそが、すべての被造物の運命を記した「知恵の書」、すなわち「大いなる命の書」の封印を解くにふさわしい唯一の存在である。 神の御言葉のアルファでありオメガである私こそが、私の神性の奥義をあなた方に語り得る唯一の存在である。どうして私が、世俗的な考えを持ち、畏敬の念を持たない者が、無知な人々を欺き、人間の中で自らを高めようとするために、神の教えをその意のままに歪めることを許せるだろうか？

53. こうした冒涜の兆候は（あなたがたの間でも）現れるだろうが、それはただ、愛する民よ、あなたがたが目を覚ますためである。 人々の間には、冒涜や偽りの証言、偽りの 奇跡の兆しが現れるだろう。偽りの預言者や、私の神性に帰せられる偽りの啓示が現れるだろう。しかし、これはただ、魂たちの進歩への渇望、聖霊の到来への渇望、そして私の預言とすべての約束の成就への渇望の証に過ぎないのだ。

54. 私が人々の間に霊的に到来する時を遅らせてはならない。不十分な準備によって、あなたがたの行いを通じた人類への私の啓示の妨げとなってはならない。 なぜなら、あなたがたは救い主ではないし、人々を救うと大々的に宣言すべきでもなく、この働きにおいて唯一の存在でもないが、それでもなお、あなたがたは、私の救いの種を辛抱強く待ち望んできた肥沃な大地であったからである。 あなたがたは、この時代にすでに平和の礎を築くために戦っている、わたしの光の軍団、平和と真理の軍勢の一部である。しかし、わたしはあなたがたを準備している。それは、あなたがたが「強きイスラエル」としての使命を果たせるようにするためである―― これは、あなたがたがこれまで一度も果たしたことのない使命であるが、今日、それを完遂し、あなたがたを待ち受けるあの光の故郷へと至るためである。そこから、あなたがたはさらなる地平線を見渡し、そこで私の正義と愛を実践し、完全性の段階へと昇華し、ついに神の懐にふさわしい地位を占めることになるのだ。

55. 私があなたがたに伝えているのは、果たして空想なのだろうか？　いいえ、民よ。私は人間であるあなたがたに道徳的な教えを与え、徳を授けているのだ。それは、あなたがたが家庭で愛と平和

に満ちた生活を送り、あなたがたのパンが苦いものとならないためである。

私の教えは幸福と励まし、そして進歩をもたらすが、この糧だけでは、あなたがたの魂には不十分である。あなたがたの魂には、この地上の肉体が死んだ後、無限への旅を続けるための、より高次の糧が欠けているのだ。 この旅のために、私は魂に、人間には空想のように映る教えを与える——それは深遠であり、最も鋭敏な想像力にとっても測り知れない教訓である。私はこの鍵をあなたの魂に託す。それによって、魂は道中で出会うあらゆる扉を開き、魂の完成への旅を続けることができるのだ。

56. 私の教えには、あらゆる教えが含まれている。それは「道であり、真理であり、命」である。それゆえ、あなたがたは、存在のあらゆる瞬間に、この教えに従わなければならない。

57. あなたがたの魂の中で、神に最高の座を与え、肉体にはそのべきものを与えなさい。「神のものは神に、皇帝のものは皇帝に」と！

58. もしあなたがたが、人生において正義を貫くことを学べば、歩みは確固たるものとなり、疑いや不安は消え去るだろう。

59. 説教の時が訪れ、あなたがたの弱さや不必要な儀式が消え去り——魂にとって必要かつ高揚させるものだけに専念するようになったとき、あなたがたは私の業を遂行するために、より長い時間を享受することになるだろう。 その道のりで、あなたがたが持っているものを必要としている人に出会ったとき、あなたがたはトマスのように疑いを抱くことも、ペトロが臆病になったあの瞬間のようにもならず、またユダのように虚栄や誘惑に弱くなることもないだろう。

60. あなたがたの魂はわたしにこう言います。「師よ、なぜ私たちを、あの非凡な魂たちと比較されるのですか？」しかし、師はあなたがたにこう言います。確かに、第二の時代のわたしの弟子たちは偉大な魂であり、人々の霊的進歩のために人々の間で働きかけました——それは、当時の人々が到達していなかった進歩であり、現代の人々もまた到達していないものです。しかし、彼らはあなたがたと同じような魂であり、あなたがたと同じように人間でもありました。 彼らの美徳は、自らの不完全さと戦った。しかし、彼らの魂はより強かったため、人間的な弱さを克服し、彼らは私の教えの実践に身を捧げた。そして、その美徳と愛によって、私の教えを忠実に守り抜いた。彼ら一人ひとりが残した模範は、彼らを導いた師にふさわしいものであった。

61. あなた方もまた、この第三の時代にあなた方に語りかけた師にふさわしい、偉大な模範を示すことになるだろう。まさか、私やあなた方自身を疑っているというのか？私は、あなた方が私の言葉を解釈するのを辛抱強く待っている。そして、あなた方もまた、人類を辛抱強く教え導いてほしいと願っている。

62. 最も忍耐強い師である私は、あなたがたが理解できなかった教訓を、はっきりと明確に説明し、あなたがたが乗り越えられなかった試練を、再びあなたがたの道に置く。もしあなたがたがそれを乗り越えれば、あなたがたの魂は強さを感じ、私に感謝するだろう。その時、師は知恵の書を取り上げ、あなたがたに新たな教訓を授ける。

63. しかし、この書物が一度、あなたがたの心の聖櫃に収められれば、師はこう告げるだろう。「あなたがたはもはや弟子ではなく、師である」。私の啓示を知らない人類のもとへ行き、彼らの前で『知恵の書』を開き、私があなたがたを教えたのと同じ忍耐をもって、同胞たちを教え導きなさい。

64. 私があなたがたの欠点を指摘したのは、あなたがたがそれを正すためであった。あなたがたもまた、人々の元へ 行き、彼らに同じ欠点を見出したときは、彼らが忍耐と愛をもって自らを正せるよう、心に留めておきなさい。

65. 私が教えの中で、暴力を説いたことがあったか？ 私が鞭を使ってあなた方を教えたことがあったか？ いいえ、弟子たちよ、私は愛をもってあなた方を赦してきた。男性たちよ、あなたはすでに伴侶に対して忍耐を示しているか？ 女性たちよ、夫に対して忍耐強く接してきたか？　そして、夫婦の皆さん、子供たちを育てる上で忍耐強くあったか？　もしあなたがたがこのように行動したなら、私と同じように行動したことになる。もしそうではなかったとしても、私はあなたがたを許す。しかし、あなたがたが試練に合格するまで、私はあなたがたの人生の道のりで試していくつもりだ。

66. 私は再び、愛の種として私の言葉をあなた方に残します。それを蒔くとき、物質的な種でさえ、蒔かれた瞬間に発芽するわけではないことを覚えておいてください。ましてや、すぐに花を咲かせ、実を結ぶことなどあり得ません。これらすべてを育てるには、愛と功徳、そして犠牲の精神が必要です。

67. わたしがあなたがたに与える土壌とは、人々の心であり、その種とは、聖霊としてのわたしの啓示である。あなたがたは、耕された畑に身を捧げ、それを愛し、祝福しなさい。なぜなら、あなた

がたの模範を通じて、あなたがたと共に「第三の時代」の種蒔き人となる新たな働き手を導くことになるからである。

68. わたしの教えを見分けることを学べ。それはどこで見つけられるのか？　もしかして、声の担い手が発する言葉の中か？　いいえ、弟子たちよ。 私の教えは、この言葉の本質の中にあります。もしあなたがたが、霊から霊へと主とつながるならば――そのとき、どうすれば私の神聖な声を認識できるでしょうか。それは、あなたがたの霊の声によってです。そこにおいて、私は永遠にあなたがたの中にあり、あなたがたを教え導くのです。

69. わたしの愛は、あなたがたの心の最も繊細な琴線に震えを走らせるだろう。しかし、あなたがたにわたしの神聖な協奏曲を聴かせてくれるのは、あなたがたの良心との調和である。そして、あなたがたの多くは、イエスの霊的な姿としてわたしを見るだろう。ただし、イエスの姿こそが、あなたがたがわたしを見る最も完全な形ではないことを、ここで指摘しておかなければならない。 かつて私が「すべての目がわたしを見る」と告げたとき、それはあなたがた全員が真理を悟ることを示唆していた。とはいえ、私は各人の魂の成長段階に応じて、自らを制限せざるを得ないことも伝えなければならない。しかし、あなたがたが完全性への階段を登っていくにつれ、必ずや私のすべての栄光の中で私を見るようになるだろう。

70. 今、いかなる形でもわたしを想像しようとしないでください。考えてみてください。あなたがたの霊は、たとえ限られているとはいえ、本質であり、光であるのです――それならば、 に始まりも終わりもない、あなたがたの主である普遍の霊は、いったいどのような姿をしているというのでしょうか。その測り知れない神秘は、わたしの『神の知恵の書』の中に留めておいてください。

目を覚まし、祈りなさい。そして、人間の死によってあなたの魂が自由になったとき、私は、その魂が父を認識し、自分自身を認識できるよう、私の無限の啓示の書からさらなるベールを取り除いてあげよう―― そうして、あなたがたが来世に至ったとき、待ち受けているより良い世界、素晴らしい世界を仰ぎ見て歓喜に満たされるように。しかし、それはあなたがたが住む最後の世界ではないのだ。

71. 祈れ、民よ、人類のために祈れ。祈りがあろうとなかろうと、私はすべての人々と共にある。しかし、私は、私の子供たちの間で、互いに愛し合うという祈りが花開くことを願っている。

72. 私はあなたがたの世界を訪れ、あなたがたの苦難を見たので、愛の贈り物を残しておいた。あなたがたは私の神聖な言葉を学び

たがらなかった。しかし、私は、たとえ不完全であっても、あなたがたの言葉を理解している。

73. 私の道を確かな足取りで歩みなさい。そうすれば、その道には奇跡が散りばめられていることに気づくでしょう。奇跡の時代は終わったと、誰があなたたちに言ったのですか？ あなたたちの存在そのものが、愛の奇跡ではないのですか？ あなたたちの環境を脅かす危険を、感じ取れないのですか？ あなたたちの世界を包む危険を、感じ取れないのですか？ なぜあなたたちは滅びないのですか？ それは、愛の奇跡があなたたちを守っているからです。

74. あなた方を囲むすべてのものは、私の最愛の子供たちを幸せにするために、私によって素晴らしい愛の奇跡として創造されたのである。

75. 奇跡の時代は永遠に続く。私は、すべての子供たちにとって、尽きることのない愛の奇跡である。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 315

1. 主の呼びかけに応じて駆けつけた民よ、祝福あれ。わが書は、あなたがたにさらなる教訓を明らかにするために、あなたがたの前で開かれている。わが霊から湧き出る教えは、あなたがたの霊にとっての真髄であり、命そのものである。それを受け取り、食べなさい。それは永遠の命のパンだからである。

2. わたしは今、この大勢の聴衆の心にわたしの教えを蒔いており、時が来ればその実を収穫するであろう。わたしの言葉は失われることはない。なぜなら、わたしはそれを、あなたがたの精神である、あなたがたの存在の中で最も感受性の豊かな部分に守っているからである。

3. この愛の食卓で、あなたがたの飢えと渇きを癒やしなさい。あなたがたの悲惨さを忘れ、苦しみから癒やされ、このひとときを心から楽しむことができるようにしなさい。

4. 痛みの炎があなたがたの心を焼き尽くしているが、それを消し去ることができるのは、わたしの言葉という水晶のように澄んだ水だけである。それゆえ、あなたがたが生き、魂の平安を取り戻せるよう、わたしに耳を傾けるよう招く。

5. そう、民よ、私はあなた方を私の平安の所有者とし、その後、あなたがたがそれを地上の道々や諸民族に広めるようにしたいのです。私はあなた方を呼び寄せ、準備を整え、私の平和のメッセージの使者とするためです。この時代、私を必要としているのはあなた方だけではないことを心に留めてください。あなた方を囲む全人類が、愛と光を渇望しているのです。

6. 理解されなくても恐れることはない——わたしの光はあらゆる知性を照らす。言語や信仰の相違を、わたしの教えを広める上での乗り越えられない障害とは見なしてはならない。

7. バベルの塔は確かにまだ立っているが、同様に真実なのは、霊性的な民が世の中に現れつつあり、彼らには、分裂、対立、そして傲慢というこの塔の基礎を、少しずつ破壊していくという使命があるということだ。

8. 私は、あなたがたが人生の闘いの真っ只中であっても平和を保つことを学んでほしいと願っている。そうすれば、あなたがたは皆、この世界を、たとえ一時的であっても、生きるために必要な温もりと糧を与えてくれる、唯一の故郷、一つの家として見なし続けることができるだろう。

9. あなたがたが一度この世を後にした時に、霊的な生活がもたらしてくれる平和については、まだ考える必要はない。 この世でまだ成すべき多くのことを考えなさい。むしろ、より良い世界にふさわしい存在となるために、可能な限り大きな功徳を積むことに専念しなさい。そして、そのことを考えるとき、 、私の慈悲によって地上に与えられた日々を、あなたがたがうまく活用できることを疑ってはならない。

10. 人生の道のりに、愛の足跡を残しなさい。そうでなければ、あなたがたは平和の王国にたどり着くことはできないからだ。

11. もしあなたがたがわたしを愛し、わたしを信じ、わたしに喜ばれ、魂の中に平和な未来を築きたいと願うなら、この教えを受け入れ、誠実さと真実をもってそれに従いなさい。そうすれば、あなたがたは全存在において、非常に大きな励ましと清らかさを体験することになるでしょう。なぜなら、そのとき、あなたがたはわたしを手本とするからです。

12. もしもあなたがたの闘いが終わりを告げる時が来れば、心の中で、果てしなく天からの声が聞こえてくるでしょう。その声はこう告げるでしょう。「荒野で私の声を聞き、それを信じたあなたがたは、祝福される。なぜなら、この瞬間から、あなたがたはインスピレーションの源となる完全な理想を手に入れたのだから。 中傷や打撃、屈辱に耐え抜いた者たちよ、祝福あれ。なぜなら、最終的にあなたがたは、すべての傷を癒やすことになるこの地を征服したのだから。

13. おお、祝福された民よ、わが言葉を心に留めよ――それは、人々が築き上げなければならない新たな塔の堅固な土台でなければならないことを心に留めよ。 しかし、それは人間の傲慢を象徴する塔でも、神の力と正義を疑う塔でもなく、魂の高揚、愛、慈悲、そして人間同士の調和を象徴する、目に見えない塔でなければならない。

14. あなたがたの霊的成長を助けるために、私が人間の知性を通じて、この民とここに結びつき、あなたがたに私の律法を思い起こさせ、私の言葉を説明し、あなたがたの使命を定めることは、不可欠であった。

15. 私があなたがたに律法、規範、そして助言を託したのは、いつの日か私の言葉がもはやあなたがたと共にないとき、あなたがたが自らの歩みを正しく導けるようにするためである。 人間の知性を通じて人類に与えられたその律法と規範は、私が霊的な賜物を授け

た人々が、それらを正しく用いることを理解し、それによって自分自身や周囲の人々の混乱を避けるために役立つであろう。

16. 私は改めてあなたがたに告げる。あなたがたの霊的な日々の働きは、苦痛を伴うものではない。もしあなたがたが、私が に託した様々な賜物と使命をすべて統合する術を知っているならば、あなたがたは一つの団結を形成することになるだろう。その団結は試練において無敵となる。なぜなら、あなたがたは皆、力強く振る舞い、約束の地を獲得するための戦いで互いに励まし合うからである。

17. 現代の世界は、かつての「第二の時代」にイスラエルの民が私を待ち望んだような形で、私を迎える準備ができていなかった。私の偉大な預言者たちは、メシア、すなわち救い主、神の御子について予告していた。その方は、抑圧された者たちを解放し、「御言葉」の光によって世界を照らすために来られるはずだった。 その民が苦しめば苦しむほど、約束された方の到来を切望し、屈辱と抑圧の杯を飲み干せば飲み干すほど、メシアの御臨在を渇望し、至る所で、救い主の到来が近いことを告げる兆しやしるしを探し求めたのである。

18. 世代から世代へ、親から子へと、神の約束は受け継がれ、それによって主の選民は長い間、目を覚まし、祈り続けるよう促されてきた。

ついに私は民のもとへやって来たが、皆が私を待ち望んでいたにもかかわらず、すべての者が私を認識できたわけではなかった。ある者は霊的な観点から、またある者は物質主義的な解釈によって、私を受け入れたのである。

しかし、私の存在を感じ、私の言葉の光の中で天の国を垣間見、私の啓示を信じた人々の誠実さと愛だけで、私には十分だった。私に忠実に従い、私を霊的な救い主と見なした人々だけで、私には十分だった。なぜなら、私がこの世を去った後、私の真理を証ししたのは、まさに彼らだったからだ。

19. 私のメッセージは地上のすべての民に向けられていたが、私の呼びかけは、後に私の言葉の代弁者となるよう、選ばれた民の心に届けられた。とはいえ、私の存在を感じたのはその民だけではない。他の国々でも、人々は私の到来のしるしを見出し、私が地上に臨在する時を予感していたのである。

20. 私が世に、自分がメシアであると宣言し、私の言葉が命の川となって人々の心を養い始めたとき、至る所に肉体と魂の飢えと悲惨が広がっていた。その民を支えていたのは希望の光だけであった

。なぜなら、彼らの神への崇拝さえも、別の偶像崇拝へと変質させられ、冒涜を受けていたからである。

21. 飢え、渇き、病気、隷属、混乱、ハンセン病、闇、悲惨――これこそが、皇帝が神の民の肩に負わせた重荷であった。 それゆえ、メシアは切望され、、日々その到来が待ち望まれていた。そして、私の言葉が人々の心に届き、愛、正義、兄弟愛、そして自由について語りかけたとき、大勢の人々が私に従った。

私の手が病人に触れ、彼らに平安と神の慰めを感じさせたとき、彼らはそれを証しするために、通りや広場で、自制できずに叫び、私が約束されたキリスト、予告されたメシアであると告げた。

22. しかし今、この第三の時代において――どの民が私を待ち望んでいたのか？ 私の約束の成就を待ち望んで、誰が徹夜して祈っていたのか？ ごくわずかである。なぜなら、預言の知識を世代から世代へと受け継いできたあの民を手本とする代わりに、あなたがたが行ったことは、時の経過とともに私の言葉を消し去ることだったからだ。

しかし、知っておきなさい。私は「第二の時代」にイエスとして語った言葉の中で、再び来ると約束し、それによって、私が人間として来ることを語っただけでなく、あなたがたが今生きているこの時代に、霊として到来することを予告していた、かつての預言者たちの言葉を確証したのである。

23. 私の再臨を告げるしるしや、人々の間に私が臨在していることの証拠は、すべて書き記されており、それらはすべて成就した。それなのに、なぜ世界は私を待ち望まなかったのか。

人類は現在、この世で人間が飲んできたものの中で最も苦い杯を飲み干している。それなのに、なぜ彼らは私を待ち望まず、私を呼び求めなかったのか？　それは、彼らの物質主義が極限に達し、私を彼らの生活から締め出し、心から追い出してしまったからである。なぜなら、謙虚な者たちでさえ、主の前にひざまずいて祈り、その御心に従う者たちの中には含まれていないからだ。

24. 今日、人間は偉大であり、知恵に満ち、強く、力強く、自立していると感じている。人間は科学の光を手にしている――それならば、なぜ霊の光を渇望する必要があるだろうか。人間は自然の力の支配者である――それならば、自らの武器で敵から解放できるのに、なぜ私が来て敵から解放してくれることを期待するのだろうか。

25. 私があなたがたのもとへ戻るとの約束が成就したその時、人類は霊的に眠りについていた。私を待ちわびていた民族は、一つと

してなかった。そして、最初の時代にはメシアの約束は一つの民族に対してなされたが、私の再臨の約束はすべての国々に対してなされたのだということを、よく考えてほしい。

26. まことに、あなたがたに告げる。わたしの光は、世界がそれに気づくこともなく、すでに稲妻のように東から西へとその道をたどってきたのである。

27. わたしの言葉はあなたがたのもとへ届き、わたしの呼びかけの理由を知らなかった無学な人々を目覚めさせ、驚かせた。それは、彼らの知性を用いて、世界にわたしの新しいメッセージを伝えるためである。

28. このメッセージが完了すれば、わたしはもはやこれらの伝達者を通して語ることはなく、その後は繊細な方法で魂の中に自らを現すであろう。 しかし、それを聞いた者たちの心に刻まれ、新しい書物に記された私の言葉は、平和の種として、真の知識の光として、そして人々の肉体と魂を苦しめるあらゆる悪に対する救済として、世界の諸民族や諸国へと届けられるであろう。

29. わたしの言葉は、わたしの使者が望む時に人々の心に届くのではなく、わたしの御心がある時に届くのである。なぜなら、わたしの種を見守り、そのための土壌を整え、道を切り開くのは、他ならぬわたし自身だからである。 私が、知恵をもって、適切な時に、諸民族、諸国家、そして各家庭へとそれを届ける者となる。それは、人々がすでにそれを待ち望んでいる時、すなわち、私の約束を思い出し、自己顕示欲、傲慢、物質主義、虚栄という深い夢から目覚め、心が期待に満ちている時に、届くのである。

30. わが言葉の宣教の周りに集まった民よ。あなたがたは、わが到来を待ち望んで目を覚ましておくことを知らなかったのだから、せめて、私があなたがたのもとに来てこう告げた、その限りない愛を認識することで、わが業の価値を理解しなさい。「あなたがたは私の再臨を待ち望んでいなかったのだから、せめて今から、世界の救いを願い、祈り続けることによって、目を覚ましていなさい。」

31. わたしは、あなたがた一人ひとりをわたしの弟子とし、永遠の種であるわたしの言葉をあなたがたに遺産として残し、そして――あなたがたの中にわたしの種を蒔き、それを育てた後――あなたがたをわたしの代理人として他の国々に送り出し、この愛の贈り物をすべての同胞たちに届けるために、あなたがたを探し求めたのである。

32. 私は、わが子たちの信仰と霊性への渇望を抱いている。私は、私の一部である霊をあなたがたに与えた。その霊によって、あな

たがたは、この世に生きる他のすべての被造物よりも優れた存在となっているのだ。

人間は、私が与えた性質や美徳ゆえに、私に似ている。私は、あなたがたが愛と慈悲に満ちた人生を送れるよう、すべてを与えてきた。

33. 拒絶されることを恐れて、わたしの教えを隠してはならない。もしあなたがたが尊厳をもって準備を整え、わたしの律法に従うならば——いったい誰があなたがたを叱責できようか。わたしの教えは、あなたがたを最高の道徳と霊性へと導き、あなたがたは、異なる形で信仰を公言する者たちや、異なる人種や階級に属する者たちとも、平和に共存することができる。 私が望むのは、あなたがたがこの事業の弟子として認められるよう、最も純粋な霊性の印を現すことだけです。ですから、自分たちを他の人々より偉大だとも、卑小だとも思わないでください。しかし、彼らに私の言葉を伝え、彼らもまた私の弟子となれるよう、彼らを助ける義務を感じてください。

34. わたしは、あなたがた全員が平等に所有し、平和に暮らし、この地を一時的な住まいとして活用できるよう、また、あなたがたが能力を開花させ、魂を新たな故郷へと昇華させる準備ができるように、この地をあなたがたに与えた。「主の家には多くの住まいがある」と、わたしはあなたがたに告げた。あなたがたは、高みへと成長するにつれて、それらを知ることになるだろう。 あなたがた一人ひとりは、ますますわたしに近づいていくでしょう。そして、これらの「住まい」は、あなたがたの行いに応じて到達することになります。なぜなら、すべてのものは神の秩序と正義に従っているからです。

35. 誰も、あなたがたが一つの段階から次の段階へと進むのを妨げることはできない。そして、それぞれの段階の終わりには、あなたがたの霊の中にも、また私の霊の中にも、歓喜と祝宴があるだろう。

36. こうして、私はあなたがたを準備させている。あなたがたが歩まなければならない道は長いものであり、最初の行いだけで満足してはならない——それらが、あの住まいへの門を開いてくれるだろうと考えて。

また、私はあなたがたにこう告げる。一つの段階の終わりにたどり着き、立ち止まって、数え切れないほどの障害を乗り越えた後、大きな闘い、苦難の日々、そして安らぎのひとときを伴う、歩んできた道を振り返ることは、魂にとって美しく、満足のいくことなの

だ。その先には、勝利と報い、そして周囲を照らす正義があり、父なる神の御霊――その御霊は、そこに臨在し、栄光に満ち、その子を祝福し、その子を御懐に安らぎを与え、そこで次の段階へと備えさせ、そうして一つまた一つと段階を進み、ついに最高の成就に至り、その後、永遠にわたしと共に留まるのである。

37. まずは、この地上であなたがたの使命を果たしなさい。争いが支配する場所に平和をもたらし、憎しみが支配する場所に愛をもたらし、な利己主義が支配する場所で慈善を行いなさい。あなたがたがこの道の終わりにたどり着いたとき、私はあなたがたが隣人に与えたものを、利息をつけて返してあげる。

38. これが、あなたがたの理解力の及ぶ範囲にある、私の簡潔で明快な言葉である。私は、あなたがたの敬虔さと注意深さに喜びを感じた。私は、あなたがた一人ひとりの内に、私の教えに従い、自らを新たにし、完全なものへと高め、魂と身体の両方が健やかな家族を築こうとする努力を見出しています。その家族は互いに愛し合い、互いを認め合い、一つの魂へと融合し、人類に光と力と平和をもたらすのです。

39. 私の神性の光は、父が子供たちに遺産として与えた最高の賜物として、すべての霊の中に宿っている。それゆえ、あなたがたは私のすべての被造物の中で最も高貴な存在である。なぜなら、あなたがたは自分たちが何者であるか、誰から生まれたのか、自分の使命は何か、そしてどこへ向かっているのかを知らせる霊の光を内に持っているからである。

40. 今、あなたがたの魂は、より大きな光に満ちた時代に生きており、一歩前進しなければならない時であり、あなたがたの完成と霊化の目標であるわたしのもとへ、より高みへと昇っていく時である。

41. ヤコブが夢の中で見た天の梯子は、今日、あらゆる魂の前に輝かしくそびえ立ち、魂たちをその上へと登り、人間には解き明かすことのできなかった神秘を知るよう招いている。

42. 今こそ、魂と人間の知性にとって明晰な時代である。この時代において、あなたがたは、かつて与えられていたにもかかわらず、象徴的な言葉やたとえ話によって伝えられていたために正しく解釈することができなかった、あらゆる啓示の内容、本質、あるいは真意を発見することができるようになる。

43. 人々の霊性への欠如こそが、神のメッセージに含まれていた言葉や形象の一つひとつに隠されていた真理を、知性が認識できなかった理由であった。それゆえ、人類は、たとえ理解できなくても

、ただ信じるだけでよいと想定してきたのである。 今、私はあなたに告げます。私は誰にとっても「謎」などではありません。あなた方が、精神的な高みへの到達を欠き、祈りを欠き、隣人愛と謙虚さを欠いているからこそ、この「謎」を自ら作り出しているのです。

44. 私は至る所に存在し、存在するすべてのもの、そしてあなた方を囲むあらゆるものの中に自らを明らかに示しているのだから、決して「謎」などあり得ない。しかし、もしあなたがたが頑なに私を見ないと主張し、私があなた方の前に現れたときに目を閉ざし、私があなた方を呼ぶときに私から逃げ出すならば、私はあなた方にとって、今後も解き明かせない謎であり続けざるを得ないだろう。

45. ヤコブが夢の中で見たあの梯子が、どのような意味を持つか、あなたがたは知っているか。その梯子は、魂の生涯と成長を表しているのだ。

啓示が下った瞬間、ヤコブの肉体は眠っていましたが、彼の魂は目覚めていました。彼は祈りを通じて父のもとへと昇りつめ、その魂が光の領域に入ったとき、全人類である彼の民のために、霊的な啓示と真理の証として後世に伝えられる天からのメッセージを受け取ることができたのです。 なぜなら、「イスラエル」とは地上の名前ではなく、霊的な名だからである。

46. ヤコブは、その梯子が地上に立っており、その頂点が天に触れているのを見た。これは、魂の向上への道を表している。その道は、地上で肉体を帯びて始まり、魂があらゆる物質的な影響から遠く離れて、自らの光と本質を父のそれと一つに融合させた時に終わる。

47. 族長は、その梯子の上を天使たちが昇り降りしているのを見た。これは、光を求める魂、あるいは贖罪と浄化という使命を帯びて、霊界へ帰還する際に少しでも高い次元へと昇るために、絶え間なく生まれ、死に、絶えず行き来する魂の姿を象徴していた。 それは、完全性へと導く魂の発達の道である。それゆえ、ヤコブは梯子の頂点に、象徴的なエホバの姿を見た。それは、神こそが、あなたがたの完全性、あなたがたの努力の目標であり、そして、過酷な闘い、長い苦しみ、そして父の懐にたどり着こうとする粘り強さに対する報酬として与えられる、無限の至福という最高の報いであることを示していたのである。

48. 魂は、運命の打撃や試練の中に、常に上昇するための功徳を積む機会を見出してきた。その際、あらゆる試練において、常にヤコブのはしごが象徴として現れ、あなた方にさらなる段を登るよう促していたのである。

49. これは、おお、弟子たちよ、偉大な啓示であった。なぜなら、魂が神聖なるもの、高貴で、清く、善く、真実なるものを崇拝するよう目覚め始めたばかりの時代に、霊的な生活についてあなたがたに語られたからである。

50. そのメッセージは、ある一つの家族のためだけのものでも、ましてや一つの民族のためだけのものでもなかった。その本質は霊的なものであり、それゆえ普遍的な意味を持っていた。まさにそれゆえに、父の御声はヤコブにこう語られた。「わたしは、アブラハムの神、イサクの神、エホバである。あなたが今いるこの地を、わたしはお前とあなたの子孫に与える。そして、その子孫は地の塵のように数多くなる。 あなたがたは西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福されるであろう。」

51. このメッセージは、一見すると取るに足らないもののように思えるかもしれないが、その霊的な内容は計り知れないほど深い。しかし、人々はあらゆるしるしや霊的な啓示を避け、それに何の意味も見出そうとしなかったのだから、どうしてその霊的な意味を見出すことができただろうか。 私自身が、かつてこの世で魂の目覚めがまだ始まったばかりの頃に、あなたがたの使命を励ますために与えたあのメッセージの解釈を、今こうしてあなたがたに伝えなければならなかったのだ。

52. 日ごとに、時代の終わりを告げるしるしや出来事が現れている。

53. 人間の科学は、人間がその唯物論の中で到達しうる限界に達してしまった。なぜなら、愛、善、そして完全性という霊的な理想に触発された科学は、あなたがたが成し遂げたところよりもはるかに遠くまで進むことができるからだ。

54. あなたがたの科学的進歩が、相互の愛を動機としていなかったことの証拠は、諸民族の道徳的衰退であり、同胞を殺し合う戦争であり、至る所に蔓延する飢餓と悲惨であり、そして霊的なものに対する無知である。

55. 大国たちは傲慢に頭をもたげ、その力を誇示し、武器をもって世界を威嚇し、自らの知性と科学を誇りに思っているが、彼らが作り出したこの虚偽の世界がいかに脆いかには気づいていない。なぜなら、私の正義のほんのわずかな息吹さえあれば、この人工的な世界は消え去ってしまうからだ。 しかし、自らの業を破壊するのは、他ならぬ人間自身の手である。かつて自ら創造したものを滅ぼす方法を編み出すのも、人間の知性そのものである。 私は、人々に良

い実りをもたらした人間の業のみが残り、それらが今後も来るべき世代の幸福のために用いられ続けるよう、確実に仕向ける。しかし、 に有害あるいは利己的な目的に奉仕するものはすべて、私の容赦なき裁きの炎によって滅ぼされるだろう。

56. 物質主義的な人類によって創造され、*また*破壊された世界の廃墟の上に、経験そのものを基盤とし、魂の向上という理想を目標とする新しい世界が立ち上がるだろう。

57. 精神性から生まれる道徳を持つ人類の進歩を想像してみてください。制限も国境もない人類を想像してみてください。その人類は、地球がその子らに与えるあらゆる生活手段を、兄弟のように分かち合うのです。 もし人間の科学が、互いへの愛を理想とし、人が求める知識を祈りを通じて受け取るものとなったら、その科学はどのようなものになるか、想像してみてください。 人々が儀式や外的な礼拝形式に頼ることなく、その*生き方*を通じて、愛と信仰と従順と謙遜という神への奉仕を私に捧げてくれることが、私にとってどれほど喜ばしいことか、考えてみてください。

58. これこそが人間にとっての*「生」*となる。なぜなら、その中において、彼らは平安を吸い込み、自由を享受し、真理を含むもののみを糧とするからである。

59. あなたがたが地上で送っている生活は、その本質において、生というよりは死に近いです。多くの人々にとって、それは地獄であり、牢獄であり、監禁であり、追放です。そこでは平安を知ることもなく、自由を喜ぶこともできません。肉体にも魂にも健康は存在せず、これほどの苦痛を少しでも埋め合わせる喜びもありません。

60. しかし、あなた方は幸せそうに見せようと努めている。絶え間ない失敗をどう隠蔽するかを考えを巡らせている。幸せであるかのように装うために笑顔の仮面を顔に被り、自らの足元で切り開いてしまった深淵に対する恐怖を隠すために、力と生きる勇気を誇示している。

61. かつて地球は涙の谷だったが、現在は血の谷となっている。明日、それは何になるだろうか？ 罪を焼き尽くし、魂を顧みなかった愛なき人々の傲慢を打ち砕いた裁きの炎が通り過ぎた後、煙を立ち上らせる瓦礫の戦場となるだろう。

62. 同様に、知恵の神殿からも、科学の*商人たちは*追い出されるだろう。彼らは光を利用して暴利を貪り、真理を冒涜したからだ。

63. 私が今、あなたがたに語っている「将来の時代」とは、いったいどのようなものか。あなたがたはそれを知らないし、私もそれ

をより具体的に指定することはない。なぜなら、 の出来事が、私があなたがたに語った言葉の成就をますます物語っていくからである。

64. ある者たちには、その行いの実をすべて集めて火に焼き尽くされるようにせよと告げる一方で、他の者たちには、その種を集めて守り抜くようにと告げている。そうすれば、審判の日が過ぎ去った後も、その種は命の種として増え続けていくからである。

65. 本日の教えにおいて、私はあなたがたに、「私の言葉」が、この人類を啓発し、彼らが目覚め、霊性へと立ち上がるために戻ってきたことを告げたい。

66. 人々が私に対して抱くイメージは極めて限定的であり、霊的なものに対する彼らの認識は極めて乏しく、信仰も極めて小さい。

67. 宗教は、何世紀にもわたる夢の中で眠り続け、一歩も前進していない。そして、目覚めたとしても、その活動は内部に留まり、自らの伝統によって築き上げた枠を打ち破る勇気はない。

68. 光、清らかな霊的な環境、真理、そして進歩を渇望して、その輪を抜け出すのは、軽んじられている者たち、貧しい者たち、素朴な者たち、そして無知な者たちであろう。彼らが、霊性化の時代における私の新たな啓示の時が到来したと感じたとき、鐘を鳴らし、目覚めの呼びかけを響かせるのは、まさに彼らである。

69. 人々は、霊的生活の神秘――すなわち、彼らが不可避的に歩み入らなければならないその存在――を発見したいと願っている。そして、まさにそのために、その存在を知ることに関心を抱いているのである。

70. 人々は、準備の必要性を感じているからこそ、慈悲による光を求め、懇願し、請い求めている。しかし、そのすべてに対する答えとして、霊的生活は神秘であり、それを覆うベールをめくり上げようとする願望は、傲慢であり、神への冒涜であると告げられている。

71. まことに、わたしはあなたがたに告げる。真理と光を渇望する者たちは、その渇きを癒やす泉を、この世では見つけることはできない。 魂が渇望して飲むその知恵の水を、天から降らせるのは、他ならぬわたしである。わたしは、あらゆる霊と知性の上に、真理の泉を注ぎ出し、「秘密」を無に帰させる。なぜなら、もう一度言っておくが、人々のために秘密のベールに身を包んでいるのはわたしではなく、それを生み出しているのはあなたたち自身だからである。

72. 確かに、神は無限であり、あなたがたは に過ぎないことを考えれば、あなたがたの父の中には、あなたがたが決して知り得ない何かが常に存在するだろう。 しかし、あなたがたが永遠において何者であるかを知ってはならないこと、あなたがた自身が自分にとって解き明かせない謎であり続けなければならないこと、そして霊的な生活に入ってからでなければそれを知ることができないようにしなければならないこと――これらは、*私が*定めたことではない。

73. 確かに、かつてはこのような形であなたがたに語りかけられたことはなく、また、霊的知見の光へと踏み込むよう広く呼びかけられたこともなかった。しかし、それは単に、過去の人類が今日感じているような「知る」ことの切迫した必要性を当時感じていなかった上、霊的にも知性的にもそれを理解する能力を備えていなかったからに過ぎない。 たとえ人々が常に探求し、あちこちを詮索していたとしても、それは光への真の渇望というよりは、むしろ好奇心から行われていたに過ぎなかった。

74. 人々がその光へと導く道を見出し、命と知恵の泉の水を授かることができるようになるためには、まずあらゆる外的な儀式を捨て、心からあらゆる狂信を排除しなければならない。 そうして、彼らが心の中で、生ける全能の神の臨在を感じ始めるとき、彼らは自らの存在の最も奥底から、感覚と誠実さに満ち、高揚と温かさに満ちた、未知の新たな敬虔さが湧き上がってくるのを感じるだろう。それこそが、御霊によって啓示される真の祈りとなるのである。

75. これが、光への上昇の始まりであり、霊化への道の第一歩となる。御霊が人間に真の祈りを啓示することができれば、御霊はまた、人間が持つあらゆる能力、そしてそれらを開花させ、愛の道へと導く方法をも啓示することができるだろう。

76. あなたがたは今なお、私の顕現の証しを記した書物から学ぶ必要のある時代、あるいは、より多くの知識を持つ同胞からその知識を授かる必要がある時代に生きている。 しかし、あなた方は、直感的な者たち――霊感に基づいて語る者たち――祈りの中で光を受け取る者たち――この地上で学ぶことなく、科学者よりも優れた能力を持つ者たち――の時代が近づいているとは予想していない。

77. この貧しく、無知で、教養のない人々を通してなされる、私および私の霊界からの啓示は、私があなたがたに告げていることの証拠である――それは、霊から霊への啓示によってその頂点に達する時代の始まりである。

78. まもなく、人類はこの目標に向かって進み、その至高の霊的志の達成を妨げるような障害は一切なくなるだろう。

すべての人には真理を知る神聖な権利があり、誰もその道を阻んではならない。なぜなら、道の果てで彼らを待ち受け、無限の愛をもって抱きしめ、愛をもってそれを渇望する者たち――すなわち、真理への飢えと渇きを持つすべての人々のために、永遠が用意しているあらゆる美しさを彼らに示すのは、他ならぬ私だからである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 316

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. 弟子たちよ：私は師として、再びあなたがたのもとに来ている。私の霊はあなたがたの呼びかけを受け取り、直ちにその願いに応え、あなたがたをその光で包み込むために、その普遍的な光線を送り届ける。

2. 私は、あなたがたに教えを授けるために、準備の整った知性の器官に目を向ける。しかし、私の臨在を受け取るのは声の担い手たちだけではない——いや、私は、幼い生徒から弟子に至るまで、すべての子供たちのそばにいる。彼ら全員が、この瞬間、聖霊の臨在を感じている。

3. 実のところ、私を感じているのはあなた方だけではありません。あなた方の世界のあらゆる場所から、私の子供たちの魂が、最高の医師への渇望を抱いて立ち上がり、その方から慈しみ、癒しの香油、そして力強さを受け取ろうとしているのです。

今や、人類の間に私の御霊が現れる時が来たので、私はすべての子供たちに私の存在を感じさせています。私は自らを制限し、一人ひとりの成長の段階に応じて姿を現し、それによって弟子たちの信仰と愛をかき立てています。

4. 第三の時代は、人類にとって完全に到来した。私があなたがたに御言葉を授けてから約2000年が経過したが、過ぎ去った時間にもかかわらず、その教えは全人類にまだ認識されていない。それは、私がすべての子供たちから愛されていないからである。 それにもかかわらず、すべての人が私に敬意を捧げ、皆が私のものである唯一の神聖な霊を求めている。しかし、私は人間たちの間に一致を見出せない。彼らの中に、同じ信仰、同じ高揚感、同じ認識を見出せない。それゆえ、私は聖霊として来臨し、彼らを私の中に一つにまとめ、私の真理の教え、不変の言葉、愛と正義の律法によって、彼らを完全なものとするのである。

5. 人類の大部分は自らをキリスト教徒と称している。しかし、師はあなたがたにこう告げる。もし彼らが真にキリスト教徒であるならば、その愛と謙遜と平和をもって、すでに他の人々を打ち勝っていたはずである。しかし、私がすでに第二の時代に遺言として残した教えは、人類の心にはなく、人々の行いの中で生き、花開くこともない。 それは埃まみれの本の中にしまわれているが、私は人間に本について語るために来たのではない。本の代わりに、私はあなた方に、私の人生、私の言葉、私の行い、そして人間としての私の苦

しみと死をもたらしたのだ。キリスト教徒を名乗る人類の大部分が、キリストの平和も恵みも持たない理由は、な人々がキリストを手本とせず、その教えに従って生きていないからである。

6. 人々が私の啓示を軽んじたため、不義の王国が人類の中で支配権を握ってしまった。しかし今、私は第三の時代にやって来て、過去の時代における私の教えを彼らに思い起こさせるために来たのである。

7. なぜ現代において不義の王国が支配しているのか。それは、私が、本来は僕であるべき者たちを支配者として見ており、愛と謙遜をもって主であるべき者たちを「奴隷」として見ているからである。

8. 盗みを働き、他者の善意を欺く者を、私は富める者として見出し、暴君は称賛され、おべっか使いたちに囲まれている。人の血で手を汚す者は高い玉座に上げられ、人間の残虐さの犠牲となった者たちは辱めを受ける。

9. 人類よ、私はあなた方の生活をこのように見ている。美しい名を持つ多くの組織があるが、そこから真実性も、愛も、慈善も発せられていない。私は、宗派や教会の懐で聖職者たちが立ち上がり、信徒たちに「善を行いなさい」と告げているのを見る。しかし、まことに、あなたがたに告げる。「善を行いなさい」と言うことを許されているのは、わたしだけである。なぜなら、あなたがたに善を行うのは、わたしだけだからだ。人々は常にこう言うべきである。「善を行おう」。

10. 私は、真実も誠実さも見出せない。なぜなら、人々は支配している悪に染まってしまったからだ。それでもなお、私の律法に忠実であり続け、私の愛が示す道から逸れることなく苦難に耐えてきた者たちがいる。

11. 周囲の状況にもかかわらず、わたしの律法に忠実であり続けた者たちを通して、苦しむ者たちにこう告げる。善に堅く立ち続け、過ぎ去った時代のわたしの模範を思い出し、それを実践しなさい。そうすれば、人間的な弱さを克服することができるだろう。

12. 私は第二の時代に、あなたがたに多くの教訓を明らかにした。その教えは、あなたがたの魂が私のもとへ昇ることができなかったため、私が第三の時代に向けて与えた準備であった。私はイエスとしてあなたがたのところへ来られ、人間として生まれ、苦しみ、そして死んだ。私の犠牲の死によって、私はあなたがたに高き来世への扉を開いた。それは、あなたがたの魂が眠りから目覚め、私のもとへと舞い上がれるようにするためである。私はあなたがたの前

で「七つの封印の書」、すなわち偉大なる「命の書」を開いた。まことに、私はあなたがたに告げる。人類への愛による私の犠牲の死によって、私はその時代に第五の封印を解いたのである。

13. 今日、私は人間としてではなく、聖霊としてあなたがたのところに来る。それは、あなたがたが「霊から霊への啓示」を得られるよう、教えを授けるためである。しかし、この啓示が完全なものとなるために、私は人間の知性を通じて自らを明らかにし始めた。しかし、この啓示は1950年に終わり、その時、これらの生徒たちは弟子となり、霊から霊へと、彼らの師と交わるようになる。彼らは私の目には弟子であるが、人々の目には優れた教師として映るだろう。

14. 今日、私は「第二の時代」の時と同様に、あなた方を準備している。あなた方と彼らとは同じであり、あなた方は私の教えの弟子であり、証人である。

15. 試練が、あなたがたの道のりを包囲してきた。しかし、たとえその道で障害に遭遇したとしても、あなたがたは私に背を向けたり、私を否定したりはしないだろう。なぜなら、あなたがたは私が再び戻ってくるという約束の証人であり、この時代にその約束が果たされるのを目の当たりにしてきたからだ。

16. わたしの啓示の中には、第二の時代と同じ教えが見出せるだろう。しかし、この時代において、わたしは聖霊の光を通して、あなたがたに測り知れない真理を啓示した。そして、霊と霊との対話の中で、わたしはこれからも、新しく、極めて偉大な教えをあなたがたに啓示し続けるであろう。 第六の封印の全内容を、私はこの啓示の時代にあなたがたに明らかにする。それは、私が第七の封印を解く時へとあなたがたを準備させるものである。 そうして、あなたがたは「測り知れないもの」をますます認識するようになるでしょう。そうして、霊界こそがすべての魂の故郷であり、高き来世であなたがたを待ち受ける、無限で素晴らしい父の家であることを発見するでしょう。そこでは、あなたがたが愛と憐れみをもって隣人に対して行った行いの報いを受けることになるのです。

17. この時代、あなたがたの魂は、私の啓示によって満たされている——それが「声の媒体」を通じて受け取ったものであれ、あるいは霊的な賜物によるものであれ。

18. 今こそ、あなたがたは——人間の中に、指針を示し、助言を与え、支えとなってくれる兄弟を一人も見出せないゆえに——私のもとに来るべき時である。なぜなら、私は神聖な十字架を担う者で

あり、あなたがたの運命の試練の中で立ち直らせ、慰めてくれる者だからである。

19. スピリチュアリズムを通じて、あなたがたは自らの運命において「霊的な償い」が何を意味するかを学んだ。そして、わたしの教えに従うことによって、あなたがたはわたしの御心に従って未来へと踏み込み、道中で遭遇する試練を、もしあなたがたが目を覚まして祈っていないならば、それは「目覚めの呼びかけ」であると捉えるのである。

20. あなたがたの良心は、決して眠ることのない裁判官であり、常に、隣人のため、そして自分自身のために執り成し、擁護するよう助言している。

21. なぜ人々は諸民族に苦難と破壊をもたらすのか。なぜ彼らは、他者の命や身近な人々の命を尊重しないのか。それは、精神的な高みへの発展が欠如しており、彼らが私の律法の成就から遠ざかってしまったからである。

22. もし暴力が渦巻く一瞬に、あなたがたは同胞を殺すために殺人兵器を手に取ることができるだろうか？　いいえ、弟子たちよ、たとえ私が誰かを厳しく試したとしても、あなたがたのうち誰も、それを実行できるとは感じないだろう。なぜだろうか？　それは、あらゆる被造物には、その運命において、成就すべき時と、私のもとへ帰還する時が定められていることを、あなたがたが知っているからだ。

あなたがたは、人の血を流した際に待ち受ける償いを覚えている。そして、私の裁きに対するその恐れが、あなたがたに隣人の命を尊重させ、すべての人々が同じ敬意を抱くことを願わせているのだ。 父はこう告げます。今日、不正の支配は頂点に達しています。しかし、聖霊の啓示であるスピリチュアリズムは、世界の隅々までその存在を及ばせ、私の教えがひとたび人々の心に根付いたとき、善意を持つすべての人々の間に、私の正義の王国が君臨するでしょう。

23. この神聖な啓示が、やがてすべての人によって正しく理解されるようになれば、自殺も殺人もなくなるだろう。誰も自らの命を絶つことはなく、ましてや隣人の命を奪うことなどあり得ない。 人間は、自らのあらゆる行動について包括的な認識を持つようになるだろう。しかしその前に、私は引き続き人間を試み続ける。そして、私が人間の知性を通じて教えを明らかにしたように、「御言葉」である私は、すべての子供たちに、私の声を聞き取り、理解できるようにするだろう。

24. 私が「第二の時代」において、すべての目が私を見るようになると言った通り、私は、すべての人が私の完全な真実を目に見え、心で感じられるようにすることで、その約束を果たすであろう。

25. それゆえ、師はあなたがたに、私の教えを広めるというあなたがたの使命は難しくもなく、ましてや不可能なことではないと、絶えず語っているのだ。なぜなら、大地は肥沃になり、あなたがたは善良な働き手として、日々、その耕し方をより良く学んでいくからである。しかし、あなたがただけが私の教えの使者や伝道者になるわけではないことを知っておきなさい。 霊界もまた、現在、人類の中でその使命を果たしている。あなたがたは共に、 の兄弟姉妹たちを、来るべき世代に向けた私の教えの先駆者にしていくことになる。

26. 自然を通じて、あなたがたはこの時代に私の到来のしるしを受け取った。私は今、人類にしるしを与え、科学者たちの注意を喚起している。なぜなら、この1950年、私はすべての子供たちの心を揺さぶるからである。 多くの人々はこれらの試練によって迷うでしょうが、一方で目覚める人々もいます。そして、これらの出来事が終わった後、私は聖霊として現れ、彼らに、この「第三の時代」における私の啓示を授かっている私の弟子たちを訪ねるよう告げるでしょう。

27. 彼らが初心者として過ちを犯したとしても、私は完全なる師として彼らを赦し、あなたがたを介して、現在私が人間の知性を通じてあなたがたに託している「準備」に関する教えを彼らに授けるであろう。 そして、あなたがた全員が愛をもって私の教えの霊的な真髄に深く入り込んでいくのを見れば、私は大きな啓示を告げ知らせることであなたがたを驚かせ、あなたがたは喜びに満ちて私にこう言うだろう。「師よ、あなたの知恵にはまことに限りがない。」

28. 弟子たちよ、善に堅く留まりなさい。それはあなた方を失望させることはない。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが来世に到ったとき、私のもとで善行の収穫を見出すことになる。その時、あなたがたは、その報いがどれほど美しいかを体験するだろう。今のところ、それがどのようなものになるかは分からないし、想像しようともしないだろう。 ただ一つ、こう言っておく。目を覚まし、祈りなさい。言葉や眼差し、祈りをもって、わたしの愛の種を蒔きなさい。慈悲は様々な形で示されるものだから、隣人に対してもそのように振る舞いなさい。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたの救いを願う思いさえあれば、わたしはそれで十分であ

る。そうすれば、あなたがたの願いをわたしの願いとし、苦しむ者たちにわたしの御心に従って与えることができるのだ。

29. 聖霊の弟子たちよ、私はあなたがたをこのように見たいと願う――平和の使者として、肉体と魂の医者として、神聖な徳の種を蒔く者として。あなたがたは、慰めと癒しと平和を蒔くことを決してやめてはならない。そうしてこそ、あなたがたは一日の働きが終わるまで、その使命を果たすことになるのだ。 あなたがたの働きは、わたしの神聖な愛撫によって冠され、わたしはあなたがたの魂を、わたしの祝福という永遠の祝祭の衣で強めるであろう。

30. あなたがたは今、人間の知性を通じて私の最後の教えを受け取っている。その中で、私は1950年以降のあなたがたの団結を求めている。もしあなたがたがこの啓示をもはや持たなくなったら――その時、誰が私の代わりとなるのか。 誰が声を上げ、神聖なる師の教えを思い起こさせるのでしょうか。畏敬と畏怖があなた方を包み込み、私が『』を通じて教えを授けた代弁者たちでさえも恐怖を感じるでしょう。教会の信徒たちに親しまれている指導者たちでさえ、あなた方に私の言葉を伝えることをためらうでしょう。そのとき、あなた方はどうするのですか、おお、弟子たちよ？

31. 民よ：今、私はかつてこの世に残り、私の言葉を証しするために残った者たち、すなわち「第二の時代」の弟子たちについて語ろう。

32. イエスはもはやそこにいなかった。その真理の使徒たちは宣教の旅に出て、町々を訪れ、家々を巡り、遠く離れた兄弟姉妹たちに手紙を書いていた。

33. 神の言葉は、あたかも新たな夜明けのように人類の生活を照らし始め、人々が生きてきた闇を追い払った。

34. 私の教えは、弟子たちの口と行いを通じて、無知、偶像崇拝、そして唯物主義と戦う愛と光の剣であった。 自らの神話や伝統の崩壊が目前に迫っているのを見た者たちからは憤りの叫びが上がった一方で、真理を渇望し、罪の重荷を負う者たちの希望と信仰のために開かれた、光に満ちた道に直面して、他の者たちの心からは歓喜の賛歌が湧き上がった。

35. 霊的な生活を否定していた者たちは、天の御国に関する啓示を耳にして激怒したが、その存在を予感し、そこから正義と救いを期待していた者たちは、父が御独り子をお遣わしくださったことに感謝した。

36. 心の中に、神に誠実に仕え、神を愛したいという祝福された渇望を秘めていた人々は、私の言葉に深く没頭するにつれて、自分

の道が明るくなり、心が澄み渡るのを感じ、霊と心に活力がみなぎるのを感じた。 真の霊的なパンとしてのキリストの教えは、彼らの内にあった計り知れない空虚を埋め、その完全さと深遠な意味によって、彼らの霊のあらゆる渇望を余すところなく満たした。

37. 新しい時代が幕を開け、永遠へと続く、より光に満ちた道が開かれた。

38. 信仰によって照らされ、わたしの言葉を受け入れる者たちの心には、なんと美しい、魂の高揚、愛、そして優しさの感情が芽生えたことか！　一瞬たりとも絶望することなく、あらゆる苦難に耐え、それを乗り越えることを知っていたそれらの心には、なんと大きな勇気と不屈の精神が宿っていたことか！

39. もしかすると、師の血がまだ生々しかったからだろうか？ いいえ、民よ。 の神の愛の物質的な具現であったその血の霊的な本質は、乾くこともなければ、決して消え去ることもない。それは今も昔も変わらず存在し、生き生きとしており、命の温もりを帯びているのだ。

40. その理由は、自らの生涯を捧げ、さらには師の教えを学んだことを証明するために血さえも捧げた者たちの心の中にも、同様に真理への愛が存在していたからである。

41. その気高く捧げられた血は、あらゆる障害や試練を乗り越えたのである。

42. わが言葉の弟子たちの霊性とは、いかに対照的であったことか。それは、古い伝統に固執する狂信者たちや、ただ肉体の快楽に身を委ねて生きる異教徒たちの、偶像崇拝、物質主義、利己主義、そして無知とは、なんと対照的であったことか！

43. 神の律法が、イエスの口から語られたほど明確に示されたことはかつてなかった。それゆえ、世界はその根幹から揺さぶられ、多くの民は心から古い伝統を捨て去り、キリストにおいて人々に理解され得るようになった御言葉に身を捧げた。

44. これほど偉大な教えを明らかにし、これほど偉大な業を成し遂げた人物を、世界がかつて迎えたことはなかった。

45. 当時、人はどれほどの謎を解き明かしたことか。どれほどの光が、その魂と心と知性を満たしたことか！ 師の、優しさに満ちた言葉、その賢明で深遠でありながら明快なたとえ話； 理解を助けるために子供や花を用いたあの比喩、神にしか成し得ない、世が「奇跡」と呼んだあの力強い御業——これらすべては、人々の心の中に存在していた、砂漠のように乾いた畑を肥沃にする、新たな朝露のようであった。

46. それまで、人々は、主が創造されたすべてのもの、たとえ最も小さな存在であっても、そこに宿る霊的な意味をまだ発見していなかった。彼らが子供を腕に抱き、その瞳の奥深くを見つめ、無邪気さと直感的な知的好奇心に満ちた質問を耳にすると、その子供以上の存在である魂、ある存在の気配を感じたのである。

47. 彼らが、茂みに隠れて育つ可憐な植物を観察するとき、その植物の中に、成長し、その美しさの花を咲かせ、創造主が与えた使命を果たそうとする衝動を即座に見出した。

48. こうして、あの人々は目覚め、まるでかつて見たことのない世界に生きているかのような感覚を抱いた。それは、彼らが「盲目」であり、目があるのに見えず、「耳が聞こえない」状態であり、耳があるのに何も聞こえなかったからである。 しかし、私は人々のところへやって来て、視力、聴力、声、運動能力、意志、知性、そして感覚能力を彼らに与えた。それは、肉の牢獄に閉じ込められた彼らの魂が、その暗い牢獄から自らを解放し、「永遠の命の書」を読み解くことを学ぶためであった。

49. さて、私の言葉を初めて聞く皆さん、自問してみてください。この世には、神の啓示を素朴かつ明快に解き明かす人々が、今なお存在するでしょうか？「いいえ」と、あなたがたは心の底から私に答えるだろう。なぜなら、世界が科学において一歩前進するたびに、それは霊性からさらに遠ざかる一歩であることを、あなたがたはよく知っているからだ。すべての存在が内包する意味や霊的な本質を求める代わりに、彼らが関心を寄せてきたのは、物質とその純粋に物質的な力の発見であったからである。

50. 私がなぜ人々の元に戻ってきたのかを理解し、私の言葉があなたがたの心に深く浸透するようにしなさい。なぜなら、この時代において、人類の間で、霊性化と高みへの発展という新たな回心の奇跡が現実のものとなるはずだからである。この時代の良き弟子となるために、私から学びなさい。

51. ここに、私が今、あなたがたに遺す私の教えの書がある。そこには、あなたがたの間で私の業を継承していく記録が記されている。もしあなたがたが、もはやこの形で私の声を聞くことができなくなったとしても、私の教えを読み返し、その中に常に新たな啓示を見出すことになるだろう。

52. 私の教えを読むとき、私の知恵、偉大なメッセージ、そして霊感がお前たちに与えられる。霊界からの助言を、お前たちはそれを受け取ったときと同じ芳しい香りと共に思い出すだろう。 この期間は、研究、解釈、準備に捧げられるものであり、あなたがたがそ

れを最も考えていない時に、霊感によって受け取った私の教えを雄弁に再現する者たちが、あなたがたの中に現れるだろう。しかし、大衆から信じられるようになるためには、彼らの準備はどれほど徹底したものでなければならないことか。 今日、あなたがたは、恍惚とした様子で語りかけるこれらの「声の伝達者」たちを見つめている。たとえ一部の人々の不信がどれほど大きかろうとも、あなたがたは、これらの伝達者を通じて私の啓示が可能であると信じている。しかし、かつて人々が、私の弟子たちが平常の状態で神聖な啓示を宣べ伝えるのを見れば、彼らを疑うようになるだろう。

53. あなた方の教会の中でも、私が霊感を与えてあなた方に語っているのを聞いて疑いを抱く者たちが現れるだろう。そして、あなた方 は、信仰を見出すために、十分な準備と魂の清らかさを備えていなければならない。 このように、私が啓示し続けるのだ。それが、あなた方の言葉を聞く一人の者であれ、大勢の群衆であれ、また、聴衆が選ばれた人々であれ、無学な者たちであれ、いわゆる学者たちであれ――ある者に対しても、すべての人に対しても、私はあなた方の知性を通じて自らを啓示する。もしあなた方が準備を整えることを知っていれば、私は、あなた方の言葉を聞く者たちが求める証拠を与えるだろう。

こうして、私は三位一体・マリア的霊の業、すなわち聖霊としての私の啓示を、人々の心に引き続き蒔き続けていく。そうすれば、あなた方は、私とあなた方との結びつきが1950年の終わりに断たれるわけではないことを理解するだろう。なぜなら、神とその子供たちとの絆は永遠だからである。

54. 第三の時代において、私は自らの啓示の明瞭さをもって、人間にとっては不可能なこと、すなわち人間の知性を通じて自らを伝えることを実現した。弟子たちよ、私を理解せよ。なぜなら、あなたがたを待ち受ける霊と霊との対話において、あなたがたは永遠に私の臨在を感じるようになるからだ。 もしあなたがたが備える術を知っているならば、もはや私にこう言うことはなくなるだろう。「主よ、なぜ来られないのですか？　なぜ私の苦しみを見てくださらないのですか？」と。あなたがたは、もはやそのように私に語りかけることはなくなる。まことに、弟子たちよ、私はあなたがたに告げる。このように私に語りかける者は、自らの無知と準備不足を明白に証明することになるのだ。 私は弟子たちが私から離れているのを見たくはない。あなたがたが心の中で私にこう言ってくれることを願っている。「師よ、あなたは私たちの間にいます。私たちの魂はあなたを感じています。あなたの知恵こそが、私のインスピレー

ションの源です。」これこそが、私があなたがたから聞きたいと願う真の告白である。

55. 私は、この新しい使徒の群れの中にトマスのような者を見たくはない。私は、あなたがたの中にヨハネのような献身を見たい。すなわち、あなたがた全員が常に魂の中で私を感じていることを望む。しかし、私が望まないのは、あなたがたが私に対して奴隷のように感じることであり、そうすれば、あなたがたは新たな狂信に陥ってしまうかもしれないからだ。

56. 私の教えに従って使命を果たす時には、精神を全うして取り組みなさい。そして、この世の義務を果たす時には、それらに細心の注意を払って専念しなさい。もう一度言うが、私に対して奴隷のように感じるべきではない。 私の教えが伝える真の霊性を持ち、神のものは神に、そして「皇帝」のものは「皇帝」に捧げなさい。そうすれば、あなたがたは平安を得て、立ち止まることなく使命を果たす中で幸せになるだろう。あなたがたは、自分が私の証人であることを大々的に宣伝するのではなく、行いによって、私の真理を蒔いていることを証明するのだ。

57. 1950年以降、私がこの形でもはやあなたがたに私の言葉を与えなくなっても、私は休息するわけではない。なぜなら、私の普遍的な霊は決して休むことがないからだ。 私は永遠の活動そのものであり、常にすべての被造物の完成のために戦っている。私は子供たちの成長における旅の伴侶であり、彼らの助言者である。そして、各成長段階の終わりには、私の律法に従って、彼らが使命を果たした成果を受け取るのは、他ならぬ私である。

58. 私は完全なる園丁であり、果実がまだ青いうちはそれを摘み取ることはない。私は嵐と化して木々を揺さぶり、その悪い果実を落とすだろう。しかし、良い果実は私の愛が守り、私の霊は彼らの進歩と成長を永遠に喜び続けるだろう。

59. 山の頂上へと続く道を登り続けなさい。一歩一歩進むごとに、あなたがたは私の教えをより深く理解し、神のメッセージの解釈においてますます完成されていくであろう。

60. 霊の言語とは何だろうか。それは愛である。愛は、すべての霊の普遍的な言語である。*人間の*愛もまた語っていることに気づかないのか。多くの場合、言葉は必要とせず、行動や思考を通じてよりよく語られる。人間の愛がこれほどまでに表現されるのであれば――あなたがたがわたしの律法において完成されたとき、その言語はいったいどのようなものになるだろうか。

61. 弟子たちよ、確かな足取りで進みなさい。試練や不運に直面しても、臆してはならない。わたしがあなたがたに先立ってこの道を歩み、その足跡によってこの道を祝福して残してきたことを忘れるな。

人類のために祈りなさい。それがあなた方の使命である。慰めと癒やしの尽きることのない泉であるわたしのもとに来なさい。そして、この贈り物をあなたの隣人にも届けなさい。

62. この瞬間、わたしはわが子らの心に深く入り込み、愛の種を蒔いている。しかし、どの心が、その種を芽吹かせる肥沃な土壌となるだろうか。今日、あなたがたはまだそれを知らない。だが、あなたがたが立派な働き手となれば、病める者、悪霊に取りつかれた者、罪深い者、愛と平和を渇望する者たちに、わたしの教えを蒔く術を悟るようになるだろう。

63. あなたがたは、すべての人々の心に、あなたがたの魂の中でますます大きくなっていく、わたしの言葉という計り知れない宝を植え付けなければならない。

64. あなたがた全員が「神の園丁」の働き手であり、あなたがた全員が私の愛の畑の協力者であるのは、あなたがた全員が私の業の頂点を喜び楽しむためである。

65. 天国で祝宴が開かれるから、あなたがたは皆、わたしの食卓に着くことになる。あなたがたは皆、わたしのたとえ話に登場する賢い乙女たちとなる。そこには放蕩息子などおらず、あなたがたは皆、わたしの王国を受け継ぎ、最も美しく、心を高揚させるコンサートを耳にすることになる。あなたがたの魂は、ついにあなたがたの父であり主である方の偉大な愛を理解するゆえに、最大の幸福を体験するだろう。

私の平安が、あなたがたとともにありますように！

教え 317

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. 愛する弟子たちよ。私はあなたがたが準備を整えているのを見ている。あなたがたは、私の言葉を聞き、理解するという恵みを得るために、霊的に心を整えたのだ。あなたがたの歩みの道において、あなたがたは私の臨在を授かっていた——それが奇跡をもたらしたにせよ、私の保護を与えたにせよ、あるいはあなたがたの良心を通して語りかけたにせよ。私はあなたがたの心に宿り、あなたがたの導き手であり師となることを望む。

2.「わたしは道であり、真理であり、命である」と、わたしは再びあなたがたに告げます。 わたしの言葉は、あなたがたの魂を養うパンであり、わたしの臨在は、あなたがたが切望する平安をもたらします。あなたがたは、この世でどれほどの試練を経験してきたことでしょう！ あなたがたは地上の楽しみの中に平安と慰めを求めましたが、それを見つけられなかったとき、わたしのもとに戻ってきて、こう言ったのです。「主よ、私たちの魂の平安と慰めは、あなたのもとにあるのみです。」

3. イスラエルよ。この試練の時代に、祈りの中でわたしを求めることを学べ。もし試練がさらに大きくなったとしても、輝く灯台として、あるいは救命ボートとして、わたしを求めよ。わたしを信頼せよ。わたしはあなたを安全な港へと導くからである。わたしを求める者は皆、わたしを見出す。わたしへの信仰をもって立ち上がるすべての魂は、救いを得る。

それゆえ、わたしはあなたをこの世に遣わし、こう告げたのだ。「人々のために見張り、祈りなさい。彼らはわたしの言葉を聞き入れなかったが、イスラエルの民だけが、目覚めと備えのためのわたしの教えに耳を傾けているからだ。」そして、主は人類に向かってこう言われるだろう。「ここに、あなたの救いの管理者がある。 ここに、わたしの弟子であるイスラエルの民がいる。彼らは、あなたのもとへ向かい、あなたにわたしの教えを授け、永遠の命のパンを与えるだろう。あなたが、わたしが人間の知性を通じてそれを授けた間は、それを受け入れようとしなかったのは、この時代にわたしを現すためにわたしが選んだ手段が、あなたには不完全に見えたからである。

4. どれほど多くの者が私の言葉を聞いたか。しかし、それを理解できなかったため、彼らは道から逸れてしまった。 私は彼らを再び呼び寄せ、私の真実の証拠を与えよう。そうすれば、彼らは私を信

じざるを得なくなるだろう。なぜなら、私が彼らの心に蒔いた「命と霊化の種」が、信仰によって花開くからである。この真理は彼らの内に輝き、彼らは周囲の人々の前で、私が人々の間にあり、人間の知性を通じて自らを現したことを公に告白するだろう。

5. 人々がどうして私の業を裁き、私の最も内なる裁きに踏み込むことができようか。しかし、私は彼らに自由意志、すなわち独自の意志を与えた。そして、この賜物ゆえに、私は彼らを試練にさらしたのだ。 信じた者たちは、その試練に打ち勝ち、信仰を強め、私の啓示の真髄を糧として、霊の領域へと高みへと舞い上がったのである。

6. まことに、あなたがたに告げる。わたしの霊とあなたがたの霊との出会いは、来世においてすでに起こったのである。 私は、あなたがたに、祈りの梯子を登り、この純粋さをもって霊的な世界で私と出会うことによって、私を求めるよう教えました。なぜなら、この時代において、私は人間として現れてはいないからです。私はただ、被造物たちの知性と心を利用し、それらを通して自らを明らかにしたに過ぎません。

7. 私がこの教訓の書を与えたのは、最後に加わった者たちもまた、私の啓示を知ることができるようにするためである。 私は教訓を繰り返してきました。多くの人々が私の業に深く入り込み、そのすべてを初めから知りたがっているのを見てきたからです。それゆえ、私はあなた方のために教えを繰り返したのです。私は、あなたがたが自らの道において神聖なる師と出会えるよう、エリヤがロケ・ロハスを通じて第三の時代を開いたと、あなた方に告げてきました。

8. 愛をもってわたしに耳を傾け、わたしのもとに来て、わたしの言葉の本質を受け入れるために心を開く者は幸いである。その者は光を得るからである。この知恵によって、その者はわたしの業を理解し、1950年以降にそれを実践する方法を学び、正当に「わたしの弟子」と名乗ることができるだろう。

9. 私はあなたがた全員を「私の弟子」と呼びたい。しかし、良き弟子とは、教えに忠実であり、師を模範としなければならないことを覚えておきなさい。

10. あなたがたは、この地上における霊的な闘いが激しいことを心に留めている。そして、あなたがたの魂は、この世の彼方で待ち受けるあの生へと入ったとしても、さらに高みへと昇り続けるために闘い続けなければならないことを、予感させている。

このことについて考えてみると、人間の命が終わっても安らぎがないという考えに、ついある種の悲しみを覚えるでしょう。この悲しみは魂から来るものではなく、その性質が永遠ではないため弱く、信仰心が薄い「肉体」から来るものであり、永遠を前にして絶望せざるを得ないのです。

11. 魂にとって、永遠は最大の祝福である。魂が至福について考えるとき、それが決して終わらないことを知っている。また、贖罪について考えるとき、自分の過ちを償い、完全になるための十分な時間があることを知っている。

12. あなたがたの地上的性質が理解し、捉えているような「精神的な安らぎ」など存在しない。 魂が待ち望む安らぎとは、活動であり、善行を重ねることであり、一瞬一瞬を活かすことである。そうして魂は安らぎを得、自責の念や苦しみから解放され、善を行うことによって活力を取り戻し、創造主と兄弟姉妹を愛することによって安らぎを得るのだ。

13. まことに、わたしがあなたがたの魂を、あなたがたが地上で想像するような安らぎを得るために何もしないままにしておいたならば、絶望と恐怖の闇が魂を支配してしまうだろう。なぜなら、魂の命と光、そしてその最大の幸福とは、働き、闘い、絶え間ない活動そのものだからである。

14. 地上から「霊的な谷」へと帰還する魂は、肉体の疲れをその内に刻み込んで持ち帰り、来世を休息の場として求め、安らぎ、忘れ、人生の闘いの痕跡を消し去ろうとする―― そのような魂は、最も不幸な存在であると自らを感じ、その無気力から目覚め、自らの過ちに気づき、私が今まさにあなたがたに語った通りの霊的な生活――すなわち、愛、活動、そして完全性へと至る道における絶え間ない闘い――へと高まるまでは、平安も至福も見出すことはできないだろう。

15. それに対して、この地上において、あなたの魂は重苦しい気持ちにならざるを得ない。なぜなら、ここにはすべてが限定的で儚いものばかりだからだ。ここでは、人間の生活の中に存在する多くの罪や不正から、魂は真に癒やされなければならない。 しかし、それは肉体が求めるような休息への欲求ではなく、あらゆる悪に対する嫌悪、あらゆる不正直なものへの拒絶、そして不道徳や正当な理由のない事柄のために、繰り返し戦わされ、苦しめられ続けることへの嫌気がさしているのだ。

16. もし人々がこの現世での生活を清らかなものとし、自らの体を魂が宿るにふさわしい住処として整えていたならば、疲労など知

る由もなく、嫌悪や嫌悪感も生じなかっただろう。それゆえ、肉体から離れた魂は、休息による回復を渇望して霊界にやってくることはなかったはずである。 それどころか——魂は、日々の業、すなわちこの世で決して止めることができなかった、死さえも終わらせることができなかったその闘いを続けるために、力と信仰に満ちて到着することになるだろう。

17. 戦いが終わり、私のすべての子供たちが永遠に霊的な故郷で一つになったとき、私は、あなたがた一人ひとりが神の業に建設的あるいは回復的な形で参与したことを称え、*創造主としての*私の無限の 幸福を、あなたがたにも*分かち合ってもらいたいと*願っている。

18. 霊的存在となって初めて、あなたがたは、私が太古の昔から創造してきたすべてのものの中から、失われたものは何一つなく、すべてが私の中で復活し、すべてが命を得て、新たに生まれ変わることを発見するだろう。

19. したがって、たとえ多くの存在が長い間迷い、多くの者が生命の業ではなく破壊的な業を成し遂げていたとしても、彼らは、その迷いの時間は一時的なものに過ぎず、彼らの業がどれほど悪かったとしても、永遠の命の中で償われ、彼らが私の絶え間ない創造の業の協力者へと変容することを悟るだろう。

20. 人類が地上で経験したような、罪と闇の数世紀など、永遠、すなわち終わりのない発展と平和の時代と比べれば、何ほどのものだろうか。あなたがたは自由意志によって私から遠ざかったが、良心の導きによって、私のもとへ戻ってくるだろう。

21. 「肉」は、あなたがたが「良心」と呼ぶ内なる光の導きに従うにはあまりにも頑固で反抗的であり、本能や情欲を奔放に解き放つよう誘う衝動に従うほうが、はるかに容易だったのだ。

22. 人類は長い間、決して沈黙することのない良心と、物質主義を崇拝の対象とし、その法則としようとする「肉」との間の激しい葛藤の中で、この地上の道を歩んできた。しかし、その戦いは今も続いており、今日に至るまで、物質も精神も勝利を収めてはいない。

23. あなたがたは、誰が勝利するのかと私に問う。そして私は、魂を通じて「肉」の中で成し遂げられる良心の絶対的な勝利まで、もはやそう長くはかからないと告げる。

24. これほど多くの闘争と長い葛藤の末、人間的で儚い肉体は、私の永遠の光である霊に屈服せざるを得ないことを、あなたがたは予感しないのか。

25. これほど長い葛藤の末、人間はついに、自らの本質の中で振動し、生きているあの声と霊的な生命に対して、かつてないほどの感受性と柔軟性を獲得することになるのだと理解せよ。

26. あなたがたは皆、気づかないうちにその時点へと向かっている。しかし、いつか地上で善と正義の勝利を目にする時、あなたがたは、その戦い、激闘、そして試練の理由を理解するだろう。

27. 私は、この準備を経て、あなたがたが自らの道を善き模範で彩り、私から受け取り、聞いたすべてのことを証しする姿を見たいと願っている。

28. この啓示がひとたび終われば、あなた方は私の教えを超自然的であり、理解の及ばないものだと見なし、「人類がこれほどまでに発展したこの時代に、主が私たちの母国語で語りかけてくださったとは、どうして可能だったのだろうか」と自問するでしょう。

29. 弟子たちよ、聞きなさい。かつての時代にも、わたしが来て、すべてのわが子らに自らを現すと記されていた。そうして、人々に霊性の実践へと導くことで、人間社会に平和の時代が訪れるよう準備を整えるのである。 今、この預言の成就の時が到来した。今日、私は霊界に囲まれながら、あなたがたを準備している。その一方で、あの世にいる他の魂たちは、私の指示を待ち、来るべき時代に人々の間に住むためにやって来るだろう。 その中には、諸民族を統治する者たちがいる——すなわち、その偉大な徳によって、人々が私の戒めに従うよう導き、彼らを正しい道へと導く者たちである。彼らはあなたがたの後にやって来るだろう。

30. わたしの業はますます拡大し、やがてすべての魂がわたしの律法の成就のもとで一つとなり、この地上の住まいが完全なる世界となるまで続く。 その時代にここに住む者たちは、すべての被造物の中に私の愛が働いているのを感じ、より良い世界で生きるための準備をするだろう。この地上の世界は、あなたがたの魂にとって一時的なものに過ぎず、魂は完全性を求める中で、他の領域、来世の他の次元へと向かっていく。

私が「わたしの父の家には多くの住まいがある」と語ったことを思い出してください。そして、あなたがたがわたしの教えをより深く理解するようになったこの発展の時期において、わたしは「父の家には無限の数の住まいがある」と語りました。ですから、この世を去る時点で、すでに最大の霊的高みに達したなどとは決して思わないでください。 いいえ、弟子たちよ。この惑星でのあなたがたの成長の段階が終われば、私はあなたがたを他の住まいへと導き、こうして、あなたがたの完成に向けた無限の階段を、永遠に導いてい

くのです。私を信頼し、私を愛しなさい。そうすれば、あなたがたは救われるでしょう。

31. 立ち止まってはならない、民よ。道を知っているのだから、急ぎなさい。わたしの律法を全うし、愛をもって生き、隣人に慈愛を尽くしなさい。そうすれば、わたしがあなたがたに授けたすべての賜物は、人々の道を照らす光となるだろう。

32. あなたがたは、私が「あなたがたは私の霊の一部である」と告げたにもかかわらず、なぜ時折、自分自身や私を疑うのか。なぜ、あなたがたが私の資質を備えていることを疑うのか。あなたがたは、過去の過ちを償うためにこの世にやって来たのだ――それなのに、なぜ道中で試練に遭遇すると、不平を言うのか。

33. こうして、私はあなたがたを準備し、弟子たちよ、私の教えの書をあなたがたの心に刻み込むのである。もしあなたがたが苦しみの中で慰めを渇望するなら、心の中で私の言葉を探し求めなさい。そうすれば、それは水晶のように澄んだ水の泉のように、そこから湧き出るだろう。

34. 私は、あなたがたの間にとどまる最後の年であるこの1950年に、あなたがたに教えを授けている。私があなたがたに求めてきた霊性への到達を、私は望んでいる。あなたがたは父を理解し、霊的に悔い改めた。あなたがたは私を愛し、ある者からは魂を覆っていた不浄な衣が脱ぎ捨てられ、またある者たちは、清めを求めて努力しているのを見ている。 私の教えに従うためには、あらゆる物質主義を捨て去らなければならないことを忘れないでください。

35. わたしは、あなたがたが良心の内にその光を受け入れ、それに導かれてあらゆる不完全さを取り除き、わたしの言葉によってあなたがたの魂の中に発見される美徳が花開くように、その光をあなたがたの良心に置いた。わたしは、あなたがたを愛にも、痛みにも敏感な存在として創造した。「互いに愛し合いなさい」と私が言ったのは、あなたがたが私の言葉をその純粋なままに感じ取れるようにするためである。あなたがたの平和を周囲の人々と分かち合い、彼らが苦難の杯を飲み干せるよう助けなさい。

36. 私がこう言ったことを思い出してください。「私の目には、あなたがたは皆、私の子供たちである」。私があなたがたに成長を許し、その過程であなたがたが苦闘に直面するのは、私があなたがたが完全さを達成することを切に願っているからです。

37. 今こそ、あなたがたに託された霊的な働きを始める時である。愛と慈悲の種が、あなたがたの心の奥底に隠されたまま生きているために、畑がいかに実を結ばないかを見てほしい。

38. 私は、あなたがたを善へと励ますために、教えをもたらして参りました。 私は、あなたがたが私の光と慰めのメッセージを携えて隣人のもとへ赴けるよう、愛の道へと導いている。私の説教の時間が長く感じられたとしても、それはあなたがたが私の教えの内容を心に深く刻み込み、その真意を決して歪めないようにするためであった。なぜなら、あなたがたこそが「新しいイスラエル」――すなわち、私の真理を証しする民であるからだ。

39. 一歩一歩進むたびに、良心の声があなた方を呼び覚まし、人類の中であなた方には崇高な使命があり、果たすべき偉大な任務があることを悟らせてくれる。

40. あなた方の内には、あなた方を倒れさせない力と、眠りにつかせない声が存在しないだろうか。 もしあなたがたが道から外れたり、使命を忘れたりしたとき――心の安らぎを奪うような不安を感じないだろうか。なぜなら、この力、この内なる光、内側から語りかけるこの声こそが、あなたがたの良心であり、そこには私の律法とあなたがたへの使命が消えることのない形で刻まれているからだ。

41. この内なる導き手に愛をもって導かれてください。まことに、私はあなたに告げます。あらゆる精神的な不安は消え去り、その代わりに深い平安と真の満足が残されるでしょう。

42. もしあなたがたがこの貴重な瞬間を活かすならば、明日、失われた時間を嘆いて涙を流すことも、過ちを悔やむことも、またつまずくこともないでしょう。 あなたがたの善行こそが、わたしを証ししなければならないのだということを忘れないでください。それとも、あなたがたの同胞が、不完全な行いを通してさえ、わたしの真理を認識できるとでもお考えでしょうか。「木はその実によって知られる」ということを忘れないでください。

43. 自分たちが少なすぎて取るに足らない存在だと恐れるな。あなたたちと共に、目に見えない光の存在たちの軍勢が進み、扉を開いてあなたたちが通り抜けられるよう道を整え、その過程で障害を取り除き、困難を乗り越えてくれるのだ。

44. 闇の世界に対抗して、あなた方はこの光の世界を頼りにするでしょう。戦争の影響を乗り越えるために、あなた方は平和の天使を頼りにするでしょう。病気、疫病、そして死に対しては、人類に慈悲と慰めの香油を注ぐ準備ができている、目に見えない存在たちの慈悲があなた方と共にあります。

45. わたしの弟子たちは、決してわたしから守られずにいたことはなく、光と調和の領域に住む存在たちに見捨てられたことも決してない。

46. 第二の時代の私の弟子たちに、師の神聖な言葉を思い出し、それをすべての世代への遺産として書き記すよう、誰が霊感を与えたのか。 誰が私の弟子たちを、未知の道をたどって遠く離れた都市へと導いたのか？　看守たちが眠っている間にペトロを牢獄から解放したのは誰か、そして、私の真理を伝える使徒たちが犠牲の死を迎える最も厳しい時に、彼らの傍らに立っていたのは誰か？　それは、人々が「天使」と呼んできた、あなた方の兄弟姉妹である霊的存在たちである。

47. ああ、もしあなたがたが、その影響があなたがたの人生にどれほどの価値をもたらしているかを知っていたなら！ あなたがたは、彼らの呼びかけや示唆に対して、より前向きに、 より謙虚に、そしてより従順になるだろう。 しかし、あなた方は信仰の薄い存在である。なぜなら、霊的な生活を肉体の五感で触れて確かめ、目で見ようとするからだ。そして、それが叶わなかったため、あなた方は自分の信仰に裏切られたと感じてしまったのである。

48. まことに、わたしがあなたがたに告げる。もしあなたがたの信仰が確固たるものであれば、肉体の感覚で霊的な存在を感じたいという欲求は抱かなかっただろう。なぜなら、その場合は、絶え間なくあなたがたの周囲で脈打っているあの世界を、その繊細な感受性をもって知覚するのは魂そのものだからである。

49. そう、人類よ、もしあなたが霊界から遠く離れていると感じるとしても、あの存在たちは人間から遠く離れているとは感じない。彼らにとって、距離も、境界も、障害も存在しないからだ。彼らは霊界に生きている。それゆえ、魂の上昇的発展と完成を最高の使命とする人間たちの生活から、遠く離れているはずがないのだ。

50. あなた方は皆、兄弟姉妹であり、すべての魂は同じ性質を備えている。あなた方の肉体さえも、他の人々と同じように造られている。それなのに、なぜ人類よ、あなたは社会階級や国家に分断されてしまったのか。私はあなたをたった一人の子供のように愛しており、同様にあなたを赦している。しかし、この恵みにふさわしい者となり、自らの救いを勝ち取れ。 やがて、あなたがたは私の教えを深く考え、私の愛に触発されて互いに愛し合い、互いの過ちを非難することはなくなる時が来るでしょう。

51. あなたがたの歩みの中で、愛をもって助言し、正しなさい。しかし、隣人に対して自分たちが優れているなどとは思ってはならない。ただ愛し、私が教えたように正義をもって生きなさい。

52. 備えなさい。明日、あなたがたは人類の導き手であり、教師となるのだから。私があなたがたに語っているその時代には、私が教えたように、愛をもって私の教えを伝えていかなければならない。あなたがたは、それによって主に喜ばれると信じて、隣人を厳しく裁いてはならない。 まことに、あなたがたに告げる。たとえあなたがたが私の名において人々を教えようとも、罪を犯すことから免れることはない。目を覚まし、祈りなさい。しかし、もし私が、あなたがたが愛なくして隣人の過ちを罰しているのを見たら、私は良心を通してあなたがたに語りかけ、第二の時代のようにこう言うだろう。「罪のない者こそ、最初に石を投げよ。」

53. わたしの教えは、いつの時代にも通用するものである。 今、私はあなたがたが私をよりよく理解できるよう、過去の時代の教訓を改めて繰り返している。あなたがたが私を聞くように、第二の時代の弟子たちも私を聞いていた。あなたがたが今、私の教えにおいて最初の歩みを踏み出しているように、 彼らもまたそうであった。あなたがたが自らの不完全さを克服しようと奮闘しているように、彼らもまた奮闘し、ついに勝利を収めた。

54. あなたがたが、わたしが与えた賜物を疑うように、あの弟子たちの中にも、師が自分たちを見ていないと思い込み、密かにその言葉を試そうとした者たちがいた。 彼らが私の模範を手本としたとき、その準備の成果は彼らの行いに現れました。しかし、彼らが目を覚まして祈らなかったときは、彼らを通して奇跡は起こらず、彼らは心に疑いを抱いたまま私のもとに戻ってきました。それでも、私の言葉の真実を改めて聞いたとき、彼らは過ちを悔い改め、涙ながらに、もう二度と私を疑わないと誓ったのです。

55. 同様に、弟子たちよ、私はこの時代におけるあなた方の姿も見ています。あなた方のうちには、信仰と善行という目に見えない武器を持ち、その使命を果たす中で私の言葉が明らかにされるのを見ている者たちがいます。 しかし、私の子供たちの中には、私の律法に従うことなく、人々の目の前で、自分たちが私の使者であることを明らかにする奇跡を私に与えてほしいと要求した者たちもいた。そして、それが与えられなかったとき、彼らは私を疑い、私を否定した。

56. わたしは彼らを赦す。なぜなら、たとえ今日彼らが疑っていても、明日には信じるようになるからだ。たとえ今日、わたしの教

えを受け入れなくても、明日には、この啓示の真実を告白し、証しするために、自らの命を捧げるようになるからだ。

57. わたしは、わたしの律法に従って生きる者たちと、それを拒む者たちとを祝福する。なぜなら、後者たちこそが、わたしの教えの真意を理解したとき、人類に偉大な証しを与えることになるからだ。彼らは、わたしの神聖な霊が、力と真実と愛をもって、彼らの同胞たちに注がれるための、確かな手段となるからである。

58. このように、私はあなたがた、弟子たちを喜ばしく思う。父は、あなたがたが経験することになる試練の時期に備えて、このようにあなたがたを励ましているのだ。

59. 良心の声に常に耳を傾けなさい。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたはこれからも私の教えを受け続けるであろう。1950年にこの啓示は伝達者を通じて終わるが――良心に耳を傾ければ、あなたがたの神との交わりは永遠のものとなり、弟子たちをその師から引き離すものなど、何一つ、誰一人として存在しなくなるであろう。

60. わたしの言葉を信じなさい。まことに、あなたがたに告げる。すべての預言は、預言者たちの満足と、イスラエルの民の喜びのために成就するであろう。

61. 目を覚まし、祈りなさい。時が移り変わるからだ。わたしの愛の律法と一つになりなさい。そうすれば、あなたがたの道を阻む試練などない。わたしがイエスにおいてあなたがたに示した模範に従って生きなさい。そうすれば、あなたがたは確かに乗り越えることができる。 誰も、あなたがたの唇から私の言葉を封じ込めることはできない。まことに、あなたがたに告げる。断頭台でさえ、あなたがたに私の律法を忘れさせることはない。なぜなら、犠牲となった子羊の記憶があなたがたを強くし、あなたがたは私の神性に自らを捧げるようになるからだ。

62. あなたがたのうち、どれほど多くの者が、最も愛する人々を後にし、あなたがたを通じてわたしの言葉を聞くべき人々のもとへ向かうことになるだろうか。あなたがたのうち、どれほど多くの者が、わたしの教えへの愛ゆえに、物質的な財産を捨て、極度の貧しさの中で生きるようになるだろうか。しかし、もしあなたがたの肉体がこの世の財産を欠くことになっても、わたしは永遠に、あなたがたの魂をわたしの愛で飾ってあげよう。

しかし、心配するな、おお、愛しき子らよ！　私は、あなたがたの誰に対しても、犠牲的な死を求めることはない。私はただ、私の言葉の中でこう告げただけである。「あなたがたが私の業のために

捧げるものはすべて、百倍になって返ってくるであろう」。善行を道に蒔きなさい。そうすれば、来世においてその実を刈り取ることになるだろう。

63. こうして、キリスト教世界がイエスの受難を記念するこの朝、私はあなたがたを準備させている。弟子たちよ、あなたがたもまた、今まさに、常に現存するメシアの犠牲の死を体験し、神なる救い主の模範から力を得ているのだ。

64. イスラエルの民よ、人類の光となりなさい。私がイエスを通して与えた「再び来る」という約束を人々に思い起こさせ、私がその言葉を守ったことを伝えなさい。

65. それらの預言は人々によって忘れ去られてしまったが、私は新たな使徒たちを通して、それを彼らに思い起こさせている。

66. 弟子たちよ。わたしの御言葉が宣べ伝えられるとき、わたしの父なる愛と平安がそこにある。まだ涙の谷に住む者たちよ、それを心の中に受け入れてほしい。

67. 忍耐をもって、あなたがたの苦難の杯を飲み干せ。この苦しみが終われば、あなたがたは永遠に、わたしの愛のパンとぶどう酒を味わうことになるからだ。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 318

1. わたしの教えを渇望してここに来る者たちよ、幸いである。わたしの言葉の中に永遠の命の宝を見出すことを知る者たちよ、幸いである。しかし、わたしの言葉がこれらの伝達者たちを通じて語られることが一度終わっても、人類の間に使者として留まり続けるために、わたしの教えによって力を得ている者たちは、いったい誰なのか。 それは、私の律法に背いたことによる古い汚れを清め、苦難の杯を飲み干し、大きな苦難の中からやって来て、私の教えという水晶のように澄んだ水で魂を清める、あなた方なのです。

2. 今日、この集会に集うとき、あなたがたは私の御前に立つに値しないと感じているだろう。しかし、私はあなたがたが新たに生まれ変わっているのを見ている。この清めこそが、あなたがたを私の御前にふさわしい者とするのだ。私の愛撫を感じ、私の愛を感じなさい。それこそが、あなたがたの苦しみを癒やす香油なのだ。

3. あなたがたは――この形では最後となる――第二の時代における私の受難を記念している。 あなたがたは、伝統に従うためにここに来ているのではない。聖霊の弟子たちは、伝統主義者であってはならず、わたしの律法に従わなければならないからだ。あなたがたは、ただ、あの神聖な出来事、すなわち、わたしがイエスを通してあなたがたに残した完全な教えの模範を記念するためにここに来ているのだ。それらは、あなたがたが自らの救いを勝ち取るよう、永遠に教え続けてくれるものである。

4. 今日、私は、あなたがたがそれらの教えの模範を思い起こす際に、魂が深く揺さぶられているのを見て、こう言います。「おお、愛しき子らよ、これらの教訓を拒んではなりません。それらはあなたがたの遺産なのですから！」

5. あなたがたは、わたしの言葉によって与えられる励ましに対して、わたしに感謝している。しかし、あなたがたの中には、次のような問いをわたしに投げかける者もいる。「父よ、なぜあなたは、私が長い間待ち望んでいる奇跡を、私の人生に起こしてくださらないのですか？」

しかし、師はこう告げます。私はこの時代、あなた方の人生に奇跡を散りばめてきました。私の霊からあなた方の霊へと、絶えず恵みと恩寵が注がれてきました。霊界を介して、私はあなた方の間に私の愛を溢れさせてきました。あなた方の信仰と善行によって、あなた方はこれらの奇跡が現実となるのを見てきたのです。 私は問う。私を信じるために、果たして毎日奇跡が必要なのか？

6. あなたがたの成長の初期には、私は肉眼で見え、肌で感じられる恵みの賜物や恩恵をあなたがたに惜しみなく注ぎました。しかし、あなたがたの認識と信仰が、魂の中で光のように灯り始めたとき、私はあなたがたにこうした物質的な証拠を与えることをやめました。今日、弟子としてのあなたがたの 信仰は、あらゆる障害や逆境を乗り越えるために、私の意志と一致していなければなりません。

あなたがたは私にこう尋ねます。「師よ、信仰とは何でしょうか？」そして、師はこう答えます。「信仰とは、心や理性を超えて見通す霊的な視線である。信仰とは、真理を見抜き、発見する視線である。それゆえ、あなたがたの信仰は、しばしば理解することのできない顕現を捉え、それを通じてあなたがたを信仰の強い者とするのである。

7. 愛する民よ、これは重要な朝の祈りである。なぜなら、私は今まさにあなたがたの間で「新しいエルサレム」を築き上げているからだ。あなたがたは、私が預言者たちを通して予告した、白く輝く都の最初の礎石である。この霊的な都は、この世にその基礎を置くことはない。 もしあなたがたが、新しいエルサレムが地上の祖国であると信じるならば、それは大きな誤りである。私は今、あなたがたの魂の中に新しいエルサレムを築き上げているのだ。そして、この都——まばゆいばかりの雪の白さよりもさらに白い——は、全人類の救いが訪れる時、すべての人々へと広がっていくであろう。

8. 今日、私が「大いなる都」の建設を始めるためにあなたがたのところに来ると、私の民の中に調和と霊性の欠如を見出し、あなたがたがまだ完全に私と共にいることを理解していないために、私の神聖な御霊は苦しんでいる。 – 私が長きにわたりあなたがたに与えてきた完全な教えにもかかわらず、あなたがたは低俗な情欲、不和、そして偶像崇拝に頑なに固執している。

9. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが偉大でありたいと願うなら、この世の虚栄の中にその偉大さを求めてはならない。それらは儚いものだからだ。永遠である霊的なものの中にそれを求めなさい。

10. この高みへと至るには、絶え間ない努力、不屈の意志、そして無条件の信仰が必要である。そうして初めて、あなたがたは魂の栄光を得ることができるのだ。

11. その道は試練に満ちているため、功徳を積むのに適している。そこで、あなたは高慢を退け、忍耐をもって苦痛を受け入れ、虚栄や情欲を捨て去ることを学ぶことができるだろう。その一方で、

その道には多くの苦しむ人々が歩んでおり、あなたが彼らを助けることで、彼らもまた目標に到達できるようになるのだ。

12. すべての人――その人生に霊性があるかどうかに関わらず――は、十字架を背負っている。わたしの言葉は、それを愛をもって耐え忍ぶことを教えている。そうすることで十字架は軽くなり、さらには生きるために不可欠なものとなるのだ。 自分の十字架を愛する者は、自分の運命を愛している。なぜなら、私がそれを に定めたことを知っているからだ。その者は私の御心を愛しており、私の御心を行う者は、私の平安、私の光、そして私の力に与るのだ。

13. 自分の使命という重荷から逃れ、正しい道から外れ、あるいは自分の魂が私に対して負った義務を顧みず、その代わりに自分の好みや意志に従って義務を引き受ける者は、心の中に真の平安を持つことはできない。なぜなら、その魂は決して満足も安らぎも得られないからである。 彼らは、偽りの喜びやつかの間の満足に欺かれ、自らの苦しみや不安を忘れようと、絶えず快楽を追い求めている者たちである。

14. わたしは彼らにその道を歩ませる。なぜなら、たとえ今日、彼らがわたしから遠ざかり、 私を忘れ、さらには私を否定したとしても、やがてこの世の富や称号、快楽、名誉の無意味さを悟ることを知っているからだ。現実が、この地上の偉大さという夢から彼らを目覚めさせ、人が誰も逃れることのできない霊的な真理、永遠、神の正義に直面せざるを得なくなったとき、彼らはそれを悟るのだ。

15. これは誰にとっても未知のことではない。なぜなら、あなたがたは皆、直感の賜物によって、人生の現実――あなたがたのために用意された道、そしてその道上で実現すべきすべてのことを――明らかにしてくれる霊を持っているからだ。しかし、あなたがたは、自由を感じ、人生の主人であるかのように振る舞うために、あらゆる霊的な誓約からどうしても解き放たれたいと願っている。

16. 人間の大半は、宗教的義務を果たそうと努めていないというのか。私は言う。あなたがたは、私の律法から逃れようとし、かつ、それを果たしていると思い込ませるために、宗教を作り出したのだ。

17. この人類に対しては、かつてユダヤの民に語ったのと同じ言葉を当てはめることができる。当時、私は彼らに、古くしてすでに無用となった伝統に従うあまり、律法を忘れてしまったことを指摘したのである。

18. 至る所に、キリスト教の象徴である十字架が見られる。至る所に石造りの教会があり、人々の大多数は私の名を口にし、私に敬意を表し、毎日私のために儀式を執り行っている。それにもかかわらず、私は人々の心の中に、私の教えの本質であり、始まりであり、最終目標である愛の表れを見出すことができない。 それにもかかわらず、あなたがたは皆、自分たちが律法と真理の中にいると信じている。それゆえ、私がその反対を明らかにすると、あなたがたは不満を漏らし、誰かがあなたがたの誤りを指摘すると、怒りに駆られてしまうのだ。

19. まことに、キリスト教徒たちよ、あなたがたに告げる。もし私が今この時代に人間としてこの世に生まれてきたとしたら、あなたがたは、私の口から真実を聞いたとき、まさに私を新たなカルヴァリーの丘の十字架へと引きずり上げる者たちとなるだろう。しかし、私はもはや人間としてあなたがたの世界には来ない。 わたしは霊として来た。あなたがたは肉体の目ではわたしを見ることはできないが、わたしの声を聞かなければならない。あなたがたは、わたしを滅ぼすためにわたしと出会おうとしている。しかし、ひとたびわたしと出会えば、それはわたしを礼拝するためになるだろう。なぜなら、霊的にわたしに語りかける者は、その心に信仰が生まれ、その知性が照らされたという証拠を示すことになるからだ。

20. 今日、私は新たな弟子たちの間に、ペトロの弱さ、トマスの疑い、ユダの野心を依然として見出している。それゆえ、私が引き続き師としてあなた方を教え導く必要があるのだ。

21. 今日、1950年のこの年に、私があなたがたと共に執り行うこの最後の記念の席において、イエスが弟子たちを伴い、十字架上の神聖な使命を全うするために、勝利を収めて最初のエルサレムに入城したあの日を思い起こしなさい。

22. これらの瞬間を、単なる記念としてではなく、真の敬虔さをもって霊的に体験しなさい。いいえ——私が今まさに、第三の時代の「声の伝達者」たちを通して、あなたがたに最後の教えを与えていることを感じなさい。これらの言葉は、あなたがたの魂が旅路を歩む間ずっと、永遠の命の糧となるでしょう。これらの教えは、あなたがたの防護の盾であり、支えとなる杖となるでしょう。 あなたがたはこれらを自らのものとし、私の愛の炎をもって良心に刻み込まなければならない。そうしてこそ、後に私があなたがたに与えたままの形で、これらを隣人の心に刻み込むことができるのだ。

23. 人類の大部分がこの伝統を祝っており、私の霊はすべての子供たちにその愛を感じさせています。

24. これこそが、私が魂たちに与える準備である。すべての人の魂と人間性が刷新されるとき、霊化という実が、民族間の兄弟愛と愛をもたらすだろう。その時、この惑星からは、すべての世界から見えるであろう、霊的な調和の明るい光が放たれることになる。 それは、私の使徒ヨハネが恍惚の中で見た、まばゆいばかりの白い都となるだろう。

もはや、その主を十字架に掲げ、血を流して死ぬのを見届ける、神殺しの都ではない。それは、殉教の十字架から降りて、子らの心の中で永遠に生き続ける主、すなわち父の到来を待ち望む、再生された都となるのだ。

25. かつてのエルサレムで主が涙を流されたのは、あの民族のためではなく、父にこれほど近くいながら、主を認識しなかった人々の盲目さのためであった。

主は、子供たちを抱きしめるために、父なる腕を広げられました。しかし、子供たちの心は、闇によって盲目となり、閉ざされてしまったため、父は愛する者たちの愛撫を感じることができませんでした。 その代わりに、主は不信、嘲笑、侮蔑、そして死を受け入れられた。しかし、イエスが涙を流されたのはこの地上の都のためではなかったため、主はその破壊を許容された。それは、父が求めておられ、これからも常に求め続けるのは、罪という暗い森の中で道に迷った霊的な羊であることを、人類に示すためであった。

26. 私が「第二の時代」にあなたがたに「わたしの王国はこの世のものではない」と言ったのに――なぜ、聖霊としての私の顕現が、再びイエスという限られた姿で行われると考えたのか。私がサマリアの女に「真の礼拝者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る」と言ったことを思い出してほしい。

27. わたしは霊としてあなたがたのところに来、約束を果たした。しかし、あなたがたの国に対して過度に執着してはならない。なぜなら、それはこの時代において、地球上の他のどの民族でもあり得たように、単にあなたがたにとっての避難所に過ぎなかったからだ。しかし、この時代にわたしの言葉を聞くよう定められたあなたがたは、まさに選ばれた者たちであり、魂の合一によって新しいエルサレムを築き始めるのである。

28. 今日、あなたがたは、この世で平和の王国を目にするにはまだほど遠い。あらゆる利己主義から解放されなさい。そして、現在の人間としての生活において平和を享受できていないとしても、その実現に向けて努力することをやめてはならない。 私は、自分自身を忘れ、他者のことを考えるよう、あなたがたに教えてきました。

なぜ、あなたがたは常に自分の幸福だけを追い求め、全人類の世話を私が一人で行うことを許してしまうのでしょうか。あなたがたの周りには、あなたがたの言葉や祈り、愛を必要としている多くの人々がいます。彼らには、あなたがたが無駄にしてしまったこれらの啓示がもたらす恵みの豊かさが欠けているのです。 これらの畑を耕し、あなたがたの愛で実り豊かなものにしてください。もし私があなたがたをあの世へ召す時に、その働きが未完成のまま残されたとしても、心配する必要はありません。なぜなら、肉体の死は、あなたがたの使命の成就に終止符を打つことはないからです。

29. わたしは命であり、永遠である。そして、あなたがたが始めた業を決して放棄しないよう、あなたがたをわたしのそばに住まわせたのだ。わたしを信頼しなさい。まことに、あなたがたに告げる。一粒の種も無駄になることはなく、あなたがたの収穫は完全なものとなるだろう。

30. あなたがたの後に続く次世代のことを思い、彼らのために愛の種を蒔き、徳の足跡をはっきり残しておきなさい。もしかすると、わたしがあなたがたを、その世代に再び戻すかもしれないことを、あなたがたは知っているだろうか。

喜びの中でも苦しみの中でも、平和の中でも闘いの中でも、徳を保ちなさい。

31. わたしの正義と愛の律法に従いなさい。わたしの至高の戒めを果たすことを妨げる「不可能」などないのだ。 私はあなたがたに完璧な行いを求めているわけではない。なぜなら、私は今もなお、あなたがたが人生の荒れ狂う大海原で、自らの命をかけてもがいているのを見ているからだ。あなたがたは、堕落の荒れ狂う海で命を落とさないよう、良心という救命ボートにしがみつきながら、そこで戦っているのだ。

32. 物質主義の教えが引き起こす、魂の大きな大災害や精神の暗黒は、人類にとっての苦難の杯と大きな出来事を招くことになるだろう。

33. 依然として、あなたがたの惑星は、愛や美徳、ましてや平和の場ではない。私はあなたがたの世界に清らかな魂を送っているが、人々の生活は罪と堕落に染まっているため、あなたがたはそれらを不浄なまま私に返している。

34. 私は、利己主義や復讐心、憎悪の嵐に翻弄される魂たちの間に、美徳が小さな、散在する光のように見える。*それが*、人類が私に捧げる実である。

35. あなたがたの魂がこの世で平和と調和を見出すずっと前から、あなたがたの物質はすでにこの至福を享受していた。

36. 人間がこの惑星に住むことができるように、私は完全なる知恵と自然の力をもって、この地球を揺さぶり、整えた。しかし、人間が住むようになる以前には、この地上に原始的な獣たちが生息していた。

37. この世界が、喜びと驚異、そして美しさに満ちた住処へと変貌を遂げたとき、私はそれを、私の深く愛する子である人間に与えた。 こうして、私はあなたがたにこの地球に住まわせ、そこで生活させたのである。なぜなら、生命を愛し、理解することこそが、私を愛し、私を理解することでもあるからだ。もし、あなたがたを取り巻くすべてのものに対する愛と理解が真に存在すれば、そのとき、あなたがたは私を認識し、真の知識によって救われることになる。なぜなら、私はすべての被造物の中に存在するからである。

38. 愛を欠き、人間の科学の知識のみに導かれて自然を探求する者たちは、わたしを否定する。それは、彼らが「見る」ことを理解できず、真に理解しておらず、ましてや感じたり愛したりすることなどなおさらなかったからである。

それに対して、謙虚な人々、軽蔑された人々、人類の中で学者であると自負する者たちの傲慢と無知によって 貶められている者たちの中に、どれほど多くの者がいることか。彼らは知ることなく信じていた。なぜなら、彼らの信仰の眼差しが真理を直視し、この惑星が創世以来、人間のために存在していたこと――すなわち、恵みと調和と祝福に満ちた楽園であることを理解していたからである。

39. あなたがたは、あらゆる存在の完全さを認識し、わたしが創造したすべての被造物がそれぞれの道においてその位置を占め、すべてがひとつの戒律に従い、すべてがわたしの法則に従っているのを見て、驚嘆した。あなたがたは、すでにその法則の正確さと信頼性を信じているのだから、自らの本性の起源を疑う必要はない。 あなた方は人生において多くの教えを見出し、自然の法則に従うことを信頼してきた。その法則は、あなた方を裏切ったことはない。

40. あなた方は大地からその恩恵を受けてきた。大地はあなた方にとって、常に糧を与え、喜びに満ちた楽園をもたらしてくれた祝福の泉のようなものであり、この世での人生の終わりに、大地はその懐を開き、愛情を込めてあなた方を受け入れてくれた。 しかし、この世での存在の始まりである人間生活において美しさを見出したにもかかわらず、あなたの魂は、第三の時代にあってなお、平安を得るために苦闘し続けている。

私がこの惑星を創世の初めに自然の力によって揺さぶり、祝福に満ちた楽園としてあなた方に捧げたように、この時代においても、再び私の自然の力があなた方を揺さぶることになるでしょう。それは、魂たちが自由を得るのを助ける、私の完全なる正義なのです。

同様に、私は宗教団体、宗派、そして諸機関のただ中に現れ、霊的な結束の欠如によって人々を分断してきた敵意や復讐心を払拭するであろう。

41. こうした出来事が人類を待ち受けている。弟子たちよ、目を覚まし、祈りなさい。なぜなら、これらの試練を、あなたがたの多くが目の当たりにすることになるからだ。あなたがたは、唯物主義の教えが極めて活発に働き、人々を縛りつけ、彼らに恐怖に満ちた苦痛の叫びをあげさせる様子を目にするだろう。

42. 私はこの警鐘によってあなた方を怖がらせようとしているのではなく、この試練の時代に地上に生きるあなた方に警告しようとしているのだ。すべての魂が救いを得るためには、これらすべてが起こらなければならない。

43. 人々の高慢を消し去るのは、わたしの神聖な御霊である。闇の中を さまよってきたあなたがたに真理を明らかにするのは、わたしの知恵である。人々の魂をその学問において照らし、赦しと愛と正義の道へと導くのは、聖霊の光である。

44. あなたがたが、この私の愛による試練を一度通り抜けたとき、人類の精神的・肉体的な再生が訪れるだろう。その時、人々は徳と霊性への道を歩みながら、この人生こそが、私が初めから彼らに差し伸べてきたものと同じであり、その中に何一つ変わっていないことを悟り、驚嘆するだろう。 人々は、私が彼らに一時的な住まいとして託したこの惑星が、依然として恵みを惜しみなく与えてくれていること――生命の創造主と同様に慈悲深い母なる地球が、愛をもって彼らを養うために、今もなおその懐を差し伸べ続けていることを知るでしょう。なぜなら、これこそが父が彼女に託した使命だからです。

太陽もまた、主の臨在の象徴として、絶えず活力を与える暖かさを送り続ける、あの同じ太陽のままである。 そのときこそ、愛する民よ、人々は、自分たちの存在を苦々しいものにしてきたのは、自分たちの悪行であったことを悟るだろう。それゆえ、彼らはわたしの良き働き手となり、調和のうちに、永遠のより完全な住まいに住む準備を整えることになるのだ。

45. 弟子たちよ、私はこのように、あなたがたを待ち受ける時代に向けて備えさせている。その時代には、満腹の者の傍らに飢えた

者がいることも、学識者の傍らに無知な者がいることも、力ある者の傍らに無力な者がいることもなくなるだろう。あなたがたは皆、主の祝宴に加わり、主の愛による永遠の調べを喜び楽しむことになる。

46. その時、おお、弟子たちよ、新しいエルサレムは人々の心の中にあるだろう。あなたがたは高い霊性の段階に達し、わたしは、あなたがたに私のメッセージを伝えるために、高度に発達した魂たちをあなたがたの中に転生させるだけにとどまらない。 また、あなたがたの徳を必要とする魂たちも遣わし、彼らがあなたがたの中に生きることで、自らの罪から清められるようにする。その時代には、今日とは正反対のことが起こるだろう。今日、私があなたがたに清らかな魂を送り、あなたがたはそれを私に*汚れたまま*返しているのだから。

47. わが言葉の真意を心に留め、子供たちの心の中に、狂信や偶像崇拝ではなく、霊性の聖域を築き上げなさい。彼らをわが律法の道へと導きなさい。誰にも害を与えないだけでは不十分である。悪を行わないことは確かに正しいが、善を行うことによってこそ、あなたがたはわが心にかなうのである。

48. 真理とはなんと明白で、なんと素朴なことか！ 霊性とはなんと明快で、なんと単純なことか！ それにもかかわらず――狂信や伝統という闇の中に頑なに留まり続ける者にとって、それを理解することはなんと難しいことか。その者の理性は、自分が理解しているもの以上の何かが存在することを受け入れることができない。その心は、自分にとっての神であり律法であったもの――すなわち伝統と儀式――を捨て去ることに抵抗するのだ。

49. あなたがたは、私が自分の真理をどうしても認めようとしない者たちを憎んでいるとでも思うのか？　いいえ、わが子らよ、私の慈悲は限りなく大きく、まさにそうした者たちこそ、私が助けの手を差し伸べ、彼らがその牢獄から抜け出し、光を仰ぎ見て喜びを得られるように導く対象なのだ。彼らには、信仰への目覚めのために必要な試練が与えられている。 それは彼らの力以上の試練ではなく、あらゆる魂、あらゆる人生、あらゆる人間に賢明に調整された教訓となるでしょう。

50. そこ、すなわち、宗教的狂信と無知によって病んだ、暗く曇った頭脳や心の中からも、あなたがたは、偉大で情熱的な真理の戦士たちが現れるのを見るだろう。 なぜなら、彼らが鎖や闇から解き放たれ、光を見るその日、彼らは歓喜を抑えきれず、私が世界を救うために戻ってきたこと――すなわち、霊性化の階段を登らせて真

の王国へと引き上げるために戻ってきたことを、声を限りに叫び上げるだろうからである。

51. あなたがたの成長を助けるために、あなたがたは、あなたがたの霊的指導者であり、第三の時代の先駆者であり、あなたがたの魂を準備してきたエリヤの啓示を受けた。しかし、彼は多くの者が道に迷っているのを悲しみの眼差しで見ている。それゆえ、エリヤの痛みはどれほど大きいことか。彼は、霊的な奉仕者たちと共に、あらゆる道で自分の羊たちを探し求めている。 あなた方のうち、誰が、不在者たち――すなわち、苦しみの道にある者たち――を呼び戻すために準備をするだろうか。

今まさに苦しんでいる者たちを、私は力づける。彼らが冒涜することなく、私の臨在を感じ、この時代に急いで立ち上がり、師と共に食卓を囲み、私が愛をもって用意したパンとぶどう酒を糧とすることができるように。

52. あなたがたは、この第三の時代にわたしの言葉を聞く世代であり、あなたがたの人生がわたしの律法の成就に調和するよう、また、第二の時代の約束を果たすために、わたしが備えた知性の器官を通して、わたしが自らを現すのである。

53. かつて、私が「まもなくあなたがたを去る」と告げ、その後、あなたがたが私の教えを広める者 となるだろうと言ったとき、私の使徒たちは悲しみに包まれた。しかし、私は、世界が堕落の頂点に達したとき、私が再び戻ってくると彼らに告げた。 私を認識しなかった者たちもいたが、私の言葉の本質を受け入れたとき、師を理解し、私の存在を感じる者たちがやって来るだろう。あなたがたは再び私の元に戻り、私はいつもののと同じ愛をもってあなたがたを迎え入れ、私の胸元に抱きしめるだろう。

54. 私があなたがたに教えを与えたのは、あなたがたがそれを実践することで、私の王国に入るにふさわしい者となるためである。

55. すでに第二の時代において、わたしはあなたがたに、誘惑をいかに退けるべきかを教え導いた――この世に属さないすべてのものから離れ、イエスが父の内にあったように、あなたがたがわたしの内にあるようにするためである。

56. 準備をしなさい。あなたがたは、再びカルヴァリーの丘を登る師の足跡に従う弟子たちだからである。これらの最後の教えの言葉は、イエスの生涯の最後の瞬間のようなものである。なぜなら、1950年が終われば、わたしの神聖な「御言葉」は、もはやこれらの伝達者を通じてあなたがたに語りかけなくなるからである。 今日、あなたがたは私の教えを一つたりとも聞き逃したくないと、急いで

ここにやって来ている。あなたがたは、人類に対する私の最後の言葉の証人になりたいと願って、それらを心に留めているのだ。

57. あなたがたは、イエスがエルサレムに入城されたとき、第二の時代に「ホサナ」を歌った人々と同じである。今日、私が霊においてあなたがたに現れるとき、あなたがたはもはや私の道に外套を敷くことはない。あなたがたが主の住まいとして捧げているのは、あなたがたの心そのものである。 今日、あなたがたの「ホサナ」はもはや声を張り上げて歌われるものではありません。この「ホサナ」は、謙遜と愛、そして父なる神への認識の賛歌として、また、第三の時代に主があなたがたにもたらされたこの啓示への信仰の賛歌として、あなたがたの魂から湧き出ているのです。

58. かつても今も、あなたがたは、私がエルサレムに入城した際に私に従った者たちと同じである。 大勢の人々が、私の愛の言葉に心を奪われ、私を取り囲んでいた。男女、老若、子供たちが歓声で街を揺るがし、民衆が反乱を起こすことを恐れていた祭司やパリサイ人たちでさえ、私にこう言った。「師よ、あなたが平和を説くのなら――なぜ、あなたの信者たちがこれほどの騒ぎを起こすのを許すのですか？」 しかし、私は彼らにこう答えました。「まことに、あなたがたに言います。もし彼らが黙ったとしても、石が語り出すでしょう。」なぜなら、それは歓喜の瞬間であり、正義を渇望し、渇き求めている人々――長い間、 、預言の成就として主の到来を待ち望んでいた魂たち――の間で、メシアが最高潮に達し、栄光に包まれた瞬間だったからです。

59. わが民は、その歓喜と喜びをもって、エジプトからの解放をも祝った。私は、その過越の記念を、わが民にとって忘れがたいものにしたかった。しかし、まことに、あなたがたに告げる。私が子羊を犠牲にしたのは、単に伝統に従ったからではない――いや、 私は、犠牲の小羊であるイエスとして、すべてのわが子らが救いを見出す道となるべく、自らを捧げたのである。

第三の時代においても、私は伝統に従うことはありません。私の言葉によって、私はあなたがたに過去の出来事を追体験させてきました。しかし、弟子たちよ、シナイ山で私があなたがたに授けた律法は、あなたがたの良心の中に今も存在していることを知ってください。「汚れなき小羊」の犠牲、そして私が聖霊としてあなたがたにもたらした啓示、さらに来るべき時代に私があなたがたに授ける教え――これらすべては、永遠の中に存在している。

60. 後になって、あなたがたはこれらの出来事を思い起こすことになるだろう。しかし、その思い起こしは、瞑想と、私の教えにお

ける刷新と成就に向けた真摯な決意によってなされるべきである。あなたがたは、それによって私に喜ばれると思い込み、律法を忘れて、祝祭を行ったり、儀式や儀礼を執り行ったりしてはならない。あなたがたは伝統主義者であってはならない。霊性主義の弟子たちは、常に主の受難を心に留め、その神聖な臨在を感じ、自らの霊の声を聞きながら、同胞たちに教えを説くであろう。

61. 聖餐を記念する時が来たら、祈りを込めてそれを行いなさい。そうすれば、あなたがたは、私の神聖な御霊があなたがたの間で霊的なパンと霊的なぶどう酒を配っているのを感じるだろう。このようにして、私は、あなたがたがまだ謎に包まれていると見なしている教訓を、明らかにしてあげるのだ。

62. 目を覚ませ、弟子たちよ！ あなたがたは、キリスト教徒たちが、過去の啓示の正しい解釈を得たいと切望し、わたしの言葉と預言を研究している時代に足を踏み入れた。ある者たちにはわずかな光を見出すが、他の者たちは迷い込んでしまっている。ある者たちには、研究を通じて預言を理解するのに十分な謙虚さ、敬意、そして愛が見て取れる。 他の人々には、高慢と虚栄が見られ、彼らは名声への渇望から、人々に聖書の意味を説いている。しかし、まことに、あなたがたに告げる。彼らの誤りは、人類を混乱させてしまったのだ。

63. 第二の時代に、私があなたがたに「真理の御霊」、すなわち聖霊を送ると告げ、その御霊が 当時あなたがたには理解できなかった啓示を解き明かし、新たな教えを与えてくれると約束したことを思い出してください。

64. ここに、「真理の御霊」、すなわち聖霊がおられ、過去、現在、そして未来についてあなたがたに語りかけておられる。

65. 民よ、目を覚まし、祈りなさい。祈りの中でこそ、あなたがたは私の教えをより深く理解するための光を見出すからです。これこそがパンとぶどう酒です――弟子たちよ、これを糧とし、力を蓄えなさい。明日、あなたがたはこの糧を人類と分かち合わなければならないからです。

66. わたしから学びなさい。わたしの模範と知恵を伝えなさい、おお、民よ、おお、愛すべき弟子たちよ。

67. あなたがたは皆、わたしの畑で働く者たちである――ある者は「最初」として、またある者は「最後」として、しかし、あなたがたは皆、その熱意と霊性によって「最初」となることができるのだ。

68. あなたがたの魂が私に霊的なホサナを捧げるこの祈りの時、私の神聖な御霊が、平和と愛と祝福をもってあなたがたを満たす。

69. わたしの祝福によって、霊的な谷で清められた無数の魂たちが光を受け取っている。この時代、彼らはわたしの業の継続、すなわち人々の結ばれた魂の中に築かれる「新しいエルサレム」の確立を目の当たりにしている。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 319

1. 再び、わたしのもとにようこそ。この時期、誰があなたがたの中に現れているのか。 父か、子か、それとも聖霊か？　私はこう答える。あなたがたの間には、あなたがたの神が顕現しているのだ。私が「第二の時代」に人間として、「子を知る者は父を知る」と言ったが、今日、私は人間としてではなく、御霊としてあなたがたのところに来ている。だからこう言う。イエスの声を聞く者は、エホバの声を聞き、エホバを受け入れる。これこそが聖霊の声である。

そこに三つの位格や三つの神を見出してはならない。この時代、あなたがたの間で、この声、すべての師の師であるあなたがたの師の言葉の中に、豊かに現れている唯一の神聖な御霊を認識せよ。そうすることで、あなたがたは裁き主と出会い、父を発見し、聖霊の本質を感じるだろう。

2. 今年1950年、人間の声の媒体を通じて行う私の最後の啓示において、私は弟子たちの進歩を検証する。私は、あなたがたへの教えを取り上げることで、彼らを試すつもりである。なぜなら、私の教えにおいて誰がより進歩し、誰が立ち止まっているかを、あなたがたに示したいからである。

私はすべてを知っている。私が与える教訓と試練は、あなた方一人ひとりが、自らの進歩、停滞、あるいは後退を内面的に自覚するためのものとなる。

3. 私は、あなたがたの魂にますます多くの光をもたらします。それは、私の言葉が途絶えた後も、あなたがたが啓発された状態で残り、そして――私がすでに語ったように――あなたがたの世界を形作るこの情熱と嵐の海において、輝く灯台となるためです。

4. わたしに対して深い信仰を持つ者たちは、この時代にわたしが授けるすべてのものを受け入れるために、謙虚に自らの魂を整えている。しかし、あの世においてわたしの臨在の真実を見出そうとして、魂の目を大きく見開いている弟子たちが、いまだに存在する。

5. 依然として、疑いがいくつかの心を蝕み、彼らは「それが私なのか、そうでないのか」と自問している。 今なお、私の言葉や啓示のいくつかを聞いて、混乱に陥る者たちがいる。しかし、私はあなたたちに問う。なぜなのか。あなたたちはすでに第三の時代に生きているではないか。疑いはトマスに任せておきなさい。彼は第二の時代に生きていたのだから。しかし、私が彼に与えた教訓、そして当時、物質主義を打ち砕き、人々の疑いを払拭するために私が現したすべてのことを思い出してほしい。

しかし、今日、第三の時代において、過去の時代と第三の時代の教えや啓示が、あなたがたの魂と心に蓄積されているというのに——なぜ、あなたがたは依然として疑うのか？ なぜ、あなたがたは心の奥底で、それが私であるかどうか、あるいは現在受け取っているこの働きに真実があるのか、それとも欺瞞があるのかを、考えを巡らせているのか？

私がこのように語るのは、疑っている者たち——すなわち、私の啓示の最終段階において、人間の知性という枠組みの中に置かれているために内面で葛藤している者たち——に対してのみである。しかし、私は改めてあなた方に言う。「見ることなく信じた者たちは幸いである！」

6. あなたがたは、師と共に、第二の時代に起こった出来事を思い起こしている。私は、当時あなたがたに与えた教えを、あなたがたの魂の中に残しておいたと、あなたがたに教えてきた。 私の行いも言葉も、すべてが私があなた方に与えた永遠の命の証しであった。あなた方の救いへの道を切り開くために私が流した血は、今もなお新鮮であり、私のすべての子供たちの魂の中に永遠に留まるであろう。 なぜなら、あの時代に私の体から流れ出たものは、私が注ぎ出した命の象徴であり——私がすべての罪人を包み込んだ赦しであり——私が不信仰者たちの心に信仰の火を灯した光であり——私がこの人類を覆うすべての暗い霧を晴らした光だったからです。 この霊的な命は、あなた方の内に——あなた方の魂の中でいつまでも新鮮であり続けるその血の中に——永遠に宿っている。

7. 私が人々に贖い、救い、そして光をもたらすために人間となったとき、私は単に彼らのところへ来ただけではありませんでした。それは、私の神聖な霊によって定められた時であり、世界や発展段階によるいかなる差別もなしに、すべての魂のもとへと旅立つ時でした。それゆえ、私が師としてあなたがたの間での使命を全うした後、私の霊は、主の魂たちが住むすべての住処へと向かったのです。 なぜなら、あなたがたにはメシアの約束があったとはいえ、その約束は、肉体に宿った魂たちだけでなく、あの世で私を待ち望んでいた者たち——償い、贖罪、そして霊的な経験を積む中で、すべての魂の救い主が扉を開くためにやって来るその日を待ち望んでいた者たち——のためにも定められていたからである。

8. それゆえ、私があなたがたの間で私の業を成し遂げ、すべての地上の子供たちのために私の愛の犠牲によって私の王国の門を開いた後、私は他の魂たちに向き直り、彼らにも自由を与えたのである。しかし、ある者たちには人間の「衣」をまとった姿で出会い、他

の者たちには様々な「衣」をまとった姿で出会った。 しかし、まことに、あなたがたに告げよう。私にとって重要なのは、決してこれらの「衣」ではなく、魂の向上であった。なぜなら、私は彼らを不完全さや物質主義から解放するために来るのだ——私は、私の教えによって彼らを清め、この時代に私がしばしばあなたがたに語ってきた、 眩しいほどの雪の白さよりもさらに白い「白い衣」を彼らに与えるために来るのだ。

9. かつて私が様々な生活環境にいる人々を訪ねたように、第三の時代においても、私は再びすべての人々の元へと向かった。私は再び、全宇宙に住む魂たちに自らを顕した。

確かに、私は愛の絆を結び、すべての魂の結びつきを追求してきました。しかし、私は今日の私の啓示が過去の時代よりも完全なものとなることを望んでいます。そうして、あなたがたがそれを通じて速やかに私のもとへ至り、霊から霊への啓示を通じて、父の霊感、その戒め、その戒め、そしてその正義をより完全な形で受け取ることができるようにするためです。

10. 聖霊として、私は第三の時代を、すべての魂を啓発し、二度と堕ちることのないようにすること、迷える者を救い、惑わされた者を改心させ、深く汚れを背負った者を清め、恥、屈辱、罪、そして良心の呵責という鎖から解放することに捧げた—— 自らの精神に刻み込まれた、過ちや私の律法への違反の全歴史を背負い続けている者たちすべてを。

11. 宇宙の万物はすべて賢明に秩序づけられている。私は今、諸世界、すなわち私のすべての子供たちに向けて、一人ひとりに私を現わさなければならない形で語りかけている。それは、彼らを霊と霊との完全な対話へと導き、すべての人々が待ち望む目標である完全性へと至らせるためである。 まさか、あなたがたは宇宙において霊的に最も進んだ存在だとでも思っているのか。それを知りたがるな。あなたがたには理解できないのだから。

12. 第二の時代において、私はあなたがたにこう告げた。「父の家には多くの住まいがある。」今日、私はあなたがたの言葉でこう告げる。私が創造した宇宙には、私の神聖な霊の子らが住む多くの世界がある。 あなたがたは皆、私において兄弟姉妹であり、皆、私に似ています。現在、不完全さゆえに違いはあるものの、完全さにおいては皆、等しくなるでしょう。私はあなたがたをその完全さへと導き、あなたがたがそれに到達できるよう、準備させ、教え、試練を与え、そしてあなたがたを磨き上げています。 私は、あなたがた全員を等しく、私の神聖な御霊との交わりの道へと導き、また、

互いとの交わりへと導いているのです。 この魂同士の交わりは、いつ完全なものとなるのでしょうか。今、あなた方はまだそれを知りません。多くの議論が巻き起こるでしょう――ある者には信じられ、別の者には否定されるような、多くの顕現が現れるでしょう。しかし、御霊は御自身を明らかにされるでしょう、 御霊は語られ、御霊は全世界にその御力を示されるでしょう。

13. これらすべてについて、私はあなたがたにこう告げる。私が、私を待ち望む魂たちを探し求めて、光の世界へと、そして闇の深淵へと踏み込むために、あなたがたに捧げるのは、単なる地上の1日でも、ほんの数時間でもないのだ。 いいえ、民よ、それは一つの時代そのものであり、永遠の中における一つの時代であり、それは創造の初めから、私が聖霊としてすべての人々のところへ来るよう定められていたものであり、第三の時代における魂たちの進歩に応じて、私はより高い次元で、より完全な姿で自らを現すのである。

14. 今日、あなたがたは自分たちの世界の外を見渡すことができないため、まだあなたがたにふさわしくないもの、そして敬意と従順な態度をもってのみ受け入れるべきものを、あなたがたの精神も、視線も、理性も探求することはできない――それは、祈りや、あなたがたをわたしのもとへ、そしてあなたがたを守ることに専心しているわたしの霊的世界へと導く高みへの成長を通じてのみ受け入れることができるのである。

この高みへの成長を通じて、また、私がこの時代にあなたがたに啓示するものを活用することで、あなたがたは、今日、好奇心から知りたがっていること、そして明日、正義に基づき、報いとして、報酬として経験することとなることを、知ることができるようになるでしょう。おお、主の愛する弟子たちよ！

15. 私がこの言葉を残さずにあなた方を去る時が近づいている。もしあなたがたがこの言葉をもう聞けなくなったら、多くの人は悲しむだろうし、他の人には冷たさが忍び込むだろう。しかし、残りの人々は強い信仰を持ち続けるだろう。 しかし、もし今日、あなたがたが私に「私の神聖な願いとは何か」と問うならば、私はこう答えるだろう。それは、あなたがた全員が信仰を強く持ち、私がこの言葉をあなたがたの間で終わらせる前に、備えを整えておくことである。

もし望むなら、私の業を深く探求しなさい。そうすれば確信を持ち、揺るぎない者となり、後になって疑いが襲ってくることを防げるだろう。なぜなら、その疑いはあなたたちを苦しめ、つまずかせるからだ。その疑いはあなたたちに激しい痛みを残し、それによっ

て良心が思い出されることになるからだ。 しかし、私は弟子たちが良心に何らかの非難を抱えて生きることを望まない――彼らには、ただ私の御霊の平安を感じてほしいと願っているのだ。

16. この民が備える術を知らず、わたしの最後の教えを活かせなければ、やがてわたしの言葉を失い、時が経つにつれ、試練や不運、そして人々の無意味な言葉によって、疑いの渦に巻き込まれることになるだろう。 そうなれば、弟子は歩みを止め、自分が聞いたことが 正しかったのか、それとも真実ではなかったのかと自問せざるを得なくなる。そして、その疑いに答えるのが一見沈黙だけであるならば、彼は不遜にも顔を上げ、父に向かってこう言うだろう。「主よ、あなたは永遠に私たちと共にいると約束されたのに――なぜあなたの子供たちはあなたを見ることができないのですか？なぜ私たちの耳はあなたの声を聞き取れないのですか？ なぜ私たちの心は、あなたの鼓動を感じないのですか？なぜあなたは私たちの前にはっきりと姿を現さないのですか？」

17. そして、あなたがたが、人々の教えや宗教的機関が大きな争いを巻き起こし、「戦い」に勝利しながらその道を突き進んでいるのを見れば、こう言うだろう。「父の御業はどこへ行ってしまったのか？　なぜ父は沈黙し、私たちを運命の打撃や危険の犠牲として独りきりにされたのか？」

あなたがたは、かつて私の他の弟子たちが抱いたのと同じような、非常に大きな疑念を抱くことになるでしょう。そして、誤った解釈によって成就しなかった私の多くの言葉を思い出すにつれて、その疑念はさらに大きくなり、こう言うことになるでしょう。「なぜ、彼の言葉には、民を一つにまとめて残すような効果も力もなかったのか？ なぜ主は、そのすべての力を持って、この霊的な民を一つに融合させるという奇跡を起こさなかったのか？なぜ主が弟子たちを教えられていた時期に、地球上のあらゆる国々から人々が主の言葉を聞くために集まってこなかったのか？ なぜ、主が『普遍の光線』によって力強く降臨されたとき、人々の間に平和が訪れなかったのか？　なぜ、主の別れはあれほど悲しかったのか？　なぜ、主は全人類にその名を知られ、称賛されることもなく、ひっそりと私たちのもとを去られたのか？」

これらすべてが、疑いの炎の中であなたの心を苦しめることになるでしょうが、私はそうなることを望みません。私は、あなたの魂があらゆる疑いや不確実性から解放され、父に対して、その神聖な御霊にとって物質化を意味するようなことを何も求めないことを望みます。私は、私の言葉が終わった後も、私が人間化すること、自

分自身を制限すること、あるいは人間としてのイエスの姿をとることなどを、あなたが求めることを望みません。

18. わたしは、あなたがたの魂が真にわたしに従うことを望む——単にわたしを感じたいという渇望ゆえにではなく、わたしを見たり聞いたりしたいという魂の切実な欲求ゆえでもなく、むしろ、真実さゆえにわたしを感じ、あなたがたの存在の信仰によって、魂の調和の中でわたしを見るように。 そうしてこそ、あなたがたは、わたしをより偉大で、より完全で、不変の存在として見出すことになるのだ。

19. あの「第二の時代」に、人々が裏切られたと感じていたことを思い出してください。彼らは、 イスラエルを人間の隷属から解放するために、地上の権力に満ちたメシアを待ち望んでいました。彼らは、戦いの君主、軍勢や諸民族、そして地上の領土を支配する主を待ち望んでいたのです。

しかし、父の御業のみを語り、地上の王国よりも優れた王国を約束し、その教えによる霊的な勝利を告げ、霊的に貧しい者たち、病める者たち、屈辱を受けた者たち、奴隷たちのために涙を流した者たちへの正義を告げた、その柔和で謙遜な師の言葉を耳にしたとき、 その時、この世での解放と、その主の栄光が間近に迫っていると期待していた者たち——この世の玉座に主が座し、右手に正義の笏を握り、諸国民を裁き、この世の偉大な王国を征服する姿を切望していた者たちは——欺かれたと感じたのである。

20. 師が逮捕された夜が訪れると、主が抵抗せず、ご自身の敵をその力によって打ち砕かず、柔和な子羊のように髑髏の丘へと引きずられていったという、その途方もない柔和さの前で、彼らの心は深く揺さぶられた。 そして、使徒たちは、その民による嘲笑と侮辱を目の当たりにすると、彼ら自身も混乱し、疑念を抱いてその場を離れた。 そして彼らは自問した。「なぜ、このような出来事が起こったのか？」彼らは師に対して深い愛を抱き、イエスの痛みを自らのものとして感じていたが、霊的にはまだ目覚めておらず、真理の光に対して彼らの霊的な目もまだ開かれてはいなかった。 そして、彼らがカルヴァリーでイエス様を目にし、あの恥ずべき十字架の上での死を目の当たりにし、イエス様の血が他の人間と同じように流れ落ちるのを見たとき、疑いが彼らの心を覆った。

21. 彼らは、師の業をどのように引き継いでいけばよいのだろうか。あの贖いの模範を、どのように受け継いでいけばよいのだろうか。しかし、師は死を経て、すべての被造物の上に、栄光と命に満ちて高みへと昇られたのである。 主は弟子たちを見つめ、彼らの疑

いに心を痛められました。そして、その限りない愛のさらなる証として、復活後、揺るぎなく主を愛し、従った女性たちに姿を現されました。それは、彼女たちが弟子たちに、自分たちが目撃し、耳にしたことを証しするためでした。しかし、その証しにもかかわらず、弟子たちは疑いを抱き続けました。 師が姿を現し、疑いの闇を追い払い、彼らの心のすべてに光を灯す必要があった。 しかし、そこには最も疑いを抱いていた弟子――トマス――がいました。彼は、「 」と語り、自分の指で主の傷跡を確かめて初めて、主が復活したことを信じられると言っていたのです。それゆえ、主は彼をもその疑いから説得しなければなりませんでした。

22. 師が弟子たちを一人きりで、興奮した様子で見つけたとき――ある者たちは師の復活を信じていたが、トマスは疑っていた――主は彼らの間に現れ、こう言われた。「あなたがたに、わたしの平安があるように。」主はトマスを呼び寄せ、傷跡を見せながら、彼にこう言われた。「トマスよ、指をここに差し入れなさい。疑ってはならない。それは、まさにわたしだからだ。」

しかし、その瞬間、自分の疑いを悔いたトマスは――不信仰に打ち負かされて――「わが主よ！」と叫んだ。そこで私は彼に言った。「あなたはわたしを見たから信じたのだ。見ずに信じる者たちは幸いである。」

23. あなたがたは、師であるイエスのこの愛に満ちた叱責を、永遠に心の中に抱き続けたいのか？そして、私が再びこう言うのを聞きたいのか。「あなたがたは、見たから信じたのだ」と。いいえ、「聖霊」の弟子たちよ――いいえ、第三の時代の弟子たちよ！ 心の中に疑いを抱いてはならない。今すぐそれを取り除きなさい。霊の中でわたしを見つめ、わたしの真実さと本質を見つめなさい。そうすれば、後にこれらの啓示がなくなったときでも、愛と信仰によって、疑いや汚れのない純粋で自由な霊的な眼差しで、わたしを見ることができるようになるだろう。

24. あなたがたが使命を果たすために、私が預言者たちを通してのみ「立ち上がって、義務を果たせ」と告げなければならない時が来るまで待ってはならない。私が再び人間となって信仰を見出すことを期待してはならない。 これは「第二の時代」に、そうすることが必要だったからこそ行われたのである。なぜなら、人間がその精神をもって、計り知れない来世の領域へと踏み込み始めたあの時代において、師は当時の弟子たちにこれ以上を求めることはできなかったからである。

しかし、現在生きているあなた方、そして当時の人々の中で、魂の面で大きく成長し、私がしばしば試練を与え、人間の知性を通じて真理を伝え、偉大な啓示を与えるために語りかけてきたあなた方—— 果たして、あなたがたは疑いを抱くことができるだろうか。物質主義に陥ることができるだろうか。心の愛を冷めさせ、私の言葉が途絶えた後に魂を道から迷わせることができるだろうか。いいえ、弟子たちよ。私は今、あなたがたに語りかけている。そしてこれからも、私の言葉を通じて何度もあなたがたを準備させていく。そうすることで、あらゆる試練に直面しても、あなたがたの魂の中に光と力、決意、そして揺るぎない信仰の熱意だけが残るようにするためである。

25. 私が「第二の時代」の弟子たちの前に霊的に姿を現したとき、彼らは魂の奥底で真の愛を感じた。 その時、彼らは兄弟愛と魂の強さをもって互いに抱き合い、主の な業を継承するために団結した。なぜなら、彼らは疑いを払拭した後、魂の喜びに満ちてこう言ったからである。「確かに——私たちは本当にメシア、神の御子と共にいたのだ。私たちは本当に世界の救い主と共に生きていた。主は私たちを欺かなかったのだ。 主こそが命であり、救い主であり、真理である。主の御国はこの世のものではなく、主の故郷は永遠の御国であり、そこから主は今日、私たちを見守り、語りかけ、御姿を現してくださっている。主は、永遠に私たちと共にいてくださると約束してくださった。そして実際、私たちは一つとなり、互いに愛し合い、地上のすべての民に主の証しを立てていくのだ。」

26. 私の言葉が途絶えた後、あなたがたが心と魂の奥底で私の言葉の欠如を感じ、私の霊界もまた、賜物を持つ者たちを通してあなたがたの間でその言葉を響かせなくなるとき、果たしてあなたがたの間にも真の団結が訪れるかどうか、あなたがたは知っているだろうか。 そうすれば、教会は互いに訪ね合うようになり、遠く離れていて、自分の思い通りに活動してきた者たちも、兄弟姉妹を訪ね、互いの温もりと存在、そして助言と助けを求めるようになるでしょう。彼らは私の言葉を渇望し、ある者は他の者の輪の中で癒しの香油を求め、私は再び現れて、自らを明らかにするでしょう。

27. そう、わが民よ、わたしはあなたがたの霊的な耳元で語りかける。そして、あなたがたは皆、わたしを見るだろう。わたしがあなたがたに与えるこれらの明確な啓示——今日、それがどのような形で起こるのか、あなたがたはまだ知らないが——は、あなたがたを正しい道へと導くために、確固たる明確な形で訪れるだろう。そ

れらは、あなたがたが決して「自分一人で行っている」と信じることのないよう、あなたがたの防護壁となり、励ましとなるだろう。

私は、あなたがたの歩む道において、霊的な使命を果たす際、地上の義務を果たす際、そして過ちを犯した際にも、あなたがたを驚かせるだろう。私は、一人ひとりの弟子たちの道のりで、自分を感じてもらえるよう、ふさわしい瞬間を選ぶ。 私はあなたがたの集まりに臨在し、その存在を感じさせ、あなたがたは私の温もり、私の霊の息吹を感じ、私の霊感を受け取るでしょう。

28. 私が望むのは、あなたがたが私への信仰を深めていくのと同様に、互いに対しても信仰を持ち、あなたがたの間で偽りの証言が現れないこと、そして、民衆や人類の中で自分を偉大にしたり有名にしたりするために、あなたがたの口から嘘が語られないことである。嘘をつく者には災いあれ！　主を見たことがないのに、「私は主を見た」と言う者には災いあれ！「私は主からこの メッセージを受け取った」と言いながら、実際には受け取っていない者よ、災いあれ！　なぜなら、その者からは私の霊感を取り上げられ、その者は自らの汚点を清めることによってのみ、それを取り戻すことになるからだ。

私の名を悪用してはならない。私の業を嘘をつくために用いてはならない。私の霊や私の業を、あなたがたの欺瞞を隠すために悪用してはならない。

29. わたしは、あなたがたが真実だけを語ることを望む。もしわたしから啓示や啓示を受け取ることが決してないとしても、それを受け入れ、嘘をつかないでほしい。そうすれば、誰もあなたがたを非難することはできないからだ。しかし、わたしは問う。わたしから何も受け取らない者など、いったい誰がいるというのか？ 私の霊感に喜びを見出さず、私の指示を受け取らず、私の啓示を感じ取らない者とは、いったい誰のことだろうか。私は、あなたがたの過ちを前にして、決して身を引くことはない。私は常にあなたがたと共にあり、あなたがたを預言者として変容させて残していく――しかし、それは真実の預言者としてであり、街頭に繰り出して自らの預言を誇示するような偽りの預言者としては決してない。

30. 初期の頃、わたしの預言者たちは街へ出て、主の御言葉を宣べ伝えていた。しかし、彼らにはどれほどの謙虚さ、どれほどの力と信仰があったことか！

時代は変わり、今日、あなたがたは人々の通る通りや田舎道、あるいは市場に出て、声を張り上げて私のメッセージを叫ぶことはできない。今日、あなたがたは、いつ語り、行動し、祈るべき時が来

たのかを知らなければならない。あなたがたがこのように備えれば、私の民はあなたがたの証しを疑うことはないだろう。

31. あなたがたが試練に直面しようとしているとき、私の正義が地上の諸国民、そしてあなたがた自身に対しても顕現しようとしているとき――もし私が何らかの出来事をあなたがたに明らかにすることを望むならば、私はあなたがたの中から一人を選び、あなたがたに警告し、これから起こることを告げ知らせるであろう。 私は、そのメッセージを裏付けるために、二人か三人、あるいは必要なだけの人々を選び出す。しかし、疑ってはならない。そうすることは、父にさらに大きな顕現を求めることになるからだ。

「第三の時代」において、師があなたがたに『恵みの時代は終わった』と告げたことを、あなたがたは知らないのか。もしあなたがたが、「はい、父よ、物質的な恵みは終わりましたが、霊的な恵みはあなたが私たちに約束してくださいました」と言うならば、それに対して、私はこう答えます。「そう、わが子らよ――しかし、もしあなたがたが師に人間となることを求めるならば、その願いは地上の恩恵に属するものであり、その時代はすでに終わったのです。」

32. それゆえ、私はあなた方を多くの伝統から解放したのだ。なぜなら、あなた方は、父があなた方の霊に啓示された礼拝の仕方――恵みと完全さに包まれた崇拝の形式――を冒涜し、貶めてしまうだろうからである。 あなたがたはそれを儀式や式典、世俗的な祝祭へと堕落させ、律法や教えの成就ではなく、外的な礼拝や伝統の遵守にますます没頭してしまうだろう。それゆえ、ある者にとっては残念なことでも、他の者にとっては喜ばしいこととして、この時代、私はあなたがたの魂を縛っていた多くの伝統や多くの宗教的慣習から、あなたがたを解放したのだ。

33. 今、あなたがたは次第に真の神殿を発見しつつあり、その神殿は、あなたがた自身の中にも、また外の世界、すなわち宇宙の無限の中にも見出される。

今日、あなたがたは、真の祭壇があなたがたの心の中にあること、信仰こそがあなたがたが私のために灯すべき燭台であること、花や供え物、あなたがたの行いや功績こそがそれであるべきこと――あなたがた自身こそが主の像であり、あなたがた自身を通して私を見ることができるのだということを悟りつつある。

今日、あなたがたは、恵みの源が私の神聖な御霊であることを悟るでしょう――それは、完全さと祝福の尽きることのない源であり――私がその業そのものであること――なぜなら、私自身の業は私

の中にあり、それは無限かつ普遍的だからです――私が、数え切れないほど多く私に従うすべての魂の羊飼いであり、そして最終的に、すべての者が「完全なる平安」、すなわち高き来世における魂の永遠の故郷である唯一の羊飼いの囲いにたどり着くこと、そして父の家は至る所にあり、あなたがたはこの家を一度も離れたことがないことを。

34. このようにして、あなたがたの魂は翼を広げ、宇宙を通して無限を見通し、時間を通して永遠を見通し、「道」を通して、あなたがたを父のもとへと導く完全で光に満ちた小道を見通すことになる。 そうすれば、かつては障害や落とし穴であった伝統を忘れ、その道を後にしていくことになるでしょう――魂の歩みを阻む壁に過ぎなかった日常の習慣も、狂信の対象であった偶像も、すべて置き去りにされ、あなたの魂は、熱意と喜び、希望、そして信仰に満ち溢れ、自由かつ軽やかに、その霊的な未来へと歩みを進めることになるでしょう。

35. 魂が、自らを直立させ、それに寄りかかり、信じ、そしてわたしを愛するための杖と見なしていたすべてのものは、今後も引き続き、魂が霊的な眼差しでわたしを見つめ、この時代にわたしがあなたがたの間で豊かに啓示した永遠と真理を信頼するために、利用できるようになるだろう。 ある者たちの準備を通じて、私は他の者たちの不完全さを克服する。 あなたがたが、進歩を、私への接近を、高みへの発展を、理想を、そして私の神聖な御業への理解を願うことによって、私は来て、自らを現し、知恵と光としてあなたがたの中に注ぎ出す。

36. 救いの光へと変容したイエスの血は、救いとしてすべての魂に浸透し、今もなおそうし続けている。 私の霊は永遠に救いと光を授け、私は絶え間なく、暗闇のある場所に私の光の輝きを注ぎ込み、私の神聖な霊は――人間の血としてではなく、救いの力として、霊的な命として――私のすべての子供たちに絶え間なく注がれている。

37. あなたがたの未来が待ち受けている。その時代は近づき、あなたがたのもとへとやって来る。そして、その時代とともに、霊的な知識を渇望する人々、大群衆がやって来る――彼らは、自らの疑念を払拭し、魂のために光と平和への扉を見出せることを切望しているのだ。

38. 人々はやって来るだろう。その中には、科学と唯物論を体現する「トマス」もおり、探求するために鋭い眼差しを向けてくる。そして、それは目だけでなく、手の指でも、触れて確かめようとす

る。なぜなら、そうして初めて、彼は私の存在と、人類の間に次々と起こる霊的な出来事を信じることができるからだ。人々はそれらの出来事を証ししなければならない。そうして初めて、「第三の時代のトマス」は、その疑いと唯物論を乗り越え、私の愛に打ち勝つことができるのである。

39. あなたがたは、信仰の使徒となり、言葉だけでなく行いによっても証しをする熱心な弟子となるよう、備えなさい。そうすれば、あなたがたの模範が人々の頑なな心を打ち破ることになるだろう。わたしは奇跡を行い、あなたがたの元を訪れる者たちの不信仰を真に照らし出す証拠を示すであろう。

40. わたしはあなたがたに不可能なことを求めているわけではない。あなたがたにとって成し遂げがたい行いなどない。あなたがたの備え、祈り、そして信仰があれば、わたしにはそれで十分である。残りのことはすべて、わたしが成し遂げる。おお、わたしの愛する子供たちよ！

41. あなたがたにはできないこと、すなわち、あなたがたが直面するあらゆる困難は、すべてわたしに委ねなさい。そうすれば、わたしはすべてを可能にする。 そうすれば、人々は、人間にとって不可能なことが、あなたがたを通じて現実のものとなるのを目の当たりにするだろう。彼らは、これらの奇跡を人間の力によるものとは見なすことはできず、 、驚きの中で、至高かつ崇高な力について思索するために、あの世へと向かわざるを得なくなるだろう。

42. わたしは、人々の罪を滅ぼすために、栄光のうちに自らを現す。人間の力の前において、わたしは知恵と神聖な科学として自らを現す。 また、私は人間の科学の唯物主義を恥じ入らせるであろう。あらゆる宗教共同体や人間の制度に対して、私は救い主としてやって来る――そう私は予告してきた。不和と戦いの場において、私は目に見えない平和の武器、すなわち両刃の剣をもって現れ、あらゆる罪と堕落を滅ぼすであろう。

43. 私は、人々が私を見たいと望む姿、そしてこの地上に住む多くの人々が待ち望む姿として、偉大なる戦士としてやって来た。戦士として、私は真理と霊において来たのである。私の戦いはとっくに始まっているが、それでもまだ始まったばかりに過ぎない。この戦いの最も過酷で恐ろしい部分はこれから訪れるものであり、私が現在兵士として訓練しているあなたがたは、その戦いに赴くことになる。

しかし、あなたがたは知っている通り、私の戦いは不正からなるものではなく、まさに人間の不正に対する正義の裁きそのものであ

る。私の愛は、人間の偽善、利己心、そして悪を根絶するだろう。私の平和は、憎しみや不和の種や基盤となるものをすべて取り除くだろう。では、私があなたがたの手に委ねるこの目に見えない剣は、何を免れさせるのだろうか。それは、私の子供たちの命、繊細さ、そして美徳である。それ以外のものはすべて倒れるだろう。

44. もし私が、私への愛の火花一つ、真実の一粒、他者へのほんの少しの愛や思いやりを見いだすならば、これらすべては私の武器によって救われるだろう。

それゆえ、今やあなたがたは、この戦いがあなたがたの間で非常に大きなものとなることを理解できるだろう。しかし、この戦いは人間の間だけで繰り広げられるものではなく、普遍的なものである。すべての魂は、この戦いの後、真の生活へと一歩を踏み出すことになる――進歩への一歩、真実と霊において、私へと向かう確かな一歩を。

45. あなた方の周囲で、霊的な命が賑わっているのを感じないか。あなた方の魂の中で、この大いなる戦いの轟音が聞こえるのを感じないか。深い眠りの中にあっても、あなた方の魂は葛藤し、戦い、自らを解き放ち、私が与えた使命を果たしているのだ。

46. これこそが、私の弟子ヨハネが預言の賜物によって見た大いなる戦いである。彼は、今日まさに激戦を繰り広げているのと同じ軍勢を見たのである。

47. 戦いの最も激しい局面はまだ訪れていない。それゆえ、私は絶えずあなたがたに教えを授けている。それは、あなたがたを、私の教えと私の律法――その律法は兵士たちに「互いに愛し合いなさい」と告げる――の勇敢な兵士へと変容させて、この世に残すためである。

48. これこそが、偉大なる戦士、万軍の主が、愛する民よ、第三の時代にあなたに告げていることである。この愛の剣を掲げ、それを握り、鞘から抜き放ち、人類の中に存在するあらゆる憎しみと悪を打ち破りなさい。

49. あなたがたは、私が「高き玉座」から、宇宙全体を私の平安と祝福で包み込んでいることを知っている。

50. すべてのものは、あらゆる時、あらゆる瞬間に、わたしによって祝福されている。わたしの子供たちに対するいかなる呪いも、いかなる断罪も、わたしから出たものではなく、また決して出ることもない。それゆえ、わたしは、義人であろうと罪人であろうと区別することなく、すべての者にわたしの祝福、愛の口づけ、そして平和を注ぎ下すのである。

私の平安が、あなたがたと共にありますように！

教え 320

1. 人類よ、主が人となって現れた御姿を授かったことを幸いとしなさい。人類よ、その愛の遺産を受け継いだことを幸いとしなさい。

2. イエスを通してこの世に現れた私の存在はパレスチナの地で実現し、私の説教はわずか三年しか続かず、私が訪れた村もごくわずかであり、ゴルゴタへと私を伴った群衆もそれほど多くはありませんでした。それにもかかわらず、イエスの口から発せられたその言葉は、あらゆる時代の人類に届きました。

当時のあらゆる国々へ弟子を探しに行く必要はなかった。なぜなら、私の言葉は種のように、やがてその国から運び出され、地球上のあらゆる民族へと広まっていくことを知っていたからだ。

イエスの言葉を聞き、その「死」を目の当たりにした人々は、その後続くすべての世代を代表してそこにいたのです。なぜなら、私の教えの真髄と、あの血が流された愛は、すべての人々のために用意されていたからです。

3. イエスをメシアと認めず、彼を犠牲にしたからといって、その民を非難してはならない。彼らが嘲笑したその方が、神ご自身であったという考えに憤慨してはならない。まことに、あなたがたに告げる。裁きを行うのは、わたしだけである。

あの民を不当に非難し、師を犠牲にしたことを許さない人々の多くは、自分たちにふさわしくない立場をとってしまったがゆえに、自覚することなく心に落ち込みを抱えている。

4. 私が十字架にかけられ、死の淵にありながら、私の苦しみを嘲笑する群衆を前にして、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのか分かっていないのです」と叫んだように、その同じ言葉が、私からあなた方に向けて毎日繰り返されるかもしれない。 なぜなら、あなたがたは生まれながらにして私の名を知っており、心の中に私の教え、戒め、そして律法を持っているにもかかわらず、私に対して侮辱を投げかけ、私の原則を嘲笑することをやめないからだ。

5. あなたがたは三つの霊的啓示の時代を経験してきたが、人類は依然として、私が待ち望む神殿を築き上げてはいない。それにもかかわらず——この第三の時代において、人々は心の奥底に至聖所を築き上げるだろう。そこには、魂という聖櫃が置かれる。その魂は、あなたがたの精神の中に宿る律法の石板をその内に秘めているのである。

6. 人類の道徳的・精神的な変容は、あなたがたには不可能に思えるだろう。なぜなら、あなたがたは、啓示された原則から大きくかけ離れてしまっているからだ。あなたがたは、愛が支配し、平和が満ち、正義が存在する世界を想像することさえできず、ましてやそれを信じることはなおさらできない。

7. あなたがたは、わたしの言葉の意味も、わたしの行いの意味も探求しようとしなかったがゆえに、これらすべてを信じることができないのだと、わたしは告げる。もしあなたがたが、ほんの少しの時間を霊的な黙想に捧げれば、大きな霊感を受け、知恵を得るだろう。

8. 2000年前の人々のうち、あなたがたが知性の力によって築き上げた現在の世界について、誰が想像できたでしょうか。誰もいません。それゆえ、今日の世界を予告していた多くの古い預言は、信じられなかったのです。

9. 私は預言者として、新しい世界と霊性化された人類を告げますが、この言葉が知れ渡ったとしても、やはり信じられることはないでしょう。

10. 世代は次々と過ぎ去り、人々の傲慢さは暴風雨や洪水、疫病や災いを解き放ち、人類の嘆きの叫びは宇宙を揺るがすだろう。 しかし、これらすべての後、新しい地球の住人たちは、内省と霊化の生活を始め、その過程で、過去の世代が彼らに遺した計り知れない経験の宝を活用し、神聖な種は発芽し始めるだろう。

11. すべての魂には、それが私から生まれたものであるゆえに、神聖な種が存在する。あなたがたの子供たちが両親の容貌や性格を受け継ぐように、魂たちも最終的には、天の父から受け継いだもの、すなわち愛を明らかにするようになる。

12. 私があなた方への愛ゆえに、人間として十字架上で死んだあの日を思い出してください。私の受難を思い出してください——そう、しかし、何世紀にもわたって慣れ親しんできた従来の方法、すなわち、その真意や意味に深く入り込もうとしなかったために、あなた方の魂に何の種も残さなかった、表面的で感覚的な方法では、もう思い出さないでください。

13. 私は、あなたがたが心を動かそうとして、血まみれの描写や絵によって私の死を劇的に演出し、まるで人間が亡くなったかのように泣き、喪服を着て、そして毎年、自分が何をしているのか自覚することなく、母に哀悼の意を表しているのを見ている。

14. 十字架上で亡くなられた方が永遠の命へと復活されたのだから、マリアは誰をも失っていないのに、なぜ彼女に哀悼の意を表す

のか。私はもはや痛みや死を超越しているのに、なぜ私のために涙を流すのか。

15. まことに、あなたがたに告げる。むしろ、自分自身のために涙を流し、自分の罪のために悲しみを感じ、あなたがたの中で死んでしまった多くの美徳や高潔な感情のために、心に悲しみを抱くべきである。

16. 私は、あなたがたが記念日や日付、あるいは伝統的な追悼の日を待つことなく、集まりの場や家族の輪の中で一つとなり、私が「第二の時代」にあなたがたに示した模範や業を改めて振り返りながら、霊性と敬虔に満ちて集い、私の言葉を熟考し、その意味を解き明かすことを望んでいる。 そうすれば、あなたがたは私の業と言葉の真意や本質を見出すことができるため、魂にとって真に有益なものとなるでしょう。

17. 私に対して同情を抱こうとしてはならない。私の中には、人々に後悔を抱かせるようなものは何一つないからだ。 その代わりに、私が生涯を通じてあなたがたに示してきたその愛に心を動かされ、私を侮辱したことに対するその憐れみや後悔、そして良心の呵責を、あなたがたの隣人たちに注いでください。その中には、あらゆる憐れみと共感に値する何千人もの人々がいます。ある者は、ひどく苦しんでいるからであり、 ある者は悪徳の泥沼に身を投じてしまったからであり、またある者は真理の光を知らないからであり、さらにある者は愛のない生活を送っているからであり、あるいは正義と平和への飢えと渇きを抱えているからである。

18. 彼らのために真に憐れみと慈悲を抱き、涙を流し、彼らのために祈りなさい。しかし何よりもまず、彼らの痛みを和らげ、あるいは彼らの生活を改善するような行いをしなさい。そうしてこそ、あなたがたは真に、わたしの教えを理解し、わたしの犠牲の死を悟り、わたしの御心を正しく解釈する道に歩み出すことになるのです。

19. 互いに愛し合うことこそが、わたしの言葉に従い、わたしの御霊に喜ばれるための唯一の在り方となる。

20. 私は十字架の上で、イエスを通してこう言った。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのか分かっていないのですから！」

何世紀も経った今、私はこの人類に改めてこう言わざるを得ない。彼らは依然として、自分たちが何をしているのか分かっていないのだ。なぜなら、彼らはしばしば、私が彼らに啓示した律法や教え

の真意を歪め、それらを尊び、果たしていると思い込みながら、実際にはその両方に背いているからである。

21. もしあなたがたが私の教えを理解し、その真意を感じ取ることができれば、愛が血管を駆け巡るだろう——私の一部である隣人への愛が。しかし、あなたがたは互いに愛し合うことからはほど遠く、そのことはあなたがたのほぼすべての行いによって証明されている。

22. 記念の儀式において、私、神聖なる師が、あなた方への愛ゆえに霊界を離れ、人々の間に住むために人間となったことを思い起こしなさい—— 私が自分の王国を離れ、この世で人間として、苦しむ人々のために奉仕する姿を見せたこと——すべての被造物の父が、キリストとして、最も謙虚な者となり、生涯をあなた方に捧げるために、あなた方の元へ来られたことを。

23. 私の教えは、所有するものが多ければ多いほど、より多くを与えなければならないこと、そして、偉大であればあるほど、より謙虚でなければならないことを説いた。

24. この時代、私を模範とする者たちは誰なのか。王座や名誉の座から降りて、貧しい者や苦しむ者たちの間に身を置き、彼らに命を与えることができる者は誰なのか。あなた方の世界はこれほど広く、人類はこれほど数多いにもかかわらず、私はそのような者たちを見出せない。

25. もし、かつてそのような模範が地上に溢れるほど見られるようになったなら、そのときこそ、あなたがたは、わたしの言葉と模範を心に刻み、それを実践していると断言できるだろう。

26. 世代から世代へ、時代から時代へと、人々は神の法則からますます遠ざかり、その結果、精神的な分野において後退を余儀なくされてきた。

27. もしあなたがたが、一瞬立ち止まって、まるで山の高みから街を眺めるかのように、理性をもってこの世界を見つめ直してみれば、人々が自らの情熱と知性を開花させ、それらを常に地上の目的のために用いてきたことに気づくでしょう。

28. 自らを省み、深く思索すれば、真の霊性——すなわち、人間の中に光の存在が宿っていることを証明する何か——の兆しは、どこにも見当たらないことに気づくでしょう。

29. もしあなたがたが、この思索の山から降りてくるとき、霊的な生活を支配する神の法則から遠く離れてしまったという認識を抱き、憂い、悲しみに満ちた様子となるでしょう。

30. その道のりで、あなた方は自分たちより低い次元にいる小さな存在――ミツバチ、アリ、ミミズ――に出会い、こう言うだろう。「父よ、なぜあなたは、私たちより下位にあるこれらの存在が罪を犯すことを許さず（）、それに対して、私たちのようなあなたの霊的な子供たちには、平然と罪を犯させるのですか？」 ああ、主に対して、このような無意味な質問を敢えてする、小さな者たちよ！

31. 私は、あなたがたが、これらの生き物たちが享受している無邪気さと平安を羨ましがっているところを、すでに目撃してきた。あなたがたが、巣を我が家として喜びに満ちている鳥たちを羨ましがっているのを見てきたし、あなたがたの心が「もしかすると、これらの生き物たちは、神の子供たちよりも大きな祝福に値するのではないか？」と呟いているのを耳にした。

今、私はあなたがたに告げる。あなたがたがこのように自問し、苦悩するのは、真理を見出すまで私の教えを深く学ぶことを知らないからである。

32. なぜ、これらの生き物たちには地球というただ一つの住処しかなく、彼らがその上で天国と至福を享受するのは当然のことだと、あなたがたは気づかないのか。 私が彼らに、自然の法則という力に従うよう導いていることを、あなたがたは悟らないのか。彼らはその法則の内に生きているのだから、その法則が内包するすべて――すなわち愛、平和、幸福、喜び、活動、そして生命――を享受しなければならないのだ。

33. あなた方人間には、地上の自然を超えたもの、すなわち霊的な生命を知る機会が与えられている。そのために、あなた方の父の御国へと通じる道が啓示されたのである。 しかし、私は、あなたがたにこの道を歩むか歩まないか――上へ登るか下へ降りるか、近づくか遠ざかるか――という自由を残しておいた。なぜなら、これこそが、父に対する真の功績を積み、同時に父への愛を証明する方法だからである。

34. 理性を持ち合わせない存在は、その内なる声であり、師であり、導き手である本能に導かれる。それは、母なる自然から発せられる光のようなものであり、その存在が人生において歩まなければならない道を照らし出す――これもまた、危険とリスクに満ちた道である。 あなた方人間は魂に導かれ、あなた方の魂は、神聖な御霊がその霊的な子供たちの中に宿した光である御霊に導かれている。

35. 自然の子らの運命は地上にあり、ここで始まり、ここで終わる。 一方、魂の使命は私のもとで始まり、決して終わることはない。なぜなら、魂が地上の生活を超越し、完成の世界を越えて永遠へ

と入っていくとき、魂は一つの住まいから別の住まいへと移り住み、その過程で知恵に満ちた新しい世界を発見し、ますます至福になり、ますます愛を深めていくからである。

36. 自分の使命について考え続けることをやめてはならない。また、自分より低い立場にある兄弟姉妹たちを観察することを怠ってはならない。なぜなら、 彼らの中に、あなたがたは知恵の無限の模範を見出すことができ、それを自分の人生に応用することで、豊かな実りを得ることができるからである。

37. あらゆる種が調和して生きている姿や、勤勉に活動する者たちの姿を見習いなさい。忠誠や感謝の模範を心に刻みなさい。 それらは、私の被造物から生まれたものであり、同様に私からも発せられたものであるため、神の知恵を含んでいる。それらは、この世界であなた方を包み込み、導き、私がこの地上に置いたものに参与し、そして、あなたがたがそれらの中に、神の律法を文字通り忠実に守り、良心の声に導かれるならば——*彼らが*本能に導かれるように——調和を知り、平和を体験し、それがあなたがたの富の増大、豊かさ、そして精神的・人間的な進歩をもたらすことを告げる声を見出すことができるようにするためである。

38. これらすべてについて深く思索する者が、果たして戦争を煽るようなことができると、あなたがたは思うか。良心の声をはっきりと聞き取った者が、自らの隣人を辱めようと立ち上がると思うか。 いいえ、愛する民よ。それゆえ、あなたがたは私の啓示について熟考しなければならない、そして世界もまた熟考しなければならない、という結論に至ってください。そうしてこそ、その考察によって魂が高揚し、知性が感嘆に満たされ、人間は——一言で言えば——真に良心の声を聞き、それに従うようになるのです。

39. 今日の教訓について熟考し、人々にそれについて熟考するよう教えなさい。それは、私があなたがたに与えたのと同じ温かさを込めて、あなたがたが隣人の心に伝えなければならないメッセージである。なぜなら、あなたがたには果たすべき使命があり、それゆえに、私はこの時代にあなたがたに私の言葉をもたらすために来たのである。 しかし、この啓示のために、私はこの世の学問によって知性を鍛え上げた者たちを用いるのではなく、第二の時代の私の弟子たちのように、その素朴さにおいて私に従った者たちを用いたのである。

40. 恐れずにわたしの業を示しなさい。それは、いつの時代も世界を照らし続けなければならないのだから。

41. あなたがたの心に私の言葉が刻み込まれるよう、またあなたがたが師のようになるよう、そして謙虚であるゆえに私の真の弟子となるよう、自らを鍛えなさい。真理を伝えなさい。それによって全人類が照らされるように。

42. 美徳を実践し、あたかも一人の弟子であるかのように団結しなさい。この書物から、すべての者が教えを受け取るであろう。そうして、「最後の人々が最初の人々となる」のである。

43. 愛する民よ。あなたがたは、この言葉をどれほど敬虔な心で聞き入れたことか。この言葉は、あなたがたを教え導き、まもなくあなたがたの目の前で成就するであろう出来事を告げているのである。

44. 人間は霊化に向けて大きな歩みを踏み出すことになる。その精神は人間の限界を超え、より高い生命の世界へと到達し、そこで兄弟たちと交わり、彼らが差し出す光を受け取ることができるようになるだろう。 また、人間は、発展の程度が低い存在や、遅れた存在たちが留まっている生命の次元へと降りていくこともできるようになるでしょう。それは、彼らがその貧しい存在を脱却し、より良い生活段階へと移行できるよう手助けするためです。 魂が完全性へと昇りつめる階段は非常に長く、その道中で、あなた方は無限に多様な発展段階にある存在たちに出会い、自分たちが持つものを彼らに分け与えることになるでしょう。そして彼らもまた、その見返りとして、自らの霊的な豊かさをあなた方に授けてくれるでしょう。

45. そうして、あなたがたは、改善を求めて奮闘している世界がここだけではないことに気づくでしょう。 すべての惑星で魂が発展し、すべての惑星で魂が活動し、その使命を果たすために成長していることを、あなた方は知ることになるでしょう。そして私は、あなた方がすべての兄弟たちと盟約を結び、互いに認識し、愛し、助け合うという聖なる願いの中で、彼らと交流できるよう、準備をしてほしいと願っています。私の名において、そして無条件の服従をもって、あなたの思考を通じてそれを行いなさい。 この実践を始めれば、次第に彼らの願いや教え、そして恩恵を正しく理解できるようになるでしょう。

46. 私は、あなたがたが、現在あなたがたの住まいであるこの惑星上およびその外にいる兄弟たちと調和することを切に願っている。友情の絆を結び、必要な時には助けを求め、また、あなたがたが持っているものを求めてくる者たちにも、速やかに助けの手を差し伸べなさい。

47. この時代、あなたがたをわたしの再臨の認識へと導くよう定められた存在たちは、どれほどあなたがたを愛し、守っていることか。そして、彼らはこの人類にどれほど慈愛に満ちた影響を与えていることか！ わたしだけが、この絶え間ない努力を見守り、彼らの功績を知っている。 彼らの業は偉大であるゆえ、私は彼らを祝福する。もしあなたがたが自らの霊的生活の奥底に踏み込むことができれば、そこには、あなたがたの霊的な恩人たちに負うところの、慈愛と奇跡に満ちた光景が広がっているのを見出すだろう。彼らは、あなたがたがその善意や努力に気づくことさえなく、この世で様々な使命を果たしているのだ。 ただ一つ言えるのは、彼らは絶えず、人々の生活を秩序と正義へと導き戻すために奮闘しているということだ。

48. 彼らの困難な使命を助け、彼らの愛と無私無欲を理解し、この偉大な業において彼らの協力者となりなさい！

49. 今の時代だけでなく、最初の人間が地球に住み始めて以来、霊界は遣わされ、その存在を明らかにし、あなたがたの苦しみや喜びを共に分かち合ってきた。 私がそう定めたのは、あなたがたが孤独を感じたり、霊的な兄弟姉妹から遠く離れていると感じたりしないためです。あなたがたが一度、素朴さを取り戻し、これらの存在と触れ合い、彼らの姿を目の当たりにしたとき、その働きを認識し、彼らを祝福するようになるでしょう。 そして、あなたがたが地球を離れ、次の住まいへと旅立つ時、あなたがたは、生前の守護者であった者たちと再び一つになるでしょう。しかし、霊的な兄弟姉妹の美徳を知った今――あなたがたは、自分たちの守護天使が自分たちにとってそうであったように、幼い兄弟姉妹たちにとってそのような存在になりたいと思わないでしょうか？

50. 私は今、あなたがたの世の理解からは隠されていたことを明らかにしている。それは、あなたがたの人生において根本的なこと――すなわち、魂の不死、常に上へと向かうその道、そして私の中にある最終的な目標――が、あなたがたにとって未知のままであってほしくないからだ。

51. 一歩一歩その道を歩み、この地上で生きながらも、常に天を見上げなさい。あなたがたが旅を始めたその瞬間から、すでに永遠の命を生きていること、そしてあなたがたが経験するあらゆる試練が、あなたがたを私へと近づけ、歩みを進めた道のりのすべてが、帰路にかかる時間を短縮していることを忘れないでください。

52. あなたがたは、この霊性化の時代の最初の光を見出したが、その完全な開花をこの世から目にすることはないだろう。あなたが

たの業を引き継ぐのは、あなたがたの子孫たちである。しかし、私は、あなたがたの両親であった者たちの魂が、あなたがたの使命の達成のために引き続き尽力することを許したのと同様に、あなたがたが引き続きその種を育むことを許そう。

53. この世で善のために働き、私の言葉を人々の心に届けなさい。ある人々には耳を貸してもらえないことも多いだろうが、他の人々には共感を呼ぶだろう。そして、あなたがたは、私があなたがたに与えたこの教えを、あなたがたのすべての同胞に伝えるために、彼らに豊かに授けるべきである。

54. 今日、あなたがたは、私がいつの時代にもあなたがたに伝えてきた、唯一かつ同じ本質、すなわち「愛」を明らかにする私の言葉を持っている。私の律法と教えの根底にある原則は、不変であり、永遠である。

55. 今日、私は御霊として来臨し、神聖なる光によって私の真理と私の臨在を明らかにする。それは、あの「第二の時代」において、私がイエスにおいて私の「言葉」を人として現し、言葉を通してあなたがたに私の真理を明らかにし、血をもってそれを確証したのと同じである。 人々のところへ赴き、彼らと共に生き、彼らが感じ、見るのと同じように感じ、見えるようにすることは、私の霊が人々に対して抱く限りない愛の証しを彼らに与えるために必要であった。

56. わたし、キリストは、人イエスを通して、父の栄光、その知恵、そしてその力を明らかにした。 その力は、霊において信仰を、知性において光と、心において平安を必要としていた人々の益となるよう、奇跡を行うために用いられた。愛そのものの力であるその力は、苦しむ者たちに注がれ、彼らに完全に身を捧げるためであった。それは、死の瞬間に私自身の身体も同様に必要としていたにもかかわらず、私はその力を自分の身体のために用いなかったほどであった。

57. 私は、自分の体に突き刺さるような痛みを避けるために、自分の力を行使しようとはしなかった。なぜなら、私が人間となったのは、あなたがたのために苦しみ、未熟な者たち、苦しむ者たち、罪人たちに、私の限りない愛と憐れみの、神として、また人間としての具体的な証しを与えるためであったからだ。

58. 私が他者に示したあらゆる力――それは、ハンセン病患者を癒やし、盲人の視力を回復させ、足の不自由な者に歩行能力を取り戻させたことであれ、罪人を改心させ、死者をよみがえらせたことであれ―― 群衆の前で、自然界に対する私の権能や生と死に対する

私の力を示すことで、私の真実の証拠を与えるために私が現したあらゆる権能を、私は自分自身のために用いることを望まなかった。それゆえ、私は自分の肉体があの受難を生き抜き、あの苦痛に耐えることを許したのだ。確かに、私の力であれば、私の肉体をあらゆる苦痛から免れることはできた。しかし、それでは、あなたがたの目には、私にどのような功績があっただろうか。 もし私が痛みを免れるためにその力を行使していたなら、人間にとって理解しうるどのような模範を残せたというのか。あの瞬間、私は自らの力を捨て、神聖な力を拒み、肉体の痛み、恩知らずに対する悲しみ、孤独、死の苦しみ、そして死そのものを感じ、体験する必要があったのだ。

59. それゆえ、イエスの苦痛は本物であったからこそ、死の瞬間にイエスの唇は助けを求めたのである。 しかし、熱にうなされ、疲れ果てたイエスの体を圧倒したのは、肉体的な痛みだけではありませんでした——それはまた、その体を通じて虐げられ 、そして、その血を流したにもかかわらず、盲目で恩知らずで高慢な子供たちから嘲笑の的とされた神としての精神的な苦しみでもあったのです。

60. イエスは、御自身に宿る御霊、すなわち神聖な御霊によって強められており、痛みに対して無感覚であり、迫害者たちの攻撃に対して無敵であることもできたはずである。しかし、イエスが涙を流し、群衆の目の前で何度も地面に倒れ込み、体の力が尽き果て、体が最後の血の一滴まで失った後に死ぬことを感じる必要があったのである。

61. こうして、私の地上の使命は果たされた。こうして、エルサレムに入城したわずか数日前に、民衆から王と称えられたあの人の、この世での生涯は幕を閉じたのである。

62. わたしを迎え入れた者たちは、まさにその「髑髏の地」へとわたしを付き添った者たちであり、かつて「ホサナ！ ホサナ！」と歌っていた人々の多くが、後に「彼を十字架につけろ！彼を十字架につけろ！」と叫んだ。しかし、愛と信仰をもって心を整えて私を受け入れてくれた多くの人々は、最期の瞬間まで忠実に私に従い、師が残した血の跡に涙を落とした。

63. 魂の光を通してわたしを見た人々にとって、わたしは神そのものが人となった存在であった。しかし、五感だけでわたしを見た人々にとって、わたしは「真理」ではなかった。なぜなら、人間としてのわたしの死は彼らを混乱させ、欺かれたと感じさせたからである。イエスが喜びに満ちた王国を約束した際の力強い言葉を思い出し、自分たちを「騙された者」と呼んで嘲笑したのは、まさにこ

うした人々であった。 しかし、今や彼らが、十字架の重みに屈み、その後、恥辱に満ちた十字架に釘付けにされるイエスを見たとき、彼らはただ嘲笑し、イエスは生きる価値のない偽預言者だと叫ぶことしかできなかった。

64. 彼らは、哀れな無知な理性主義者たちであり、哀れな物質主義に囚われた魂たちであり、自らの憶測に囚われていた。「もし彼が神の子であるなら――なぜ彼は、抑圧者や処刑者たちの手から救われなかったのか？ もし彼の声と右手に力があるのなら――なぜ彼は十字架の上で、見捨てられたと嘆いたのか？もし彼が命そのものであり、死者をよみがえらせる者であるなら――なぜ彼は取るに足らない者たちの手によって死んだのか？」

65. まだ、その光がそれらの被造物の魂に届く時ではなかった。彼らは、私の苦しみと死という神聖な真理を理解できるようになるために、人生の道を歩み続けなければならなかった。 一方、魂を込めてわたしを愛した者たちは、一瞬たりとも動揺や疑いを抱くことはなかった。そして、 主が苦しむ姿を見るほど、無限の愛、至高の正義、そして英知の証しを前にして、彼らの敬慕の念はますます深まっていった。

66. 誰もが「心は闇に満ちており、私の真理のほんのわずかな片鱗さえ見出すことなどできない」と評した強盗ディマスでさえ、他の人々がもはやそれを見出せなくなっていたまさにその場所――十字架の上で――私の神性を認識することができた。 彼は私の光を見出し、私の愛を発見し、イエスの謙遜さと世の盲目さを見抜いた。そして、この地上で多くの苦しみを味わい、裁かれ、血の架台を知っていたからこそ、彼は私を理解し、心の中でこう言った。「私が強盗であり悪人として十字架で死ぬのは当然のことだ。 しかし、なぜあなたがたは、この杯を師――あなたがたがただ恵みだけを受けてきたこの人――に差し出すのか？」そして、義なるイエスが死と格闘するその忍耐と謙遜を見たとき、彼は感情を抑えきれず、こう叫んだ。「主よ、あなたが御国におられるとき、私を思い出してください！」

67. そう、愛するディマスよ、あなたは私と共に、光と霊的な平安に満ちた楽園にいた。そこは、あなたの信仰への報いとして、私があなたの魂を導いた場所である。 イエス――死の苦しみの中、血を流していたその姿――の中に神が宿っていることを疑った者たちに、果たして誰が、イエスの右側に横たわり死の苦しみの中にあったその強盗の中に、光の霊が隠されていたと告げることができただろうか。 時が経ち、心の平安が再び訪れたとき、私を拒絶し嘲笑し

ていた者たちの多くが、私の真理の光の中へと入り込んだ。それゆえ、彼らの悔い改めは深く、私に従う彼らの愛は揺るぎないものとなった。

68. 私は十字架の上から、この世に「いのちと霊的な知恵の書」を遺した――それは、何世紀にもわたり、時代や時代を経て、人々によって解釈され、理解されるべき書物である。 それゆえ、私は十字架の足元で痛みに打ちひしがれていたマリアに、「女よ、これがあなたの息子だ」と告げた。その際、私はヨハネの方を見据えて指さした。その瞬間、ヨハネは人類そのものを体現していたが、それはキリストの良き弟子へと変容した人類、すなわち霊化された人類であった。

69. また、ヨハネに対しても、私は「子よ、これがあなたの母である」と語りかけた――この言葉について、今、あなたがたに説明しよう。

70. マリアは、清らかさ、従順、信仰、慈愛、そして謙遜を体現していた。これらの美徳の一つひとつは、私がこの世に降りてきて、あの聖なる清らかな女性の胎内で人間となるために登った梯子の段である。

71. その慈愛、その清らかさ、そして愛こそが、命の種が受精する神聖な胎内である。

72. 私が人間となり、私の子供たちと共に住むためにあなたがたのもとへ降りてきたその梯子は、あなたがたが人間から光の霊へと変容し、その梯子を登って私のもとへ上るために、私があなたがたに差し出すものと同じものである。

73. マリアこそが梯子であり、マリアこそが母なる胎内である。彼女に心を向ければ、あなたは私と出会うだろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 321

1. 弟子たちよ、あなたがたは善意をもって私の言葉を解釈しようとしている。それゆえ、祝福あれ。そうすることで、あなたがたは自分たちが持つ賜物を開花させ、隣人の益のためにそれを用いることができるようになるだろう。

2. 今、人々は永遠のこと、すなわち儚い人間の存在の彼方にあるあの命について、不安を感じている時代にある。しかし、この時代にわたしの弟子であったあなたがたは、霊的な知恵への扉を開く鍵が「愛」であることを、常に心に留めておくべきである。

3. 私は教えを説いてきた全期間を通じて、この地上の生活が魂にとって学校であり、経験であり、試金石であり、成長の場であることを説明してきましたが、魂が霊的な生活に関する最高の知識を得ることは、一度この地上の肉体を離れ、地上の世界を超えた無限の「谷」に身を置いた時に初めて実現するのです。

4. 私の教えの簡潔さを称賛しなさい。その光は全宇宙を照らし、活気づけるため、あらゆる活動、あらゆる分野に応用できるのです。その本質があなたがたの知性に注がれるとき、それは人々に、魂の完全性に達するまで自らを向上させる方法を明らかにする。この本質こそが、あなたがたの神の中にあり、あなたがたの人生において尽きることのないインスピレーションの源として存在する「善」である。

5. 私の教えは単純であり、それゆえ人間の理解の範囲内にあり、あなたがたは皆霊性を持っているため、誰にでも理解できるものである。複雑さや神秘主義、あるいは唯物論が関与するところには、光である私の真理は存在しない。

6. 簡素さを求め、謙虚さを愛しなさい。そうすれば、あらゆる秘密や、最も解きがたい神秘でさえも、その内容がすべて明確に示された本のページのように、あなたがたの知性には明らかになるでしょう。

私が、人々が解明できなかった、あるいは解明しようとしなかった神秘や秘密について語る時、それは私の秘密の宝庫に、私の子供たちの理解のために用意してあるすべてのものを指している。私は、あなたがたが決して知る必要のないことについては語らない。なぜなら、それについてはあなたがたの父だけが管轄しているからである。

7. 第二の時代において、私はあなたがたに教えを与え、それによって人々に、彼らは単なる物質から成るだけでなく、一人ひとりの

内に、人間の生命よりも高次な存在が宿っており、その故郷は永遠にこの世にあるのではなく、 地球よりも無限に高次の領域にあることを理解させた。 その教えは、永遠にまで及ぶ深遠なものではあったが、すべての人々が理解できるよう、平易かつ簡潔な形で表現された。なぜなら、すべての人にはそれを知る権利があったからである。

8. この教えは、人類がこの第三の時代に完全に霊的な領域へと踏み出すための準備であった。 なぜなら、今日、私が再び人間に聞こえるよう声を人間化して、人々に自分を聞かせるために、私は彼らの元へやって来たのだ。それは、当初は約束のように思われたすべての事柄の真意を、今やこの人類が理解できるようになったと私が見ているからであり、その教えを広げ、展開し、解説するためである。

9. 私はすべての人々とすべての民族を、私の新しいメッセージのもとに集め、羊飼いが羊を呼び寄せるように彼らを呼び寄せ、荒天や嵐から身を隠せる、羊小屋のような安らぎの場を与えてやる。

10. あなたがたは、一見、信仰や霊性の痕跡を微塵も持っていないように見える多くの人々が、その魂の最も清らかな部分に、霊的生活の不滅の原理を保ってきたことを、やがて目の当たりにするだろう――また、あなたがたには神への崇敬を全く持っていないように見える人々のうち、どれほど多くの者が、その存在の最も奥底に、破壊されざる祭壇を宿しているかを、やがて悟ることになるだろう。

11. 人々は、この内なる祭壇の前で、自らの過ち、悪行、そして侮辱を嘆き、不従順に対する心からの悔い改めをもって、霊的にひざまずかざるを得なくなるだろう。 そこ、良心の祭壇の前で、人間の傲慢は崩れ去り、人々はもはや人種を理由に自分たちを優越した存在とは見なさなくなるだろう。そうして、愛と謙虚さ、信仰と善意の当然の果実として、犠牲、償い、そしてついに平和が訪れるのである。

12. 現在、権力と地上の栄華への野心的な追求にのみ没頭している人々は、自分たちの最も強力な敵が霊性であることを知っており、それゆえにそれを攻撃している。 そして、すでに近づきつつある戦い――悪に対する霊の戦い――を予感しているため、彼らは自分の所有物を失うことを恐れ、インスピレーションという形で絶えず彼らを驚かせる光に抵抗しているのです。

13. 結局のところ、勝利するのはどちらだと思うか――霊か、それとも肉か。間違いなく、勝利するのは霊である。かつてこの世の

奴隷であった霊が、今や「肉」の情欲を支配する者となるのだ。それは、あなたがたが「神のものは神に、世のものは世に」と捧げる時となるだろう。

14. 今日、私は預言的な言葉をもって、地上のすべての民族が霊的に調和する時が近づいていると告げます。あなたがたのうち、誰がこの業を成し遂げることができるでしょうか。どの人間に、私の預言を現実のものとする力と光があるというのでしょうか。 誰もいない、愛する民よ。あなた方を包む闇の中で、光を灯すことのできる人間など一人もいない。いつものように、影を追い払い、嵐を鎮め、あなた方すべてを、真の兄弟姉妹として、そしてあなた方がそうであるように、ただひとりの父の子らとして、私の愛の食卓に集めてくれるのは、私である。

とはいえ、この戦いで私が独りになることはない。この民は私と共に働き、これらの弟子たちは人類に対する私の代弁者となるだろう。彼らは偵察者たちに対する私の忠実な証人となり、私が世界に私の力、私の愛、私の臨在の証拠を示すために用いる道具となるのだ。

15. あなたがたは決して、わたしの十字架の重荷をすべて背負うことはない——もう一度言っておく。しかし、あなたがたが背負うべきその一部分——それはなんと困難なものになることか！ あなたがたの責任は重大である。

16. 戦いは激しくなるだろうが、私があなたがたと共にいることの証となる好ましい出来事によって、その戦いは常に和らげられるだろう。それらは、あなたがたの心に語りかける私の声のようになるだろう。

17. あらゆる民族が、次第に新しい日の光、すなわち「第三の時代」の光へと目覚めていくのを見て、あなたがたの魂はどれほど喜びに満ちるだろう。その時代には、すべての人々が団結し、あなたがたの神への賛美として、信仰と愛の消えることのない炎が輝く内なる聖所、すなわち霊的な神殿を築き上げるのだ。

18. 現在、あなたがたは平和、調和、兄弟愛からまだ非常に遠く離れていると感じており、それには理由がある。なぜなら、一人ひとりの人間において、神、人生、真理に関する観念があまりにも異なっているため、あたかも多くの神々が存在し、一人ひとりに固有の神がいるかのような印象を抱いてしまうからである。

19. せめて、あなた方を囲む自然の中で、すべてのものがただ一つの原理に従い、すべてが同じ使命に従い、すべてがただ一つの法則の下で調和している様子を、観察したことはないのか。

20. もし様々な使命が存在し、もしあなたがたが、私があなたがたに啓示したのとは異なる法則を発見し、私以外の誰かを発見していたならば、あなたがたの信仰の信念や、礼拝の形式、観念、そして生き方に違いがあることには、それなりの理由があったでしょう。しかし、私は再びあなた方に告げます。、永遠からあなた方の人間的かつ霊的な生活の天蓋へと降り注いだ光は、ただ一つだけなのです。

21. 誰にとっても、この教えに改宗することは犠牲にはならないし、頭を悩ませる必要もない。また、自分の心の中に抱いている善や真実、正義のすべてを拒絶する必要もない。

22. 私の業が目指す唯一のものは、すべての人々の霊化である。なぜなら、霊化によって彼らは一つとなり、互いに理解し合うようになるからだ。霊化によって、彼らは、*それぞれの*宗教が神を異なる方法で解釈してきたために、精神的な分断の原因となっていた、宗教の名称や外的な形式が消え去っていくのを見るだろう。

23. すべての人々が、それぞれの異なる霊化の道を歩みながら互いに近づいていくにつれ、彼らに欠けていた唯一のものは、物質主義から解放され、これまで物質的な意味で捉えてきたものを霊的な観点から解釈できるようになることだったのだと理解するようになるだろう。

24. こうして、かつて私の存在をその像の中に認めるために像の前にひざまずいていた者は、その後、私を表現するために何らかの形を作り出す必要もなく、自らの魂の中で私を感じるようになるだろう。

25. 私がそこにいると言われ、そこで癒やされると聞いて、ある場所へたどり着くために長い巡礼の旅をしてきた者は、私を見つけるために地球上のこの地点からあの地点へ移動する必要はないことを学ぶだろう。なぜなら、人は祈りという神からの賜物によって、場所を問わず、人生のあらゆる瞬間に私を見出すことができるからである。

26. そうして人々は、心からの悔い改めによって自らを清め、霊から霊へと、私の神性に対して自らの罪を告白するようになる。その際、彼らは自らの良心をその霊的な行為に組み込むのである。

27. 霊的な意味において、わたしの言葉の本質以外のパンも、他のワインも存在しなくなるだろう。人々は、その本質によって養われ、愛、誠実さ、正義、慈悲の中で強められていくのである。

28. また、過去の聖典の研究に生涯を捧げ、また、それらの言葉を解釈する様々な方法ゆえに、同様に宗派や教会に分裂してしまっ

た者たちも、霊化を通じて互いに近づいていくことになる。なぜなら、分析し解釈する上でのより高い視点が、彼ら全員に、これまで発見できなかった真の意味を明らかにしてくれるからである。彼らはこれまで、神の啓示に常に人間的かつ地上的の意味を与え続けてきたからだ。

29. 霊化こそが、この時代に私が人々に求めるすべてである。そうすれば、彼らは許された範囲内で、自らの最高の理想が成就し、最も深刻な葛藤が解決されるのを目の当たりにするだろう。

30. この混乱の時代において、私の言葉は、この世において救命ボートのように現れるだろう。人々は、光と平和、そして兄弟愛に満ちた新しい生活へと立ち上がることができるだろう。

31. 今や、人類はまもなく、くちばしに象徴的なオリーブの枝をくわえた平和の鳩が、諸国の上を飛び渡るのを見るだろう。

32. わたしの光はあなたがたのもとへ降りてきた。たとえ感覚的にはそれを見ることができなくても、あなたがたの魂は、あなたがたを照らすわたしの光の存在を感じ取っているのだ。

33. 皆さんは今、自らの本質の中に、身体の器官以上の何かを発見することになるでしょう。それは、何世紀にもわたって人間の中に眠り続けてきた、魂の賜物、能力、力、そして特性なのです。その際、皆さんは物質も形も発見することはないでしょう。だからこそ、私はこう告げるのです。この秘密を解き明かすのは、皆さんの科学ではないと。

34. これまで、あなた方にとって実在していたのは、理性で発見し、感覚で触れてきたものだけでした。しかし、真の価値は霊的なもの、すなわちあなた方が知りたがらなかったあの生命の中にあると理解する時が来るでしょう。その時、あなた方の存在は新たな光に照らされ、その光が最大の神秘と最も美しい教えをあなた方に明らかにしてくれるでしょう。 私はあなた方を祝福する。なぜなら、ついにあなた方は、生命の開花と魂の成長において、父と共に協力することになるからだ。

35. 現在、あなた方は停滞の状態にある。そのことに気づくこともできず、ある時代の終わりと別の時代の始まりに気づくこともなく、試練の意味を見出すこともできず、私が一歩一歩与えている神聖なしるしを取り除くこともできない。

36. あなたがたは、自分たちが私の内側にいるのか外側にいるのか、また霊的な生活において生きているのか死んでいるのかも分からない。なぜなら、あなたがたの本質における感情の世界は、依然として眠りのような状態にあるからだ。

37. まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの声だけがあなたがたを目覚めさせ、わたしの呼びかけだけがあなたがたを蘇らせることができる。そして、そのために、わたしはあなたがたを救うべく、憐れみに満ちてこの世に来たのである。 すでに私の光は一人ひとりの心に近づき、すでにそれは気づかぬうちに、あなたがたの認識力の中に浸透しつつある。それは、真夜中に泥棒が寝室に忍び込むのと同じくらい だ――つま先立ちで、わずかな音も立てずに。

38. 私の声が霊的な形で人類の中に響き渡るとき、人々は、自由には表に出せなかったものの、常に自分たちの内にあった何かが振動するのを感じるだろう。それは、主の声を励みとして、身を起こし、私の呼びかけに応える霊である。

39. そうして、地上に新たな時代が始まるだろう。なぜなら、あなたがたはもはや下から人生を見つめるのではなく、魂の高みからそれを眺め、認識し、享受するようになるからだ。

40. 私の愛は、あなたがたが自発的に目覚めるのを待つのではなく、物質主義という深い眠りからあなたがたを立ち上がらせるために助けとしてやってくるのだということを悟りなさい。

41. 私はあなたがたを小さな存在として見ているが、あなたがたには偉大になってほしいと願っている。あなたがたの能力、知性、そして感覚をもって、私の承認のもとであなたがたのものとなるべきすべてのものを、自分の中に受け入れてほしいのだ。

42. 直感が目覚め、霊的なものに対する感受性が芽生え、インスピレーションが働き始め、心が罪から清められ、知性が澄み渡ることを許しなさい。

43. 互いに連帯を深めるよう努め、皆が調和して生きられるよう尽力しなさい。あなたがたが地上において生きてきた、あの絶え間ない敵意と戦い、それを根絶するまで続けなさい。 この世において善が輝きを放つよう努め、愛と正義の法則が湧き出る私の教えに従うことによって、あなた方の生活が高められるようにしなさい。そうすれば、あなた方は最も高貴な大義のために尽力したことになり、あなた方の魂は私により一層近づくことになるだろう。

44. あなたがたがこの世で永続させようとした悪、すなわち――たとえあなたがたが信じないとしても――多くの人々が自らの神として崇め、その存在のすべての力と思いを捧げてきたその悪を、あなたがたは、それを戦い、生活からますます排除し、追い払おうという思いに駆られて、その根絶を目標としなければならない。

45. この祝福された戦いのために、あなたがたは信仰、意志、勇気、力、忍耐、そして粘り強さを蓄えておくべきである。

46. この戦いにおいて、あなたがたは決して独りではない。私は、私の力をあなたがたの腕に注ぎ、私の光をあなたがたの知性に注ぐ。あなたがたの行いが慈悲と愛に導かれたものであるならば、私はその一つひとつを奇跡へと変えるだろう。

47. この教訓を心に刻み、胸に留め、 をより深く知ろうという願いのために、全意志を注ぎなさい。どうすればよいか？　それは、自分の魂が持つ賜物、能力、使命、贖罪の義務、そして魂があなたの遺産として秘めているすべてのものを、自ら発見しようと努めることである。

48. 日々が過ぎ去っても、自分の中にその何一つも発見できないとしても、落胆してはならない。祈り、瞑想し、私の模範と教えに従って行動しなさい。そうすれば、あなたが最も予想しない時に、あなたの行いを通して、あなたの魂の何らかの賜物が明らかにされるだろう。

49. 目を開き、感覚を研ぎ澄ませ、あなた方の周囲で生き、織りなされているその目に見えない世界を感じ取れるようにしなさい。あなた方は、内側、外側、そして頭上で絶え間なく動き続けているその霊的な生命に気づこうとせず、自分たちが呼吸する空気と同じくらい密接にそれにつながっているとは想像もできずに、頑なに目を背けてきたのです。

50. その理由は、あなたがたが地上の科学に過度に興味を持ち、霊的な知恵を忘れてしまったからである。

51. 霊的な生命という果てしない大海原へと踏み込むためには、勇気、慈愛、信仰、そして神への愛が必要であることを、あなた方は知っています。しかし、それはあなた方にとって困難で、達成しがたいことのように思えるため、あなた方は常に人間の科学を好むのです。あなた方の考えでは、人間の科学は、霊的なものを学ぶ際に求められるような純粋さや高潔さを必要としないからです。

52. もし、あなたがたの行いのうち、いかなる霊的存在の影響も受けていないものなど一つもないと知れば、それは理解しがたいことのように思えるだろう。しかし、それは事実である。

53. あなた方の人間の生活の向こう側には、霊たちの世界、すなわちあなた方の兄弟姉妹である、人間には見えない存在たちが存在しており、彼らはあなた方を手中に収めようと互いに争っている。

54. その闘争は、双方の発展段階の違いにその原因がある。 光の存在たちは、愛、調和、平和、そして完全性という理想に支えられ

、人類の道に光をまき散らし、常に善を啓発し、人々の幸福につながるあらゆるものを明らかにしている一方で、依然として地上の物質主義に固執し、 利己主義やこの世への愛から脱却できなかった者たち、あるいは際限なく人間の欲望や傾向を養い続けている者たちは、人々の道を混乱で覆い尽くしている。彼らは、人々の知性を曇らせ、心を盲目にし、意志を奴隷化することで、人々を利用し、 彼らを自らの計画の道具にしたり、あたかも自分の体であるかのように扱ったりしているのだ。

55. 光の霊界が、永遠への道を開くために人々の魂を惹きつけようとしている一方で、あの祝福された大軍は、愛を深め、病人の枕元で看病する者となり、 大きな責任の重荷を背負う人々の傍らで助言者となり、若者の指導者となり、子供たちの守護者となり、忘れ去られ孤独に生きる人々の伴侶となるよう、絶え間なく尽力している一方で、霊的知恵の光も、高揚させる愛の感情も持たない存在たちの軍団も、同様に絶え間なく人間社会の中で活動している。しかし、彼らの目的は、あなたがたが霊界への道を歩みやすくすることではない――いや、 これらの存在たちの意図は全く正反対であり、彼らの目的は世界を支配し、引き続きその支配者であり続け、地球上で不滅となり、人間を支配し、彼らを自らの意志の奴隷や道具にすること――一言で言えば、彼らが常に自分たちのものだと考えてきたもの、すなわち世界を奪われないようにすることである。

56. さて、弟子たちよ。これらの存在たちの間では、激しい戦いが繰り広げられている――それは、あなたがたの肉眼には見えない戦いだが、その影響は日々、あなたがたの世界で感じられるようになっている。

57. 人間が自らを守り、悪しき影響から解放されるためには、自身を取り巻く真実を知る必要があり、霊をもって祈ることを学ばなければならず、また、善対悪、光対闇、精神化対物質主義というこの大いなる戦いにおいて、武器として用いることができるよう、自らの存在がどのような能力を備えているかを知らなければならない。

58. まさに、光の霊的世界こそが働き、戦い、そして世界がいつの日か霊性化への道を歩み始めるよう、あらゆる準備を整えているのである。

59. これらすべてについて深く考えてみれば、人類の救済に尽力するあなたの霊的な兄弟姉妹たちが繰り広げるこの戦いの激しさを想像することができるだろう―― その闘いは、彼らにとって苦杯のようなものです。なぜなら、あなたがたは、彼らがもたらしてくれ

るあらゆる善を受け取るだけに留まり、彼らの闘いを支えるために彼らの側に立つことは決してないため、絶えず彼らに「恩知らず」という苦い杯を飲ませ続けているからです。

60. 彼らに寄り添うことができる者はごくわずかであり、彼らのインスピレーションを受け入れ、その示唆に従う者もまた少ない。しかし、彼らはどれほど力強く人生を歩み、どれほど守られていると感じ、どのような至福とインスピレーションが彼らの精神を鼓舞していることか！

61. 大多数の人々は、この二つの影響の間で揺れ動いている。どちらかに決着をつけることもなく、物質主義に完全に身を委ねることもないが、そこから解放され、自らの生活を精神化——すなわち、善、知識、そして精神的な力によってそれを高める——ために努力することもない。彼らは依然として、自分自身との葛藤の真っ只中にいる。

62. 良心の声などもはや気にも留めず、自らの魂に関わるあらゆるものを軽んじて、物質主義に完全に身を委ねてしまった者たちは、もはや戦ってはいない。彼らは戦いに敗北してしまったのだ。 彼らは勝利したと信じ、自由であると信じているが、自分たちが囚人であることに気づいておらず、彼らを解放するためには、光の軍勢が闇の世界へと降りてくる必要があることにも気づいていない。

63. 私はこの光のメッセージを、地球上のすべての民族に送る。それは、人々が目覚め、自分たちが打ち負かすまで戦わなければならない敵が誰であるか、そして自分たちが知らず知らずのうちに携えている武器が何であるかを自覚するためである。

64. まことに、あなたがたに告げる。もし私がこの時代に人間として来られたならば、あなたがたの目は、私の傷がまだ生々しく、血を流しているのを見なければならなかったであろう。なぜなら、人々の罪は止むことなく、また、ゴルゴタで私が流した、人類への私の愛の証であるその血を思い起こして、自らを贖おうともしなかったからである。 しかし、私は霊として来た。それは、地上で私を裁き、有罪とした者たちの行いを、あなたがたが目の当たりにして恥じることを避けるためである。

65. すべては赦されている。しかし、すべての人の魂の中には、私が十字架の上で全人類のために流したものの、その一部が存在している。 その生命力と血が消え去ったり、失われたりしたなどとは決して思ってはならない。それらは、私がその瞬間からすべての人々に注ぎ続けた霊的な命を体現していたのだ。私の言葉を確証し、

私が地上で語ったこと、行ったことすべてを裏付けたその血によって、人々は魂の再生を渇望しつつ、上へと発展していくであろう。

66. わたしの言葉、わたしの業、そしてわたしの血は、無駄ではなかったし、これからも無駄になることはない。時折、わたしの名や言葉がほとんど忘れ去られたかのように思えることがあっても、やがて 、それらが再び、生命の活力と生命と清らかさに満ちて現れるのを目撃することになるだろう。それは、絶え間なく攻撃されながらも決して滅びることのない種のようなものである。

67. また、この時代のわたしの言葉と現れも、決して消え去ることはない。確かに、これらすべてが終わり、この世に何の痕跡も残さなかったかのように思える瞬間もあるだろう。しかし、あなたがたが最も予想していない時に、突然、わたしがあなたがたに教えた霊化の教えが、以前と同じ、あるいはそれ以上の力を持って復活するだろう。

68. あなたがたの知性を通じて私が忍耐強く行っている働きは、決して無駄にはならない。かつて私が、あなたがたに愛を教えるために、あの血によって象徴的に命を捧げたように、今、私はあなたがたに私の霊を注ぎ、永遠に至るまでの昇華の道を切り開いているからである。 しかし、もし私の血が無益ではなかったのなら、私の御霊の光がそれよりなお無益であるはずがない。

69. 今、あなたがたは、現在耳にしている言葉の深遠さをまだ測り知ることはできない。しかし、永遠に由来するあなたがたの光の魂は、この第三の時代に、私が未熟で不純な伝達者たちや霊的な光の世界を通じて世界に啓示したすべてのものの真実と成就を、目の当たりにすることができるだろう。

70. あなたがたは、思索の中で、地球の異なる場所で同時に彼らを求められたとき、空間に存在する霊的存在たちが、ある地点から別の地点へと移動するために、いったいどのように行動しているのかと自問することがある。そのとき、あなたがたの想像力は、彼らを光のように速く、ある地点から別の地点へ、そして世界の端から端へと絶え間なく飛び回らせている。

71. あなた方はこう考える。「彼らの任務はなんと重く、困難なことか！」そしてこう言う。「彼らの償いはなんと苦痛に満ちたものか！」

72. 私はあなた方に言わなければならない。その使命は、あなた方の理性が想像していたようなものではないのだ。 それらの存在は、指導者、守護者、助言者、そして恩人としての任務を担うのに必要な進化の段階に達すると、非常に広範囲にわたる影響力を持つよ

うになるため、ある場所から別の場所へと移動する必要はありません。なぜなら、彼らが今いる場所から、助けを必要とする兄弟姉妹たちに働きかけることができるからです。 その場所から、彼らは見、聞き、感じ、そして自らの使命に属する業を成し遂げることができるのです。

73. 高次の魂にとっては、その知恵と愛によって距離は消え去り、その活動範囲は、その魂が到達した発展の段階に応じたものとなる。

74. しかし、あなたはこう考えるかもしれない。すなわち、いかなる発展の段階にも達していない魂は、その最も尊い資質がまだ開花していないため、距離を乗り越えるために移動する必要があるに違いない、と。

75. また、あなたの記憶が呼び起こすあの存在がどこにいるのか、その場所を想像しようともしないでください。なぜなら、それは近くも遠くもないからです。それは、私がすべての中に、そして至る所に存在しているため、あなた方にとって遠くも近くもないのと同じです。

76. あなた方と神の間、あるいはあなた方と霊的存在との間に存在する唯一の距離は、物質的な距離ではなく、霊的な距離である。それは、霊感や霊的な影響を受け入れるための準備、清らかさ、あるいは受容の姿勢があなた方に欠けていることによって引き起こされるものである。

77. 決して、あなた方と師との間、あるいはあなた方と霊界との間にそのような隔たりを設けてはならない。そうすれば、あなた方は、それを求めることを知る者たちに私の愛が注ぐ恵みを、常に享受することになるだろう。霊界は、それを感じ取る準備をしている者たちの心に常に近くにある、という感覚を、あなた方は常に抱くことになるだろう。

78. 現代の人類は、自分たちと霊的な生活との間にどれほど大きな隔たりを築いていることか！その隔たりはあまりにも大きいため、今日の人々は神を自分たちから無限に遠い存在と感じ、天国を遠く離れた、手の届かないものだと考えている。

79. 時間が経てば経つほど、人々は霊的な領域からますます遠ざかっていると感じる。彼らは、いつかそこに住むという祝福された想いを失い、死を迎え、魂が肉体から離れることを許したとき、彼らに残るのは地上の印象だけであり、それによって霊的なものに対するあらゆる想像力を失ってしまうのである。

80. この時代における私の愛のメッセージは、距離を消し去り、誤りを取り除き、闇を解消し、かつてはすでに無限の霊的な領域で生きていた人間の魂が、 祈りと瞑想を通じてその源へと回帰し、自らの本質の核心を見出し、それを、地上である使命を果たすために道具として託された存在――その人間の理性と心に――を明らかにするのです。

81. ご覧の通り、霊的な悟りの一瞬があれば、一見するとそれほど遠く思える距離は消え去り、あなたがたが、わたしを遠くにいるものと考えていた長い間、自らを奪い続けてきたすべての喜びを体験できるようになるのです。

82. 今日、あなた方は、それが困難に思えるとしても、心構えを変える能力をより備えている。私がこう言うのは、あなた方の全存在が、 、霊的な面でも肉体的面でも、自由意志の道の途中で立ち止まることなく、開花し、発展してきたからである。

83. 現代の人々の知的な受容力が、その能力が発展したために、過去の人々よりもはるかに大きいのと同様に、魂もまた絶え間ない人生経験の中で発展してきた。それゆえ、魂は、かつての人々が到達できなかったようなことを理解し、把握し、信じ、受け入れることができるようになったのである。

84. それゆえ、私は人類に自らを顕現するために、完全な形態、すなわち霊的な形態を選んだ。なぜなら、あなたがたは今やそれを理解する能力を備えていると知っているからだ。かつての時代とは異なり、その頃は、人々に私の声を聞き取り、理解してもらうために、具体的な形を模さなければならなかった。

85. 今こそ、人類が神への霊的な崇拝を確立しようと奮闘する時である。しかし、理解と心の平安が人々の心に届くまで、ある程度の葛藤を経た後に初めてそれが実現するのは、ごく自然なことである。

86. この教えを通してわたしに耳を傾けるあなたがたは、偏見や狂信から心を解き放つことを理解し、自然で素朴な方法でわたしを崇め、内なるわたしを感じ取っている。あなたがたは、人間の中で選ばれた存在であると自認してもよい。そして、わたしはあなたがたを、霊性化の時代の先駆者として用いるであろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 322

1. 私は、あなたがたの魂にとって愛と光である、私の教えの書物の新たな一ページを、あなたがたに紹介する。師の言葉を真に聞き取るあなたがたは幸いである。なぜなら、私はあなたがたが自らの運命と、私があなたがたの魂に託した使命を理解できるよう、明確かつ完全に教えを授けているからだ。

2. あなたがたは、私の教えを学び、理解し、それを周囲の人々に伝えるためにやって来ている。たとえ彼らが時折、あなたがたを拒絶したとしても、あなたがたは傷つくことなく、むしろ彼らの疑問に答えることができたことに満足している。

3. あなたがたは心の奥底からわたしに語りかけ、周囲の人々の不信仰をわたしに告げている。しかし、わたしはあなたがたにこう言う。もしあなたがたが、岩のように硬い心に出会ったとしても、わたしは彼らの良心を通して彼らに語りかけ、わたしと共にいたいという渇望を感じさせるであろう。 あなたがたの使命は、時間や距離を気にすることなく、私が示した道に従い、人々の幸福のために尽力することです。

4. あなたがたは、精神的に助けを必要とする人々、病める人々、そして「奴隷」となった多くの人々に出会うだろう。あなたがたは、彼らの鎖を打ち砕き、愛をもって私の教えを授けることによって、彼らを癒やし、解放しなければならない。なぜなら、あなたがたがもはや私の言葉を聞くことのできない日が来るからであり、その時には、あなたがたは師として残され、来るべき世代を教育することになるからだ。

5. 光の剣をもって、あなたがたは闇を追い払い、同胞たちのために道を開くことができるでしょう。 私は、この第三の時代に、人々が平和と調和、そして善意を享受できることを望んでいる。彼らはそのための教えを誰から受けるべきか。私の弟子たちからである、愛する民よ――私を愛し、私と共にいることに倦むことのない者たちから――自らの心の奥底で私を感じている者たちからである。

6. 常に私のそばにいて、この世の放蕩から身を遠ざけることで誘惑を退ける者たちは、幸いである。彼らの霊的な目は、来世において永遠の栄光――魂が安住すべき王国――を仰ぎ見るであろう。

7. 私は、あなたがたの中に、一致と兄弟愛への教えを残しておく。誘惑によって、私があなたがたに託したものが奪われないよう、目を覚まし、祈りなさい――そうして、その時が来たら、私から人類へと遣わされる使者と弟子となるためである。

もしあなたがたが、あらゆる物質的な束縛から解放され、ただ私の愛と光に包まれたとき、魂の中で私の声を聞き、あなたがたの羊飼いの声を認識するでしょう。そして、羊のように進んで山を登り、神聖な故郷へと至るのです。

8. あなたがたの天の母は、あなたがたの足跡を追う羊飼いの少女のような存在です。マリアは、その愛らしい庭で、あなたがたをバラやユリのように育て、あなたがたに香りを与えてくださいます。それは、あなたがたが、父なる神にその香りを捧げる花となるためです。

9. 第二の時代に、わたしは再びあなたがたのそばにいると告げた。しかし今、その約束を果たしたにもかかわらず、わたしを認めた者もいれば、わたしの存在を疑った者もいた。あなたがたの中には、再びわたしの声を聞き、霊の目で見ることができたために、喜びの涙を流した者もいた。 私は、こう私に告げた者たちの声を聞いた。「師よ、もし私の肉体の犠牲が必要であるならば、私は自分の魂と人類の救いのために、全き献身と謙虚さをもってそれを捧げます。」

10. わたしは、あなたがたをわたしの霊的な光の世界に委ねた。それは、その世界があなたがたの助言者であり守護者となり――あなたがたを道に導き、使命の成就において支えてくれるためである。

私を理解できなかった者たちには、こう言います。疑ってはなりません。なぜなら、私はいつの時代も人々を通して自らを明らかにしてきたからです。しかし、私は自分の啓示によって人々を驚かせたくなかったため、あらかじめ使者を遣わしました。私は、道と人々の心を整えるために、先駆者を遣わしたのです。

11. 1950年の間に、私はあなたがたに最後の教えを与える。そして、私が人間の知性を通じての啓示を終える前に、あなたがたが、私の愛の言葉をどのように蒔き、心から心へ、地方から地方へと、この時代に私の声を聞き、私を感じることができなかった地球上のあらゆる場所に、それを広めていくべきかを理解してほしいと願っている。

12. あなたがたは、愛と光に満ちた力強い魂である。律法学者になってはならないし、人々の前で自慢してもならない。あなたがたの謙虚さの中にこそ、あなたがたの父の恵みと光があるからだ。

13. あなたがたの眼差しは温かさに満ち、あなたがたの知恵は愛によるものであり、あなたがたの手は慈しみを注ぎ、あなたがたの言葉は人々に慰めとなるべきである。そうすれば、世界はあなたが

たの模範を受け入れ、何世紀にもわたり、何時代にもわたって引き起こしてきた戦争を、もはや煽ることはなくなるだろう。

14. そうすれば、人類の統一を達成するために多大な労力を費やし、多くの涙を流してきた者たちと、わたしの意志が成就するだろう。そうすれば、人種や肌の色による区別はもはやなくなる。これが、あなたがたへのわたしの約束である。

15. 今日、あらゆる人は、真理を完全に知っていると信じている。あらゆる宗教は、真理を所有していると主張する。科学者たちは、真理を見出したと宣言する。しかし、私はあなたがたに告げる。人間は、自らに啓示された部分さえも、その知性では把握しきれなかったのだから、絶対的な真理を知っている者は誰一人としていないのだ。

16. すべての人間は、真実と誤りの一部をその内に抱えており、それを真実の光と混ぜ合わせている。

17. *それぞれの*世界観を押し通そうとするため、これらすべての勢力が互いに争う戦いが近づいている。 しかし、最終的に勝利を収めるのは、人間のイデオロギーでも、科学的な理論でも、あるいは特定の宗教的信条でもなく、あらゆる良き世界観、あらゆる高潔な信仰、最高の精神性へと高められた*あらゆる*礼拝形態、そして真の人類の進歩に奉仕するあらゆる科学が、調和のうちに結びついた姿である。

18. 私は、人々が自らの考えについて語り、それを表明することを許す。また、他者が自らの礼拝形式や儀式を公に披露すること、議論や対立が起こること、科学者たちが最も進歩的な理論を広めること、そしてあらゆる精神の中に秘められているものがすべて解き放たれ、日の目を見て、自らを明らかにすることを許す。 なぜなら、刈り取り人の日は近づいているからだ――その日、良心は容赦ない鎌のように、人間の心にあるあらゆる偽りを根こそぎ切り落とすのだ。

19. 民よ、目を覚ましていなさい。そして、私がこの戦いを予告していたことを忘れないでほしい。そうすれば、人々が熱く議論する姿を見たり、宗教団体が互いに争い、霊が彼らと戦っているのを目撃したりしても、あなたがたは落胆することはないだろう。

20. 世界が騒然となろうとも、嵐が吹き荒れ、戦いが燃え上がろうとも、人間が目を覚まし、その目覚めとともに、長い間夢見てきたあの光を仰ぎ見ることができるように―― そうして、真理への認識へと続く道の門を閉ざしてきた利己的な人々が、その高台や玉座

、台座から降りて、御霊の光を渇望し、渇きに苦しむ人々の群れを通すようにするためである。

21. あなたがたは皆、私の光を求めることになるだろう。あなたがたは皆、暗黒の日々においてその道を見極めるために、灯台を求めることになるだろう——それは、省察と悔い改めの日々であり、良心に向き合って深く自己を省みる日々であり、その間、安らぎを感じ、「私は常に正しく行ってきたから、何も恐れることはない」と言える人間は一人もいなくなるだろう。

22. いいえ、そう叫んだり考えたりする者は一人もいないだろう。なぜなら、あらゆる魂の中で良心がその声を響かせるからである。

23. 祈り、悔い改める者だけが、魂の浄化に到達するだろう。虚栄心、他者に対する支配欲、そして傲慢さを捨て去る者だけが、救命ボートに乗り込むことができるのだ。 なぜなら、愚かさに固執し、過ちや伝統にしがみつき——良心の裁きや指針にもかかわらず、それらを最後まで守り通そうとする者たちは——、自らよく知っているにもかかわらず、混乱と闇の深淵へと向かっていくことになるからだ。そこへは、あなたがたの父の御心によれば、誰も落ちようとはしないのである。

24. 私があなたがたの救いのために、適切な時期に伝えたこの愛と慈悲のメッセージを、あなたがたは時宜を得て人類に広めなければならない。

25. わたしの知恵のメッセージには、人々を霊的に結びつけ、混乱の嵐から守り、信仰を失った者たちを闇から救い出すという使命がある。

26. 私の言葉だけが、猛烈な勢いで深淵へと向かっている者たちを食い止める力を持つ。なぜなら、それはすべてを明らかにし、秘密を解き明かすことを躊躇せず、あなたがたの父の慈悲と愛に満ち溢れているからである。

27. より高い生命への信仰も、わたしの正義についての知識もないこれらすべての人々を、わたし以外に誰が救うことができようか。苦難、抑圧、そして恐怖に満ちた彼らの人生における痛みの真の意味と起源を、果たして誰が本当に理解しているというのか。 私が目にする人類の師や指導者は、なんと少ないことか！ 人々は霊について何を知っているというのか？ 彼らは人間的な側面のみに没頭し、この世の欲求や心配事の向こう側にあるものを発見することさえできない。それゆえ、人々は——科学にも宗教にも自らの問いに対する満足のいく答えを見出せないことに失望し——自ら真理を求め

ようと努めている。 その道に近づく者もいれば、霊性への理解が乏しいために新たな誤りを抱えてしまう者もいる。

28. 人生において苦難の杯を次々と飲み干してきた人々は、私にこう言う。「主よ、なぜ私たちの痛みの理由を説明してくれる人がいないのでしょうか。そうすれば、私たちの内に信仰の炎が燃え上がり、十字架の重荷を耐え忍ぶ助けとなるのに。」

29. こうした子供たちには、彼らの知性への天の香油として私の光を与え、彼らの心への励ましを届ける。なぜなら、私はあらゆる被造物に届く無限の可能性を持っているからだ。

30. ああ、もし皆が私に問いかける術を知り、もし皆が霊的に祈り、もし皆が真理を知ることに興味を持てばいいのに！まことに、あなたがたに告げる。彼らは切望していたものを得るだろう。なぜなら、求めて見出さなかった者は一人もおらず、私の扉を叩いて開かされなかった者も一人もいないからだ。

31. あなたがたの道のりに、謙遜の足跡を残しなさい。自分たちだけが霊的な知識を持っていると思い込むがゆえに、高慢があなたがたの心に忍び込むことを許してはならない。

32. たとえ外見上の運命がそれぞれ異なっていても、あなたがたは皆、わたしの前では等しく、皆同じ起源を持ち、同じ目標を持っていることを常に自覚しなさい。

33. あなたがたは皆、わたしのもとへ至らなければならないことを決して忘れてはならない。それは、たとえその方法は異なろうとも、あなたがた全員が、最高の霊的高みに達するために必要な功徳を積まなければならないことを意味する。それゆえ、決して誰かを自分より劣った存在と見なしてはならない。

34. スピリチュアリストの心に、決して虚栄心が根を下ろしてはならない。その代わりに、常に真の謙虚さを伴侶とすべきである。そうすれば、その行いは、偽りの光で人を眩ませるのではなく、周囲の人々の心に響くものとなるだろう。

35. あなたがたは愛をもって自分の十字架を背負わなければならない——義務として引き受けるのではなく、そうしなければ人生で悪いことが起こるだろうという考えからでもなく——いいえ、それは私の正義への恐れから行われるべきではない。 あなたがたは、精神的に十分に成熟しており、私が今まさにそうしているように、あなたがた自身にこう求めることができる——すなわち、私の律法に基づく使命の遂行が、隣人への愛から行われ、その愛の感情が私への愛からインスピレーションを得ているものであるように。

36. 人々が、私を傷つけたことへの悔恨からではなく、人々が想像していたような永遠の破滅への恐れから、自らの過ちを悔い改めていたような時代は、もう過去のものとしなさい。

37. 神の慈悲を頼りに、悔い改めを最後の瞬間まで先延ばしにできるという考えを、あなたがたの心から取り除きなさい。そして、あの審判の瞬間、あなたがたの魂が で刈り取ることになるのは、この地上での存在の全期間を通じて蒔いてきたものだけであることを心に留めなさい。 その収穫、すなわちその実とは、託された人生を通じて得た成長、進歩、高みである。

38. 霊的な現実は、人々が想像してきたあらゆるものとは、なんとかけ離れていることか！ 私の正義は、あなたがたが信じているようなものではなく、神の罰も、あなたがたがその名で呼んでいるようなものではなく、天国もあなたがたが考えているようなものではなく、また、あなたがたが想像しているほど容易かつ迅速に得られるものでもない。同様に、霊的な贖罪もあなたがたが言うようなものではなく、誘惑も霊的存在ではない。

39. あなたがたは、私があらゆる時代に与えてきた神の啓示を研究し、あなたがたに語りかけられた比喩的な言葉を理解し、そのようにして霊的な感覚を研ぎ澄まさなければならない。そうして初めて、何が神の言葉であり、何が人間の言葉であるかを認識し、私の教えの真意を見出すことができるのだ。

40. 霊的な観点からであってのみ、あなたがたは私の言葉の正しく真実な解釈を見出すことができるだろう――私が預言者たちを通してあなたがたに送った言葉も、イエスを通してあなたがたに遺した言葉も、あるいは第三の時代の代弁者たちを通じて私があなたがたに与えているこの言葉も、すべてにおいてそうである。

41. 人類が、律法、教え、預言、そして啓示の真の意味を見出したとき、自らの存在に関して最も美しく、最も深遠なものを発見することになるだろう。

42. その時、人々は真の正義を知り、その心は真の天国を予感するだろう。そして、贖罪、浄化、償いとは何かを、あなた方も理解するようになるだろう。

43. 今日、あなた方は依然として無知のベールに覆われている。このベールは、この世の物質主義や、誤った恐怖や偏見に満ちた宗教的狂信の中で、あなた方が敢えて引き裂くことをためらってきたものである。それゆえ、あなた方の生活に試練が降りかかり、その明確な理由が見当たらないとき、あなた方はこう叫ぶのだ。「一体何をしたというのか、なぜこんな罰を受けるのか？」と叫ぶ。しか

し、私の正義が、時には数世紀――さらには数千年もの間、現れるのを待たなければならないことを、あなた方は知らないのだ。それでも、私の正義は必ず訪れる。たとえ一見、時期が遅すぎたり不適切に思えたりしても、それが常に賢明な形で現れることは確かである。

44. 私の霊的な教えには、さまざまな目的や使命がある。その一つは、追放された魂を慰め、彼女を創造した神が、永遠の 平和の御国で彼女を待ち受けていることを理解させることである。もう一つは、彼女が自らの救いと高揚、あるいは完全化を達成するために、どれほど多くの賜物や能力を授かっているかを、彼女に知らせることである。

45. この言葉は、霊化のメッセージを伝え、人々の目を開き、彼らが現実を直視できるようにする。彼らは、目に見えるもの、触れるもの、 あるいは人間の科学によって証明できるものの中にしか見出せないと信じているが、その過程で、彼らは儚いものを「現実」と呼び、真の現実が存在する永遠のものを誤解し、否定していることに気づいていない。

46. このメッセージを国から国へ、家から家へと広め、光と慰めと平和の種を蒔き残し、 そうして人々がひととき立ち止まり、精神に休息を与えることができるように。その休息は、精神が省み、思い出すために不可欠なものであり、あらゆる瞬間が霊界への帰還の瞬間となり得ること、そしてこの世での行いと蒔いた種によって、霊界に到った際に収穫する実が決まることを。

47. 今日、私はあなたがたが悲嘆に暮れ、意気消沈し、希望を失っている姿を見出しています。そして、あなたがたは祈りの中で、人生が長い間、その恩恵をあなたがたから奪い去ってしまったと私に告げています。 師はこれについて、あなたがたが今経験しているこの時代は、初期の預言者たちが予告し、後に「神の御言葉」がその民に確認したものであると告げます。しかし、あなたがたが非常に苦い杯を飲み干していることは事実であっても、愛と忍耐をもってその苦しみに耐えることができれば、その痛みは無駄にはならないことを知ってください。

人々が、その存在の隅々まで痛みが浸透し、心を蝕むというこの地点に到達することは、必要だったのです。そうして初めて、彼らの魂が眠りについていた深い眠りから目覚め、創造主に対して当然捧げるべき敬意と感謝を捧げる、自己決定に基づく人生を歩み始めることができるのです。

48. 私はかねてより、彼らの自由意志を抑制し、それによって、彼らがこれ以上苦しみ続けたり、混沌へと陥ったりしないよう、反省し、善行に励む時が来たことを示してきた。 私は彼らに助言し、警告することで、彼らの転落を避けようとしたが、彼らは私の言葉に耳を貸さなかった。しかし、私はこの愛すべき人類に対し、彼らが私の教えにふさわしい弟子となるまで、引き続き呼びかけ、あらゆる行いにおいて改心と高潔さを求めるよう促し続けるつもりである。

49. 私は、約束した通り、あなたがたのもとに戻ってきた。それは、あなたがたを慰め、苦難の中に希望を与えるためである。しかし、 、それだけにとどまらず、あなたがたが霊的な道において大きな一歩を踏み出せるよう、あなたがたを啓発するためでもある。 私は、あなたがたが今まさにこの混乱の瞬間に必要としている教え、すなわち、傷を癒やし、救いの道を悟るために切に待ち望んでいた教えを、あなたがたに授けたのである。

50. 私は、あなたがたが偉大な業を成し遂げ、その業の終わりに、穏やかに、満足して、私と、そして隣人との間に平和を保った状態で、私のもとに来られるよう、すべてを整えておきました。 私の御霊と交わるその瞬間、私はあなた方から何の捧げ物も求めません。したがって、あなた方の功績は私のためではなく、あなた方自身のためとなるでしょう。そして、あなたがたが私に捧げるものは、私が祝福と尽きることのない恵みとして、利子をつけてあなた方に返して差し上げます。

51. 私がどれほどあなた方を愛しているかを悟りなさい。もし、父の愛のさらなる証しを望むなら、求めなさい。私の愛は尽きることがないのだから、私はそれをあなた方に与えよう。もし私の忍耐や寛容さを試したいのなら、それも行いなさい。しかし、それを受け取り、それを認めた後は、私があなた方に対して行ったのと同じことを、あなた方の隣人に対して行いなさい。

52. どれほど侮辱されようとも、そのたびに赦しなさい。赦さなければならない回数の多さなど、気にする必要さえない。あなた方の使命は極めて高尚なものであるため、道の途中のこうした落とし穴に引っかかってはならない。なぜなら、その先には非常に大きな使命が待っているからだ。 あなたがたの魂は、より高い次元へと昇華できるよう、常に愛と理解、そして善を行う準備ができていなければなりません。かつて多くの兄弟姉妹たちがその行いによって、霊の永遠の書に美しい一ページを刻んだように、あなたがたも彼らの後を継ぎ、この歴史を綴り続けてください。それは、これからこ

の地上にやってくる新しい世代にとっての模範となり、彼らの喜びとなるためです。

53. 強くあれ。今、あなた方は試練の時期を生き抜いているのだから。 すべての被造物――この世の光に目を覚ましたばかりの幼子から、歳月の重みに身を屈めた老人に至るまで――は、試練、すなわち償いの過程を経験しています。しかし、私はあなた方に私の力と影響力を与えます。そうして、信仰と魂の平安をもってこれらの試練を乗り越え、痛みに対して無敵となるようにするためです。

54. 世界観の対立が起こり、双方の信仰と確信が試されることになる。しかし、流砂の上に自分の業を築いた者たちは、その基礎が堅固ではなかったため、それが崩れ落ちるのを目の当たりにするだろう。

この時期、強い者たちは弱い者たちを支えなければならない。祈ることも、私の教えの真髄を深く理解することもできなかった者たちは、自らの無知や困窮、そして功徳の欠如を嘆き悲しむだろう。しかし、彼らの多くは、真の導き手を持たなかったため無実であり、羊のように迷える者たちは、その不安と混乱ゆえに涙を流すことになるだろう。

55. わたしによって、この世に影響を及ぼすよう定められた民よ、あなたはこの世の平和と救いのために見守り、祈らなければならない。この危険と恐怖の時に、人類を覆うために、あなたは翼を広げなければならない。

56. それゆえ、わたしはあなたがたに「霊から霊への祈り」を教え、わたしの神性を表すあらゆる象徴や比喩を取り除いた。あなたがたは自らの内に神殿を築き、そこからわたしを愛し、賛美している。

私は、あなたがたに、隣人の信仰に対する敬意を教え、すでに迫りつつあるその戦いで弱りゆく者たちの信仰を守るために、警戒を怠らず生きる見張り番として、あなたがたを鍛え上げた。 そして、あなたがたがその使命を終えたとき、満足の念を込めて私にこう告げることができるでしょう。「天の父よ、私たちは傷つけることのない剣、すなわち愛と善意をもって戦っています。私たちは神の御言葉を語り、人々にあなたに祈るよう呼びかけています。苦しむ者たちに慰めを与え、律法に背いた者たちを善へと改心させています。 私たちは、無知ゆえに道を見失っていた男女を立ち直らせ、あなたへの信仰と信頼を呼び覚ましました。それ以来、彼らは私たちを愛し、私たちに従ってくれています。」そして、私はあなた方を私

の大義の戦士として迎え入れ、あなた方がふさわしい報いを与えるでしょう。

57. わが業は地上に広まっていく。「最初の人々」に他の人々が加わり、その後さらに多くの人々が加わるだろう。なぜなら、人間は魂の完成を渇望して、現在の状態を超えて高みへと昇っていく、と記されているからである。

58. 私が人々に平和の王国をもたらすために、あなたがたはどれほど奮闘してこの地を準備しなければならないことか！

59. 祈り、わたしの言葉を深く考えなさい。そうすれば、その言葉には愛の海が満ちていることに気づくだろう。わたしは、人間の限られた知性を通してあなたがたに語りかけてきたが、その知性は、どれほど準備を重ねても、わたしの教えに含まれる真意や理性を十分に表現することはできない。 な魂をもってそれらに深く入り込みなさい。そうすれば、あなたがたの人間としての心や限られた知性よりも、はるかに明瞭に理解することができるでしょう。あなたがたは、私の「第二の時代」の業を偉大なものと見なしてきたのですから、この時代における私の到来もまた、あなたがたの父の無限の愛の証であると認識するでしょう。

60. あなたがたがますます完全になるほど、目標がより近くに見えてくるだろう。あなたがたは、救いまであと一歩のところにあるのか、それともまだ長い道のりを歩まなければならないのか、わからないだろう。ただ一つ言えるのは、あなたがたは、私の神聖な御霊の声であるこの言葉に、進んで従順に導かれるべきだということだ。 律法に背き、同じ過ちを繰り返し犯すことのないよう、気をつけなさい。この呼びかけを心に留めなさい。それは改心を促す呼びかけであり——あなたがたが地上で無駄に生き、その後、不従順のゆえに泣く姿を見たくないという、あなたがたの父からの願いなのです。

61. あなたがたの成長のために絶えず努力しなさい。そうすれば、今日あなたがたを苦しめ、その意味が理解できなかったあの試練が、実はあなたがたのためであり、あなたがたの存在を平安と喜びで満たしてくれることを実感するでしょう。 私があなたがたに送る試練は、戦いのなかであなたがたの魂を清め、鍛え上げるための賢明な試練である。それは、私が今日あなたがたが愛し、敬う多くの存在たちを鍛え上げてきたのと同じである。あなたがたは、彼らの魂の強さと試練に耐えた美徳を認めている。彼らは、この世を去り、清らかさと神聖さの足跡を残した、あなたがたの兄弟姉妹である。 私は、あなたがたが彼らと一つになり、彼らの後を追うことを望

んでいる。なぜなら、あなたがたの運命は同じであり、あなたがたは皆、私の目には偉大であり、皆、ふさわしい者だからである。そして、私はあなたがたが、彼らが住む平和の世界に住む姿を見たいと願っている。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 323

1. わたしは、あなたがたの魂に教えを与え、わたしの愛をもってそれを養い、強めるためにやって来る。

2. 愛する子らよ、あなたがたは私の幼子たち、この地を歩みながら苦しみや苦難に耐えている私の小さな子供たちです。罪の道を離れ、魂を私により近づける者たちは、幸いである。

3. 父は、あなたがたに、どのように受け取り、どのように祈るべきかを教えておられる。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが罪から清められれば、わたしの赦しを受け、強められるであろう。

4. あなたがたが父から憐れみを受けられるよう、わたしはあなたがたをあらゆる汚れから清めたい。しかし、この憐れみを決して失ってはならない。それはわたしの神聖な御霊に由来するものであり、あなたがたが歩む道において携えていくべき遺産だからである。わたしは師であり、あなたがたがこれを心に留め、わたしが与えたとおりに伝えられるよう、改めて教えを授ける。

5. 良心とは、あなたがたの魂が映し出される鏡のようなものである。あなたがたに告げる。もはや、この鏡の中に自分たちの欠乏を映し出すべき時ではない。なぜなら、私はあなたがたに私の光、私の崇高な御言葉を与えたからである。それは、明日あなたがたに何一つ欠けることがないように、あなたがたが私の律法に従い、第二の時代の使徒たちがそうであったように、人々に引き続き模範を示すためである。

6. あなたがたがこの教えを受けているのは、その伝達者自身からではない。彼はあなたがたと同じように罪深い者だからである。私は彼をその道から引き離し、彼を通じてあなたがたに私の言葉を与えるよう準備させた。この教えの真意は、私自身の心構えそのものである。

7. すでに第二の時代において、わたしはあなたがたに「互いに愛し合いなさい」と告げた。なぜなら、隣人を愛する者は、わたしを愛しているからである。

8. わたしは、人種や肌の色、あるいは階級によって、あなたがたを区別することはない。 私はすべての人に等しく語りかける。それは、あなたがたが一つ意志を持ち、さまざまな国々からやって来る同胞たちを、笑顔と開かれた腕で迎え入れるためである。もしあなたがたがこの愛を実践すれば、明日にはもはや戦争はなく、死はも

はや人類を支配することはなくなるだろう。おお、人類よ、あなたがたの戦争の責任を私に押し付けてはならない。

9. 混乱に陥ってはならない。新たなバベルの塔を築いてはならない。そうすれば、あなたがたに近づく者たちは、皆が等しく準備の整った姿で迎えられるだろう。不信仰者は、父の奇跡を認めるための証拠を必要としている。そうして初めて、その魂は私の言葉に基づいて、自らの神を認識することができるのだ。

10. その証拠は愛によって成り立つべきである。そうすれば、最も硬い岩からでさえ、水晶のように澄んだ水が湧き出るはずだからである。

11. わたしのもとへ立ち上がれ。そうすれば、わたしはあなたがたをあらゆる病から解放してやる。わたしは最高の医者だからだ。わたしは、人類が霊的に必要とするすべてのものをあなたがたに遺しておく。そして、あなたがたが一度認められれば、地上のすべての医師が、わたしの霊の業においてわたしを認めることになる。それがわたしの御心だからだ。

12. わたしは、あなたがたに守りの盾として祈りを残した。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、人類はあなたがたを通して救いを得、あなたがたが今受け取っている御言葉を、適切な時に人類に伝えることができるようになる。

13. あなたがたが生きているこの時代は、すべての人々にとって非常に大きな霊的意義を持つものであるが、人類に気づかれることなく過ぎ去ろうとしている。それでもなお、この時代が極めて重要なものとして認識される時が来るだろう——このメッセージを受け取った民の生活においてだけでなく、地球上のすべての民族の歴史においても。

14. わたしの御言葉を聞くことが、どれほど栄光に満ちたことであるかを心に留めなさい。 しかし、その栄光に安住してはならない。この恵みを得た喜びを感じる一方で、諸民族や同胞に対するあなたの責任が極めて大きいことを自覚しなければならない。なぜなら、この時代に受けたすべてのことを、彼らに証ししなければならないからである。

15. 心の中にわたしの言葉を留める者たちは祝福される。彼らは自らの十字架を愛し、その十字架を肩に担いで隣人の扉を叩き、わたしがわたしの言葉の中でこの民に託した、光と平和と愛のメッセージを彼らに届けるからである。

16. 1950年の私の教えの一つひとつは、準備のためのものである。そうすれば、私があなたがたへの啓示を終えたと宣言する時が来ても、あなたがたは涙を流すことはないだろう。私はあなたがたに何も欠けることがないように、すべてを与えているからだ。その時には、私の言葉が途絶えたからといって泣いてはならない、民よ。私はすでに、私の本質はあなたがたの心の中に保たれるだろうと告げた。もしあなたがたの記憶が薄れたとしても、私は子供たちの一部に霊感を与え、彼らが私の言葉から作り出したページや文書を、本やアルバムにまとめさせるだろう。

17. 瞑想と祈りによって力を養いなさい。あなたがたは人間であり、微々たる存在である。そして、わたしの啓示における「さようなら」の言葉は、あなたがたの全存在を揺さぶることになるだろう。その日、この民がどうして動揺しないことができようか。地球上のすべての人々が、第三の時代におけるわたしの存在について全く気づいていないにもかかわらず、ある な形で、ある な形で、彼を感じ取ることになるのだから。

18. ひとたび人々の心の中に光が差し込めば、人々は、1950年の年末前後に起こったすべての出来事が、私の啓示の時代が完結したことの証であったことを理解するようになるだろう。同様に、この時代の幕開けもまた、全世界の人々を震撼させた出来事によって予告されていたのである。

19. 私は、世界観が混乱する時代を見据えて、あなたがたを準備させ、警告している。それは、あなたがたが魂の内なる葛藤や思考の苦悩から解放されるためである。 なぜなら、人類のあらゆる世界観、教義、神学、哲学、そして信仰告白は揺さぶられ、それらは嵐を象徴することになるからだ。それはまさに精神の真の嵐であり、その荒れ狂う波の上で、あなたがたは私の意志に従って航海し、嵐と闇が過ぎ去るまでその上に立ち続けるべきである。 この試練を無事に乗り越えるための、祈りと私の言葉に従うこと以上に優れた処方箋を、私はあなた方に与えることはない。それによって、あなた方の信仰は絶えず強められていくであろう。

20. あの世界観の戦い、あの信仰告白やイデオロギーの衝突、あの戦いは、あらゆる宗教や制度の根底に蓄積されてきた欠陥や誤りが表面化するために、絶対に必要なものである。 この「嵐」が過ぎ去って初めて、人々の道徳的・精神的な浄化が始まるのです。なぜなら、人々は真理が明るみに出るのを見、それを認識し、自らの内面で感じ取り、もはや妄想や偽りに養われることはできなくなるからです。

21. すべての人間が、物質的な生命がその光、暖かさ、そして影響力に根ざしていることを認識しているため、自発的かつ完全に自分自身のために、太陽が身体に及ぼす生命維持に不可欠な作用を利用しているのと同様に、人々は真理の光から、自らの魂の維持、強化、そして啓発に必要なあらゆるものを活用するようになるだろう。

22. そうすれば、人間の生命が、真の生命の原理、すなわち私の律法によって定められた規範にますます適合していくにつれて、人間がこれまで一度も感じたことのない力が働き始めるだろう。

23. 民よ、あなたがたの使命は、私があなたがたにもたらした霊化のメッセージを世界中に広めることにある。 しかし、私はあなたがたに、この光を広める方法には二つの側面があることを理解してほしい。一つは、思考や祈りを通じて、完全に霊的な側面であり、それによって霊性化の雰囲気を醸成するものである。もう一つは、言葉や肉体的な存在、そして弱い者たちへの私の言葉の解説を通じて、霊的であると同時に人間的な側面である。イエスの模範を思い出してほしい。

24. もしあなたがたが、祈りの力について大きな信仰と、それ以上の知識を持っていたなら――その知力を通じて、どれほど多くの慈悲の行いを成し遂げることができたことか。しかし、あなたがたは祈りに本来備わっているすべての力を認めてこなかった。それゆえ、ほんの一瞬の、心から湧き上がる真の祈りによって、あなたがたがどれほどの災いを防いでいるのか、しばしば気づかないのである。

25. あなた方の世界において、最も非人道的な戦争が勃発するのを、ある高次の力が阻止していることに気づいていないのか。 この奇跡には、精神をもって闇の勢力と戦い、戦争の企てに抗う、男性、女性、そして子供たちによる何百万もの祈りが影響を与えていることを、理解できないのか。祈り続け、これからも警戒を怠らないでほしい。しかし、その活動には、あなたがたが持ちうる限りの信仰をすべて注ぎ込んでほしい。

26. 人々よ、祈りなさい。そして、戦争や苦痛、悲惨の上に、あなたがたの思考による平和の外套を広げなさい。それによって盾を形成し、その保護の下で、あなたがたの同胞が啓示と避難所を見出せるようにしなさい。

27. 現在、世界は真実の光を見分けられず、その内なる本質においてさえ私の呼びかけを聞き取ることができないほど盲目であるため、あなたがたは祈り、霊的な地盤を築かなければならない。なぜ

なら、今この時、すべての民族が破壊の準備や防衛に忙殺されているため、あなたがたの祈りは聞き入れられないだろうからである。

28. 絶望、憎しみ、恐怖、そして苦痛が極限に達したとき、人々はさらに盲目にならざるを得なくなるだろう。

29. これもまた、私のメッセージを伝えるにはふさわしい時ではない。なぜなら、あなたがたはまるで砂漠の真ん中で叫ぶ者のようであり、誰もあなたがたに耳を傾けないだろうからである。

30. 人間の心は、耕すべき農地のようなものであることを忘れてはならない。まず、そこから岩を取り除き、覆っている雑草を引き抜いて、心を清めなければならない。 次に、雨によって肥沃にされ、その 内側で種子が発芽できるようにしなければなりません。そして最後に、土壌がこれ以上待てなくなり、好機が過ぎ去ってしまう前に、種を蒔く時が訪れなければなりません。

31. 同様に、この人類においても浄化の業が進行しており、人間は自覚することなく、自らの純粋さを取り戻すための苦難の杯を自ら手にしているのだ。

32. 人間が自ら招くあらゆる苦痛は、その心を和らげるために役立つものであり、そうして初めて、その存在の最も深いところから、自分の中に芽生えたあらゆる悪を追い出すことができるのである。 そして、もはやこれ以上苦しみも、恐怖も耐えられなくなったとき、彼は自分の心に良心の光、悔い改めの安らぎ、そして魂のための新たな命の源が差し込むのを感じるだろう。

33. 人は、準備が整い、清められ、苦痛によって精錬され、その後、悔い改めと内省の露によって実り豊かな状態となったとき、霊化という神聖な種を受け入れる段階に達する。なぜなら、その内面は——今や悔い改めと、改善および再生への決意によって高められた—— その懐に、愛と平和と知恵の種を受け入れることを切望するようになるからである。

34. もし、人類がわたしのメッセージの到来を待ち望んでいるその時に、この民が、同胞たちの前にわたしの言葉の使者あるいは「働き手」として現れる準備をしていなかったとしたら、この人類はどうなってしまうだろうか。

35. 弟子たちよ、あなたがたの責任はどれほど大きいことか——私があなたがたに使命を果たすために託した一分一秒について、あなたがたは私に対して説明責任を負わなければならないほど大きいのだ。

36. 私はあなたがたに、まずは祈るべきだ、つまり、あなたがたが果たすべき使命について真の理解を得るよう努めることから始め

るべきだ、と告げた。また、慈悲を実践することで心を整えるべきだ、と。物質主義の産物である利己心と闘うよう努めることで、徐々に自分の心を繊細にしていくこと――そうすれば、ますます霊性があなた方の内に宿っていくでしょう。

37. もはや幼子であってはなりません。そうすれば、私が「祈りなさい」と言うとき、私が求めているのは善行であることを理解できるでしょう。なぜなら、善行こそが――あるいはそうでない場合もあるかもしれませんが――、真に私の霊に語りかける、あなた方の言葉や思考だからです。どんなに美しい考えであっても、それが心から感じられていなければ、その考えには実体が欠けている。どんなに美しく表現された言葉や文章であっても、それが行いに結びつかなければ、な命を持たないことになる。そして、命を持たないものは存在しないも同然であり、それゆえに私によって受け入れられることはない、ということは、あなたがたもすでに知っているはずだ。

38. 今や、あなたがたは知っているはずだ。私が「祈れ」と言うとき、それは単に内なる黙想の中で思考を集中させることに留まるのではなく、この聖域を再び離れ、隣人の一人ひとりに、真の兄弟愛の愛の証を残すべきであることを。それは、あなたがたが隣人のために見守り、祈りながら生きているという、最も確かな証拠となるのだ。

39. そうすれば、あなた方の欠点は次第に消え去り、不和と戦い、私が教えの中で何度も語っているあの準備を成し遂げることができるだろう。

40. もし、人々が心の中で私の新しいメッセージを渇望するその時に、この民が実践的な行動によって準備を整えておらず、また、憎しみに対する愛、利己主義に対する慈悲、不和や病気、苦しみに対する平和という戦いを通じて清められていなければ、言葉だけで人々の心の奥底に届き、私の真理によって彼らを納得させることができるなどとは期待してはならない。

41. それゆえ、わたしがあなたがたに言葉を与えるのと同時に、それを実践すべきだと告げる。そうして初めて、あなたがたはわたしの教えの本質、その真意、そしてその限りない慈愛を理解することができるからである。

42. 1866年から1950年までの84年間は、霊的な啓示の全時代であり、その間、神聖な光は絶え間なくあらゆる魂とすべての「肉体」に降り注いでいた――その時代において、霊界はこの民にはある一つの形で、そして全人類には様々な形で現れたのである。

43. 今や、この時代にわたしの啓示のために私が選んだ手段を通じて、あなたがたに「さようなら」を告げる時が近づいている。しかし、私は、あなたがたの準備と霊化を待ち望みながら留まり続ける。そうして、たとえその時にはもはやメッセージを伝えるために人間の脳を用いることなく、私の霊からあなたがたの霊への直接の啓示を用いるとしても、人類への啓示を再開するつもりである。

44. 私が古代の預言者の口を通して、「私の霊がすべての魂とすべての肉に注がれる時が来る」と語ったとき、人々が幻視や預言的な夢を見るようになる、と語ったとき、私はまさに、すべての 魂が持つ賜物が現れ、魂が神の真理を求め、あなたがたに預言されていたすべてのことが成就するのを証しする、その近づきつつある時を指していたのである。

45. 私が最後にあなたがたに語りかけるその日を恐れてはならない。また、もはや人間の口を通して私の言葉を聞くことのない、内省の時期をも恐れてはならない。 まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしは常にあなたがたと共にあり、あなたがたの祈りに耳を傾け、一瞬たりとも見捨てたりはしない。わたしの愛をもってあなたがたの信仰を励まし、さまざまな形でわたしの臨在を感じさせ、あなたがたの集いに霊のエッセンスと神聖な霊感を満たし、あなたがたに思い、行い、言葉を授ける。そして、あなたがたの歩みを導き、転倒やつまずきから守ってやるのだ。

46. 新しい時代を恐れてはならない。霊におけるわたしの臨在を疑ってはならない。なぜなら、わたしはあなたがたに私の声を聞かせ、あなたがたの疑いを払拭し、こう告げるからである。「ああ、信仰の薄い人々よ。あなたがたは、見て、触れて、初めて信じることができるのだ。」

47. もしあなたがたが、この第三の時代にふさわしく、真に霊的な者となり、私を師と称したいと願うならば、これらの厳粛な瞬間、すなわちあなたがたがこれから受け取る最後の教えの一つであるこれらについて、深く思索しなさい。

48. 私は、あなたがたが立派な弟子として、師の誠実さを手本とし、旅路の全行程において、律法と良心によって定められた道から決して逸れることなく、使命を果たすことを望む。

49. 私は何世紀も前に、私の到来を予告していたから、その約束を果たした。また、私の代弁者たちを通じてあなたがたと接触した後、霊界について絶えず語るという「応答の時期」を約束したから、私はそれを実行した。 しかし、私がこのメッセージを終える日付をあなた方に明らかにした以上、私はそれを守らなければならない

し、守るつもりである。なぜなら、私の意志にはいかなる変化も生じ得ず、私の神聖な計画が変更されることもなく、また、生命や人々の運命を変えるような他の力や意志は存在しないからである。

50. すべては永遠の昔から私によって定められており、私の英知から逃れたものは何一つない。あらゆる時代は初めから定められ、あらゆる運命はあらかじめ描かれていた。たとえ人々が自らの意志を私の意志と調和させたことが一度もなかったとしても、それでもなお、私の意志は成就したのである。

51. わたしは常に、あなたがたに準備のための時間を与え、あなたがたを救うための手段を用意してきた。ある時代や期間の終わりに、あなたがたに説明を求めるために裁きを下す前に、わたしは警告を与え、目覚めさせ、悔い改め、改心、そして善へと向かうよう促すことで、あなたがたに愛を示してきた。 しかし、裁きの時が到来したとき、私はもはや、あなたがたがすでに悔い改めたか、準備を整えたか、あるいは依然として悪と不従順の中に留まっているかを問うために、立ち止まることはなかった。 わたしの裁きは定められた時に訪れ、時機を逃さず箱舟を造ることを知っていた者は救われた。しかし、裁きの時が告げられた際に嘲笑し、自らの救いのために何もしなかった者は、滅びざるを得なかった。

52. 私が今、あなたがたに語っていることをよく考えなさい。そうすれば、たとえ時折そう思えることがあっても、あなたがたの意志が決して私の意志を変えることはできないことを知るだろう——裁きの時が来れば、私はあなたがたを訪ね、報いを下し、一人ひとりにその行いに応じて報いるのだ。 なぜなら、私は以前から、愛と光に満ちて、あなたがたに語りかけてきたのだ。それは、あなたがたが時宜を得て救いの箱舟を造るためである——その箱舟こそが、最大の裁きの日に、世界的な浄化の洪水の中で滅びることを防いでくれるものだからである。

53. もしこの出来事が、新参者や後発者たちの間でまだ具体化していないのであれば、その責任は年長者たち、すなわち「最初の人々」、弟子たちにある。彼らは、幼い兄弟姉妹たちに、父の御心に従う方法、そしてその律法を全うする方法を教えなければならないのだ。 しかし、わたしはあなたがたに告げる。もし彼らが従順の模範を示さず、またわたしの真理の証しを立てないならば、わたしは確かに彼らに、わたしの正義のさらなる証拠、そしてわたしの御心があらゆるものを超えて成就することを示すであろう。

54. あなたがたは心の奥底で、なぜ私があなたがたの魂にこれほど厳しい非難を浴びせるのかと自問している。しかし、私はあなた

がたに告げる。もし私が、あなたがたを創造した際に、私の資質の一つでも与えなかったならば、あなたがたには、私の非難に対して不満を述べたり、それに驚いたりする理由があっただろう。しかし、私は、あなたがたの本質の中に、私のあらゆる能力や 美徳、そして特質を少しずつ授けたことを知っており、さらに、私の律法や、あなたがたの使命、そして人生についての啓示を与え、あなたがたの理解、成長、そして開花に必要な時間を与えてきたのだから、私があなたがたのもとへ降りてきて、あなたがたの な行いや、私の賜物をどのように用いたかを裁くことは、公正なことだと受け止めなければならない。

55. もう一度言っておくが、もし私が、私の特質のたった一つでもあなた方に与えなかったならば、私はあなた方が人生で犯した過ちを責める権利など持たないだろう。

56. したがって、あなたがたは、魂によって生かされていない人間など存在せず、またかつて存在したこともなく、また、霊を持たない人間の魂など、かつて存在したこともないということを理解できるだろう。

57. 人間にとって、自分の中に光の存在——霊界の住人であり、より高い世界の使者や使節——が宿っていることを知る以上に、これほど大きな栄光があるだろうか。 そして一方で——魂にとって、その道を照らす神性の光そのものである、輝かしい「精神の灯台」が永遠に自分と共にあり続けることを知る以上に、これほど大きな幸福があるだろうか？

しかし、あなたがたは地上の事柄にのみ没頭して時間を浪費し、日々、霊的な生活についての思考から遠ざかってきた—— 宗教団体でさえも霊性の欠如に苦しんでいるため、人類は疲れ、病み、憂鬱に陥ってしまいました。そして、かつて彼らを裁き、責任を問うために現れる父の声を耳にしたとき、その責任追及に動揺し、こう自問するのです。「なぜ、この弱く、小さく、病み、無知な民に対して、これほど厳しいのか？」

しかし、彼らは、主の御声に対してそのように応答することが正しくないことに気づいていない。 なぜなら、彼らは弱くはないのだ。神から授かった力をその内に宿しているからである。また、小さくもない。彼らの魂と肉体の造りには、私が彼らを創造した際の知恵と完全性が宿っているからである。さらに、無知でもない。彼らは御霊によって、自分が何をしているか、何をすべきか、そして何をすべきでないかを完全に自覚しているからである。

しかし、もしそれが病んでいると感じるならば、それは、霊的なものとも地上のものとも調和を欠いているために、私との霊的な対話や、その母である自然との接触といった、生命の本来の源から遠ざかってしまったからである。

58. わたしはあなたがたに、わたしの言葉を深く熟考するよう求める。そしてこう言わざるを得ない。もし誰かが――わたしの言葉を聞いた後でも――なおもわたしの非難や裁きを不当だと考えるならば、それはただ、その者がわたしの言葉の真意を捉えられなかったからに他ならない。。そして、その者の心と知性の頑なさを、わたしは赦さなければならないだろう。

59. 愛する民よ、あなたがたは長い間試練にさらされてきた。それは、今日、諸国が平和のメッセージをこれほど切実に必要としている今、あなたがたが私の言葉を同胞たちに伝えるにふさわしい者となるために、自らを清める必要があるからである。

60. 私は、恵みの生活から死んでいるような者を使者として遣わすことはない。なぜなら、彼らには与えるものが何もないからだ。私は、自分の心を利己心から清めていない者たちに、この使命を託すことはない。

61. わたしの言葉の使者は、その存在そのものが人々の心にわたしの平安を感じさせるような、*わたしの*弟子でなければならない。その人は、人生で最も困難な瞬間にあっても、周囲の人々を慰める能力を持たなければならず、その言葉からは常に、魂や知性のあらゆる闇を追い払う光が溢れ出なければならない。

62. わたしは、この民が「死んでいる」状態にあるのを見出し、わたしの言葉の光によって彼らを生き返らせた。わたしが彼らにそう教えたのだから、なぜわたしの弟子たちは、周囲の人々に対しても同じことをできないというのか。

63. 私が「死者」と言うとき、それは信仰、善、真理の点で死んでしまった者たちのことを指している。そして、あなたがたが私の説教にやって来たとき、あなたがた一人ひとりの内には「死者」がいたと、私は断言できる。

64. 私の言葉が、あなたがたの心の墓石に触れたとき、それは、あなたがたの生活の物質主義の下に長い間埋もれていた魂を震え上がらせた。

65. 私の言葉は、あなたがたに未知の感覚、押し流された愛の感情、そして魂の歓びを体験させた。あなたがたは、声の媒体を通じて伝えられた神聖な光線へと熱心に駆け寄り、無限からここ、あなたがたの心へと降りてくるのを感じるその本質を味わおうとした。

66. それはあなた方にとって真の平安の瞬間であり、光と完全さに満ちた世界へと移され、この世の運命を忘れてしまった瞬間でした。

67. まさにその時、あなたがたは人生から苦痛しか期待していなかったにもかかわらず、神秘のベールが引き裂かれ、愛と真実と慰めのメッセージとして神聖な光の光線があなたがたの魂に降り注いだため、あなたがたの心は感謝の念に満たされた。

68. 暗く、苦痛に満ち、単調なあなた方の生活の中で、霊的でありながら同時に理性でも理解できる啓示を通じて、私の再臨という予期せぬ奇跡が起こった。

69. その日から、新たな人生があなたの目の前に現れました。疑いと不確実性の影は消え去り、あなたの心の中に光が灯りました。

70. これこそが、私が御言葉の中で何度も語っている新しい夜明けであり、これこそが、あなたがたが目覚めた新しい一日である。

71. 今や、あなた方には希望があり、安心感があり、この道を歩むために何をすべきかを知っている。

72. あなた方の心には、高潔な決意、善意、そして美しい計画が生まれました。

73. その道は、光に満ちてあなたの目の前で広がり、その美しさを示し、一歩一歩新たな教えを明らかにするために、絶えずあなたをその道を歩むよう招いている。

74. あなたがたのうち、この素晴らしい目覚めを全人類に願わない者がいるだろうか。この宝を自分だけのものにしたいと思う者がいるだろうか。誰もいない。 私は、すべての人の心の中に、世界的な復活への願い、すべての人々に平和と光がもたらされることへの願いを見出しています。まことに、私はあなたがたに告げます。あなたがたの心の中で日々大きくなりつつあるこの願いこそが、明日、私の言葉があなたがたの魂に芽生えさせた理想を実現するために戦う原動力となるでしょう。

75. わたしは、わたしの民に、すべての国々にわたしのメッセージを伝えるための手段を与える。そして、その道のりで、善意ある人々に出会えるよう導き、彼らがわたしの啓示を地の果てまで届けるのを助けるようにする。

私の平安が、あなたがたと共にありますように！

教え 324

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. わたしは、わたしを受け入れる準備ができているあなたがたの心に降りてきた。わたしを求めながら、わたしを見つけられなかった者が、あなたがたの中に誰一人としているだろうか。

2. あなたがたは今、荒野を旅しているが、この道における数え切れない試練の中で、絶えずあなたがたを励ましてくれるこの声の中に、わたしの臨在がある。多くの群衆が、水も食料も導き手も見出せない荒野に住んでいる一方で、あなたがたは御霊のパンによって養われてきた。

3. わたしはすべての人々のところへ降りてくる。いかなる人種をも特別に扱うことはない。わたしの霊はすべての人々のところへ降りてくるが、準備の整った者だけがわたしを受け入れ、わたしの臨在によって活力を得るのだ。

4. 私は、私を宿すために心の扉を開いた「イスラエルの民」――すなわち、その目に光を見出し、この業の中に秘められたすべての真理と栄光を見出した者たち――を祝福する。なぜなら、彼らは救われるからであり、彼らを通して、来るべき世代もまた救われるからである。

いつの時代もわたしに耳を傾けてきた選ばれた民よ、今日、あなたは再びわたしの御前に進み出て、頭を下げてこう言う。「父よ、私たちの歩みを導き、私たちの信仰をさらに燃え上がらせ、私たちが誘惑に陥ることのないようにしてください。」

あなたがたは祈りの中で、大きな苦難に直面していること、苦難の杯を飲み干したこと、道の茨によって足を傷つけたことを私に告げている。しかし、師はこう答える。「試練の中で忍耐強くありなさい。屈従の心をもって苦難の杯を飲み干し、私の教えに励みながら、明日を待ち望みなさい。」

5. あなたがたはあらかじめ警告を受けていた。私が告げていたから、この時代が何をもたらすかを知っていたのだ。あなたがたは盲目ではない。光に満ちた道を歩んでいる。つまずき、転び、涙を流しているのは他の人々である。それは、どこへ向かっているのかを知らず、実りのない無益な人生を送っている無知な者たちだ。

しかし、あなたたちよ、御霊のすべての賜物を持ち、私の言葉の中に私の臨在があり、日々私の教えを通して私を受け入れてきたことを知っている民よ、あなたたちは、私にその闘志を示す強き者たちである―― それは、わたしへの渇望、完全性への渇望をもって、

逆境を打ち勝ち、大きな障害を乗り越え、大きな障壁を打ち破った精神である。なぜなら、あなたがたは、 の人々の間で、真実を語り、自らの体験を証しする、最初の者、強き者でなければならないからだ。

6. その大いなる最終の試練が近づいたとき、あなたがたは同胞たちに語りかけなければならない。 あなた方の言葉は、あの大いなる試練によって一時的に動揺し、沈黙に陥るであろう人類の沈黙を打ち破らなければならない。それは「イスラエル」の声として高らかに響き渡り、世界に向かって語りかけ、私が人類に約束したことを告げ知らせるものでなければならない。すなわち、善意ある人々への平和、信仰ある人々への救い、そして純粋な理想へと高みを目指すすべての人々への権威と力である。

あなたがたを励ますために、私は私の言葉をあなたがたの唇に、私の霊感をごあなたがたの心に授ける。そうして、あなたがたがこの人類を確実に導けるようにするためである。

あなたがたは十分に準備されてきた。私の教えの一つひとつにおいて、私はあなたがたの目の前で、理想と霊性にあふれた果てしない道を切り開いてきたのである。

7. あなたがたはこの御言葉の喜びを味わい、後で熟考するためにそれを心に留めておくうちに、あなたがたの知性、そしてとりわけ魂が活気づきました。「イスラエルの民」にとって、私があなた方に語った言葉、あなた方と全人類のための遺言として与えた教えについて熟考しなければならない、大いなる学びの時がすでに近づいている。

8. 民よ、備えよ。すべての心から、あなたがたの思考に挑戦する多くの考えが湧き上がり、人々の間には精神的な親和性を見出せなくなるだろう。 これは、予告されていた戦いの時である。ある者たちは、私の真理を守り、私の教えを広めるために立ち上がる一方で、他の者たちはそれを破壊しようとし、私がイスラエルの民の心に築き上げたこの業を、一石一石崩そうとするだろう。

9. 彼らは狂信と無知をもって立ち上がるだろう。なぜなら、誰もが自分の理解力の範囲内でそれを解釈してしまうからだ。しかし、わたし、すなわち光は、あなたがたを導くために降りてくる。わたし、すなわち正義は、心を整えてわたしの言葉に耳を傾けた者たちの心の中に、真理を輝かせるだろう。

10. イスラエルの民よ。この大いなる戦いにおいて、あなたがたは愛と平和と正義という武器だけを携えるべきである。傷つけ、殺す両刃の剣を手に取ったら、あなたがたはどうなってしまうだろう

か。何よりもまず、あなたがたは私の光を輝かせ、私の言葉を人々の心に届けるべきである。 あなたがたは、忍耐と知恵と愛をもって身を守り、この な平和の只中で私が与えた教えを思い出すべきである。私は、教会が大きな嵐や大きな混乱の中で争うのを見てきたが、私の言葉は、世界観や観念、さまざまな解釈によってかき乱されたこの海において、灯台のような存在であった。

あなたがた一人ひとりが真理の使者となりなさい。あなたがたは皆、わたしを手本としなさい。あなたがたは皆、わたしが弟子たち一人ひとりを教え導いた愛を、初歩の学び手たち一人ひとりを鍛えた忍耐を、過ちを犯したり誘惑に負けた者たちすべてに与えた赦しを、思い起こさなければならない。

11. それゆえ、わたしの弟子として残され、この師の証しをなそうとするイスラエルよ、あなたはわたしを手本としなければならない。そうすれば、試練の瞬間はあなたにとって好機となり、あなたは自分自身を知り、あなたの魂の偉大さを悟ることになるだろう。しかし、もしあなたがたが準備ができていなければ、あなたは自分の弱さを嘆くことになるだろう。 師である私は、あなたがたに教え、数え切れないほどの教えを授けてきた。そして、この1950年――恵みの年であり、私がこの姿で語る最後の年――が終わる頃には、あなたがたは準備が整っているだろう。そして、声の媒体を通じて聞き取れなかったすべてのことは、魂の直感を通じて受け取るようになるだろう。

12. このようにして、あなた方は偉大な教えを理解することになるだろう。私があなた方に示した道は無限である。決して、「もう終わりに達した」「学ぶべきことも研究すべきことももうない」「すべてを理解した」などと言うことはできないだろう。

いいえ、民よ、短い時間では私の教えを理解するには不十分です。 あなたがたはこの地上での旅の全期間を通じて学び続けなければならない。そしてその後、来世において、あなたがたの魂は私の霊の本質と知恵を渇望して、霊的な領域へと旅立っていく。そうして、あなたがたはさらに広い地平線を発見し、理想はより大きなものとなり、やがて、あなたがたの父が、その光と子供たちへの愛において無限であることを理解するようになるだろう。

13. 今日、あなたがたはこの業において、もはや幼い弟子でも、小さな子供でもありません。あなたがたは使命を果たすために、長い道のりを歩んできました。私はあなたがたに語りかけ、「イスラエルの民」が私を迎えるために地上に住んでいたと告げました。そ

れゆえ、あなたがたの魂が私を聞き取ってきた時代は数多くあります。

14. あなたがたはすでにいくつかの人生の段階を経て、成長してきた。あなたがたには、過去の時代に経験し、収穫した実がある。あなたがたはすでに大きな試練を乗り越えてきた。それゆえ、あなたがたの魂は偽りの光に惑わされることはないだろう 。あなたがたは私の言葉の「味わい」を知り、目を開かれ、最も純粋な霊的な光を知っている。あなたがたは私の知恵の大いなる書物を読み、不完全な科学によって混乱させられることはないだろう。

15. わたしは、わたしの中にある真の光と真の科学を、あなたがたに知らしめた。わたしは、あなたがたを魂の面において偉大な者とした。それは、あなたがたが理性よりもむしろ魂をもってわたしを求め、真のスピリチュアリストとなれるようにと願うからである。なぜなら、イスラエルの民にとっての大きな機会の時が、すでに近づいているからだ。 もし今日、あなたがたが囚人のように感じ、私の教えを実践するための活動範囲が制限されていたとしても、今や、私があなたがた一人ひとりのために道を切り開く時が近づいている。そこで、あなたがたは私の教えを実践することになり、それを実践する中で、私の言葉の一つひとつが持つ偉大さを発見するだろう。

16. そうして初めて、あなたがたはわたしを理解することができ、わたしの言葉を正しく解釈し、あなたがたの心の中に、混乱を招き、わたしの教えの理解へと導かないような理論や観念を形成することはなくなるだろう。

あなたがたは、父と一つになるために、愛と平和と慈悲を実践しなければならない。そうして初めて、私があなたがたを準備した通り――賜物と恵みに満ちた姿で――自分自身を知ることができるのだ。 わたしは、あなたがたをわたしの姿と似姿に造ったと告げた。あなたがた一人ひとりが、この道において、わたしを証しし、あなたがたをわたしに似せようとする偉大な業を行うことができる。そして、あなたがたの能力によって、それを成し遂げることができるのだ。

17. 皆さんはもう準備ができているか。私を模範とするために、すでに身を整えたか。 まことに、あなたがたに告げます。そのために欠けているものは何一つありません。あなたがたはすでに霊的な成熟に達しており、この時点から行動を起こし、使命を果たした最初の実を私に捧げることができるのです。一方、人類の大部分は依

然として眠り続けており、彼らを目覚めさせる衝撃や揺さぶりを待ち望んでいるのです。

18. 目を覚まして祈り、信仰の炎を燃やし続けなさい。自分を見捨てられたと感じ、霊的な道から外れてしまったと感じるすべての人々のために祈りなさい。その祈りは人々を包み込み、彼らを救い、贖うのです。 やがて、あなたがたが愛を蒔いた、まだ面識のない心たちが、あなたがたの道へとやって来る時が来るでしょう。あなたがたは、知っている人だけでなく、知らない人のためにも祈ってきたからです。あるいは、あなたがたが自分の道を歩む中で彼らのもとへ辿り着き、彼らを発見するでしょう。そうして、互いに一つとなり、その時、あなたがたの魂は、自ら蒔いた種を認識するのです。

19. 諸地方はあなた方を待ち望んでいる。私はそのことについて多くを語ってきたが、あなた方はそれがすぐには実現しないのを見て、遠いことだと捉えていた。 しかし、あなたがたが散らばる時が必ずやってきます。その時、あなたがたはこの一粒の種を、豊かな実りをもたらす種として携え、人類の野原に蒔くことになるでしょう。そこで、あなたがたは自らの進歩を認識し、そこで、あなたがたは自らの理想を推進し始め、そこで、人類への愛と犠牲の行いを通じて、偉大になるのです。

20. あなたがたが私の教えを理解するためには、これらの試練を経ることが必要です。あなたがた一人ひとりが使徒にならなければなりません。そして、私はあの世からあなたがたを照らし、祝福します。

21. あなた方には、当時の人々が持っていたのと同じ賜物がある。 そう、イスラエルの民よ。あなたがたは、あの十二使徒や、第二の時代にわたしに耳を傾けたすべての人々と同様に、この時代においてわたしの弟子であったのだ。わたしはあなたがたの中にわたしの種を蒔き、わたしの知恵があなたがたの魂を包み込んできた。しかし、もしあなたがたが、しばらくの間、その知恵に満たされていると感じられなかったとすれば、それはあなたがたがまだ深く考え、学びを深めていなかったからである。

22. 今、私はあなたがたに平安の時期、すなわちこの世の生活から離れる時期を授ける。それは、あなたがたが学び、準備を整えてから使命を始められるようにするためである。その時が来たら、それを無関心に過ごしてはならない。私が今あなたがたに与えているこの時間を、世俗的な生活に費やしてはならない。 私は、生活に必要なものをさらに与え、魂に必要なものはすべて与える。

23. 私は人間の魂のために来た。魂が住んでいた闇から救い出すために。肉体は二次的なものであり、地上の生活も、人間にとっては重要ではあるが、やはり二次的なものである。 あなたがたには、身を養うためのパン一つ、体を覆い、天候の厳しさから身を守るための毛布一枚、そして質素な衣服一枚あれば十分であり、それで足りる。 しかし、長い道のりを歩まなければならない魂、偉大な約束を得るために大きな功績を積んで私の元へたどり着かなければならない魂は、まだあなた方の中でその機会を得ておらず、依然として鎖につながれたままであり、今もなお絶えず救いと解放を求めて叫び続けている。その魂は、あなた方の存在の核心で立ち上がり、あなた方の硬い心を揺さぶっている。 しかし、「肉体」を支配すべきなのはその魂であり、肉体が魂を支配してはならないのだ。

24. 肉体という外殻は、単に衣であり、道具に過ぎない。それは、あなたがたが地上においてしばらくの間生きるために、私が与えたものである 。あなたがたがこの衣を脱いだその時、私は魂に対し、その身体について説明を求めるであろう。

しかし、あなたがたが生きているこの物質主義は、あなたがたが自らの魂を抑圧してきた牢獄に他なりません。今、私はその扉を開き、あなたがたに自由を与え、あなたがたが私のすぐそばで生き、全存在の力を尽くしてこの人類を愛することができるようにするのです。

25. わたしは、イスラエルの民が、この無防備な人類を受け入れる慈愛に満ちた母のようになることを望む。あなたがたの懐が温かくあり、あなたがたの目がこの人類への愛と憐れみに満ちていることを。わたしは彼らをあなたがたに託す。あなたがたは彼らを妹として、あるいは――もし望むなら――娘として見なしてほしい。 わたしはあなた方をわたしの代理としてこの地に残す。そして、わたしが人類を愛し、祝福し、抱きしめるのと同じように、あなた方もそうすべきである。人類は愛と模範、そして光を渇望している。わたしは人類にこう告げるだろう。「『イスラエルの民』を訪ねよ。その中に、わたしの代理とわたしの奇跡を見出すだろう。この民の上に、わたしは教えと恵みを注ぐのだ！」

26. 愛する民よ、あなたの使命はなんと偉大なものか、あなたはまだそれを理解していない！しかし、心配する必要はない。もしあなたがわたしを信じるなら、その使命を果たすために立ち上がることができ、人類に対してその名誉ある地位を占めなければならないだろう。

今こそ、考える時間と瞑想する時間がまだあるうちに、準備を整えなさい――まだ大勢の人々の前で説教をする立場にはなく、自らの過ちを自ら正すことができる今のうちに。 自らの内面へと深く入り込み、そこに潜む善と悪を見極め、あなたがたが発見するであろう美徳――あなたがたが創造された当初から、私があなたがたの魂に刻み込んできた美徳――を育んでください。しかし、あなたがたが発見すべき悪――あなたがたの中に存在するあらゆる不完全さ――は、完全なものへと変容させなければなりません。

27. 地球は、霊にとって贖罪と試練の谷である。しかし、霊は、私が与えた力と権能によって勝利を収めなければならない。なぜなら、霊は私自身の分身であり、私の本質そのものであり、私の命そのものだからである。 あなたがたは私の被造物であり、私に似ている。それゆえ、霊化と向上への道において、あなたがたが乗り越えられないような障害が、その道のりで一体どのようなものがあるというのか？

28. 民よ：あなたがたが日々の祈りを捧げ、私の教えを学ぶことに励むだけで十分である。そうすれば、自らの努力によって道を切り開き、あらゆる試練に打ち勝ち、待つべき時には忍耐強く待ち、すべてを私の御心通りに受け入れることができるのだ。 私は、あなた方にバラ色の道を約束したわけではありません。また、「 」と、あなた方が幸せになり、この地上で完全な幸福を享受できると告げたわけでもありません。私は、あなた方が試練にさらされ、贖罪の道を歩み、過去の過ちを償わなければならないこと、そして上昇するためには功徳を積まなければならないことを教えてきました。

29. これこそが、わたしがあなたがたに語ったことである、民よ。それゆえ、苦難の中でも従順であり、喜びをもって人生を耐え忍びなさい。夜が明ける時に受け取れなかったものを、夜明けには受け取れることを望みなさい。なぜなら、わたしを信頼する者は皆、受け取るからである――祈る者は皆、強くなるからである。 それゆえ、この師は、あなたがた弟子たちを常に祈りへと、霊的な教えの学びへと、人間生活の考察へと導く。それは、あなたがたが常に賢明で公正であり、あらゆる決断において正義を貫き、あなたがたがわたしの使徒であることを証しし、自らの行いにおいて示した正義によって、心の中に平安を感じられるようにするためである。

30. こうして、わたしはあなたを準備するのだ、イスラエルの民よ。こうして、わたしはあなたをこの教会に結集させた。わたしの御言葉の最後の時に加わった者たちを、わたしは教え、高めてきた。それは、あなた方全員をひとつの思い、同じ学びの中に結集させ

、新しく加わった者たちが、すでに長い間わたしに耳を傾けてきた者たちと同じ発展の段階に達するようにするためである。

31. わたしは、あなたがた全員が同じ階段を登り、高い理想を育み、常に魂を最優先し、祈り、すべてをわたしに期待しているのを見ている。わたしはあなたがたを祝福し、こう告げる。これこそが、わたしが人類にも期待していることである。

人類はいつ改心するのだろうか。いつ不浄の外套を脱ぎ捨てるのだろうか。いつ物質主義から決別し、霊的な衣を求める旅に出るのだろうか。

この偉大な業を成し遂げるのは、あなた方ではない。たゆまず働き続ける私が、必要な時に人類を回心させるのだ。人類は発展し、一瞬にして大きな進歩を遂げるだろう。なぜなら、私が彼らを霊化へと導くための試練と状況を準備しているからだ。

あなたがたは今のこの時代に自らの使命を果たすべきだが、私はいつの時代も働き、成し遂げていくのだ。

32. あなたがたは私の言葉を知り、それが私から発せられたものであると悟ったが、時には母なる愛の温もりと優しさをも渇望することもある。しかし、師はあなたがたに問う。、この師の言葉の中に、母の優しさと愛もまた見出せなかったのか？

わたしは、わたしが唯一の師であり、唯一の霊であり、わたしの中にはあらゆる種類の愛がある、とあなたがたに告げた。もしあなたがたがマリアを慕うなら、わたしの言葉そのもの――あなたがたを絶えず祝福し、愛撫するこの言葉――の中に彼女を探し求めなさい。

33. そう、イスラエルの民よ、私の中に父と母が語り、私の中にあらゆる種類の愛が語っている。私がいつの時代にも語ってきたこの私の言葉の中に、あなたがたは――私を認識するならば――切望するすべてのものを見出すだろう。 あなたがたの心には空虚さなどない。わたしの中に、父、友、兄弟、師、そして母さえも見つけるだろう。わたしは完全なる愛であり、至高の愛である。安心して、民よ。そして、わたしがこれらの教えをあなたがたに知らせてくれたことに感謝しなさい。

34. 私は、恵みの朝ごとに、あなたがたの道を祝福で満たしている。恐怖や切望をもって私に祈った者の中で、聞き入れられなかった者がいるだろうか。私はすべてを見ており、すべてを知っている。私はあの世から、あなたがたに語りかけているのだ。

あなたがたは、わたしのもとへやって来る者たち、すなわち、霊の領域でわたしを見出すために高みへと舞い上がる者たちの一員で

ある。この時代、わたしは地上には降りていない。わたしは霊的に降りてきて、普遍の光線を通じてあなたがたとつながり、そこからすべてを見、聞き、あなたがたに語りかけ、あなたがたを祝福している。そして、この恵みの朝、わたしはあなたがたにこう告げる。功徳を積みなさい。すでに、あなたがたは今年の半ばに差し掛かっているのだから。もしこの期間を正しく活用したならば、あなたがたは祝福されるだろう。しかし、師として私はこう助言する。毎日、一瞬一瞬を大切にし、私の言葉を心に刻み込み、永遠に心に留めておくようにしなさい。

この雰囲気、この平安、この光、この喜び、そしてこの愛が今後も続くように。この年が過ぎても、あなたがたは集会の中でも外でも、これらを吸い込み続けなさい。私はそれをあなたがたに与えよう。あなたがたがどこに集まろうとも、私の臨在がある。あなたがたが私を呼び求めるところには、私はあなたがたと共にいる。

35. さあ、民よ、この時代、神聖なる師が、平和と理解、そして霊性の高まりに満ちた雰囲気の中で、自らを現していることを悟りなさい。 私はあなたがたの思考を一つにし、あなたがたは私が降りてくる霊的な神殿を築き上げた。そこで私は自らを現し、その存在を感じさせる。今年が過ぎても、あなたがたはそこで私を認識することになるだろう。なぜなら、私は今後もこのように、平和と霊性の高まりの中で自らを現し続けるからである。あなたがたの魂 は、不和を取り除き、調和と信仰の統一という雰囲気を醸成すべきである。

36. 時が来れば、あなたがたは、派閥を形成することなく、また混乱や悪しき手本を残すこともなく、散っていくことになる。

37. あなたがたは、心と魂の底から、平和に満ちて語らなければならない。そうすれば、あなたがたの言葉の一つ一つに、私がこの世に知らしめようとするすべての正義と真理が凝縮されることになるだろう。 そして、あなたがたは、その平和と霊的なエネルギー、そして信仰をしっかりと守り抜くよう心がけなさい。そうすれば、いつでも、真理の声、預言する声、悪を沈黙させ、御霊の声によって魂を目覚めさせる声となることができるのだ。

38. 民よ、混乱した人類のただ中で、あなたがたはまさにその存在となるべきである。そのために、わたしはあなたがたを準備してきた。あなたがた一人ひとりは、人々の群れの中でそれぞれの使命を果たすことになるが、たとえ肉体的には互いに遠く離れていても、霊的には一つでなければならない。 そして、霊的な方法であれ、手紙を通じてであれ、互いに交流し合わなければならない。そうし

て、あなたがたは徐々にわたしの業を展開し、それを世界に広めていくことになる。そのために、この時代に、わたしはあなたがたの中に、真実と正義によって霊の賜物を開花させ、常に正義に満ち、霊的な存在であり続けるという理想を目覚めさせたのである。

39. 私は、あなたがたを、争いのない一つの家族として団結させたまま、この世に残す。あなたがたは皆、兄弟姉妹として互いを認め合い、同じ発展段階にあり、使命を果たすための同じ意欲を持ち、高い理想を掲げなければならない。あなたがたは皆、私の霊から祝福と励まし、そして闘いにおいて必要なものを授かるだろう。

この恵みの朝、私はあなたがたを力づけます。私の教えの一つひとつを心に刻んでください。たとえ短いものであっても、そこには大きな光が宿っています。

40. あなたがたに祝福がありますように。私は常に、霊的に高みへと成長しようとする者たち――目に見えるものを超えたものを求める者たち――霊の眼をもってあの世に永遠の命を見出す者たちを待ち望んでいる。

41. 私はあなたがたに、あなたがたの霊的な賜物を知らせ、呼びかけを送ります。しかし、あなたがた一人ひとりは、自らの功績によって私のもとへ至らなければなりません。

42. この恵みの朝、私は、この 国家の内外にある様々な会衆に集うイスラエルの民の祈りを通して、全人類を祝福し、彼らに私の平和と憐れみを与える。

43. こうして、私は今、あなたがたを困難な時代に備えさせている。あなたがたの言葉は、今や人類を覆おうとしている沈黙を打ち破らなければならない。人類は、多くの災いに押しつぶされ、様々な信仰の精神的指導者たちによって表出される世界観の相違に惑わされているのだ。

その恐怖の時代――それがどれほど長く続くか、あなたがたにはわからないが――あらゆる魂の中から、「善意ある人々に平安あれ」と告げる声が響き渡るだろう。その時、心の中に信仰を感じ、その灯を絶やさずに燃やし続けている者たちが救われる。彼らは自らの内に大きな権能を感じるだろう。

44. 今や、この民が私の言葉と戒めについて熟考し、あなたがたがこの戦いに備えるべき時が近づいている。あなたがたの考えは衝突し、結論において意見が分かれるだろう。しかし、あなたがたのあらゆる考えの上に私の光が輝き、私は健全な魂をもって私の計画を実現するために立ち上がる者たちを用いるであろう。

45. この戦いにおいて、私があなたがたに与える武器は、愛と英知と忍耐のみである。 しかし、この使命を遂行する中で、あなたがたは、私があなたがたを教え、来るべき時代に備えさせていたあの平和な時間、あの幸福に満ちた雰囲気を、懐かしさとともに思い出すことになるだろう。しかし、さまざまな世界観、観念、視点が渦巻くその海の中で、あなたがたは、私の弟子としての平和と尊厳を守り抜くために奮闘しなければならない。

46. 救いを得るためには、私の教えを深く探求し、その真意を理解するだけでは不十分である。あなたがたが私と一つとなり、魂がますます成熟し、信念において確固たるものとなるためには、その指示に従うことが必要である。

47. わたしは、この世であなたがたにバラ色の道を約束したわけではない。しかし、その苦難にもかかわらず、あなたがたは喜びをもって人生を生き、未来を信頼して希望を持ち、あらゆる行動において正義と公正な考えを持つことができる。この時代において、あなたがたは働き、自らの使命を果たしなさい。そうすれば、わたしは常に働き続けるであろう。

48. あなたがたは、常に真理を語り、悪を沈黙させ 、そして同胞を導き、教え導くという使命を果たす声であり続けるために、霊性を保ちなさい。

集まるたびに、愛を込めて天の母を呼び求めなさい。しかし、師はこう告げている。「あなた方の霊と私の霊は一つである」。私の言葉の中に、彼女の優しさと恵みを見出さなかったのか。この教えの中で、父とあなた方の母は、完全なる神聖な結びつきの中で語っているのだ。

49. 私は、人々が「神とつながる何らかの方法はないだろうか」と自問している姿を、どれほど頻繁に目にしてきたことか。そして彼らはしばしば、ため息混じりにこう叫んだものだ。「ああ、もし私が主に質問をして、その答えを得ることができたら！」 しかし、彼らはそれが不可能だと信じて諦めてしまい、外的な礼拝の形式や物質的な供物の中に私の慈悲を求め続けます。たとえ彼らの存在の最も奥底では、常に自分の被造物を深く愛していると語ってきた父が、彼らが懇願し、呼び求めても、なぜ答えてくださらないのか理解できないにもかかわらず。

50. ああ、未熟で、この世の生活に囚われた人間たちよ、もしあなたがたが、私とつながりたいというその欲求こそが、私の霊が感じている渇きそのものであることを知っていたなら！ もしあなたがたが、あなたがたが切望するその対話こそが、単に許されているだ

けでなく、私があなたがたに啓示したすべての教えが、いつの時代においても、あなたがたを「霊と霊との対話」へと導くことを目的としているのだということを、知っていたなら！ しかし、あなたがたは物質的な生活を送っているため、自分の唇から発せられる言葉に答える私の声を聞こうとしてきた。だが、それはあってはならないし、あってはならないのだ。なぜなら、そうなればそれはもはや霊的な対話ではなく、あなたがたの主があなたがたの物質主義のレベルにまで身を落とすような対話になってしまうからである。

51. それゆえ、私がこの時代に、これらの声の媒体を通じて自らを現す際に選んだ方法は、簡潔でなければならない。なぜなら、それは完全な啓示の形態ではなく、一度それが終われば、多くの人々が「霊と霊との対話」へと向かって成長し始める準備の時期が訪れるからである。

52. あなたがたが時折信じていたように、私は決してあなたがたから遠く離れていたわけではない。また、あなたがたの苦しみに対して無関心であったことも、あなたがたの呼びかけに耳を貸さなかったこともない。次のようなことが起こったのだ。あなたがたは、より高次の感覚を研ぎ澄ます努力をせず、肉体の感覚だけで私を認識できると期待していたのである。 しかし、私が人々にそれを許していた時代は、すでに遥か昔のことであると、私はあなた方に告げます。

53. もしあなたがたが、霊的な瞑想による内面の高揚、祈り、直感、預言的な夢、あるいは霊的な幻視といった、霊的な能力のいくつかを開花させるために少しでも努力していたなら――私は保証する、それらのいずれを通じても、あなたがたは私と結びつき、それゆえに、あなたがたの問いに対する答えや、神聖な霊感をおのずと心に受け取ることができたはずである。

54. わたしは常にあなたがたと語り合う用意があり、あなたがたの精神の高揚と心の準備を待ち望んでいる。それは、あなたがたを喜ばせ、あなたがたの精神にわたしを現すという幸福をもたらすためである。そのためには、この恵みを得るために、あなたがたが最大限の誠実さをもって身を整えることだけが必要である。

55. 確かに、私の慈悲がどのような形で求められようとも、私はあなた方を受け入れ、恵みを与える。しかし、たとえあなたがたが私に求めたものを得たとしても、その善に値する者となったという喜びを、あなた方の魂は決して味わうことはないだろう。

56. あなたがたに言わなければならないのは、あなたがたの願いが霊的な高みへと達するようになったその日、私の慈悲を受け取る

際の喜びは、比べものにならないほど大きくなるだろう、ということである。なぜなら、願い方を心得ている者は、当然のことながら、受け取る方法も心得ているからである。

私がこう言うのは、中には、願い方を理解していなかったにもかかわらず、私から望むものを手に入れる者たちがいるからだ。それでは、彼らは、懇願することさえ、求めることさえ理解していなかったものに、どのような価値を見いだせるというのか。彼らは、受け取ることを理解していない者たちであり、父が彼らの願いを叶えてくれたその愛を理解することなどできない者たちである。

しかし、父としての私の義務は、子供たちが人生の闘いを乗り越えられるよう助け、彼らを守り、支え、慰めることにある。それゆえ、私の憐れみは、決して私の子供たちの上に注がれることをやめることはない。

57. あなた方をこれほど深く愛するこの父は、あなた方が、闇であり、貧困であり、惨めさである霊的な無知に沈んでいるのを見ることはできません。 それゆえ、私はあなたがたの良心を呼び覚ます。その良心は、あなたがた自身の中から生まれ出る師のようなものであり、常に、その声が聞き届けられ、その存在が感じられるよう、また、あなたがたの過ちを正し、光と認識と霊と魂の高みへとあなたがたを引き上げる言葉や教えによって表現されるよう、手段と道を探し求めているのである。

58. 神としての私の啓示――それはあなた方に律法を告げるものである――と、 父としての私の啓示――それは私の無限の愛を明らかにするものであり、師としての私の教え――それは私の知恵を明らかにするものである――これらすべてを統合しなさい。そうすれば、あなたがたはこれらすべてから一つの本質、一つの神聖な意図を受け取るだろう。それは、あなたがたが「 」という霊的な光の道をたどって、私のもとに来ることである――それは、単にあなたがたへの啓示以上のものなのだ。 私は、あなたがたを私自身の王国へと導きたい。そこでは、私は常にあなたがたの中に存在し、永遠にあなたがたの中にいるのだ。

59. まずは、霊性を高めるよう努めなさい。そうすれば、あなたがたの秘められた賜物が次第に目覚め、まず霊と霊との対話へと、そしてその後、完全なる世界へと、一歩一歩、ますます近づいていくことになるでしょう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 325

1. 愛ゆえに泣く者たちは幸いである。それは、
、その霊と心が調和して生きていることの証だからである。

2. あなたがたが自分自身を見つめ直すその瞬間こそ、私の愛を理解し、感じるのにふさわしい時であり、あなたがたの心が——ほとんど気づかないうちに——花のように開き、目から甘い涙の泉が溢れ出る瞬間なのです。

3. これらの涙は、どんな言葉よりも雄弁であり、どんな思いよりも多くを語っている。そこには誠実さがあり、謙虚さがあり、愛があり、感謝があり、悔い改めがあり、誓いがある。

4. 私がこのように語っているのを聞くと、あなたがたは私によって理解され、愛されていると感じるでしょう。そう、私の小さな子供たちよ、私はあなたがた一人ひとりを眺め、一人ひとりの声を聞き取っています。私はあなたがたの名前を知り、すべての苦難を知り、嘆きと嘆願に耳を傾け、すべての願いと捧げ物を受け取っています。

5. そう、あなたがたは私の霊から生まれたのだから、私の子供たちなのです。どうして私があなたがたを知らず、愛さないことがありましょうか？

6. 時折、あなたがたの祈りにもかかわらず、痛みや苦しみが続くことがあるとしても、それは私があなたがたの声を聞いていないからでも、あなたがたを励ましたくないからでもなく、むしろ、私があなたがたを試練にさらし、一つまた一つと私の教えを授けたいからであり、父としての私の義務は、あなたがたを正し、試練を与え、そして「命」という道においてあなたがたを完成させることだからである。

7. 創造の祭壇の上でわたしを賛美し、自らの過ちの結果を、それを神の罰のせいにすることなく、謙虚に受け入れることができる者たちは、祝福される。

8. わたしの御心に従うことを知り、謙虚に試練を受け入れる者たちは、祝福されよ。彼らすべてが、わたしを愛するようになるであろう。

9. 人間たちよ、あなたがたは、この世で起きていることが恐怖で満たされているため、わたしのもとに避難を求めてやって来る。 あなたがたは、すべての正義、すべての愛、そしてすべての真実が、人々の心から消え去ってしまったことに気づいた。そこで、あなたがたは自問した。「誰に救いを求めればよいのか？　誰に助けを懇

願し、誰に希望を託せばよいのか？」そして、あなたがたは私を思い出したのだ。

10. 地球の哀れな民たちよ――ある者は奴隷にされ、ある者は抑圧され、残りの者たちは自らの指導者や代表者たちによって搾取されている！

11. あなたがたの心は、もはやこの地であなたがたを統治する者たちを愛してはいない。なぜなら、あなたがたの信頼は裏切られたからだ。あなたがたは、裁判官たちの正義や寛大さをもはや信頼しておらず、 な約束や言葉、あるいは笑顔をももはや信じてはいない。 あなたがたは、偽善が人々の心を支配し、地上に嘘と虚偽と欺瞞の王国を築き上げたのを目の当たりにしてきたのだ。

12. 貧しい民よ、あなたがたは、耐え難い重荷のように苦難を肩に背負っている――その苦難は、もはや人間が生活に必要なすべてを得ることができたあの祝福された法ではなく、絶望と恐怖に満ちた生存競争へと変貌してしまったのだ。 そして、人々は自らの力と命を犠牲にして、何を得るというのか？中身のない一片のパン、苦味に満ちた杯だけである。

13. まことに、わたしはあなたがたに告げる。これは、あなたがたの喜びと維持のためにわたしが地上に置いた糧ではない。これは、不和と虚栄、非人間的な感情のパンである――要するに、あなたがたの人間生活を支配する者たちの、霊的な成熟の欠如あるいは不在の証拠である。

14. わたしは、あなたがたが互いにパンを奪い合っているのを見る。権力を求める者たちは、他者が何かを所有していることを耐えられない。彼らはすべてを自分たちのものにしたいからだ。強者は弱者のパンを奪い取り、弱者は、強者がそれを食べて楽しむのを見ることしかできない。

15. さて、私はあなた方に問う。この人類の道徳的進歩とは、一体何なのか。彼らの最も高貴な感情の開花は、どこにあるのか。

16. まことに、 言っておくが、人間が洞窟に住み、毛皮を身にまとっていた時代にも、同様に互いに口元の食料を奪い合い、最も強い者たちがやはり大部分を奪い取り、弱者の苦労は、彼らを暴力で服従させた者たちの利益となり、人間も、部族も、民族も、同様に互いに殺し合っていたのだ。

17. では、今日の人類と当時の人類との違いは何にあるのか？

18. そう、あなたがたが「多くの進歩を遂げた」と私に言うだろうことは、私はすでに知っている――あなたがたが、自分たちの文明や科学を私に挙げてくることも知っている。 しかし、それに対し

て私はこう言おう。それらはすべて偽善の仮面に過ぎず、その背後には、あなたがたが魂の成長や私の律法の成就に微塵も努めてこなかったがゆえに、隠されている真の感情や、依然として原始的な本能があるのだ、と。

19. 私は、科学的な研究をしてはならないと言っているのではない――いや、それどころか、探求し、研究し、物質的な生活において知識と知性を高め、増やしていきなさい。しかし、互いに慈悲深くありなさい。隣人の神聖な権利を尊重し、人間に他者の命を処分する権限を与えるような法律など存在しないことを理解しなさい――要するに、人々よ、「互いに愛し合いなさい」という私の至高の戒めを、あなた方の生活に実践するために何かを行いなさい。そうしてこそ、あなた方が陥っている道徳的・精神的な停滞から抜け出し、あなた方の顔を覆っていた嘘のベールが剥がれ落ちたとき、あなた方の光が輝き、誠実さが輝き、あなた方の生活に真実が訪れるのです。そうして初めて、あなたがたは進歩を遂げたと言えるのです。

20. 私の教えに従うことで霊的に強くなりなさい。そうすれば、将来、あなたがたの言葉は常に、慈悲、知恵、そして兄弟愛の真の行いによって裏付けられるようになるでしょう。

21. あなたがたは心の奥底で、もしもはや私の言葉を聞くことができなくなったとしても、戦いに立ち上がり、その戦いに打ち負かされないために必要な霊感と力を持ち続けられるだろうか、と自問していることを私は知っている。

22. あなたがたは、私の言葉を聞くことによって得られる能力や備えを失ってしまうのではないかと、自問しているのです。

23. 私が最後にあなたがたに語りかけるその日を思うとき、あなたがたは優柔不断で不安そうに見える。なぜなら、その時こそ、あなたがたが弟子から師へと変容し始めるべき時が来たことを理解しているからだ。そして、あなたがたは私の言葉なしでは生きていけないと感じているのだ。

24. 私がこれらすべてを語る理由は、もしこれらの啓示がなければ、あなたがたが霊的な闘いを乗り切ることが不可能であると知っていたとしても、私は自分の言葉を撤回することはないからだ。しかし、あなたがたがやがて弟子や生徒のように考えるのではなく、師のように考え始めるために、私のメッセージを終わらせる必要があることを私は知っている。

25. あなたがたは、霊的な喜びや慰めを渇望して、これらの集会所に通うことに人生を費やすべきではないことを理解しなさい。あ

なたがたの霊が、同胞たちの進歩のために私から受けたすべてのことを教えなければならない時が必ず来るということを、理解しなければならない。

26. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたの霊化のためには、私がこの形での啓示を終わらせることが必要である。 わたしのメッセージが終わりを告げれば、あなたがたは、わたしの目に見えない神聖な臨在を感じるために、祈りと恍惚の境地を極めるよう努めることになるでしょう。また、感覚や能力を研ぎ澄ますことにも励むことになるでしょう。

27. しかし、警戒して生きなさい。なぜなら、あなたがたの仲間の中に、私が啓示を終えたことを否定する男女が現れるからである。彼らは多くの論拠を挙げ、「神聖な波動は永遠であり、それゆえ、私がもはや人間の知性を通じて感じられなくなるなどということはあり得ない」と主張するだろう。 しかし、今日、私はあなたがたに告げます。私の霊が人間の中で永遠に響き渡っていることは確かですが、私がこれらの声の媒体を通じて自らを現すという方法は、最も完全なものではないため、永遠に続くことはないという事実もまた真実なのです。なぜなら、私は今、あなたがたを「霊から霊への対話」へと備えさせているからです。

28. あなたがたの間でのこの啓示は、これ以上長く続いてはならない。そうして、あなたがたがこれを伝統や習慣、あるいは儀式にしてしまわないようにするためである。 また、「霊と霊との対話」は、はるか遠い未来の世代にのみ許されるものだと主張する人々の言葉に耳を傾けてはならない。いいえ、弟子たちよ。確かに、あなたがたが*完全*な霊的対話に到達するのは、大きな進化を経てからのこととなるだろう。しかし、それは、私の教えの実践が常に高いレベルへと達していくことによって実現するのだ。

29. 仲介者や言葉、象徴、儀式、あるいは像を必要とすることなく、直接わたしに祈りなさい。それこそが、霊と霊との対話のはじまりとなる。なぜなら、その時には、わたしへの渇望に駆られて、あなたがたの内的かつ高次の存在が昇華するからである。 その時、あなた方の霊的な声が私を呼び求め、私の神聖な声があなた方に答えるのである。あなた方の存在は、私の霊のメッセージをどのように受け取るのか。それは直感と霊感という賜物を通じて、すなわち、繊細かつ霊的な方法によってである。

30. この種のコミュニケーションは、あなたがたが声の媒体を通じて行うものよりも、より完全で、より霊的なものではないでしょうか。それゆえ、私はあなたがたにこうも告げます。あなたがたの

霊的な対話は、あなたがたの準備の度合いに応じてその完全さの程度が異なるでしょう。それは、声の媒体や、彼らの準備を助けた人々の群れの場合と同様です。

31. 精神的な祈りをますます実践し、今この瞬間から神の慈愛と真理を実感できるようにしなさい。この種の祈りを通じて、霊感や直感の開花を求める習慣を身につけなさい。そうすれば、あなたの心の中に、人間の表現や言葉、高潔な感情、善行へと変容しようと奮闘する光の流れを体験することになるでしょう。

32. 霊と霊との対話の始まりである祈りをこのように深めていけば、もはや、神聖なメッセージを に伝えてくれる「声の媒体」を渇望することはなくなるでしょう。 なぜなら、その光を受け取り、伝える準備をするよう他の人に委ねるのではなく、その時には、あなたがた一人ひとりが、父から直接、そして父に対して積み重ねてきた功績に応じて、それを受け取る準備をするようになるからである。

33. 弟子たちよ、この時代にあなたがたが持つあらゆる能力を明らかにしたのは私である。それは、あなたがたが霊界の導きのもとでそれらをますます開花させ、それによって――あなたがたの兄弟である霊的助言者たちの啓示が終わったとき――すでに使命を立派に果たす準備が整っているようにするためである。

34. 今、あなたがたは1950年にあり、私の最後の教えを受け取っている。また、霊界もあなたがたに最後の啓示を与えることになるだろう。そうすれば、この民が、この準備と発展の時期を十分に活用してこなかったことを、あなたがたははっきりと自覚することになるだろう。

35. 私の選ばれた者たちのうち、準備に向けた第一歩さえ踏み出さなかった者がどれほど多いことか！ 彼らが、これほど長い間享受してきたように、もはや師や霊的な兄弟たちの声を聞く機会を失ったとき、一体どうするつもりなのか。

36. 多くの者は、失われた時間を嘆き、自らにこう言い聞かせることになるだろう。「なぜ我々は、父が民に与えてくださったあの祝福された瞬間の真の価値を、十分に理解できなかったのか？ 師の教えと、霊界の助言および導きのもとで、我々の賜物の開花に着手することほど、素晴らしいことはなかったはずではないか？」 しかし、今となっては手遅れとなるだろう。なぜなら、人間の意志では、私の意志によって定められた、この啓示の時代の終わりの日と時刻を変えることはできないからだ。そうして新たな時代が始まり、

それに伴い、より簡素で、より高次で、より霊的な方法で、あなたがたの霊的賜物を開花させる新たな道が開かれるのである。

37. 今の時代を活かすよう努めてきた者たちの心には安らぎが、魂には平安が残るだろう。 しかし、深い眠りから目覚めるために最後の朝の祈りまで待っていた者たちは、この時代を照らしていた私の言葉という太陽が沈むのを、涙を浮かべて見送ることになるだろう。彼らは、その光を利用して霊化の種を蒔き始めることさえできなかったのだ。

38. あの日々を思い出すことは、ある人々にとっては喜びとなる一方で、他の人々にとっては苦痛となるだろう。 後者たちにとっては、彼らの な良心が現実として目覚め、私の新しい言葉が世界にもたらす意義を認識するようになるだろう。これにより、私の著作を学ぶことへの愛が彼らの心の中に芽生え、祈りと書かれた言葉への熟考を通じて、失われた時間を一歩一歩取り戻していくことになる。

39. まことに、あなたがたに告げる。罠が深くはまり込み、霊性への渇望が極めて強くなる者たちすべてにおいて、わたしの助けが完全に現れ、やがて彼らは最も進んだ者たちの仲間入りをすることができるだろう。

40. この時代にわたしを聞いた者すべてが、わたしの言葉について証しを立てたいという必要性を感じる時が来るだろう。なぜなら、世界は水と種を渇望する計り知れないほど広大な野原のように現れるからである。それゆえ、よく考えてみよ。あなたがたは、すでに心の中に、隣人に差し出すべきものを何を持っているのか。 どのようにして、私の真理を証し、私の業の偉大さを示そうとするのか。

41. 人々があなた方に問いかけ、あなた方が私から見て、聞いてきたことについての証拠や証しを求める時が来れば、誰もが自分の持っているものを差し出すことになる。それゆえ、私は今、あなた方に告げる。試練の時が誰をも不意を突かないよう、あらかじめ備えておくほうがよいのだ。 見よ。もしあなたがたが眠っているところを周囲の人々に発見されたなら、あなたがたは慌てふためき、動揺して目を覚ますだろう。そして、あなたがたは事前に準備をしておらず、その慌てふためきが多くの過ちを犯させるため、言葉には不正確さや誤りが混じるだろう。

42. いいえ、愛する民よ、私は、光を求める必要性が、あなたがたを闇に沈んだまま不意に襲うことを望んでいない。それゆえ、将

来、あなたがたが転落することを避けるために、私は完全な明瞭さをもってあなたがたに語りかけるのである。

43. 魂の成長と自己省察にとって、どんな時でも好機となり得ることを、常に心に留めておきなさい。

44. わたしと共に働いたすべての「働き手」たちは、人生の闘いや不運の真っ只中で、まさにそうしてきたのではないだろうか。しかし、わたしは彼らに、周囲のあらゆるものから身を引いて、霊的な働きの瞬間——それが霊においてであれ、地上の肉体においてであれ——に、自らの使命に完全に専念するよう教えたのである。

45. 私からのこの教えを受け入れ、決して忘れることなく、また、これらの兄弟たちからその模範を受け取り、それに励まされてほしい。

46. もしあなたがたが、使命を果たすために平穏な時を待っているのなら、それは誤りである。なぜなら、その な平穏な時は、まさにわが民の働き、闘い、努力、そして犠牲によってもたらされるからである。

47. 実り豊かな畑に種を蒔くことに、いったい何の意味があるだろうか。わたしはあなたがたを「働き人」と呼んだ。なぜなら、種を蒔くことがあなたがたの務めだからである。しかし、まさにわたしがあなたがたに託したその種こそが、あなたがたに待ち望んだ平和をもたらすものであり、つまり、それを収穫するためには、まずそれを蒔かなければならないということである。

48. あなたがたは自分たちを非常に取るに足らない存在だと思っているが、真実を言えば、あなたがたは人類にとって——霊的な意味で——大いに役立つ存在となるだろう。そのためには、今から準備をしておく必要がある。

49. 将来、あなたがたは、霊的癒やしの賜物も、他の国々への御言葉の伝達者としての賜物も、持ち運ぶ必要はなくなる。その時には、すでに私の啓示の時は過ぎ去っているからだ。しかし、あなたがたは、私が私の御言葉を通してあなたがたに授けた、霊感と知恵という宝を、さらに広めていかなければならない。

50. あなたがたの働きにおいては、わたしの業において一致を保ち、真の霊的な家族を形成することが必要となる。しかし、1950年の終わり以降、この形式での啓示はもはや行われないことは、あなたがた全員がすでに知っている。 それでもなお、励ましと慰めとして、私の霊は常にあなたがたと共にあり、あなたがたは自分の内なる存在において、私の臨在をこれまで以上に深く感じるようになることを、私は保証する。

51. 私はあなたがたの思いの中に現れ、あなたがたの集まりを喜び、あなたがたの心と霊の中に感じられる存在となり、さまざまな形で慈悲を注ぎ、それによってあなたがたの信仰と霊性を報い、励ましていく。

52. このようにして私の御心を行う者は皆、私の言葉の忠実な証人となり、私の指示に従うその熱意と従順さが、その者が霊的な神殿を築き上げるための堅固な土台となる。これらの人々が、私の教えを地上に広める私の弟子たちとなる。 しかし、1950年以降も、私がこの形で引き続き啓示を与え続けると主張する者がいるならば、彼らは欺く者となり、その証言は偽りとなる。なぜなら、私の最後の啓示の日として予告され、定められた日を、私の弟子たちのうち誰一人として知らない者はいないからである。

53. 私はこの民に、知恵であり、魂のあらゆる能力の開花である霊的な光を蓄えるための十分な時間を与えてきた。それは、私が去った後も、彼らがこの世に師として残れるようにするためである。

54. 今すぐ、人類の他の民族と霊的なつながりを築きなさい。そうして、 、私の言葉の使者とならなければならない者たちの道を、徐々に整えていくのだ。祈りを通じて、私が今まさにあなた方に授けているその霊的なつながりを築くことができるだろう。

55. さて、私が本日の教えの中で今まさに与えたこの助言に従うならば、ある特定の民族や国家のために祈ったその瞬間、あなたがたが祈ったその人々が、誰かが彼らのことを思い、彼らのために祈っていたことを感じたか、あるいは気づかなかったかなどとは、気にする必要はない。 また、彼らからの返答を同じ形で期待してはなりません。人々が思考を通じて意思疎通を図るようになれば、その日にはすでに「霊と霊との対話」の時代へと大きな一歩を踏み出していることになるでしょう。しかし、今この瞬間、あなたがたは、兄弟愛、愛、相互理解、そして霊的な親密さという目に見えない糸を張り巡らせ始めたばかりなのです。

56. すべては時が来れば成就する。なぜなら、たとえ人々がそれを疑ったとしても、またその予告が成就するずっと前に明らかにされていたとしても、預言されたことには常に深い理由があったからである。

57. あなたがたは、過去の預言の大部分がすでに成就していることをすでに目の当たりにしている。私が今、あなたがたに告げ、約束したことも、同様に成就することを信じてほしい。真理は勝利し、私の御心は成就し、光は輝きを放つだろう。

58. あなたがたの世界で、目に見えない力が日々どのように現れているかを悟りなさい。人々の間に裁きの時の到来を感じ取りなさい。今、すべてが最終決戦に向けて準備を進めている様子を見なさい。その決戦において、善と真理に敵対するあらゆる人間の情欲は打ち負かされ、滅び去り、新たな感情と新たな理想のための場所が切り開かれるのです。

59. わが正義の鎌が、あなたがたの畑を刈り取るであろう。そして、私は真理と御霊において、善の深い根を持たないものはすべて刈り取られ、余分なものはすべて取り除かれることを、あなたがたに告げる。

60. 悪が善の開花を妨げる時代は過ぎ去る。そして、人間の肉体に魂が宿る限り、この闘いは常に存在し続けるものの、その時には善が優勢となり、決定的な役割を果たすようになる。

61. 私があなたがたに告げているあの光の世界に属するため、功徳を積みなさい。明日に良い実を結ぶ種を、今から蒔いておきなさい。 、その実を収穫し、味わうことができるのがもはやあなたたちではない、などと考えてはならない。心からあらゆる利己心を追い払い、血のつながりによるあなたたちの子供たち、あるいは精神的な兄弟姉妹たちが、先駆者と呼び、祈りの中で祝福する年上の兄弟姉妹たちの収穫を刈り入れることになるのだということを心に留めておきなさい。

62. 人々は過ぎ去った時代、古代、長い世紀、そして果てしなく長い時代について語るが、私は依然としてあなたがたを幼い存在として見ている。あなたがたの魂は、ほとんど成熟していないと私は見ている。あなたがたには成熟に達したかのように見えても、私の目には、あなたがたの世界は依然として幼年期にあるのだ。

63. いいえ、人類よ、あなたがたの人生の様々な分野において、成熟、向上、完成、そして進歩の証拠を示すのが魂でない限り、あなたがたは必然的に、一見偉大に見えるが、愛の欠如ゆえに道徳的な実質を欠き、永続性のない人間の業を私に提示することになるだろう。

64. もし私が今この瞬間に、あなたがたに説明を求めるとしたら、あなたがたが私に捧げるその実を、私が受け入れることができると思うか？　いいえ、人類よ、誰も私にふさわしい実――すなわち、人間同士の愛、調和、私への信仰、そして善の実践によって高められし人生の証となるようなもの――を私に捧げることはできないのだ。

65. 私は、あるものは受け入れ、あるものは受け入れないなどとはしない。あなたがたが調和の果実を私に捧げるその時を待ち続ける。これこそが、地上のあなたがたに対する償いとなるのだ。

66. あなたがたは、わたしを愛していると言うのか？ あなたがたは、真理と正義を愛していると主張するのか？ それなら、あなたがたに言っておく。もしあなたがた全員が真理と正義を愛しているのなら、社会階級や信仰、人種、慣習によって分断されたような生き方など、決してしないはずだ。

67. もしあなたがたが真理と正義を愛しているのなら、互いに愛し合い、障壁を打ち壊し、距離を縮め、違いをなくすよう努めるはずだ。

68. あなたがたはそうしてきたか。そうではないことは、あなたがたもよく知っているはずだ。それどころか、あなたがたは、こうした違いが存続し、強い者と弱い者、富める者と貧しい者、権力者と惨めな者、教養ある者と無知な者が存在し続けるよう尽力してきた。そして、私はこの悪しき種を至る所で見出している。

69. 嫉妬や虚栄心、卑しい情欲にまみれたままのあなた方を、私がそのように迎え入れることを望むのか？

70. 私が人間としてあなたがたの中に現れ、律法の全内容は「神への愛」と「隣人への愛」という二つの至高の戒めから成ることを説明したあの時、あなたがたは、私がこの世にやって来た真意をどれほど理解していなかったことか。なぜなら、これこそが生命の本質であり、神の家族を結びつける神聖な絆だからである！

71. あなたがたは、自らの力と知識の頂点に立っていると信じている一方で、いかに誤った生き方をしているか、気づいているだろうか。もし私が語ったことにまだ確信が持てないのなら、私に答えてほしい。あなたがたが科学によって生み出すすべてのものは、隣人の幸福のため、彼らの問題の解決のため、そして彼らの福祉のためにあるのか？ あなたがたは「はい」と答えることはできないだろう。そうすれば嘘をつくことになるからだ。また、「より良い世界を築くために雑草を根絶しなければならない」と私に言うこともできないだろう。なぜなら、私の律法は、人間に隣人の命を処分する権限を決して与えていないからだ。

72. 果たして、今この瞬間、あなた方の科学を駆り立てているのは愛なのでしょうか？ あなたがたが現在準備しているすべてのことは、憎しみや権力への欲望を満たすためではないのか？　それゆえ、それをあなたがたの良心の裁きに委ねてみよ。そうすれば、この時代の人間の行いのほとんどは、精神的な進歩の証ではなく、かつ

て私が言葉と生涯をもってあなたがたに教えたすべてのものの否定に他ならない、と良心が告げるのを体験することになるだろう。

73. わたしはあなたがたの父であり、このようにあなたがたに語りかける必要がある。わたしはあなたがたを欺くことはできないし、あなたがたが欺かれた者として生きることを望んでもいない。わたしはあなたがたにこのメッセージを送り、すべての人に届けさせる。 しかし、もしあなたがたが、その言葉が単純であり、またそれを伝える者たちも取るに足らない存在であるという理由で、これを信じないならば、事実や試練、そして出来事があなたがたを不意に襲うことになるでしょう。その時、あなたがたはこのメッセージが真実であったことを理解するでしょうが、それを時機を逃して聞き入れようとも、受け入れようともしなかったのです。 また、ノアの時代と同様に、人々は預言を嘲笑するでしょう。そして、大洪水がすでに自分たちの体を飲み込みつつあると実感して初めて、彼らは信じ始め、悔い改め始めるのです。

74. わたしの憐れみは、あなたがたが軽率な行いに走るたびに、常にそれを食い止めようとしたが、あなたがたは決してわたしの言葉に耳を傾けようとしなかった。ソドムとゴモラもまた、恐れと悔い改めを感じ、 な破滅を免れるよう警告された。しかし、彼らはわたしの声に耳を傾けようとはせず、滅びてしまった。

75. エルサレムに対しても、私は祈り、真の神への礼拝に立ち返るよう促した。しかし、その不信仰で肉欲に満ちた心は、私の父なる者としての戒めを拒み、出来事を通じて真理を悟らざるを得なかった。あの日々は、エルサレムにとってなんと苦いものであったことか！

76. さて、あなたがたは、今もなおかつてと変わらぬままであるという真実を、今や悟っただろうか。なぜなら、あなたがたは、成長し、わたしの言葉に宿る知恵の道を歩んで高みへと登るために、霊的な幼さから抜け出そうとはしなかったからだ。

77. わたしは、諸民族と諸国々にとって、目覚めと警戒を促す預言となるべきこのメッセージを、あなたがたすべてに送る。その内容を信じるなら、あなたがたは幸いである。その真意について深く考えよ。しかし、それに従って警戒し、祈り続けよ。なぜなら、そう行動するならば、内なる光があなたがたを導き、より高い力があなたがたを守り、あなたがたが救われるまで支えてくれるからである。

78. 今日、あなたがたは、私が「精神に病んだ」人々を、すべての知恵の源である真理の癒しの香油をもって癒していることの証人となっている。

79. あなたがたには、人間生活について得たあらゆる知見を、霊的生活に関する知識と結びつけることが、まだ欠けている。なぜなら、あなたがたが自らの起源、使命、そして最終的な目標について確信を持たない限り、自分自身を認識することも、自分が何者であるかを知ることもできないからだ。

80. 人間の世界においては、あなたがたは自分がいつ生まれたかを知っており、また、誰かが亡くなればその遺体を埋葬しなければならないことも知っている。 しかし、あなたの霊魂が私の懐から飛び出した瞬間、それがどのようにして生まれたのか、どのようにして肉体に宿るのか、そして、それが生まれた懐へとどのようにして帰っていくのかを知っている者はいるだろうか。 人々は、真実のすべてを明らかにすることなく、わずかながらもそれを予感してきたに過ぎない。なぜなら、人間は自らの力だけでは、決して生命の神秘に踏み込むことはできないからである。

81. 秘密に包まれたままのものに対して、精神的な動揺や疑問、不満が渦巻くこの時代に、再び人々に近づいているのは、他ならぬあなた方の師、私である。

82. 私は真理を明らかにし、人々の精神的な不安を鎮める。 私は彼らの問いに答え、真実を見出せないことに対する彼らの不安を取り除きます。また、私が彼らに近づくのは、彼らが で謎に包まれていると見なしていることの多くは、準備と清らかさの欠如ゆえに解明できなかったものであり、しかし、その核心を知ることができるようにと、私が許したものであることを伝えるためでもあります。

83. わたしは、わたしの光をもって秘密を解き明かし、人間の知性の曇りを取り除くために再びこの世に戻ると約束した。それゆえ、今こそわたしの再臨にふさわしい時である。この時、わたしの霊は再び『知恵の書』を開き、人々がその中に、知るべきこと、すなわちわたしによって与えられているすべてのものを見出せるようにするのだ。

84. この民全体が、なぜ私がこの時代に、人々に自らを現すために霊的な形を選んだのかと私に尋ねてきた。彼らにとっては、それはあまりにも高次であり、理解し、感じ取るのが難しい形であるからだ。

85. 今日の人々が私にこう言うのは、私が過去に受肉し、人間として、目に見え、触れられる存在となったことを彼らが知っている

からだと、私は知っている。 しかし、この民は、私が人間としてこの世に生まれる前から、すでに霊的な形で人々に現れており、人々は私の声を聞き、私を信じていたにもかかわらず、私を見るためにこの世に降りてくるよう決して求めてこなかったという事実について、考えていなかった。

86. 私が人間の姿をとったのは、神の律法における成就とはどのようなものかを、完全かつ生きた模範として示すことが絶対に必要だったからであり、それを行うのに私以外にふさわしい者はいなかったからだ――律法を定めた私こそが、教えに形を与えた言葉と行いによって、その律法をあなたたちに伝えなければならなかったのだ。

87. もし私が、あなたがたの中に住むために人間の姿を選ぶ代わりに、天使の姿をとっていたならば、人々は自分たちが取るに足らず、私の足跡に従う能力がないと感じ、私の言葉を人間には実現不可能なものだと見なしただろう。また、その一方で、あなたがたは、私があなたがたへの愛から犠牲を払ったとは信じなかっただろう。

88. もし私が、人間より上位の存在の姿を選ぶ代わりに、鳥や植物の姿をとったり、あるいは人間より下位の多くの被造物のいずれかに身を隠したりしていたならば、あなた方はその顕現を完全なものとは見なさず、神の啓示の媒体として選ばれなかったことを恥じていたであろう。

89. 今、私はあなたがたに告げる。私が自らを現すために用いるあらゆる形は正しく、完全である。そして、もしあなたがたが、私が自然のあらゆる領域において存在し、顕現し、触れられる存在であることを に自覚していなかったとすれば、その理由は、あなたがたが神の言葉を学ぶことに興味を持っていなかったからである。

90. 時代は過ぎ去り、その時間は部分的にしか活用されなかった。それゆえ、私は今、失われた時間を取り戻すための方法を示すために、あなたがたに近づいているのである。

91. ここに、あなたがたの師がいます。私は、第二の時代にイエスとして人間となり、心から心へとあなたがたに語りかけたこと、そして今、あなたがたが私と霊から霊へと対話を交わせるように準備を進めていることを、ここに思い出させておきます。 また、私は、私の力、私の知恵、そして私の正義が表れている自然の要素を観察するよう、あなた方に教えている。そして最後に、弟子たちよ、私はあなた方に霊的な言葉を教えた。それは、絶えずあなた方に語

りかけ、あなた方を教え、導いている私の声を聞き取り、理解できるようにするためである。

92. この教えこそが、人間に霊化をもたらすものであり、それによって人は一歩一歩、段階を踏みながら、霊的な知恵へと昇華するために必要な霊性を授けるものであり、そこで人は自らの起源、本質、存在意義を発見するでしょう。そうすれば、私への愛は極めて大きくなり、人生全体、そして存在するすべてのもの、周囲のすべてを祝福するようになるでしょう。なぜなら、人はあらゆるものの中に、天の父の臨在を見、聞き、感じるようになるからです。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 326

1. あなたがたは私の言葉を聞き始め、その目は尽きることのない涙の泉となる。 なぜ泣くのか、民よ。その理由を常に知っているわけではない。時には、人生の闘いが過酷だったからであり、時には、不運、失望、失敗、病気、あるいは死別といった苦難によって、人生があなたたちを打ちのめしたからである。しかし、そうした理由が何一つないにもかかわらず、あなたがたがわたしを聞くとき、多くの涙を流すこともある。

2. 私は、明らかな理由のないこの涙の理由を知っている。その源も知っている。泣いているのはあなた方の魂であり、それは肉体を通じて涙という形でそれを表しているのだ。 一粒一粒の涙には、そこに込められた優しさ、閉じ込められていると感じる痛み、犯した過ちへの後悔、弱くなってしまったことへの苦しみ、無駄にした時間への悲しみといった宝が詰まっているのです。

3. 物質的な自然界は、これらすべてについて何を知っているというのか。それゆえ、あなたがたはしばしば、理由もなく泣いているのだと信じてきたのである。

4. あなたがたは、私の前で泣くことが過ちなのかと私に問う。まことに、私はあなたがたに告げる。痛みを和らげたり、至高の喜びを表現したりしたいというこの欲求を感じない者は、胸の中に心ではなく石を抱えているのだ。なぜなら、その者は私の存在をまったく感じ取っていないからである。

5. 泣け、愛する民よ。泣くこともまた、私が人間に授けた手段の一つであり、自らを清め、重くのしかかる重荷から解放されるためのものである。泣いた後、いかに自由で、軽やかで、清らかな気持ちになり、日々の務めを再開できるか、よく見てみよ。

6. あなたがたの魂は、その魂に定められた使命を果たすにふさわしい者となるために、この浄化を必要としている。そして、時を経て魂の中に蓄積されてきた重荷を振り払わなければならない。なぜなら、新たな戦いが魂を待っているからだ――その戦いは、いかなる疲労も感じることなく、魂が始めなければならないのである。

7. そう、弟子たちよ！内省する瞬間に流れる涙は、心からの感動の証であり、その一滴一滴は、あなたがたの言語で最も美しく表現力豊かな言葉千語よりも雄弁である。しかし、すべての人が、魂の涙や悔恨、あるいは喜びを涙によって表すわけではない。 私の子供たちの多くは、その感情を内面に秘め、表に出さず、私だけがそれを知っています。彼らは無感情あるいは無関心に見えるかもしれま

せんが、その心は、感情を露わにする人々と同じくらい、あるいはそれ以上に繊細なのです。

8. もしあなたがた全員が、一度霊性を理解し、それを実践するようになれば、周囲の人々に対して に感情をさらけ出すことなく、魂の感情をコントロールできるようになるでしょう。なぜなら、あなたがたが告白し、悔い改め、清めなければならないお方が、あなたがたの父であり、あなたがたはそのお方を自らの内面に宿すことになるからです。

9. まず第一に、愛する弟子たちよ、重要なのは、あなたがたの心が、自らの内なる魂の振動を感じ始め、苦しみの杯が唇に届く時にそれを受け入れるために、自らを清める必要性を理解することである。 また、感情を内面の核心に秘めて感じることは、それを外側に表現することと同様に、魂にとって有益であるということだ。

10. 世界全体があなた方を待ち望み、人類があなた方を待っています。それゆえ、あなた方は自らの浄化を追求すべきです。そうすれば、この霊的なメッセージの伝道者として道を歩み始めたとき、あなた方の心の中で美徳と悪徳が混ざり合うことがなくなり、その結果、自分自身によって絶えず欺かれていると気づくこともなくなるでしょう。 あなたがたは誠実でありたいと願うでしょうが、偽善が姿を現して、あなたがたを欺こうとするでしょう。あなたがたは慈善を行いたいと願うでしょうが、心の利己心がそれを妨げるでしょう。それゆえ、私はあなたがたに告げます。この霊的な使命を担うにふさわしい者となるためには、あなたがたの浄化は真のものでなければならないのです。 しかし、この内なる浄化を、自己省察、経験、内省、そして私の教えに従うことによって、熟した果実のように永続的かつ真実なものにするために、あなたの良心以外に頼るものは何もないのだ。

11. あなたがたが、この時代に私があなたがたに啓示したことを周囲の人々に語り、彼らが静かに涙を流す姿――それは単なる「肉体」の涙ではなく、優しさに渇きを求める魂の涙でもある――を目にしたとき、あなたがたの心が味わうであろう幸福を、想像できるだろうか。

12. 祈りによってあらかじめ整えられ、私の慈悲に導かれたあなたがたの唇から、私の言葉が語られるたびに、私の本質は生き生きと息づき、私の言葉は人々の心を深く動かすものとなる。それゆえ、私はあなたがたに告げる。その言葉は、あなたがたの口を通して、かつて声の伝達者たちを通じて伝えられたとき、聞き手の心に及ぼしたのと同じ効果を生み出すであろう。

13. 弟子たちよ。私がこの時代にあなたがたに与えた言葉は、新しい宗教の基礎として用いてはならない。それは、私が太古の昔からあなたがたに啓示してきた律法の解説にすぎないからである。

14. 考えてみてください。もしそれが宗教であるならば、それはそれを信奉する者たちのみを対象とするものでしょう。しかし、それは 、すなわち神の無限の光であるため、すべての人々に降り注ぎ、すべての人々の元へと降りてきて、民族、人種、言語、あるいは信仰の信念を問わず、人類の道を照らし出すのです。

15. わが法は、すべての者が主を礼拝するために必ず訪れなければならない祭壇である。人が存在するところならどこでも、その魂の高みには祭壇があり、捧げ物と愛の贈り物を待ち受けている。

16. 弟子たちよ、よく理解せよ。私があなた方に理解させたいのは、この教えを受ける者は皆、霊的にすべての人と結ばれ、一つとなるべきである、ということだ。様々な礼拝形式の表層的な違いが、あなた方が隣人を私における兄弟姉妹として認識し、愛することを妨げる障害となってはならない。

17. あなたがたが一度このように感じるようになれば、私の教えを自らのものとし、近づきつつある厳しい試練の日々においても、あなたがたの賜物を分かち合い、誰一人として仲間外れにすることなく、皆と分かち合うことができるようになるだろう。

18. 私は人々に、慣習や地上の法律、あるいは科学的な知識の画一化を求めているわけではない。何しろ、最終的には、合意によって諸民族が団結する日が来るのだから。 私があなた方に促しているのは、霊的な調和、すなわち思考の一致であり、全人類が霊的な祈りを知り、実践するようになることです。その祈りによって、あなた方は皆、内面的に高揚し、私の霊から直接、永遠の命のパンを受け取ることができるのです。

19. 地上には多くの宗教団体があり、その大半はキリストへの信仰に基づいている。それにもかかわらず、彼らは互いに愛し合っておらず、また、互いを神の師の弟子として認め合ってもいない。

20. もし彼らが皆、私の教えを理解していたならば、各宗派を和解と平和へと導くことで、その教えを実践していたはずだと、あなた方は思わないか。しかし、そうはならなかった。彼らは皆、互いに距離を置いて振る舞い、それによって人々を霊的に分断し、対立させ、その結果、人々は互いを敵や見知らぬ者だと見なすようになったのである。 誰もが、自分が真理の所有者であり、他者が誤っていることを証明するために、手段や論拠を探している。しかし、すべての者の団結のために戦う力と勇気を持つ者は誰もおらず、また

、あらゆる信仰の信念や神への崇拝の中に、何らかの真理が含まれていることを見出す善意を持つ者もいない。

21. 私は、世界が精神性を高めることを期待している。私にとって、各教会や宗派を区別する名称は、いかなる意味も持たない。また、その儀式や外的な礼拝形式の華やかさの程度も、私にとっては何の意味もない。それらは人間の感覚には届くかもしれないが、私の精神には届かないのだ。

22. 私は人々に霊性化を期待している。なぜなら、それは人生の向上、完全への理想、善への愛、真理への傾倒、愛の実践、自己との調和を意味し、それは他者との調和であり、ひいては神との調和だからである。

23. わたしは今、明日、わたしの種が芽吹き、実を結ぶことになる畑を準備するための雨を降らせている。今日、悪が人類の心の奥深くに根を下ろしていることを考えれば、この世界が物質的にも精神的にも変容することは、まだ不可能に思えるかもしれない。しかし、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたが、それぞれの民族の精神的な変容の始まりを目撃するまで、そう長くはかからないだろう。

24. かつて、異教的で罪深く、肉欲に溺れたローマ――そこでは生活が、悪徳と快楽、罪と犯罪の絶え間ない乱交の宴であった――において、他のどの民族よりも早く、愛の言葉、すなわちキリストへの信仰が燃え上がるなど、誰が信じただろうか。それにもかかわらず、それは実際に起こったのだ。

25. ローマは、その心にわたしの言葉の種を受け入れるに至るために、まず多くの罪を犯し、疲れ果てて嫌悪感に苛まれるまで至らなければならなかった。 しかし、私の言葉が彼らに届いたとき、快楽に疲れ果て、失望と苦痛によって引き裂かれたその心は、私のメッセージの本質に触れるやいなや、まるでしおれた花の萼が、それを優しく撫でる湿ったそよ風が吹き下ろしてきたかのように、開いた。

26. その民の心は力強く鼓動し、その魂は深く揺さぶられた。私の呼びかけに応えるという彼らの信仰と勇気のおかげで、彼らの罪は赦された。

27. その民は、自らの心を照らし始めた信仰と真理への愛を強めるために、勇気と犠牲の精神を必要としていた。しかし、彼らは大人であれ、若者であれ、子供であれ、皆、気概に満ちた男女であった。

28. 弟子たちよ、理解できるか？　それでは、虚栄と悪徳、そして世への愛に支配されていたあの時代と、今日の人類とを比べてみよ。そうすれば、彼らもまた——虚栄に嫌気がさし、罪を犯すことにうんざりし、罪に病み疲れている—— ますます、その な魂が、彼らを目覚めさせる神聖なそよ風の息吹に驚かされる日に近づいていることに気づくだろう——それは露に先立つそよ風であり、彼らを苦しめる魂の渇きを癒やし、後に霊化の種がすべての心に降り注ぐための準備となるものである。

29. あなたがたは、なぜ私が霊的な生活を完全な明瞭さをもって示さなかったのか、心の中で何度私に尋ねたことか。しかし、私はあなたがたに言う。もしあなたがたが、その生活を肉体の感覚で触れて感じることができたなら、いかなる霊化も得るために、ほんのわずかな努力さえも決してしなかっただろう。 決して、あなたがたは霊的な賜物や能力を開花させることもなければ、わたしの啓示に値する功徳を積もうと努力することもないだろう。

30. あなた方と霊的な谷との間には、その聖域の清らかさを冒涜することを誰にも許さないベールがあり、畏敬と謙虚さ、誠実さと高潔な目的、そして愛と真の信仰に身を包んだ者だけが、その敷居を跨ぐことを許されるのである。

31. 私が「真の信仰」と言うのは、虚偽のものにインスピレーションを受けた、見せかけの信仰が存在するからだ。それは、偽りであるゆえに、真理を知った途端に消え去り、色あせてしまうものである。

32. 霊的な生活を信じられるようにと、それを想像しようとした人々は数多くいる。「偉大な」人も「卑しい」人も、無知な人も教養のある人も、皆、「天国」がどのようなものか、神はどのような存在か、霊的存在はどのような姿をしているか、あの世界での光や存在とはどのようなものかを知りたがってきた。 そして彼らは、星々の彼方に美しい楽園、荘厳な宮殿、玉座を想像し、その玉座には人間の姿をした神が座っていると想像した。

また、霊的存在たちにも人間の姿を与え、ある場所から別の場所へと移動するために、鳥のように飛んでいると想像してきました。人々はこれらすべてを、光に満ちたものとして捉えています——それは、地上にある光に似たもので、すべてが黄金のように輝き、物質世界で知る最も美しいもので飾られています。天上の歌声と神聖な音楽が空間を満たし、数百万の存在が永遠に主を礼拝し、常に御座の前にひざまずき、主を賛美し、香を捧げているのです。

33. このように、多くの人々の想像の中では、霊的な生活は捉えられている。そして、いったんそのイメージを心の中に作り上げてしまうと、彼らはそれが事実であり、そうあるべきだと信じ込み、その信念に固執するようになったのである。

34. 彼らがこの教えを知り、自分たちが想像していたことが現実とは異なることを知ったとき、彼らには何が起こるだろうか。ある者たちは、自らの物質主義によって生み出された誤りを認識し、直ちに真理の光に目を向けるだろう。他の者たちは混乱し、私の啓示の真理を否定するだろう。

35. ただ一つ言っておくが、あなたがたは、霊的な生活について心に描いてきたあらゆるイメージを、自分の心から一掃しなければならない。なぜなら、神は人間の姿をとっておらず、地上の王たちのように玉座に座っているわけでもなく、天は星々の彼方にあるわけでもなく、その光が太陽のようなものでもないし、魂が人間の姿をしているわけでもないからだ。 すべては、あなたがたが想像していたものとは異なる――その違いは、たとえ私が霊的な生活が実際にどのようなものであるかを説明したとしても、あなたがたには理解できないほどである。なぜなら、あなたがたの言葉そのものが、永遠なるものの真実、無限の栄光、美しさ、そして完全さを表現することなどできないからである。

36. 良心がどのような形や大きさをしているか、私に教えてくれるだろうか。愛や知性がどのような形をしているか、私に教えてくれるだろうか。「いいえ、師よ」と、君たちは私に言うだろう。つまり、良心も、知性も、愛も形を持たないのと同様に、地上の事物を霊的な生活の事物と比較することなどできないのだ。 それにもかかわらず、光の魂の特性ほど美しいものはありません。それは能力と美徳の結合であり、存在するために形を必要としないのです。

37. 神には形がありません。もし形があったとしたら、神は人間のように有限な存在となってしまい、そうなれば神ではなくなってしまうからです。神の「玉座」とは、完全性、正義、愛、知恵、創造力、そして永遠そのものです。

38. 「天国」とは、魂が完全なる境地へと至る道程において、知恵と愛によってこれほどまでに高みへと昇り、もはやいかなる罪も苦痛も及ばないほどの純潔の境地に達したときに、魂が到達する至高の至福である。

39. わたしの預言者たちが霊的な生活について語る際、時には人間の姿や、あなたがたに馴染みのある物を通じてそれを表現することがあった。

40. 預言者たちは、地上の王たちの玉座に似たもの――書物、人間の姿をした存在、壁掛けのある宮殿、燭台、子羊、そしてその他多くの姿――を見ました。 しかし今日、あなたがたは、これらすべてが単なる比喩、象徴であり、神聖な意味、啓示を包み込んでいたことを理解しなければならない。あなたがたは、それとは異なる、より高次のものを理解することができなかったため、それらは比喩的な 形で表現されなければならなかったのだ。

41. 今こそ、私が比喩を用いてあなたがたに啓示したすべてのたとえ話や教えの真意を正しく解釈し、その意味があなたがたの精神に深く浸透し、比喩的な形が消え去る時が来た。

42. あなたがたがこの認識に至るとき、その信仰は真実なものとなる。なぜなら、その信仰は真実に基づいているからである。

43. 人よ、私は私の言葉によって、あなたがたが今生きている世界よりも優れた世界を預言する。それは、あなたがたの心が、私が十字架上で流した血によってその不純さを洗い流した時である。その血は、神の愛、至高の赦し、そしてすべての人類の贖いの体現であったのだ。

44. あなたがた――不信仰者や疑い深い者たち――は、正義に満ちた世界を信じることができず、また、この地上に愛と徳に満ちた生活があることさえ想像できない。一言で言えば、あなたがたは自分たちに良いことを成し遂げる能力があるとは考えておらず、自分自身への信仰も持っていないのだ。

45. しかし、私はあなた方を信じている。私の子供たち一人ひとりの内に宿る一粒の種を知っている。なぜなら、私が彼らを創造し、私の愛によって彼らに命を与えたからである。

46. *私は*確かに人間に希望を託しており、その救い、尊厳の獲得、そして高みへの昇華を信じている。 なぜなら、私が人間を創造したとき、この地上において主となるよう定め、そこに愛と平和の場を作り出すよう命じたからである。また、私は、人間の魂が人生の闘いの中で強くなり、その功績によって、あなたがたに永遠の遺産として与えられている完全なる御国の光の中で生きるにふさわしい者となるよう、定めもしたのだ。

47. あなたがたが「涙の谷」あるいは「追放の地」と呼ぶこの地球は、私が無限の愛をもって、そこに住むこととなる子供たちに捧げるために整えたものである。その上にあるすべてのものは、それを所有する者たちのために、生命と豊かさ、祝福と歓喜に満ち溢れていた。 この地上には、人間に苦痛を与えるために創造されたものは何一つなかった――それどころか、人類が自らの過ちによって自

らに害を及ぼしたとしても、その道のりにおいて、また至る所で、自らの苦しみを癒やし、不運に打ち勝つために必要な手段を自ら見出せるよう、すべてが整えられていたのだ。

48. 地球上の人類にとって、何世紀もの歳月が過ぎ去ったが、それでもなお、人類はこの地球上で幸せになることはできなかった。なぜだろうか？　それは単に、人類が、私の律法、すなわち「（愛と正義、調和と誠実の律法）」が示す真の道を歩まずに、その幸福を見つけようとしたからに他ならない。

49. 皆さんは、天国にふさわしい者となるためには、この地上で苦しむことがどうしても必要だとでも思っているのですか？いいえ、人類よ、苦しむことによって得られるのは、*ある種の*浄化にすぎません。なぜなら、魂の真の、そして絶対的な浄化は、わたしの律法があなた方に吹き込む愛によってのみ得られるものだからです。

50. 地上で多くの苦しみを味わった人々が、その理由から天国へ行きたいという願いを抱いて生きることに、いったいどのような功徳があるというのでしょうか？ 世がもはや彼らに何も提供できないと悟ったとき、彼らが霊的な生活を思い浮かべるのはごく自然なことです。 真の功徳とは、この世であらゆるものを手に入れているにもかかわらず、いつでも自分の所有物や安楽を喜んで手放そうとする者のそれである。 なぜなら、そうすることで、その人は真に高い霊的発展段階にあることを証明し、天国や至福とは、時代を超えて人々の想像力によって作り出された特定の場所ではなく、人間としての生涯においてすでに体験し、味わい、享受し始めることのできる魂の状態であることを証しすることになるからです—— それは、魂が地上の世界から霊的生活の頂点へと至る階段を登っていくにつれて、ますます純粋で完全なものとなっていく状態である。

51. もし、あなたがたの運命がこれほど高尚であることを知らなかったならば、私はこのようにあなたがたに語りかけることはなかっただろう。また、あなたがたが私の律法によって決して救われることがないことを知っていたならば、私はその律法をあなたがたに送ることも、あなたがたのために私の命を捧げることもなかっただろう。

52. 私が三つの時代を通じて人々に自らを現す道を探求したのは、ただ一つ、あなたがたが時代の終わりに、情欲や肉欲、そして人間の苦難を超越し、高貴な霊感に満ち、魂の成熟を明らかにする行いに満ちた高潔な人生を送ることを知っていたからに他ならない。

53. もし人々がそのような生き方をするようになったら、彼らはなおも正義への渇望や飢えを感じるだろうか。あるいは、この世で

彼らを導き、裁き、その行いを罰する裁判官や統治者を、なおも必要とするだろうか。互いに善意が支配し、兄弟愛と正義が存在する世界において、もはや戦争や悲惨、苦痛などあり得るだろうか。 いいえ、人類よ。その時には、この地球が、あなた方に温もりと生命、糧と安寧、知恵と 至福をもたらしてくれることを体験することになるでしょう――その至福は、最高度のものとはいえないかもしれませんが――最高度の至福は、完全性の頂点に達して初めて知ることになるものだからです――それでもなお、真理にとどまろうと奮闘する者たちにふさわしい報いとなる幸福なのです。

54. それゆえ、あなたがたは皆、その喜びと平和に満ちた人生へと向かっているのだ。あなたがたの心が予感しているような、深淵や「死」へと向かっているのではない。確かに、あなたがたが霊性へと至る時が来るまでには、まだ多くの苦難を経験しなければならないだろう。 しかし、死も、戦争も、疫病も、飢餓も、この人類の生命の歩みや魂の成長を止めることはできない。私は死よりも強い。それゆえ、もしあなたがたが命を落とすことになっても、私はあなたがたを再び生へと還し、必要な時にはいつでも、あなたがたを地球へと帰らせるだろう。愛する人類よ、私はまだあなたに多くのことを明らかにしなければならない。私の『神聖な知恵の書』には、まだ多くの驚きが待ち受けているのだ。

55. 自然は、まだあなた方のために多くの教えを用意しており、地球は、その懐に秘めているすべてのものを、まだあなた方に与えてはいない。

56. あなたがたは脆い肉体であり、痛みに対して敏感であり、弱く、小さい。それゆえ、私はあなたがたに憐れみを抱く。

57. 魂が物質界に留まっている間、その闘いは非常に厳しいものであるが、まさにそこが、魂が功徳を積み、鍛えられ、試される場所なのである。

58. わたしの神聖な教えは、霊のためだけのものではない――いや、それは人間の心にも届くものでなければならない。そうして初めて、霊的な側面と肉体的な側面の両方が調和するのだ。

59. 神の言葉は、知性を啓発し、人の心を感受性豊かなものにするためにある。そして、その言葉に含まれる生命のエッセンスは、魂を養い、高揚させるためにある。

60. 人間の生活が完全なものとなるためには、物質的な糧を得るために働き、苦労するのと同様に、霊的な糧が不可欠である。

61. 「人はパンだけで生きるものではない」と、私は第二の時代にあなたがたに語った。私の言葉は今もなお有効である。なぜなら

、人々が霊的な糧を欠くことになれば、この地上において、病気、苦痛、闇、不幸、悲惨、そして死に襲われることになるからだ。

62. 唯物論者たちは、人間はすでに地球と自然が与えるものだけで生きており、彼らを養い、 人生の旅路において彼らを強めるような霊的なものを求める必要はない、と反論するかもしれない。しかし、私はあなたがたに言わなければならない。それは完全で充実した人生ではなく、霊性という本質的なものが欠けている存在に過ぎないのだ。

63. 精神化とは、偽善を意味するものではなく、いかなる儀式の実践をも前提とするものでもなく、また、外的な崇拝の形式でもありません。

64. 霊化とは、人間が持つあらゆる能力――人間的な部分に属するものも、肉体の感覚を超えた、魂の力、性質、能力、感覚に属するものも――を花開かせることを意味する。

65. 霊化とは、人間が持つあらゆる賜物を正しく、善く活用することである。

66. 霊化とは、あなた方を囲むあらゆるものとの調和である。

67. 精神的に満たされたいという欲求は、人間の中でますます強まっているが、人間はあらゆる手段を尽くして、この世で所有しているものでそれを満たそうと努めている。

68. この渇望は、魂が成長するにつれて日々強く感じられるようになり、やがては果てしない渇きと飢えの様相を帯び、まるで灼熱の乾燥した砂漠で道に迷った旅人が感じるような、あるいは無人島に漂着した難破者が感じるような絶望と恐怖を、魂は味わうことになるだろう。

69. しかし、ある日、人類が最も予想もしない時に、諸国民は目覚め、正義と光と真実と愛を叫ぶようになるだろう。人々は、あまりにも多くの罪と偽りに疲れ果て、自分たちの人生には、決して埋めることのできなかった計り知れない空虚と、決して満たすことのできなかった飢えが存在していたことを悟るだろう。

70. 確かに、何千、何万もの男女が何らかの信仰を公言し、それぞれの宗教を通じて魂を養おうと努めている。しかし、彼らの行いはあまりにも微々たるものであり、不完全であるため、感覚を通じて心に届くものはほとんどない。それは魂にまで届かないからであり、魂は神聖な本質である霊的なパンを食べ、霊的なワインを飲むことしかできないからだ。

71. 儀式や典礼を通じて光を求める人々が、ひとたびあらゆる儀礼や外的な礼拝を捨て去ったとき、彼らは直ちに、真理の光が豊か

に現れるのを目にするだろう。それは、人々の渇望を前にして、尽きることなくその恵みを授ける、パンと魚で満たされた不思議な籠のようなものである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 327

愛するイエスの弟子たちよ、私の平安があなたがたと共にありますように！

1. エリヤの霊はあなたがたに先立って進み、光と愛をもってあなたがたの魂に触れ、あなたがたのために時と道を整えてきた。 エリヤは、その羊たち一人ひとりの道において、剣のようであり、盾のようであり、あなたがたの道に立ちはだかる様々な障害や誘惑を乗り越える助けとなります。そして、エリヤの存在を感じ取り、彼を呼び求め、迷い出た羊が羊飼いを求めるように彼を探す者は、必ず彼を見出し、その嘆きや懇願は常に聞き届けられ、答えられるのです。

2. 皆さんはしばしばこう自問するでしょう。「心の奥底には師に従いたいという切なる願いがあるのに、なぜこれほど多くの障害が、私が師のもとへ行き、師に仕えることを妨げているのか？」と。すると、あなたの魂は、神の助けを懇願する祈りとして高まり、その瞬間、第三の時代に群れを見守るという神の使命を帯びたエリヤが急いで駆けつけ、あなたの道のりに姿を現し、困難を乗り越える手助けをしてくれるのです。 そうして、あなたは勝利の表情で顔を天に向け、父に感謝を捧げます。すると、あなたの信仰の灯が再び燃え上がり、あなたは平安と信頼をもって、この道を私のもとへと歩み続けるのです。

3. 実のところ、師はあなたがたにこう告げる。わたしは、すべての魂のために、平和と完全なる王国を用意した。しかし、わたしが用意したこの王国には、もう一つの王国、すなわち「世界」が対立している。わたしの王国は謙遜、愛、徳によって勝ち取られるのに対し、もう一つの王国を手に入れるには、傲慢、野心、高慢、貪欲、利己主義、そして悪意が必要とされる。 いつの時代も、この世はわたしの王国に抵抗してきた。わたしに従う者たちは、目に見える影響であれ、目に見えない力によるものであれ、常にその道のりで迫害され、誘惑にさらされてきた。あなたがたがわたしのもとへたどり着くために茨の道を歩むのは、今だけのことではない。あなたがたの魂が、わたしの御前に至ろうとする努力の中でつまずくのも、今回が初めてのことではない。 いつの時代も、あなたがたは自らの存在の最も奥底で戦いを繰り広げてきた。わが霊の霊感はあなたがたの内面を照らし出し、闇の勢力、偽りの光、偽りの美徳、物質、あらゆる余分なもの、そしてこの世のあらゆる偽りの栄光との戦いを引き起こしてきた。

4. あなた方の魂は、その過去と人生の歩みを『七つの封印の書』に記した。そこには、あなた方のあらゆる行い、一歩一歩の歩み、思考、そして言葉が、私によってすべて記録されている。あなた方の魂の偉大な業、大きな運命の転機や人生の歩み、 大きな試練、苦難の杯――すべてがそこに真実のままに記されている。 あなたの魂は多くのことを経験してきましたが、あなたの「肉体」はそれを知りません。もしあなたの体が幼少期の最初の歩みを忘れてしまったのなら――どうして魂が長い人生の旅路の中で辿ってきた成長を知ることができるでしょうか。あなたの魂が地上の体に明かすことができたことは、いかにわずかであったか――私は、あなたがたの発達の未熟さゆえに、まだそれを許してこなかったのです。

5. やがて、人間の知性と心が、霊化によって清められ、浄化され、直感を通じて自らの魂の声を聞き取ることができるようになる時が来るでしょう。そして、魂が肉体という殻を通して行うあらゆる啓示を、はっきりと明確に受け止めることができるようになるのです。

6. 今日、あなたがたは、人間としての生涯において、自らの魂の過去を見るにはまだ至っていない。それでもなお、父はあなたがたにこう告げる。あなたがたの旅路は、なんと長いものであったことか！ あなたがたの魂は、正しい道にとどまるために、どれほど奮闘してきたことか！ 魂は、人生の茨に何度傷つき、あなたがたの道のどの区間が、足跡の血痕で刻まれてきたことか！

しかし、あらゆる試練や不運にもかかわらず、あなたがたは、愛する父、すなわちあなたがたの師――あなたがたの魂にとって光と慰めの源である神――に従っている。そして今、第三の時代にあっても、あなたがたがわたしに従おうとすれば、困難に直面し、不運によってつまずく。あるものは試練と呼び、またあるものは誘惑と呼ぶ。

あなたがたはわたしをこれほど深く愛し、この道を歩んでわたしのもとに来たいと切に願っているのに――なぜ、あなたがたの父は、あなたがたがこれほど試練や誘惑にさらされることを許されるのでしょうか。 まことに、あなたがたに告げます。わたしへと続く道は狭く、その狭さゆえに苦難があるからです。その道は受難の道と同じくらい狭く、転落もあり、茨もあり、多くの理解の欠如や恩知らず、そして人生のあらゆる苦しみがあるのです。

7. しかし、この完全なる王国に到達するためには、この道しかない。広い道は、この世と罪の王国へと通じている。

8. わたしの王国は強大であり、力強い。そして、もしわたしが、わたしの力と権威の前に、別の力――すなわち悪の力――が立ち上がることを許したとしても、それはわたしの力を証明するためである。すなわち、あなたがたが、欺瞞や闇に直面したとき、わたしの光と真理の力を体験し、目にするためである。 それは、迷いや誘惑という暗い影に満ちたあの王国が、 たとえ大きな力を持っていたとしても、私の道具であり、実際には私がそれを用いていることを、あなたがたに悟らせるためである。

9. 私があなたがたを試すのは、あなたがたの成長の道を妨げるためではない。なぜなら、私はあなたがたが私の王国にやって来ることを待ち望んでいるからだ。 しかし、私は、あなたがたが戦いの後に*勝利を*収めて私のもとへやって来ること、闘いの後に強くなり、長い巡礼の道のりの後に霊的な経験の光に満ち、霊において功績を積んで、父が近づき、あなたがたにその神聖な口づけを与えるその瞬間に、謙虚に顔を上げ、父を見上げることができるようにと願っている―― その口づけには、あなたがたの魂のためのあらゆる幸福と完全性が込められているのだ。

10. あらゆる試練に打ち勝つためには、師があなたがたに教えたことを行いなさい。すなわち、目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、あなたがたの目は常に警戒を怠らず、誘惑に打ち負かされることはないだろう。悪は、あなたがたを試み、陥れ、打ち負かし、その弱さを利用するために、鋭い嗅覚を持っていることを心に留めておきなさい。 それが待ち伏せている時にそれを察知できるよう、鋭い洞察力を持ちなさい。なぜなら、この期間、わたしに従うためにあなたがたは大きな試練と誘惑に直面し、それらに打ち勝ってきたとはいえ、今年、あなたがたは極めて大きな試練と誘惑に直面することになるからです。

あなたがたの内なる戦いは激しく、人類の懐における戦いは激しく、全宇宙における霊的な戦いもまた極めて激しい。 今こそ、私の支配、私の正義、私の力にとって決定的な時である。そして、今私と共にあり、私の言葉から学び、現在私のもとで力を養っている者たちは、勝利を収め、人々に迫り来る大きな試練を乗り越えるために、すべてを知り、理解しなければならない。

11. わたしはあなたがたに、目を覚まし、祈ることを教える――それはあなたがた自身のためだけでなく、他の人々のためにもある。そうして、あなたがたが、祈りを通じて同胞に直感を与え、危険や誘惑を予感させるような、霊的な預言者のようになるためである

。それによって、あなたがたは人類を重大な誤った決断から救うことができるからだ。

これは、ある者にとっては理解しがたく、またある者にとっては不可能なことかもしれない。しかし、私はあなたがたに告げる。これこそが、第三の時代に聖霊が弟子たちに授けたものである。 霊化、すなわち霊の教えによる魂の開花である。それは、魂が上へと発展し、霊的な地平線、すなわち発芽し、天への梯子を見出すのにふさわしい場を発見し、上昇する際に常に師の臨在を見出し、支えとなり、完全性へと向かうための階段を見つけるためである。

12. 私があなたがた一人ひとりに呼びかけを送ったこの時、最初のきっかけで既に内なる啓示を感じ取った者は、いかに少なかったことか。 自分の魂がその奇跡を予感していたこと、神の約束の成就――すなわち、師の再臨――が今や自分の中で現実のものとなっていることを感じ取っていたと自覚していた者は、いかに少なかったことか。しかし、あなた方のうち、疑いと反抗の精神という罠に囚われてしまった者は、いかに多かったことか。

13. すでに私の言葉と私の御前に向かおうとしていたあなた方のうち、祝祭や娯楽、この世の恋愛関係や感情、あるいは人間的な用事に気を取られてしまった者もいたが、師はなおもあなた方を待ち続けていた。 しかし、ついに、私の助けによって、あなた方の魂は勝利を収め、私の御許へとやって来て、私の御臨在を通じて、「不可能」なことが可能であり、私の約束が現実となったことを確信したのです。

14. あなたがたは、まだ弱かった時に試練を受けたのだから、今や強くなった今、どれほど試練を受けることになるだろうか！

15. 父は、弟子たちに大きな混乱や――誘惑が迫ることを許されるだろうか。まことに、わたしはあなたがたに言う。確かに、今、わたしはこれを許している。 しかし、それは、あなたがたがこれらの試練の中で誘惑に打ち負かされるのを見るためではない――いや、そうではなく、あなたがたが闇を光に変え、敵を打ち負かして彼らを友や兄弟に変えるためである――そうして、あなたがたもまた人間の罪を超越し、善と美徳の足跡を残し、人々を善良な人間へと変えていくためである。 それゆえ、わたしは試練があなたがたを襲うことを許す。あなたがたがそれを乗り越える方法については、すでに教えた。それは、目を覚まし、祈り、わたしの教えを実践することである。

16. あなたがたに降りかかり、まもなく訪れるであろうそれらの試練は、どのようなものになるだろうか。それは様々な形をとる。

そのうちのいくつかはすでに経験済みであり、他は今まさに経験しているところであり、さらに他のものは後になってやってくるだろう。

あなたがたの魂に悲しみも恐れもあってはならない。毎日があなたがたに満足と糧をもたらすのと同様に、毎日が痛みももたらすのだ。これらの試練を、人生が与える大きな教訓として受け止め、その中で私の教えを実践するようにしなさい。「初心者の弟子」から上級者まで——あなた方全員がその道のりで試練に直面することになりますが、私は今、あなた方が目覚めていることを私の意志であると、あらかじめ指摘しておきます。 私は、あなたがたのうち誰一人として、そのような試練に失敗することを望んでいません。もし誰かがつまずいたとしても、その 側には常に、友愛に満ちた手、兄弟のような手が差し伸べられ、その人を道へと再び立ち上がらせてくれるでしょう。

もし誰かが眠っていて、眠っている間に不意を突かれたなら、適切な機会に、眠り込んでいるその人のところへ行き、目を覚まさせてあげなさい。もし眠りが深く、目が覚めない場合は、起きている者が、眠り込んでいる者のための見張り役となるべきである。

17. このように、私はあなたがたを教え、準備させ、完全な和解に向けて整え、あなたがたもまた赦すことを理解できるようになるためである。

18. 民よ、よく考えてみよ。あなたがたは、かつて経験し、私の大義への愛ゆえに幸いにも乗り越えた多くの試練が、もし再びあなたの道のりに現れたとき、絶望を引き起こすかもしれないことを知らないのだ。 また、病気や生活に必要なものの欠乏が、一瞬でも私の慈悲を疑わせたり、あなたがた自身の準備を疑わせたりすることになるかもしれない。

19. 私がこれらすべてについてあなたがたに語る理由は、誘惑があらゆる手口と力を尽くして、私の弟子たちを襲うからである——私の弟子たちは、スピリチュアリズムの世界にだけいるのではなく、全世界に広がっているからだ。私は彼らが散らばっているのを見る。数は少ないかもしれないが、私が彼らを遣わしたのだから、彼らは至る所にいるのだ。

彼らは、その徳、私への愛、他者への愛において魂を試され、屈服させられ、この世の富、地上の儚い栄光、名声の輝き、そして地上の偉大さを提示されることになるでしょう。 しかし、私が人間の知性を通じてあなたがたに警告するのと同様に、私は啓示と直感を通じて、それらの弟子たちすべてに警告しているのだ。

20.「警戒せよ」と、師はあなたがたに告げる！たとえあなたがたがまもなくこの地上の生活において試練に見舞われ、その中でしばしば勝利を収めるとしても、魂に対する他の試練もまた訪れるだろう。 1950年も終わりに近づき、私の民の中で準備を整えていない者たちは皆、私の御声を伝える者たち、私の霊界、教会の指導者たち、そして「働き手」たちをも誘惑へと導くことになるだろう。

21. 私の言葉の停止に同意しない多くの者が立ち上がるだろう——この啓示なしではすでに生きられないと感じている者たちは皆、立ち上がって、師にその命令を取り消し、決定を改め、民のために新たな命令を下すよう懇願するだろう。 しかし、そのすべての中に、誘惑が種を蒔き、声の担い手たちの心 を、例外なくすべて蝕んでいく。見張りをし、祈り、御霊に照らされている者たちには、これは何の影響も及ぼさないだろう。 しかし、準備不足や反抗心、混乱、そして見捨てられることへの恐れによってすでに影響を受けている者たちに出会ったとき、誘惑は確かに彼らを鼓舞し、彼らの中に足場を見出し、そうした心は、私の教えを大いに歪曲する権利を自らに認めようとするだろう。

22. 父が神聖な決定を覆すように仕向けることのできる者は、いったい誰なのか。まことに、あなたがたに告げる。イエスでさえ、父からそのようなことを引き出すことはできなかったのだ。

第二の時代に、師の犠牲の死の時が近づくと、イエスは庭園の静寂を求め、弟子たちに付き添わせた。 悲しみが使徒たちの心を覆い、厳しい試練の予感が彼らを重く圧迫していた。しかし、イエスの心もまた、深い悲しみに満ちていた。そこで、師は弟子たちにこう言われた。「私と共に、しばらくの間、目を覚まして祈りなさい。」しかし、師が目を覚まして祈っていたとき、それはただその弟子たちのためだけではなく、全世界のためでもあったのである。

23. 人間としての師の心は、一瞬、すべての人に見捨てられ、理解されず、孤独であると感じ、その体からは血の混じった汗が流れ出た。これは、イエスが視線と声を天に向け、父にこう語りかけたときのことである。「わが神よ、もし可能ならば、この苦い杯をわたしから取り除いてください。しかし、わたしの思いではなく、あなたの御心が行われますように。」

24. もし可能ならば、父が御心を撤回してくださるよう願う御子の嘆願を——果たして父はその言葉に耳を傾けられただろうか。まことに、わたしはあなたがたに告げる。いいえ、そうではなかった。それはあらかじめ記され、定められていたことであり、すべての

師の師である主は、御霊が肉体に打ち勝つために、その祝福された肉体を通して御自身を現さなければならなかったのである。

その後、眠っていた弟子たちのところに戻ったとき、私は彼らにこう言った。「霊は熱心だが、肉体は弱い。」

25. その肉体に対する主の叱責は、なんと慈愛に満ちていたことか！

26. 第三の時代は頂点に近づいている。それゆえ、師はあなたがたに目を覚ましておいてほしいと願っている。 そう、この時代の私の弟子たちよ。第二の時代の者たちは、あの祝福に満ちた厳粛な時間に眠りについていたが、主は皆のために目を覚まし、祈っておられた。しかし今日、私はあなたがたに目を覚まし、祈ってほしいと願う。そうすれば、あなたがたは誘惑に陥ることなく、父があなたがたの間で御心を成し遂げられるようにすることができるからだ。そして、主が別れの時を告げ、御言葉を撤回される瞬間—— ——をあなたがたに示されたならば、たとえそれがあなたがたにとって大きな試練であっても、主の崇高な御命令に従わなければならない。しかし、あなたがたはすでに、わが霊が永遠に存在し続け、私が霊から霊へと御自身を現し、そしてわが霊界があなたがたのために立ち上がり、あなたがたを守ってくれることを知っている。

27. あなたがたは、これほど長い間受け続けてきた啓示に慣れ親しんできた。それゆえ、これらの啓示が終わることに痛みを感じているのだ。 しかし、わが子らよ、この痛みに対して強くありなさい。この試練に直面して、あなたがたの魂の高い発展段階を示すのです。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げます。この日にしっかりと備えて臨むすべての「声の担い手」たちは、たとえ短時間であっても、死が自分たちを掠めるのを感じるでしょう。しかし、その後、わたしは彼らをよみがえらせます。他の人々は、まるで親を失ったかのような感覚を抱くでしょう。

しかし、失われる唯一のもの——彼らが失う唯一のものは、肉体の声、人間の言葉の音色だけである。なぜなら、わたしの光、わたしの霊、そしてわたしの霊感の波動が、どこへでもあなたたちを追いかけてくるからだ。そして、その時のあなたたちの霊性が高ければ高いほど、聖霊があなたたちに啓示するものは、それだけ大きなものとなるだろう。

28. ああ、もし私が、この時代のすべての弟子たちをひとつの群れとして一つにまとめ、真に私の教えを授けることができたなら——もし私の民全体がこれらの警告に耳を傾けてくれたなら！ しかし、この時代の最後の瞬間が近づいているのに、私は依然として、

あなたがたが分裂し、霊的に距離を置き、互いに愛を欠いた状態にあるのを見出しています。 依然として、あなたがたの心の最も清らかな部分からは、霊的な敬意や隣人愛が生まれてはいない。しかし、そこには、霊的な成長を待ち望み、恵みの生へと生まれ変わるために、私がすべての子供たちの心に神聖な種として蒔いておいた美徳があるのだ。

29. 霊化こそが、あなたがたに合一をもたらす。あなたがたがわたしの業において霊化に達しない限り、憐れみも、理解も、愛も存在しない。そして、これらの美徳がなければ、あなたがたはわたしと合一することはできない。 私は、あなたがたが互いに一つとなり、あなたがたが師の証しを立て、また私もあなたがたの証しを立てられることを望んでいる。もしあなたがたが人々の前で「この方は私の師である」と言うなら、私も全世界に向かって「これらは私の弟子たちである」と言いたい。しかし、私はまだあなたがたを磨き続けなければならないし、あなたがたもまだ学び、努力しなければならない。

30. さあ、わが子らよ、わたしと共に前進しなさい。わたしはあなたがたがあらゆる試練を乗り越えられるよう助けるからである。あなたがたの道に闇がないよう、わたしは光を与える。 私は常に、あなたがたを眠らせない慈愛に満ちた声であり続ける。そして、すでに目前に迫っているあの時——私がこの啓示を通じてあなたがたに最後の言葉を告げる時——が近づいたとき、私はあなたがたの中に、霊的な敬虔さ、献身、真の理解、そして進歩を遂げようとする努力を見出したいと願っている。しかし、私の意志に逆らう者たちには災いあれ！ 私の代弁者たちを惑わす者たちよ、災いあれ！彼らを誘惑の網に陥れる者たちよ、災いあれ！なぜなら、誰も「知らなかった」とは言い逃れられず、誰も私の正義の法廷において、自分が何をしているのか知らなかったと主張することはできないからだ。1950年の終わりに、この形式の啓示が人間を通じて終わることを知らないスピリチュアリストなどいるだろうか？ 私が、私の至高の評議の決定において、これを定めるとは、誰が知らないというのか？私が容赦なき審判者であることを、誰が聞いていないというのか？

31. したがって、私があなたがたに「私の平安があなたがたと共にありますように！」という最後の言葉を告げるとき、物質界には静寂が訪れるだろう。あなたがたの父は、もはや人間の知性を通じてその言葉を響かせることはない。

私はいかなる罰も定めておらず、私に服従しない、あるいは私の戒めに背く子供たち――あの決定的な瞬間に私を試そうとする者たち――のために、絞首台を建てたわけでもない。彼らは自分自身を告発する者となり、自らの良心の前で被告となるだろう。彼らは自らの判決に署名する者となり、また自らの処刑人となるのだ。

32. しかし、彼らはどのような実を捧げることができるだろうか。人々の心にどのような本質を注ぐことができるだろうか。そのような不従順に身を任せる者は、自らの手で権威と賜物と使命を自ら奪い去ることになる。

33. わたしはあなた方を欺くことはできない！ わたしは決して偽りの行いをすることはなく、闇の中に身を隠すこともない。わたしの真理は常に裸である。しかし、もし人々がわたしの霊の裸の姿を見ることができなかったとすれば、それは彼らがそう望まなかったからに他ならない。 私は、いかなる衣によっても、あなたがたから私の真理を隠したりはしない。私の裸体は神聖であり、清らかであり、聖なるものであり、私はそれを宇宙のすべての存在に示すつもりだ。その象徴として、私は人間として裸でこの世に生まれ、そして裸のまま、あなたがたのもとを去ったのだ。

34. わたしの者たちの間には、常に真理が支配していることを望む。なぜなら、わたしはあなたがたの真理の中にあり、これからも常にそこにいるからだ。あなたがたの間には愛があることを望む。そして、*わたしの*愛は常に*あなたがた*の愛の中にあり続ける。 な真理はただ一つ、真の愛もただ一つである。もしこの真理とこの愛があなたがたの中にあるならば、あなたがたの愛と真理はわたしのものとなり、わたしの真理と愛はあなたがたのものとなる。

35. 私は、私の弟子たちがそのようにあってほしいと願っている。なぜなら、1950年を過ぎてもなお、私は、彼らが瞑想する時、あなたがたが集まる時、あるいは一人で歩む時にも、彼らに語りかけ続けるからである。 誰かと一緒にいるとき、あなたは常に、あなたの道と交差して、あなたと一緒に歩いてほしいと頼む旅人や放浪者に出会うでしょう。その時、私のインスピレーションは大きく、あなたは魂が慰められているのを感じ、「父があの世から送ったものは、決して声の持ち主の知性を通じて語られたものではない」と言うでしょう。 その理由は、父が私たちの間で御業を続けられているからである。」

36. そうして、私は真実のあなた方を見たい――この謙虚さをもって、この進んで受け入れる姿勢をもって、私があなた方に自らを現すことができるように。なぜなら、私は未来に向けて、まだ大き

な教訓を用意しているからだ――この時代に私があなた方に伝えなかったすべてのことを。

私の霊界は、あなたがたの霊にやって来るでしょう。そして、それが、あなたがたを慰め、その道を歩む上で勇気づける力強い励ましとなるのです。すなわち、父の近さ、父とその霊界の真の存在、そしてあなたがたの間にある父の御国の近さです。

あなたがたが人々の群れのもとへ行くとき、彼らの前で証しをし、私と私の霊的世界が、人間の知性を通じてあなたがたと共にあったこと――あなたがたこそが父と語り合い、私の祝福された存在たちと対話を交わした者たちであったことを、彼らに伝えるべきである。

37. もし世の人々があなた方に、「では、その思考の交わりや霊的な対話は、あなた方の中で終わってしまったのですか？」と問うならば、あなた方はこう答えるべきである。「父との対話は永遠である。父は、その子供たちが成長し始めた当初から彼らを訪ねてこられ、あらゆる瞬間に、その被造物たちと交流を交わしてこられた。 しかし、時が経つにつれ、父はより良く、より完全で、より高次で、より霊的な啓示の形式を追求されてきたのです。」あなたがたがこの単純明快な言葉で語るとき、人類は多くの神聖な啓示を理解するようになり、あなたがたは、魂が私の真理を理解することを妨げている暗い目隠しが取り除かれるように導くことになるでしょう。 そうして、彼らにも私の偉大さを認識させ、狂信や偶像崇拝が人々の心から消え去るように導くことになるのだ。

38. このようにして、誇り高き建造物、金や銀の祭壇、華やかな儀式は崩れ去らなければならない。それらはすべて、 、ただ時の流れに打ち負かされて、自ずと崩れ落ちるだろう。 しかし、人々の心の中に息づく偶像崇拝、すなわち狂信の神殿は、私の意志によって崩壊し、破壊されなければならない。そして、私を最も深く傷つけた者たちからは、彼らの心に秘めているすべてのものを奪い取り、これらの冒涜の痕跡が一切残らないようにする。

39. ああ、祝福されたイスラエルの民よ！わたしの力と光に満たされなさい。なぜなら、わたしがわたしの言葉の中で、常に厳しい試練や痛ましい出来事を告げているのは、あなたがたがそれらから身を守り、無事に乗り越えられるようにするためだからである。しかし、わたしはまた、わたしの言葉を通して、あなたがたの心と魂に、常に癒しと喜び、確信と希望を注ぎ続けている。 私は、あなたがたの心に、この地上のより良い生活を告げ、それを準備している。私は、あなたがたの人間としての心を――それが子供であれ、若

者であれ、成熟した年齢や高齢の男性や女性であれ――慰め、祝福し、人生の道において新たな可能性を開き、その道に祝福を注ぎ出す。

私は、この世で平安を見出し、口に甘く感じられる実を知るための最善の道を、あなたがたに教えます。涙の谷であるこの世において、あなたがたを幸せにし、私の平安にふさわしい者とする、許された行いとはどのようなものかを、私はあなたがたに教えます。私は、あなたがたの子供たち、両親、兄弟姉妹、親族、友人、そして民族間の愛の絆を強めます。

また、私はあなたがたの魂に、あなたがたが積み重ねた功徳によって到達できる、高き来世の生活について、改めて教えましょう。なぜなら、あなた方は皆、例外なく、必ずあの世へと旅立たなければならないからです。そして、いつそこにたどり着くかは誰にも分かりません。死は、単に老いによって訪れるものでも、単に人生の消耗によってもたらされるものでもないからです――死は、いつの時刻でも、どの日でも、最も予期せぬ瞬間に訪れるのです。 あなた方全員が――文字通り全員が――この世の生活を後にすることになるのだということを心に留めておいてください。

40. しかし、もしあなたがたが、今生きているこの人間の人生を楽しみ、探求しているなら――もし、あなたがたが喜び、苦しみ、熱心に研究し、奉仕しているこの人生を、決して完全に理解したことがないのなら――それよりも高い次元にあるあの「もう一つの世界」は、いったいどのようなものになるでしょうか。あなたの魂はその世界について何かを知っていますが、その「何か」がすべてではありません。

ある者は多く、ある者は少なからず――彼らは皆、魂の「谷」、すなわちこの世界よりも高い領域、この世界よりも高い世界たちを通り抜けてきた。しかしそれでもなお、あなたの魂は常に、他の世界へと入る準備をしておかなければならない――前回あなたが去った世界 ではなく、魂の完全性への階段の、より高い段階にある、別の、より高次の世界へと。 だからこそ、私はあなたがたの元へやってくるのです。だからこそ、私はあなたがたに地上の生活についてだけでなく、魂の生活についても語るのです。なぜなら、それはより長く続くものであり、完全な人生だからです。そこはあなたがたが永遠に留まる故郷であり、私が望まないのは、あなたがたがそこにたどり着いた時に動揺してしまうことなのです。 私は、あなたがたの魂が、私の扉を叩くことに値しないと感じてほしくない――この人生からあちらの人生への一歩が、あなたがたを混乱させるよう

なことがあってはならない。なぜなら、この一歩は重要なものであり、それはまさに試練であり、闘いだからである。

41. 私は、あなたがたの思考のすべてを人間生活から切り離そうとしているわけではない。あなたがたの魂を転生させるために、肉体を与えたのは私である。 あなたがたを地上に送り出したのは、私の慈悲によるものである。この惑星は、あなたがたの栄養、維持、安らぎ、そして成長に役立つあらゆる種類の賜物、自然の豊かさ、元素、生き物たちで飾られ、祝福されている。あなたがたを結婚させ、成長し、子孫を増やすよう命じるのも、私である。

42. あなたがたの手に労働の道具を授け、その労働とあなたがたの収穫を祝福するのは、私である。あなたがたの額に流れる汗を祝福するのも、私である。それゆえ、あなたがたが真摯にその義務を果たしている限り、私があなたがたをその義務の遂行から遠ざける者であるはずがない。 しかし、あなたがたにふさわしいように、謙虚さと、自分自身への敬意と思いやり、そして他者への思いやりをもってその義務を果たすならば、わずかな地上の労苦をもってしても、あなたがたの心に平安と満足をもたらす実を収穫することになるだろう。

43. しかし、あなた方を結びつけるそれらの義務や、愛の関係、感情、絆とは別に、私はまた、あなた方の魂、すなわち、あなた方の心、知性、そして存在全体のあらゆる動きを決定すべきであるその高次の存在——あなた方の肉体を支配するその存在、私のしもべであり、あなた方の肉体がそのしもべとなるべきその存在——のために、注意と時間を割くことを求めている。 私は、あなたがたもまた、その魂が自己省察を行い、働き、成長し、神を崇拝し、その父や他の魂たちに対する霊的な義務を果たすための時間を割いてほしいと願っている。

44. わたしの教えと律法において、わたしは常に、あらゆる律法、あらゆる義務、あらゆる礼拝の形式を統合してきた。 同様に、この第三の時代に、私はあなたがたのもとへやって来て、この広大な視野をもって教えを説く。それは、あなたがたが新たな狂信に陥らないためであり、秘密主義や誘惑に惑わされないためであり、すべての義務を果たすにあたり単純明快であるためであり、魂が狂信的にならず、また の肉体という器が義務を果たすのを困難にしないためである—— 魂が心や理性の妨げとならず、身体も進んで従い、体内の良心が感じられるようになり、身体もまた魂の成就を妨げないようにするためである。

45. これらが私の弟子たちである。私の教えを真に活かす者たちは幸いである。 この試練の年――誘惑や混乱があなたがたの道に立ちはだかるこの年に、目を覚まし、祈る者たちは幸いである。そうしてこそ、あなたがたは強くなれる。祈り、断食、そして私の教えに従うことによって、あらゆるものを乗り越え、団結し、互いに愛し合い、慈悲を示すことを理解できるようになるのだ。 わたしは、わたしの現れが花開くのを妨げる障害が生じたり、あなたがたの間で不和が生じたりすることを望まない。むしろ、理解と慈悲、常に兄弟愛と愛が支配し、柔和さと謙遜が保たれることを望む。そうすれば、わたしは引き続きあなたがたに報い、この民の懐において、わたしの言葉を通して自らを現すであろう。

46. すべての人々のために、そしてあなた自身のために目を覚ましていなさい。そうすれば、善と平和が最終的にあなた方の対立を乗り越え、私の王国が、あなた方の間で、嘘と闇と悪の王国に打ち勝つことになるでしょう。

47. わたしはあなたがたの中で勝利者として立ち上がろう――あなたがたには、あなたがたの内なる悪を打ち負かす万軍の王としてあなたがたの父を仰ぎ、そして自分自身を、霊的な高潔さと満足、そして心の平安に満ちた兵士として見なしてほしい。 そうすれば、最大の勝利の瞬間に「普遍的な調和」の賛歌が響き渡るだろう――その勝利が訪れるとき、あなたがたの父も、あなたがた自身も、愛する者たちが*「敗者」*となったことを嘆くことはないだろう。 私たちの「敗者」となるのは魂たちではない――それは悪であり、あらゆる闇、罪、そして不完全さである。父の勝利とは、闇と悪に根ざしていた、取り残されたすべての魂の救済にあるのだ。

誰かが失われると信じるなら、それは誤りです。たった一つの魂でさえ救いを見出せないのであれば、私はもはや神ではありません。 あなたがたが悪魔と呼ぶ者たちも、同様に神から生まれた魂であり、たとえ今日まだ迷い続けていても、彼らもまた救いを見出すことになる。いつ、彼らの中に真の光が宿るのか？それは、あなたがたが光の霊的な軍勢と共に、祈りと愛と慈悲の行いによって、彼らの無知と罪と闘う時である。

48. あなたがたの父 *であり、あなたがたの*完全な幸福となるのは、主の偉大なる日である。あなたがた全員がかつて、主の食卓で永遠の命のパンを口にする時、普遍的な祝宴が催されるであろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 328

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. 魂としても、肉体としても、私の御前にようこそ！ なぜなら、その両者は私の神聖な本質によって活力を得、満たされ、私によって力を得て、日々の務めを続けることができるからです。

2. ここに私の霊があり、ここにはあなたがたの霊もあるのだ！

3. 父と子供たちがここに臨在しており、彼らは愛を込めて顔と顔を合わせ、互いを認識し、愛し合い、祝福し合っている。 まことに、わたしはあなたに告げます、民よ。今この時以前には、あなたの魂がわたしのもとへ至る確かな道を見出したことは一度もありませんでした。今日、あなたは、高揚の瞬間、地上の義務からの解放、真の悔い改めの瞬間、そして霊的な祈りへの道の認識を通じて、わたしを見出すのです。

4. もはや、わたしと結びつき、わたしを賛美し、わたしに喜ばれていると信じられるようになるための、苦行や儀式、儀礼の時代ではない。その時代は、あなたがたはとっくに過ぎ去ったのだ。 あなたがたの魂は解放され、第三の時代において、霊的な翼を広げ、無限を支配し、私のもとへと昇り、移り、この世の苦しみや苦難から解き放たれることによって、活力を得ているのです。

魂が昇華した後、再び肉体へと戻ると、その力と光を肉体に分け与え、肉体を高め、強め、慰める。魂が、大人が幼い子供を抱きしめるように自らの肉体を慈しむことで、魂は肉体を人生と光の道へと導き、信仰と希望をもって肉体に活力を与える。

5. 時が経つにつれて、あなたがたの魂は弱さを感じることをやめ、私の教えと、試練や闘いの中で得た光によって、ますます強くなっていくのを感じるでしょう。 それゆえ、私は弟子たちを、光と霊性と愛に満ちたこの業の使徒へと成長させ、私の代わりにあなたがたを残し、人々を教え導き、彼らがまだ見出していない教訓を示し、粘り強く、揺るぎなく真理への道――この地球の平和、そして魂の至福と永遠の平安へと続く道――を彼らに示せるようにしたいのです。

6. 私は高き玉座から、私の普遍的な光線を放つ。それは広がり、愛をもって存在するすべての被造物に注がれる。しかし、選ばれた民であるあなた方においては、私の光線は人間の言葉となり、理性で理解できる言葉となる。 その内容は、明らかにされる神聖な本質であり、神聖な神秘である。

わたしの言葉は、わたしの民すべてに降り注ぐ。まことに、あなたがたに告げる。わたしの子供たちはしばしば、「あのような言葉の伝達者や、あのような共同体には欺瞞がある」と言ってはきたが、いかなる欺瞞や準備不足があろうとも、わたしの霊は常にそこに臨在していたのだ。あなたがたは、わたしがしばしばこう言ったことを覚えていないのか。「わたしは、子供たちの欠点や準備不足などには目を向けない」と。

7. 今こそ、わたしの時である。それは、父が御自身の子供たちへの愛から自ら定めた、成就の時である。あなたがたの罪を前にして、なぜわたしが身を引かなければならないというのか。まさにその罪こそが、わたしが戦っているものであり、わたしの光と愛によって打ち負かすものなのだから。

8. 誰も欺き者だと断じたり、嘘つきや汚れた者だと断じたりしてはならない。あなたがたは皆、私の弟子であり、今まさに私から学んでいるのではないのか。

1950年以降、私の「普遍の光」がもはやあなたがたの間で人間の言葉とならなくなったとき、その準備がいかに万全であろうとも、この時代のように私の「普遍の光」が現れるように仕向けようとする者には、まさに「災い、災い！」である。なぜなら、その者がどれほど高い霊性を持っていようとも、また準備が整っていようとも、その不従順によって、その者は欺瞞者となるからである。 それは、あなたがたが、この啓示の始まりから1950年まで持っていたような形で、もはや父の臨在を期待してはならない時となる。なぜなら、わたしの律法と命令は不変だからである。 私は決して自分の業を変えることはなく、私の正義は容赦なく、私の弟子たちは父と調和し、父に従順であり、父と完全に一致して生きなければならない。

それにもかかわらず、師として、私はあなたがたに保証する。私が自らを現す言葉の伝達者たちについては、彼らが今、私の啓示のこの時期において、いかに準備不足であり、不完全であろうとも、私は彼らを赦し、自らを現し、人々の群れに私の慈悲を注ぎ続けているのだ。 もし彼らが、清らかさと完全さそのものである私の言葉の中に、「肉」の不完全さを見出したとしても、私はあなたがたに「木はその実によって知られる」と教えてきた。それは、あなたがたが人間の不完全さを赦し、その実の霊的な「味わい」を通して、あなたがたの主の臨在と力、そして本質を見出すことができるようにするためである。

9. わたしは今、あなたがたの霊の中に霊的な記念の書を作成している。そして、わたしの神聖な指示に基づき、わたしの言葉による

物質的な書物『』も作成される。それは、後世、未来の世代、そしてあなたがたの後を継ぐ後の世代のために、わたしが残す神聖な遺言である。しかし、まことに、あなたがたに告げる。彼らは、あなたがたの不完全さの「味わい」を知ることはないだろう。

わたしの言葉――それがあなたがたの霊に守られてきたものであれ、紙に記されたものであれ――は完全であり、いかなる欠点も、いかなる不純物や不完全さもなく清らかであり、その奇跡の力によって人間の渇き、魂の渇きを癒やす水晶のように澄んだ水となるでしょう。 それは、人々の魂が幾度となく祝宴を執り行うためのパンとぶどう酒となる。それは、輝く灯台であり、また聖霊の光に照らされた道でもあり、その道によって、旅人たちは、あるいは道に迷った難破者たちは、安全な港へと至る方向を見出すことができるのだ。

10. 世界におけるスピリチュアリズムの普及は、あなた方にとって困難なことではなく、ましてや不可能なことでもあってはならない。なぜなら、私は畑を肥沃にし、あなた方に託した種は発芽する力を持っているからだ。 畑はそれを待ち望んでおり、すべてが準備ができているわけではないが、あるものは種まきを待ち、またあるものは今まさに清められている。そして、この清めとは、あなたがたの父による正義、試練、知恵、そして愛による灌漑なのである。

11. 今、民族、人種、言語、肌の色によって分かれている人類は、私の神聖な御霊から、それぞれの裁きの分、一人ひとりに与えられる試練、闘い、試練の炉、そして私がすべての人とすべての人種のために定めた贖罪を受けている。 しかし、あなたがたは、私の裁きが愛を基盤としていること、父が人々に送る試練が愛の試練であること――たとえこれらの試練の中に不幸や災難、あるいは悲惨さがあるように見えても、すべてが救いへと、善へと導かれることを知っている。そのすべて背後には、命があり、魂の保全があり、そして魂の贖いがあるのだ。 父は常に「放蕩息子」を待ち望み、最大の愛をもって彼を抱きしめる準備をしている。

12. わたしを認めない民族もあれば、わたしの律法から頑なに背を向け、わたしの教えを知ろうとせず、時代遅れだと考えてそれに反抗する民族もいる。わたしを理解していない者たちこそ、この世の自由に固執する者たちである。 また、高潔な心からではなく、単に自分の利益のために善行を行う者たちも数多くいる。

しかし、あらゆる民族と人種には、わたしの正義と試練が定められており、それらは日々降り注ぎ、彼らの心と魂を、まるで耕すべき畑であるかのように、やがて実り豊かなものとし、耕し終えた後

に、そこに種――すなわち、わたしの愛と正義と光の永遠の種――を蒔くためである。 それらの民族は私について愛をもって語り、それらの種族は私への希望を寄せるようになり、この人類のすべての民族の魂の中で、歓喜の歌、すべての人々の唯一の主への賛美と愛の合唱が響き渡るだろう。

13. しかし今は、試練と闘いの時である。あなたがたの神でさえ、今まさに戦っている。神は万軍の主であり、あなたがたをその兵士として任命されたのである。

今日、あなたがたはまだ弱く、自分自身を疑っている。あなたがたは試練の大きさを測り、戦いを想像し、自分の魂と心が臆病になることを許している。

あなたの精神は自らの内に天秤を作り出し、右の皿には善を、左の皿にはこの人類の悪を載せる。善がただ一粒の穀物に過ぎないのに対し、悪は百シェフェルにも及ぶように見える限り、あなたは何をすべきか分からない。 そして、自分の内面を見つめ、自分が正義でも、徳高くもなく、聖なる者でもないことに気づき、悪によって感覚が鈍り、憎しみによって心が硬くなり、情欲や悪徳、そして悲惨さによって物質化してしまったこの人類の救済を成し遂げられるのは、正義で、徳高く、聖なる者たちだけだと考えてしまうのだ。

14. あなたは自らの聖域を顧み、そこにささやかな捧げ物、微かな炎を見出す。そして他者の聖域に踏み込み、そこがもはや人々の狂奔を食い止める手綱となっていないことに気づく。 そして、あなたがたは、神について語っても誰も耳を傾けてくれない、御霊の力について語れば嘲笑されるのだ、と考えるのです。

15. なぜ、私がこの業において、また私があなた方に啓示したこの業において、あなた方に託した計り知れない価値のある宝に対して、これほど信頼を置かないのか。まことに、私はあなた方に告げる。聖なる者や義人にならなくても、あなた方は人々の間で偉大な贖いの業をなし、人類の中で偉大な奇跡を行うことができ、また人々の模範ともなり得るのだ。 もし私が、人々に模範を示すために、聖なる者や完全な存在をこの人類に遣わしたとしても、人々は彼らに少しでも近づこうとするだけで、それが不可能に思えてしまうだろう！ 私は、人々の間に、悔い改めた罪人たちを遣わそうとしている。彼らは――義人にも聖人にも になることなく――刷新、悔い改め、勇気、父の教えへの熱意、渇望、進歩、そして魂の成長の模範を残すことを知っている者たちであり、それこそがあなた方なのだ！

16. あなたがたの魂は、いつの日か完全な境地に達するだろうが、それがいつになるかはあなたがたにはわからない。父はあなたがたを強制することはなく、あなたがた自身も自分の歩みを無理に急がせることはない。しかし、それでも決して立ち止まってはならない。たとえ歩みが遅くとも、私はその歩みが常に確固として、上へと向かうものであることを望んでいる。

17. あなたがたは人々の間で戦わなければならないということか？――その通りだ。あなたがたが人々の間で証しする、すなわち、私が人間の知性を通じて自らを現し、あなたがたにこの言葉をもたらし、あなたがたが今それを伝えているという事実が、疑われるということか？それは確かだ。 しかし、これを心に傷つけてはならない。なぜなら、人類はいつの時代も、私の存在やこの世への到来を疑ってきたからだ。それは、人々が自分自身を知らなかったからである――人類は、父に愛されていると口にはしながらも、その愛の深さを決して理解してこなかったからである――また、彼らは主を知っていると思い込んでいるにもかかわらず、主の最も美しい特質の一つが謙虚さであることを知らないからである。 それゆえ、私は常に謙虚な姿で人々の元へやって来た。私の神聖な顕現において、私は決して私の全権能も、全栄光も、全威光も用いたことはない。もしそうしていたなら、人々は私を見ることさえできず、私に抵抗することなど到底できなかっただろう！

18. 私は常に自らを制限してきたが、謙虚さ、愛、そして慈愛において自らを制限したことはない。なぜなら、私が今日あなた方を愛しているのと同じ愛をもって、私は第二の時代にも、第一の時代にもあなた方を愛し、そして永遠にあなた方を愛し続けるからだ。真実を言えば、あなた方が存在し始める前から、父はすでにあなた方を愛しておられたのだ。

19. あなたがたの中には、こう自問する弟子たちがいる。「なぜ、愛と純潔と完全さに満ちた父から生まれたにもかかわらず、私たちの魂は善と徳の中に留まり続けることができなかったのか？」と。師はこう答える。わたしは、父が持つすべての特質を備えさせ、創造主に似た子として、あなたがたの魂を地上に遣わしたのである。 地上を歩むために、魂には肉体が託されたが、肉体は弱いため、魂にとって試練と闘いの原因となってしまった。魂の強さを試すためには、そうある必要があったのだ――誘惑されやすい存在として。

20. 美徳は試練の中でしか現れない。光は闇の中で最も強く輝くものであり、光の中では輝かない。それゆえ、あなたがたの魂が試

され、清められることは必要であった。なぜなら、あなたがたの魂には始まりはあるものの、その無垢な状態では功績がなく、経験も、成長も、完全性も欠けていたからである。 それゆえ、より高い段階へと昇りつめるために、まず低い生活段階が与えられた。そして、完全性へと至る七つの階段を登り続け、ついに完全かつ清らかな魂として父の御前に至るまで—— 光に満ち、すべての賜物を開花させて成長し、あらゆる能力において完成され、闘いの中で得た多くの功績を持ち、自分自身、父、そして人生に対する認識に満ち、自らの出自、創造された目的、そして帰還した先を自覚している。

21. 肉体に宿った魂が、地上の旅路において闘いの始まりに直面したのと同様に、魂は数え切れないほどの試練と誘惑にも遭遇した—— ある試練は目に見える形で、またあるものは目に見えない形で——それらはあまりにも強大で、肉体を通じて彼女を陥れるほどであった——あるものは目に見える形で、またあるものは魂や精神、そして心と理性の繊細な琴線にのみ感じ取れるものだった。

22. 魂は、その起源の時からあらゆる形で試されてきた。悪によって試されてきたからといって——果たして、父が子供たちを試すために悪を所有しているなどと思うのか。まことに、わたしはあなたがたに言う。そうではない。しかし、悪もまたあなたがたの起源の時から存在しており、それは魂と「肉」の弱さや誘惑されやすさを引き起こしてきた。

魂たちは自らの力を用いる術を知らず、「肉」は誘惑に屈してしまった——それに対し、父は何をなさったのか。父は、悪の力があなた方を試すことを許されたのである。 私は一度ならず、千回もそれを許してきた。それは、私があなた方に託した私自身の光を試し、私自身のものとも言うべきあなた方の美徳を試すためであり、痛みや困難な危機のさなかにあって、 人生の混沌の中で、あなた方を清めるため——そうして、これらの試練や困難な出来事の中で、あなた方の魂が完全へと至り、律法を全うする機会を見出し、あなた方の隣人や父に対して、私の律法における強さと不屈の精神を証明する機会を得られるようにするためである。

23. あなたがたは、昔から直感的に私の律法——善を命じ、悪を断罪する私の律法——を認識してきた。 あらゆる人間は、この地上に初めて足を踏み入れたその瞬間から、直感的に何が善であるかを認識し、悪がどこにあるかを見抜いている。しかし、あなたがたは、モーセが来る前の私の民がそうであったように、最初の人類のように自然の法則にとどまることはできなかった。 モーセが来る前に、誕生しつつあったわが民イスラエルが、その父を認識していなか

ったとでも思うのか。まことに、わたしはあなたがたに言う。そうではなかったのだ。

人類の始まり以来、わたしを認識した者が一人おり、その者を通して、わたしは他の人々にも認識されてきた。 しかし、人類の中で悪が善よりも重みを増したとき、私は人々に善を思い出させるために来なければならなかった。シナイ山で、民に囲まれたモーセの前に立ち、 私の律法を宣言し、それを石に刻んで彼に授け、彼をその民のもとへ遣わし、すべての国々の種となるようにしたのと同じように、人々に目に見え、触れることができる存在として現れなければならなかった。

24. この律法によって、わが民は救われ、自らを解放し、この地上で繁栄と幸福を得、来世への希望を手にした。しかし、やがてわが律法が歪められる日、それに慣れきってしまう日が訪れ、再び悪が蔓延し、ついには善そのものよりも重みを増すに至った。

それらの戒めが次第に歪められ、人々が私の道の中に新たな道を切り開こうとし始めたとき、 そこで、私は再び来なければならなかった。しかし、今度はメシアとして、人間の中に人となって現れ、道を正し、それを真理の道と結びつけ、人々を真理と善へと引き寄せ、正義と愛の道へと招き入れるため――欺く者たちの正体を暴き、あらゆる偽りや迷信を打ち砕き、彼らにこう告げるためである。「これこそが律法であり、私があの最初の時代に授けたものなのだ！」

25. 私のこの到来によって、地球上の新たな民族や新たな人種もまた、道、平和、霊的な幸福、糧、そして来世への希望を見出したのである。

26. 長い時代の間、この人類は天国の豊かな饗宴を糧としてきた。しかし、なんと、この饗宴さえも穢されてしまい、すでにそのような状態で飢えた人々に届けられたため、私の教えは歪められ、私の説き明かしも同様にねじ曲げられ、誤って解釈されてしまった。子供たちの律法の遵守や神への崇拝は、父が命じたものとは異なっていた。それゆえ、人々のもとに戻り、ある約束を果たすことが必要となった。なぜなら、 、私はあらかじめ、時折、人々の間に私の臨在が必要となることを知っていたからである。 それゆえ、今こそ、主が再びあなたがたのところに来て、過ぎ去った二つの時代においてあなたがたが豊かに祝福された律法、啓示、教え、そして奇跡について、あなたがたに説明を求めるという、予告されていた時代が到来したのである。

27. これこそが、私が来た理由である。なぜなら、あなたがたは、肉の弱さに屈し、目に見える誘惑にも目に見えない誘惑にも陥り——あなたがたの上に存在する、悪の超自然的な力の支配下に置かれたため——善に堅く立ち、その中に留まることができなかったからである。

28. あなたがたは、あの「最初の時代」に、私の到来を目の当たりにしたすべての証人が、それを見て信者になったとでも思っているのか。まことに、すべての人ではない！

29. その啓示が他の国々、すなわち異教徒の国々に伝えられたとき、すべての人がそれを信じたと思うのか。いいえ。 多くの者は、その律法が神の御業であるとは理解しなかった。むしろ、それは人間の仕業であると信じていた。しかし、その律法が、その正義によって、また彼ら自身の行いを通じて確立され、現れ出ると、大いなる不信仰者たちでさえもそれを探求し始めたのである。

30. 第二の時代も同様であった。何千、何万もの男女がわたしに耳を傾けた。多くの者は真に信じたが、それ以上に多くの者が疑い、その人がメシアであるとは考えず、ただ他の者と同じような人間に過ぎないと考えた。彼らの不信仰によって、その言葉は理解不能で混乱したものとなり、誠実に信じる者たちにとってのみ、明白で明瞭なものとなった。 それゆえ、私は不信仰者たちから攻撃され、嘲笑され、迫害された。そして、私の苦難、私の行い、私の奇跡は、不信仰者たちによって神の御業とは見なされず、単なる人間の業と見なされたのである。

31. 私の教えが、それ自体の現れによって人類の間に広まり、私の証人たちもまた、彼らが私の真の弟子であり、真の証人であることを証明したとき、不信の人類は私の教えに改心し、悔い改めの涙を流し、同様に私の弟子となった。

32. なぜ、これがこの時代にも起こっていることに、あなたがたは驚く必要があるだろうか。

33. ある者たちは、あなたがたの証言や、私が知性を通じて人々に自らを現したということを疑うだろう。また、ある者たちは、私の言葉が記されたあの物質的な書物に目を向けたとき、それが霊感によって受け取られた神聖な御業であるということを疑うだろう。そうして彼らは、この人類の中に不信が存在するため、すべてを、すなわちあなた方人間や人間の虚栄心のせいにしようとするだろう。しかし、あなた方は、その不信や不信仰を乗り越え、同胞を非難することなく、またそれによって自らに苦痛を与えることなく、進

まなければならない。なぜなら、あなた方の自らの行いによって生じた不信や不信仰の後に、信仰が訪れることを知っているからだ。

彼らにあなたがたの行いを見させてください。 あなたがたの証しを真に光に満ちたものとしなさい。そうすれば、世界を改心させるのは書物でも言葉でもなく、あなたがたの善行によって、私があなたがたと共にいたこと、私が「雲の上」から来て、私の神聖な御霊によって指名された「声の媒体」である人間を通じて、私の光線によって自らを現したということを、あなたがたが証しを確かなものにするのです。

34. わたしは、あなたがたを地球上のあらゆる道へと遣わす。あなたがたの子供たちもまた聖霊の弟子となり、その子供たちもまた、わたしの種を広めていくであろう。 しかし、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたの世代から三世代も経たぬうちに、スピリチュアリズム、すなわち聖霊の到来に直面し、人類はその根幹を揺るがすような異常な出来事に襲われることになる。そのうちのいくつかは、私がすでにあなたがたの間で実現させたものであり、他のものは将来のために用意している。 同様に、あなたがたは悪の王国を徐々に排除していくことになる。この力は、あなたがたの愛と正義の行いによって、ますます崩壊していくのである。

35. スピリチュアリズムに改宗する人は一人増えるごとに、その悪の王国に属する者は一人減ることになる。しかし、もしあなたがたが、愛と光の行いによって悪の雰囲気を克服するという任務や使命を私が与えていると信じるならば、私は真実を告げる。あなたがたがそれを完全に打ち負かすことができる時はまだ来ておらず、それはあなたがたよりもなお強いのだ。 しかし、私がこう言ったからといって、武器を隠したり、それを抜くことをためらったりしてはならない——いいえ、わが子らよ。よく考えなさい。たとえあなたがたの剣が全能ではないとしても、私は全能であり、私はあなたがたの剣の中にいるのだ。

36. 誘惑と戦い、罠を見抜き、誘惑の網や縄を引き裂きなさい。それらがあの世のベールの陰に隠れているときは直感で、人々の間に、あるいは人々の争いの中に隠れているときは、それらを見抜きなさい——常に戦い続けなさい。

わたしはあなたがたに告げる。この戦いにおいて、あなたがたはわたしと共にありなさい。わたしは、闇とあらゆる既存の悪に対する偉大な戦士としてこの戦いの中にいる。そして 、最終的には、最後の打撃を加え、勝利を収め、あなたがたを助けるのはわたしであり、あなたがたは、わたしの勝利を助ける者となるのだ。誘惑と悪

に対する決定的な勝利は、この時代において、わたしの民であるあなたがたには成し遂げられないだろう。 私はしばらくの間、その力を封じなければならないが、その過程であなたがたが示した功績は、あなたがたに計上されるであろう。

その力が封じられている期間は、人々の心の中に善が根を下ろし、あらゆる形の善が力を増すためのものとなる。 そして、人々が善において強くなり、私の正義の天秤において善が悪よりも重くなったとき、あらゆる形態の誘惑は再び一定期間解き放たれることになる。その時期、それらを打ち負かすのは私の剣ではなく、あなたたち自身の武器となるのだ。

37. 私はただ無限の彼方から見守るだけである。なぜなら、その時には、あなたがたは敵を打ち負かすために必要な力を備えているからである。あらゆる形態の美徳がこの世で確立され、誘惑は隅々も、開かれた扉も、空間も見つけることができなくなり、その最大の罠、最大の落とし穴は、誘惑の力の最後の要素に至るまで、すべて無に帰するだろう。 そのとき、誘惑の王国が打ち砕かれ、分断されれば、あなたがたの勝利の始まりが訪れ、闇は光へと変わり、悪は善となり、道に迷った者たちは見出されるだろう。

38. 見よ、これこそがあなたがたの魂における勝利となる。そして、あなたがたが賛美の歌を口ずさむとき、それは光と正義と愛の勝利となる。なぜなら、あなたがたはこの世を失敗者として去ることはなく、誘惑によって破滅して去ることもないからだ。 いいえ、わが子らよ。あなたがたは長い間つまずいてきたし、これからもこれらの落とし穴に落ち続けるだろうが、あなたがたが顔を上げ、主を見上げる勝利の日が来る。それは、兵士が指揮官の前で背筋を伸ばすのと同じである。

39. 民よ、わたしはあなたがたを、これから訪れる戦いに備えさせている。あらゆる戦いにおいて、あなたがたが常に勝利を収める姿を見たいと願っている。しかし、その勝利があなたがたの誇りをくすぐるものであってはならない。それはあなたがたの虚栄のための勝利であってはならず、わたしの御国のためのものとならなければならない。それは、あなたがたの霊的な謙遜にとって、深く、最も内なる満足となるものであり、あなたがた自身の顔にさえ表れないものでなければならない。

40. あなたがたの愛と憐れみの行いは、公にされるべきではない。あなたがたの間には、同胞に対して施しを行ったことを祝うようなパリサイ人があってはならない。あなたがたは、ひっそりと善を行う者たちでなければならない。あなたがたはすでに、 聖霊の時代

に生きており、今やあなたがたの魂は、そのすべての能力を開花させ、それによって善を行うようになっている。 あなたがたは与えることができるようになるでしょう――この地上で所有する財産だけでなく、あなたがたの知性、心、そして魂が持つものも。言葉や、この世の人格によって成し遂げられないことは、祈りによって成し遂げなさい。わたしに語りかけ、わたしのもとへと立ち上がりなさい。そうすれば、そこから、慈悲と愛の偉大な業を成し遂げることができるでしょう。

しかし、もし良心が、苦しむ人々に与えるために物質的なものから手を引くべきだと告げるならば、その善行を祈りで代用しようとしないでください。精神的な祈りによって、自分の利己心を隠したり覆い隠したりしようとしないでください。*自分たち*ができることを、父にやってもらいたいと願ってはいけません。

41. 常に良心に導かれ、どのような形で慈善を行うべきかを示してもらうようにしなさい。そして、その慈善を行うために自分の所有物を手放さなければならない場合でも、心を惜しむことはないようにしなさい。手を差し伸べれば、魂の中に幸福を感じることでしょう。 そうすれば、あなたの心もまた、天の父の喜びを先取りして感じ取ることになるだろう。

42. わたしは、人類の間で起こる大きな闘争に向けてあなた方を備えさせ、こう告げる。今日の人々は来世に関心を持っている――決して全員がそうというわけではないが、それでも地球のあらゆる場所で霊的なものが探求され、主の秘められた宝庫を探り出そうと努められ、書物が議論され研究され、人々は哲学や科学の深みへと踏み込んでいる。

その理由は、私が求められているからであり、私の存在がすべての人々に感じられており、人々は私を見つけようとしているからだ。 魂たちは、私が愛と赦しの源であることを知っており、だからこそ、自らの過ちにもかかわらず、赦しと救いを望んで、私を探し求める勇気を持っているのです。彼らは、私が尽きることのない慈悲の源であり、また、彼らの飢えと渇きを癒やすために、食べ物がふんだんに並べられた食卓でもあることを知っているのです。

43. 人々は、この探求の過程で強くなり、準備を整えていくのではないとでも思うのか。彼らは、その探求の中で成長や発展を遂げないと思うのか。 いいえ、民よ。一度その道を歩み出せば、あなたは驚くことになるでしょう。他の木々の木陰で養分を得ている人々――私があなたに差し出したものとは異なる果実を食べている人々と話してみると、彼らもまた養分を得ており、彼らもまた強くなっ

ていることを実感するでしょう。 そして、戦いの時が訪れ、あなたがたが理性、知識、そして精神の高揚という の剣を用いなければならない時、その剣もまた、あなたがたの仲間たちの光の力を持っていることを実感するでしょう。

44. 戦うために眠ってはならない。しかし、勝利を見極めることを学べ。なぜなら、多くの場合、勝利はあなたがたの敗北の中にあり、敵に対する敗北は見せかけに過ぎないからだ。勝利はあなたがた自身の中にあり、その後、一見あなたがたを打ち負かした者の顔にもそれが映し出されるだろう。

45. 民よ、私の言葉を理解せよ。なぜなら、あなたがたが沈黙せざるを得ない瞬間、真の謙虚さをもって首を謙遜に垂れなければならない瞬間が来るからだ。その時、敵はあなたがたの上に立ち、一撃を加えようとするだろう。 しかし、あなたがたは沈黙を守り、意図的に身を屈めていたのだ。そして後になって、あなたがたが残した種が、その者の魂の中で芽吹くのを見ることになるだろう。そして、光と愛の剣によるあなたがたの打撃が、兄弟の心—— 敵の心ではない——に深い傷を残したことを、やがて気づくでしょう。そして、その傷によって、その心の傲慢は消え去り、師の種が根を下ろすのです。

46. あなた方はすでにその経験をしている。なぜなら、あなた方はしばしば私の聖域を訪れ、私にこう告げてきたからだ。「師よ、私は大きな愛を込めてある心に種を蒔きましたが、その耳は私の声に耳を傾けず、冷たく硬いままでした。そして、その唇は私を嘲笑しました。」

しかし、師は慈愛に満ちた微笑みを浮かべ、あなた方を平安と希望で満たし、こうおっしゃいました。「待ちなさい。あなた方の種は失われてはいない。それはあの心の奥底にまで届いたのだ。」 そのままにしておきなさい！　私が雨を降らせて、それを実り豊かなものにしてやる。あなたがたの手ではひとまず取り除くことができなかった雑草や岩塊を、私が取り除いてやる。しかし、その人のために祈りなさい。それを忘れないで、心の中で祈り、あなたがたが満足し、幸せになる時が来ることを願いなさい。 しかし、その時が遅れてしまったため、あなた方の心に疑いが生じてしまった。だが、その疑いが永遠に続くことのないよう、私はあなた方にこう言ったのだ。「あなたがたが蒔いた一粒の種を思い出せ。それは一見消えてしまったように見えたが、その場所に一本の茂みが大きく育った。さあ、それが実を結ぶように、それを育てなさい。」その時、あなた方と他の人々の喜びは大きかった。

47. わが民よ、私はあなたがたが焦らないよう、また霊的な忍耐が使命の成就を決定づけるよう、あなたがたを準備している。なぜなら、私が再びあなたがたに託すこの種は、地上の種のように発芽するための時間的な制限がないからだ。それは永遠のなかにて開花し、その時間は短くも長くもあり得る。 あなたがたはこれを知らない。 あなたがたの務めは、ただ祈りと愛をもってそれを育み、守ることだけである。

48. こうして、師は、自身の別れ後の時代に向けて、あなた方を準備しているのだ。私は、あなたがたが今日、人間の知性を通じて私の言葉を聞くことによって享受している至福が、私の別れの後も続くことを望んでいる。 民よ、私が——あの高き来世において、祈りを通じて、それが個人であれ集団であれ、あなたがたの近づくのを待ち望むとき——私の子供たちの心の中に、今日私が見ているのと同じ至福と歓喜を見出せることを願う。また、この時代に起こったすべての事柄—— 父があなたがたに与えてくださったすべてのもの、そして父が知性を通じてその啓示に定めた終着点を、完全に理解した上で、父のもとへやって来て、父に限りない感謝を捧げることを願う。あなたがたが、唇には表さないが、魂の奥底で燃え上がる賛美の歌を携えてやって来て、父にこう告げることを願う。「父よ、あなたは私たちにどれほど多くの恵みを授けてくださったことでしょう！ あの時代、私たちの魂にはどれほどの歓喜があったことか！　あなたは魂たちをどれほど光に満ち溢れた状態で残してくださったのか、そして人類にどれほど貴重な遺産を残してくださったのか！」

49. ああ、民よ、私はあなたがたがこれほど幸福に満ち溢れている姿を見たいのだ！ あなたがたの中に取り残された魂など見たくはない。不信仰のうちにさまよい続け、罪と、私の恵みを十分に活用していない状態の中で、些細な論争に明け暮れている者など、誰一人として見たくないのだ。 私は民の間に調和を見たい。そうして、私の御霊の中で、次のようなことを表現する彼らの輝きと祈りを感じたいのだ。すなわち、「一致、平和、善意——信仰、希望、慈悲」である。

50. そうして、私は、これらの美徳があなたがたの魂によって育まれ、風になびく旗印のように、無限の彼方へと翻るのを見たい。そうして初めて、私はあなたがたに、すべての民族、大衆のもとへと向かうよう命じることができるのだ。彼らは真に私を待ち望み、燃えるような心で、メシア、すなわち救い主が人々の元へ再び来られることを切に願っているのだ。

「師はすでに私たちの間におられるが、目には見えない」と言う者もいる。私はこう言おう。そうした魂たちの直感と予感の力に祝福あれ。また、「いや、師はまだ来られていない。第二の時代のように、目に見え、触れられる形で来られなければならない」と言う者もいる。 その理由は、「雲」を忘れてしまったからである――私がこの第三の時代に到来した、あの霊的な雲を。

51. また、その約束をすっかり忘れてしまい、目を覚ましてもおらず、祈りもしていない者たちがいる。しかし、あなたがたは備えられている。第三の時代の啓示が、生きた声によってあなたがたに授けられたのだ。 それゆえ、あなたがたは揺らぐことなく、完全な確信を持って同胞のもとへ赴き、大衆を前にしても萎縮することはないだろう。

なぜなら、その時が来れば、あなたがたは問いただされることになり、その証しによって人々の心を満たして去らなければならないからだ。信者たちは大軍を成し、不信者たちもまた大軍を成して戦うだろう。しかし、不信者たちの軍勢はまもなく壊滅するだろう。なぜなら、その時こそ聖霊が優勢となる時だからである。聖霊はすべての人の心に浸透していくからだ。

52. 弟子たちよ、力を出し、養われ、わたしのもとで癒やされ、この世の試練に耐え、人生に対して勇気を持ちなさい。 あなたたちを苦しめる痛みを無関心に見つめてはならない。この試練こそが、あなたたちを完全なものにするからだ。痛みを呪ったり、罵ったりしてはならない。むしろ、それを祝福しなさい。もし苦しみの杯をあなたがたが飲まなければならないなら、それを飲み干せ。もしその苦い液体をあなたがたが飲み干せないなら、私がそれを飲み干そう。しかし、従順であり、忍耐強くあれ。

痛みを「肉体」よりも「魂」で捉え、あるいは身体よりも魂で感じなさい。そうすれば、魂の瞑想の中にどれほどの力強さを見出せるかを体験することになるでしょう。 霊が魂に、そして魂が肉体という殻に、どれほどの光をもたらしてくれるかを体験することになるだろう。あなたがたの魂の中で、あらゆる苦しみを和らげ、癒やす神聖な香油、真の香油を見出し、それによってあなたがたは真に癒やされるだろう。

53. 真の霊性主義者となり、わが真の弟子となりなさい、おお、民よ！そうすれば、道のりのすべての茨、つまずきの石、そして障害は、より軽くなり、和らぐでしょう。時折、あなたがたの肩にのしかかるその重荷は、瞑想し、祈るとき、説明のつかないほど軽くなるでしょう。その理由の答えは、あなたがた自身の中にあるので

す。それは、魂が高揚するからであり、高揚した魂は強く、その「肉体」をも強くするからだ。それゆえ、私はあなたがたに高揚した人生を送ってほしいと願う。そうしてそこからこの人生を支配し、あらゆる試練の中で魂が戦い、勝利を収めるため――そうしてそこから、情熱や弱さ、苦難を抱える「肉体」を支配するためである。

54. わが民よ、ますます高みへと昇りなさい。そうすれば、父の平和と御国があなた方の手の届くところとなり、この地上に住んでいる間にも、あなた方の魂は父の平和の御国の住人となるでしょう！

55. これが、この朝の礼拝において、私があなたがたに教えとして与える私の教えの言葉である。これを魂に刻み込んでおきなさい。そこには、師の愛のすべて が込められており、将来立ち上がり、戦うための励ましという武器が込められている。

56. この瞬間、全人類のために祈りなさい、と師はあなたがたに告げます。そして、あなたがたのすべての霊的な兄弟姉妹のために、心から祈りなさい！今こそ、祈りの時が来ました。わが愛と平和の霊は、全宇宙にそのマントを広げ、わがすべての子供たちを、この愛撫、この癒やし、そしてこの父なる祝福の中に包み込むでしょう。おお、わが神性の祝福された民よ！

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 329

1. より高いものを発見するために、自らの知識を広げようとするあなたがたは、幸いである。

2. はっきりと見極めようとする者たちは、幸いであり、至福である。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたの目を覆っている覆いが取り除かれるためには、わたしの言葉を研究し、深く探求しなければならない。

3. 人間は二重の罪を犯している。それは、わが教えを悟ることを妨げるその覆いが取り除かれるよう努力しないからだけでなく、霊的な喜びを犠牲にして地上の快楽へと誘う肉の束縛に身を委ね、疲れ果てているからでもある。 こうして、人間は情欲の奴隷となり、再生に向けた意志力は破壊されてしまったのである。

4. 盲人が盲人を導こうとし、私の教えに従わなかった者たちが罪人たちに導きを与えようとしている。人間は弱い。なぜなら、私の言葉によって自らを刷新し、清めるための第一歩を踏み出そうとしなかったからだ。彼は、与えられている力、すなわち意志という力を用いて、自身の悪徳と戦い、自らを克服しようとはしなかったのだ。

もしあなたがたの魂がこの戦いに勝利すれば、そのとき初めて、あなたがたは解放されたと言えるだろう。もしあなたがたの魂が「肉」を支配するならば、猛獣でさえも、あなたがたの愛の呼びかけに穏やかに従うのを目にするだろう。

5. 人が霊化すれば、私の聖霊の光によって、神や自然の中に秘められたと見なしていたすべてのことを理解するようになる。

6. もしあなたの行いや考えが、まさにその反対のことを示しているのなら、「私はあなたを信じている」などと言ってはならない。あなたがたが霊化によって、私があなたがたの中にあり、あなたがたが私の中にあると実感する日が来るだろう。もしあなたがたが私の真の弟子になりたいのなら、この霊化を追求しなさい。

7. わたしの食卓は整えられている。さあ、来て、永遠のいのちのパンを食しなさい。わたしの愛の教えによって備えを整え、わたしの光によって無知を取り除き、情欲から解放され、光の子たちとなりなさい。

8. そうすれば、あなたがたの行いと霊性の高まりは、あなたがたの父を賛美するために、あなたがたの魂が奏でる賛美歌のようになるでしょう。

9. 準備をしておきなさい、 弟子たちよ。私がこの手段を通じてあなたがたに語りかけるのも、これが最後となる日が近づいている。その時には、あなたがたは、新たな日、新たな時代を迎えるために強くなければならない。その時代には、 、私はもはや、私の言葉を伝える代弁者たちの脳を道具として用いることはなく、むしろ霊として臨在し、あなたがた一人ひとりの魂に私の霊感をもたらす準備が整っているのだ。

10. あなたがたが、これらの啓示によって最後に活力を得るために残された時間は、あと数ヶ月に過ぎません。しかし、私はあなたがたに言います。それは、私のメッセージと啓示について熟考し、学び、祈り、そして従うことによって準備を整え、力を蓄えるには十分な時間なのです。

隣人を支え、倒れた者を立ち上がらせ、厳しい試練の中で涙を流す者たちに慰めを与え、あなたがたの歩む一歩一歩に、真の霊性の足跡を残してください。

11. 私があなたがたに最後の言葉を授ける、この最も重要な時に、自分の持ち場を守っている者は、戦いの最中も揺るがず、立ち続けるであろう。 しかし、誤った一歩を踏み出す者は皆、倒れてしまうだろう。なぜなら、その後この民を襲う嵐の激流に耐えうるのは、しっかりと築かれたものだけだからである。それゆえ、私はあなたがたに告げる。真理、献身、隣人愛、そして霊性という土台の上に築かれていないあらゆる業は、打ち砕かれることになるのだ。

12. 私の言葉の真意を見極めることを学べ。そうして、その言葉のみによって魂を養うようにせよ。なぜなら、あなたがたは私の本質を見出そうと努めなかったがゆえに、その代わりに、代弁者や霊感を受けた者たちの表現様式を自分たちのものにしてしまったのを見たからである。 しかし、あなたがたが世界に届けようとする滋養は、人間的なものではなく、神聖なものであるべきであることを忘れてはならない。

13. まことに、あなたがたに告げる。もし「声の伝達者」たちの肉体が、その極めて高貴かつ困難な任務を遂行する準備を整えていたならば、私のメッセージを伝える際、彼らの唇は私の霊感を表すためにあれほど多くを語る必要もなかっただろうし、私の啓示が何時間も続くこともなかっただろう。

14. もし彼らが良心の声を理解し、それに従い、民への愛と、霊的な光を渇望する者たちへの慈悲に導かれていたならば、わたしの言葉はほんの数文に留まっていたであろう。しかし、その言葉は形式においても極めて完全なものであり、地上で最も博識であると自

負する者たちさえも震撼させるほどであったであろう。 そして、私のメッセージはほんの数分で済んだだろうが、その中にはこれほど多くの本質が込められていたため、聴衆の魂は、時間が長くも短くもない永遠の世界へと運ばれたかのように感じただろう。そして、私の存在は 、その全き強さをもって彼女に感じられたはずである。なぜなら、それは、あなた方の声の媒体が持つ不完全さや不純さ、そして地上の重みによって覆い隠されることはなかったからである。

15. ああ、わが子らよ、今この瞬間、あなたがたが泣いているのが見える。しかし、残念ながら、もう手遅れだ。なぜなら、あなたがたに課せられた使命を果たすためにまだ残されていることについては、完全な実りを得るにはもはや十分な時間が残されていないからだ――その実りとは、霊性への到達を目指して絶え間ない闘いを続ける中で、あなたがたが熟成させるべきだったものなのだ！ それでも、この最後の朝の数時間の中で、あなた方にはできることがある。

16. 今、私はあなたがたに、過ちを正し、もはやそれを背負い続けず、ましてや、あたかもそれが真理の一部であるかのように、周囲の人々に伝え続けることのないようにする方法を告げよう。

17. 御言葉の伝達者の口から聞いたままの言葉を、穏やかに、そして理性を働かせて受け止め、祈りによって知性を高めなさい。 その教えについて、その意味、核心、本質を見出すまで深く考えなさい。それこそが、あなたがたが心に留めておくべき神聖な本質であり、その後、人類に「光のメッセージ」として伝えるべきものである。

18. もしあなたがたが、空虚な言葉や形式、象徴的な行為や儀式を一度でも捨て去れば、真理を認識することを妨げているベールを引き裂いたことになるでしょう。 もしあなたがたが、外見的なものや不必要なものを拒絶するならば、それは、霊化が徐々に感じられ、生きられていることのしるしとなるでしょう。そうすれば、あなたがたの魂、心、知性、そして感覚さえも、もはや外的なものや取るに足らない見せかけに、それほど容易に感化されることはなくなるでしょう。魂は、あらゆるものの中に、その真意、真実、生命、原理を求めるようになるのです。

19. もし、これらの弟子たちの誰かが、清いものと不浄なもの、神聖なものと肉欲的なもの、高貴なものと卑俗なものが混ざり合ったメッセージを、同胞たちに伝えることができるだろうか？ いいえ、民よ、あなたがたが、これらの善良な弟子たちが、その内容も形

式も、光と真理の生きた証しである天のメッセージのみを広めていると考えるのは、ごく当然であり、正しいことである。

20. あなたがたの証しを広めるためのさらなる手段となるよう、私の言葉を書物に書き記すという仕事を、私は誰に託すだろうか。それを知っているのは私だけである。しかし、まことに、あなたがたに告げる。私は彼らを厳しく試練にさらし、 において、私の教えの霊性が兄弟姉妹たちの間に広まっていることを最も深く愛している者たちの中から、彼らを選び出すであろう。

21. これらの教えに勇気づけられ、わが啓示の最後の時に揺るぎなく立ち、その後、この業の本質、霊性、そして簡素さのために戦う兵士たちの仲間となるよう、進んでいってください。

22. 人類を構成する諸民族の心の中で、この私の種が芽吹いたとき、人々の生活には絶対的な変革がもたらされるだろう。 かつての人々の生き方、信仰、礼拝、そして「戦い」や思考の仕方と、霊性を生きる人々のそれらとを比較すれば、彼らが人間としての生活においても、また神への霊的な崇拝においても、どれほど大きな違いを示すことになるだろうか。

23. 狂信、偶像崇拝、物質主義、そして不条理な信仰の教義がはびこっていたあの時代については、石一つ残らないだろう。 あなたがたの先祖や、あなたがた自身が将来の世代に遺すすべての誤りは、一掃されるだろう。善と真実の本質をその中に宿さないものは、何一つとして残らない。しかし、あなたがたが受け継いだすべての善は、彼らが守り継いでいくことになる。

24. かつての時代よりもより精神的な形で提示されるこの教えは、人々、民族、教会、そして宗派の間で、その地位を確立し、根を下ろすために戦わなければならないだろう。 しかし、この短い混乱の時期が過ぎ去れば、人々に平和が訪れ、彼らは私の言葉の中に、もともと秘められていた真意を読み取ったとき、歓喜するだろう。

25. わたしの神性、霊的な生活、そしてあなたがたの存在の目的に関する考え方は、正しい軌道へと導かれるだろう。なぜなら、すべての人間は、あなたがたの師、その使徒たち、そして預言者たちによって、たとえ話や象徴を通して語られてきたすべての事柄を、正しく解釈する者となるからである。

26. そうした表現方法は、人々には部分的にしか理解されなかった。それは、彼らの高まりつつある霊的・知的な理解力に応じて、彼らに与えられた教えであった。しかし、彼らはすぐにすべてを知りたがったため、霊的な方法でしか解釈できないものに物質的な解

釈を与えてしまい、ますます多くの矛盾や誤った観念に巻き込まれていったのである。

27. 今や、光は再びすべての魂の中に輝き出しており、それゆえ、あなた方はあの啓示とこの啓示の核心に迫ることができるようになるだろう。しかし、忘れてはならないのは――もしあなたがたが真に、私の言葉の意味や本質を認識しようと努めるのであれば、霊的にそれらを深く探求することで、 にこれらの啓示の研究に専念しなければならないということである。 そうすれば、それは容易になり、その真意は明白で、明快かつ単純なものとして現れるだろう。秘密は取り除かれ、それとともに無知も解消される。そうして、地球は次第に、光に満ちた存在たちを霊の谷へと送り戻すようになり、無知のベールに包まれた闇の存在たちを送り返すことはなくなるだろう。

28. この啓示が明らかにされ始めて以来、たとえ不信仰者――知性を鍛えた者たちの中にも、また教養のない者や無知な者たちの中にも――が現れたとはいえ、私の教えによって、あなた方の精神は照らされてきた。

29. この啓示を否定しようとする論拠はどれほど多かったことか！この言葉を滅ぼそうとする試みはどれほど多かったことか！しかし、何一つとして私のメッセージの歩みを止めることはできなかった――それどころか、この業に反対すればするほど、人々の信仰は燃え上がり、時が経てば経つほど、私が私の言葉を伝える者たちの数は増えていったのである。

30. ここから何を学ぶべきか。それは、人間の力では、神の力がその御計画を遂行することを決して妨げることはできない、ということである。

31. 現代の人間は、そのあらゆる科学を駆使しても、自然の要素を自らの意志に従わせることさえできない――それなのに、どうして霊的な力に対して自らの力を押し付けることができるだろうか。

32. 宇宙の天体が、人間の意志によってその軌道や運命を変えさせられることなく、不変の秩序に従っているのと同様に、霊界に存在する秩序も、誰によっても変えられることはない。

33. 私は昼と夜を創造した。すなわち、私は光そのものであり、私以外の誰もそれを遮ることはできない。霊界においても、同じことが言える。

34. 私はあなたがたの魂の光であり、いつあなたがたに神聖な明晰さという宝を送るべきかを知っているのは、私だけである。

35. 生命の流れの軌道を変えることのできる者は誰もおらず、光の進撃を阻むことのできる者もいない。それゆえ、あなたがたはこう見ているだろう——私の啓示がこのような形で長年にわたりあなたがたに伝えられてきたが、今やその終わりに近づいている。この教えに反対する数多くの者たちのうち、誰一人として、私の啓示が成就する日をたった一日でも妨げることに成功しなかったのだ。

36. 私の光と接触したとき、その声を伝える者は、強く、無敵で、傷つけられないと感じており、実際、その通りであった。

37. 人々がこれらの集会所の中に集まったとき、彼らは常に世を恐れることなく、常に私の臨在と保護を深く信頼してそうしてきた。そして私は、彼らの信仰が真実に基づいていることを彼らに証明した。

38. 私がこの民に、私の臨在の真実性を示す証拠を与えた結果、人々の群れはますます押し寄せ、私が御言葉を宣べ伝える場所の数は何倍にも増えた。

39. また、不信仰者、懐疑者、そして否定者の数も増えていることを、あなた方に伝えなければならない。なぜなら、人類が私について真実に即した認識を持たない限り、私を否定する者たちは常に存在し続けるからである。 彼らは混乱しているため、わたしを理解することも、わたしの声を聞くことも、感じることもできず、その結果、自分たちの理解の及ばない範囲にあるため、自分たちにとって真実であるはずがないとみなして、わたしを否定し、それに反対せざるを得なくなるのである。

40. 私は彼らを赦す。なぜなら、彼らには私に何らかの害を及ぼそうという意図はなく、また、そのような能力もないからだ。彼らは、これらの人々の群れが誘惑や欺瞞の犠牲になっていると真に信じており、彼らをそのような状況から救いたいと願っているのだ。

41. しかし、この教えの真意を耳にしたとき、その真実と正義の前に戦慄し、自らの権力と名声が脅かされると感じ、卑劣な手段を用いて私の業に敵対し、戦いを挑んでくる他の否定者たちも現れるだろう。 こうした者たちの心において、この民と戦うように駆り立てるのは、無知でもなければ誠実な信念でもない——それは、人類の中に光が差し込むことへの嫉妬、憎しみ、そして恐怖である。しかし、魂にとって夜明けの時が訪れれば、光が差し込むことを誰も阻止することはできない。

42. 声の担い手の口から語られる言葉に含まれている、あの光の源が何であるか、ご存知でしょうか。その源は、善、神の愛、そして神から発せられる普遍的な光にあります。 それは、あなた方に命

を与える、その輝かしい全存在の一筋の光、あるいは一粒の火花であり、万物を動かし、その下で万物が振動し、動き、絶え間なくその軌道を描いている無限の力の一部である。それは、あなた方が「神聖な輝き」と呼ぶものであり、魂を照らし、活気づける神聖な霊の光である。

43. その輝きは、魂にも身体にも、世界にも、そして人間や植物、創造のあらゆる存在にも影響を及ぼす。それは霊にとっては霊的なものであり、物質にとっては物質的なものであり、知性にとっては知性であり、 な心にとっては愛である。 それは知識であり、才能であり、内省であり、本能であり、直感であり、あらゆる存在の感覚を超越して、その秩序、性質、種類、そして発達段階に応じて作用する。しかし、その起源はただ一つ、すなわち神であり、その本質もただ一つ、すなわち愛である。それゆえ、私がこれらの被造物の知性を照らし、あなた方に霊的な光のメッセージを送ることのどこに不可能なことがあるというのか。

44. 植物は、実を結ぶために、私の霊が送り出す生命の輝きを受け取っている。星々は、その軌道上を周回するために、私の霊が放つ力を受け取っている。 今この瞬間も、あなたがたのあらゆる感覚に感じられる生きた証である地球は、その胎内から数多くの奇跡を生み出す生命の輝きを絶え間なく受け取っている。 それならば、その本質の中に、私との類似性の根源である霊の存在が宝石のように輝いている人間が、私の霊からその霊へと直接、神聖な放射を受け取る――それが、その人の中で実を結ぶべき霊的な種である――ことが、どうして不可能であるというのか。

45. 誰もわたしを否定することがないよう、皆、わたしを知りなさい――わたしを認識しなさい。そうすれば、あなたがたの神に対する観念は真実に基づくものとなり、善が現れるところには、わたしがいることを知るようになるだろう。

46. 善は、いかなるものとも混ざり合うことはない。善とは真理であり、愛であり、慈悲であり、理解である。

47. 善ははっきりと認識でき、紛れもないものである。誤らないよう、それを認識しなさい。 人はそれぞれ異なる道を歩むことができる。しかし、もし皆が「善」という一点で出会うならば、やがて互いを認識し、一つになるだろう。しかし、現代の人々がそうしているように、善に悪の装いを与え、悪を善として偽装することで、頑なに自らを欺き続けるならば、そうはならない。

48. わが啓示とわが言葉を信じない者たちよ、この教えについて熟考し、それから判断を下しなさい。しかしその前に、私が人々の

間にいたとき、わが王国はこの世のものではないとあなたがたに告げたことを思い出してほしい。それによって、わが故郷が霊的なものであることを彼らに理解させたのである。 私が彼らに霊的な生活について語ったとき、たとえ話を用いた。なぜなら、もし私が天の御国のすべての栄光と真実をありのままに説明していたら、彼らはそれを理解できなかっただろうからである。

49. 人々は、 な想像力によって、あらゆる神聖なものに地上的あるいは人間的な形を与えていたため、私の比喩的なたとえ話や教えを誤って文字通りに受け取ってしまった。

50. 人間の知性が私の啓示に対して行ったこの地上的解釈のせいで、霊的な生活に関する多くの観念は、真実から大きくかけ離れてしまっている。

51. そのような人々が、私が「天国」と呼んだものを、どうして正しく解釈できようか。 彼らが、自らの想像力が生み出したような地獄が存在すると信じている限り、どうして私の正義を認識できようか。そして、輪廻転生の法則が単なる理論でも、一部の人々の誤った信仰でもなく、魂が浄化され、完成され、形成され、高められるための、永遠の正義と愛に満ちた調和の法則であることを、彼らはいつ受け入れ、理解するのだろうか？

52. 人類よ、再び私の言葉に耳を傾けなさい。今こそ、私が第三の時代に身を置いている。私が地上にいた時に啓示した言葉の、たった一つたりとも消し去るために来たのではなく、あなたがたが私の教えに与えてきたあらゆる誤った解釈を、あなたがたの心から消し去るために来たのだ。

53. あなたがたを盲目にし、真理を認識することを妨げているその偏狭な執着を捨て去れば、この教えを徐々に理解するようになり、光に満ちた眼差しで、この時代および過去の時代における私の啓示の内容が明らかになるのを見るだろう。 そうすれば、あなたがたは今日まで「秘密」と呼んできたものを「完全な正義」と呼ぶようになり、不変のものにはその永遠の価値を、そして儚い人間的なものにはその正しい意味を与えることを理解するようになるでしょう。

54. このようにして、あなた方は、霊的な生と比較すれば極めて短い、この地上でのたった一つの生が、魂の永遠の運命を決定づけるものではないことを知るようになるでしょう。 つまり、その一生の間に、あなたがたが「天国」と呼ぶ最高の霊性化の領域へ直接導くような完全性を、あなたがたのうちの誰かが達成するには不十分

であるだけでなく、地上での一生における過ちが、ある魂を永遠に闇や苦痛の中で滅びさせる決定的な要因となることもないのです。

55. 確かに、魂に与えられた人間の生涯は極めて大きな価値を持ち、魂の進歩にとって極めて好都合な機会であるため、それを活用しない、あるいは悪用するという事実は、私が各魂を地上に送り出す際に託すような、 聖なる賜物を軽んじる者に対して、私の常に容赦のない正義が、その者の道において現れることを意味する。 しかし、この世における人間の存在のように短い生涯に、その魂の永遠の運命がすべてかかっているというのは誤りである——ましてや、人間の過ちは、成長や光、高揚を欠いた存在に固有のものであることを考えれば、なおさらである。

56. 光と愛に満ちた私の教えは、精神を強め、精神が「肉体」に対してその力を発揮し、肉体を、良心の啓示をますます容易に感知できるようになるほど感受性の高いものにするのである。

57. 霊性は、人間が目指すべき目標である。なぜなら、それによって人間は自らの良心と完全に一体となり、ついには善と悪を見分けることができるようになるからである。 なぜなら、人々の精神的な高揚が欠如していたため、その深遠で賢明、揺るぎなく公正な内なる声が十分に聞き取られ、解釈されることができなかったからであり、それゆえ、人間は善と悪を真に区別することを可能にする、制限のない認識を得ることができなかったのである。 それだけでなく、人は自らの内面に、あらゆる善き衝動に従い、あらゆる光に満ちたひらめきに耳を傾けるために必要な力を見出し、同時にあらゆる誘惑や、不誠実あるいは邪悪な思考や感情の衝動を拒絶しなければならない。

58. 人間は、あらゆる敵を打ち負かすための最良の武器を自らの魂の中に見出すことになる。そして、その戦いでいかに戦い、いかに身を守るべきかを示してくれるのは良心であり、それは、人間が必然的に悪と戦わなければならないその戦いにおいて—— それは、人間がこれほど強く惹かれ、数多くの名前を与え、形を与えた霊として擬人化している、あの力である。

59. 私はあなたがたに告げる。あなたがたは悪、誘惑、そして闇と戦わなければならない。しかし、それはあなたがたの想像の中で作り上げたあの存在に対してではなく、内面において、すなわち、弱さや悪しき傾向、そして闇が宿る場所、すなわち自分自身と戦わなければならないのだ。なぜなら、人々は光よりも闇を愛してきたからである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 330

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. 愛する弟子たちよ、あなたがたの魂を求め、新たな教えを与える師として、再びわたしを認めてください。

2. わたしの言葉は、あなたがたの間で癒しの香油となり、その香油を渇望して、あなたがたはここへやって来る。あなたがたの全存在は強められ、あなたがたの魂はわたしの臨在によって慰められる。あなたがたは、苦しみと闘いの時代を生きているからだ。どこに足を踏み出しても、傷つける茨を感じるからである。 しかし、その痛みがあなたがたの全存在を貫くとき、あなたがたは師への渇望をもって思いを天に向け、試練に直面して師への同意と服従を示すのである。

3. すでに第二の時代において、わたしはあなたがたに、いつ訪れるか分からなかった大きな慰めを約束しました。この大きな慰めは、この世から平和が失われ、人々の心に愛も慈悲も存在しなくなった時代に訪れるはずでした。そして見よ、ここに、約束された慰めがあなたがたのもとに来ているのです！ ここに、あなた方を包み込む私の神聖な御霊の温もりがある――人間の知性を通じて私を聞く者たちだけでなく、地球上のすべての私の被造物たちのためにも！

この時代、私は、私の心からの温もり、慰め、そして力を、あなたがたに感じさせてあげます――あなたがたは私の使徒の群れを成し、第三の時代に私をそばに迎え、これらの啓示を通して私の声を聞いてきた者たちです。

4. 私があなたがたに与えた試練に直面して、あなたがたが示した勇気、服従、そして精神の高揚に対して、祝福あれ。なぜなら、その苦しみはあなたがたを清めたからである。しかし、あなたがたを私の右の座へと導くのは苦しみだけではないし、あなたがたの魂に完全さを与えるのも、苦難だけではない。 痛みは確かに、魂や感覚の汚れを洗い流し、ある場合には障害となり、抑制となり、自己省察や悔い改め、他者の苦しみを理解するきっかけとなります。しかし、魂の高みへの発展、すなわち魂の完成は、愛と慈悲を実践することによって得られるのです。

ですから、痛みが訪れたときは、それがあなた方を清めることを許しなさい。決して痛みを呼び起こそうとしてはならない。痛みがあなた方に近づくべき時には、そのまま受け入れるのだ。痛みを求めるのではなく、平安を求め、幸福と喜びを求めなさい。自分自身のためにも、他者のためにもそれらを求め、すべての人々のために

それらを願うのだ。なぜなら、私は平安と喜びと光の神だからである。

5. わたしは希望の神であり、わたしのすべての子供たちに許された希望をすべて実現する者である。もし痛みがあなたたちを貫くことがあっても、その役割を果たさせるがよい。しかし、完全性、すなわち魂の成長へと至る階段を登るためには、試練や痛みの中で強く、また従順であることに満足してはならないことを心に留めておきなさい。 さらに、隣人の苦しみにも思いを馳せ、他者に思いやりを持ち、同胞を愛さなければならない。そうして初めて、あなたの魂は功徳を積み、人間の利己主義を克服し、肉体という殻に宿る自己愛に打ち勝ち、神の師の良き弟子として高みへと発展していくのである。

6. あなたがたのうち、この世に真の平和を望まない者は誰がいるだろうか。あなたがたのうち、すべての人々の心の中に愛と徳と喜びの王国が訪れることを切望しない者は誰がいるだろうか。しかし、私は、あなたがたの心が苦しみに対して真の受容に至り、試練の只中で大きな受容を示しているのを見ている。そのことを、私は祝福する。

しかしそれ以上に、私はあなたがたの中に、人生の変化への希望を抱くよう励ましている。絶望してはならない。かつてすべての人々の心と道を照らしていたような平和を、あなたがたの心や、愛する人々の心の中で体験できないなどと考えてはならない。 そのために、私は今、あなたがたを教え導き、あなたがたの正しい行い、祈り、私から学んだ賢明な助言、そして霊的な働き——愛の働き——によって、野原や道を清め、整える準備をさせています。このようにして、あなたがたはこの世を整え、父の御国が再びその子らの心に入ってくるにふさわしいものにするのです。

7. この世界が永遠に涙の谷であることに甘んじてはならない。 私は、あなたがたの使命の成就と刷新によって、諸国、諸民族、そして人々が刷新され、その刷新を通じて、この涙の谷が愛と平和の谷となることを望んでいる。私はかつて、人々に天の御国をすでに差し伸べていなかったか。私は私の言葉と現れを通して、それを示していなかったか。

8. それゆえ、弟子たちよ、備えよ。そうすれば、あなたがたの霊の力が突破口を開き、道を切り開き、道を整え、あなたがたが人々の道において、わたしの到来の先駆者となるであろう。わたしはあなたがたのすべての業を新しくする！

わたしは人間に自由意志を与え、地球という惑星を託した。人間が自らの住処を築けるよう、すべての自然界、物質、そして存在に対する権力と支配権を授けたのである。

人類の始まりから、霊魂の始まりから、私は愛と正義の法則として自らを現し、戒めや生活規範、たとえ話など、さまざまな形で自らを明らかにしてきた。 私は、人間の魂が曲がりくねった道に迷い込まないよう、また人間が常に道を見出し、神によって書かれ、創造された「生命の大いなる書」から学べるように、人生と自然そのものを真かつ完全な教科書とした。 しかし今、私がすべての人々の注意を自分に向けさせなければならない時が来た。そこで私は、あなた方、「最後の者たち」、貧しい者たち、謙虚な者たちから始め、あなた方をこの真理の使徒とし、これから起こる出来事の預言者とし、私の第三の来臨の証人とするのである。

9. 私の教えはすべての人々に向けられたものであり、人類へのこの目覚めの呼びかけにおいて、私は正義を確立し、すべての私の子供たちに彼らの使命を思い出させる。私は彼らを通して、破壊されたすべてのものを新しくし、貶められたすべてのものを尊いものとし、この世における新しい生活の礎を築く。 私は、無用で余分なものをすべて取り除き、人々の生活における有害なものをすべて滅ぼし、あらゆる欺瞞や悪徳、傲慢、利己主義、偽善と戦い、人類に、私が改めてあなた方に思い起こさせる、不変の法、すべての時代の法、永遠の法を再び示すであろう。 そうすれば、あなた方は真に、私の王国の近さ、普遍なる父の臨在を感じるようになるでしょう。

10. あなたがたの内にも外にも、私の臨在は、深い敬意と、魂の高揚、そして真の愛と崇敬をもって感じられ、認識されるようになるでしょう。先祖たちの幸福な日々が再び訪れるでしょう。 家族が長年にわたり愛のうちに団結して暮らし、死だけが彼らを引き離したあの日々が、再び訪れるでしょう。寛大で公正な統治者たちが地球の諸民族を治めた時代も、同様に再び訪れるでしょう。私はこれらすべてを準備しています。 そして、これらの時代は人類に光と大きな進歩をもたらすでしょう。なぜなら、私は、人類が人生の道において、その大きな闘い、転落、過ち、そして成功の中で収穫してきた経験、光、高揚、そしてあらゆるものを、善と悪、光と闇とは何かを真に認識するための基礎として、経験として、残しておくからです。 そして、畑の準備が整ったとき、偉大な種蒔き人、偉大な指導者、偉大な家長、善良な統治者、そして公正な裁判官たちがやって来るだろう。

11. もしこれらの魂が、かつて大きな光を放って人々の前に現れたならば、その力、慈愛、そしてエネルギーに驚かされた人類は、自らにこう問うだろう。「彼らは一体誰なのか？　もしかして、地上に戻ってきたダビデなのか？ もしかしてソロモンか？　それともエリヤか？　もしかすると、太古の預言者たちが戻ってきたのか？ それとも、第二の時代の主の使徒たちなのか？」と、人々はそう自問するだろう。しかし、私は、あなたがた全員があの世へ帰還するまでは、このことを秘密にしておく。その時、第三の時代にあなたがたの元へやって来た者たちが誰であったか、確実に知ることになるだろう。

12. 今この瞬間にここにいて、私の言葉を聞いているあなたがたは、心の奥底でこう言っている。「私たちはもう、このような時代を経験することはないだろう。この幸せな時代を、私たちは目の当たりにすることはできないだろう。」しかし、師はあなたがたにこう告げる。 私が予言するそれらの出来事は、現在のあなた方の生涯の彼方、遠い未来のことではあるが、私は、幸福と平和と安寧があなた方の心、すなわち現在の生活の中に満ち溢れることを許す。そして、それは、スピリチュアリズムが人間の中で完全に開花する時代に、この人類が享受することになる至福の予兆となるだろう。

しかし、その時に、私があなた方をこの世に送り出し、あなた方の忍耐、不屈の精神、そして苦痛への献身がもたらした実りを収穫させることになるかどうか、あなた方のうち誰が、あるいは誰がそれを知ることができるでしょうか？ これは、あなたがたが豊かさの中にあっても愛と慈悲を実践することを学び、最高の幸福の瞬間に父を賛美することを学んだときに実現するでしょう。

しかし、そのとき、あなたがたが幸福と心の平安という雰囲気に包まれているなら、苦しむ人々に目を向けるべきである。まさにそのときにこそ、苦しむ者のことを思い出すべきである。このようにして、私はあなたがたに、深い心の平安や豊かさの中にあっても私の教えに従うことができること、そして――苦痛が心を清める時――愛が聖化することを示そう。

13. それゆえ、弟子たちよ、今、私はあなたがたを、これから訪れる新たな時代に向けて備えさせているのだ。

天の御国がわが子らの心に宿るためには、人はまずわが正義を体験し、この世界の隅々まで清められなければならない。そして、すべてが整ったとき、わが御国はあなたがたの中に完全に現れるであろう。わが御国は、わが「普遍の光」の到来とともに近づき始めて

いる。その光は、この 第三の時代において、あなたがたの間で言葉となり、命となり、人間の声となったのである。

14. 聖霊の先駆者として、エリヤはいつの時代も道を切り開き、人々を目覚めさせてきた。彼は、散らばった羊たちを鐘の音で呼び集め、彼らが皆、囲いの中で一つとなり、主の声を聞くことができるようにするために来たのである。これこそが、この時代に父の御国、すなわち天の御国が、あなたがたにますます近づいてくるための準備であったのである。

15. この時代に主の御声を聞いた者の中で、心に少なくとも少しの平安を感じなかった者がいるだろうか。 誰が、自らの苦しみに対して、一滴の癒やしや少しの慰めを得なかったというのか。闇の道に迷い込んだ者の中で、私の言葉の中に一筋の光が差し込むのを見なかった者がいるだろうか。生きることに疲れ、自分には生きる価値がないと信じていた者の中で、私の業の中に、自らの存在の真の正当性を見出さなかった者がいるだろうか。

16. 父の御国が、あなたがたに近づいてきたのである。しかし、この御国は王だけで成り立っているわけではない。なぜなら、臣民なき王は王とはなり得ないからである。それゆえ、父は御国全体を伴って、ご自身を明らかにするために来られたのだ。すなわち、父としての御自身、そして父の真の子であり、あなたがたにとって真の兄弟姉妹である臣民たちと共に。 これこそが、私が約束していた王国である——これこそが、この時代に私があなた方のために用意していた慰めである。そして、あなた方の準備が進み、時が経つにつれて、私の言葉は成就し、私の王国はますますあなた方に近づいていくであろう。

17. エリヤは、まるで炎の戦車に乗るかのように、霊的に全宇宙を横断し、愛の軌跡を残していく——その愛とは、神の御霊の炎であり、照らし、明るくし、抱きしめ、魂と心の中で冷たくなっている者たちを温める光である。 しかし、エリヤが全宇宙を横断したならば——彼がこの世の諸国をも横断することを怠っただろうか？ いいえ、決してそうではない。彼の光はすべての人々のところに行き届き、その準備もまた同様であった。彼は道を切り開く者であり、それゆえ、彼が通り過ぎる際に魂を目覚めさせるのである。 もしまだ目覚めていない人々がいるとすれば、それは彼らが、羊飼いとしてのエリヤの新たな呼びかけをまだ待っているからに他なりません。疲れを知らない彼は、眠りについている者たち、深い眠りに沈んでいる者たちを、目覚めさせるまで揺さぶり続けるでしょう。 しかし、目覚めつつある者たちは目を開き、自分たちが生きる時代を

直感的に察知している。彼らは父の臨在と、この瞬間の重要性を察知し、その魂は世から離れ、主と結びつき、孤独の中で主を呼び求め、主を呼び、主を自らの心の奥底へと引き寄せようとする。

ある者は主を「父」と呼び、ある者は「師」と呼び、残りの者たちは「裁き主」として主を求める。しかし、まことに、あなたがたに告げる。すでに目覚めた者たちと同様に、すべての者が目覚めるであろう。その願い、その高揚、その祈りにおいて、見過ごされる者は一人もいない。 私は彼らに語りかけ、彼らに私を現し、彼らを準備している。しかし、彼らはまだ完全ではなく、霊と霊との対話も確信できていないため、この真理を疑っている。

18. 霊的にわたしの神聖な御霊との対話を始めようとする者たちの不確かさを解消するのは、いったい誰なのか。それは、あなたがた、すなわち、先駆者、使徒、そして預言者となる者たちである。あなたがたは、確かな言葉と、正確で明快な教え、そして率直な証しをもって現れ、私が人類の中にいたこと、そして今もなおすべての子供たちの魂の中に存在し、永遠に存在し続けることを伝え、さらに、私により近づくための完全な方法を彼らに教えることになるでしょう。 あなたがたは、彼らに真の霊的な崇拝――霊的な生活と地上の生活の両方にどのように応えるべきかを教え、愛、正義、そして道徳を彼らに示していくのです。

19. もし、あなたがたの周囲の人々が、自分たちの中に偉大な賜物を見出し、それゆえに自分たちを劣った存在だと感じるならば、彼らにこう伝えてほしい。「より高次の存在などいない」と。より進化した魂は存在するかもしれないが、より高次の魂など存在しない。まことに、わたしはあなたがたに告げる。義人の住む場所、すなわちわたしのすぐそばには、偉大な魂たちがいる。これこそが、わたしがあなたがた一人ひとりに示している目標である。

私は、世の終わりに、これらすべてが消え去り、あなたがたの歩む道が終わり、あなたがたがこの天の平安のオアシスという目的地にたどり着いたとき、あなたがた全員が私の食卓で等しくなることを望んでいる――私の住まい、私の御国における、無限で完全な平安の中で等しいのである。 ですから、もし人々があなた方を称賛し、お世辞を言い、羨むようなことがあっても、すべての人に等しく賜物が与えられていることを、彼らに理解させてあげなさい。

今日、私はあなたがたに、その意志を持つすべての男女が、癒やしと光を伝える賜物を持つ者となり得ることを明らかにする。今日、私はあなたがたに、すべての男女が、預言の力や霊的な視力によって、あの世や未来を見ることができることを告げる。

20. まことに、あなたがたに告げる。年齢を問わず、愛と善意を持つすべての男女は、癒やしを行い、奇跡を起こすことができる。私が、あなたがたの中から、預言の賜物、癒しの賜物、あの世からの声（ ）を伝える能力、助言し、大衆を導く賜物を持つ者たちを特定したのは、あなたがた一人ひとりに、私の業の一端を託したかったからである。しかし、あなたがたの魂と肉体は、すべての人にとって等しい形で、私の愛によって創造されたのである。 あなたがたは、ただ一つの霊から生まれ、またただ一つの「肉」からも生まれたのである。

しかし、あなたがたは人々に、主の御業において彼らはただ一部分を担うべきであることを理解させなければならない。ただし、その一部分を決定するのはあなたがたではない。あなたがたは、これらの教えによって彼らを準備させ、彼らが自らの良心と私の慈悲を通じて、父から託された賜物と使命を発見できるようにすべきである。

21. この第三の時代において、印を刻まれた者たちは百四十四万人である。 それは魂の軍団であり、私の慈悲があらゆる時代に、数多くの魂の中から印を付け、選び出した群れである。彼らに特別な使命と、他者に対する責任、そして償いの機会を与え、指導者、使徒、模範として備えさせるためである。

あの「第一の時代」におけるヤコブの十二部族は数多く、14万を遥かに超えていた。それにもかかわらず、この「第三の時代」における使命を果たすために、その非常に数多い民の中から、私が選んだのは、前述のその数だけであった。私は彼らに、人類を目覚めさせ、聖霊の道へと導くという使命を与えた—— すなわち、あなたがたを父に近づけ、人間の魂をより高い世界やより低い世界と結びつけ——すべての魂を互いに近づけ、それらを一つにし、「封印」という象徴的な行為を通じて、真の兄弟姉妹、そして神の子とする、その果てしない道へと導くことである。

22. 多くの人々はすでに印を付けられているが、他の人々はそれぞれの生き方の中で突然、わが神聖な御霊によって、あるいはあなたがたを通じて、自分たちが百四十四千人の一人であることを明らかにされるだろう。

私があなたがたに与えた、その数が満ちたしるしは、あなたがたの惑星に大きな動揺を引き起こすだろう。そして、その動揺、すなわちその出来事は、まもなくあなたがたのもとに訪れる。それが起こり、あなたがたのうちの多くの者がこの言葉を思い出すとき、、あなたがたは霊的に父の御前にひざまずき、「主よ、あなたは私た

ちに印を押してくださいました。今、私たちは一つとなりました」と言うだろう。

23.「その瞬間、全地球に災いあれ、災いあれ」と、父は真実をもってあなたがたに告げられる。なぜなら、それによって、私は人々に、超自然的なことが起きていること、すなわち自然の力や人間の意志を超えた何かが起きていることを理解させるからである。そうすれば、人類の大部分は恐怖に駆られて、祈りと悔い改めに至るだろう。

24. 神の憐れみにより、また預言者ヨハネによって予告されたとおり、第六の封印の頂点において、主の選ばれた者たちが封印されると記されている。私は、預言者が書き記し、語ったことを成就させた。 また、私があなたがたに語るすべてのことを、確信しなさい。あなたがたのうち、私が今語っていることを理解できない者はいるか。私が今、弟子たちに与えている教えを、無関心に見過ごしている者はいるか。

25. 私は、すべての子供たちに私を理解してもらえるよう、私の啓示を限定し、簡素化した。 私の威厳や栄光を、外的な行いに求めたり、私が自らを現す肉体の姿にすべてを求めたりしてはならない。もし彼らが少しばかりの霊的な変容や、姿の変化を遂げるとしても、それは彼らが私の恵みに満たされているからに他ならない。しかし、私の言葉の真意の中に私を求めなさい。そこに、あなたがたは私を見つけるだろう。

26. こうして、私はあなたがたの間で私の普遍的な光線を顕現させる。それは、あなたがたの魂にとって、癒やしとなり、教えとなり、預言となり、そして活力を与えるものとなる。 しかし、私の光線は、あらゆる信仰告白、人類が執り行うあらゆる精神的・宗教的な儀式へと降り注ぐ。その瞬間、私はすべての人の心に臨在し、人々の涙を受け止め、孤児たちに私の愛の庇護を与え、 子供たちを慈愛に満ちて愛撫し、若者の心を励まし、疲れ果てた老人を力づけ、孤独な者や見捨てられた者に寄り添い、病人を癒やし、祈りや懇願の仕方を知っている者も、そうでない者も、その最後の嘆きや悩みを、私自身が聞き届けるのである。 たとえ、苦しみの中で神を冒涜する者の侮辱を耳にしたとしても、私はその者の無知を赦す。

私はすべての人々と共にある。私は権力者から離れることもなければ、彼らを卑しめることもない。 私は、富める者も貪欲な者も拒まず、自己中心的な者からも背を向けはしない。それどころか——私は彼らを、遺産を受け取って父から離れていった子供たちとして見ている。彼らは富に溺れ、私—— ——を忘れてしまったのだ。私

が彼らよりも多くのものを持っていること、そしていつか彼らが私を必要とする日が来ることを。

27. 今日、彼らは私の名を呼び求めず、私の霊を求めず、私を愛してもいないが、私は彼らのそばにいる。 私の王国の門は、悔い改める者には常に開かれており、私の心は「貧しい者」には常に開かれている。なぜなら、霊的な観点から見れば、あなたがたは皆、貧しい者だからである——ある者は物質的な富の中にあり、ある者は悲惨な状況にあるが、私は常にあなたがたに私の賜物と恵みを与え、あなたがたを豊かにし、真の価値、真の永遠の財産の所有者とするためである。 そして、わたしがすべての人々と共にいるのだから、おお、わが民よ、なぜあなたも同様にそうあってはならないのか。わたしは、来世へと高められたあなた方の魂も、すべての兄弟姉妹を等しく見なすことを望む。すなわち、祈りと愛によってあなた方の魂が到達したその高みから、宗教団体や宗派、階級、人種によって隣人を区別することなく—— すべての人を等しい愛をもって見なし、等しい兄弟愛と慈悲をもって接すること。他者の儀式や礼拝の形式を中傷せず、ましてや隣人の狂信や偶像崇拝を嘲笑することなど決してないこと。そうでなければ、あなたがたは私が教えるとおりに私の教えを実践しているとは言えないからだ。

28. 私は太古の昔から、霊魂に霊的な自由を授けてきた。最初の霊的存在たちが私の心から生まれたその瞬間から、私は彼らを霊的な自由の道へと導き、また人間に対しても、その起源の時から思考の自由を授けてきた。 では、魂のために鎖を打ち作る者たちとは誰なのか。人間や魂を捕らえ、威圧する者たちとは誰なのか。それは、闇に圧倒され、人間の魂を誤った道へと導く、悪しき聖職者や人類の悪しき精神的指導者たちである。私はいつの時代も、愛の法則を提示してきたが、決してそれを強要したことはない。 私が、私を愛さない、あるいは私の律法に従わないという理由で、魂を罰したことは一度もありません。私はただ彼らを試み、彼らを制し、戒め、心に働きかけ、彼らの救いのための手段を用意するだけです。しかし、決して彼らを罰することはなく、ましてや復讐などするはずがありません。愛に満ちた神の御心の中に、復讐の余地などあり得ないのです。

29. それゆえ、わが民よ、すべての人々があなた方と同じように考え、信じることを求めてはならない。決して人々を断罪してはならない。あなた方の言葉に耳を傾けず、あなた方の提案や教え、助言を受け入れない者に対して、裁きを下したり、 罰を科したりしてはならない。 あなたがたは、すべての同胞を、同じ深い敬意と真の

霊的な隣人愛をもって見なすべきである。そうすれば、誰もがそれぞれの宗教的実践、教え、そして歩みにおいて、自らの霊的能力によって与えられた権利に応じた場所に到達していること、そしてあなたがたが人々を見るその地点こそが、彼ら自身の成長が導いた場所であることを理解するだろう。

30. あなたがたは、スピリチュアリズム、すなわち神から人類への第三のメッセージを、ただ伝えるだけでよい。なぜなら、第一のメッセージはシナイ山で父から与えられたものであり、第二のメッセージはキリストによるものであり、第三のメッセージは聖霊によるものだからである。しかし、この第三のメッセージには、神が御子らに遺されたすべての律法、戒め、遺言が統合されている。

31. この豊かで美しいメッセージを全人類に伝え、愛を込めて差し出せ。そうすれば、あなたがたの種が、謙虚さの中で、また大地の種がそうするように静寂の中で、人々の心の中に芽吹くのを体験することになるだろう。同様に、あなたがたの魂も、父の種が正しく蒔かれれば決して死なないことを目の当たりにしたとき、開花し、限りない喜びに満たされるだろう。

32. わたしは、あなたがたがまもなく、真の種まき人となり、同胞たちにわたしの慈悲の種をもたらす良き使徒となるよう、あなたがたを準備している。今、わたしは、わたしの言葉が去った後の時代に向けてあなたがたを準備している。そうすれば、その時にあなたがたの間で混乱が生じることなく、泣き叫ぶこともなく、あなたがたの魂に不確実さや方向感覚の喪失が忍び込むこともないだろう。

33. 私は、すべての教会が準備ができているわけではないと、あなたがたに告げた。なぜなら、彼らはこの最後の瞬間に目覚めることを理解できなかったからだ。しかし、真に準備を整えている者たちは皆、
責任者として残され、試練に直面する他の教会を助けることになる。それらの教会は、もはや私の言葉を聞くことができなくなると絶望し――長い間共に食卓を囲んできたその場所で、主の言葉を伝える使徒たちの姿を見られなくなったとき、その痛みの中で涙を流し、信仰を揺るがすことになるだろう。

34. あなたがたは、イスラエルの家の屋根が崩れ落ちないよう、真に助言者となり、柱のように強くならなければならない。 私は、あなたがたが、あの「最初の時代」のように、慰めの声となり、賛美の歌となることを望む。あの時代、あなたがたは約束の地への憧れを抱いて荒野を横断し、女性たちは男性たちを励まし慰め、困難

な道のりにおける子供たちの心を喜ばせるために、竪琴を奏でていた―― 兵士たちが戦いで疲れ果て、足裏が険しい道のりでタコだらけになっていたあの頃。その時、、イスラエルの女性たちの賛美歌が空間に響き渡り、男たちの心を元気づけ、旅路を軽やかにした。

35. それゆえ、あなた方もまた、静寂と祈りと瞑想のひととき――それが、涙や絶望、あるいは父の光が再び声の担い手たちのもとへ戻ってくることを切望する思いによって中断される時――に、賛美歌のように、慰めに満ちた声のように、こう語りかけるでしょう。「私たちは見捨てられてはいない。師は私たちの間におられ、永遠に私たちの心の中に留まっている」と。そして、預言者たちの声があなた方を勇気づけるだろう。 それは預言者たちの時代となるでしょう。その時代には、彼らの忠実な証言が、民の心の中で、まるで使者のように響き渡り、これから起こる出来事を、父とその御国が、私の啓示のこの時代よりもさらに近づいていることの証として、真に告げ知らせることになるのです。

36. 私がこの姿であなたがたのもとにとどまる時間は、すでに短い。そして私は今、1950年の最後の数日間において授けるであろういくつかの恵みの賜物について、すでにあなたがたを準備させている。

37. 私の声を伝える者たちよ、今この時点で、私の光線を最後に受け取り、私の最後の言葉を口にする者が、あなたがたの中で最も幸福であり、私の恵みに最も満たされた者になるだろうなどと考えてはならない――そう考えてはならない。

私は、最後の教えの説教のたびに、その都度、あなた方のうちの一人を通して自らを現し、あなた方の知性の一つひとつに降りていく。私のすべての恵みをもって、私があなた方一人一人を通して自らを現したあの最後の時の記憶を、あなた方の魂と心に刻み込む。それはまるでキスのようなものであり、あなた方の魂が決して消し去ることのできない感覚となるだろう。 なぜなら、あなたがたはわたしに仕えてきた者たち――この時代に、わたしが世界に向けて語りかけたための器――であり、わたしはあなたがたに愛撫と祝福を与え、あなたがたの生涯の道のりをずっと共に歩み、あなたがたが永遠にわたしの右座に立つその日、あるいはその瞬間まで、あなたがたを待ち続けるからです。

38. 私の霊界への開かれた扉となってくれた、賜物を持つあなた方に対しても、私は同様に、私の恵みと、それらの祝福された存在たちの恵みが、永遠にあなた方の心に刻み込まれるようにする。

私の霊界もまた、その守護者たちを通じて最後にもう一度その存在を明らかにし、最後のメッセージとして、愛に関する助言、心温まる光に満ちた助言、そして、これらの守護霊たちが今後も を通じて、地上の兄弟姉妹たちの歩みを見守り続けること、また、父も霊界も、この愛すべき民から決して離れることはないという証しと確約を残すであろう。

39. 教会の指導者としての任務を担っていた者たち、そして私の教えに耳を傾け、隣人を愛し、彼らを赦すことによってその教えに従っているすべての人々は、魂と身体の上に、歩み続けるための師の恵みと励ましを受けることになる。なぜなら、私の別れの後、彼らの声は力強いものとなり、生命に満ちた声、内容と力に満ちた言葉となるはずだからである。

彼らの持つすべての賜物は、最後の「瞬間」において活気づけられるであろう。彼ら一人ひとりが、光の松明へと変容した魂となり、これらすべての松明が民の先頭に立ち、民が迷い出さないように導くのである。 なぜなら、彼らは内省の時、そしてその後の闘争の時期においても、精神的に民の守護者であり続け、奴隷状態の罠や落とし穴、誘惑に満ちた待ち伏せ、あらゆる障害から民を解放し、信者たちを集会の場へと導き続けなければならないからです―― 祝福された集いの場、すなわち霊的な団結、理想と決意の融合、そして私が託した使命への服従と遂行における団結へと導き続けるためである。

40. 預言者たちよ、わたしはこう告げる。あなたがたは、かつて経験したことのないような栄光に満ちた幻を見るだろう――それは、あなたがたが将来、展開し、受け取るようになる啓示の先駆けである。 なぜなら、これらの預言者たちは、まだ達すべき高みに至ってはいないからだ――彼らの目は、見るべきすべてのものを見てはおらず、彼らの口は、預言すべきすべてのことを語り尽くしてはいない。しかし、彼らが――良心の導きによって――到達する浄化は、極めて強力なものであり、彼らの魂や口から、決して偽りや闇が生まれることはないだろう。 彼らは常に、真の霊感と、偽りの誘惑的な霊感とを見分けることができるだろう。彼らは、父の慈悲によって、人類へのメッセージとして父が彼らに授けるものを受け取ることを知るだろう。

41. この時代、たゆまぬ努力を続けてきた私の「金のペン」たちは、これからも預言者たちの証を共に書き記し、自らの霊感も書き留め続け、さらに、民の中に教師として現れる者たち――すなわち、霊感を受けた者たちの言葉も書き記し続けるだろう。

42. わたしはまた、わたしの「柱」たち――すなわち、民を内なる静寂、敬意 、そして魂の高揚の道へと導いた心たち――をも忘れることはない。彼らもまた、将軍の指揮下にある隊長たちのようであった。 彼らは、ユダ族――マカバイ族が偉大な軍司令官であり、無敵の戦士として、城壁に突破口を開き、城壁を打ち倒し、民族全体を支配したあの部族――に支えられた、荒野のモーセやヨシュアのような存在であった。彼らは、約束の地を相続すべき主の民を背後に持っていたからこそ、そのような偉業を成し遂げることができたのである。 師は、あなた方、「柱」たちに対して、このような例えを挙げているのだ！

43. そして、弟子たちから成る民もまた、最後の瞬間に大きな喜びを味わい、師から偉大な教えを受けることになる。 おお、民よ、私があなた方に託す偉大な恵みの賜物の一つは、1950年の終わりに、あなたがたが最後となるが、霊界、守護天使、助言者、あるいは癒しの存在たちと、また、地上ではあなたがたの両親、子供、兄弟姉妹、友人、あるいは親族であった魂たちとも、つながりを持ち得ることを私が許すということである。 私は、あなたがたが彼らを最後に物質化させ、人間としての姿で感じ取ることができるよう許し、その交わりの中で、愛撫、魂の抱擁、光に満ちた助言、そして「私たち全員が主の御許で一つになるまで、その道を歩み続けなさい」と告げる希望の声を授けるであろう。

44. それゆえ、わたしは今すでに、愛と優しさをもってあなたがたを準備し、あなたがたの感性を磨き、あなたがたの心を和らげている。それは、そうした瞬間が、あなたがたにとって互いに近づき、和解し、赦し合う機会となるためである。 そうして、陰険な仕打ちや、悪意に満ちた視線、両刃の剣が、あなたがたの心に刻んだ深い傷が、鞘に収められ、これらすべてが真の愛と、兄弟姉妹間の赦しによって消し去られるように； そうして、その瞬間にあなたがたの目から涙がこぼれるとき、その涙が真の愛に由来し、目からだけでなく、あなたがたの魂の高き感情の泉からも湧き出るものとなるように。 あなたがたの肉体の腕が互いに絡み合うとき、それは単なる肉体の腕以上のもの、すなわち魂の絆であってほしい――私が地球上のすべての魂を互いに結びつけた愛の絆であり、その瞬間、あなたがた全員が私の律法の中で互いを認め合うのである。

そして、私の言葉が終わり、師の声が広大な空間に遠いこだまのように響き渡るだけとなったとき、その愛、その緊密な抱擁こそが、あなたがたが旅路において互いに与え合う温もりであり、慰めであり、寄り添いとなるべきである。そして、この愛と、互いへのこ

の慈悲を通じて、あなたがたは私が求める聖域 を仰ぎ見るべきである – 私が住まいたいと願うその神殿、そしてそこで私があなた方に見られ、聞かれ、感じられるその神殿 – 私の意志に従って世界が入り、私を感じ、私を見、私を崇め、そして聖霊があなた方の知性を通じて地球に送るメッセージであるスピリチュアリズムを通じて、永遠に私を愛することができるその神殿である。

45. あなたがたは、その霊的なメッセージをもって、子供たち、若者たち、そして高齢者たちのところへも赴かなければならない。もはや国境など見ないで、「父よ、私の国に御霊を注いでください」などと言ってはならない。「主よ、諸国民を解放してください」とも言ってはならない。今、私にこう言いなさい。「父よ、私たちの隣人を祝福し、あなたを傷つける私たちすべてを赦してください。」

もはや国籍など見ず、祈りの中でそれを口にすることもやめなさい。高みへと舞い上がり、天使たち――常にすべての人々のために立ち上がり、祈りを捧げている者たち――と一つになったとき、あなたがたの魂の平安を、すべての隣人へと注ぎ出してください。そうすれば、人種が再び一つにまとまり始める様子を、あなたがたは目にするでしょう。 あなた方を分断してきた言語は、それを知らなかった人々にも次第に理解されるようになるでしょう。カーストや氏族は消え去り、謙虚さと理解に取って代わられるでしょう。 高みにいた者たちは――試練に打ち負かされて――自分たちが卑しいと見なしていた者たちのところへ降りてくるでしょう。そして、下にいた者たちは、上にいた者たちの高みに達するために昇っていくでしょう。なぜなら、今は償いの時であり、この償いの中に、完全なる私の神聖な正義があるからです。

今ここにいるすべての魂の中に、あなたがたの行いを量る私の天秤がある。それゆえ、私はあなたがたに告げる。私は、完全さをもって裁き、導くことを知る者であり、私だけが、あらゆる生命、あらゆる運命の奥義に深く入り込むことができるのだ。

46. あなたがたは、私の神聖なる御霊の平安が全世界に降り注ぐよう、目を覚まし、祈りなさい。

私の平安が、あなたがたと共にありますように！

教え 331

1. 人間の知性によるこの啓示を疑う者は、他の被造物に対する自らの優位性を否定しているかのように振る舞っている――あたかも自らの精神を否定し、数え切れないほどの試練、苦難、闘争を経て到達した精神的・知的な水準に気づきたくないかのようだ。

2. 私があなたがたの知性や精神を通じて自らを現していることを否定することは、自分自身を否定し、下等な被造物の立場に身を置くことを意味する。

3. 人間が神の子であることを知らない者はいるだろうか。人間が自らの内に魂を宿していることを知らない者はいるだろうか。それならば、父と子たちの間に、互いに意思疎通を図るための手段が一つあるいは複数存在しなければならないと、なぜ信じないのか。

4. 私は知性そのものであるから、あなたがたの知性を通じて語りかける。私は霊そのものであるから、あなたがたの霊に語りかける。しかし、私の啓示を否定する者たちが、私を霊として見ようとも、認識しようともしないのに、どうしてこの真理を理解し、受け入れることができるだろうか。 彼らは心の中に多くの誤った観念を抱いており、例えば、私が人間の姿をした神聖な存在であり、私とつながるためには象徴や像を通じて私を表現しなければならない、といった考えを抱いているのです。

5. 何世紀にもわたり、このように私を求め続けてきた人々は、自分たちが祈りを捧げ、儀式を行う、その像や彫刻の無言さに慣れてしまった。そして、やがて彼らの心の中には、「神を見たり、聞いたり、感じたりするにふさわしい者は誰もいない」という考えが根付いてしまったのである。「私は無限に高き存在であり、人間に近づくことなどできない」と主張することで、人々は私に畏敬の念を捧げていると信じている。しかし、彼らは誤っている。なぜなら、私があまりにも偉大であるために、人間のような小さな被造物と関わることはできないと主張する者は、私の霊があなた方に明らかにした最も美しいもの、すなわち「謙遜」を否定する無知な者だからである。

6. もしあなたがたがキリストを信じ、キリスト教徒であると主張するならば、主があなたがたに近づいてくださるに値しないなどという、そのような荒唐無稽な考えを抱いてはならない。神の「御言葉」が人間となったという、神の愛の証しこそが、まさにあなたがたのキリスト教の信仰の基盤であることを、忘れてしまったのか。

魂が曇り、知性が弱い、罪深く肉欲に満ちた人々の理解力に、、私が神の声を人間の言葉として聞かせたこと以上に、これほど具体的で人間味あふれる接近があったでしょうか？

7. これは、人間に対する愛、謙遜、そして憐れみの最大の証であり、私はそれを血をもって確証した。それは、あなたがたに常に心に留めておくためである。すなわち、私にとって不適格な者は誰一人としていないということだ。なぜなら、私は、泥や闇、そして悪徳の中に最も深く迷い込んでいた者たちのためにこそ、私の言葉を人間として現し、私の血という命の雫を注ぎ出したからである。

8. では、なぜ、これらすべてを信じている者たちこそが、今、私の存在と啓示を否定するのだろうか？ なぜ彼らは、神は無限であり、人間はあまりにも低俗で、あまりにも取るに足らず、ふさわしくない存在であるから、これは不可能だと主張しようとするのか？まことに、わたしはあなたがたに告げる。この時代にわたしの啓示を否定する者は、あの「第二の時代」におけるこの世でのわたしの臨在をも否定し、わたしの愛と謙遜をも否定しているのだ。

9. 罪人であるあなたがたにとって、罪の中にあって私から遠く離れていると感じることは、ごく自然なことです。しかし、私にとっては、あなたがたが過ちを犯せば犯すほど、魂を汚せば汚すほど、むしろ私があなたがたに寄り添い、光を与え、手を差し伸べ、あなたがたを癒やし、救うことが、ますます必要であると感じているのです。

10. 私が再び子供たちに現れたとき、多くの者が私を否定するだろうと知っていた。それゆえ、私は当時すでに再臨を予告していた。しかし同時に、その際の私の臨在は霊的なものであることも明らかにしておいた。もしあなたがたがこれを疑うならば、福音書に私の言葉を記したあの四人の弟子たちの証言によって確かめてほしい。

11. なぜ私が人間としてこの世に戻り、再び私の血を流さなければならないというのか。それは、当時の私の業と犠牲の死を実りのないものと見なしているかのようであり、また、当時から今日に至るまで、人類が霊的に全く発展していないと私が考えているかのようである。

12. 私は、あなたがたが今この時代に抱く物質主義にもかかわらず、あなたがたの本質の中核には発達した魂があるはずだと知っていた。それゆえ、今回の私の啓示は霊的なものとなったのである。

13. 今、私は霊としてここにあり、輝く「雲」からあなた方に私の言葉を送り、これらの伝達者を通じてそれを人間的な言葉に変え

ている――それは、あなた方全員が到達すべきあの啓示、すなわち「霊から霊への対話」に向けた準備としての教えである。

14. 私が、私の代弁者たちの口を通じて人間の言葉で伝えられるこのメッセージをあなた方に届けたのは、 私の言葉が途絶え、あなた方がそれを徹底的に研究し理解するために必要な時間を費やした後、喜びの知らせの使者として外へ出て、私の啓示を同胞たちと分かち合うためである。

15. このメッセージに加え、私は人々に直接、彼らの存在の核心にまで届き、徐々に彼らの心と知性を照らし出す光を遣わした。

16. 私のメッセージがあなた方を通じて世界に届けられるとき、あなた方は、畑が確かに整えられていたことに気づくでしょう。

17. そう、弟子たちよ、今こそ、人々が――自覚することなく――自らの霊的な未来について考え、神の啓示として知られるものを探求し、また自らの使命を直感的に悟る時である。このようにして、彼らは心の内なる静寂の中で思索を重ね、多くの真理を理解するに至るのだ。

18. こうして、多くの人々の心の中に光が灯り、彼らはますます宗教的狂信を捨て去り、偶像崇拝は彼らの心の中でますますその力を失いつつある。

19. 彼らは、そのことに気づかぬまま、ますます霊性への道を切り開いていっている。未知の勇気、信仰、そして高次の力が、彼らの恐怖や偏見を乗り越える助けとなり、意志が強まるにつれて、彼らの思考はより確固とした、明快で、的確なものになってきた。

20. 真実の光が、魂から魂へと受け継がれ、人々に届いていく様子を見よ。この光は、この世の目には見えないが、いったい誰がその進撃を阻むことができようか。

21. 私がかつての啓示においてあなたがたに知らせた本質と真理は、私の言葉が記されていた忘れ去られた書物の中で失われることはなかったし、また、人間によって改変されたという事実によって、その真意が損なわれることもなかった。 真理はあらゆる人間の貧しさを超越しており、あらゆる瞬間に現れている。しかし、その光は、人間が自らの発展の道において、新しく、断固とした、決定的な一歩を踏み出すに至ったときに、より鮮明に認識されるようになる。

22. かつての時代に霊的生活の神秘が明らかにされた象徴、たとえ話、そして比喩は、今日という時代において理解されることになる。この時代には、長い霊的経験の光が、あなたがたすべてが律法

、 の教え、預言、啓示、そして約束を正しく解釈する助けとなるだろう。

23. 私のメッセージは、私が愛という神聖な種を蒔いたあなたがたの魂に、実を結ばせる雨のように降り注ぐ。 今日は、あなたがたが地上の労苦からの休息に捧げる日であり、魂が静かに祈り、瞑想する機会を与え、それによって、あなたがたの魂にとって永遠の命の糧である私の御言葉を聞く準備をする日である。

24. 愛する民よ、わたしの働きは、あなたがたの魂に高次の世界において生きることを教え、それによって魂を光に満ちたものにすることを目的としている。

25. わたしは、あなたがたをわたしの弟子とし、わたしの霊の子としてわたしを感じ取れるようにしたい。あなたがたはわたしの本質そのものであり、わたしの分であるのだから、どうして自分の中にわたしの存在を感じないというのか。 あなたがたがわたしを感じないのは、そのことに気づいていないからであり、霊性や準備が欠けているからです。そして、どれほど多くのしるしや感情的な印象を受け取っても、それを物質的な原因のせいにしているのです。*それゆえ*、わたしはあなたがたに言います。わたしがあなたがたと共にいるにもかかわらず、あなたがたはわたしの存在を感知していないのです。

26. 今、私はあなたにこう言います。あなたがたは私の分身であるのだから、自分の内なる存在として私を感じることは、ごく自然なことではないでしょうか？ それを踏まえて、やがてあなたがたの霊が私の霊と融合していくのは、当然のことではないだろうか。私は、すべての人間に本来備わっているべき真の偉大さを、あなたがたに明らかにする。なぜなら、あなたがたは道を踏み外し、この地上で偉大でありたいという欲望のゆえに、霊的に小さくなってしまったからだ！

27. あなたがたは物質的な価値を、それらが持つ以上の重要視してきた一方で、霊的なことについては一切知りたがらず、この世への愛があまりにも大きくなったため、霊的な事柄に関わるあらゆるものを可能な限り否定しようとさえしている。なぜなら、その知識が地上の進歩と矛盾すると考えているからだ。

28. 私はあなたがたに告げる。霊的な知識は、道徳の面においても、科学の面においても、人間の進歩を妨げるものではない。それどころか、その光は、現在の科学にはまだ知られていない、無限の知識の豊かさを人間に明らかにしてくれるのである。

29. 人間が霊化への階段を登ることを拒み続ける限り、彼は真の栄光に近づくことはできないだろう。その栄光こそが、ここ、父の懐において、神の子であること――すなわち、その愛と高揚と知識によって、わが霊にふさわしい子であること――という最高の幸福をもたらしてくれるのである。

30. おお、民よ、あなたがたはわたしを感じたいのか。それならば、従順で謙虚であり、もはやわたしがあなたがたと共にいるよう願ってはならない。わたしの意志によって、あなたがたにわたしを現すその瞬間を待つことに満足せよ。

31. 私は、人間の知性を通じてこの啓示によって、私の臨在を感じさせている。しかし、あなたがたに言わなければならないのは、あなたがたがこの啓示を功績によって得たのではなく、私があなたがたに対して抱く、愛から生まれた憐れみこそが、私があなたがたに近づき、私の臨在を感じさせるようにしたのだということである。

32. わたしは、あなたがたがわたしのメッセージを非常に必要としていること、あなたがたの魂の中にわたしの光への飢えと渇きがすでに非常に大きくなっていること、そしてあなたがたがわたしの呼びかけに駆けつける準備ができていることを知っていた。なぜなら、地上の苦しみはあなたがたを清め、あなたがたは感受性豊かになっていたからである。 それゆえ、私はこの姿であなたがたの元に現れ、このメッセージは、あなたがたが「霊から霊へ」と私を求めなければならない時への準備に過ぎないことを、あなたがたに理解させたのです。その時には、私が自らをあなたがたに明らかにするのは、もはや私の憐れみによるものではなく、あなたがたの魂の高揚によるものとなるでしょう。 その時には、あなたがたはもはや、社会から疎外された者でも、目が見えない者でも、霊的なものを受け入れられない者でもなく、霊から霊への対話とはあなたがたにとって何を意味するのかを完全に理解し、それに絶対的な信仰を持って、この恵みに値するために可能な限りのことをすべて行うようになるでしょう。

33. その時、あなたがたはすでに、私の霊があなたがたを通して現れ、私の臨在があなたがたの思考、言葉、そして行いの中で感じられるようになるために必要な光を手に入れているだろう。

34. 今日、あなたがたは、長い間さまよってきた巡礼者のようだ。しかし、この時、私の響き渡る鐘があなたがたを呼び寄せた。あなたがたの一部は、恵みの泉へと急いでやって来た。私は、私の「働き手」たちを迎え入れ、この民が霊的に一歩一歩前進し、隣人へ

の愛を私に見せてくれているのを見て、喜びを感じている。 あなたがたはかつて硬い岩のようでしたが、私の言葉という鑿があなたがたの心を削り、それを聖所へと変えていったのです。

35. あなたがたがより多くの光を得、あなたがたの心の中でわたしの言葉が花開くように、わたしは『いのちの書』からさらに一ページをあなたがたに知らせる。わたしは、自らを貧しい者と見なす者たちのために、霊的な慈悲という宝をもたらす。

36. あなたがたはこの地上の楽園を、涙の谷へと変えてしまった。わたしは、あなたがたの魂が、 肉体とともに、あなたがたの父が人類の幸福のために用意されたすべてのものによって活力を得、その甘い実を味わい、喜びに満ちた心で父と霊的な調和を保てるようにと、これをエデンの園としてあなたがたに託したのだ。

37. 新しい夜明けを前にして、暗い影から自らを解き放ち、わたしを賛美した者たちは幸いである。わたしは、わたしの言葉によって、命の精髄と光をもたらし、あなたがたを闇から引き離した。それは、あなたがたが、わたしが切り開いた道を堅く歩み続けるためである。

38. あなたがたは、やがて花を咲かせなければならない種を育むことを私に託された、私の働き手たちである。 私は、旅人がその木陰で休めるよう、葉を茂らせた力強い木をあなた方に託した。しかし、あなたがたが眠っている間に誘惑に襲われたため、嵐がその木から葉を奪い去ってしまった。嵐がこの木から引きちぎった葉は、私の慈悲が拾い集め、それらを用いて再びその枝に葉を茂らせるのだ。

39. わたしはあなたがたにこの木の果実を授け、あなたがたはわたしの神聖な愛の限りない甘美さを味わった。わたしの働き人のうち、何人かは主人のように振る舞い、わたしが彼らに託した木を見捨ててしまった。しかし、多くの人々がその木陰にやって来て休息し、その果実を糧とするだろうから、わたしはこれからもその木を育て続ける。

40. あらゆる時代、あらゆる試練の中で強さを保ち、多くの人々をわたしのもとへと導いた者たちは幸いである。わたしは彼らを力づけ、啓発し、時代の無情さからわたしの霊的なマントで彼らを守る。わたしの民が日々、わたしの言葉によって活力を得られるよう、わたしは彼らの唇から苦難の杯を取り除く。

41. 多くの人々が、私の父の懐を慕い、その木から命の果実を求め、その甘さを味わおうとして、長い列をなしてやって来るだろう。私は彼らの中に、私の選ばれた者たち、病める者たち、そして困

窮する者たちを待ち望んでいる。 エリヤが彼らをわたしに紹介するだろう。彼らは、いつの時代も慰めを見出すことなく、極めて苦い杯を飲み干してきた、悲しみに満ちた心と、抑圧された魂たちである。しかし、時代も嵐も、その木を破壊することはできない。その葉は常に樹液を宿し、その実も増え続けるだろう。

42. わたしは、わたしの僕たちから闇と自己欺瞞を取り除き、わたしの神聖な愛をもって彼らの心を整え、わたしの御霊の平安を彼らの中に注ぎ込んだ。わたしは彼らに、わたしの律法と わたしの業の白さを示し、彼らが自らの誠実さと清らかさを守り抜くようにした。

43. 多くの人々が自らを裁き手と称し、わが業の純粋さを誤解し、人間の知性を通じて現れるわが霊の啓示を否定するだろう。しかし、わたしは全能者であり、道であり、光である。そして、わが意志がそう定めたときはいつでも、人類がそれに支えられて立ち続けられるよう、慈悲の杖を差し伸べてきた。

44. わたしは、あなたがたの魂と肉体に命を与える者である。あなたがたがわたしのそばにいるとき、痛みはあなたがたから遠ざかり、心の奥底でわたしの愛の優しさを感じるだろう。また、それは良心があなたがたを問いただし、罪の中で生き、自らの使命を忠実に果たさなかったことに対して、自分自身に恥を感じさせる瞬間でもある。

45. 私は、あなたがたが日々物質主義から解放され、私の神性に奉仕する者――霊と霊との対話を成し遂げる準備が整った者――となるために、霊性への道を明らかにした。

46. 悲しみに満ちた心を持つ者たちが、私にこう言う。「父よ、あなたの預言者たちによって予告されたように、戦争はいつ終わるのでしょうか？」それに対し、私はこう告げる。平和の時は、私の神聖な指によって示されるのだ。

あなたがたが霊化すれば、澄んだ鏡のようになるでしょう。そして、そのように整えられたあなたがたを見る者は皆、あなたがたに問いかけざるを得なくなり、あなたがたの唇から発せられる最初の言葉から、彼らはあなたがたの心の底から湧き出る愛を受け取るでしょう。 そうして、あなたがたはわたしの弟子として認められ、人々は飽きることなくあなたがたの言葉に耳を傾けるようになる。これこそが、平和の時代の始まりである。

47. あなたがたの魂の衣が汚されないよう、常に白く保たれるよう、そしてあなたがたが周囲の人々から崇められ、尊敬されるよう、その衣を大切に守りなさい。あなたがたの肉体は儚いものですが

、あなたがたの魂は永遠に属しています。それゆえ、あなたがたが永遠の故郷に住むことができるよう、私があなたがたに託した賜物を活用しなければなりません。

48. あなたがたがわたしを理解し、あなたがたの心が、わたしの言葉が書き記され、それを学び実践し、謙遜と柔和の模範を示すための、開かれた書物のようなものであるとき、わたしの啓示は、あなたがたにとってどれほど恵み深いものであろうか。 道中で疲れ果てて倒れている人を見かけたら、その人を起こし、力を与えてあげなさい。その人が求めるものを拒んではならない。なぜなら、私はあなたがたに慈悲を託したからである。 の旅の荷物から何かを分け与える者は幸いである。その者が兄弟に施した善行は、何倍にもなってその者に返されるからである。 あなたがたの魂は、日々尽きることのない霊的な宝の所有者である。

49. 畑で種を育てる善良な農夫のようでありなさい——その種は、人の努力によって物質的に花開き、実を結ぶのである。 信仰と希望を持って農具を手に取り、土地を耕し、作物から雑草を取り除き、雨が降って花が咲き、人類の糧となる実が豊かに実ることを願うのです。

50. わたしは、ある約束を果たすために、あなたがたの中に現れた。 わが愛は、この啓示に至るまでの時間を短縮するために、ある時を定めた。ある者たちは信じるが、他の者たちは疑う。しかし、父は、御自身を認識しなかった者たちに対して、どうすべきだろうか。痛みは、あなたがたの邪悪な心を清めるために再び訪れ、増殖した雑草は再び根絶やしにされるだろう。

51. イスラエルよ、あなたがたがわたしの業の責任者であることを悟りなさい。諸国において奴隷として苦しみ、泣いている人々の痛みを感じなさい。彼らは、わたしの力強い憐れみが彼らを解放し、平安を与えてくれることを望んでいる。 罪のない子供たちは泣き、道端で無防備にさらされている。老人は嘲笑され、処女たちは誘惑されている。こうして、人々は互いに、憐れみも良心の呵責もなく、相手の生存の基盤を奪い合っているのだ。

52. イスラエルよ、わたしはあなたを、再建し、人類に平和と希望を与え、救いへの扉を示すために備えてきた。

私の平和があなたがたと共にありますように！

教え 332

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. 愛する弟子たちよ、私はあなたがたが祈りを捧げているところに出会う。その祈りの中で、あなたがたの魂はこの世の平和を願っている。 それは、私があなたがたに教えてきたこと——私が再びあなたがたに啓示したことである。すなわち、あなたがたは平和の使者であり、この祝福された賜物を運ぶ者たちである。今、この惑星から平和が失われてしまったこの時代において、人間の心は平和を拒み、不安や憎しみ、息もつけないほどの激動と動揺だけがそこに侵入しているのだ。

平和の使者として、また、あなたがたが肉体をもって地球上のあらゆる場所、道、地域を訪れてこの神聖なメッセージを伝えることはできないため、私はあなたがたの魂に、霊的な祈りを通じて高揚し、そのメッセージを伝えることを教えた。そうすることで、あなたがたのすべての同胞に至福、慈愛、そして祝福が溢れ出るようにするためである。

2. 私は教えの中で、特定の国家のためではなく、全世界、人種や国籍、社会階級を問わず、すべての人々のために私を祈るべきだと説いてきました。そして、高次の来世に短期間留まるあなた方の高められた魂は、そこからただ父の偉大なる普遍的な家族のみを見据え、すべての者の苦しみ、悲惨、痛みに目を向け、彼らのために私を祈らなければなりません。 そこから、あなた方より高い霊的世界にいる存在たちを見ることができ、私が教えたように、霊的世界に敬意を持って呼びかけ、そこからインスピレーションと保護を受けるために、彼らに助けを求めるべきである。このようにして、おお、弟子たちよ、あなた方は万物を包み込む愛をもって愛するようになるのだ。

3. 人々は、キリストが第二の時代に、人種を区別することなく互いに愛し合うことを教えたと言う。しかし、この第三の時代において、わたしはあなたがたにこう告げる。キリストであるわたしが、第二の時代にあなたがたに教えたのは、万物を包み込む愛であったのだ。 しかし、私はまず、人間同士としての愛を教えることから始めなければなりませんでした。そうしてこそ——時が来れば——あなたがたは霊的な愛をもって互いを愛することができるようになるのです。もはや人種を区別することなく、さらには世界さえも区別することなく。

私は、今私が教えているこの愛の中に、あなたがたの魂がすべてを包み込むことを望む——あなたがたが父を愛するように、すべての被造物を愛することを——あなたがたが、この世において互いに、父があなたがたを愛してくださるのと同じ愛の一粒をもって愛し合うことを—— 私が創造したすべてのものを愛し、私があなたがたに受け継がせ、託したものを無関心でいたり拒絶したりしないように。

4. 人間は、私の教えを常に正しく解釈しているわけではない。私は、私の律法が是認し、 に許されている良き実を、あなたがたが軽んじたり、それを味わうことを控えるよう、決して教えたことはない。 私が教えたのは、不必要で余分なものを追い求めたり、ましてやそれを愛したりしてはならないということ、そして、魂や体に有益な果実のように、有害で許されないものを利用してはならないということだけである。しかし、魂や心にとって許され、その益となるものはすべて、私の律法の範囲内にあるため、私はそれをあなた方に勧めてきたのである。

5. 私は、もう一つの教えをあなた方に与えました。それは、魂が召される時が来たとき、その魂が肉体を脱ぎ捨てることを知っていなければならないということ——すなわち、魂があの世の敷居を越えなければならないとき、この世との結びつきやつながりを断ち切ることを知っていなければならないということです。 しかし、まことに、私はあなたがたに告げます。魂が一度肉体から解き放たれたとしても、地上の物事に対して無関心になるわけではありません。むしろその逆である——師はこう告げる。その時、私はあなたがたの魂がより大きな悟りを得ることを許す。そうして、創造の業をさらに深く称賛し、人生の真意にさらに深く入り込み、霊的な翼をもって万物を包み込み始め、地上では知性にとって境界であったあの地平線を、その視線が越えていくようにするためである。 そうして初めて、魂は真の普遍的な愛をもって、父と神聖な創造物を心から愛し始めるのである。そうして初めて、魂にとって、あらゆる人間的な地位、一族、あるいは社会的階層は消え去る。そうして初めて、魂はもはや地上の家族として自分に属していた者たちだけを愛するのではなく、すべての隣人を霊的な愛をもって愛し始める。これこそが、私が常にあなたがたに教えてきた愛である。

しかし、もしあなたがたの中に、この期間、私の言葉をほとんど聞いておらず、それゆえに私の業にふさわしく振る舞えない、あるいは理解できないのではないかと恐れ、この期間、頻繁に私の言葉を聞き、私の御言葉を多く受け取ってきた人々を羨ましく思ってい

る弟子たちがいるならば、私は彼らに真実を告げよう。心配する必要はない！ 弟子たちが私の言葉を頻繁に聞いていたか、あるいはほとんど聞いていなかったかは、何の意味もありません。なぜなら、悟りの一瞬があれば、その瞬間にあなたの魂は変容し、師となり、愛とインスピレーションの尽きることのない泉となるからです。

6. 私のこの言葉を慰めとして伝え、それを信じなさい——私をほとんど聞いたことのないあなた方よ！ まことに、私はあなた方に告げる。あなた方はその道のりで、この「第三の時代」において私を一度も聞いたことのない人々に遭遇するだろう。そして、彼らの間から、スピリチュアリズムの偉大な使徒たち、偉大な直感的な預言者たち、偉大な霊感を受けた者たちが現れるのを目撃することになるだろう。 あなたがたは、聖霊の賜物 が人類の中に現れ、直感によって開花していくのを目にするだろう。人々が霊と霊とで意思疎通を図るのを目にして、こう言うことになるだろう。「少なくとも少しは師の御声を聞くことができた私たちは、なんと幸いなことか。なぜなら、これらの同胞たちは、人間の知性を通じて師の御声を一度も聞いたことがないのだから。」

7. マルコは、私の選んだ十二使徒の一人ではなかったにもかかわらず、私の教えの偉大な使徒であったことを、覚えていないのか？ 神の師の教えを心に留め、それを紙に書き記し、人類への『黄金の書』として残すことができた、あの使徒の子供。彼は幼少期、この世の無垢さの中で私を聞き取ったが、師の手が神のメッセージを彼の心に書き記すことを許したのだ。 パウロは、神なる師の声を一度も聞いたことがなかったにもかかわらず、回心したことを覚えていないのか。彼はかつて私の使徒たちを迫害していたにもかかわらず、私を愛し、内面を高め続け、ついには私の教えにおける偉大な戦士の一人となったのだ。

8. この第三の時代にも、同じことが起こるだろう。わたしもまた、外見上は物質的な文字で書かれ、内面では聖霊の光によって照らされた一冊の本を、あなたがたに残す。それは、あなたがたがこの源から飲み干すため——すなわち、わたしの教えを通じて、あなたがたを待ち受ける大いなる戦いのための力と霊的な光を得るためである。 なぜなら、あなたがた全員が、痛みや、あらゆる被造物の道に存在する賢明な試練によって実り豊かなものとなった人類に向き合うために、同等の備え、力、そして霊的な知識を持つべきだからである。

9. 大きな試練が訪れたとき、驚かされるのはあなたがたではなく、あなたがたの同胞であるようにと、私は願っている。いかなる冠

や王のマントにも怯えず、いかなる断頭台や脅迫にも恐れおののかず、いかなる中傷にも臆することなく、いかなる侮辱もあなたがたの心を傷つけることがないように。 そうすれば、私があなたがたを通して、知恵と謙遜と正義と愛をもって自らを現すとき、世界は驚きを隠せないだろう。しかし、私はこれらの特質を言葉だけで現すつもりはない——私はあなたがたの行いの中に現れたいのだ。 かつて、キリスト教の初期の時代には、師の血、弟子や使徒たちの血、そして殉教者たちの血こそが、最も雄弁に「語りかけていた」ことを思い出してください。なぜなら、人々の心は硬く、真理や言葉が血によって封印されていなければ、信じられなかったからです。

今日、父も世界も、あなたがたに血を求めたり、あなたがたの命を要求したりはしない。あなたがたが、その命をもってわたしの真理を確証するために。 しかし、人々はやはり証拠を求めるだろう。そして、あなたがたは彼らにその証拠を与えなければならない。その証拠は、愛と啓示と霊性によって成り立つものでなければならない。なぜなら、あなたがたの同胞たちは、それらを渇望しているからだ。あなたがたが水晶のように澄んだ水を差し出し、命のパンを差し出すならば、世界はあなたがたを信じ、あなたがたを通して、私を信じるようになるだろう。

10. 弟子たちよ、わたしはあなたがたに、大きな教会や小さな宗派と対峙することになると告げた。しかし、どちらに対しても恐れることはない。 私があなたがたに託した真理は明白であり、私が教えた言葉は、外見上は明快で単純だが、その意味は無限の深みを持っている。それらは、あなたがたが戦い、勝利を収めるための強力な武器である。

しかし、私はあなたがたに告げる。この地上には、物質主義と不信仰に満ちたある民族が立ち上がり、あなたがたが「イスラエル」と名乗る権利を否定し、メシアの再臨を目撃したというあなたがたの証言を否定しようとするだろう。その民族とは、ユダヤ人である。 あなたがたは、そのことを考えてみなかったのか。その民は、自分たちの真ん中で、正義をもたらし、再び地上のすべての民の上に彼らを立たせる、自分たちのメシア、救い主の到来を待ち望んでいる。その民は、私が常に*彼ら*のもとに来てきたことを知っており、この第三の時代において、こう言うだろう。「なぜ神は他の民のもとに来るべきなのか？」——しかし、見よ、ここに私の教えがある！

11. あなたがたの世の初期の頃から、私はすでに人類の中にイスラエルの種を育み始めていた。 世代から世代へと、私はそれを磨き

、完成させてきた。そしてついに、すべての者の中から選ばれた魂たちからなる家族を形成し、一つの民の創造を始める時が来た。私は知恵をもって、私の民を完全なものとするために、一人ひとりの魂、一人ひとりの人間を選び出した。

12. 私の憐れみによって、その民を構成するすべての魂が形作られ、強められ、その能力が開花し、またその時代に応じてそれぞれの肉体が優雅に整えられた後、私は彼らを地表に広めるようにした。そして、私は常にこの民に語りかけ、彼らと共にあり、その族長たちを通じて彼らと交わる機会を常に模索してきた。

私は、その王たちや預言者たちを通じて、その民の部族たちに語りかけ、その指導者たちを通して御自身を現し、常に の正しい道へと導き、私がすべての被造物の上に立つことを思い出させ——彼ら自身の間の正義を思い出させ、この民が地上の他の諸民族の守護者となるように—— この民が、地球の隅々まで照らす生ける松明となるため——すべての国々にとっての祝福となり、苦しむすべての人々にとっての平和のオアシスとなるためである。

13. それゆえ、わたしは彼を心身ともに恵み、乳と蜜が溢れる肥沃な土地を与えた。 私は、彼らを強くし、鍛え上げ、善と悪、光と闇、豊かさと飢え、自由と隷属を知ることができるようにと、彼らの大きな過ちを通じて彼らを試した。さらに、彼らが試練にさらされることを許した。そして、民を襲った大きな試練と動揺の中で、ある者は倒れ、またある者は私に忠実であり続けた。 倒れた者たちによって、他の者たちも苦しみ、弱い者たちによって、強い者たちも試練にさらされた。しかし、ある者たちの弱さと、他の者たちの忠誠と不屈の精神とは、一体何であったのか。

弱い者たちは、地上の富への無節操な愛、卑しい情欲、限りない権力への欲望、邪悪な崇拝、偽善的な崇拝に陥った。不屈の者たちは、謙虚さをもって、質素な崇拝と健全な慣習を通じて、創造主を認め、愛した。

14. わたしは決してこの民を無防備なままにはしなかった。なぜなら、その苦難のさなかに、彼らの魂を奮い立たせ、わたしへの希望と信仰が衰えることのないよう、預言者たちを遣わしたからである。しかし、これらの預言者たちが、物質主義に溺れた者たち、この世の富める者たち、人間の栄華に驕り高ぶった者たちを戒めると、彼らは彼らから拒絶され、迫害され、しばしば殺害された。

しかし、不屈の者たち、忠実な者たちの心の中では、それらの預言者たちの言葉は燃えさかる松明のように残っていた。そして、すべての預言者たちを通して、父は御自身の民への到来を告げ、彼ら

を束縛から解放し、正義をもたらし、御自身の王国を御子ら一人ひとりの心に築き上げようとしたのである。 しかし、それらの約束や預言は、民の二つの陣営によって異なる形で解釈された。

15. さて、主がメシアとして、救い主として御自分の民のもとに来られたとき、ある者たちは、愛と正義と平和の神として、あらゆる慰めと癒やしの源である父として、かねてより主を待ち望んでいた。 他方の人々は、主を無敵の兵士、すなわち、主の民を捕らえ支配していた敵の民を滅ぼし、民を立ち上がらせる戦士として待ち望んでいた 。彼らは、主の手が、この世の莫大な富や現世の財産を惜しみなく与え、すべての子供たちや部族に恵みをもたらすことを期待していた。 ところが、メシアが柔和に満ち、人間の貧しさの中、至上の謙遜をもってこの地上に現れたとき、主がイエスを通してもたらした神聖なメッセージ、すなわち高き教えに心と魂を開いていた、忠実で忍耐強い者たちだけが、その存在を感じ取り、認識した。

16. しかし、富と権力を備えた地上の神、すなわち民が被ったあらゆる侮辱に対する好戦的な復讐者を待ち望んでいた者たちにとっては、その失望は大きく、拒絶の念も強かった。 しかし、善と謙遜の師である主は、民が諸王国に分裂していることを知ると、その民すべてを等しく愛で包み込んだ。サマリアにおいても、ユダヤにおいても、主は御言葉を伝え、ある部族にも、また別の部族にも、愛と癒やし、奇跡、教え、そして預言を注ぎ込まれた。

それにもかかわらず、主は依然として「肉的な」ユダヤ人、つまり物質主義に陥ったユダヤ人たち――御霊の啓示を前にして戦慄し、高き来世へと続く道を見ようとしなかった者たち――から拒絶され続けた。 それに対し、天の御国の到来、永遠の命のパン、すべての人々に対する真理、すべての被造物への愛を待ち望んでいた者たちからは、彼は認められ、愛された。そしてその時から、この民は分裂したままその道を歩み続けた。

17. 父は（イエスとして）この世を去った後、すでにその先祖たちに託されていたその地を、民の手から奪い取らざるを得なかった。 ある者たちからは贖罪として、また他の者たちには報いとして、その土地は奪い取られた。なぜなら、あのカナンの地、かつてのあの愛すべきパレスチナは、私が霊のために用意した、真の約束の地の単なる写しに過ぎなかったからである。その所有地が民から奪われたとき、物質主義的な考えを持つユダヤ人は、この地上に故郷を失った者として取り残された。 しかし、もう一方の者たち――常に私の臨在を感じ続けてきた忠実な者たちは、過去の時代のその遺産

を失ったことへの痛みを感じることなく、私の意志に献身し続けた。彼らは、父からの新たな恵みが彼らに託されたことを知っていたからである。すなわち、御言葉、神聖な御言葉、その犠牲、その血という遺産である。

18. わが民イスラエルがすでに第三の時代に生きている現代においても、私は彼らがいまだに二つのグループに分かれているのを見る。 一方は物質主義に溺れ、地上の富によって富を得て、（）という名の独断的な償いを行っている。その力は世界の基盤さえも震え上がらせるほどである。なぜなら、彼らは父が彼らの霊に注ぎ込んだ力、才能、恵みの賜物を、自分自身のため、野心のため、偉大さのためにのみ用いているからである。

見よ、その民族は、物質主義の枠内にあっても、科学、意志、知性において強さの証を示してきた。彼らは心の奥底に、かつての飢饉、奴隷化、屈辱に対する恨みを抱き続けている。 しかし今日、彼らは力強く誇り高く立ち上がり、他の民族を屈服させ、その力で威嚇し、支配しようとしている。今日、*彼ら自身が*満腹の状態にあり、何百万人もの飢えた人々や、奴隷となった大衆――*彼らの*金、権力、科学、そして名声への渇望の奴隷――を満足げに見下ろしている。

19. しかし、私はわが民のもう一つの側面、すなわち不屈で忠実な者たち――常に私の存在を感じ取ることができた者たち、人間たちの間に私が到来したことを常に認識していた者たち、私の啓示を信じ、あらゆる困難にもかかわらず私に服従し、私の使命を果たしてきた者たち――もまた見ている。

その「もう一つの部分」とは、この時代に、人間の知性を通じて私の啓示を目撃してきたあなた方だけではありません。 なぜなら、霊的なイスラエルの民の一部は全世界に散らばっており、各人が置かれているその場所で、私の慈愛を受け取り、私の臨在を感じ、私のパンを糧とし、私がどこから来るのか、どのような形で現れるのかも知らずに、それでも私を待ち望んでいるからだ。

しかし、私がどのようにして来たのか、どのようにして自らを明らかにしたのかを十分に知っている者たち――来るべき時代に備えられている者たち、すなわち、私がその民の十二部族の中から選んだ14万4千人の一部をなすあなたがたこそが―― 14万4千人、すなわち、数多いイスラエルの民の前で、第三の時代の霊的な闘いにおいて、大いなる戦いに彼らを導く14万4千人の隊長となる者たちである。

20. わが民は永遠に分断されたままであると思うか。まことに、わたしはあなたがたに言う。そうではない！ *あなたがたには*教えと光と試練がもたらされ、彼らにはわたしの正義と、同様に懲らしめがもたらされたのである。 今、私は彼らを大きな歩みで霊の目覚めへと導いている。彼らは確かに、当初は私のこの世への第三の来臨を、第二の来臨を で否定したように否定するだろうが、私はあなたがたに告げる。彼らの回心の時は、もはや遠くない。 彼らは古い伝統の中に生きているが、私はユダヤ民族の精神と心を見透かしており、彼らが自らの確信からというよりは、むしろ安逸と霊的な啓示への恐れから、その伝統に固執していることを、あなたがたに知らせる。 彼らはあの世の現れを恐れている。しかし、私が彼らに提案するのは、不必要なものをすべて捨て去り、慈悲と愛と謙遜を実践することである。

21. あなたがたは彼らと対峙せざるを得ず、双方がそれぞれの武器に手を伸ばすことになるだろう。一方は言葉、思想、祈り、そして証拠を、他方はその才能、権力、伝統を武器とするのだ。 しかし、私はこの対立の中に臨在し、私の正義が確かに勝利するよう導き、霊性が勝利し、霊が肉に打ち勝ち、それを屈服させ、謙虚にさせることを確実にする。そうして初めて、イスラエルの部族たちの和解、すなわち主の民の統一が訪れるのである。その民が一度準備が整えば――まことに、 あなたがたに告げるが、その民は、神が世の初めから選ばれた民に託された偉大な使命を全うするまで、その任務を果たし続けるであろう。その使命とは、主の啓示の「長子」であり「受託者」となることであり、兄弟姉妹の長として他の者たちを導き、彼らと恵みを分かち合い、すべての人を父の右の座へと導くことである。

22. 分裂したままでは、その民は地上の他の諸民族に打ち勝つことはできなかった。 しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。第三の時代に、彼らが人間の生活の中で自らの強さと光の偉大な証しを示したように、あなたがたもまた、自らの霊性化の証し――すなわち、御霊の力が人間の力よりも大きく、戦いのなかでそれを打ち勝つという証し――を示してほしいと、わたしは願う。

23. 民よ、理解せよ。そうして、父があなたに託した使命を果たし、あなたの魂が平安のうちに高みへと舞い上がり、ついにわたしのもとへ至り、わたしの王国から、わたしが教える万物を包み込む愛をもってすべての被造物を愛することができるようになるのだ。

24. この期間、私はあなたがたに多くのことを語ってきたが、私が語ったすべての事柄の中から、この恵みの朝に私が与えた一つの教訓を学ばなければならない。それは、万物を包み込む愛である！

25. イエスが、この地の様々な被造物と語り合っているところを、弟子たちに何度見かけられたことか。 師である が、鳥たちや野原、海と語り合っているところを、どれほど頻繁に目撃されたことか！しかし、弟子たちは、師が現実から遊離しているわけではないことを知っていた。彼らは、師の中に父なる神の創造の霊が宿っていることを知っていた。その霊は、すべての被造物に言葉を授け、すべての「子供たち」を理解し、御自身によって創造されたすべてのものから賛美と愛を受け取っていたのである。

26. 弟子たちや人々は、イエスが鳥や花を優しく撫で、すべてを祝福する姿を何度目にしたことか。そして、イエスの瞳の中に、すべての被造物に対する限りない愛の眼差しを見出したのである！ 弟子たちは、主がご自身の知恵から生み出された、これほど多くの栄光や驚くべき事柄に囲まれているのをご覧になる際の、主の神聖な喜びを察知していた。また、そのような栄光に直面しても人々が無関心である様子、これほど多くの素晴らしさに対して人間という被造物が示す鈍感さや盲目さを目にするたび、師の目に涙が浮かんでいるのを何度も目にしたのである。 彼らは、ハンセン病のために涙を流しているハンセン病患者や、完全なる愛に満ちた世界に包まれているにもかかわらず、自らの運命を嘆く男女を見るたびに、師がしばしば涙を流すのを見ました！

27. あなたがたはよく知っている通り、わたしの律法は、何よりもまずわたしを愛するよう教えている――それは、父の心に利己心があるからではなく、あなたがたが――被造物と自分自身を愛することができるようになるために――自分の愛を通してわたしの愛を理解し、それを隣人に対して感じ取れるようにならなければならないことを悟るためである。 それゆえ、この恵みの朝、私はあなたがたにこう告げます。私は、あなたがたの愛が万物を包み込むものとなることを望みます――しかし、それは私の中にあってのことです。まず私を愛し、次に互いに愛し合い、そして父によって創造されたすべてのもの、すべての被造物、すなわち父の娘たちであり、それゆえあなたがたの兄弟姉妹である完全な御業たちを愛するのです。

28. あなたがたの魂と感情に感受性を与えなさい。 たとえこの世での命は儚いものであっても、あなたがたの体をこの活力の源に参与させなさい。存在することそのものを喜び、自然が体に与えてく

れる輝きを楽しみ、それに満たされ、活力を得なさい。なぜなら、この肉体的な命もまた、祝福と温もり、エネルギーの源であり――それは慰めであり、愛撫であり、糧であり、平和だからである。

29. 師はこう言います。「あなたの体をこの恵みで満たし、この饗宴に参加させなさい。体を隠したり、自然から遠ざけたりしてはなりません。この命の源を拒むようなことをさせたり、私がこれほど多くの愛を込めてあなたに与えたものを拒ませたりしてはなりません。そうすれば、その時が来たとき、体は安らかに息を引き取ることができるでしょう。」

しかし、あなたがたの魂は、あの世から、解放されたその瞬間から、父のあらゆる御業以上に物質的な創造を注視し続け、今よりもさらに深くそれを尊ぶようになるでしょう。そして、もはや物質的な生活から養分を得ることなく、それに満足することも、その中に生き続ける必要もなくなっても、魂は万物と調和し、すべてを称賛し、父の中にあってそれらを愛するようになるでしょう。

30. わたしの言葉は、あなた方を平安で満たし、あなた方の魂と心にとっての癒やしとなる。 あなたがたは主と語り合い、今もなお魂の言葉で主と語り続けている――その言葉には畏敬の念が込められ、わが神聖な耳には賛美の歌となり、子から父への愛撫となり、すべてを持ち、すべてをなす御方へと手を差し伸べるものである。

あなたがたは私に告白し、何も隠さない。なぜなら、私の視線はすべてを包み込み、すべてを貫いていることを知っているからだ。そして、地上で犯した過ちに対して、良心に悔恨を感じている。しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。私は、あなたがたの善行と過ちを毎日、朝から朝へと数えているが、善行をより多く書き留め、悪行はより少なく記録しているのだ。

31. 立ち止まってはならない、おお、弟子たちよ！私が常に言ってきたように、あなたがたの歩みは善と進歩の道にしっかりと留まらなければならない。なぜなら、善のみが人間を助け、徳と真実のみが、闘争と対立の道において人間を支え続ける時が来るからだ。

欺瞞が崩壊し、虚偽、偽善、利己心、あらゆる悪の種が、厳しい試練、転落、そして打撃によってその終焉を迎える日が近づいている。

それゆえ、師はあなたがたにこう告げる。「善においてますます強くなれ！」わが民よ、あなたがたが行う善に対して、悪を受けることは決してないことを確信せよ。もしあなたがたが地上で行う善に対して、悪い実や悪い報いを刈り取ることになっても、その悪い

実は一時的なものであり、最終的な実ではない。私は真実を告げる。 収穫を得るまでは、粘り強くあり続けなければならない。

32. 主の畑で良き働き手となり、この世の物質的な畑で働く人々を常に観察しなさい。彼らは、一時的な悪天候のせいで、すでに芽を出した種を見捨てるだろうか？まことに――いいえ！彼らは悪天候が過ぎ去るのを待ち、見守り、祈り、収穫を待ち望むのだ。そして、この忍耐の収穫が、どれほど多くの祝福と豊かさに満ちていたことか！

あなた方もそうでありなさい。善行にもかかわらず起こる不運を、一時的な悪天候として、またあなた方の徳の証として受け止めなさい。しかし、、あなた方がしっかりと蒔いた私の種は、時が来れば、必ずや美しい花と実を結ぶと、常に信頼しなさい。

33. まことに、あなたがたに告げる。魂とは一粒の種のようなものであり、あなたがたが知っている種のようなものである。– 私は今、比喩的な意味で語っている。 – それらは発芽し、根を張り、成長し、花を咲かせ、実を結ぶ。しかし、さらに一つ言っておく必要がある。すべての魂が同時に発芽するわけではなく、同時に花を咲かせるわけでもなく、定められた時期に実を結ぶわけでもない。 たとえ同じ時期に蒔かれたとしても、早く実を結ぶものもあれば、遅く実を結ぶものもある。このことを理解し、あなた方自身と全人類の過去、現在、そして未来に当てはめてみてほしい。そうすれば、そこから大きな結論や啓示、そして人々の疑問や迷いに対する広範な答えを引き出すことができるだろう。

34. もしあなたがたが、この日の私の教えを深く掘り下げるならば、その中に師の確かな意図を見出すだろう。それは、あなたがたの魂を力づけ、人類に魂の輪廻転生という真の啓示をもたらすようにすることである。このことに関する直感的な知識は、すべての人々が心に秘めている。 地球上のあらゆる民族は、各魂の過去、現在、未来を内包するその秘密を直感的に感じ取っている。ある者にとっては理論であり、ある者にとっては可能性であり、またある者にとっては空想であり、さらに他の人々はそれをきっぱりと否定する。それでもなお、彼らがこの真理について思索を巡らせていることを、私は見出している。

35. 現代の人類は伝説や空想を生み出しているが、最も未開な部族でさえ、原生林に隠れて暮らす民族でさえ、魂の転生の秘密を予感している。それは、大地の土壌が整えられ、肥沃になったからであり、人間の魂がその発展の過程において、身体にこの「秘密」

――あなたがたがそう呼ぶもの――を明らかにすることができたからである。

今や、あとはただ、私の民、私の教えを受けた者たち、私の忠実な者たち――すなわち、常に私を待ち望み、私の啓示と教えを受け取ることを理解していた者たちが、生きた言葉と理性的根拠、そして真理を通じて、人々にその確証を与えるためにやって来るのを待つばかりである。 そうすれば、人々は新たな認識、新たな命へと目覚めるだろう。それは、人々の心の中にある神の御国、すなわち人々の魂そのものの中にある霊的な御国に他ならない。

36. わたしは、第二の時代に語ったのと同じ言葉で、あなたがたに語りかける。 わたしの言葉からは、あらゆる善が湧き出る。もしあなたがたがその中に癒しの油を求めるならば――わたしの癒しの油は、あなたがたの苦しみの上に尽きることなく注がれるのだ 。もしあなたがたが、不在の病人のためにわたしに祈ったならば、彼らは確かにあなたがたの身体にとっては不在であっても、わたしの霊にとっても、またあなたがたの霊にとっても不在ではない。そして、彼らの中にはわたしの癒しの力が宿っている。 もしあなたがたが、自分の事業のために私の祝福や保護を私に願うならば、まことに、私はあなたがたに告げる。私の愛と光はそれらに注がれている。あなたがたは私を救いの導き手として信頼しているから、私はあなたがたの手を取り、確かに勝利へと導く。私は、落とし穴や試練の中で、あなたがたを強め、励ましてあげる。

37. あなたがたは、私の霊の業における「働き手」であり、弟子である、今ここにいない人々のために私に祈る。私は彼らのそばにいて、彼らの道にあり、彼らの祈りの中にあり、彼らの使命の遂行の中にあった。私は彼らを、あなたがたにとって見知らぬ国々に、まるで松明のように立てた。それは、彼らが平和の天使として、また私の霊的世界に包まれた守護者としてあるためである。

別れの瞬間から、彼らは守護天使たちに導かれており、この世と霊界における歩みが道の上で確かなものとなるよう守られてきた。それゆえ、師が任務の遂行を求める時、それらの働き手たちは満足感に満ちてこう言うことができるのだ。「父よ、私たちはあなたの御名によって働きました。」

彼らはいつこの地に戻ってくるのでしょうか？ 師は道と時期を整えておられ、彼らは再びあなたがたの中におり、彼らの言葉は、父が彼らに与えた偉大な啓示――彼らの目が見た偉大な奇跡――の証しとして、あなたがたの心に響き渡るでしょう。そしてそれは、あ

なたがたにも力を与え、将来、あなたがたも境界を越えて他の兄弟の共同体へと旅立つ際の励みとなるでしょう。

38. 私が愛をもってあなた方を際立たせ、この試練の時期に私のマントであなた方を覆っているのだから――どうして私が慈悲をもって全地球を覆わないことがあろうか？ 今、人間という被造物であるあなた方に、万物を包み込む愛を教えているのだから――師である私が、どうして一部の人々だけに関心を向け、他の人々を忘れていられるだろうか。私の視線はすべての人に向けられており、私のマントもまた同様である。私の癒しの油はすべての人に溢れ出ている。私の平和のマントの下では、ある人々はそれを感じ、それを活用している。一方で、他の人々は戦争を繰り広げ、互いに破壊し合い、侮辱し合っている。

39. あなたがたは私にこう問う。「父よ、人類が『聖年』と呼ぶこの和解の年、この霊的な団結と愛の年に、なぜ人々は殺戮的な戦争に突き進むのですか？」

師はこう答える。目を覚まし、祈りなさい！今日、あなたがたはまだこれらの試練の真意を深く理解することはできないが、まことに、わたしが言うように、人々の魂はすでに目覚めようとしている。そのためには、もう少しの苦痛が必要であり、人々が今、自らために用意しているその杯を飲み干すために、それは不可欠なのだ。彼らは自らの目覚めとなり、自らの裁き手となり、自らの天秤となるだろう。私はそれを許し、彼らを赦し、慈しむ。私は彼らの中に私の光を注ぎ込む。そうすれば、もし彼らが私の光によって真理に到達できるならば、苦痛を通じることなく、その道によってそこに至ることができるようにするためである。

40. 私の普遍の光が昇るとき、私は、あなたがたに、あの世から全人類へと、あなたがたの霊的な平安と祝福を注ぐことを委ねる。

41. これが私の教えである。引き続き私の教えに従いなさい！一歩一歩進んでいき、あなたがたの心と魂において、万物との霊的な結びつきがますます強まり、重みを増すように努めなさい。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 333

1. 疲れたら、私のところに来なさい。私の言葉の中に、癒やし、慰め、そして愛撫を見出すでしょう。私の教えを聞いた後、あなたがたは、信仰をもって、私の王国を勝ち取る道へと踏み出すための力を得ることを、私は保証します。

2. 多くの心が、私の現れを切望して近づいてくるその瞬間こそ、私が自分の存在の証拠を示す時である。私は、彼らに私の霊が彼らの霊に極めて近いことを感じさせ、一人ひとりの過去、悩み、願い、そして苦境を読み取る私の鋭い視線で彼らを驚かせるのである。

3. 彼らの多くは、ただ私の声を聞くだけで信じた。それは、私の言葉の中に真理を見出したからである。 それにもかかわらず、私が彼らの前でこれほど明確に御自身を現したにもかかわらず、疑いを抱いた者もまた多くいた。今この瞬間、私はそのような心を持つ者たちに問う。「私を信じるために、どのような証拠が必要なのか？」しかし、彼らは私にこう答える。「あなたが、一人ひとりが今まさに切望しているものを、私たちに与えてくださることです。」

4. ああ、人々よ！もし私があなたがたの望むことだけを行ったら、あなたがたはどうなってしまうだろうか。それでもなお、私はあなたがたが求めるもののいくつかを叶えてあげよう。それは、あなたがたがこれらの啓示の中で聞いたその方が、あなたがたの師であったことを証明するためである。

5. あなたがたが、私の業を、それがあなたがたの目には超自然的であるように見えるからといって、驚くべきものであり真実であると認めるために、私が奇跡を行い、奇蹟を成し遂げる必要があるだろうか？それとも、私が単にあなたがたに語りかけ、私の本質をあなたがたの魂に浸透させ、あなたがたの心の奥底で私の存在を感じさせるだけで十分だろうか？

6. 私は、あなたがたが私に求めるものはすべて与えることができる。しかし、私は、あなたがたの魂にとって真に益となるものだけを、与えることができるのだ。

7. 祈りながら同時に瞑想することを学びなさい。そうすれば、あなた方一人ひとりの内に、悟りと理解が明るみに出るでしょう。知っている者だけが、疑うことも、不信を抱くこともありません。疑いは無知から生じるものであり、私はあなたがたがこれ以上、無知という闇の中に生き続けることを望んでいません。

私が、あなたがたが「奇跡」と呼ぶような業を、あなたがたの目の前で成し遂げようとしなかった理由がわかりますか？ なぜなら、

そうすれば、私がそれを成し遂げたことをあなたがたが信じるようになるだけであり、あなたがたの無知は依然として変わらないままだったからです。 私は、 、私の言葉の意味に秘められた奇跡をあなた方に差し出すことを選んだ。そうすれば、あなた方はそれを探求する中で、知恵と光、認識、啓示、そして真理を見出すことができるからだ。そうすれば、あらゆる不確実性や疑念は解消されるだろう。

8. さて、私がこの第三の時代に、ただ私の言葉を聞くためにのみ、あなた方を呼び寄せた理由を理解してほしい――その言葉には、あなた方の魂と心が望むもの、あるいは必要とするものがすべて含まれていることを、私はよく知っているからだ。

9. 私の教えにおいて、不熱心な弟子になってはならない。分別と洞察力を持ち、正しい判断を下せるようにしなさい。

10. あなたがたはこの言葉の証人である。だから、それについて説明を求められたとき、黙り込んでいてはならない。

11. 私はあなたがたに保証する。もしあなたがたが、関心と愛をもってこれらの教えの真意を深く探求しようと決意するなら、一歩一歩進むごとに、霊的な知恵、完全な愛、そして神聖な正義による真の奇跡を発見することになるだろう。しかし、もしあなたがたがこれらの啓示を無関心に見つめるならば、それらが内包するすべてのものを知ることはできないだろう。

12. 私の説教を、あなたがたの多くが人生を送るように、ただ通り過ぎないでほしい。つまり、見ているようで見ておらず、聞いているようで聞いておらず、考えているようで理解していない、という状態で。

13. 地上の者たちは、私がこの世界にどれほどの奇跡と恵みを注ぎ込んだかを目の当たりにしている。しかし、その豊かさを真に評価し、その秘密を解き明かすことができるのは、知識への渇望と探求心、そして自らの高揚のためにこれに関心を寄せる者たちだけである。彼らこそが、一歩一歩進むごとに、神の力、知恵、そして慈愛の新たな現れを発見するたびに喜びを感じる者たちである。

14. 私はもう一度言っておく。この第三の時代に、私が来たのは、説明のつかない奇跡や外見上の奇蹟を行って、あなた方を感銘させたり驚かせたりするためではなく、形式は簡素だが内容は深遠な言葉を伝え、それが良心の光のもとで研究されるようにするためである。それによって、私はあなた方に私の真実性に対するさらなる証拠を与えるのである。

なぜなら、あなたがたは、私があの「第二の時代」において、世に偽預言者たちが現れ、人々を欺き、私がその者たちであると思わせるために奇跡を行うだろうと告げ、人類に警告したことを認識しなければならないからだ。

15. 私はそのような奇跡を行わなかったし、誰にもこの言葉を信じるよう強要したこともなく、また、あなたがたが私に従わない場合に恐怖を広めようとしたこともない。私はただ、、人々に与えられた約束、すなわち、彼らが十分に理解できなかったり、誤って解釈したりしたであろうすべてのことを説明するために、真理の霊を送るという約束を果たしただけである。

16. ここに、私が約束した言葉がある。その真意を深く理解できる者たちは幸いである。まことに、あなたがたに告げる。彼らはそこに、私の神聖な臨在を見出すであろう。

17. 師は、あなたがたの使命について、たゆまず語りかけている。あなたがたの中には、歓喜をもって私に服従を示す者もいれば、悲しげに、あなたがたが経験した試練を私に訴える者もいる。そして、私はあなたがたに私の力を注ぎ込む。強くあれ、と師は言う。試練は過ぎ去る。希望を持ちなさい、そうすれば与えられる。戦い続けなさい、そうすれば勝利する。

18. 私は、あなたがたが人類にメッセージを伝えることができるよう、あなたがたの魂に私を注ぎ込んだ。人類は、私の選ばれた者たちを待ち望んでいるのだ。 私は私の言葉によってあなた方を整え、あなた方の魂は常に照らされるでしょう。あなた方の思考と魂が、一度、あなた方の霊と調和したとき、あなた方は一つとなり、霊化があなた方の内に宿るでしょう。あなた方は人類の鏡となり、良き弟子として、私の教えを広めていくのです。

19. 愛する民よ、働きなさい。しかし、その報いは、私が神の御座に用意しておこう。そこでは、天使たちがあなた方を歓迎するだろう。

20. わたしは、あなたがたの中に計り知れない価値を持つ宝を宿してきた。あなたがたの中には、わたしの憐れみに値しないと感じる者もいるだろう。しかし、わたしはこう言う。あなたがたは、わたしの最も尊い御業なのだ。わたしの教えに従えば、あなたがたの行いが光に満ち、その中に真理があることがわかるだろう。 今のところ、あなたがたはまだ幼子のような存在ですが、やがては弟子となるでしょう。しかし、私の教えに限りはありません。なぜなら、あなたがたの魂の中には、常に私の聖霊の光が輝き続けるからです

。私は道であり、光であり、私のもとに来る者は皆、その人生において平安と満足を見出すのです。

21. 私の教えという力強い大樹の陰にいるあなたがたは、その大樹を世話し、育て、その枝が日々さらに広がり、疲れ果ててその陰を求めて近づいてくる旅人に、安らぎを与えるように導く使命を負っている。

もし、私の神聖な言葉であるこの木の果実がさらに増えることを望むなら、あなたがたは準備を整えなければならない。そうすれば、大衆がやって来てその果実を糧とするために、その枝がさらに広がっていくのを目にするだろう。

22. 私は、あなたがたが私の教えを深く探求し、理解できるよう、比喩を用いて語っている。私の神聖な光が、あなたがたを啓発し、あなたがたが隣人に語りかけ、聖霊としての私の啓示について証しをするように導くであろう。最大限の献身をもって働き、ますます霊的な状態になるよう備えなさい。

23. あなたがたは、耳を傾け、学ぶために師のもとに来る。しかし、やがては、私があなたがたに与えた教えを、あなたがた自身が伝えていくことになる。なぜなら、人々の心は依然として硬い岩のままであり、魂は依然として闇に包まれているからだ。それゆえ、鎖を断ち切り、彼らを解放する必要がある――「死者」を目覚めさせ、罪を犯した者たちを改心させる必要があるのだ。

24. これが、愛する民よ、あなたの使命である。自分を弱く感じるな。そして1950年を過ぎても、自分の働きが終わったなどと言ってはならない。休みたいと願ってはならない。私の光が全人類を照らすためには、あなたはまだ多くの働きをしなければならないのだから。

25. 私があなたがたの中に臨在したのは、あなたがたが人間の知性を通じて私の言葉を聞き、使命を果たす準備を整えるためである――そして、人類があなたがたを介して私の教えを再び受け取る時、霊性へと至るためである。

26. あなたがたは私の小さな弟子たちであり、私は毎日、あなたがたに新たな一課を授けている。それは、私があなたがたに「真の命」について語る際、預言者たちが常に見ているあの「命の書」の、また一ページである。

27. 私は、この第三の時代にあなたがたに与えた私の言葉を、私の「金のペン」たちが書き記すことを許した。そこから『第三の聖書』が編纂され、やがて人々の手に渡ることになるのだ。明日、新しい世代はそれを学び、道徳を守ることを知り、霊性へと向かう術

を身につけ、父が彼らのそばにいることを感じるようになるでしょう。私は彼らを、彼らの右に立ち、人類を守るために存在する守護天使や助言者たちに託すつもりです。

28. 愛する民よ、あなたは、私が啓示を始めた当初から準備してきた弟子である。それは、私の言葉の段階が終わったとき、あなたがたが魂の中で私を感じられるようにするためである。

29. 1950年は頂点に達した。それは、私の意志により、これらの伝達者たちの知性と口を通してなされる私の啓示の最後となる年として定められた年である。それは、いかなる教会も私の啓示の最終日を否定することがないよう、私の言葉の中で千回も言及されてきた年である。

30. あなたがたの傷にこれほど多くの癒しの油を注いできたその御言葉を、まもなく聞くことはなくなるだろう。 あなたがたの魂の癒やしであり、慰めであったその声は、まもなく途絶えることになる。しかし、あなたがたはそれに対して一瞬たりとも不満を示してはならない。むしろ、私がしばらくの間、この光をあなたがたに送ることを望んだのであれば、それが終わるのもまた私の意志によるものであることを、謙虚に受け入れるべきである。

31. 私が言葉によってあなたがたに御自身を現した期間が短いなどと言ってはならない。あなたがたは、私の決定に何ら不完全さを見出してはならないからだ。 もしかして、1950年が来たとき、あなたがたが準備不足になることを、私が知らなかったとでも思っているのか。いいえ、弟子たちよ、私はすべてを知っていた。それにもかかわらず、この年を最後と定めることが私の御心であり、あなたがたはこの意図を完全なものとして受け止めるべきである。

32. あの「第二の時代」においても、私は使徒たちがまだ弱かったことを知りながらも、同様に、あらかじめ私の去りゆくことを告げておいた。 その証拠として、彼らの一人は私の神性を疑い、物質的な期待が裏切られたと感じていた。私が約束した宝がこの世のものではないと悟ったとき、彼は、自分の奉仕に対する報酬として敵から支払われる金に目がくらみ、私を教えの敵たちの手に引き渡すことを決心したのだ。

33. 師の命に金銭的な代価を定めたあの心の中にも、闇があったのではないだろうか。

34. その後、私がその群衆に捕らえられ、祭司や権力者たちの前に引き出されたとき、私は、他の弟子たちにも混乱と動揺が広まっているのを見た。彼らは恐怖に駆られて逃げ出し、身を隠した。ペ

トロは、私に従っていた者の一人として見つけ出されると、私を否認し、私を見たことは一度もないと誓った。

35. これらすべては、私が去る時点で、弟子たちがまだ成熟に達していなかったことを示す証拠であった。

36. その理由は、私の説教の期間であったあの三年間は、人類に神のメッセージを伝えるために定められたものであり、弟子たちがその期間のうちに最大の高みと完成に達するためではなかったからである。

37. その三年間は、私が去った後に訪れるであろう闘争の時代に向けた準備の期間であった。

38. わたしの犠牲は成し遂げられた。しかし、彼らの心の中に疑念、苦しみ、混乱、そして恐れという嵐が巻き起こり、かつてないほどわたしを必要としていることを知っていたため、 、わたしは直ちに彼らに近づき、わたしの限りない慈悲のさらなる証しを彼らに示した。 私の言葉に従うあの子供たちへの愛と憐れみをもって、私はこの世で持っていたあの体の姿、すなわちその姿をとり、人間として現れ、彼らに私の姿を見せ、声を聞かせ、そして私の言葉によって、打ちひしがれた彼らの魂の中に再び信仰の火を灯した。 それは新たな教訓であり、地上で私と共に歩んだ者たちと交わる新たな方法であった。そして彼らは、信仰と私の真理への認識によって、力を与えられ、鼓舞され、変容したと感じたのである。

39. 彼ら全員が目の当たりにしたそれらの証拠にもかかわらず、私が弟子たちに霊的に与えた啓示や証拠を頑なに否定する者が一人いた。そのため、彼が信じることができるよう、私の霊的な臨在を彼の肉体の感覚でさえも触れて確かめることを許さなければならなかった。

40. しかし、その疑念は、私に親しかった弟子たちの間だけでなく——いや、地方や都市、村々で、私の力の証拠を受け取り、その御業ゆえに私に従っていた大勢の信者たちの間にも、混乱や不安に満ちた問いかけ、動揺が生じた。 なぜすべてがこのように終わってしまったのか、理解できなかったのだ。

41. 私はすべての人々に憐れみを抱いていた。それゆえ、私は、最も身近な弟子たちと同様に、たとえもはや人間として地上で彼らに寄り添うことはなかったとしても、私が彼らから離れてはいないという証拠を彼らに与えた。 あらゆる家庭、あらゆる家族、そしてあらゆる民族において、わたしを信じる人々の心に、さまざまな形でわたしの霊的な臨在を感じさせることによって、わたし自身を現した。そこで、地上の師を失わなければならなかったキリスト者た

ちの戦いが始まった。彼らは立ち上がり、師が彼らに啓示した真理を宣べ伝えるためであった。あなたがたは皆、彼らの偉大な業を知っている。

42. あなたがたもまた、私の言葉の証しを立てるために旅立つためには、この啓示を失わなければならないだろう。しかし、あなたがたが出発する前に、私は霊から霊へと私の民に現れ、彼らの疑いを晴らし、誤りを正し、混乱から解放してやる。 なぜなら、私が再び告げるが、私が御言葉を終える時、あなた方もまた準備ができていないだろうからだ。それゆえ、裏切り者が現れるだろう——私を否み、霊から霊へと伝えられる私の啓示を疑う者たちが現れるだろう。しかし、私はあなた方に霊感を与え、私の真理の新たな証拠を授ける。そうして、あなた方もまた、愛と信仰と霊性にあふれて、待ち受ける戦いに立ち向かうことができるようにするためである。

43. わが民よ、わが声を聞きなさい。それは、あなたがたがまもなく挑まなければならない戦いのために、勇気と勇敢さをあなたがたに満たすべく降りてくるのだ。道はあなたがたを待ち、使命を果たす時は近づいている。あなたがたは強くなければならない。

44. すでにあなたがたの魂に刻み込まれているわたしの言葉が、あなたがたの導き手となる。それは、あなたがたが永遠に光の中に住むことができるよう、わたしが示した幸福な目的地へと、一歩一歩、あなたがたを導いていくであろう。

45. わたしに耳を傾け、神の教えを学んだ者たちは皆、その道においてわたしの言葉の使者となるだろう。その心は、健康や平和、慰めを必要とする人々に注がれる祝福の賜物で満たされた旅の荷物となるだろう。

46. わたしの弟子たちは、その道中で、多くの心たちが——彼ら自身はそれを知らずに——待ち受けている都市や人々の元へと、長い道のりを旅することになる。いったん宣教の道に踏み出せば、正しい道を進んでいるのか、それとも道に迷っているのか、誰かに尋ねる必要はなくなる。なぜなら、御霊があなた方を照らし、わたしの言葉が、あなたがたがなすべきすべてのことを指し示してくれるからである。

47. あなたがたが隣人に示す慈悲は、私によって、最も硬く冷たい心さえも動かすような奇跡や御業によって報われるであろう。

48. 今、あなたがたは、なぜ長い間、清めの試練にさらされてきたのかを理解できるようになるだろう。なぜなら、清らかさについて語ろうとする者たちは、心の中に清らかさを持ち、家庭に平和と

調和をもたらそうとする者たちは、自らの内に平和を宿していなければならないからだ。

49. わたしの言葉は、あなたがたに勇気を与える。今こそ、あなたがたが地上で霊性の使者、使徒として現れる時だからである。人類は、戦争、飢餓、そして道徳の堕落によって恐怖に満ちている。

50. あなたがたが苦痛、悲惨、そして死に立ち向かうとき、勇気を欠いてはならない。なぜなら、まさにそのときこそ、あなたがたの内にある光が輝き、同胞たちの生活を照らすからである。

51. この民は幸いである。かつて「地上で神の民が現れる」と預言されていたことが、この民の中で成就するからである。また、においてその民を認識し、受け入れる者たちは幸いである。彼らは私の民と結びついたままであるからである。

52. わたしの力にとって不可能なことは何もない。それゆえ、わたしはあなた方をある地点から別の地点へと移動させ、導き、あなた方の存在が必要とされる場所へと至らせるであろう。なぜなら、この民の一人ひとりを通して、わたしは苦しむ者たち――すなわち、長い間、地上の正義と平和の到来を待ち望んできた者たち――に慰めを送るからである。

53. わが民が諸国へと赴き、同胞に近づいたとき、人々がこの教えを理解するためのある種の準備や受容態勢を備えていることに驚きを覚えるだろう。これは、あらゆる被造物が到達した自然な発展と、人類の上に絶え間なく響き渡るわが霊の波動によるものである。

54. 霊性や愛を欠いた今日の人々の中から、私は、私の言葉によってすでに何度も預言されてきた世代を現出させるであろう。しかしその前に、私は、今日、互いを誤解し、戦い、破壊し合っているこれらの民族に働きかけるであろう。

そして、私の裁きがすべての人々を通り過ぎ、雑草が根こそぎ引き抜かれたとき、新たな人類が生まれ始めるだろう。その「血」には、もはや不和や憎しみ、嫉妬の種は宿っていない。なぜなら、彼らの両親の「血」は、痛みと悔恨というるつぼの中で浄化されたからである。

わたしは彼らを迎え入れ、こう告げるだろう。「求めよ、求めよ、そうすれば与えられる」と――第二の時代にあなたがたに語ったとおりである。しかし今日、わたしはこう付け加える。求めることを理解せよ。

55. 真に祈ることを理解していた者は、いかに少なかったことか。この言葉を聞いているあなた方でさえ、どう祈ればよいのか、何

を祈ればよいのか、しばしば分かっていない。しかし、私はあなた方への憐れみをもって常に先んじて歩み、あなた方が求めたものとは必ずしも一致しないとしても、必要とする以上のものを与えている。なぜなら、一人ひとりにとって何が最も有益であるかを、私だけが知っているからだ。

56. あなたがたは「今この瞬間」のために祈るが、私は「未来」のために与える。あなたがたは物質的な向上を思うが、私はあなたがたの魂の完成を思う。私は、魂が肉体よりも重要であると言うだけでなく、肉体は常に二の次であるべきだと言うのだ。魂に関わらないものはすべて、あなたがたに余分として与えられる。

57. 私はあなたがたにすべてを与える。そして、その見返りに私が求めるものは何か？ただ、あなたがたが自らの使命を果たし、その過程で、私が 与えたものを愛をもって活用し、それがあなたがたが到達すべき目標を達成するには十二分であることを理解することだけである。

58. 私は今、裁き人としてではなく、父としてあなた方に語りかけている。たとえ私の言葉に正義が込められているとしても。なぜなら、今こそあなた方は思考をもって働き、道徳的かつ魂的に自らを向上させることに専心すべきだからである。

59. あなたがたの働きは今日始まった。一日の仕事を始めるのを明日まで待ってはならない。なぜなら、一人ひとりに与えられた地上での時間は短く、それを魂の益のために用いるべきだからである。

60. 私があなた方を「光の子ら」と呼ぶのは、私の教えを知ることで、人生全体に対する理解が得られるからである。それゆえ、誰も、この地上での存在の最後の時が来るまで待ってはならない——手ぶらで、死の眠りや新たな機会を頼りにして。なぜなら、何ものも私の正義を覆すことはできないからだ。

61. もしあなたがたが私の教えを理解することができれば、それはあなたがたに多くの満足を与え、向上するための多くの機会をもたらすだろう。何か決断を下す前に、祈ることを学べ。なぜなら、祈りこそが、人生の闘いに打ち勝つための光と力を父に求める、最も完全な方法だからである。

62. 祈るうちに、やがてあなたの知性には啓示がもたらされ、善と悪を、すべきこととすべきでないことをはっきりと区別できるようになるでしょう。そして、これこそが、あなたが内面的に準備を整え、御霊の声を聞くことができるようになったという、最も明白な証拠となるのです。

63. この第三の時代において、わたしの教えは人々の心に届き、神との完全な交わり、そして良心との内なる交わりを得る方法を教える。それは、あなたがたの魂がかつてないほどの発達と能力の段階に達し、聖霊の新たな啓示を理解できるようになったことの証である。

64. 道は切り開かれ、わたしのもとに来ようとする者すべてのために扉は開かれている。

65. その道は狭い。これはあなたがたにとって、かねてより周知の事実である。私の律法と教えが極めて清く、揺るぎないものであることは、誰にとっても周知の事実であり、それゆえ、誰も自分の都合や意志に従ってそれらを変えようなどとは考えないはずである。

66. 広い道と大きく開かれた門は、あなたがたの魂を光、平安、そして不死へと導くものとは程遠いものである。広い道とは、放縦、不従順、高慢、そして物質主義の道であり――それは、大多数の人々が、自らの霊的な責任や良心の内なる裁きから逃れようと努める中で歩んでいる道である。

67. この道は、真実でも完全でもないため、無限であるはずがない。したがって、この道は人間的なものすべてと同様に限りがあるため、人間はいつかその終着点に到達し、そこで立ち止まって、道の終わりを表す深淵を恐怖の念を抱きながら覗き込むことになるだろう。その時、すでに長い間真の道から逸れてしまった者たちの心の中に、混沌が勃発するだろう。

68. ある者たちには悔い改めの心が芽生え、それによって自らを救うのに十分な光を見出すだろう。また、ある者たちは、不公正で不合理だと感じる結末を前にして動揺し、さらに別の者たちは神を冒涜し、反抗するだろう。しかし、まことに、あなたがたに告げる。これこそが、光への回帰の始まりとなるのだ。

69. 第三の時代の弟子たちよ、あなたがたは、わが霊を渇望してここにたどり着くために、この世の境界を越える術を知っている。わたしはあなたがたを祝福する。日々祈り、集まってわが言葉を深く探求し、それについて熟考するよう、あなたがたを招く。なぜなら、あなたがたがこのような形でそれを受け取れるのは、これが最後の時だからである。

70. 私は、あなたがたを、私の業が内包する知恵という秘められた宝庫へと入り込むよう招く。そうすれば、あなたがたが今まさに経験している戦い――今まさに戦っているこの戦いの真っ只中で、強さを感じることができるだろう。

71. 世界に光を灯す使命を負った選ばれた民は、あらゆる国々に散らばっており、私の声に耳を傾けて生きるよう招かれている。ある者は私の代弁者を通じて私の言葉を聞くことになり、またある者は霊的に導かれることになるだろう。しかし、あなたがた全員が、この時代のために予告されていた預言が成就するのを目撃することになる。 私はあなたがたの歩みを同じ道へと導き、いつの日か、あなたがたは出会い、互いを認識することになるでしょう。

72. あなたがたは幾つの時代を生き抜き、何世紀にもわたってこの地球に住み続けてきた。その間、あなたがたは成長し、ついに主や霊界との霊的な交わりを始めることができるようになった。

73. 私はあなた方に大きな使命を託し、あなた方の理解を期待している。あなた方のすべての行いを、揺るぎなく厳格な法に基づかせてほしい。そのように準備を整え、神を畏れつつも、確信を持って歩みを進めなさい。法に背くこと、誠実に働かないことへの恐れを抱きなさい。しかし、信頼も持ちなさい。なぜなら、私はあなた方一人ひとりの道の導き手であり、支えだからである。

74. あなたがたは現在のことしか知らないが、私はあなたがたが明日何を経験するかを知っており、あなたがたが直面する障害も知っている。信仰さえあれば、あなたがたは最大の危険を乗り越え、最も危険な事業にも飛び込むことができ、常に私の保護が確かなものであると、私は告げる。

75. 忍耐をもって苦難に耐えなさい。もし試練の意味を理解できないならば、祈りなさい。そうすれば、あなたがたが心からそれを受け入れられるよう、わたしがその意味を明らかにしてあげる。

76. あなたがたはまだ完全にはなっておらず、「義人」ともなっていない。それゆえ、あなたがたの心を清め、魂を完成させる新たな試練に直面するのだ。

77. イスラエルは、その大いなる旅路の初めから闘志に満ちていた。そして、道の厳しさゆえに気力を失いかけたとき、私の声が「私の力強い腕は、あなたの腕の中にある」と語りかけ、彼らを励ました。また、彼らが祈り、徹夜し、私の戒めに従ったとき、彼らは私の恵みと特権を享受した。

78. 今、あなたがたは予告されていた時代を生き抜いており、疑ってはならない。今や、その書物は最後の章が開かれ、あなたがたが献身的に読み、その真意を汲み取るためである。 これは、私があらかじめあなたがたに語った困難な時代である。しかし、その厳しさにもかかわらず、私はあなたがたが喜びと確信を持って未来を見

つめることを望んでいる。なぜなら、あなたがたの苦しみは、私の愛と正義の律法が定める限界を超えることはないからである。

79. あなたがたが平安と善意に満ちるよう、祈りなさい。あなたがたが霊的に占める位置を確信できるよう、深く考えなさい。あなたがたが最高の昇華に到達するための決まった時期などない。信仰さえあれば、この道において大きな一歩を踏み出すことができるのだ。

80. 人間を通じた私の啓示は1950年に終わる。しかし、霊の時代は続いていく。その年を過ぎれば、霊の賜物が解き放たれ、それによって多くの魂が回心することになる。

81. 木から切り離された枝は再び木に結びつき、あなたがた全員がわたしに加わることになる。

82. 私の啓示をしっかりと守り、私の教えが純粋で、損なわれることのないようにしなさい。人間は、限定的な礼拝の形式にはもう飽き飽きしており、全体を求めている。人間は、今日、人間としての状態において、そして明日、霊的な状態において、自分を救う神聖な教えを渇望している。

83. 高潔な願いや志をもって高みを目指す者は皆、支えられ、私はその者に、私のもとへ至る最短の道を示すであろう。

84. たとえ心を捧げなければならないとしても、あるいはこの世に存在する慣習を変えなければならないとしても、律法を遵守しなさい。教会も礼拝の場も持つべきではなく、わたしの教えを制限してはならないし、あなたがたの活動の範囲も制限してはならない。あなたがたの家は全世界であり、家族は人類であり、教会はわたしの神聖な御霊である。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 334

1. 人よ、目覚めよ。そして、あなたが新しい時代に生きていることを自覚せよ。

2. 瞑想し、祈りなさい。そうすれば、霊的なインスピレーションが、あなたの知性の中に輝き始めるでしょう。

3. あらゆる種類の人間の苦しみ、痛み、困窮を観察し、至る所に存在するその痛みの光景を目の当たりにするたびに、あなたの心がますます思いやりに満ちていくようにしなさい。

4. あなたがたの内なる存在の最も深いところで、善を行いたいという寛大で高潔な衝動を感じたなら、その衝動に身を任せ、それを表に出しなさい。それは、魂が、自らの体を喜んで受け入れる準備ができているのを見つけたからこそ、そのメッセージを伝えているのです。

5. あなたがたが私の教えの種を蒔きに出かけるとき、それは、あなたがたの存在の最も繊細な部分から生まれる愛に基づいて行われなければならないことを理解してください。 しかし、もし行わなければ罰を受けるという恐れから善を行おうとしたり、功績を得るために行為を成そうとしたりするのは、もうやめてください。そこには何の功績もありません。もはや、私に対して、いや、自分の魂に対してさえ、「些細なことに甘んじることができない」などと言ってはなりません。

もしあなたの魂が人間の殻を脱ぎ捨て、霊的な生活の聖域において自らの内奥へと引きこもり、過去と収穫を吟味するならば、この世では完璧に見え、主の御前に差し出すにふさわしく、報いを受けるに値すると考えられていた多くの行いが、その内省の一瞬にして、取るに足らないものとして映るでしょう。 魂は、この世で善いと思われていた多くの行いの意味が、単なる虚栄心や偽りの愛、心から湧き出たものではない慈善の表れに過ぎなかったことを悟るでしょう。

6. 魂が自らを裁くための、完全なる裁き主による啓示を、一体誰が与えたと、あなたがたは思いますか。 正義のその時に、かつてないほどの明晰さで輝いて、あなた方に強い印象を与えるであろうその霊――そして、その霊こそが、一人ひとりに、この地上で行った善、正義、正しさ、真実とは何であったか、また、その道のりで蒔いた悪、誤り、不浄とは何であったかを告げるのです。

7. 私が今、あなたがたに語った聖所は、御霊の聖所である――誰も冒涜することのできないその神殿、神が住まわれ、そこから神の声が響き、光が溢れ出るその神殿である。

8. この世において、あなたがたは決してその内なる聖域に入る準備ができていなかった。なぜなら、あなたがたの人間的な人格は、常に、すべての人の中に響く賢明な声を避けるための手段や な方法ばかりを模索していたからである。 私はあなたに告げよう。あなたの魂がその外殻を脱ぎ捨てたとき、やがてその聖域の敷居の前で立ち止まり、心を整えてそこに入り、魂の祭壇の前にひざまずき、自らの声に耳を傾け、良心という光の中で自らの行いを吟味し、父として、師として、そして裁き主として語る神の声を、自らの内から聞くことになるのだ。

9. あなたがた全員が、自分の中に持つ善を認識し、それを守り抜くために、また、もはや魂の中に留めてはならないものを自らから追い払うために経験しなければならない、その瞬間の荘厳さを、いかなる人間も想像することはできない。

10. 魂が自らの良心と向き合っていることを感じ、その良心が真実の明瞭さをもって記憶を呼び起こすとき、その存在は自分自身に耳を傾けるにはあまりにも弱く感じられ、自分が存在しなかったことを願うようになる。 なぜなら、一瞬のうちに、その意識の前を、自分の人生全体が駆け抜けていくからだ――過去に残してきたもの、所有していたもの、そして自分自身のものだったもの、そして今やついにその責任を問われなければならないものすべてが。

11. 弟子たちよ、人々よ、この生においてすでにその瞬間に備えよ。そうすれば、あなたがたの魂が霊の神殿の敷居の前に現れたとき、その神殿を裁きの場に変えてしまうことはないだろう。なぜなら、その時の魂の痛みは、それに匹敵する肉体的な痛みなど存在しないほど、甚大なものとなるからだ。

12. 目を覚まし、祈り、瞑想し、わたしの教えに従いなさい。そして、あなたがたを欺こうとする虚栄心に決して惑わされてはならない。その虚栄心は、あなたがたに「真実さ」「慈悲」「愛」をもって行動していると信じ込ませようとするが、実際には、それらの美徳は一つも備わっていないのだ。

13. 今行っている行いを決して心に留めてはならない。ただ、その都度、手当たり次第の行いで満足し、絶えず上へと登り続けていくようにしなさい。

14. 私がこの教えの中で語ったすべてのことを深く考え、霊的な世界において、あなたがたの裁きがいかにして行われるかを理解し

てほしい。それゆえ、あなたがたは、想像の世界から、あるイメージを消し去らなければならない。それは、神が老人の姿で司る裁きの法廷を想像するものであり、そこで神は、善き子らを右側に通して天国の喜びを味わわせ、悪しき者たちを左側に並ばせて永遠の罰に処するというものである。

15. 今こそ、光があなたがたの魂と知性の最も高みまで届き、すべての人の中に真理が輝き、霊的な生活にふさわしく歩み入る準備ができる時である。

16. あなたがたは、隣人の心の中で繰り広げてきた戦いが、一見無益であるかのように思えることを私に指摘している——あなたがたは彼らに霊性について語り、彼らの心から狂信や偶像崇拝の行為を取り除こうと努めているにもかかわらず、あなたがたが教えを説いた直後、彼らは再び偶像の前にひざまずいてしまうのだ。

17. あなたがたは、傷つき、萎れた心を抱いてやって来ますが、私が御言葉を通して、戦い続けるための新たな論拠と新たな武器を与えてくださるという希望を抱いています。

18. 愛する弟子たちよ、あなたがたの中に、すべての隣人の内に光が輝くことを切に願う情熱を見出す私は、こう言います。あなたがたは、あなたがたがこれほどまでに祈り、懇願している人々の、待ち望んだ啓蒙の瞬間を待つために、忍耐をもって身構えなければなりません。

19. 彼らもまた、あなたがたが野外で祈っている姿を見たり、書物に記されていない教えや啓示について語っているのを聞いたりするため、あなたがたが誤りに陥っていると信じているのです。

20. 彼らもまた、あなた方のために祈り、わたしに語りかけ、あなた方が道を踏み外さないよう願っている。

21. 弟子たちよ、私はあなたがたに問う。「あなたがたは、私がどちらの声をより多く聞いていると思うか——あなたがたか、それとも彼らか？」 あなたがたのうちの多くは、心の中で私にこう言う。「私たちです、師よ。私たちは祈り方において、真の祈りにより近づいているからです。」

22. それゆえ、弟子たちよ、私は一方にも他方にも等しく耳を傾けていると告げよう。なぜなら、あなたがたは皆、私の前では等しいからであり、私は一方を他方と同様に愛しているからであり、そして、誰かが道から迷い出るかもしれないという恐れを、すべての人の中に見て取っているからである。

23. これは戦いだ、民よ。予告されていた戦い、大いなる戦いであり、それは家庭の中、そして最も愛情深く、結束の固い家族のもろもろの懐の中でさえも、燃え上がるであろう。

24. この戦いで誰が勝利するだろうか。誰もいない。勝利は、真理、光、愛、そして正義のものとなる。あなたがたは皆、これらの神聖な力によって打ち負かされるだろう。しかし、まさにこの一見した敗北こそが、あなたがたの勝利となるのだ。

25. それゆえ、師は大きな愛をもってあなたがたを教え導き、私が去った後の時代に備えさせるのである。しかし、私が であなたがたに私の慈悲を授けたのと同様に、あなたがたもまた、愛の行いを通じて人々を導かなければならない。

26. わたしの光は、あなたがたの魂を備えさせるために、あなたがたの知性へと降り注ぎ、あなたがたがわたしの王国でわたしと共にいるにふさわしい者となるよう、わたしはあなたがたの間で恵みの賜物を分け与えた。

27. 誘惑は、あなたがたをわたしの道から逸らそうと、あなたがたの間でも戦っている。しかし、善き羊飼いであるわたしは、あらゆる道の中からあなたがたを選び出した。そして、あなたがたに自己犠牲に至ることを求めることなく、あなたがたが改心し、わたしの恵みを完全に受け入れ、明日、人類にわたの教えを伝える良き弟子となることを期待している。

28. あなたがたは恵みのいのちから死んでいたが、わたしはあなたがたをよみがえらせた。わたしはあなたがたを赦し、備えさせた。それは、立ち上がり、自らの神を否定している明日の人類に、あなたがたが語りかけるためである。わたしは、あなたがたにわたしの愛を実感させたいがゆえに、すべての心の扉を叩く、無名の旅人である。

29. 人類はわたしを認識せず、この時代におけるわたしの存在を否定している。しかし、わたしは彼らに、わたしが愛と憐れみをもって正義を現すこと、彼らに苦痛を与えるために鞭を持って来るのではないこと――ただ彼らを恵みの生活へと高め、わたしの言葉であり真理である水晶のように澄んだ水で彼らを清めたいと願っていることを、悟らせるであろう。

30. 世界はわたしの教えを学ばず、偶像崇拝と狂信を助長してきた。それゆえ、今や世界は大きな試練の炉をくぐり抜け、苦しみの杯を飲み干している。なぜなら、その唯物主義が世界をわたしから遠ざけてしまったからである。

31. イスラエルよ、あなたには大きな戦いが待ち受けている。あなたはわたしの真理を証し、人類の闇を取り除き、彼らにわたしの光を示すことになるからだ。

32. 人々の牧師と名乗る者たちは、わたしの臨在を感じることなく、今もなおわたしを待ち望んでいる。しかし、わたしは、彼らが、人類の師が託した教えとは異なる教えを説いているのを見ている。その教えは、互いに愛し合うことを教えるものであり、あなた方を真理の道へと導くはずのものだったのだ。

33. 世界が、私の愛の教えから逸脱した世界観を育むことは、私の御心ではない。なぜなら、それは魂を傷つけ、それによってあなたがたは私を否定することになるからだ。あなたがたは私の教えを深く理解することができず、永遠の命のパンを軽んじている。そして人類は、自らの理解に従って自らの手で築き上げた、 物質的な教会やシナゴーグの中で、私を探し求めている。 しかし、人類はいつになったら私を理解し、私の呼びかけに耳を傾けるようになるのだろうか。

34. 1950年以降、世界観の大きな争いが始まるだろう。そして、イスラエルの民よ、あなたは私の神性を信頼して、その道を歩み始めるだろう。 誰があなた方を拒むか、あなた方にはわからない。しかし、あなた方がその道のりでなす善行や功績を罰しうるような人間の法律など、果たしてあるだろうか？　いいえ。なぜなら、あなた方は人々の苦痛を取り除き、彼らに私の平安をもたらし、人間の心に愛が花開くように導くという使命を帯びているからだ。

35. 弟子たちよ。私が「第二の時代」にあなたがたに教えた「互いに愛し合う」という原則は、あなたがたの人生のあらゆる行いに適用されるものである。「師よ、私は肉体労働に明け暮れる取るに足らない存在ですが、どうして隣人を愛することができるでしょうか」と私に問う者もいます。そのような私の子供のような弟子たちには、こう言います。一見無意味に見えるこの肉体労働であっても、同胞に奉仕したいという願いを持って仕事に取り組めば、隣人を愛することができるのです。

36. もしすべての人々が、善を行うという思いを持って働き、自分のささやかな努力を他の人々のそれと結びつけるとしたら、あなた方の人生がいかに美しいものになるか、想像してみてください。まことに、私はあなた方に言います。そうすれば、もはや悲惨など存在しなくなるでしょう。しかし現実には、誰もが自分のために働き、自分自身のこと、せいぜい自分の家族のことしか考えていないのです。

37. あなたがたは皆、誰も自分だけで十分であることはできず、他者を必要としていることを知らなければならない。あなたがたは皆、自分たちが普遍的な使命に深く結びつけられており、それを共に果たすべきであることを知らなければならない——しかし、それは地上の義務によって結ばれるのではなく、志、インスピレーション、そして理想、一言で言えば、互いへの愛によって結ばれるのである。そうすれば、その実りはすべての人の幸福となるだろう。

38. 民よ、わたしはあなたに告げる。あなたは自分のためだけに働くべきではなく、その努力を通じて、あなたたちを求めるすべての人々に、区別なく光を広めるよう努めなければならない。まことに、わたしはあなたに告げる。隣人により多くを与える者は、わたしからより多くを受けることになる。なぜなら、その者は自分の人生にわたしの教えを適用しているからである。

39. わたしは、この時代にあなたがたに送った愛のメッセージを広めることができるよう、十分な知識をあなたがたに与えている。

40. かつて人々に愛の教えをもたらすために来られたあのキリストこそ、今この時代にあなたがたに語りかけ、選ばれた知性の器を通じて現れ、このメッセージを世界に伝える霊である。この言葉——その形式は控えめであり 、表現は簡素であるが——は、霊性から遠く離れたこの人類を、自覚へと導くであろう。

41. 私は、世界のあらゆる民族とあらゆる宗教共同体に向けて呼びかけを行い、私の律法の最高の戒め——すなわち、私が最後の晩餐の席で弟子たちに明らかにしたその戒め——を彼らに思い起こさせる。

42. 現在、人類は準備段階にある。 人々がまだそれに気づいていないにもかかわらず、私の正義が人類の中で働いているのである。なぜなら、彼らはその高慢さ、傲慢な物質主義ゆえに、自分たちにとって避けられない人生のあらゆる出来事を、単なる偶然のせいにしているからだ。しかし、まもなく私の呼びかけが彼らの心に届くであろう。そしてその時、彼らは悔い改めの心をもって私に近づき、その高慢さと過ちが赦されるよう私に懇願するだろう。

43. それは人間の魂にとって「十字架の刻」となるだろう。大きな失望の後、短期間ながら絶対的な虚無を体験し、自らの独善の誤り、権力の儚さ、イデオロギーの誤りを悟る時である。しかし、この混乱の状態は長くは続かない。なぜなら、その時、私の使徒たちが現れ、私の新しいメッセージを広めるからである。

44. かつて、私の教えの使徒たちが東方から旅立ち、私の言葉の知恵を西方へもたらした時代と同様に、その時、世界は再び、私の

使徒たちが諸民族や各家庭にこのメッセージの光をもたらす姿を目にすることになるだろう。

45. 今や光が西から東へと向かうことが、人々に奇妙に映るだろうか。それゆえに、彼らは私の使者が私の名において伝えるメッセージを認めないのだろうか。

46. まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたが東から昇るのを見る唯一の光は、あなたがたの世界を照らす、王の星の光である。なぜなら、魂を照らす神聖な光は、わたしから発せられ、宇宙のあらゆる場所、あらゆる点に遍在しているからである。

47. 確かに、私はかつて、儀式や象徴を通じて、しばしばあなたがたに語りかけてきた。しかし今や、儀式や象徴を真実とあなたがたの間に挟む必要なく、あなたがたが真実を直接見つめるべき時が来たのである。

48. 師は、この第三の時代に、私の神聖な教えを理解するために学ぶ用意のある弟子を受け入れる。 その書物はあなたがたの目の前に開かれており、そのページはあなたがたの魂を照らし、私があなたがたの手にお託した業がいかに偉大で崇高であるか——私の教えが、あなたがたが私の王国に到達できるよう、 最高の知恵を含んでいることを悟らせるためである。 それは、私が再びあなたがたに示した道であり、あなたがたがその道を歩み進み、私のもとに来たときに背負っていた不義を置き去りにできるようにするためである。

49. わたしは、あなたがたが師のようになるため、もはや様々な道に迷い込まないため、そしてわたしの戒めへの従順があなたがたの心にあるようにするため、わたしの光と正義によってあなたがたの魂を整えてきた。 しかし、私があなたがたの魂に与えたこの備えを失わないよう、目を覚まし、祈りなさい。この時、私は世界に新たな日の光を示し、人々が備えを整え、私の言葉を聞き、霊の目をもって私の臨在を見るようにしているのだ。

50. イスラエルの民よ、あなたの使命は極めて困難である。しかし、わたしの言葉はあなたがたの存在の最も奥深くまで浸透し、あなたがたを照らし、あなたがたの目から盲目を取り除き、わたしの御国の栄光を示した。

51. わたしの言葉はあなた方を変容させた。なぜなら、あなた方はもはやかつてのあなた方ではないからだ——今やあなた方はわたしの臨在を受け入れる準備ができており、わたしを認識し、霊から霊へとわたしを求め、高みへと昇る術を理解しているからだ。 しかし、私は依然として、あなたがたが私の教えに完全には従っておらず、つまずき、そして一時的にまた以前の自分に戻ってしまうのを

見ている。それは、あなたがたが自分の心を、余分なものや不必要なもの――この世がその堕落の中で養っているもの――から完全に清めていないからだ。あなたがたの中で咲き誇ろうとしている黄金の小麦の傍らには、まだ雑草が生えている。 今こそ、古来より人々の心の中で発芽し、花を咲かせてきた雑草を、根こそぎ引き抜く時が来た。それらは束ねられ、滅ぼされるために火の中に投げ込まれる。そうして初めて、あなた方の心は、清らかな畑、実り豊かで準備の整った土壌となり、そこでは私の言葉が実を結ぶことになるのだ。

52. 愛する弟子たちよ、あなたがたは多くの点で備えをしなければならない。なぜなら、霊性への歩みが遅々として進まず、あなたがたに残された時間は少なくなっているからだ。この時代において、あなたがたはすでに、自らの使命を果たすために、わたしの神聖な御霊と直接つながっているべきだからである。

53. あなたがたの霊は、短い間ではあるが、肉体を支配することを学び、そして、真の弟子として私の戒めを果たし、あなたがたを介して私の慈悲と憐れみを受けなければならない人類のために立ち上がることができた。

54. 私の霊をあなたがたの内に完全に宿らせなさい。そうして、あなたがたは人類に対し、私の業を、救いの舟として、灯台として、そして転生した魂と転生していない魂のための新しい天として示すことができるのです。

55. わたしは、あなたがた全員が備えを整え、わたしの聖霊の光に包まれている姿を見たい。また、あなたがたの中に、わたしの神聖な御業に対する責任感、そしてわたしの神性への愛、そして隣人への愛を見出したい。 なぜなら、私はあなたがたが彼らへの愛によって自らを新たにし、私の御霊と直接結びつくことを学ぶことを望んでいるからだ――私が、あなたがたが得た備えに応じて、あなたがたの魂を用いなければならないからである。そうして初めて、世界の目覚めは完全なものとなり、あなたがたを媒介として、世界は私を感じるようになるだろう。これこそが私の御心である。

56. あなたがたは、善と悪、光と闇との大いなる戦いの時代にあり、今や私の大義を守るために備えを固めている。私を模範とすべきである。なぜなら、私は私の軍勢の先頭に立ち、あなたがたはその一部だからである。 見よ、わたしの光が闇を追い払い、わたしの言葉が罪を取り除く様子を。もしあなたがたが立派な兵士でありたいと願うなら、従順であり、真理の光をもたらしなさい。そうして

、真の神の僕として、この時代に魂の救いのためにわたしが魂たちに授けるものを証ししなさい。

57. 選ばれた民であるあなたがたの中に、異なる考え方や異なる意志の表れを見たくはない。あなたがたが一致し、私からの一つの霊感を受け継ぎ、あなたがた全員にとって唯一無二である私の言葉に導かれている姿を見たいのだ。

58. 眠り込んでしまい、聖所の灯を消してしまい、わたしの恵みを自ら奪ってしまった者たちに対して、わたしは呼びかけを送り、こう告げる。「立ち上がりなさい。速やかな足取りで、父として、裁き人としてではなく、あなたたちを待ち望んでいるわたしのところへ来なさい。」 しかし、まことに、あなたがたに告げる。もはやその道に立ち止まってはならない。そうすれば、明日、わたしに対するあなたがたの責任は極めて重くなるだろう。

59. 私はあなたがたの直感を目覚めさせ、この賜物を通じて、私の霊があなたがたの霊に語りかけ、あなたがたがそれに従うよう、私の使命を授けたのである。

60. あなたがたがわたしの御心を行うことができるよう、わたしはあなたがたを確かな歩みで進ませる。なぜなら、あなたがたがわたしの御心に従って行うすべてのことは、あなたがたの魂の進歩に役立つからである。 わたしはあなたがたに権威とわたしの平安を与える。それが、あなたがたの間におけるわたしの臨在の証となるためである。わたしが与えるこの平安を、何ものも乱すことを望まない。準備を整え、この平安を通して働き続けなさい。しかし、もしあなたがたが、わたしがあなたがたの信頼できる手に託したこの大義のために苦難を背負わなければならないとしても、 、わたしはあなたがたにこう告げる。喜びなさい。わたしはあなたがたの魂に大きな報いを与えるからである。

61. 知っておきなさい。償いのために再び転生させられ、地上に住み、かつて蒔いたものの実を正義をもって刈り取る魂たちがいるのと同様に、転生せず、 目に見えない形で地上に留まり、もはや自分たちにふさわしくないあらゆるものから遠ざかることのできる、霊化あるいは高揚に達するまでそこに留まる者たちもいるのだ。

62. あらゆる償いは厳しく、苦く、苦痛に満ちている。しかし、私の教えは、地上での苦しみの後に平安を見出す代わりに、浄化と償いの試練に直面することから、あなたの魂を救う方法を教えている。

63. ここで、わたしの言葉から、この世のものに対しては、正しい範囲内でのみ愛することを学びなさい。そうすれば、その時が来

たとき、すべてを置き去りにし、魂に自由を奪うような重荷が一切のしかからないようにできるのだ。

64. 愛する民よ、光のもとへ来なさい。私はその光へと導く道であり、私は真理であり、命である。

65. 人生の行いにおいて良心に耳を傾ける者が、滅びることはあり得ない。

66. 私が言葉の中で、霊的な生活について語る時、あなたがたは、それを理解できるよう、私が詳細に説明してほしいと願う。 しかし、私が同じことについて多くを語ってきたにもかかわらず、あなたがたが理解できたのはごくわずかであることに気づくと、あなたがたは悲しみに満ちて私にこう言います。「師よ、あなたの教えや啓示にもかかわらず、私たちが把握することのできないあの存在とは、いったいどのようなものなのでしょうか？」

67. 弟子たちよ、私はこう言います。心配する必要はありません。なぜなら、その「故郷」がどのような場所であるかを知ることよりも、あなたがたがそこへたどり着かなければならないと信じ、その目標を迷いや揺らぎなく達成できるよう、可能な限り最善の準備をしなければならないことこそが重要なのです。

68. あなたがたはすでに、愛によって魂の向上的な発展がもたらされることを、わたしから学んできた。なぜなら、愛する者は、自らの存在が持つすべての賜物と能力を開花させるからである。 ただ知性を開花させることだけで光の崇高な頂点に到達しようと努めるのではなく、常に知性と感情を調和させる正しい方法を求めなさい。そうすれば、教えを学んでいるその瞬間にも、それを実践することができるようになる。

69. 真理の道は極めて明瞭であり、その道を歩む者が滅びることは決してない。

70. あなたがたは一人ではない。私の励ましと光が、あなたがた一人ひとりと共にあり続けるからだ。しかし、もしそれが不十分だと感じる場合のために、私はすべての人間に、霊的な光の存在を傍らに置いた。それは、あなたがたの歩みを見守り、いかなる危険も予感させ、孤独な時の伴侶となり、人生の旅路における支えとなるためである。 それこそが、あなたがたが「守護天使」あるいは「守護者」と呼ぶ存在たちである。

71. 決して彼らに対して恩知らずな態度をとってはならず、また彼らの啓示に耳を貸さないであってはなりません。なぜなら、あなた方の力だけでは、人生のあらゆる試練を乗り越えるには不十分だからです。あなた方には、あなた方よりも進んだ存在、そして私が

彼らに啓示したゆえに、あなた方の未来について何かを知っている存在が必要なのです。

72. あなたがたが霊化に達しない限り、それらの存在たちの闘いは非常に困難である。なぜなら、あなたがた自身は、彼らの困難な使命を支援するためにほとんど何も貢献していないからである。

73. もし、あなたがたの霊化が進み、目に見えず、何の誇示もなく、あなたがたの幸福と進歩のために働いている兄弟姉妹たちの存在を感じ、認識できるようになれば、あなたがたは、自分の罪のために彼らにこれほどまでに苦労させ、苦しめさせてしまったことを後悔するでしょう。 しかし、この気づきがあなた方の内に湧き上がるのは、あなた方の心の中にすでに光が差し込んでいるからに他なりません。そうして初めて、彼らに対する同情、感謝、そして理解が芽生えるのです。

74. あなた方の守護者たちは、自分たちの努力があなた方によって支えられ、彼らのインスピレーションがあなた方の高揚と調和しているのを見たとき、どれほど大きな幸福感に満たされることでしょう！

75. あなた方には、「霊的な谷」に、まだ知らない多くの兄弟姉妹や友人がいます。

76. 明日、霊的な生活に関する認識が地球全体に広まったとき、人類はあなたがたの傍らにいるそれらの存在の重要性を認識し、人々は私の摂理を祝福するでしょう。

77. あなた方を絶えず脅かしている、混乱した存在たちの侵攻に対して、この光の軍団が繰り広げている戦いを、いったい誰が想像したことがあるだろうか。あなた方が気づくことなく、両者が絶え間なく繰り広げているこの戦いを、人間の目では誰も捉えることはできなかったのだ。

78. あなたがたが気づかないうちに起きているすべての事柄の存在について、あなたがたが無知であることは、 、私がこの時代に、この任務を果たすために、私が定めた脳を通じて霊界があなたがたに語りかけるよう命じた理由の一つである。 こうして、それらの存在たちは、自らの存在を証し、その愛と慈悲、謙虚さと忍耐をもって、あなた方を守るという使命のために生きていることを証明するために、あなた方の元を訪れる機会を得たのである。

79. 民よ、祈りなさい。そして、その祈りの中で彼らと心を一つにしなさい。彼らの保護を信頼しなさい。彼らは輝かしい光に満ちた存在であり、あなたがたの傍らで、あなたがたがわたしのもとへ

たどり着くまで、その道のりの全行程において導き、支え続けるという困難な使命を果たすことができるのです。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 335

わが平安があなたがたと共にありますように！

1. 今日、わが霊は再び霊的イスラエルに降り立つ。愛する民よ、私は「普遍の光線」を通じてあなたに現れ、父として、師として、友として、そして裁き主としてもあなたに語りかける。私はすべての中に存在し、あなたがたが私に向けて捧げる最も内なる願いに至るまで、その祈りに耳を傾けている。

2. 私は、受肉した魂たちが、父であり主である私との真の対話をますます見出し、かつて私を求め、私を崇拝するために用いていた古い儀式や様々な礼拝の形式を後にして、確かな足取りで霊的な道を歩み進んでいるのを見る時、喜びを感じる。 この時代にこれらの啓示を受け取り、それとともに私の偉大な教えを受け取っているのは、まさにあなた方、謙虚な共同体たちである。

3. 私は、選ばれた民に属する――人種によるものではない――数多くの魂を一つにまとめました。私が、あなたがたが現在属している、あるいは過去に属していた人種に呼びかけているのではないことを知ってください。私が呼びかけているのは、霊的なイスラエルです。私はこの民に使命を託しました。なぜなら、この民は、地上の他の諸民族の中で、私が以前の契約を授けた「長子」だからです。

4. 恵みと啓示の受託者であったあなたは、すべての人々に光をもたらし、無知あるいは無関心のままこの世をさまよう者たちのための灯台となるよう、使命を授かった。 わが預言者、証人、使徒、そして信頼すべき者であったあなたを、私は再び呼び寄せた。それは、あなたがたに使命を継続させ、この使命を果たすことによって、魂を完成させるためである。

5. あなたがたの忠誠と愛にもかかわらず、私は非難することなくこう言います。あなたがたは、私の以前の教えにまだ従っていません。あなたがたは、私が
与えた光、平和、祝福をすでに持っていたにもかかわらず、それらを彼らと分かち合うことはなかった。

よく考えてみてください。この使命を受けるにふさわしい者となるために、あなた方は魂と肉体の大きな闘い、思考の葛藤、そしてこの世の戦いを経験し、必要な鍛錬、決意、そして経験を身につけてきたのです。 しかし、私があなたがたに「私の使命を果たしていない」と言ったとしても、過去の行いの功績を否定するつもりはな

い。まさにその功績こそが、この霊的な啓示の場で、私があなたがたの中にいるという恵みに値する者とするのである。

6. わたしの教えの真意の中に、あなたがたはあなたがたの神の臨在を見出すであろう。この言葉は、預言者たちが聞いたものと同じであり、モーセが選民を団結させ、彼らの主との結びつきに備えるよう導かれたのと同じ光である。

私は、あなたがたの中に、太古の時代に荒野の旅路を先導したかつてのイスラエル人たちを見出します。すなわち、勇敢で気高いユダの子ら、–エホバへの礼拝を見守った忠実なレビ人；人々の隊列の糧を確保する任務を負った、たゆまぬゼブルンの子ら；そして同様に、私に忠誠、愛、信頼の大きな証しを示してくれたすべての人々。

7. 私の視線は、第二の時代にメシアを待ち望んだ者たち――私が人類を贖うために人となったという信仰を、処刑人の剣でさえ奪うことができなかった殉教者たち――にも、愛を込めて注がれている。 ここにいるこの民の中には、あらゆる時代の私の弟子たちと証人たちがいます。そして、主との完全な交わりのこの時が過ぎ、私が選んだこの手段による教えが完結したとき、私の霊は豊かにすべての私の子供たちに降り注ぎ、あなた方一人ひとりが、周囲の人々も、そしてあなた方自身も驚くほど、自分の賜物や能力が開花していくのを感じるでしょう。

8. あなたがたの霊からは、あなたがたの賜物が力強く湧き出るだろう――それは虚栄の種となるような装飾品としてではなく、あなたがたが思考、言葉、そして愛の行いを通じて人々に示す美徳と模範としてであり、それらはすべて、最大の謙遜と柔和さを現すものである。

預言の賜物は、あなたがたの間で大きく開花するでしょう。科学者たちは未来についてあなたがたに問いかけるでしょう。彼らは、あなたがたの証を聞き、これから直面する厳しい試練に立ち向かい、彼らに突きつけられる葛藤を解決するために、あなたがたの集会へと駆けつけるでしょう。

9. 現在、あなたがたの成長はまだわずかで、なおも自らの賜物に疑いを抱いている。そして、私があなたがたにそれについて考えさせるために与えた奇跡を直接目撃しても、それを別の原因のせいにしている。しかし、あなたがたが私と一つになる時が来る。その時には、あなたがたの信頼は完全なものとなるだろう。あなたがたは自らの賜物や資質を理解し、それを通して私を証しすることになる。

10. まことに、あなたがたに告げる。預言を授けているのは、他ならぬわたしである。預言は決して人間から発したものではなく、人間は単なる媒体に過ぎなかった。預言はわたしから発するものであり、わたしはあなたがたに、一定の限度までそれを解釈する機会を与えている。しかし、より深い知恵を含むものについては、わたしだけがあなたがたに解き明かす。 準備ができていないままそれを探ろうとしたときはいつでも、あなたがたは誤った解釈に陥ってきた。

11. わたしは、あなたがたが今日目撃している出来事を予告しておいた。今こそ、大きな成就の時である。これらは、第一の時代と第二の時代に、わたしの預言者たちを通じてあなたがたに与えたすべての予告の解釈を示した出来事である。しかし、その当時、人々はすでに語っていた。ある者は正しく、またある者は誤って。

私が人間の探求能力に合わせて与えた預言は、正しく理解された。しかし、解釈し、解き明かし、成就することが私だけに委ねられていたものについては、私は出来事や試練を通じて明らかにした。

12. 今、人類にとって決定的な時が訪れている——それは、私の愛を語る様々な試練を通じて、人間が目を覚ます時である。私は、あなたがたの魂が清く、あなたがたの口が私の教えを広めるにふさわしいものであることを望む。そのために、私はあなたがたに謙虚さを授ける。そうすれば、あなたがたは、知る者たちの称賛を呼ぶ賜物を持っていても、謙虚であり続けることができるのだ。

13. たとえ理解できなくても、預言があなたがたの魂と肉体にしみわたることを許しなさい。あなたがたの義務は、それを広めることである。あなたがたが証しするものをよりよく理解するのは、他の人々であるだろう。しかし、もしどちらの側も、わたしの預言の真の意味を深く理解することができないならば、わたしはあなたがたを助けにやって来て、こう告げるであろう。「私があなたがたに与えた預言が、非常に偉大で賢明であったのは、私が人類に与えようとする啓示が極めて偉大であり、人類が目標に到達するまで、より高い次元へと登り続け、そこに住み続けるためである。私は私の選ばれた者にこの啓示を与え、その解釈をあなたがたに授ける。」

14. 初期の偉大な預言者の一人であるヨエルは、群衆に告げたことを理解していたと、あなたがたは信じますか。彼が言ったことを思い出してください。「やがて、あなたがたの子供たちは預言し、若者たちは幻を見、年老いた者たちは啓示的な夢を見る時が来る。天には不思議が起こり、地には大きなしるしが現れる。 太陽は黒く

なり、月は血のようになる。地からは煙 と蒸気が立ち上り、その時、主の大いなる日はすぐそこに来ている。」

15. 預言者は、自らの言葉が持つ重大さを理解していなかったが、誠実にそれを語った。彼はわたしの導管であり、わたしの声を伝える者であった。その魂は清く、その口はふさわしいものであり、その預言は、泉から湧き出て、川床で汚されることのない水晶のように澄んだ水のようなものであった。こうして、そのメッセージは人々の心に届き、清らかなまま保たれた。 ある者はあるように解釈し、またある者は別のよう解釈した。しかし、わたしは真実を告げる。この預言された偉大な日の到来は極めて近く、今や一連の出来事が預言者の言葉を裏付けているのだ。

16. 目を覚まし、魂を整えて、起こっている出来事を深く探求しなさい。そうすれば、あの時代にすでに予告されていたしるしがはっきりと現れていること、そして事実そのものが、それらの言葉の説明と成就を示していることに気づくでしょう。これこそが、私が自分の預言に与えた解釈なのです。

17. 愛する弟子たちよ、私はあなたがたを、その困難な使命を果たすために備えさせている。あなたがたの唇から真実のみが語られ、あなたがたの進むべき道がはっきりと見えるようにするためである。しかし、あなたがたが真実を語り、証しをしても、人々があなたがたを信じず、理解も愛も示さないならば、そのことは私に委ね、泣いてはならない。常に前進し、決して沈黙してはならない。 信頼に満ち、勇気を持って口を開き、常にその使命を果たしなさい。あなたがたの全存在が、平和を醸し出す準備ができていなければならない——言葉だけでなく、思考や霊的なメッセージを通しても。

18. 平和を育み、愛し、至る所に広めなさい。人類は、どれほどそれを必要としていることか！ 人生の浮き沈みに動揺してはなりません。そうしてこそ、常に強くあり続け、あなたがたが持つものを与える準備ができるのです。すべての魂の遺産であるその平和は、この時代において失われ、戦争に取って代わられ、国家を苦しめ、制度を破壊し、魂を滅ぼしてきました。その理由は、悪が人間の心を支配してしまったからです。 憎しみ、度を越した野心、抑制のきかない貪欲が蔓延し、害をもたらしている。しかし、その支配もあとわずかだ。あなたがたの喜びと安らぎのために、私は告げる。あなたがたの解放はすでに間近であり、兄弟愛と清らかさと健康に満ちた空気の中で息をすることを切望する多くの人々が、この目標のために尽力しているのだ。

19. わが弟子たちよ、すでに始まっているこの大いなる戦いにおいて、あなた方は何をするつもりか。あなた方の計画は何か。 私は、あなたがたの な存在の最も奥底に、戦うこと、そして私の教えを広めることへの計り知れない渇望を見出しています。なぜなら、あなたがたは、それが人類にとって最良の指針であることを知っているからです。あなたがたの平和と、道徳的・精神的な高みを目指して戦いなさい。そして、善の中に強さを感じたなら、それを至る所に広めなさい。それは、実りをもたらす露のように、周囲の人々の心に染み込んでいくでしょう。

20. 祈りなさい。そして、その祈りが、あなた方を囲む人々や、遠く離れた人々――この世界に生きる人々だけでなく、この世界の彼方で慰めを必要としている人々にとっても――癒しの薬となるように。

21. 私は今、わが民に一つの励ましを与える。それは、戦争という苦難に満ちた闘いの中で肉体を失ったすべての魂は、「霊の谷」へと引き寄せられ、そこで、光と悟りを得るために、あなたがたの祈りを待ち続けるということである。

民が熱烈かつ心からの祈りで一つになるこの時、それらの存在たちは霊的な賛美の歌に包まれるだろう。彼らは、さらに前進するよう招くあなたがたの声を聞き、一瞬たりとも動揺することはない。光は鮮明であり、この時から彼らは、昇華のために戦うべく歩み出すのである。

22. 1950年以降、人類を待ち受ける試練は極めて大きなものとなるだろう。人類は極めて苦い杯を飲み干さなければならず、極めて厳しい打撃を受けることになる。しかし、これらすべては、人類が眠りから目覚めるために起こるのだ――今、人類の魂は、その完成と真の使命に関して眠りについているのだから。 この時期に人々が受けるであろうこれらすべての試練は、彼らが正気に戻り、自らの使命について熟考するよう、彼ら自身によって招き寄せられるものである。なぜなら、長い間、魂たちは地球から「霊的な谷」へと移り、そこから再び地球へと戻ってきているが、その転生を活かすことなく過ごしてきたからである。

しかし、私がこの世で新たな命を与えることによって彼らに授けるこの恵み、すなわち愛と正義の証は、彼らがそれを浪費するためにあるのではない。私があなたがたに地球へ戻ることを許すのは、単にその実を食らうためではなく、あなたがたが昇華のために戦い、私が約束した王国を勝ち取るためである。

23. 私は最初、あなたがたが戦いに備えるのを助けるために、優しく呼びかけるだろう。しかし、もしあなたがたがその声を理解しないならば、私は厳しく呼びかけ、再びあなたがたに触れるだろう。それでもなお、 あなたがたがそれに従わないならば、正義が完全に発動し、あなたがたを奮い立たせ、目を開かせて、新しい日の光を見出すようにするだろう。

24. 私は、新たな戦争が勃発し、日々、多くの人がさまざまな事故で目の前で命を落とすのを目撃しても、あなたがたが動揺しないよう、警告する。 もし、あなたがたの心を揺さぶるこれらの試練の理由を理解できないのであれば、すべての魂は、かつて自らに拒んでいたものを自分自身に返すためにこの地上にやって来たこと、そして、そのような試練によってのみ目覚めさせられるほど感覚が鈍っている人々がいることを覚えておいてください。

25. 私はどれほどあなた方を愛していることか、そしてあなた方に苦痛を望んではいない！地上では慰めも癒しも見出せなかった者たちは、霊の谷にたどり着いたその瞬間に、私からそれを受け取り、高き来世へと導かれることになる。私が彼らにそれを与えるのは、私が子供たちと切り離せない羊飼いだからである。 あなたがたのすべての苦しみは私の中に響き渡り、無意味な戦争で流されたすべての血は私の空っぽの両手に注がれ、人類のすべての涙が私の顔を濡らす。 あなた方にとって最も隠され、最も秘められた存在でさえ、私にとっては非常に身近な存在である。私はあなた方すべてを等しく愛をもって見つめている。あなた方が嫌悪の眼差しを向けるような存在たちでさえ、私は彼らの悲惨な状況から救い出し、彼らを導き、彼らの中から、再生と悔い改め、そして愛の透き通った水が湧き出るようにするのだ。

26. 私はさまざまな方法であなた方に語りかけている。なぜなら、あなた方は、これまでとは異なる方法で語れるよう、準備を整えなければならないからだ。 あなたがたは、わたしの教えを聞くたびに喜びを感じ、日々わたしに近づいているのを感じている。あなたがたは、父に愛されるためにここにいることが何という幸せであるか、また、わたしがあなたがたのために定めた大きな試練を乗り越えたことが、あなたがたにとって何という満足であるかを悟っている。なぜなら、それらの試練の一つひとつが、あなたがたをわたしに近づける一段階だからである。

27. 私は多くの子供たちを呼び寄せ、この働きの中で様々な使命や任務を与えました。そして、あなたがたの進歩や才能に応じて、

それらをあなたがたに与えました。私はそれらすべてを合わせて、私の民、すなわち私の新しい使徒の群れを形成しました。

ある者たちには指導者の職務を託しましたが、その任務が重荷や苦労とならないよう、民を会衆に分けておきました。

また、他の人々には「声の伝達者」という賜物を託し、この奇跡を受け取るために集まる群衆に、人の言葉となった私の霊感をお伝えできるようにしました。

また、ある者たちには、預言者とするために透視の特権を与え、彼らを通じて、これから起こることを告げ知らせた。

「支柱」としての役割を授かった者たちは、民の巡礼の旅を支え、聴衆の群れと共に十字架の重荷を担う教会指導者たちの助けとなる。

28. また、他の人々には仲介の賜物が授けられており、彼らは霊界の道具として訓練を受け、霊界からのメッセージ、すなわち私の業の解説を伝えるとともに、病める者への慰めである癒しの香油の持ち主としても、その癒やしの霊的放射を通じて、共に苦しむ者たちに慈悲を注ぐよう導かれている。 私が「黄金の筆」と呼んだのは、私があなたがたに残す書物に、この時代の私の啓示、教え、そして預言を記す者である。

「礎石」という職務を、民の間で堅固さ、安定性、そして強さの模範となるべき者たちに授けた。民の間における彼らの言葉、助言、そして模範は、岩のように揺るぎないものでなければならない。

しかし今、私の啓示のこの時期が終わりに近づいているため、私はすべての職務を正し、これほど大きな任務を授かるために選ばれたすべての人々に、自らを深く省み、自らの行いの結果を見極めるよう呼びかける。この省察の時、私はすべての人々に寄り添う。

29. 心配するな。私があなた方を選んだとき、私は間違っていなかった。私はあなた方を知っており、あなた方が何ができるかを知っている。誰が喜んで律法の成就に専心し、誰がその道で弱くなるか、私は知っていた。 私はあなたがたの父であり、すべての人に私の業に携わる機会を与え、すべての人に同じ糧を差し出した。それは、あなたがた全員が同じように愛されていると感じ、私の弟子であるという同じ権利を持ち、同じ遺産を所有できるようにするためである。

30. 私は、ある者たちは私の指示を履行し、まもなく私の言葉に従うだろうことを知っていた。また、他の者たちは、自らの過ちに気づき、誤りを正すまでに時間がかかるだろう。しかし、私の賜物は、彼らの魂の中に潜在したまま、目覚めを待ち続けている。なぜ

なら、あなたがたは皆、私のもとへ至らなければならないからであり、すべての人に理解がもたらされるからだ。あなたがたは完全となり、私の右の座に就くことになる。

しかし、あなたがたがわたしのもとへ至るためには、わたしの律法を遵守する用意があり、謙虚さと服従の心をもってその道を歩むことが必要です。

あなたがたがまだこの姿のわたしを前にしているこの数日間、目を覚まし、祈りなさい。そして、あなたがたの心がわたしの言葉に動かされ、あなたがたの本質から、従順と一致と愛への渇望が湧き上がるようにしなさい。

31. まもなく、使者たちは旅立ち、書簡を携えていくことになる。彼らの旗印は、あなたがたが受け取ったわたしの言葉とメッセージである。わたしは、あなたがたが平和と善意の使命へと旅立てるよう、あなたがたを準備している。なぜなら、わたしがあなたがたに最後の言葉を授けるこの厳粛な日に、あなたがたが準備を整えている姿を見たいからである。

32. すでに今、私はあなたがたに告げておく。私の最後の教えは、今まさにあなたがたに与えているものと同じくらいの長さしか続かないだろう。 それは、私がこれまであなた方に与えてきたすべての教えと同様に短いものとなるでしょう。なぜなら、私の偉大なる最後の教えとは、この過去3年間の教えそのものであり、それは私が御霊の愛の炎をもってあなた方の魂に書き記した書物であり、そこには1866年以来私があなた方に啓示してきたすべてのことがまとめられているからです。 その中で、私はあなたがたに、始まりの時から、さらには創造が始まる前のことまで――太古の時代から現在に至るまでの人類の進化について語ってきました。 この書物の中で、私は、過ぎ去った偉大な時代を通じてあなたがたに与えられた私のすべての教えと、あなたがたの試練について語りました。この書物の中で、私は、過去のあらゆる時代の啓示と未来の啓示を、解釈も成就もなしに一つにまとめました。そこには、今この地上における、そしてその後霊界での、あなたがたの魂の発展の道に向けた準備も記されています。

33. この私の最後の教えは、現在の1950年の最終日に終了するが、それがあなた方との最後の交信になるわけではない。なぜなら、私は常に、祈り、私と霊的な交わりを持つようあなた方に教えてきたからだ。あなた方人間、そして様々な生命の世界に住むすべての存在は、私の霊にアクセスすることができ、私はあなた方の霊の中に宿っている。

この言葉が終わっても、私から遠く離れていると感じたり、空虚さや沈黙を感じたりしてはならない。引き続き、あなたがたの父による調和のとれた絶え間ない調べに耳を傾け、私の臨在を喜び、私の業について深く考え、それを学んでほしい。

34. あなたがたがこの教えを広めるために旅立つ前に、全力を結集し、霊的な知恵を一つにまとめることが必要です。そうして、祈りと瞑想の中でわたしの御言葉の周りに集まるとき、あなたがたはわたしの臨在を感じるでしょう。子供たちは心を動かされ、預言者たちもまた、わたしの臨在に先立つしるしを感知し、わたしは繊細な形で御自身を現すでしょう。 集まる者たちは皆、わたしを感じることになり、こうした集まりには厳粛な雰囲気が漂うでしょう。そこには、あなた方に平安と未来への信頼を与える霊的な雰囲気が満ち溢れるでしょう。

「霊界」もまた、あなたがたの脳を介することなく、あなたがたのもとを訪れ、あなたがたが呼び求める場所ならどこにでも現れ、あなたがたの試練に寄り添い、この世界にその慈悲と保護を注ぎ続けます。霊界は、あなたがたの心に混乱が生じたり、誤った解釈や間違った決断がなされたりしないよう、見守ってくれます。

この準備の時期が終わったら、集まりを怠らないでください。なぜなら、私が一人ひとりに個別に現れることはあなたがたも知っているとはいえ、私はあなたがたが一つになって、祈り、霊的な修行に没頭している姿を見たいからです。

35. 私が使徒たちの元を去った後に祝われた、あのペンテコステの祭りを思い出してください。彼らの魂は私の啓示を熱心に待ち望んでおり、彼らが一つの思いに結ばれたとき、私の霊が降りてきて、彼らの口に御言葉を授け、彼らの全存在が照らされ、さまざまな言語や信仰を持つ人々と意思疎通ができるようになったのです。

36. それゆえ、わたしはあなたがたの間で、こうした集まりを望んでいる——常に、おお、弟子たちよ。あなたがたが集まることができるときはいつでも、わたしの名においてそうしなさい。そうすれば、わたしはそこに臨在し、わたしの秘められた宝庫の中身をあなたがたに明らかにするであろう。

私は、あなたがたの人生のあらゆる瞬間と日々を委ねる。それらは、あなたがたが祈りのひとときを捧げるためのものである。しかし、私は再び第七の日を聖別する。その日には、あなたがたが私と交わりを持つためであり、残りの日々は、互いに愛し合い、私の教えから正しく理解したすべてを実践するためにあるのだ。 しかし、あなたがたの集まりには特別な集会所は必要ありません。私にとっ

ては、あなたがたの家も、質素な寝室も、川沿いの平地や山も、川の岸辺や砂漠も、すべて同じ場所となるのです。

37. わたしはあなたがたに、人々の前で「あなたがたはわたしの弟子である」と大々的に宣言しないよう勧める。それを口に出すべきではなく、、あなたがたの行いがそれを語るようにすべきである。「あなたがたは霊においてイスラエル人である」などと言ってはならない。 霊的なイスラエルが、魂に光を灯し、心に平安をもたらすという使命において団結し、私がヤコブの夢や啓示の中で語った通りになる時、世界はそれを認めるだろう。『わたしは、あなたに、地の塵のように、天の星のように、海の砂のように、数えきれないほど多くの子孫を与える。そして、あなたの子孫によって、地上のすべての民が祝福を受けるであろう。』

38. 地球上の諸民族は、まだイスラエルにおいて祝福を受けていない。なぜなら、第二の時代にそうであったように、イスラエルは私にその分裂を露呈しているからだ。ある者は物質のために生き、ある者は霊のために生きる——ある者は一つの王国を築き、ある者は*別の王国*を築く。私は、ある者がこの世とその黄金のために生きているのを見る一方で、ある者は私を求め、その貧しさの中で幸せであるのを見る。 しかし、ひとたび私がこの民——平和と神の啓示に責任を負うこの偉大な魂の軍団——を一つにまとめ上げれば、この地球、そして天さえも揺るがされるだろう。なぜなら、彼らの団結は、世界に対してこれほど大きな力と影響力を及ぼすことになるため、それを感じない者は一人もいなくなるからだ。 あなたがたの使命は広く知られるようになり、私がすでに今、あなたがたに託しているそのメッセージは、私が三つの時代にわたって人類に遺した遺言を一つに結びつけることになる。

39. あなたがたの魂が、私が託したすべてのものを守り抜く器となるよう心がけなさい。なぜなら、これからあなたがたが歩む道には、岩だらけの区間があり、アザミや茨があるからだ。 しかし、木々や花々が、あなたがたの旅路を心地よいものにしてくれる区間もある。そうして歩みを進めるうちに、あなたがたが使命の達成の終わりにたどり着いたとき、再会の日、すなわち救いと永遠の平和の日が、あなたがたを驚かせるだろう。

40. 今、遠くにいる人々のために祈り、そして、あなたの周囲にいる人々には、あなたの心を溢れんばかりに注ぎなさい。 病人を癒やし、助言を必要とする者に助言を与え、苦しむ人類にとってあらゆる種類の慰めと癒やしとなりなさい。もし、言葉をかけることのできない見知らぬ人のそばを通り過ぎたとき、それでも心が動かさ

れ、その人のために魂を込めて祈り、その兄弟の苦しみを私に委ねるならば、あなたがたがその痛みを私に委ねたゆえに、私は彼に必要なものを与えるであろう。

41. 自分自身を知り、私があなたに授けた賜物を見出しなさい。そして、あなたの霊的な知識が多くの人の心を和らげ、彼らの道徳的・霊的な水準を高めてきたことを認識しなさい。

42. あなたがたの使命に必要な直感と愛を、すべて持ちなさい。

43. あなたがたの中には、祈りの中で私にこう言う者もいる。「師よ、あなたはすべてをご存知なのに、なぜ私の悩みをあなたに語り、私の人生をあなたに見せ、あるいは私の計画をあなたに打ち明ける必要があるのでしょうか。私があなたの中にいる以上、あなたは私の過ちを見通しておられるのに、なぜそれをあなたに告白しなければならないのでしょうか。あなたの御心に従うものを私に与えてください。そうすれば、私はそれで満足します。」

44. この祈りの後、あなたがたは恍惚としたまま、私があなたがたに御言葉を与えたことによって授けてくださったものだけに感謝していました。その御言葉の中に、あなたがたの人間生活のための霊的な糧と祝福があるのです。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 336

1. 私は、あなたがたの魂が私の律法を知ることができるように、深い慈愛をもってあなたがたの元へ降りてくる。この時代において、私はあなたがたに広い地平線を示し、あなたがたが光と完全さと真理の道を歩むことができるようにした。

2. 私は、あなたがたが明日、私の教えを知らずに人々の前に立ち、私が決して示したことのない誤った道を歩むことを望まない。なぜなら、私はあなたがたを十分に備えさせて去りたいからである。そうすれば、私の教えを聞いたことのない者たちに真理の道を示せるようになり、あなたがたが盲人や無知な者たちを訪ねて、彼らから教えを受けるようなことがなくなるからだ。彼らはあなたがたに教えるべき何ものも持っていないからである。

3. あなたがたは謙虚であり、自分の賜物を通して人類に私の啓示を証しし、人々が私の名を呼び求め、この第三の時代におけるあなたがたの間での私の臨在を信じるようにしなさい。あなたがたの同胞から、「あなたがたは間違った師に従っていた」「あなたがたは無知だ」「あなたがたには美徳がない」「あなたがたは強くない」と言われるような口実を与えてはならない。

いいえ、イスラエルよ、私は、この痛みが私の霊にあることを望まない。また、私が去った後、人類があなたがたの準備不足を非難することも望まない。 わたしを聞き入れなかった者たちが、あなたがたが人間の知性を通じて伝えたわたしの啓示を記念する際に心を動かされ、わたしの黄金のペンによって書き記された教えで彼らの魂を養うことを、わたしは望んでいる。

4. 私は、あなたがたが助言をもって罪人を改心させ、励ましの言葉をもって、打ちひしがれ、絶望している者を力づけてほしいと願う。人はパンだけで生きるものではないが、私が人類のためにあなたがたに残す憐れみは、霊的なものである。 物質的な富を持ちながらも、心の平安や健康を欠いている者たちが、あなた方のところに来るだろう。彼らに対しても、私があなた方に託したものを与えなさい。

5. あなたがたは、わたしに従うことが間違いではないことを、自ら証しなさい。なぜなら、使者たちによるわたしの啓示が終わった後も、あなたがたは引き続き、この神聖な大義——欠点のないこの教え——の忠実な戦士であり続けなければならないからです。そして、人類の間にこの教えを広めることを、決して恥じてはなりません。あなたがたは、自らの行いによって、わたしの真理を証しなさ

い。 私は、あなたがたが言葉だけでこの教えを世に広めることを望んでいない。

6. わたしは、あなたがたの霊にわたしの律法を刻み残す。それは、あなたがたがそれを同胞たちに示し、人類がその律法に導かれて、もはやその道でつまずくことがないようにするためである。

7. この時代、人々はわたしに耳を傾け、わたしの教え――すなわち、わたしがあなたがたに明確に啓示した真理――を受け入れた。そして、当初は自分たち自身も理解していなかったこの知識を、人類にどのように教え導くべきかについて、深く考えを巡らせたのである。

8. イスラエルよ、あなたは準備を整えなさい。そうすれば、周囲の人々に不意を突かれることはないだろう。 私は、あなたがたが愚かな者たちの前で無知をさらけ出すことを望まない。いいえ、わが民よ、あなたがたは説得力に満ちた言葉と、自分自身への自信をもって語り、この時代に私が与えた教えと啓示、そしてその理由を説明しなければならない。あなたがたは、無知な者を教え導き、その者が向上するための道を示すよう定められているのだ。

9. 新しい世代は、わたしを求めなければならない。なぜなら、わたしは成熟した魂たちを地上に遣わすからであり、彼らは幼い頃から、この世の愚かな言葉には耳を貸さないだろう。彼らの魂が、そうした教えには満足できないことを彼らに理解させるからだ。そして、彼らはあなたたち、わたしの民のもとへやって来て、わたしの御業を完全に明瞭な形で示してくれるよう求めるだろう。

10. あなたがたが祈りのうちに立ち上がるたびに、わたしの言葉を思い出すだろう。そうすれば、あなたがたは歩む道で不意を突かれることなく、それを必要とし、求めるすべての人に、わたしの教えを伝えることができるようになる。

11. わたしは、あなたがたがわたしを理解し、人間の知性を通じてわたしが伝える啓示によって、わたしの平安に満ちた気持ちを感じ、熱意と従順、そして行動力を持って使命を果たすために立ち出せるよう、絶えずあなたがたに語りかけるあなたがたの父である。

12. 私は、人類の苦しみをあなたがたが無視することを望まない。私は、あなたがたが彼らの苦難――疫病、災い、そしてあらゆる苦しみ――を感じ取り、彼らが私の憐れみを得られるよう、愛をもって祈ることを望む。

13. 人々があなた方に加えるあらゆる侮辱は、あなた方に対してではなく、わたしに対して行われるものであり、それによって彼らは自らの手で自らの魂に苦痛をもたらすことになる。しかし、あな

た方は軽蔑される者たちを忍耐をもって迎え入れなさい。やがて、すべての人がわたしの真理を確信し、あなた方が間違っていなかったことを知る時が来るからである。

14. 多くの者がこう言うだろう。「神が私たちの間におられるのなら、なぜ戦争を終わらせるよう命じないのか？」しかし、あなたがたは隣人たちに答える術を知っており、神の裁きの時、父は高慢な者たちが互いに滅ぼし合うことを許されるのだと告げるだろう。しかしその後、私は戦いに終止符を打ち、彼らが私から平和を受け取れるようにする。

15. 私があなた方に託すこの言葉は、混沌の中にあっても魂の平安を保つための、あなた方の道の光である。イスラエルよ、私の言葉の一つひとつがあなたを満足させてきたことを思い出せ。しかし、この教えを単なる習慣として聞くだけでなく、師から学んだことを実際に実践しなさい。

16. イスラエルよ、わが霊が罪と不信仰に対してどれほど激しく戦わなければならないかを悟りなさい。わが子らがわたしを理解したのを見ると、わが霊は喜びで満たされ、わたしはあなたがたを祝福し、あなたがたの従順は花の香りのように父のもとへ届くのである。

17. イスラエルよ、明日、あなたが苦々しく泣きながら、天を仰いで私にこう言うことのないように願う。「宗派や教会が、あなたがこれほど深い愛をもって光を与えた大衆を引きつけてしまったのです。」

そう、わが子らよ。しかし、彼らは麦と雑草を一緒に広めてしまうだろう。彼らの心は、あなたがたの言葉によっても改心していないのだ。しかし、まことに、あなたがたに告げる。彼らは偽りの言葉で、羊小屋の羊たちを散らそうとしている。だが、わたしは力そのものであり、大衆が、わたしの業が雪の結晶のように清いことを、はっきりと悟るように仕向ける。

18. わが民よ、不意を突かれてはならない。常に警戒して生き、忠実な見張り人となりなさい。あなたがたが誤っていると思わせようと、自分の兄弟姉妹が言う言葉を恐れてはならない。

揺るぎなく立ち続けなさい。なぜなら、私は、私の大義に忠実な「兵士」たち――つまり、世界観や信条、宗教が混乱するこの困難な時代に立ち向かうあなた方のうちの人々――に、大きな報いを与えるからである。 あなたがたは、私の業を尊ぶのと同じように、すべての同胞を尊び、私が再びあなたがたに残す教えを指し示さなければならない。人々があなたがたを嘲笑しても、そのままにしてお

きなさい。私の聖霊の光が彼らに届き、その時、彼らの心には悔い改めが生まれるからである。

19. 堅固であり、警戒して生きなさい。困難な時代があなた方を待ち受けているからだ。その時代、人々は私の業 のもとに来て、それを探り出そうとするだろう。 しかし、まことに、あなたがたに告げる。わたしはあなたがたをその困難を乗り越えるよう助ける。これがわたしの御心である。あなたがたがしばらくの間、闇に包まれたとき、わたしは輝く光として現れ、あなたがたを照らし、飢えた狼の口から救い出し、光と真理の道を示すからである。

20. わたし、あなたがたの師は、あなたがたを取り巻くあらゆる栄光、そしてあなたがたが内面に秘めているが、霊性への欠如ゆえに気づいていない栄光を、すべてあなたがたに明らかにする。

21. 私は、あなたがたが善を行い、常に私の真理という杖に支えられながら山を登ることができるよう、私があなたがたに授けたすべての力を知ってもらいたいと願っている。

22. 人間にとって、人生は常に苦痛に満ちたものであった。それは、人間が自らの中に宿す多くの賜物を、常に無視してきたからである。その存在すら知らなかったのに、どうしてそれらを活用できようか。

私は、この時代において人生が意味する重荷から自らを解放することはできないと信じ込んでいる人々を、しばしば打ちひしがれ、悲しみに暮れている姿で目にしてきた。それゆえ、私は、あなた方を呼びかける私の声、そして信仰と生きる勇気、喜び、希望を吹き込む私の言葉によって、あなた方に嬉しい驚きをもたらしたのだ。

23. 信仰こそが魂に強さを感じさせるものであり、それゆえ、私は教えによって、ある者たちの信仰に火を灯し、また他の者たちの信仰を蘇らせる。なぜなら、あなたがたは将来、強く、模範的で、従順かつ法を遵守する民とならなければならないからだ。しかし、その力は、私の律法への信仰から生まれるべきである。

24. 私は、もはやあなたがたの目に涙を見ることを望まない。また、精神的な理想を持たず、その代わりに心配事や肉体的苦痛に満ちた、人生の重い負担をあなたがたが耐え忍ぶ姿を見ることも望まない。

25. 今こそ、あなたがたは父に愛される子供たちであると自覚しなさい。あなたがたの幸福のために必要なものを、わたしに願い求めることを学びなさい。わたしが「神の慰め主」であることを思い出しなさい。そうすれば、苦難の中にあって恐怖に打ち負かされることはないだろう。 苦しみは、あなたの心を鍛えるためのものであ

り、弱めるためのものではないことを知ってください。それはあなたを清め、苦しみから抜け出した後、苦々しい気持ちを残さないようにするためのものです。

26. この地上において、すでに、あなたがたの魂を満たし、この世でその最初の実を結ぶであろう至福を手に入れなさい。そうして、落胆することなく人生の道を歩み続けられるように。

27. 私の教えの霊感に導かれて、精神を高め、あなたがたの存在そのものを通して、私が完全に現れるようにしなさい。

28. かつて、わたしはあなたがたにわたしの体を委ねたではないか。それゆえ、あなたがたがそれを所有していることを悟りなさい。あたかもわたしが自分の体でそうするかのように、あなたがたを通してわたしが現れるようにしなさい。そうすれば、あなたがたは真に霊化され、あなたがたの父の御心を行うことになるだろう。

29. あなたがたの心の扉を開き、わたしを中に入れてください。そうすれば、あなたがたの苦しみは慰められるでしょう。万物と世界の主であるわたしが、物乞いのような謙虚さをもってあなたがたのところへやって来ます。そして、わたしの唯一の願い、切なる願いは、あなたがたが互いに愛し合うことです。なぜなら、あなたがたの理解と洞察を通じて、あなたがたはわたしを愛し、崇めるようになるからです。

30. すべての子供は私の霊の一部である。それゆえ、あなたがたが隣人に対して行うことは、私に対して行っていることになる。他者の苦しみが、まるで自分のことのように心を痛めないのか。なぜ、同じ霊であり、同じ「肉体」であるにもかかわらず、互いに他人のように感じるのか。あなたがたは、私が太古の昔に創造し、時を経て発展し、完成していくようにと定めた私の業である。

31. 今日、この大きな試練の時代において、あなたがたを勝利へと導くのは、あなたがたの信仰のみである。そして、扉を開き、あなたがたの旅路を明らかにするための力強い鍵である、熱心な祈りが、あなたがたを支えてくれるだろう。

32. 精神における私の啓示という福音を同胞たちに伝えるための、あなた方の働きは極めて大きなものとなるだろう。なぜなら、この時代の人類は、かつてほど容易に信じようとはせず、敬虔さも薄れているからだ。人々はあなた方に疑念や準備不足を突きつけてくるだろうから、あなた方は粘り強く戦わなければならない。 しかし、こうした障害に直面しても絶望してはなりません。この時代において、あなたがたの使命を果たしなさい。そうすれば、光が闇に打ち勝つことを常に信じてきた者たちが、長い間切望し、祈り求めて

きた兄弟愛と平和によって、この世界が照らされる様子を、満足感をもって目撃することになるでしょう。

33. もう間近に迫ったその日、地上に暮らす人々は、愛こそがこの人生の根幹であり、あらゆる時代を通じて愛の業が成し遂げてきたすべての美しさと完全性の源であることを理解し、その価値を深く認識するようになるでしょう。 そうすれば、あなたがたは、私がなぜこの時代に訪れたのか、そしてあなたがたの努力がどのような結果をもたらすのかを知るようになるでしょう——その間、他の人々は「霊的な谷」にいて、そこから、この世で蒔いた種が数えきれないほどの実を結ぶのを、言葉に尽くせないほどの喜びをもって見届けることになるでしょう。

34. 私からのあらゆる霊感に敏感であり、従順で、謙虚でありなさい。 あなたがたの賜物を通して私を現し、あなたがたの賜物を通して私があなたがたの隣人に届くようにしなさい。あなたがたの唇は、苦しむ者たちの耳に私の な慰めの言葉を語りかけ、光を必要とする者たちに私の知恵を伝えなさい。あなたがたの手は、愛を注ぐために私に仕え、あなたがたの目は、慈悲と優しさ、そして憐れみをもって見つめるためにあるのだ。

35. あなたがたは、わたしが教えた行いを実践できるよう、わたしに満たされなければならない。そうすれば、キリストがすべての魂にその真理を注ぎ込み、その愛を明らかにするために、ただ魂の高揚を待っていることを知るようになるだろう。

36. もし、私の教えがあまりにも異質に思え、私を知っているにもかかわらず、そのような言葉を聞いたことがないと感じるなら、私はこう言おう。その驚きは、私がかつてあなたがたに明らかにした事柄の核心を探求することを怠った結果である。 そのため、この教えはあなたたちにとって異質なもの、あるいは新しいものに思えるかもしれないが、実際には、この光は常にあなたたちの生活の中に存在していたのである。

37. 今日、あなたがたの心は、嵐の中で翻弄される壊れやすい小舟のようだ。しかし、それは転覆することはない。驚くべき力がそれを守ってくれるからだ。一筋の稲妻は、深い夜における希望の火花となるだろう。そして、嵐がようやく収まり、新しい日が平和の使者として訪れるとき、あなたがたの心の奥底から、信仰と愛と感謝に満ちた祈りが湧き上がるだろう。 皆さんは、この試練を経て魂が強くなったことを感じ、これまで知らなかったある種の悟りを体験するでしょう。その悟りによって、これまで闇や謎であったものをはっきりと見極めることができるようになるのです。

38. あなたがたが内面から変容して初めて、わたしはあなたがたを世に送り出し、わたしのメッセージを広めさせる。なぜなら、弟子たちの中に真の霊性が宿って初めて、彼らはわたしから受け取ったままの形でそれを伝えることができるようになるからだ。

39. また、あなたがたに告げる。私があなたがたをこの福音を伝えるために遣わす前に、私はあなたがたの傷を癒やし、私がこの人類に注ぎ出した慰めの香油で、あなたがたの本質を浸しておくであろう。

40. 今日、この御言葉を聞くためにここへ来なさい――知識と憐れみに満ちあふれる泉のもとに来なさい。そうすれば、あなたがたは、まだわたしを知らないからこそ、真にわたしを知り始めることができるのだ。

41. あなたがたの唇や思いが、「主よ、私を憐れんでください。私の苦しみに同情してください――主よ、あなたの赦しを私から奪わないでください」と私に告げるたびに、あなたがたは無知と混乱、そして私をどれほど知らないかを証明しているのだ。

42. 私があなたがたの痛みに同情すべきだと言うのか？　私が自分の子供たちに憐れみを持つべきだと私に求めるのか？　あなたがたの罪を赦すよう私に懇願するのか――愛であり、恵みであり、慈悲であり、赦しであり、憐れみそのものである私に？

43. 地上において心が硬い者たちを動かそうと努め、隣人への思いやりの片鱗さえ持たない者たちに、涙と懇願をもって憐れみを呼び起こそうとするのは良いことだ。しかし、愛によってあなた方を創造し、永遠に愛してくださる御方を動かすために、そのような言葉や考えを用いてはならない。

44. さて、あなたがたが私についてほとんど何も知らないと私が言った理由が、今、お分かりだろうか。時折、口に注がれる杯が極めて苦く感じられたり、痛ましい試練があなたがたの耐えうる限界まで迫ったりするとき、あなたがたは私の名を呼び、私にこう言う。「主よ、この罰を私から取り除いてください。これ以上、私を苦しめないでください。」

ああ、闇の中にいる人々よ。あなたたちは気づいていない。あなたたちを苦しみの中に留めようとしているのは私ではなく、自ら苦しみを招き、自らの杯を苦味で満たしておきながら、その後で私を非難しているのは、あなたたち自身なのだ。

45. さあ、この光の源のもとに来なさい。そうすれば、あなたがたの魂と知性が照らされ、それから、わたしを父として、師として、そして裁き主として知り始めることができるだろう。なぜなら、

わたしはこのたゆまぬ師として、イスラエルよ、あなたがたの不従順や無理解、思索の欠如やわたしの律法への研鑽の不足などには目もくれずに、常にあなたがたと共にあったからだ。 わたしの神聖な言葉によって、わたしはあなたがたに、あなたがたの過ち、弱さ、そして無知を悟らせています。わたしは、あなたがたが、わたしがあなたがたに相続として託した畑で働くために立ち上がるよう、時間を与えてきました。

46. これは、人々の苦しみや苦難に立ち向かうために、師がいつの時代も弟子に託してきた使命である。

47. わたしの言葉は、魂の準備と高まりに応じて、あなたがたに語りかけてきた。しかし、わたしは、神の光を損なうことなく、罪と闇の世界へと降りてくる。 私は、あなたがたが新たに生まれ変わるために、あなたがたのところへやって来る。しかし、私が神聖な言葉をもってあなたがたに問いただしたとき、あなたがたは苦しむ。それは、私の言葉が、あなたがたの魂を目覚めさせるために、あなたがたの心に響いたことを感じたからである。

あなたがたの肉体が聞き取った言葉は、その好みに合うものではなかった。なぜなら、あなたがたの物質主義が、私があなたがたに授けた言葉の一つひとつに込められた神の意図、核心、そして霊感の力を認識することを妨げているからだ。 それゆえ、私はあなたがたにこう告げる。物質的な束縛から解き放たれ、 魂が鎖を断ち切り、私のもとへと昇り、私の神聖な御言葉を聞き取れるようにしなさい。そうして、魂を通じて、あなたがたの物質的な部分が、師があなたがたに授けるものを理解できるようになるのだ。

48. あなたがたが、心の中に愛と神聖な平和の種を宿すイスラエルの民となること、それが私の意志である。世界は、あなたがたの神に慈悲と憐れみを期待しており、かつての時代と同様に、イエスの真の弟子たちを目にすることができることを期待している。

49. 人々は、第二の時代の弟子たちのような、あなた方の闘いを期待している。 しかし、時にはあなたがたは勇気を失い、同胞たちがあなたがたを「詐欺師」と呼んで中傷し、誹謗しているのを耳にすると、ペトロのように振る舞い、道の上でわたしを否み、わたしがあなたがたを備えさせてきた恵みを否み、再び物質主義に陥ることでそれを失ってしまうのである。

50. あなたがたは、不信仰者を説得し、堕ちた者を立ち直らせ、苦しむ者たちに慰めと愛の言葉をかけなければならない。

51. 自由意志を持つ人々は、地上に平和が支配するようにと、団結を叫んでいる。彼らは調和を求め、自分たちの内に光があり、平

和を築く力を授かっていることを世界に示そうとしている。しかし、あの欺瞞者たちは、私があなたがたに責任として託した、計り知れない価値を持つ至宝と「新しい契約の箱」を、あなたがたの手から奪い取ろうとしている。そして、あなたがたを再びファラオの僕、闇の奴隷にしようとしている――彼らは、その無知ゆえに、悪意と、自己中心的な独善の鎖を引きずっている者たちである。

52. わたしは、第二の時代の使徒たちの使命の成就や、モーセの使命の成就についてだけ、あなたがたに語ったのではない。いいえ、イスラエルよ、わたしはあなたがたに、ナザレのイエスの使命の成就について語ったのだ。彼は当時、あなたがたに極めて完全な模範を示してくれた。

53. まさにこのイエスの権威の一部を、私はあなたがたに授けた。それは、あなたがたが彼のように立ち上がり、苦しむ同胞を助けに行くためである。

54. わたしは人間に、他のいかなる律法も、他のいかなる教えも、他のいかなる道も示したことはない。人類が今歩んでいる脇道を開いたのは、人間自身である。しかし、あなたがたは正しい道にあり、わたしの愛と光を享受している。

55. しかし、民よ、石に私の臨在を証しさせたいのか。いいえ、イスラエルよ、それはあなたがたの魂と肉体に痛みと苦しみをもたらす原因となるからだ。

56. 選ばれた民よ、あなたがたが滅び、人類があなたがたを私の弟子として、また明日の導師として認めないこと――それは私の御心ではない。それゆえ、師はあなたがたにこう告げる。学び、探求しなさい。そうして私の神聖な御心を理解し、世界が命の木を知り、その木のもとに来ることができるように。

57. 愛する民よ、あなたがたが伝達者を通じてわたしの神聖な御言葉を聞くことができる期間は短い。しかし、わたしの民の数は、一魂たりとも不足してはならず、また一魂たりとも多すぎてはならない。1950年の終わりまでに、14万4千人が私の御前に集い、最後の指示を受け取らなければならない。その指示に従って、あなたがたは困難な使命を果たし、諸国民のもとへと旅立ち、光と慈悲と真理をもたらさなければならない。そうして初めて、私の選ばれた者たちがその使命を果たすことによって、世界は私の神聖な御霊の平安を享受することができるのだ。それゆえ、たゆまぬ師は、あなたがたがそれを学び、解釈し、従うことができるよう、教えの一節をさらに与えるのである。

58. わたしの啓示は、光と平和、そしてあなたがたへの愛に満ちている。わたしは、あなたがたが新たに生まれ変わるべき道を示す。 私が愛によってあなたがたを力づけられるよう、その道を歩むことを教えよう。この愛こそが、あなたがたを確かな歩みへと導き、人類に私の臨在を忠実に証しする真の弟子へと変える力となるのだ。

59. 私は、あなたがたがもはや罪の奴隷とならないよう、あなたがたを解放する。私は、あなたがたが真理を悟り、心の中に聖所を築き、そこで信仰を松明のように私に向けて捧げ、魂が私へと舞い上がり、私と交わりを持つことができるよう、光を与える。

60. もう、あなたがたに「主よ、なぜ私から遠ざかるのですか。なぜ私の声に耳を傾けてくださらないのですか。なぜ人生の道のりで孤独を感じるのですか」と言われるのは嫌だ。

愛する民よ。*わたしは*決して子供たちから離れることはない。信仰を欠き、自らわたしを拒み、心の扉を閉ざしたのは、あなたたちの方なのだ。

61. この世はあなた方を誤解し、あなた方に苦痛を与えてきた。しかし、あなたがたが父に叫び求めたとき、私は憐れみをもって、最良の「衣」をあなた方に与えた。私の憐れみは深く、あなた方をに滅びるままにはしなかったからだ。私は、あなた方と人類にとっての救いの港だからである。

62. わたしは、天の食卓の最高の御馳走であなた方を養い、あなた方が師のように歩むことができるよう、あなた方の足を洗った。

63. わたしは、あなたがたが光の子となり、あなたがたの間にあるわたしの臨在を証しする者となるために――あなたがたが人類の支えとなり、救いの舟を示す者となるために――闇の中でわたしの光が輝き、あなたがたが世界に、高みへと昇り、霊から霊へとわたしの神性と対話するよう教えるために、わたしの言葉をあなたがたの心に刻み残す。 それゆえ、わが民よ、わたしはあなた方を準備する。あなたがたが第三の時代の僕となり、大衆に命のパンと水晶のように澄んだ水を与える者となるためである。

子供たちは、この堕落、概念の混乱、そして物質主義の時代に、道に迷っている。世界は盲人のようにその道を歩んでいる。彼らは恵みの生活から死んだ者たちであり、滅びゆく人類であり、私に再び苦難の杯を飲ませているのだ。彼らに新しい日の光を示し、私の臨在を感じさせ、父が両手を広げて彼らを待っていると伝えてほしい。

64. あなたがたが、ある伝達者を通じて私の言葉を聞くことができる時間は、すでに短くなっている。しかし、私の神聖な言葉は、人類の前に開かれた書物でなければならない。 あなたがたは、それを心と魂に刻み込み、あなたがたを照らす光として、人類を導く松明として示さなければならない。なぜなら、人類はあなたがたが受けた実を渇望して、さまざまな道を通ってやって来るからであり、あなたがたは、彼らが恵みの命をその内に持つことができるよう、それを彼らに与えなければならないからだ。 それは命の木の果実であり、それを糧とする者は、永遠の命をその内に持つため、滅びることはない。そして、この果実を糧としてきたあなたがたは、自らの魂が復活し、すべての鎖を打ち砕いて高みへと昇ることを許さなければならない。

65. あなたの心を平安と善意で満たしなさい。世に対して、主のために真の教会を築き上げた自由な魂として現れる、光の魂でありなさい。

66. あなたがたが、私のメッセージを、私を聞こうとしなかった者たちに伝え、その心を信仰へと回心させることによって、「死者」に命を与え、「盲人」に光を与えるのを見たい。これこそが、あなたがたが父に差し出すべき、あなたがたの手にある黄金の種である。 それゆえ、わたしはあなたがたを導き、あなたがたの魂にとって計り知れない価値を持つ な宝であるわたしの教えを与える。なぜなら、わたしはわたしの言葉を通してあなたがたに平安を感じさせ、聖霊の光に満ち溢れたこの道を歩むよう、その平安をもってあなたがたを鼓舞してきたからである。

67. わたしはあなたがたの過ちには目を向けなかった。今、あなたがたにとっての父であるわたしが、わたしの言葉を与えるのは、あなたがたがその言葉に従うことによって新たにされ、わたしの憐れみに満たされるのを見るためである。 私は、あなたがたが私の霊的な恵みに包まれ、皆が等しく私の聖霊の光によって照らされるのを見たいと願っている。そうして、あなたがたが――愛と信仰と善意によって結ばれ――世界に私の業を告げ知らせる強きイスラエルとなり、人々があなたがたの中に私の使者、私の使節――すなわち、人々を導くために真に備えを済ませた魂たち――を見るようになるためである。

68. あなたがたは日々、わたしの教えを受けている。わたしは、あなたがたが将来、霊化を成し遂げたとき、霊的な賛美の歌を歌えるよう、絶えず教えを授ける師である。

69. あなたがたが私の神聖な足跡をたどれるよう、私はあなたがたに私の力を与える。あなたがたが父を明確に理解し、私の言葉を正しく解釈し、人々が様々な道を通じて求めている真理があなたがたの中に現れるよう、私はあなたがたの知性を照らす。

70. 愛する民よ、汝は人類にこのメッセージを伝え、彼らが真理の光の中で父の律法を理解できるようにしなければならない。なぜなら、私は、彼らが大きな誤りのうちにあって、私の高き御計画に干渉し、準備も整っておらず、私をまだ理解していないにもかかわらず、私の秘められた宝庫を探り入ろうとしているのを見ているからである。

71. わたしの教えは、人類が自らを映し出すべき澄んだ鏡となるであろう。そうして、彼らは謙虚さと柔和さをもって、わたしの言葉によって改心し、わたしを愛し、自らを新たにし、人々が互いに愛し合うように備えられるのである。

72. わたしは、あなたがたにわたしの平和の旗を授けた。それは、あなたがたが世界にその平和を実感させられるようにするためである。 しかし、私があなた方に託した平和とは、私の御霊の平和であり——あなた方の御霊を鼓舞するものであり——私の愛から生まれ、それによって人類が私の臨在を自覚するようになるものである。私があなた方に与えたのは、この平和であり、私が整えた道を歩む中で、あなた方が痛みを感じることのないよう、その平和を心ゆくまで感じられるようにするためである。なぜなら、その痛みはあなた方自身が作り出したものだからだ。 しかし、あなたがたの魂には、あなたがたを清め、浄化する苦しみに対して勝利を収めるための、偉大な賜物と力が備わっている。まことに、私があなたがたに告げる。あなたがたを私 に近づけるのは、痛みだけではなく、私の律法への従順、すなわちあなたがたの善行であるのだ。

73. あなたがたは、わたしの教えを実践する中で喜びを感じ、そうして山を登っていくことになる。あなたがたには果たすべき困難な使命があることを理解せよ。あなたがたは、師のように、人類の中に従順の足跡、謙虚さの模範を残さなければならない。そうして、それが輝くような道しるべとなり、後の世代があなたがたの模範に従うようにするためである。 あなたがたは、彼らが霊性へと至ることができるよう、その道を平らに整えて残さなければならない。世界が、かつて常に育んできた敵意という深淵へと再び転落することのないよう、あなたがたは真理の種を蒔く者とならなければならない。

74. わが民よ、備えよ。世界は、わが真理を理解することを切望しているからだ。 彼らに慰めをもたらしなさい。彼らの試練は大きいからだ。しかし、わたしが宝庫にあなたがたのために蓄えておいた憐れみもまた大きいと、わたしは告げる。だが、それを受け取る前に、あなたがたはそれに値する者にならなければならない。一度、使命を果たし終えたとき、あなたがたは、その憐れみが自らの存在の最も奥底にあることに気づくだろう。

75. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたはもはや、困窮者でも、弱者でも、盲目者でもない。なぜなら、この時代にわたしの臨在を証しするために、わたしの光があなたがたを照らしたからである。 後世の人々が、あなたがたのそばに、その陰で安らぐことのできる静かな平和の場所を見出せるようにすることが、わたしの意志である。彼らを温かく迎え入れ、彼らの無知や悪さを顧みることなく、恵みの泉へと導きなさい。

もし彼らがらい病を患ってやって来たら、あなたがたには癒しの香油があるのだから、彼らを癒やしなさい。また、殺人者があなたがたのところに来たら、霊的なマントで彼を覆い、彼が自分の罪を悔い改めるように導きなさい。そうして、彼を汚す穢れを洗い流し、彼を贖う水へと導くことができるようにしなさい。 これらの魂に苦しむ者たちが、わたしの言葉と光を渇望してあなたがたの門を叩くとき、彼らに何も拒んではならない。あなたがたは隣人の僕となるべきである。なぜなら、あなたがたがわたしの慈悲を施せるよう、わたしがあなたがたをそのために備えてきたからである。

76. そうすれば、あなたがたが行くところどこにでも、繁栄がもたらされるだろう。人々はわたしを認識し、わたしの臨在を感じ、心の中に信仰を持つようになる。そうして、世界は偶像崇拝から背を向けることができるようになるのだ。

人々は霊的にわたしを求め、互いに愛し合い、愛し合うことによって平和と善意を育まなければならない。しかし、 、この教えを伝えるのはあなたたちである。あなたたちは、彼らの闇の中で一筋の光となるべきである。

77. あなたがたの戦いは間近である。あなたがたは、それが光と闇との戦いであることを悟るだろう。その時、あなたがたは私の大義の戦士となり、軍旗を掲げ、私の御言葉の剣を手に取り、あなたがたの主の軍勢がこの世の闇と戦うのを目の当たりにするだろう。

78. 今こそ、私がすべての魂を照らし、何世紀にもわたって耐えてきた束縛から世界を解放する時である。しかし、悪と敵意と悪意に満ち、戦争が蔓延し、罪があらゆる実を結んできたこの世におい

て、私が自らの存在を明らかに示す必要がある。 この世界が、溶鉱炉の中の金のように精錬され、恵みの命へとよみがえり、人がその魂の中に永遠の命を持つようになるためには、それが必要なのです。

79. しかし、父はあなたがたにこう告げる。わたしは、創造物の中で最も尊いもの、すなわち魂を滅ぼすことはない。いいえ、愛する子供たちよ、わたしはただ、この世をその堕落から清め、大衆がわたしを感じ、わたしの律法を遵守する新しい人類が生まれるようにするだけである。 人々は互いに愛し合い、命の木の果実を味わい、尽きることのない恵みの泉で魂の渇きを癒やし、わたしの聖霊が王の星のように彼らを照らすだろう。その時、あなたがたは、人類がわたしを賛美し、祝福するのを目にするだろう。

80. 愛するイスラエルよ、あなたがたは選ばれ、備えられた者たちである。この世界が「新しい日」を迎えることができるよう、これからも戦い、働き続けてほしい。

81. 民よ、あなたがたは模範を示すための先駆者であるから、率先して行動しなさい。私があなたがたに託した通りに、私の業を世に示しなさい。聖霊の賜物をその全き栄光のうちに宿す、真の霊性者となりなさい。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 337

1. 心から柔和で謙虚な者たちを歓迎しよう。彼らは、私が現れるこの場所の質素さに不快感を抱くことなく、ただ自分の魂に、私の言葉を聞く喜びをもたらすことだけを考えていたのだ。

2. まことに、あなたがたに告げる。これらの心を整えるためのほんのわずかな瞬間のために、私は、情熱と戦争の只中で滅びゆく人類が渦巻くこの荒れ狂う海へと、私の光と平安を送るのだ。

3. 伝達者を通じて聞かされるメッセージの真意の中に、わたしを求めるこの人々の群れを見る時、わたしの霊が喜びを感じないはずがあるだろうか。彼らはもはや形式や儀式を求めず、ただ霊のパンによって養われたいと願っているのだ。

4. 魂よ、知性よ、心よ、食べ、満ち足りなさい。そうすれば、この声をもう聞くことができなくなったときにも、あなたがたは永遠に向けて力づけられ、養われたと感じるだろう。

5. 伝達者を通じて人間的な形をとった、あなたがたの師の御声は終わりを迎えるだろう。しかし、わたしの啓示と教えが記された書物は、消えることのない輝きを放つ灯台のように、永遠にあなたがたの魂の前に開かれたままである。

6. この言葉は、あなたがたの魂を平安で満たし、この民の心と知性に尽きることのない喜びをもたらし、「死者」たちを信仰へとよみがえらせ、それを聞いたすべての人々の道を照らしてきた。たとえ、私が選んだ者たちの口からもはやこの言葉を聞くことがなくなっても、それはあなたがたにとって、決して消えることのない、忘れがたいものとなるだろう。

7. このパンとぶどう酒を、自らの存在の最も清らかで純粋な部分の中に守り抜くことを知る者たちは、祝福されるであろう。なぜなら、彼らは自らの歩む道において、慰めを与え、慈悲を蒔き、光を灯すためのものを、常に持ち続けることになるからである。

8. 今日、信仰を持った者たちは幸いである。なぜなら、明日、彼らは自分たちが聞き、見たことを信仰として受け入れるからである。あなたがたは、同胞たちの霊的覚醒と平和のために働くべく、この地上に残されることになる。そして、私があなたがたを約束の地へと導くまで、私はあなたがたを守り続ける。

9. あなたがたの記憶は、わたしがあなたがたに啓示した教えの豊かさをすべて留めておくには弱すぎるため、わたしは、この時代にこの民に教えたすべての本質的な事柄を収めた、わたしから霊感を受けた物質的な書物をあなたがたに残しておく。 そうすれば、 あ

なたがたの日々の務めはより容易になるだろう。なぜなら、わたしの教えが常にあなたがたを励ましてくれるからである――かつて聞いたことを時が経つにつれて忘れてしまう危険にさらされることはないからだ。そうでなければ、あなたがたは誤りや歪曲、あるいは秘密主義に陥ってしまうだろう。

10. わたしの言葉は、この民にとってこれからも灯台であり、星であり続けるだろう。そして、霊的な勝利は、最後まで忠実で忍耐強い者たち――砂漠の飢えや渇きにひるまない者たち――一歩一歩、自らのカルヴァリーの丘を登り続け、その視線を常に、光であり、永遠であり、真の至福の約束である。

11. あなたがたが魂を高めれば高めるほど、十字架の重荷は軽くなるだろう。そして、もし私がもはやこの姿であなたがたに語りかけなくなったとしても、私は霊においてあなたがたに近づき、こう告げるだろう。「書物を開き、学びなさい。そうすれば、あなたがたはまもなく、この業が地上にその存在を知らしめるために必要とする、勇敢な弟子たちとなるだろう。」 あなたがたは書物を開けば、それが答えてくれるでしょう。それはあなたがたを疑いから解き放ち、まさに今、理解しようとしていたことを明らかにしてくれるのです。

12. 確かに、私はあなたがたに告げる。やがて、私の言葉を一歩一歩思い起こさせるような物質的な書物がもはや必要とされない日が来るだろう。その時には、私の言葉が尽きることのない霊感の奔流となって、あなたがたの唇から溢れ出るようになるからだ。 しかし、その日が来るために、そしてあなたがたがその高みと知恵の段階に到達するためには、まず、書かれた教えを深く学び、それを実践し続けなければならない。そうして初めて、霊から霊へと神の霊感を受け取ることを可能にする成熟と基礎知識を身につけることができるのだ。

13. 主は、あなたがたの心に平安があるのをご覧になれば、喜ばれるであろう。わが弟子たちよ、あなたがたは常にわが言葉によって活力を得るべきであり、霊的に高められるとき、あなたがたの魂の中でわが啓示を感じ、わが霊感を受け取るようになるであろう。

14. あなたがたは私の選ばれた民であり、謙虚で寛大な心を持つべきである。つまずいたり失敗したりしないよう、光の道を歩みなさい。なぜなら、あなたがたの前を先導するのは、他ならぬ私だからである。 時折眠ってしまう者は、目覚めたとき、自分が無関心でいた間に、兄弟姉妹たちが光の道を歩み進んでいたことに気づくだろう。しかし、私は、働かなかったしもべ、闇に惑わされ、心に雑

草が生え茂ることを許してしまったしもべに対しても、日々、私の言葉を授けている。

15. 愛する弟子たちよ、かつての道を離れなさい。その道では、あなたたちに苦しみしか降りかからなかったのだから。それゆえ、わたしはあなたたちを、裸で 、飢え、この世に平安も慰めもなく、自らの使命を知らず、わたしの父としての温もりを感じることのない状態で出会ったのだ。 しかし今、私はあなたがたに新たな機会を与え、私の言葉によって活力を得る時間を与えた。それは、あなたがたが、その言葉の中に、いつの時代も肉体の情欲の奴隷であったその魂の救いを見出すためである。

16. あなたがたは、世界が堕落の極みに達し、権力への欲望が花開き、理性と良心の声を聞き入れない者たちの不道徳が幅を利かせている時代に生きている。 しかし、この光の道を歩むあなたがたは、自分の使命を理解し、高みへと成長し、私が常に教えてきた愛によって自らを備えるために、私の言葉を受け取っているのです。

17. あなたがたはわたしを深く愛し、時を有効に活用することを理解してきた。あなたがたは霊性を高め、肉体を制し、同胞の進歩のために働くよう自らを奮い立たせてきた。

しかし、私を理解せず、理性に耳を傾けず、私の平和を十分に感じず、自らの本質の中に霊的な偉大さを持ちたがらない人々も大勢います。

18. 私は、あなたがたが弱さを感じることのないよう、また、私の力を受け取り、私の使命を果たすという決意を強め、人々自身が引き起こす問題や不運に立ち向かえるよう、私の愛をもってあなたがたを励ましている。

19. 人々を恐れてはならない。目を覚まし、祈り続けなさい。そうすれば、闇に不意を突かれることもなく、私があなたがたを備えさせてきた恵みを奪われることもないだろう。あなたがたは、地球のさまざまな地域における私の使者となるべきである。

私の業を認識したことは、あなた方にとって霊的な目覚めとなった。 あなたがたはもはや偶像崇拝者でも、狂信者でもありません。あなたがたはすでに、自らの運命と霊的な使命が何であるかを知っています。しかし、この道を歩もうとする者は、隣人を愛し、行動の指針として良心を持たなければなりません。そうすれば、すべてが光に満ち、その心には闇は存在しなくなるでしょう。その人は内なる喜びと満足感を持ち、それによってその魂はさらに私へと高まっていくのです。

20. この道を歩む者は皆、常に私の光の霊的世界によって守られ、その使命を果たすにあたり、そこから支えを受けることになる。

21. 地上における人間の生活に関わるあらゆる事柄に関して、父があなたがたに授けてくださった大きな恵みに満足しなさい。あなたがたの魂や肉体を破滅に導きかねないものを求めないでください。わたしには、あなたがたがわたしに求めることのできる以上のものを与える力があるのです。 しかし、あなたがたの人生の道において、*本当に*何が欠けているかを知っているのは、他ならぬ私である。私はあなたがたにこう言った。「もしあなたがたが私の律法を全うすることを理解すれば、私のすべての栄光の中にある私を見るだろう。」

22. 光の存在たちは今、あなたがたの間にある闇を取り除いている。彼らはあなたがたの守護者となり、あなたがたが清らかであり、物質化へのあらゆる傾向を捨て去るよう努める。そうして、あなたがたが霊的な美しさを仰ぎ見、人類への彼らの平和のメッセージを受け取れるようにするためである。また、エリアスは、私が彼らの仲介を通じて自らを現すことができるよう、私の選ばれた者たちを清め、準備している。

23. 残された短い時間を活用し、声の媒体を通じて私の言葉を聞き、啓発された状態を保ち、霊感を受け取る術を身につけなさい。なぜなら、私はこれからも、あなたがたの霊を通じて、大勢の人々に語りかけ続けるからである。また、私の霊界も常にあなたがたと共にいる。

従順であり、距離を気にすることなく、勇気と確固たる決意を持って前進しなさい。あなたがたは徐々にその働きに着手すべきである。そうすれば、世界が罰への恐れやあらゆる人間的な傾向を少しずつ失っていくのを体験することになるだろう。そうして、世界はますますあなたがたの証しを受け入れるようになる。

24. あなたがたはすでに、自らの使命と、どのように準備すべきかを知っている。あとは、もはや「声の伝達者」の知性を通じてではなく、霊から霊へと、私の神性と交感する術を身につけることだけが残されている。

25. そうすれば、わたしを認識していなかった者たちも、もはや混乱することはなくなるでしょう。彼らは信頼と信仰を感じ、霊がわたしの霊的な啓示を受け取り、理解することができることを体験するでしょう。

26. あなたがたに保護を与えてきた集会所は、今後もあなたがたのための集いの場であり続けるだろう。しかし、私はあなたがたに

告げる。永遠に開かれ続ける真の教会とは、聖霊の教会である。すべての世代がそこへ至り、その中で私から命と光、平和と至福を受けることになる。

27. 1950年以降、あなたがたは、私があなたがたに教えたとおりに、人類に福音を伝える働きを始めることになる。それゆえ、私があなたがたに教えるのは、あなたがたが世界に届けるべき真の光を蓄えることができるようにするためである。 選ばれた民であるあなたがたは、様々な宗派や宗教団体に属する 同胞たちの考えを尊重し、あなたがたの努力によって彼らをひとつの意志の下に結集させなければならない。

やがて、私の業がさまざまな国々で花開く時が来るでしょう――かつて不毛だったその野原において、私がこの時代に水晶のように澄んだ水のように注ぎ出した私の言葉の真髄を、すべての人が認識できるようになるために。

28. 明日、あなたがたは一つの民となり、一つの理想を掲げるようになる。それは、誰もがその水晶のように澄んだ水を飲むために集まる、一つの泉のようなものである。人類が、心と魂に本質と甘美さをもたらす、まさにその一つの実を享受できるよう、警戒を怠ってはならない。

29. わたしの教えは、その真意を心に受け入れる者一人ひとりが、隣人と、子供、若者、大人、男性、女性を問わず、一人ひとりにふさわしい特別な配慮をもって接することを学べるよう、あなた方を準備するものである。

30. 私があなたがたに、隣人に対する特別な扱いについて語る時、私が言っているのは「魂への扱い」であることを理解してほしい。なぜなら、あなたがたが隣人と関わるたびに、彼らのもとへ行くということは、彼らの魂とつながることであることを、はっきりと自覚する必要があるからだ。

31. そうすれば、あなた方は子供の中に、戦いを始めようとしている魂、清らかな心と純真な精神をもって人生を歩み始めた魂を見出すことができるようになるでしょう。あなた方の心がこうしたことを深く考えれば、それらの魂に対して慈愛と愛を感じるようになるでしょう。

32. 若者の前に立つとき、そのエネルギーや大きな期待、そして野心的な目標の中に、この地上の闘いの頂点にある魂の姿を見出すことができるでしょう――それは、魂が肉の情欲や、一歩ごとに待ち受ける危険と絶え間なく闘っている人生の段階なのです。

33. 若者たちに理解を示し、助け、気遣い、彼らが困難な人生の道を歩み進めることができるようにしてください。

34. 成熟した人々や年長者に対して、敬意と愛を捧げなさい。彼らの中に、すでに人生の山の頂を越えた魂を見出すことができる。この世が彼らに与えることのできたもの――それが少なかろうと多かろうと――を、彼らはすでに受け取っている。彼らはもはやこの世に何も期待していない。彼らは、自らの魂が待ち受ける未来に、すべての希望を託しているのだ。 しかし、すべての人々の中で、彼らこそが 最も多くを与えることができる人々である。なぜなら、彼らはこの世での生涯の間に蒔いたすべてのものの実りを、すでに収穫しているからだ。彼らにとって、あなたの配慮を必要としているのは魂ではなく、人生の闘いに疲れ果てた肉体の方である。彼らには注意深く、優しく、敬意を持って接しなさい。彼らはそれを必要としており、それに値するからである。 これほど多くの苦難と疲れ果てるような闘いを経てきた彼らの心には、一滴の蜂蜜さえも大変歓迎されるのです。

35. 愛する民よ、私はあなたがたに、人々を「霊的な存在」として見つめてほしい。そうすることで、あなたがたは隣人一人ひとりにその人本来の価値を見出し、その人にふさわしい場所を与えることができるのだ。もしあなたがたが自らの本質を忘れ、依然として自分たちを単なる肉体的な存在として扱うならば、すべての人間の中に存在する真の価値、すなわち「魂」を自ら否定することになってしまうだろう。

36. 今、私が御言葉の伝達者たちを通して声を届けているこの時、私を聞くためにここに集まった聴衆の皆さんを歓迎します。私は、敬虔な人も、不信仰な人も、誠実な人も、探求者も、霊性によって清められた人も、物質主義という重い荷を背負っている人も、すべてを歓迎します。

37. 愛する民よ、あなたがたは今日に至るまで、私への信仰と、魂の完成に近づくという願いを示してくれた。それゆえ、私はあなたがたを祝福する。 イスラエルの使命は、世界のために祈り、教えを伝えることである。あなたがたは成長し、増え続け、弟子たちから次第に真の信徒へと変容し、やがて、間もなくわたしの言葉の遺産を受け継ぐべき者たちを探し求めるようになるだろう。

38. この時代に私が自らを現した方法は、第二の時代とは異なるが、私の意図は同じである。すなわち、人類を救い、その道中で遭遇し、逃れることができなかったあの嵐から人類を救い出すことである。

誘惑はその全力をもって解き放たれ、人間は幼子のように堕ち、大きな苦しみを受けた。彼は苦難の杯を飲み干し、深い混乱の中でわたしを呼び求めた。そして、父は彼と共にいた。

その杯にはまだ沈殿物が残っているが、わたしはあなたがたが、不従順の結果として生じるその苦痛に耐えられるよう助けてやる。わたしに耳を傾けるあなたがたは*幸いである。あなたがたは*強くなるからだ！しかし、あの大きな苦しみに見舞われたとき、他の人々はどうなるのか？信仰の欠如によって、彼らの魂は打ち砕かれてしまうのだろうか？イスラエルの祈りが、彼らを支えなければならない。

39. わたしは、あなたがたが清く、悔い改めの心を持って、わたしの愛に満たされている姿を見たいと願っている。 あなたがたが救いをこの世に求めていた限り、あなたがたは弱かった。あなたがたが私へと視線を向け、私に祈ったとき、あなたがたは力を受けた。慰めがどこにあるかを知っているのに——なぜ、いつも私を求めなかったのか？ なぜ、憎しみを消し去り、それによって戦争を終わらせるための愛を求めないのか？

私は今もなお世界に語りかけているが、イスラエルだけが私の声に耳を傾け、私の言葉に対する責任を引き受けている。私はイスラエルに重荷を課す一方で、霊的な恵みも与えている。

40. あなたがたの中に、わたしの真理と本質を宿らせたのは、あなたがたがわたしの言葉を広めるためである。わたしは、あなたがたの中に、狂信も、無知も、偽善も見たくない。 私は、私の律法の範囲内で、私の民が自由であり、強く誠実な家族として、困っている人々を愛し、手を差し伸べ、この時代に人類が経験している運命の試練を理解し、そのために祈る姿を見たいと願っている。 あなたがたが決して、「父よ、私たちには、偽りと闇と戦うための光も、知識も、力も欠けています」と言わないように、私はあなたがたを準備している。

41. わたしは、あなたがたを通して奇跡を行うために、ほんの少しの信仰を求めた。わたしは、あなたがたに与えた力の証しを授けた。あなたがたは、病人を愛で包み込んだからこそ、その人を癒やしたのだ。 あなたがたのたった一言が、一人の罪人を改心させた。あなたがたは彼の心を動かし、彼を貫いた光が彼に思索を促し、自らの過ちを悟った彼は悔い改め、あなたがたは彼を救ったのだ。

「慰め、平安を与えなさい」と私はあなた方に告げました。そして、あなた方は各家庭を巡る道中で平安をもたらしました。その平安の恩恵を受けたのは、この世界に生きる存在たちだけではありま

せん。あなた方の兄弟姉妹である霊的存在たちもまた、イスラエルの民が宇宙に広めた光に対して、私に感謝を捧げています。

42. あなたがたが、霊と真理をもって互いに愛し合い、わたしの平和と善意の律法を履行する上で一致したとき、さらに大きな恵みの賜物を受けることになる。いったんこのように備われば、あなたがたから正しい霊の律法が発せられるようになる。 あなたがたの間には、諸国民の歩みを変える指導者たちが現れるだろう。しかし、もし私があなたがたの一人にこの使命を授けるならば、謙虚にそれを受け入れ、私があなたがたに託す大きな責任を深く自覚し、選民を安全に導いたモーセのことを思い起こし、その言葉や、知恵と正義に満ちた原則を心に留め、彼を手本とせよ。

43. 私は、あなたがたの備えに応じて、将来、あなたがたのために大きな使命を用意している。あなたがたの影響力は、この世界の行方を決定づけるものとなるだろう。あなたがたは平等を説き、私がわが子らに与えた使命を尊重するだろう。なぜなら、彼らは皆、私が例外なくあなたがたに与えたすべての美徳と神聖な権利を所有しているからである。

44. あなたがたが勝利を収めるためには、団結し、人類に対して憐れみを抱かなければならない。私が彼らを赦したように、あなたがたも彼らを赦しなさい。あなたがたは、彼らの数え切れない過ち、道徳的・精神的な病、そして堕落を目にするだろう。しかし、あなたがたはただ光を伝えるべきである。 あなたがたの使命は、与えること、私の教えを説明すること、そして良き手本を示すことである。残りのことは私に任せてほしい。あなたがたが同胞の間で直面する重大な事柄は、私の前に持ち出せ。そうすれば、私は私の意志に従ってそれを裁く。

1950年以降は、私の教えの中でいかなる理論や学問も構築してはならない。教義や儀式を創設してはならず、ただ信仰にとどまりなさい。魂の中にそのしるしを刻み、私が教えた美徳を実践しなさい。人類があなた方を待っているのだから、戦いのために力を蓄えなさい。 あなたがたの中には、自国の国境を越えて行く者もいれば、近隣の地方へ向かう者もいるだろう。また、この世で初めて光を見た場所へ戻る者もいるだろう。わたしはあなたがたを散らす。しかし、祈り、備えを固め、わたしの御心を悟り、それに従うことができるようにしなさい。

45. わたしの名において出かけて行きなさい。語る前に備えなさい。働きに備えるなら、その困難な使命について深く学びなさい。私があなたがたの先駆者となる。第三の時代に、私の到来について

の証しを求められたならば、あなたがたが見聞きしたことを語れ。その時には、あなたがたはすでに私の言葉を学び、探究しているはずであり、それまで理解できなかったことも、その時には理解できるようになっているだろう。

46. わたしは、あなたがたを、人々の心の中に築き上げるために遣わす。あなたがたの働きは、わたしにふさわしいものとなるよう、理にかなったものでなければならない。

47. あなたがたは裁かれ、吟味されるだろう。しかし、あなたがたの中に奉仕という理想が見出されれば、人々はあなたがたに頭を下げ、愛するようになるだろう。人々は、あなたがたの変容と霊化を目の当たりにして驚き、あなたがたを手本とするだろう。あなたがたが与える教えについて、私は高き来世において証人となる。

48. 私はこの事業を継続させるために、偉大な魂たちを地上に遣わす。そして、あなたがたはそれぞれの功績に応じて、偉大な霊的使命を担うことになる。人類は多くの罪を犯し、その悪しき種は彼らの心に深く 根を下ろしてしまった。それゆえ、浄化の業は長く、継続的なものとなるだろう。

正しい道を指し示すべき魂たちは、すでに遣わされている――あなたがたこそが、私が人類を高め得る霊的な段階へと置いたイスラエルの民である。

49. 他者に対して自分たちが優れているなどと思ってはならない。私の言葉と賜物は、あなたがた全員が等しく私を理解できるよう、すべての人々のために与えられているのだ。

50. 第三の時代は1866年に始まったが、この時代が何年、あるいは何世紀続くのか、あなた方にはわからない。第二の時代が約2000年を経てようやく終わったことを考えれば、現在の時代がいつまで続くのか、あなた方には予測できないのである。 愛する民よ、ただ一つ、父があなたがたに御自身を現し、あなたがたに非常に近くおられ、あなたがたが日々ますます変容していくことを信じていなさい。もしあなたがたが戦いの途中で立ち止まろうとするなら、私はあなたがたが進み続けるよう励ますだろう。今始まったのは、粘り強く続く戦いであり、それはこれからも続いていく。それが私の回復の業である。

51. わたしはあなたがたに命を与え、困難な使命を果たすためにこの世へ遣わした。わたしの命じるところを全うし、すべての被造物よりもわたしを愛し、隣人に仕えなさい。そうすれば、あなたがたはより高い次元で生き、日々わたしに近づくことができる。

52. あなたがたは皆、清められ、自分の使命を果たしたとき、わたしのもとに住むことになる。地上で霊的に生き、霊的な法則と地上の法則に従い、わたしのすべての約束が成就するのを体験しなさい。

53. あなたがたは、この遺産、すなわちわたしの言葉を、子供たちに残しなさい。わたしはあなたがたに、創造し、家族を築く力を与えた。 私はあなたがたに家庭を与え、「愛と温もり、そして良き手本でそれを満たしなさい」と告げた。もしあなたがたが子供たちに正義を体現させたいと願うなら、私の律法を遵守しなさい。子供たちはそれをあなたがたに期待している。しかし、もし彼らが今の時点であなたがたの助言や手本を理解できなくても、やがてその時が来るだろう、家族の父たちよ。その時、彼らはあなたがたの賢明さを認め、あなたがたを敬い、祝福するようになるのだ。

54. 今日、わたしから学びなさい。わたしは例外なくすべての人に語りかけている。あなたがたは皆、わたしの子供であり、あなたがたは皆、わたしに愛され、祝福され、赦され、贖われるという同じ権利を持っているのだ。

55. ここに、私の言葉がある。そこから光の火花が放たれ、真理を受け入れようとしないあらゆる心の闇を追い払うのだ。

56. この言葉の力が、あなたがたの心の扉を開き、愛と謙遜、霊性、そして信仰がそこに 入り込むようにし、同時に、長い間そこに住み着いていた高慢、無知、そして罪を永遠に消し去る様子を見てください。

57. まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしを聞いた者は誰でも——わたしの言葉を信じるか信じないかにかかわらず——今やその魂の中に一筋の光の火花を宿しており、その心の中には、二度と閉ざされることのない良心の扉が開かれている。

58. わたしの言葉は、人類に蔓延する霊的な無知と戦わなければならない。 わたしの再臨を知っている者たちは、第二の時代のように、わたしの霊が肉体に宿ることで、わたしの臨在が実現すると信じている一方で、わたしの帰還や約束について何も知らない者たちは、霊において、また人間の知性を通じてのわたしの臨在に驚き、なぜ自分たちがそのことを何も知らなかったにもかかわらず、わたしが再び人々の間にいるのかと、絶えず自問している。

59. その理由は、人類が儀式や伝統、外的な礼拝に満足し、私が過去の時代に人々に残した律法、預言、教えを学ぶことを忘れてしまったからである。

60. 私が命じたように目を覚ましていなかったあなたがたが、今、私の声を聞いて、どうして驚かないでいられようか。私の再臨を告げていた預言やしるしを知ることに、一度も関心を示さなかったあなたがたが、私の御言葉が存在することに直面して、どうして驚かないでいられようか。

61. 真理を知ることに無関心な人々にとって、あたかも私が「第二の時代」において何も行わず、何も語らなかったかのようである。 あたかも私が来なかったか、存在しなかったかのようです。それゆえ、この時代に私の言葉が過去の出来事について語るのは、あなたがたが現在の出来事を、第一の時代と第二の時代の預言、約束、教えと関連づけられるようにするためでした。

62. もしあなたがた全員が、当時私がもたらした御言葉と真摯に向き合っていたならば、あなたがたは皆、私を待ち望んでいたはずであり、私の再臨は霊によってなされなければならないことを皆理解していたはずであり、私の啓示に驚いた者は誰もいなかっただろう。 しかし、あなたがたは、知性に闇を宿し、無知という目隠しをされたままやって来た。それが、あなたがたが真理の光を見ることを妨げていたのだ――その心は狂信と愚かさに満ちていた。 そうであれば、あなたがたが私の声を聞いた瞬間に、皆が「この方が師である」と即座に言うことが、どうして可能だったでしょうか。あなたがたが私を何度も、そして繰り返し聞く必要があったのは、 の各レッスンにおいて、あなたがたの知性が新たな光の火花を捉え、それが理解へと導いてくれるようにするためでした。

63. こうして、誰かに相談したり、書物に頼ったりする必要もなく、あなた方はページを捲るごとに、過去の啓示の真実を知り、それによって、この時代に私が霊的な啓示を行った理由を理解したのです。

64. あなたがたの心はますます穏やかになり、私の「スピリチュアリズム」と名付けたこの教え――それは永遠の啓示が語る教えである――が築かれている堅固な土台を目の当たりにするにつれ、あなたがたの精神はますますその信仰を強めていった。

65. 弟子たちよ、私が人間の声を通じて霊においてあなたがたに語りかけたのは、私がもはやこの手段を通じてあなたがたに語りかけなくなったとしても、あなたがたが引き続き霊において私を求め、私の神性との真の対話を得られるようにするためであったことを、よく理解しなさい。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 338

1. わたしは、あなたがたを導く道であり、光である。わたしは、あなたがたを支え、その道のりで転ぶことのないように守る杖である。わたしは、あなたがたの道を照らし、わたしの神聖な御霊の平安をもってあなたがたの魂を強め、あなたがたの人生における嵐を鎮める灯台である。それは、あなたがたが救われ、あなたがたの魂が取り残されないためである。

2. わたしの言葉の中に、あなたがたは、師が教えられたように、魂を高め、闘うために必要な力、温もり、そして糧を受け取るのです。

3. 私の言葉は、何世紀にもわたり、魂の純潔を得て、その完成に至るための試金石として役立ってきており、今も役立っており、これからも役立っていくでしょう。あなたの魂は様々な発展段階を経てきましたが、その使命を果たす上での行いにおいて、まだ完全さには達していません。

4. 私は第三の時代に到来し、人間の知性を通じて自らを明らかにした。その目的は、再びあなたがたに道を示し、第三の時代の弟子としてあなたがたを準備させることにある。 私が最も平易な言葉で語ったのは、あなたがたが私の言葉を理解できるようにするためです。私は象徴やたとえ話を用いて語りました。しかし、私の教えのたびに、その真意をあなたがたの魂に深く浸透させ、師が感じる「一人ひとりを真の弟子として認めたい」という願いを、あなたがたに伝えてきました。

5. いつになったら、あなたがたの魂は、父が常にあなたがたに向けてきた完全なる愛を理解する時が来るのだろうか。この時代、人類の中で、主はすべての被造物、すべての魂を救うために、大きな闘いを繰り広げている。私は、自然が朝の最初の光とともに目覚めるように、あなたがたの魂を目覚めさせている。

6. 私の言葉は簡素ですが、それを深く考察すれば、その核心にある偉大さを発見し、私の言葉の一つひとつが持つ価値を深く理解するようになるでしょう。

あなたがたは今、私があなたがたを生徒、弟子、そして師として見なしている学校にいることを認識しなさい。あなたがたの魂が到達した段階に応じて、あなたがたは私の言葉から、自分にふさわしいものを受け取るのです。生徒は私の言葉を単純に受け止め、そのまま自分のものとして取り入れます。 弟子は、私の教えの中から自分にふさわしい部分を取り入れ、それによって徳に満たされる。師

として準備が整った者は、私の言葉を受け入れ、それを深く探求し、それに喜びを見出し、私の教えを実践し、徳を修め、自らの賜物を開花させたいという渇望を魂の中で感じるのだ。

7. あなたがたは私の言葉を隣人に伝えようとしたが、多くの同胞がまだその準備ができていないことに気づいた。あなたがたは彼らの心に呼びかけたが、扉は閉ざされており、彼らはあなたがたの言葉を受け入れなかった。そして、あなたがたは同胞からの軽視によって傷ついた。 しかし、これはあなた方の益となるために起きたことである。まことに、わたしが言うように、そうしてこそ、あなたがたは、主が人の心に呼びかけ、その聖所が準備されていないのを見つけたときに感じることを理解できるようになるだろう。しかし、わたしのすべての子供たちへの愛は大きい。

8. それゆえ、わたしはあなたがたに言う。戦いを怠ってはならない。堅く立ち続けなさい。わたしはあなたがたに寄り添うからだ。そして、もしある時、扉が閉ざされているのを見つけたとしても、明日には心は開かれ、わたしの言葉を受け入れるだろう。

9. 人類は愚かであり、その罪に固執し続けている。しかし、私は、この地上と来世に住むすべての被造物に対する愛と赦しをもって——私はあなたがたの霊を愛している。なぜなら、それは私自身の霊の一部だからである。しかし、あなたがたの肉体には、それが魂の支えとなるよう、必要なものを与えている。

10. あなたがたが地上で享受している安らぎと平和は、あなたがたの父から授かる祝福であり、恵みである。しかし、あなたがたも心の中で嘆き、わたしにこう言う。「主よ、私の外見はみすぼらしく、ぼろぼろです。」 しかし、まことに、あなたがたに告げよう。それゆえに、私があなたがたから遠く離れているとでも思うのか。服がぼろぼろだからといって、神の臨在があなたがたと共にないと思うのか。

11. 私があなたがたに抱く関心は、あなたがたの魂に向けられている。もしあなたがたがこの世で、献身的に、そして貧しさを受け入れて生きるならば、あなたがたの魂が示す美徳は偉大なものとなるだろう。あなたがたの師が、謙遜を教え、この美徳によって魂が得られる功徳について説いたことを思い出してほしい。 あなたがたの唇には、神への祝福と賛美の歌だけが宿るべきである。まことに、あなたがたに告げる。報いはこの地上にはないのだ、愛する弟子たちよ。それは来世にある。この地上において、私はあなたがたに至福を与えることはない。ここは楽園ではない。ここでは、私は選ばれた者たちのために、穏やかな償いを用意しているのだ。

12. 平和と受容の心をもって苦難に耐えるあなたがたは幸いである。あなたがたは、その道を確かな歩みで進んでいくからである。師は、あなたがたに、この世の富を追い求めず、この人生の儚い宝を渇望してはならないと教えた。たとえ質素な小屋に住んでいても、あなたがたの精神が、私が与えた賜物を 開花させることを理解していれば、あなたがたは、この世で最も豪華な邸宅に住む王や権力者よりも、幸せを感じることができるだろう。

13. わたしは、あなたがたがこの惑星において父と調和して生き、その戒めに従うことができるよう教えるために、たとえ話を用いて語った。なぜなら、あなたがたの運命は、わたしの愛の中に記されているからである。

14. この人生は、あなたがたが私から授かった献身と光によって、魂が高められるためのものだったのです。

15. あなた方はさまざまな成長の段階を経てきました。最初の段階からすでに、困難な使命を果たすための準備を始めていました。第二の段階では、より大きな進歩と、精神におけるより大きな明晰さを実感しました。第三の段階では、さらなる進歩を遂げ、私の言葉に対する理解を深め、それに従う姿勢を強めました。こうして第四の段階に至り、神の恵みをさらに深く感じ、私の霊が皆さんの霊に近づいてくるのを感じたのです。 そして、この大きな喜びの中で、あなたがたの魂は第五の段階に至り、そこでは使命の遂行においてさらに大きな開花を成し遂げなければなりませんでした。あなたがたは奮闘し、こうして第六の段階に至り、新たな成就、さらなる進歩、そしてあなたがたの神が授けてくださった美徳のさらなる開花を成し遂げました。 そして、そのようにして、あなたがたは第七の段階へと至るでしょう。そこでは、あなたがたは父の御国を仰ぎ見、あなたがたの霊は父の栄光を直接に体験し、あなたがたは主の右の座に立つことになるのです。

16. わが言葉は、あなたがたの魂を鼓舞するために下される。なぜなら、あなたがたが準備を整えることによって、明日も引き続きわが神聖な御霊の臨在によって活力を得てほしいと、私が願っているからである。あなたがたが準備を整えていれば、見捨てられたと感じることもなく、わが言葉の欠如を感じることもないだろう。なぜなら、あなたがたの霊はわが神性との対話を交わすことができるからである。 それゆえ、私はあなたがたに、時宜を得て備え、祈りを実践し、心に霊性を宿すことを望む。そうすれば、明日、あなたがたは混乱に陥ったり、欺瞞を行ったりすることはないだろう。私は、あなたがたが私の霊感を受け取れるよう、魂を私へと高める術

を身につけてほしいと願っている。なぜなら、私は今、あなたがた一人ひとりを、私の「足台」へと変えようとしているからだ。

17.「足台」とは、あなたがたの主の光と力が宿る土台である。そうすれば、わが子らよ、明日、あなたがたは真の「足台」、すなわちわが言葉の真の伝達者となるだろう。 あなたがたの賜物が開花することで備えられ、あなたがたは私の言葉を、あらゆる清らかさをもって に伝え続けることになる。私の啓示が人間の知性を通じてあなたがたに伝えられるこの貴重な時間が過ぎ去った後、私は私の民イスラエルの中に無知を見たくはない。

18. 1950年以降、あなたがたのうち誰が、この神聖な事柄を否定するだろうか。もしあなたがたがそうするならば、それは無知によるものであり、その無知こそが、私が今、あなたがたから取り除こうとしているものである。なぜなら、啓発された者は後退することなく、揺るぎなく立ち、その道を歩み続けるからである。 しかし、わたしを理解できなかった者は、それが自身の準備不足、信仰と霊性の欠如による結果であることを悟らず、そのために再び偶像崇拝と狂信へと立ち返ることになるだろう。

19. もしこの道において不完全さを見いだしたとしても、それを私の神性に帰してはならない。私は完全である。それを、私があなたがたに教えた完全さをもってあなたがたを導くための準備をすることができなかった、あなたがたの隣人のせいにせよ。

20. わたしはあなたがたに言った。「わたしの霊にとって、国籍も、カーストも、家系も、人種も、肌の色もない。あなたがたは皆、わたしの子供であり、わたしはすべての人に両腕を広げ、すべての人を受け入れたのだ。 私は、悔い改め、悔恨の念を抱いて私の足元にやって来た者――心が堕ち、その手にまだ血痕を残している者さえも――を受け入れ、この世の司法から彼を守った。なぜだろうか？　彼は私の子だからである。 たとえその者が地上で最も残酷な罪人であったとしても、たとえ人を殺したとしても、私は彼を赦し、「これからはもう罪を犯してはならない」と告げた。私は赦しそのものであるが、この赦しが、あなたがたにとって永遠の救いとなることを願っている。

21. わたしは、あなたがたが悪の道を捨て、一人ひとりがわたしの言葉を理解し、自分の過ちを悔い改め、わたしの御前で*悔い改めた*罪人となり、あなたがたの神に告白することを望んでいる。なぜなら、わたしは静かにあなたがたの声を聞き、あなたがたの罪を公にしないからだ。わたしの子供たちよ、わたしはあなたがたを裏切

ったりはしない。あなたがたにとって最も忠実な友として、助言を与えるのだ。

地上で禁じられた実を口にせず、自分のものではないものを享受せず、人生において自分の名誉を傷つけるような行いをしないようにしなさい。私が教えたように、あらゆる点において品位と正義をもって生きる男性、あるいは女性でありなさい。もし弱さゆえに罪を犯してしまったなら、今こそその過ちを悔い改めなさい。 私の慈悲があなた方を清めることを許しなさい。しかし、私は、あなた方の悔い改めが純粋な心から行われることを望む。

22. 自らを改め、新たに生まれ変われ。なぜなら、師はこの時代にこう告げられたからだ。「わたしは罪人を用いる。しかし、反抗的な者ではなく、悔い改めた罪人である。」そして、あなたがたが悔い改めたとき――何を受け取ったのか。それは、平安、心の安らぎ、魂の調和、感謝の心、そしてあなたがたの神の美徳である。

23. 私が今この瞬間にも与えているような、霊的な平安のひとときを、いったいどの人間に与えることができるだろうか。私のようにあなた方に助言を与える人間が、いったい誰がいるだろうか。この地上には、私があなた方のためにしているように、これほど確かな信頼性と能力をもってあなた方の道を整えることのできる者は、誰もいないということを悟りなさい。それにもかかわらず、あなた方は依然として、新たな冒険を体験するために、この道から離れようとしている。

24. 家族を亡くした苦しみを受けた男女よ――あなた方と共に暮らし、魂の平安を与え、愛であなた方の心を満たしてくれた者たちを。私の御心があなた方の家族の上に成し遂げられたことを、あなた方は認めないのか。

母たちよ、あなたがたは子供たちを失う悲しみを味わった。子供たちよ、あなたがたは生前に親を失い、最も愛する人々である両親の存在を失った。妻たちよ、あなたがたは忠実な伴侶が旅立つのを見送った。 私は彼らをあなた方の生活から引き離し、あの世へと召しました。しかし、あなた方は私の高き御計画に干渉しようというのですか？いいえ。なぜなら、あなた方はこの世に一時的にしかいないことを、また私が彼らを召したのは、彼らのために新しい人生を用意しているからに他ならないことを、悟らなければならないからです。

しかし今や、あなたがたの心はそれを受け入れている。もしあなたがたが愛する人々の不在を嘆いて泣いたとしても、それはこの世

の性質の弱さゆえのことだったのだ。しかし、わたしの最も聖なる御心を理解したあなたがたの霊は、喜びを感じていた。

25. 父はあなたがたにこう告げる。私のあらゆる命令を、愛と、受け入れの心と、平安をもって従いなさい。なぜなら、そう遠くないある日、あなたがたの魂もまたあの世へと旅立ち、あなたがたより先に亡くなった魂たちと対面することになるからだ。 あなたがたはまだこの惑星に住んでいるが、まことに、わたしが告げる。あなたがたにも同じ運命が待っているのだ。しかし、この人生において力と光と平安を持ち、この世で引き続き正しく生き続けなさい。そうして、わたしがあなたがたを召す時、あなたがたの目はその新しい命へと開かれ、あなたがたは新たな道を歩み始めるだろう。

26. 備えのある者は幸いである。その者は試練を免れ、その道の途中で新しい命を見出すからである。

27. この世から離れ、わたしに目を向け、わたしの御臨在に慰めを見出せ。 私の言葉を心に刻み込みなさい。そうすれば、あなたがたは強くなり、私がこれほど深い愛をもって託したものを、誘惑によって奪われることを許さないだろう。律法を全うし、真の霊性主義者となりなさい。あなたがたは常に眠っていたが、私があなたがたを目覚めさせたのだ。もし私と共にいるという決意があるなら、あなたがたは罪の重荷を感じることはないだろう。

28. 私はこの時代に、私の働き手たちの使命の成就を受け取り、彼らの魂に私の愛と平和の口づけ、すなわち霊的な至福を残すためにやって来る。私は、あなたがたが他者——すなわち、あなたがたの間にある私の臨在を否定し、人間の知性を通じての私の啓示を信じない者たち——にとっての鏡となることを望む。

29. わたしの霊的世界はあなた方を守り、あなた方の人生の支えとなっている。しかし、もしあなた方が闇の中へと足を踏み入れるならば、彼らはわたしに涙を見せるだろう。なぜなら、あなた方を守っているのは彼らであることを、あなた方が忘れてしまったからだ。

しかし、私は父として、あなた方に助言を与えるために来ます——師として、あなた方を教え導くために、そして神として、あなた方に私の祝福と慈悲を与えるために。私は、私のもとへたどり着きたいという希望を抱く弟子たちを見ています。しかし、私はあなた方に言います。私と共にいたいと願う者は、誰もが従順でなければならないのです。

30. わたしは、あなたがたが理解し、霊的になるために、教えを授けてきた。

31. 人間の知性を通じた私の啓示は終わりに近づいている。しかし、もしあなたがたが私の教えを理解すれば、思考と意志において一つに結ばれていると感じ、互いに愛し合うようになるだろう。

32. 人間の知性を通じて私の言葉を聞く朝の礼拝も、あとわずかとなった。あなたがたが心の奥底でこの言葉の真意を心に留めておくためには、私を理解することが必要である。*私はあなたがたのところ*へ来た。明日からは、*私のもと*へ至るために、霊的に高みへ昇らなければならない。

33. 人間の知性による私の啓示が終わった後も、私があなたがたに与えた教えは、あなたがたの内面に響き続けるだろう。もしあなたがたが、私の教えの中で与えられたものを活用していなかったならば、この啓示が途絶えたことに物悲しさを感じ、その無駄にした時間を嘆くことになるだろう。

34. 愛する民よ、私はあなたがたが備えられるように、この時期にあなたがたを呼び寄せた。しかし、もしあなたがたがこの機会を軽んじるならば、私は 、あなたがたが自らの道を歩み続けることを許し、穏やかに、謙虚にあなたがたの歩みに従うであろう。そして 、もしあなたがたが転んだとしても、私は慈愛と愛情をもってあなたがたを再び立ち上がらせ、長い旅路の末、再び私のもとへと引き寄せるであろう。

35. わたしは、あなた方を人類が置かれている段階よりも高い段階へと引き上げた。 私は、あなたがたが師のように人類に身を屈め 、私があなたがたに対して行ったように、彼らを立ち上がらせることができるよう、あなたがたの魂に成長をもたらした。あなたがたは、まず自分の中にある梁を見ずに、他者の目にあるちりを見るべきではない。この言葉を理解せよ、民よ。人類はまだこれを理解していないのだから。

36. あなたがたは、わたしの教会を形成する。それは、神を愛し 、神に仕える、純粋な魂、善意ある魂たちの集まりとなる。それらは光の魂であり、もはやその内に悪を一切持たない。なぜなら、それらの魂は雪の結晶のように清らかであり、闇が入り込む余地などないからである。

37. わたしはあなたがたにこう言った。「あなたがたは、人類をその闇から解放するために激しく戦うわたしの軍勢の一員となる。そして、あなたがたの従順によって、完全さの段階に至るだろう。」 あなたがたが穏やかで、謙虚であり、父への信仰に満ちていれば 、多くの善行を行うことができるだろう。なぜなら、私はあなたがたに偉大な賜物を与え、光、恵み、そして知恵としてあなたがたの

中に注ぎ込んだからであり、私はあなたがたの知性を通して自らを現すからである。

38. わたしがあなたがたを豊かにしたのは、その富を困窮している人々に分け与えるためである。あなたがたは、すべてを自分だけのものにしようとする利己主義者であってはならない。もしそう振る舞うならば、あなたがたはわたしの慈悲を奪われてしまうからである。

39. 預言は成就する。そして、人類が混乱と闇の中にいるとき、あなたがたは彼らに光を示し、あなたがた自身の中にわたしの臨在を現すことになる。

40. 民よ、わたしを理解しなさい。わたしはあなたたちに明確に語りかけ、愛をもってあなたたちを受け入れている。渇きを癒やすために、ここへ来なさい。わたしは生ける水の源である。平和そのものであるわたしのそばで休息し、完全なる知恵そのものであるわたしのそばで活力を取り戻しなさい。

41. 人類よ、あなたがわたしを感じるためには、痛みがあなたの中に存在することが必要であることを心に留めなさい。 しかし、これらの出来事を主のせいにしてはならない。自分自身を責めなさい。苦しみがあなたたちに訪れたとき、あなたたちは私にこう言った。「主よ、なぜ私たちを罰されるのですか？」しかし、 あなたたちは、自分の行いの結果に気づかず、「主よ、私たちは罪を犯しました。お赦しください」と言うことができないのだ。

42. 人類が一度、わたしの道に従うことを学べば、人類は救われることになる。そして、すべての人がその神であり主であるわたしを愛し、互いに愛し合うようになるだろう。それゆえ、わたしはあなたがたにこう言う。わたしの教えを心に留め、わたしの知恵を魂に宿し、わたしがあなたがたに与えたとおり、あらゆる道を通じて人類に伝えていきなさい。 人々が立ち上がるのを助け、私があなたがたの魂に託した力によって、彼らを正しい道へと導きなさい。

43. わたしはあなたがたの足にサンダルを与える。それは、あなたがたがしっかりと歩み、あらゆる道を踏みしめて、わたしの光をもたらすためである。あなたがたは、わたしに代わって歩むことになる。なぜなら、あなたがたがこの祝福された使命を果たすために、わたしはあなたがたと契約を結んだからである。そして、あなたがたがわたしのところへたどり着いたとき、あなたがたはわたしにその収穫を見せてくれるだろう。

44. わたしは再び、あなたがたの魂を喜び、あなたがたが学ばなければならない教えを授ける。なぜなら、あなたがたは、師としてわたしが教えたことを実践しなければならないからだ。

45. あなたがたは、わたしに従うために心の中に抱く従順さと熱意をわたしに示しており、それによって、わたしの神聖な御言葉を理解することができるのです。人々が目覚め、心の奥底でわたしを感じ、道を悟り、その道を歩み、わたしと調和するようになるために、あなたがたがわたしの御言葉の真の使者となるよう備えられることが、わたしの御心です。

46. あなたがたは様々な試練を経験してきたが、私の力があなたがたの中に留まっていたため、それらの中で弱くなることはなかった。 父である私は、私の言葉をもってあなたがたを励まし、人類が必要とする憐れみをあなたがたに託すその瞬間を告げ知らせる。あなたがたは私の代理として外へ出て行き、同胞たちに命のパンと私の聖霊の光をもたらし、彼らが闇から抜け出せるようにするのだ。

47. わたしは、わたしが清め、精錬した魂たち――この「第三の時代」においてわたしの臨在を認識できるよう、霊的な目に光を与えた者たち――すなわち、あなたがた、すなわち、あなたがたの心にあるわたしの臨在の証しを伝えるために、わたしの言葉によって備えられてきた者たちを用いる。

48. あなたがたは、何の財産も持たない貧しい者として、わたしの御前にやって来た。しかし、わたしはあなたがたの魂を整え、聖霊の光で包み、あなたがたの間でわたしの恵みの賜物を分け与えた。それは、あなたがたが貧しい人々のところへ行き、わたしがあなたがたに託した富を彼らと分かち合うためである。

49. それゆえ、わたしはあなたがたを徹底的に整え、清め、わたしに仕えさせるために用いた――あなたがたのうち、悪と偽りから背を向けた者たち、すなわち、わたしの言葉を聞いたとき、わたしの光が彼らの魂に差し込み、彼らを照らし、真の神がどこにおられるかを悟らせた者たちである。 このため、あなたがたは、世界がもたらした偽りの教えによる混乱から背を向けたのである。人類は、自分たちの行いの物質主義の中に神が現れるのではないことを認識していなかったため、その偽りの教えによってわたしを探し求めているのだ。

50. あなたがたの魂を高め、霊と霊との間でわたしと交わりを持ちなさい。しかし、この対話を成し遂げるためには、あなたがたがわたしの神の律法を心に刻み込むことが必要です。そうして、その霊化によって、わたしと対話できるようになるのです。 わたしはあ

なたがたに告げる。もしわたしがもはや人間の知性を通じてあなたがたに語りかけなくなったとしても、わたしはあなたがたの魂から離れることはない。わたしはあなたがたの中に宿り続ける。なぜなら、あなたがたを媒介として人類にわたしを現すためには、それが必要だからである。

51. あなたがたが、この食卓に着く最初の者となること、それがわたしの意志であった。あなたがたがわたしの周りに集い、結集し、あなたがたに相続財産を与え、あなたがたを、わたしの言葉という宝を所有する、貧しい者から豊かな者へと変えること、それがわたしの最も神聖な意志であった。

このようにして、あなたがたの霊的な目は新しい日の光を見出した。あなたがたは、私が準備した「第三の時代」の弟子たちであり、後に人類に私の臨在を証しするため——完全な真実と知恵をもって私の律法について語るため—— 私の愛の福音を宣べ伝え、あなたがたの行いを通して人々に私の臨在を実感させ、かつての過ちや誤りに対する悔い改めが彼らの心に宿り、彼らが偽りの神々を捨てて真の神を見出し、あなたがたを媒介として、私の預言が成就する来るべき時代に向けた慰めと希望を得られるようにするためである。

52. あなたがたの道には、人々を包み込むために闇が立ちはだかるだろう。しかし、あなたがたは、霊と心にわたしの光を宿しているから、闇に包まれることはない。 もはや、人々の理性を曇らせ、目をくらませ、良心の声を聞き取れなくさせるこの世の闇に、あなたがたは包み込まれることはない。しかし、これこそが、私があなたがたに託す戦いである。なぜなら、私はあなたがたの手の中に、暗い洞窟を照らし出す光の剣を授けたからである。

53. あなたがたは、人々がその狭量さゆえに、依然として偽りの神々にひれ伏し続ける様子を目にすることになるでしょう。しかし、わたしの言葉の光は彼らの心の奥底にまで届き、彼らはわたしの御霊の臨在を感じるようになるでしょう。

54. 大衆は立ち上がり、清められて、あなたがたを通じて私のメッセージを受け取るようになるだろう。なぜなら、父は魂の救いを切望して来られるからであり、彼らが私の慈悲を受けるためには、あらかじめ自らを清め、浄化することが必要だからである。 権力への欲望に満ち、群衆の中で支配者としての地位に上り詰め、魂が闇に覆われ混乱している者たちは、これに抵抗するだろう。

55. あなたがたは、同胞たちが、あなたがたを通じて伝えられる私のメッセージの真実性を否定し、あなたがたこそが偽者である——私の存在を自らの内面、存在の最も奥底に宿すことができない

不完全な人間である――と主張するのを耳にすることになるだろう。なぜなら、彼らは私を、この世のもう一人の王として捉えようとする者たちの一員だからである。

56. 第二の時代において、私は人々に私の教えを伝えるために、謙虚に統治したが、彼らは「父の独り子」の到来を信じなかった。同様に、この時代においても、あなた方の周囲の人々は、あなた方が私の使者であり、私が私の恵みの賜物を授けた選ばれた者たちであり、私の業をあらゆる明瞭さをもって宣べ伝える者であることを否定するだろう。 なぜなら、彼らはあなたがたが謙虚な姿をしているのを見て、あなたがたがかつては迷える人々の一員であり、かつては彼らと同じように汚れと罪の中に生きていたことを知るからである。しかし、あなたがたは彼らに私の愛について語り、彼らに心の中で私を受け入れるよう招き、彼らもまた救いの港を見出せるようにするのだ。

57. このようにして、あなたがたは各地を巡り歩くことになる。そして、あなたがたが詳しく語り、人類に対する私の愛と憐れみをたゆまず明らかにし、彼らが神に捧げるべき真の礼拝を示したとき、この人類は私の裁きが解き放たれるのを目撃し、人類の大いなる浄化が始まり、彼らがるつぼの中の金のように清く純粋になるまで続くであろう。 彼らの罪は火によって滅び、権力者たちは、私の力が彼らの力よりも偉大であり、私の正義があらゆる法律に優越していることを悟るだろう。彼らの敵意は取り除かれ、廃される。なぜなら、私の愛こそが、人々の心を清める火となるからだ。 そうして、大勢の人々が私の臨在を感じるようになるだろう。　イスラエルよ、これが起こる時、あなたの働き、あなたの労苦が実を結び始めるのだ。畑は実り豊かになり、私の種は百倍に増えるだろう。

58. あなたがたが肉体を離れた後も、その戦いは続く。あなたがたの魂は、引き続き私の聖霊の命、恵みの命、永遠の命をその内に宿し、あなたがたは私の天使のように働き、来るべき世代の人々が善意を持ち、互いに愛し合い、私の平和を育み、その行いによって神を賛美する者となるようにするのだ。

59. 今日、人類は混沌の中にあり、深い眠りについている。彼らはわたしを感じず、わたしの声を聞き取っておらず、目覚めて主の臨在を感じている者はごくわずかである。 しかし、人々はついに、山の頂上に到達するために、今こそ霊的になるべき時であることを理解するだろう。なぜなら、彼らは聖霊の光を受け、自らの闇から逃れることになるからだ。

60. 彼らの混乱の時は今や終わりに近づいている。この世の王国は揺れ動き、その基盤が誤っていることに気づくだろう。そうして、人々はわたしの御心を感じるようになる。 しかし、世界を整えるのはあなたがたの責務である。なぜなら、男性、女性、そして子供たちが福音を聞くことが、わたしの御心だからである。泣いて慰めを待ち望んでいた者たちには——彼らに慰めを与え、あなたがたの心の奥底にある真理を示しなさい。

61. あなたがたがわたしのために耐えてきた苦しみは、わたしが祝福する。なぜなら、わたしのために受けるあらゆる苦しみは、あなたがたを永遠に尊い者とするからである。

62. わたしはあなたがたの魂に力を与え、あなたがたの手には光の武器を授ける。そうして、誘惑が障害として仕掛ける落とし穴を乗り越えられるようにするためである。こうして、あなたがたは、わたしが約束した御国へと歩みを進めていくことになる。

私の平安があなたがたと共にありますように！

目次

教え 310	**節番号**
弟子の責任	2
転生による完成	5
霊的な使命	16
楽園の回復	20
霊性の豊かさ	24
先導者であり、混乱の種ではない者たち	29
永遠の動詞	43
4世代をかけて、スピリチュアリズムを を地球全体に広めるために	50
自由意志	52
科学とスピリチュアリティ	60
他の世界には、目が見えない霊的存在もいる	66
約束は成就した	72
教え 311	**節番号**
霊的合一の時代	1
本質が重要である	3
闘いにおける信者たちは幸いである	10
霊的進化	13
癒しの賜物	18
私たちは霊界の模範に倣わなければならない	20
使徒ヨハネの預言	25
賜物による真理の証し	29
1950年の重要性	31
教え 312	**節番号**
霊的イスラエルの準備	1
内なる平安	20
人類には霊的な知識が欠けている	22
教え 313	**節番号**
精神的使命の責任	6
霊的向上の度合いが転生を決定する	16
「約束の地」	26
スピリチュアリティの本質	34
雑草と小麦のたとえ話	37
真の信仰	48

霊的な結合	54
霊の存在	56
霊的進化	59
精神と人間の使命	64
教え 314	**節番号**
第三の時代における使命の実現	15
善も悪も、すべてが実を結ぶ	17
バベルの塔	20
進化は普遍的な法則である	24
予言された平和の王国	25
聖域の意義	28
偽りの教会に関する預言	47
「七つの封印」を解くことができるのは子羊だけである	50
選民への道徳的・霊的な教え	54
真実の模範	59
暴力ではなく忍耐	61
教えは神の言葉の本質そのものである	68
あの世もまた、究極の霊的な故郷ではない	70
奇跡の真の意味	73
教え 315	**節番号**
霊的な旅への準備	1
予告されていた「第二の時代」と「第三の時代」の到来、および人類によるそれらへの異なる受け止め方	17
第三の時代の『光と真理の書』	28
「主の家には多くの住まいがある」	34
「ヤコブの梯子」とは霊的な高みへの昇りを意味する	41
神は謎ではない	43
「イスラエル」は物質的な名前ではなく、霊的な名前である	45
霊的存在たちの絶え間ない受肉と脱肉	47
人間科学の誤った力と、それによる自己破壊	53
新しい世界	56
神殿の浄化	62
御霊によって明らかにされた祈り	74
真理	78
教え 316	**節番号**
キリスト教徒を名乗る者たちへの呼びかけ	5
最後の三つの封印の意味	12

良心は私たちの内なる裁判官である	20
肉体をまとった弟子と肉体を離れた弟子の使命	25
マスターの血の意義は、神の愛である	39
インスピレーションの賜物	52
愛は普遍的な言語である	60
教え 317	**節番号**
精神的な承認	2
ロケ・ロハスとは誰か？	7
精神にとって休息など存在しない	10
良心の勝利	22
予言の成就	29
「父の家には、数えきれないほどの 住まいがある」	39
完成への道	33
良心の声	39
霊的な存在たちが私たちに寄り添う	43
疑い	54
教え 318（1950年イースター）	**節番号**
「大きな苦難を乗り越えてきた人々」	1
信仰とは霊的な視点である	6
「新しいエルサレム」への道には試練が待ち受けている	7
宗教という口実	16
精神的な充足は、肉体の死をもって終わるものではない	28
精神的な充足は、 肉体の死	36
自然の要素が語りかけるだろう	40
人類の再生	44
誰にも害を与えないだけでは不十分だ	47
「第二の時代」の約束の成就	52
伝統主義からの解放	60
パンとぶどう酒の意義	61
聖霊の時代	63
教え 319（喜びの土曜日、1950年4月8日）	**節番号**
今日、第三の段階において顕現している神の三位一体	1
疑い	5
すべての霊的存在の救済	7
神の御霊の子らが住む世界は数多く存在する	11

疑い	15
精神的な平静	18
「見ずに信じる者は幸いである」	22
儀式や宗教的慣習の廃止	32
精神的な未来	34
第三の時代のトマス	38
人間の不正に対する戦い	43
教え 320	**節番号**
啓示と預言の三つの時代	5
イースターの意義	12
精神的遅滞の原因と結果	26
非合理であるという本能と人間の精神	34
知的交流	44
精神の不死性	50
私たちは永遠の命を生きている	51
イエスの受難の模範	56
マリアは神性の一部である	71
教え 321	**節番号**
真実は単純さの中にある	4
良心の祭壇の前で	10
預言的な言葉	14
霊性は犠牲ではない	21
人は自らを浄化する	26
精神的な分析	28
真の価値	34
精神的な波動	38
霊界での戦い	53
スピリチュアリティの教え	67
霊界の働きの意義	70
霊にとって物質的な距離など存在しない	73
狂信を伴わない霊的な儀式	86
教え 322	**節番号**
第三の時代における使命と成就	1
理性だけでは真理を見出すことはできない	15
人類の動揺と目覚め	20
霊的な現実	36
赦し	52

教え 323	**節番号**
霊的な準備	1
霊的な祈りの力	24
創造主との直接の対話	43
ヨエル書2章28節の預言は成就した	44
父の御心が成就する	50
良心	56
主の再臨とその影響	68
教え 324	**節番号**
あらゆる時代における霊的イスラエルの戦い	2
正しい分析	16
物質は二次的なものである	22
普遍的な愛には母性的な側面が含まれているのか？	32
精神的なコミュニケーション	49
「願い」と「受け取り」を理解する	56
私たちの目標は、神との永遠の合一である	58
教え 325	**節番号**
世の中には依然として偽善と悪意がはびこっている	11
精神的能力の発達	26
精神から精神へのコミュニケーション	27
誰もが失われた時間を取り戻すことができる	38
まずは戦い、その後に平和が訪れる	46
心から心へのコミュニケーションの時代	54
裁きと最終決戦の時代	58
人類は依然として悪の種を蒔き続けている	65
過去の時代の例	74
精神的な動揺の時代	81
第三の時代の「なぜ」	84
教え 326	**節番号**
スピリチュアリティの意義	8
第三の時代の使命のための浄化	10
宗教性ではなく、スピリチュアリティ	18
物質主義によって生じた過ち、 そして真の信仰	30
神には形がない	35
今こそ崇高な解釈の時である	41
愛の法則	48
内なる静けさと精神の平安に満ちた生活	54

スピリチュアリティは神秘主義ではない	63
教え 327	**節番号**
完全の王国への霊の道	1
霊魂の歴史	4
試練の理由	14
1950年末の重要性	26
1950年以降の精神的なコミュニケーション	37
人間の命もまた重要である	41
何も失われることはない	47
教え 328	**節番号**
第三の聖書	9
霊性は世界中に広まっていく	10
試練は愛に基づいている	11
霊と人間が創造された理由	19
時折、神の教えは歪められてきた	26
私たち自身が、悪の王国を滅ぼすことになる 神の剣をもって	34
黙示録の預言	36
神を求める者たち	42
御霊はあらゆる悪を癒やす	52
教え 329	**節番号**
霊性には意志と平静さが必要である	1
神の言葉の真髄	12
人間の生活における根本的な変化	22
混乱がもたらす影響	43
放射による精神的なコミュニケーション	43
輪廻転生の法則は単なる理論ではない	51
教え 330	**節番号**
神の約束は成就する	3
弟子としての使命	6
「天の御国」の到来	13
エリヤの使命	17
進んだ霊は存在するが、それより上位の霊は存在しない	19
14万4千人の「印された者たち」は予言されていた	21
皆が兄弟である	27
霊的な自由	28
第三のメッセージ	30
統合	39
教え 331	**節番号**

霊的コミュニケーションの真実	1
いわゆるキリスト教徒に関する誤解	6
霊的なメッセージ	12
スピリチュアリティと物質的な進歩	27
教え 332	**節番号**
普遍的な霊的祈り	1
普遍的な愛	3
物質を伴うか否かを問わず、精神は永遠である	5
ユダヤ民族に関する預言	10
真の「約束の地」	17
霊的なイスラエルの民から選ばれた14万4千人	19
愛の律法の達成	27
その日が近づいている！	31
輪廻転生に関する啓示	34
教え 333	**節番号**
疑いは無知から生じる	7
スピリチュアリティ	18
第三の聖書	27
神との交わりのさまざまな形	30
スピリチュアリティの使者の使命	43
新たな人類が台頭するだろう	54
許すことを知る	55
精神的な祈りは啓発をもたらす	61
二つの道	65
約束された時代	78
教え 334	**節番号**
良心とは、人の中にある神の声である	6
予言された霊的な戦い	16
神の原則の成就	35
霊的な準備	49
善と悪の戦い	56
償いの理由	61
守護天使たちの戦い	70
教え 335	**節番号**
三つの時代における受肉したイスラエル	3
霊的な賜物	7
預言とその解釈	10
ヨエル書 2:20、30、31	14
人類には平和が必要だ	18

解放はすぐそこにある	18
輪廻転生の理由	22
試練は私たちを目覚めさせる	24
『真の生命の書』の内容	32
ペンテコステ	35
霊的に結ばれたイスラエルの影響	38
教え 336	**節番号**
第三の時代の信仰ある証人たち	5
信仰から力が生まれる	23
闇に対する光の勝利	32
神の啓示に対する感受性	34
人類は神を知らない	40
物質主義という足かせ	47
霊的イスラエルの14万4千人の使命	57
教え 337	**節番号**
御霊のための教えの豊かさ	1
精神から精神へのコミュニケーション	23
霊的な教えは、完全な成就に向けて私たちを準備してくれる	29
平等	43
第三の時代は1866年に始まった	50
スピリチュアリズム	64
教え 338	**節番号**
精神の重要性と進化	2
七つの封印	15
神からの助言	20
人類の浄化に関する預言	57

1866年から1950年にかけてのメキシコにおける神の教え
参考文献

ライヒル出版社、D-56329 ザンクト・ゴア、電話：+49 (0)6741 1720
『真の生命の書』第I巻、第II巻、第III巻、第IV巻、第V巻、第VI巻
『第三の聖書』（スペイン語、英語、フランス語版も刊行）
『メキシコにおける神の啓示』（概要）
人生に関する神の啓示
第三の時代のための予言

Buchdienst zum Leben、マンフレッド・ベーゼ、Kirchweg 5、D-88521 エルティンゲン
電話：+49 (0)7371 929 66 42、Eメール：manfredbaese@gmx.de
神の愛――私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的
『神の愛 ― 私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的』
『真の生命の書』第VII、VIII、IX、X、XI、XII巻
『第三の聖書』

ユニコン財団、D-88709 メースブルク
電話：+49 (0)7532 808162、Eメール：info@unicon-stiftung.de
『真の生命の書』入門（無料）

アソシアシオン・デ・エストゥディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ベルデラ A.C.
Orinoco N° 54 Interior 5, Col. Zacahuitzco, 03550 メキシコシティ
『真の生命の書』、第I巻～第XII巻
『第三の聖書』
およびメキシコのこれらの神の啓示に関するその他の書籍

ウェブサイト

www.drei-offenbarungen.net
www.reichl-verlag.de
www.unicon-stiftung.de
www.drittes-testament.de
www.drittetestament.wordpress.com（多言語対応）
www.tercera-era.net（スペイン語）
www.144000.net（多言語対応）
www.dritte-zeit.net